九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本語における直接受身文の研究 : 中国語との対応関係を中心に

梅, 佳

https://doi.org/10.15017/1654604

出版情報：九州大学, 2015, 博士（比較社会文化）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

博士学位論文（甲）

日本語における直接受身文の研究

―中国語との対応関係を中心に―

平成 28 年 3 月

九州大学大学院比較社会文化学府

梅　佳

要　旨

日本語には、一つの文法範疇としての受動態というヴォイスがあるが、中国語文法論の分野においては、文法範疇としてのヴォイスの存在は十分には認知されていない。中国語には、形態論レベルにおいて受身や使役を表す特別な述語形態はない。つまり、中国語の受身は介詞や語彙によって表現され、形式上は日本語の受身文と大きな違いを呈している。このような相違が中国人日本語学習者にとって、日本語の受身文を理解しにくいものにしている。それ故、いかにして日本語受身文を正しく使うかは、日本語教育や翻訳研究に携わる中国人にとって重要な課題である。日本語受身文はどういうときに使われるのか、すべて中国語受身文に翻訳できるのか、これらはいずれも日本語学習者を悩ませる問題である。そこで本研究では、『中日対訳コーパス』から用例を収集し、日本語直接受身文及びその中国語対訳文を分析することで、それぞれの特徴を明らかにし、その分析結果に基づき対照研究を行った。

本研究の構成は全 8 章に分かれる。

第 1 章では序論、本研究の背景、目的、意義及び全体的構成を紹介した。

第 2 章は先行研究の概観と本研究の位置づけである。日本語の受身文に関する研究、中国の“被動句”に関する研究およびその二つの受身表現の対照研究を概観した上で、先行研究の問題点及び本研究の位置づけを試みた。

第 3 章では、本研究の理論上の枠組みおよび研究方法について詳述した。まず、本研究が基盤とする理論を明らかにし、次に、本研究で使用した『中日対訳コーパス』に収録された作品の詳細およびデータ収集方法を述べた。

第 4 章では、収集した日本語直接受身文及びその中国語対訳文について、主格名詞と斜格名詞、述語動詞、文の意味特徴という三つの方面から対照分析を行い、各パターンの中国語表現と対応している日本語受身文の特徴を明らかにした。本章の考察により、以下の点が明らかになった。先ず、中国語の能動文と対応する日本語直接受身文は、述語動詞としては他動性の弱い動作動詞か、内容に言及しない言語活動動詞か、位置関係動詞が多い。また、文の意味特徴から見ると、能動文に訳された直接受身文は、受益、中立の意味を表しているものが多い。一方、中国語の「被」構文と対応した日本語直接受身文は、他動性が強く、対象を変化させる一般動作動詞を述語動詞とするものが多い。最後に、中国語の意味上受身文に訳された直接受身文は、主格名詞がほとんど非情物を指示し、文の多くが

「中立的」意味を表わすという特徴を持っている。

第 5 章では、視点の置かれる位置、またその転換から受身文における主語の選択に関して考察を行った。本章の考察により、以下の点が明らかになった。日本語の受身文における主語は「視点」の配置序列に厳密に従う。一方、中国語は「視点」の配置序列だけに制限されず、日本語より主語の選択が自由である。また、日本語は「視点」の固定化を重視する言語であり、文章全体のみならず、一つの文の内部でも「視点」の固定が要求されている。一方、中国語においては、文章全体の「視点」は固定しているが、一つの文の内部では視点の固定化が日本語ほど厳しく要求されていないため、「視点」を固定させるために受身文を用いることも極めて少ない。さらに、日本語の場合は、事態を主観的に把握する傾向があるのに対し、中国語の場合は、たとえ話し手自身が事態に臨場していても、事態を自らと切り離して把握し、また自身の行為や自身に関わる事態であっても、自身を客体化して把握し、言語化する傾向がある。一方、「に」、「によって」、「から」を用いる日本語直接受身文と中国語の対応関係についての分析から、「によって」、「から」を使用している日本語直接受身文は中国語の能動文と対応していることが多いことが分かった。

第 6 章では、受身文の述語動詞に関する考察を行った。日中両言語の共通点としては、一般に、動作性或いは対象への影響の強い動詞は受身文の述語動詞として用いられやすく、対象に影響を与えない動詞は受身文の述語動詞として用いられることが少ない、という点が挙げられる。一方、相違点としては、まず、抽象的な生産の意味を表わす動詞、授受動詞、放置の意味を表わす位置変化動詞は中国語受身文の述語動詞としては用いられない。具体的な物を生産する意味を表わす動詞、対象が非情物の移動動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられるが、「被」などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、「意味上の受身文」として現れていた。さらに、状態心理動詞はめったに中国語受身文には用いられない。また、両言語とも動詞の他動性が強ければ強いほど受身文になりやすいが、述語動詞にアスペクト助詞や結果状態を表す補語が付加されやすいのは、中国語受身文の特徴である。

第 7 章では、日中受身文の意味特徴についての考察を行った。日中受身文はともに「被害と迷惑」「受益」「中立」などの意味を表わすことができるが、日本語には「中立」の意味を表す文も多く、その多くは中国語では能動文に訳されており、中国語で受身文となるのは「被害」の意味を表すものが一般的であった。また、「動作主の称揚と動作主への批判」の意味を表わす文も少なくないが、それは中国語受身文の意味上の特色と言えよう。

最後の第 8 章では、第 4〜7 章で考察した内容をまとめた上で、今後の課題について述べた。

本研究は教育現場に成果を還元できる研究を目指して、言語教育への実用化に向けて日中対照分析を行った。その成果は、日中両言語の翻訳、とりわけ日本語教育に応用することができ、さらには、日本語と中国語の事態認識の相違を解明することに繋がると期待できる。

謝　辞

本論文をこのようなかたちで完成できたのは、ご指導いただいた先生方はじめ、日本で知り合った友人の温かいご支援のおかげです。この場を借りて、感謝の意を表せていただきたいと思います。

まず指導教官としてお世話になった九州大学大学院言語文化研究院教授の松村瑞子先生に何より深甚な感謝の意を申し上げます。本学位論文「日本語における直接受身文の研究―中国語との対応関係を中心に―」の構想から完成までの長きにわたり、研究方法から研究者としての厳格な姿勢まで懇切にご指導いただきました。不十分ながらも、本論文を書き上げることができたのは松村瑞子先生のおかげです。

次に、研究生から現在にわたり、多くのご指導を賜った九州大学大学院比較社会文化学府の山村ひろみ教授、西山猛準教授、志水俊広準教授に深く感謝しております。さらに、本論文の審査において貴重なご教示を賜った名古屋大学の杉村泰教授に心より厚く御礼を申し上げます。

本論文の収集したデータの整理に協力していただいた友人、常に有益なコメントをくださった他のゼミ生の方々、及び日本語のチェックをしてくださった日本語母語話者の方々にも感謝しております。

最後に、いつも私を励まし、支えてくれた母国にいる両親、友人にも心より感謝いたします。

【凡　例】

1. 「　」は日本語の語、句、文、文章を表す記号である。例えば、「受身」、「対照」など。
2. “　”は英語、〈　〉は中国語の語、句、文、文章を表す記号である。例えば、“up”、“down”、〈被动〉、〈对比〉など。
3. 「　（　）」、“　（　）”の中の（　）は原文に訳文が付く場合に用いる記号である。例えば、「受身（被动）」、“对比（对照）”など。
4. 用例および引用文の下線、太字、番号などは、特に断らない限り、引用者が付したものである。
5. 用例の中の？印は、その文が不自然であることを示す。

   ＊印は、その文が非文であることを示す。

   （　）は、補足内容であることを示す。
6. 用例番号は、本研究で収集したデータ、著書から引用した例文をすべてを通し番号で示した。
7. 本論文における中国語の和訳はすべて筆者による。その略語およびその意味は次の通りである。

adv	副詞／連用修飾語（adverb）
COMP	補語（complement）
conj	接続詞（conjunction）
MOD	ムード（modal）
NEG	否定詞（negation）
PERF	完了相（perfective）
PM	受身マーカー（passive marker）
prep	前置詞（preposition）
PROG	進行相（progressive）

8. 本論文における参考文献は言語別に記述する。また、日本語のものを五十音図の順で、中国語と英語をアルファベット順で記述する。

目　　次

要旨 i
謝辞 v
凡例 vii
表一覧 xiv
図一覧 xvi
第 1 章　序論 1
1.1　本研究の背景 1
1.2　本研究の目的 3
1.3　本研究の構成と概要 4
第 2 章　先行研究と本研究の立場 5
2.1　日本語受身文に関する先行研究 5
2.1.1　受身文の分類 5
2.1.1.1　山田（1908）の分類 5
2.1.1.2　松下（1928）の分類 6
2.1.1.3　鈴木（1972）の分類 6
2.1.1.4　寺村（1982）の分類 7
2.1.1.5　益岡（1982）の分類 8
2.1.1.6　久野（1983）の分類 9
2.1.1.7　工藤（1990）の分類 9
2.1.1.8　日本語記述文法研究会（2009）の分類 9
2.1.2　構文上の特徴 12
2.1.3　意味上の特徴 20
2.2　中国語受身文に関する先行研究 21
2.2.1　受身文の分類 21
2.2.2　構文上の特徴 24
2.2.3　意味上の特徴 27
2.3　日中受身文の対照研究 28

2.4　先行研究の問題点と本研究の立場 34

第 3 章　理論的枠組みと研究方法 37

3.1　理論的枠組み 37

3.1.1　認知言語学における「構文」分析 37

3.1.2　事態解釈とパースペクティヴ 38

3.1.3　カテゴリー化とプロトタイプ理論 39

3.1.4　アクション･チェーン 39

3.2　本研究の研究方法 41

3.2.1　データベース 41

3.2.2　用例収集 42

第 4 章　直接受身文及びその中国語対訳文の対照分析 45

4.1　「主格も斜格もあり」の受身文 49

4.1.1　能動文に訳された場合 49

4.1.1.1　主格名詞も斜格名詞も有情物である場合 50

4.1.1.2　主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物である場合 52

4.1.1.3　主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である場合 53

4.1.1.4　主格名詞も斜格名詞も非情物である場合 55

4.1.2　受身文に訳された場合 57

4.1.2.1「被」構文に訳された場合 57

4.1.2.2　意味上受身文に訳された場合 61

4.1.3 まとめ 62

4.2　「斜格省略」の受身文 64

4.2.1　能動文に訳された場合 65

4.2.1.1 原文の主格が訳文の主語に立てられている場合 65

4.2.1.2 文脈から判断された斜格を補い、訳文の主語として立てている場合 66

4.2.1.3　訳文には主語がない場合 67

4.2.2　受身文に訳された場合 69

4.2.2.1　「被」構文に訳された場合 70

4.2.2.2　意味上の受身文に訳された場合 73
4.2.3　まとめ 76
4.3　「主格省略」の受身文 78
4.3.1　能動文に訳された場合 79
4.3.2　受身文に訳された場合 81
4.3.3　まとめ 83
4.4　本章のまとめ 85
第 5 章　主語の選択と動作主マーカーの考察 91
5.1　受身文における主語の選択 91
5.1.1　「パースペクティヴ」の観点からの考察 91
5.1.1.1　話し手（一人称）＞聞き手（二人称）＞非聞き手（三人称） 94
5.1.1.2　非聞き手（身内）＞非聞き手（非身内）＞不明 98
5.1.1.3　人間＞非人間（有情物）＞非情物 100
5.1.1.4　まとめ 103
5.1.2 視点固定原則 104
5.1.2.1　視点の固定と転換 104
5.1.2.2　まとめ 110
5.1.3　事態内視点と事態外視点 110
5.2　動作主マーカーに関する考察 114
5.2.1　「に」の場合 114
5.2.2　「によって」の場合 118
5.2.3　「から」の場合 120
5.2.4　まとめ 121
5.3　本章のまとめ 122
第 6 章　述語動詞に関する考察 123
6.1　述語動詞の分類 123
6.2　述語動詞の対応性についての考察 126
6.2.1　一般動作動詞 126
6.2.2　生産動詞 127

6.2.3　位置関係動詞 129
6.2.3.1 放置の意味を表す動詞 129
6.2.3.2 空間的移動の意味を表わす動詞 130
6.2.3.3 相対的位置変化の意味を表わす動詞 131
6.2.4　授受動詞 131
6.2.5　心理動詞 132
6.2.5.1 状態心理動詞 133
6.2.5.2 知覚活動動詞 134
6.2.5.3 思考活動動詞 135
6.2.6　言語活動動詞 136
6.2.7　まとめ 139
6.3　両言語の相違点に関する考察 140
6.3.1　他動的事態と動詞のプロトタイプ 140
6.3.2　受身文における述語動詞の他動性 142
6.3.2.1 一般動作動詞 144
6.3.2.2 生産動詞 146
6.3.2.3 位置関係動詞 148
6.3.2.4 授受動詞 150
6.3.2.5 心理動詞 151
6.3.2.6 言語活動動詞 153
6.3.2.7 まとめ 155
6.4　本章のまとめ 156

第７章　文の意味特徴に関する考察 157
7.1　被害の意味を表す受身文 158
7.2　受益の意味を表す受身文 162
7.3　中立の意味を表す受身文 163
7.4　動作主称揚と動作主批判 166
7.5　本章のまとめ 168

第８章　結論 **169**
8.1　本研究のまとめ 169
8.2　今後の課題 170

参考文献 **173**
付録　データ資料 **181**

・　表一覧

表 2－1　日本語受身文の分類 11
表 2－2　動詞の分類および直接受身文との関わり 14
表 2－3　直接受身文の成立する文法的条件 15
表 2－4　日本語受身文における動作主マーカーについての考察 18
表 2－5　日本語受身文の各種類と中国語の「被字句」の対応状況 32
表 2－6　李湘琴（2013）の対照研究のまとめ 33
表 3－1　本研究用例の出典 42
表 4－1　日本語の小説における直接受身文とそれに対応する中国語表現 47
表 4－2　日本語の小説における直接受身文の再分類 48
表 4－3　能動文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文 49
表 4－4　主格名詞も斜格名詞も有情物である直接受身文の特徴 51
表 4－5　主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物である直接受身文の特徴 53
表 4－6　主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である直接受身文の特徴 55
表 4－7　主格名詞も斜格名詞も非情物である直接受身文の特徴 57
表 4－8　「被」構文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文の特徴 60
表 4－9　意味上の受身文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文の特徴 62
表 4－10「主格も斜格名もあり」受身文及びその対訳文の特徴 63
表 4－11　日本語の小説における受身文 65
表 4－12　能動文に訳された「斜格省略」の直接受身文の特徴 69
表 4－13　「被」構文に訳された「斜格省略」の受身文の特徴 73
表 4－14　意味上の受身文に訳された「斜格省略」受身文の主格名詞分類 74
表 4－15　意味上の受身文に訳された「斜格省略」の受身文の特徴 76
表 4－16　「斜格省略」の受身文及びその対訳文の特徴 77
表 4－17　日本語の小説における受身文 78
表 4－18　能動文に訳された「主格省略」の受身文の特徴 81
表 4－19　「被」構文に訳された「主格省略」の受身文の特徴 83
表 4－20　「主格省略」の受身文及びその対訳文の特徴 84
表 4－21　能動文と対応している日本語直接受身文の特徴 85

表 4－22　「被」構文と対応している日本語直接受身文の特徴 87
表 4－23　意味上の受身文と対応している日本語直接受身文の特徴 89
表 5－1　主語の選択結果 A 93
表 5－2　主語の選択結果 B 98
表 5－3　主語の選択結果 C 100
表 5－4　視点の置かれ方による考察結果 104
表 5－5　例 87）の視点の置き方と文型の選択 106
表 5－6　例 88）の視点の置き方と文型の選択 106
表 5－7　例 89）の視点の置き方と文型の選択 107
表 5－8　例 90）の視点の置き方と文型の選択 107
表 5－9　例 91）の視点の置き方と文型の選択 108
表 5－10　例 92）の視点の置き方と文型の選択 109
表 5－11　例 93）の視点の置き方と文型の選択 110
表 6－1　日本語受身文における述語動詞と中国語の対応状況 139
表 6－2　動詞の他動性 143
表 7－1　文の意味特徴から見る日本語直接受身文と中国語の対応状況 153

・　図一覧

図 2－1　益岡の分類 8
図 2－2　動詞の性質と能動―受動の対立との関係 17
図 3－1　エネルギー伝達のあり方とアクション・チェーン 40
図 3－2　状態と位置の変化 41
図 3－3　「れ」の検索結果（一部） 43
図 5－1　視点配置序列の仮説 91
図 5－2　事態内視点 111
図 5－3　事態外視点 112
図 6－1　P-transitive relation 144
図 6－2　一般動作動詞 1 145
図 6－3　一般動作動詞 2 146
図 6－4　生産動詞（具体物） 147
図 6－5　生産動詞（抽象物） 148
図 6－6　位置関係動詞 149
図 6－7　授受動詞 151
図 6－8　状態心理動詞 152
図 6－9　知覚･思考活動動詞 152
図 6－10　言語活動動詞（内容への言及なし） 154
図 6－11　言語活動動詞（内容への言及あり） 154

第１章　序論

1.1 本研究の背景

ある出来事に対して能動的な表現を用いることもあれば、受動的な表現を用いることもある。

a. 太郎が次郎を殴った。／太郎打了次郎。

b. 次郎が太郎に殴られた。／次郎被太郎打了。

例文(a)と例文(b)はともに「太郎」と「次郎」の間の出来事を表わしている。(a)は能動文で、(b)は受身文[1]である。両者の違いの一つとして、視点の置かれ方の違いが挙げられる。(a)は動作主「太郎」、(b)は対象「次郎」に視点が置かれている。

話し手の視点がどこに置かれるかというのは、文型の選択と直接に関わっている。奥津（1983）はそれについて次のように指摘している。

> A 太郎が次郎を殺した。
>
> B 次郎が太郎に殺された。
>
> 上の A も B も、「太郎」と「次郎」という二つの項目があり、両者の間に、「殺す」という関係があり、「太郎」がその動作主であり、「次郎」がその受動者であるという事柄を表す点では違いがない。…同一意味を表すのに二つの文型を持つのは話し手が自らの視点を動作主に置くか、受動者に置くかの違いによる。そこに受身文の存在の意味がある。話し手が＜動作主＞の立場からその出来事をみれば能動文が、＜受動者＞の立場から見れば、受身文が選ばれるのである。
>
> 奥津（1983:70）

つまり、一つの事柄を表そうとする時、能動文か受身文にするのは、話し手の視点がどこに置かれるかの違いによる。なぜ受身文にするのかについて、久野（1978）は「受身文では、わざわざ行為主体を主語の位置から外し、行為対象を主語の位置にすえるのであるか

[1]一般に「能動文」に対しては「受動文」という用語が使われるが、本研究は日本語学で定着している「受身文」という用語を用いる。

ら、話し手はこの構文パターンを用いる時は、何か特別な理由、即ち、行為対象に対する視点的接近が無ければならない。」[2]と述べている。

周知の通り、日本語には、一つの文法範疇としての受身というヴォイスがあるが、中国語においては、文法範疇としてのヴォイスの存在は今なお十分に認知されていない。孤立語である中国語は受身や使役を表すのに形態論のレベルにおいての特別な述語形態を持ち合わせないからである。つまり、中国語の受身は前置詞[3]（“被 / 叫 / 让 / 给”）や語彙（“受到”、“遭到”など）によって表現され、形式上は日本語の受身文と大きな違いを呈している。次の用例[4]を見てみよう。

1)雪の色はそこまで行かぬうちに闇に呑まれていた。（雪国）

1)’那边的白雪、早已　被　黑暗　吞噬　了。

あの辺の白雪　すでに　PM　闇　呑む　PERF

2)私が考えた時、御嬢さんは私の顔を見て又笑い出しました。然し今度は奥さんに叱られてすぐ已めました。（こころ）

2)’我　正在　思索 时，小姐　看　着　我的脸　又　笑起来　了。

私　ちょうど　考える 時　お嬢さん　見る PROG　私の顔　また　笑い出す　PERF

然而　这回　被 太太　叱责　了　一下 就　止住　了　笑。

しかし　今度　PM　奥さん　しかる　PERF　COMP conj　已める　PERF　笑い

3)私は自分がとても可愛がられている事を、身にしみて意識した。（斜陽）

3)’我　深深　意识到　他　非常　喜欢　我。

私　しみじみ　意識する　彼　非常に　好き　私

4)私にはこの上もない好い機会が与えられたのに、知らない振をして何故それを遣り過ごしたのだろうという悔恨の念が燃えたのです。（こころ）

---

[2]久野（1978:163）を参照されたい。

[3]“被”は一般に「前置詞」（中国語の文法用語では「介詞」）に分類されるが、研究者によって見解の違いがある。また、中国語の受身文は「主体が～という事態を被った」という意味なので、それ自体は能動文であると考えられるため、本研究ではヴォイスではないと見なしている。

[4]例文の詳細については第３章を参照されたい。

4)’我　心中　　后悔不迭，　尽管　　给　了　我　再好没有的　机会，

私　心の中　後悔する　にもかかわらず　与える　PERP　私　より良いNEG　機会

为什么　　视而不见地　　放过去　了　呢？

なぜ　知らないふりをする　遣り過ごす　PERF　MOD

上記の例文の中で、日本語受身文例 1)、2) に対して、中国語の対訳文 1)’2)’は同じ受身文で対応しているが、中国語には述語動詞だけでなく 、アスペクト助詞や結果状態を表す補語が付加されている。一方、例 3)、4)の受身文については、同じ出来事を表しているのにもかかわらず、 ともに受身文ではなく、能動文に訳されている。つまり、原文とは異なる事態の把握の仕方で表現されているのである。また、4)では日本語は「与えられた」のように授受の意味を表す動詞にも受身文が成り立つが、中国語では授受動詞には受身文が成立しないため 4)’の能動文が対応している。このように、日本語受身文の形式と使い方との「不対応」が中国人日本語学習者にとって、日本語の受身文を理解しにくいものとしている。それ故いかにして日本語受身文を正しく使うかは中国人の日本語教育や翻訳研究における重要な課題である。日本語受身文はどういうときに使うのか、すべて中国語受身文に転換できるのか、これはいずれも日本語学習者を悩ませる問題である。そのような問題を解明するためには、日中受身文の対照研究が必要である。

1.2 本研究の目的

本研究ではまず、文学作品においてよく用いられる日本語の直接受身文[5]およびその中国語の対訳文を中日対訳コーパスから取り出し、対照分析を行い、日本語受身文と対応している各パターンの中国語表現の特徴を明らかにする。また、その結果を踏まえ、認知言語学的アプローチにより直接受身文における主語の選択、述語動詞、文の意味、それぞれと中国語の対応関係について考察を行うことを目的とする。

[5] 直接受身文のみを研究対象にする理由は第 2 章の 2.4　先行研究の問題点と本研究の立場を参照されたい。

1.3 本研究の構成と概要

本研究は以下のように構成される。

第 1 章は序論、本研究の背景、目的及び全体的構成を紹介する。

第 2 章は先行研究の概観と本研究の位置づけを示す。日本語の受身文に関する研究、中国の“被動句”に関する研究およびその二つの受身表現の対照研究を概観した上で、先行研究の問題点及び本研究の位置づけを試みる。

第 3 章では、本研究の理論上の枠組みおよび研究方法について詳述する。まず、本研究が準拠する理論的基盤として認知言語学の「パースペクティヴ」、「カテゴリー化とプロトタイプ」、「アクション・チェーン」について説明し、次に、本研究で使用した『中日対訳コーパス』に収録された作品の詳細およびデータ収集方法を述べる。

第 4 章では、収集した日本語直接受身文及びその中国語対訳文について、受身文における主格名詞と斜格名詞[6]、述語動詞、文の意味という三つの観点から対照分析を行い、各パターンの中国語表現と対応している日本語受身文の特徴を明らかする。

第 5 章から第 7 章では、第 4 章の分析結果に基づき、直接受身文における主語の選択、述語動詞、文の意味特徴についての考察を行う。具体的には、第 5 章は、「パースペクティヴ」による主語の選択の考察をする。第 6 章は「アクションチェーン」、「プロトタイプ理論」による述語動詞についての考察を行う。第 7 章は日中受身文の意味特徴についての考察を行う。

最後の第 8 章では、本研究のまとめと今後の課題を述べる。第 5～7 章で考察した内容をまとめた上で、本研究の意義と今後の課題について述べる。

[6] 主格、斜格という用語の定義については、村上（1991a）に従う。

第 2 章　先行研究の概観と本研究の立場

日本語受身文および中国語“被動句”の問題はかつてより注目を集めており、それについては多くの研究が行われてきた。本章では、日本語の受身文に関する研究、中国語の“被動句（受身文）”に関する研究および受身文に関する日本語と中国語の対照研究を概観した上で、本研究の位置づけについて述べる。

2.1 日本語受身文に関する先行研究

日本語の受身文に関する先行研究を見ると、受身文の概念、形態的特徴、分類、成立条件について主に構文上と意味上という二つの面からの研究が多いことが分かる。以下、日本語受身文に関する先行研究を概観する。

2.1.1　受身文の分類

日本語の受身文について、山田(1908)、松下（1928）をはじめ、これまで多くの研究者がさまざまな基準から分類を試みてきた。ここでは、研究史に沿って、山田(1908)、松下（1928)、鈴木(1972)、寺村(1982)、益岡(1982)、久野（1983)、工藤(1990)、日本語記述文法研究会（2009）の研究について概観する。

2.1.1.1　山田（1908）の分類

山田(1908)は、英語など西洋語のそれと比較する形で日本語の受身文について論及し、以下のように述べている。

> 国語に於いては受身の文に二種の状態あり。
>
> 一は文主が有情物なる時、この場合には文主がその実際の主に直接に影響を蒙る場合にも、また間接に其れが影響を受くる場合にも、即、所謂他動詞なる時も所謂自動詞たる時もともに受身の文をなしうるなり。而して非情物も擬人せられたるものは直にこの種の受身の文の主体となりうるなり。この種の文の主体は直接にも間接にも其の影響を受くることを自ら意識せるものと吾人が認むるものに限る。

次は純然たる状態にして所謂他動詞に対する補充語たるものが、作用の影響を受くることを傍観者の地位より観察して傍観者の思想として之をあらわす場合なり。さる時は文主は非情物にても受身の文は構成せらるゝなり。非情物が文主にして事実上の主の作用が文主に働掛くることを直接にあらはす如き受身の文は国語には存在せず。

山田（1908:380）

つまり、山田（1908）は日本語の受身文を「有情物を文主とする受身」と「非情物を文主とする受身」の二種類に分けている。「太郎は次郎に殴られた」などのような文は「有情物を文主とする受身」に属し、「コップは机の上に置かれた」などのような文は「非情物を文主とする受身」に属する。また、「非情物を文主とする受身」の特徴として、山田は、傍観者があり、その傍観者の考えを表わすということを挙げている。

2.1.1.2　松下（1928）の分類

松下（1928）は、まず、受身文を「人格的被動」、「可能的被動」と「自然動的被動」に分類し、また、「人格的被動」をさらに「自己被動」、「所有物被動」、「所有物自己被動」、「他物被動」に分け、それぞれ次のような例文を挙げている。

A 自己被動：	人、盗賊に殺さる。	小児、蜂に刺さる。
B 所有物被動：	人、盗賊に物を盗まる。	小児、蜂に顔を刺さる。
C 所有物自己被動：	父、子に死なる。	妻、夫に遊ばる。
D 他物被動：	雨に降らる。	他人に成功せらる。

松下（1928:354）

松下（1928）によると、「自己被動」は自分が動作を受けること、「所有物被動」は自分の所有物が動作を受けること、「所有物自己被動」は自分が所有物の動作から影響を受けること、「他物被動」は自分が他物の動作から影響を受けることである。

2.1.1.3　鈴木（1972）の分類

松下（1928）の分類は、鈴木(1972)によって受け継がれ、発展された。鈴木(1972)は、松下の「所有者自己被動」、「他物被動」を「第三者のうけみ」の一類にまとめ、形態的に

違う「もちぬしのうけみ」（松下（1928）の「所有物被動」）と対立させた。つまり、鈴木(1972)は現代日本語の受身文を「直接対象のうけみ」、「相手のうけみ」、「持ち主のうけみ」、「第三者のうけみ」という四種類に分けた。鈴木(1972)によると、直接対象の受身は元になる立場の動詞の示す動きの直接対象（「――を」）を主語として表すものであり、相手の受身は元になる立場の動詞の示す動きの相手（「――に」）を主語として表すものである。持ち主の受身はもとになる動きの対象の持ち主を主語として表すものであり、第三者の受身はもとになる動詞によって迷惑を受ける第三者(元になる立場のの文には登場しない第三者）を主語として表すものである[1]。

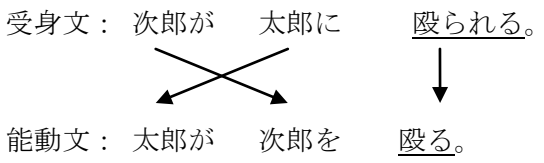
2.1.1.4　寺村（1982）の分類

寺村（1982）は、対応する能動文があるかどうかにより、受身文を「直接受身」と「間接受身」に二分類した[2]。

寺村によると、直接受身文は、「主格に立つ名詞が、述語動詞の語幹によって表される動作（その仕手は（Y ニ）の Y」[3]の直接影響を受けるものであり、また構文的には対応する能動表現を持っている。即ち、「X が Y ニ～サレル」の形を取る直接受身文には、必ず「Y ガ X ヲ (ニ) ～スル」という、規則的に転換できる能動表現があるということである。たとえば、

次郎は太郎に殴られた。

上の例では、「次郎」が「太郎が殴る」ことから受けた影響は直接のものと認められ、また「次郎が太郎に殴られる」の裏には、「太郎が次郎を殴る」という能動的な表現が潜んでいる。構文的には、次のように対応できる。



[1]鈴木（1972:279-281）を参照されたい。
[2]寺村（1982:214-215）を参照されたい。
[3]同上。なお、ここでは、Y は「V-の動作・変化・出来事の主体」を指し、X は「「Y ガ V－スル」ことによって影響を受ける主体」を表す。

一方、間接受身文は、「主格補語の受ける影響が間接的」であることにより、「間接受身文」と呼ばれる。「直接受身文」と違い、対応する能動表現を持たない（「X ガ Y ニ（Z ヲ）～サレル」を「Y ガ X ヲ（ニ）（Z ヲ）～スル」とすると非文になる）という特徴を持っている。つまり、間接受身文には、直接受身文のような「受身文⇔能動文」という対応関係がない。しかし、「W ガ X ニ（Y ヲ）～サレル」という形の間接受身文には、逆に能動文によって表現されること（即ち「X ガ（Y ヲ）～スル」）がある。

2.1.1.5　益岡（1982）の分類

益岡(1982)では、独自の受身文の分類法が唱えられている。益岡(1982)は格助詞「に」でマークされた名詞句をとりうる受身文とそうでない受身文を区別し、それぞれ「与格受身文」と「非与格受身文」[4]と名づけた。さらに受身文の統語的特徴に関して、各々の受身文について、一般に昇格と降格のうちのいずれか一方が受身化の主たる動機をなしていると述べ、昇格が主たる動機である受身文を「昇格受身文（promotional passive)」、降格が主たる動機である受身文を「降格受身文（demotional passive)」としている。さらに、「昇格受身文」は、「受影受身文（affective passive)」と「属性叙述受身文（predicationalpassive)」の 2 種類に分けられている[5]。以下の図 2－1 は益岡の分類をまとめたものである。

- 受身文
  - 与格受身文（昇格受身文）
    - 受影受身文：ジョンは友人にばかにされた。
    - 属性叙述受身文：この雑誌は、10 代の若者によく読まれている。
  - 非与格受身文（降格受身文）：その寺は、9 世紀前半に建てられた。

図 2－1　益岡（1982）の分類

[4]益岡（1982:51-62）を参照されたい。

[5]「受影受身文」はある名詞句がある出来事の結果として心理的あるいは物理的影響を被ったことを表わすものであり、「属性叙述受身文」はある名詞句がある属性を有することを表わし、つまりその名詞句の「特徴づけ」(characterization) を行うものである。益岡によると、形態上の区別である「与格受身文」と「非与格受身文」は、それぞれ、統語的に区別される「昇格受身文」と「降格受身文」に対応する。

2.1.1.6　久野（1983）の分類

久野（1983）は、被害・迷惑の意味が含まれているか否かによって、日本語の受身文を「中立受身文(a、b)」と「被害受身文(c、d)」の二種類に分類し、「被害受身文」は、その主語の指示対象が、表されている行為、出来事によって、被害・迷惑を蒙ったという意味合いが強いが、「中立受身文」には、そのような意味合いがないと指摘している[6]。

a. 田中は、山田先生に認められた。
b. 田中は、山田に夕食に呼ばれた。
c. 山田は、花子にアパートに来られた。
d. 太郎は、花子に小説を書かれた。

例文から見ると、久野のこの分類は、意味上から言うと「中立受身文」と「被害受身文」になるが、実は寺村（1982）の「直接受身文」と「間接受身文」という二分類と一致している。

2.1.1.7　工藤（1990）の分類

工藤（1990）は、鈴木（1972）の分類をさらに発展させた。工藤は、「受身文」をまず「当事者受身文」と「関係者受身文」の二種に分け、次に「当事者受身文」を「直接受身文」と「間接受身文」に分類し、「直接受身文」をさらに「直接対象受身文」と「相手受身文」に分けている[7]。

A 当事者受身文
　A.1 直接受身文：直接対象受身文、 相手受身文
　A.2 間接受身文（持ち主受身文）
B 関係者受身文（不利益受身文）

2.1.1.8　日本語記述文法研究会（2009）の分類

日本語記述文法研究会（2009）は「受身とは、動作による働きかけや作用を受ける人や

[6]久野（1983:192）を参照されたい。
[7]工藤（1990:51-52）を参照されたい。

物を主語として文を構成することである[8]」と記述しており、受身文の述語について「動詞の語幹に『-(r)are-ru』という接辞を付加して作られ、事態の描き出し方が有標であることを表している[9]」と指摘している。また、何を主語として表現するかによって、日本語受身文を直接受身文、間接受身文、持ち主の受身文の三種類に分けた[10]。さらに、この三種類の受身文について、次のように説明している。

直接受身文とは、対応する能動文の補語の表す人や物を主語として表現する受身文である。

間接受身文とは、対応する能動文に含まれていなかった人物を主語として表現する受身文である。

持ち主の受身文とは、対応する能動文の補語として表される物の持ち主を主語として表現する受身文である。

（日本語記述文法研究会 2009:216-218）

以上において、日本語受身文の分類に関する先行研究を概観したが、これまでの検討で明らかになったように、このような分類結果の不一致を生んだのは、まず諸研究における分類基準の相違だが、分類基準が同じでも、それに応じての言語事実の認定にもギャップが見られる。

一方、今回、コーパスから収集された日本語受身文の用例を文型から見ると、以下の四つのパターンがある。

a. 私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。（金閣寺）

b. 私はその人から鄭寧に先生の出先を教えられた。　（こころ）

c. おれを御覧よ。かかあには死なれるしさ、子供はなしさ。（こころ）

d. 克平は背をアルさんに押されて、むりやりに詰め込まれた格好だった。

（あした来る人）

[8]日本語記述文法研究会（2009:213）を参照されたい。

[9]日本語記述文法研究会（2009:213）を参照されたい。。

[10]日本語記述文法研究会（2009:215）を参照されたい。

この四つの文を先行研究のそれぞれの分類で整理すると、次の表 2－1 になる。

表 2-1　日本語受身文の分類

<table>
<tr><td></td><td>私は朋輩の徒弟たちに笑われた</td><td>私はその人から先生の出先を教えられた</td><td>克平は背をアルさんに押された</td><td>おれはかかあには死なれる</td></tr>
<tr><td>山田（1908）</td><td colspan="4">有情物を文主とする受身</td></tr>
<tr><td>松下（1928）</td><td>自己被動</td><td>（未言及）</td><td>所有物被動</td><td>所有物自己被動</td></tr>
<tr><td>鈴木（1972）</td><td>直　接</td><td>相　手</td><td>持ち主</td><td>第三者</td></tr>
<tr><td>寺村（1982）</td><td>直　接</td><td colspan="2">（未言及）</td><td>間接</td></tr>
<tr><td>久野（1983）</td><td>中立（直接）</td><td colspan="2">（未言及）</td><td>被害（間接）</td></tr>
<tr><td>益岡（1982）</td><td colspan="2">昇格受身文</td><td>（未言及）</td><td>（未言及）</td></tr>
<tr><td>工藤（1990）</td><td colspan="3">当事者</td><td>関係者</td></tr>
<tr><td>日本語記述文法研究会（2009）</td><td colspan="2">直　接</td><td>持ち主</td><td>間接</td></tr>
</table>

この表 2－1 から分かるように、分かりやすく、全面的に、また、簡潔に示されているのは日本語記述文法研究会（2009）の分類である。

また、中国の大学でよく使用されている日本語教材の『新編日語』（1994）では、日本語受身文は (1)「主語が人である直接受身文」、(2)「主語が事或いは物である直接受身文」、(3)「間接受身文」の三種類に分けられ、さらに（3）の「間接受身文」は①「自動詞受身文」と②「目的語がつく受身文」に分けられている[11]。

（1）主語が人である直接受身文

a. わたしは母に叱られました。／わたしは彼から多くのことを教えられました。

（2）主語が事或いは物である直接受身文

b. 近ごろ、このことばがよく使われているようです。

[11]周平・陈晓芬（1994:202-205）を参照されたい。

(3) 間接受身文

①自動詞受身文

c. 高校の時、父に死なれて、暮らしに大変困ってしまいました。

d. 友達に来られて出られなくなりました。

②目的語がつく受身文

e. 李さんは人に足を踏まれて、血がたくさん出てしまいました。

f. わたしはあの人に頭をなぐられました。

この分類は日本語学習者にとって分かりやすく、中国語との対応関係を明確に説明できると思われるが、具体的な説明と挙げられた用例を見ると、この分類は日本語記述文法研究会（2009）の直接受身文(a、b)、間接受身文(c、d)、持ち主受身文(e、f)という三分類と一致している。

つまり、日本語記述文法研究会（2009）の三分類は日中受身文の対照分析に最も適切であると考えられる。そのため、本研究では、その分類に従い、コーパスから収集した日本語受身文を直接受身文、間接受身文、持ち主受身文に分けた。

直接受身文：

私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。(金閣寺)

私はその人から鄭寧に先生の出先を教えられた。　(こころ)

間接受身文：

おれを御覧よ。かかあには死なれるしさ、子供はなしさ。(こころ)

持ち主受身文：

克平は背をアルさんに押されて、むりやりに詰め込まれた格好だった。(あした来る人)

2.1.2 構文上の特徴

日本語受身文の構文と意味についての研究は、まず寺村（1982）が挙げられる。

寺村（1982）では直接受身が成立するための「文法的条件」及び「語用的条件」について論じられている。直接受身が成立するための文法的条件を分析するにあたり、寺村は意味によって動詞を、「二者の関係を表わす動詞」、「移動の動詞」、「変化の動詞」、「授受身

詞」、「『入れる、出す』類の動詞」、「『変える』類の動詞」、「コトを補語としてとる動詞」に分け、それぞれの動詞を用いた能動表現が直接受身に転じうるかどうかを考察した。その成果をまとめると表 2－2 になる。

また、寺村はこの動詞の分類により、受身文の主語、動作主、動作主の取る助詞についても考察し、直接受身が成立するための「文法的条件」を明らかにした。次の表 2－3 はそれをまとめたものである。

さらに、寺村では、英語の受動態表現の語用的条件に関する Jespersen（1924）の説明[12]が紹介され、さらに日本語の独特な条件についても言及している。日本語において、「能動文の主語」または「動作主」以外のものを文頭に置くための、受身以外の可能な文法的な手段として、次の三つを挙げている[13]。

A「この詩は光太郎が書いた。」のような、動作・作用を受ける客体を、主題として取り立てる構文。

B「やる、あげる←→もらう」「貸す←→借りる」「預ける←→預かる」「教える←→教わる」のような、方向性のある動詞の場合。

C「ガラスが割れた。」のような、当の他動詞の自発態、ないしそれに対して自動詞がある場合。

一方、間接受身の成立する語用的条件に関しては、寺村は受身表現を授受表現と比較しながら、そこに現れている利益関係を中心に分析している。「～シテモラウ」「～シテクレル」は受益の意味を表わす場合に使うが、間接受身は、ある事象がある者にとってうれしくない、迷惑である、というときにしか使えないとされている。

---

[12]寺村（1982:240）によると、Jespersen（1924）は、受身文の主語に主たる関心が置かれる場合として、「能動文の主語が不明か、述べるのがむずかしい」、「能動文の主語が文脈から自明で述べる必要がない」、「能動文の主語を言い表わすとぶしつけになるというような文体上の条件を考慮する」、「能動文の主語が分かっていても、受動文の主語に対する関心のほうが大きい」、「文と文の結合を容易にする」という 5 つの場合が挙げられている。

[13]寺村（1982:239-243）を参照されたい。

表 2－2　動詞の分類および直接受身文との関わり[14]

<table>
<tr><th colspan="2">動詞の種類</th><th>動詞の具体例</th><th>直接受身に用いられるかどうか</th></tr>
<tr><td rowspan="3">二者の関係を表わす動詞</td><td>客体への働きかけ</td><td>物理的、心理的働きかけ：殺す、つかまえる、助ける…
感情の働き：愛する、憎む、好む…
感覚の働き：見る、聞く…
「創ル」類の動詞：作る、書く、建てる…</td><td>○</td></tr>
<tr><td>相手への働きかけ</td><td>かみつく、話しかける…
賛成する、反対する…
恋する、感謝する…
会う、相談する、当たる…
勝つ、負ける、似る…</td><td>○
（例外がある）</td></tr>
<tr><td>相互動作</td><td>結婚する、衝突する、争う…</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">移動の動詞</td><td>出る、離れる、卒業する…
通る、歩く、走る、飛ぶ…
入る、達する、乗る…
住む、泊まる、立つ…</td><td>×
（例外がある）</td></tr>
<tr><td colspan="2">変化の動詞（自動詞）</td><td>化ける、なる、変る…</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">授受動詞</td><td>「与エル」類：贈る、教える、紹介する…
「受ケル」類：貰う、教わる、あずかる…</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">「入れる、出す」類の動詞</td><td>降ろす、出す、入れる…</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">「変える」類の動詞</td><td>変える、増やす…</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">コトを補語としてとる動詞</td><td>見る、思う、言う…</td><td>○</td></tr>
</table>

[14]寺村（1982:212-254）を参照されたい。

表２－3　　直接受身文の成立する文法的条件[15]

種　類		主　語	動作主の取る助詞			動作主	動詞
			ニ	カラ	ニヨッテ		
働きかけ	物理的、心理的働きかけ	受け手	○	×	△	あり	殺す、育てる
	感覚･感情の働き	目当て	○	○	×	あり	愛する、憎む
	創造	作品	×	×	○	あり	作る、建てる
相手	物理的影響を与える		○	×	△		かみつく、話しかける
	相手に対して主体が何らかの態度をとる		○	×	△		賛成する、反対する
	感情を表す		○	○	×		恋する、感謝する
移動動詞		出所、到達点、通り道	○	×	×	あり	入る（侵入の意味）
授受動詞		Y（受け手）	○	○	×	あり	贈る、教える
		Z	×	○	×	あり	貰う、教わる
Y の移動を引き起こす動詞			×	×	○	不問	出す、入れる
「変える」類の動詞			×	×	○	あり／不問	変える
コトを補語としてとる動詞		コト	○	○	×	あり／不問	見る、思う、言う

[15]寺村（1982:212-254）を参照されたい。表は筆者がまとめたものである。

高見（1995)は、機能的構文論の立場から、日本語の受身文について分析した。日本語の受身文の適格性を左右する条件は、英語の受身文とは異なり、共感度関係がインヴォルヴメント[16]より優先されるという。また、日本語の共感度関係に違反する受身文と違反していない受身文について次のように規定している。

日本語の共感度関係に違反する受身文は、次のどちらかを満たす場合に適格となる。

(A) 受身文によって、被害または恩恵の意味が伝達されたり、または主語か話し手が被害／恩恵を被っていると解釈される場合

(B) 受身文の主語が文の他の要素によって特徴づけられている場合

日本語の共感度関係に違反しない受身文は、以下のいずれかを満たす場合に適格となる。

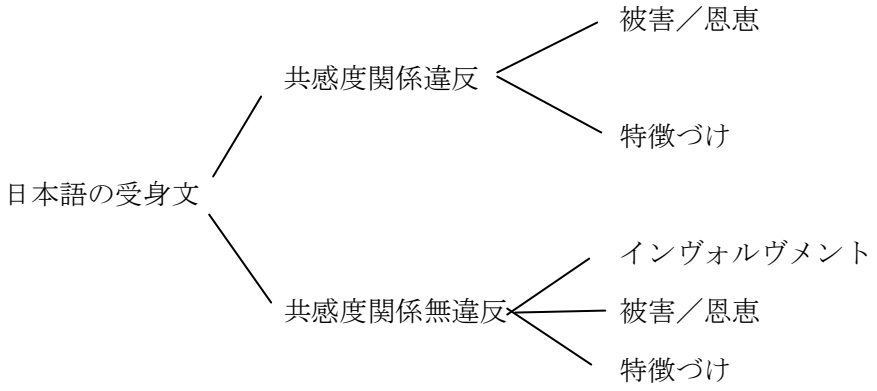
(A)受身文の主語が動詞の表す動作や状態にインヴォルヴしている場合

(B)受身文の主語が被害または恩恵を被っていると解釈される場合

(C)受身文の主語が文の他の要素によって特徴づけられている場合

（高見 1995:115-116）

高見（1995)では、日本語の受身文におけるこれらの適格性条件は以下のようにまとめられる。



（高見 1995:117）

[16]「インヴォルヴメント」は、久野(1983)で提案された概念である。また、「共感度関係」は、久野(1978)では次のように定義されている。

・人間性の視点ハイアラーキー：話し手は、無生物より人間に視点を近づける方が容易である。

・表層構造の視点ハイアラーキー：話し手は、主語寄りの視点を取ることが一番容易である。

・視点の一貫性：単一の文は、共感度関係に論理的矛盾を含んでいてはいけない。

工藤(1990)は動詞の性質と能動―受身の対立との関係を表わすものとして、次の図2－2を提示している。

〈他動性〉

有

(2項)

・行為者による対象への積極的はたらきかけ　→全面的対立

(2 項)

・外的作用の波及　・相互的動作・知覚活動　→部分的対立

再帰的動作　思考活動

無

(1 項)　(2 項)

・自己内部の運動　・他者からの作用をうける　→対立なし

図　2－2　動詞の性質と能動―受身の対立との関係

工藤（1990:68）

工藤によると、「殺す」「切る」「壊す」などのような動詞は対象に積極的に働きかけてゆくものであり、「見る」「聞く」のような知覚活動を表わす動詞及び「思う」「考える」のような思考活動を表わす動詞は対象へのはたらきかけが弱いものである。また、「感じる」「思い出す」などのような動詞は自己内部の運動を表わし、「つかまる」「みつかる」「受ける」などのような動詞は他者から作用をうけることを表わしている。

図2－2に示されるように、工藤（1990:68）は「行為者による対象＝他者への積極的はたらきかけを表わす典型的な他動構造文において、能動―受身の対立が全面的に開花し、この他動性が弱まれば、能動―受身の対立は変容したり、部分的になり、この他動性がなくなるとともに能動―受身の対立もなくなっていく」と述べている。

張麟声（1998）は受身文における非典型的動作主につく動作主マーカー[17]について「因

[17]動作主マーカーというのは、「に」「で」「によって」「から」など動作主につく助詞である（動作主の取る助詞のもう一つの言い方）。例えば、基本的には、「花子は上司に叱られた」の「上司」のような意図的に動作行為を起こす「典型的動作主マーカー」と、「旗が風にあおられている」の「風」のような意図的に動作行為を起こさない「非典型的動作主のマーカー」（に、で、によって、から、のためになど）である。この「動作主マーカー」という用語は日本語学で定着しているため、本研究ではそのまま用いる。

果関係的ケース」「進行中の自然現象のケース」「位置的関係のケース」の三類に分けて、順次考察した[18]。その研究成果をまとめると表 2－4 になる。

表 2－4　　日本語受身文における動作主マーカーについての考察[19]

分類			動作主マーカー				例文
			に	で	によって	のために	
因果関係	性状変化	道具	○	○	×	○	a. かれらは、（略）突然ばったり倒れる日本兵の姿も見たし、迫撃砲弾に吹っとばされた首が木の枝に突きささり･･･ b. その矢先に母から電話で呼ばれた。 c. 二人は砲弾のためにえぐりぬかれた地面のくぼみや岩かげに身を隠しながら、焼けてどすぐろくなった砂の上を這っていった。
		手段方法	○	○	○	×	a. 日本の政党政治は始め腕力に支配されていた。 b. 私のは三十何年もの間、世の中の規約で縛られていた。 c. つまり、ベトナムの乾期攻勢によって戦略上の拠点を追われた連合政府の存在意義を、秋の国連総会などをにらみ国際的に改めて印象付けようとの狙いが読みとれる。
		自然力	○	○	○	○	a. 叔父が畳の上に置いた一万円札二枚が、扇風機の風に吹き飛ばれて台所口の床に落ちた。 b. 風のために、砂はいったん空中に吸い上げられた。 c. ゆっくり道を降ると、眼下に雨で洗われた鮮烈な緑の放牧場がひろがる。 d. 次の結合力が弱ければ、石はもちろん、粘土でさえ飛ばないような微風によっても、砂はいったん空中に吸い上げられ、再び落下しながら、風下にむかって移動させられるというわけだ。

[18]張麟声（1998:191-201）を参照されたい。

[19]この表は張麟声（1998:191-201）を筆者がまとめたものである。

		物やコト	×	○	○	○	a. 私たちが東北へ来たのは、四月の空襲で都会の家を焼かれ、父方の遠縁を頼んだのであった。 b. 戦争によって親と引き裂かれた子が今、家族と共に日本に帰ってくる。 c. 地方の道路の建設のために高い料金を負担させられている大都市地域の利用者の理解を得るためにも、その補修と必要個所の拡幅には万全を期してほしい。
	心理・生理的変化		○	○	×	×	a. 私の方はこのところしつこい不眠に悩まされている。 b. しかし、ある日、突然、この平和と幸福にあふれた家に、見えない嵐がもたらされ、椅子にかけてうつらうつらしていた召使は、電話のベルで驚かされた。
	（比喩型）→		○	×	×	×	その額が二万円に成ったのに気づいた時、彼は奇妙な感動に打たれた。
進行中の自然現象			○	×	×	×	雨天体操場の屋根は雨に叩かれている。
位置の関係			○	○	×	×	a. かなり広い洋間の、両側の窓が厚地のカーテンに覆われた。 b. それは一月の終わりのことで、朝目がさめると、外は雪で覆われていた。

動作主マーカーについて、松岡（2000）は、ニ格を用いず他の格を用いる二つの場合を提示している[20]。

①「(A が B に C を）渡す、送る、与える」など、何かを受け取る人がニ格で表わされる動詞の場合、受身文の動作主がニ格で表わされると混乱が生じるため、動作主はカラ格で表わす。例えば：

権利は国（○から/×に）与えられるものでなく獲得するものだ。

[20]松岡（2000:292-303）を参照されたい。

②「(A が B を) 作る、建てる、書く、編む」など生産物が生じる動詞の場合、生産物を受け取る人がニ格で表わされる可能性があるため、動作主はニ格ではなく「～によって」で表わすのが普通である。例えば：

このオペラはプッチーニ（○によって/？に）作曲されたものだ。

さらに、益岡(2000)では、受影受身文においては動作主（またはそれに準じるもの）をニ格で表すことが可能であるのに対して、降格受身文では動作主はニ格で表すことができないという原則を提示し、動作主を表現する必要がある場合には、「によって」という形式を使用すればよいと述べている[21]。

死体は、さらに警察医によって精細に調べられた。

そのほか、動作主マーカーの使い分けについて、井上(1976)、久野(1983)、砂川(1984)、細川（1986)、工藤(1990)、金水(1991)などによっても研究されたが、ほとんど意図的に動作行為を起こす人間や動物のような典型的な動作主につく動作主マーカーについての研究に限られている。

2.1.3 意味上の特徴

従来、日本語の受身文を論じるときには、必ず「利害性」と「受影性」が論じられてきた。話者が一つの出来事をわざわざ能動文から受身文にするのは、視点を受身文の主格名詞に置き、その主格名詞にとって「利」であるか、「害」であるかということを明示したいからである。

松下(1928)は「人格的被動」について、「被動は他から被る動作であるから、被動の主體一人格である以上必ず利害を受けなければならない」、「人格的被動は必ず利害の意が有るから利害的被動と云っても善い」と利害性を強調している[22]。

松下は意味的な側面から「自動詞が受身文を作った場合に、受身の主格は必ず利害の影

[21]益岡(2000:65-67)を参照されたい。
[22]松下(1928:353)を参照されたい。

響を受ける」として「利害の被動」と名づけ、 日本語に独特な受身文の使い方として説明した。また、松下が受身文を「人格的被動」と命名したのには、受身文の主格名詞が有情物であるか非情物であるかということと深い関係があり、それが受身文の利害性を決定すると考えたからである。

久野（1983)は「被害受け身の意味「ニ」受身文深層構造の主文主語が埋め込み文によって表される行為・心理状態に直接的にインヴォルヴされていればいる程、受身は中立受身として解釈し易く、そのインヴォルヴメントが少なければ少ない程、被害受身の解釈が強くなる」と述べている[23]。

本節においては、日本語受身文に関する先行研究を概観したが、次節では、中国語の受身文に関する先行研究を見て行きたい。

2.2 中国語受身文に関する先行研究

中国語の受身文、いわゆる“被動句”の問題については、長い間文法学者たちの研究の焦点の一つとなっている。以下では、分類、構文特徴、意味特徴から中国語受身文に関する先行研究を概観する。

2.2.1　受身文の分類

中国語は類型論的には孤立語で、単語に接頭辞や接尾辞のような形態素を付着(膠着)させたり、語頭や語尾などの形を変化（屈折）させたりすることがない。文法的関係は語順などによって示すという特徴をもつ。したがって、中国語の受身文には、日本語の受身文のような動詞の活用がない。中国語では、「被」などの前置詞と語順によって、受身の意味を表す。

中国語の受身文は，文の主語が述語の表わす動作の受け手である文を指し、ある人やある事物のある動作で受ける影響がもたらす結果を説明する。王力（1985）は中国語受身文の起源、史的変遷、構造、特徴について概説し、受身文を「被動句」（被構文）と「意義上的被動句」（意味上の受身文）に分け、それぞれ用いられる場合の表現形式および特徴を示した。

[23]久野（1983:205)を参照されたい。

また、劉月華他（1991）は中国語の「受身文」について次のように述べている。

中国語では受身の意味を表す受身文“被动句”に二種類ある。一つは何のマークもないもので、このタイプの受身文は形式上は能動文“主动句”と変るところがなく、意味上の受身文と呼ばれる。もう一つは受身の意味を表わす介詞“被”、“叫”、“让”、“给”等を用いる文で、このタイプの受身文は普通“被”で代表して“被”構文（“被”字句）と呼ばれる。

劉月華他（1991:641-642）

つまり、中国語の受身文は受身を表すマーカーのない“意義被動句(意味上の受身文)”とマーカーのある“被字句（「被」構文)”の 2 種類がある。

「被」構文というのは、述語動詞の前に、前置詞「被」(「叫 / 让 / 给」) を用いて受身を表す文である。例えば、

次郎　被 / 叫 / 让 / 给　太郎　　打　　了。(次郎は太郎に殴られた。)

次郎　　PM　　太郎　殴る　PERF

つまり、「被」構文の構文は次の形になる。

NP2（対象[24]）＋PM+NP1（動作主）＋V＋COMP／PERF

一方、意味上の受身文とは、次の例文のように、前置詞「被」などが明示されない受身文である。構文的には　NP2＋(NP1)＋V＋COMP／PERF　になる。

信　　写好　　了。(手紙が書かれた。)

手紙　書き終わる　PERF

教室（我们）　打扫　　干净　了。(教室はきれいに掃除された。)

教室　(私たち)　掃除する　きれい　PERF

[24] 中国語文法論の分野には「格」という用語がないため、中国語の先行研究を概観するとき、「対象」と「動作主」という用語を用いる。

李临定（1986）は現代中国語の“被动句”の文型を次の 19 種類にまとめ、それぞれの特徴についても説明している。この分類は網羅的なものであり、中国語の“被动句”の各パターンにすべて触れている。“被动句”の研究にとっても、日中受身文の対照研究にとっても参考になる[25]。

李临定（1986）の分類

①名受＋被＋[名施]＋动

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞

②名受＋被＋名施＋所＋动

名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）＋所（prep）＋動詞

③名受＋被＋名施＋给＋动

名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）給（prep）＋動詞

④名受＋被＋[名施]＋动＋名受(１)

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞＋名詞(1)

⑤名受＋被＋[名施]＋动＋名受(２)

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞＋名詞(2)

⑥名受＋被＋[名施]＋动＋名数

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞＋名詞（数量 COMP）

⑦名受＋被＋[名施]＋动・介＋名处

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞・prep＋名詞（場所）

⑧名受＋被＋[名施]＋动・趋＋名处

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞・COMP＋名詞（場所）

⑨名受＋被＋[名施]＋动 1＋动 2

名詞（対象）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞 1＋動詞 2

[25]李临定（1986:205-224）を参照されたい。

⑩名受＋被＋名施＋动 1＋动 2

名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞 1＋動詞 2

⑪名受＋动 1＋被＋名施＋动 2

名詞（対象）＋動詞 1＋被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞 2

⑫名受＋[被＋名施]＋动 1＋[，]＋[被＋名施]＋动 2

名詞（対象）＋［被（PM）＋名詞（動作主)］＋動詞 1＋［，］（句読点）＋「被＋名詞（動作主)」＋動詞 2

⑬名＋被＋名施＋动 1＋动 2

名詞＋被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞 1＋動詞 2

⑭名施＋动 1＋名受＋被＋名施＋动 2

名詞（動作主）＋動詞 1＋名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞 2

⑮名施＋被＋名＋动

名詞（動作主）＋被（PM）＋名詞＋動詞

⑯名处＋被＋[名施]＋动＋名受

名詞（場所）＋被（PM）＋［名詞（動作主)］＋動詞＋名詞（対象）

⑰被＋名施＋动＋［名受]

被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞＋［名詞（対象)］

⑱名受＋被＋名施＋把＋名受＋动

名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）＋名詞（対象）＋動詞

⑲把＋名受＋被＋名施＋动

把（prep）＋名詞（対象）＋被（PM）＋名詞（動作主）＋動詞

2.2.2 構文上の特徴

まず、中国語の受身文における述語動詞に関する先行研究を見てみよう。代表的なものとして、劉月華他（1991）と李珊（1993）が挙げられる。

劉月華他（1991）は中国語の被構文の述語を考察し、その特徴を次のようにまとめている[26]。

A 動詞の後にアスペクト助詞“了”、“过”がある。

B 述語動詞の後に結果補語か方向補語、程度を表わす様態補語、動量補語、時量補語、介詞フレーズ補語がある。

C 動詞が後に目的語をとる。目的語の前にはよく補語がある。

D 介詞“被”に目的語があり、述語動詞の前にある種の状語があるとき、述語動詞の後には他の成分がなくてもよい場合がある。

李珊（1993）は中国語の“被”構文を A、B、C の 3 つの部分に分け、それぞれの特徴を分析した。A は対象、B は動作主、C は述語である。

杯子　被他　打破了。
A　　B　　C

A 段の対象及び B 段の動作主について、李珊（1993）は有情、非情、特定と不特定を中心に考察した。また、C 段の述語に関しては、以下の 9 種類の動詞は用いられないと指摘した[27]。

①判断动词：是、叫、像、等于……
判断を表わす動詞：である、である、似る、等しい…

②有无动词：有、无、没……
有無を表わす動詞：ある、ない、ない

③助动词：能、想、愿、打算、应该……
助動詞：できる、思う、願う、たがる、べし…

④趋向动词：来、去、上、下、进、出……
方向を表わす動詞：来る、行く、上る、下がる、入る、出る…

[26]劉月華他（1991:645-647）を参照されたい。
[27]李珊（1993:77-80）を参照されたい。

⑤部分存现动词：存在、出现、消失、死……

存在・出現・消失を表わす一部の動詞：存在する、出現する、消失する、死ぬ…

⑥部分心理活动动词：怕、望、求、后悔……

心理活動を表わす一部の動詞：怖がる、望む、求める、後悔する…

⑦其他不及物动词：醉、病、谢、肿……

その他の自動詞：酔う、病む、感謝する、腫れる…

⑧兼类词：习惯、指挥、怪……

動詞でありながら、形容詞または名詞でもある語：慣れる、指揮する、怪しむ…

⑨其他：达到、面临、给予……

その他：達する、臨む、あげる…

ただし、李珊の関心は主に中国語の“不及物动词”（目的語を持たない動詞、つまり自動詞）に集中しており、“及物动词”（目的語を必要とする動詞、つまり他動詞）についての考察は少ない。また、“能”、“可”、“要”、“会”などのような助動詞は動詞分類の中に入れてよいかも疑問の残るところである。

一方、中国語の受身マーカーについての研究には、陳力（2002）、屈哨兵（2004）、周文華（2005）が挙げられる。

陳力（2002）は「NP1　让　NP2　VP」という「让」構文と「NP1　被　NP2　VP」という「被」構文を比較し、「『让』構文においては、NP2 が NP1 から影響をもらい、ある反応を示すのにたいして、『被』構文には、NP2 が NP1 に影響を与える」と、語用論の観点から受身マーカー「让」 と「被」の使いわけを区別した。また、陳力（2002）は「让」構文が表す意味について、その事態が未然であれば、使役を表し、已然であれば、受身を表わすという結論を下した。

屈哨兵（2004）は現代中国語の受身マーカーについて、極めて綿密な考察を行った。特定の受身マーカー“给”、“让”、“着”は無論、ときに受身マーカーになる“经（过）”、“在……下”、“用来……”、“值得”についても論じた。また、それらの受身マーカーの使い分けだけでなく、発展経緯、使用頻度と地域の差についても言及した。さらに、“被动观念的标现极度（受身観念の強弱レベル）”も考察し、あらゆる中国語の受身文を六段

階に分け、受身文における動作主と対象の強弱レベルをつけた[28]。

周文華（2005）は「让」構文に着眼し、それを“致使义‘让’字句（ある原因に対する結果を述べる「让」構文）”、“使令义・‘让’字句（使役や命令を表す「让」構文）”、“允许义‘让’字句（許可を表す「让」構文）”和“被动义‘让’字句（受身を表す「让」構文）”という四種類に分け、それぞれ構文上の特徴について考察をした。受身を表す「让」構文を考察する際、「被」構文と比較し、両者の相違点について「“‘被’字句可以直接用‘被’字接介引NP1所遭受的动作或结果，而‘让’字句必须标明遭受的动作、结果的施事者或原因”（「被」構文は「被」という受身マーカーだけで NP1 が蒙った影響、あるいは NP1 の結果状態を表すのに対して、「让」構文はその影響や結果状態を致す動作主、あるいは原因を明示しなければならない）（周文華（2005:35）」と述べた。つまり、「NP1　让　NP2　VP」という「让」構文における NP2 は省略できないと主張している。

2.2.3 意味上の特徴

中国語受身文の意味特徴について、呂叔湘、朱徳熙（1951）は以下のように指摘している。

> 在意义方面,被动式所叙述的行为,对于主语被动者大都是不愉快的:“被他欺负”、“被他骗了”是常见的……这是因为“被”字原来的意义是“遭受”,只有对于不愉快的事情我们才说是遭受。
>
> （受身式で表れた行為は主語にとって、ほとんど不愉快なことである。それは「被」という字に本来不愉快なことを蒙るという意味があり、ただ不愉快なことを表現する時に「不愉快なことを蒙る」というのである）。
>
> 呂叔湘、朱徳熙（1952：82-83）

李临定（1986）は受身文の意味について、被害、好ましくない意味は対象にとってだけでなく、もっと広く理解しなければならないと強調している。

杉村（1997）は中国語の「被」構文に独特な「感情的色彩」があることを指摘し、「自

[28]具体的なレベル分類の内容は、屈哨兵（2004:161-178）を参照されたい。

己称揚」と「自己批判」という二つの概念を打ち出した。杉村によると、「自己称揚の被動文」は、難事が話者本人あるいは話者の感情が移入された存在によって達成されたという場合に用いられる被動文であり、「自己批判の被動文」は、不如意な遭遇を言う被動文の施事として話者自らが提出された時、その発話は話者が自らの行為によって不愉快・不利益を被ったことを積極的に伝えたものである。杉村（1997）は「自己称揚の被動文」と「自己批判の被動文」として次のような例を挙げている[29]。

A 自己称揚の被動文

这个字　终于　被 我　写　　像样　　了。

この字　やっと　PM　私　書く　きれいに　PERF

（やっと、この字をきれいに書いた。）

他的花招　　被　　我　　识破　　了。

彼のごまかし　PM　わたし　見破る　PERF

（彼のごまかし見破った。）

B 自己批判の被動文

多少　　时间，被　　我　　白白　　糟蹋　　过去！

いくつか　時間　　PM　わたし　そのまま　無駄にする　COMP

（たくさんの時間を無駄にした。）

多　　好　　的　一个　晚上，全　　让　妈妈　　给　　破坏 了。

とても　良い　の　ひとつ　夜　　すべて　PM　お母さん　prep　潰す　PERF

（なんとすばらしい夜だが、すべてお母さんに潰された。）

2.3　日中受身文の対照研究

迫田(2002)によれば、言語の対照研究とは、外国語学習の困難点は学習者の母語と目標言語である外国語の違いによって引き起こされるという前提に基づき、目標言語の効果的な指導を目指し、学習者の母語と目標言語を比較対照し、その異同を明らかにする研究で

[29]杉村（1997:285-289）を参照されたい。

ある。そのような観点から日中両言語の受身文の対照研究を見てみると、理論的観点から両者の異同に焦点を当てたものが多く、記述的観点からの研究は少ないことが分かる。

まず、理論的観点からの研究としては、大河内(1982)、鄭暁青(1991, 1996)、中島(1993, 1994)、杉村(2003) などが挙げられる。以下、それらを順に概観する。

大河内(1982)は、中国語受身文の特徴について考察した上で、構文および意味的観点から中日両言語の受身文の共通点と相違点を以下のように指摘している[30]。

A 日本語の不如意を示す受身は容易に中国語の“被”構文になる。

B 日本語の不如意を示さない直接の受身、「会議が開かれる」式のものは中国語の“被”構文では表せない。中国語の自然被動文[31]になるものがある。

C 中国語においては、日本語の「雨に降られる」式の自動詞の受身は成立しない。

このうち、Cの「中国語においては、日本語の『雨に降られる』式の自動詞の受身は成立しない」には問題点が残る。確かに、中国語においては、自動詞の受身は一般的に用いられていない。しかし、すべての自動詞が“被”構文の述語動詞として用いられないというわけではない。中国語においては“被小孩哭得睡不着觉（子供に泣かれて眠れない)”“被小偷逃走了（泥棒に逃げられた)”などのような自動詞受身文は成立できるからである。

鄭暁青（1991, 1996）では、この大河内（1982）がまとめた日本語の受身文と中国語の「被」構文の違いのほかに、以下に示す相違点が指摘されている[32]。

A 物や情報などの授受を表わす動詞は、日本語では受身文として成り立つが、中国語では“被”構文として成り立たない。ただし、例外も存在する[33]。

---

[30]大河内（1982:329-330）を参照されたい。

[31]この自然被動文は、「意味上の受動文」に相当する。

[32]鄭暁青（1991:167-172)、鄭暁青（1996:84-85）を参照されたい。

[33]鄭暁青（1991:170）によると、同じ授受動詞でも、“授与”、“赋于”、“赐与”のように名誉の意味に結び付くものの受身文は成立するという。次の例を参照されたい。“他被授与人民英雄的光荣称号。”(彼は人民英雄の名誉を授けられた。)“我们被赋于神圣的历史使命。”(われわれは神聖なる歴史的使命を課せられた。)

B 日本語の持ち主の受身文に対し、中国語は直接対象の“被”構文で表現しなければ不自然な文になりがちである[34]。

C 中国語の因果関係を表わす受身文は日本語では受身文を用いない[35]。

中島（1993，1994）における受身表現の対照研究は受身文と“被动句”だけではなく、「語彙的受身」「意味上の受身」「自動詞文」などにも触れている[36]。中島のいわゆる「語彙的受身」は、中国語の“受”“挨”“得到”“带”“招”“惹”などの動詞を用いて受身の意を表わす表現である。その結果をまとめると次のようになる。

①日本語の受身文は、助動詞「(ラ) レル」のついた受身文を典型とし、その使用頻度は極めて高く、中国語の BEI 受身文の三倍を占める。自動詞文や語彙的受身等も周辺的受身として密接に関連するが使用頻度は低い。

②中国語の受身文は、受身表示形式“被”等のついた典型的な BEI 受身文から始まって、いわゆる意味受身文や存現文、形容詞文を含む自動詞文へと拡大され、更に、受身の意味がその動詞の語彙形式に依存するような語彙的受身へと大きく発達している 。

③中国語は文法形式が動詞の語彙形式に強く関係する言語なので、機械的に日中相互の受身文を対応させることはできない。実際、原文の受身文が中国語の典型的な BEI 受身文に対応することは少なく、その多くが他動詞能動文、自動詞文、語彙的受身等に対応する。

杉村(2003) では、直接受身文と間接受身文は日本語にも中国語にも存在するが、両言語で受身文を使用する要因が異なるため、日本語では直接受身文より間接受身文のほうが

---

[34]鄭暁青（1991:171）によると、中国語では次のような持ち主の受身文はごく自然という。“他终于被病魔夺去了生命。”（彼はついに病気で命を奪われた。）“老周这次又被他骗去了不少钱。”（周さんは今度また相当の金を彼女に騙し取られた。）“他被揭了伤疤大发雷霆。”（彼は弱点を暴かれて激しく怒った。）

[35]確かに、中国語の“他被石头绊了一跤。”（彼は石に躓いて転んだ。）のような因果関係を表わす「被」構文は日本語の受身文には訳しにくい。しかし、日本語の受身文に因果関係を表わせるものが存在しないわけではない。たとえば、「幾度か丑松はその音の為に驚かされた。」は因果関係を表わす受身文である。

[36]中島（1993:13-20)、中島（1994：1-9）を参照されたい。

優勢になるのに対して、中国語では逆であると指摘されている。また、杉村は日中受身文の形式上の特徴を対照しながら、日中受身文の意味上の動機の相違点を次のようにまとめている。

汉语倾向于以客观世界的施受关系作为使用被动句的语义动因,因此直接被动句发达,间接被动句不发达。而日语则倾向于以说话人的主观感受作为使用被动句的语义动因,因此直接被动句不发达,间接被动句发达。

（中国語では客観世界の施受関係を表すことが受身文を使う意味上の動機であるのに対して、日本語では話者の主観性を表すことが受身文を使う意味上の動機である。日中受身文にはそういう傾向がある。）

杉村（2003:73）

杉村によると、中国語では第一人称が受身文の“施事（動作主）”になることができるのに対して、日本語では第一人称が“施事”になることは少ない。また、中国語では施動性が弱い成分が受身文の“施事”になることができるのに対して、日本語はこういうことをあまり許さない。さらに、日本語には「主観影響性」を強調する間接受身文が中国語より多く、まとまった全体が受身文の主語になることが多いのに対して、中国語では全体の部分が受身文の主語になることが多いと言う。しかしながら、実際には、日本語受身文でも施動性の弱い成分が施事になることは少なくなく、中国語には客観世界の施受関係だけではなく主観影響性を表現する受身文も多数存在する。

一方、実例に基づいた研究については、葉青(2003)が日本語の受身文の特徴や意味を説明しながら、中国の大学日本語教材として使われている『新編日語』における受身文の分類法について分析し、日本語受身文の各種類と中国語の「被字句」との対応性を考察した。その結果は次の表 2－5 のようにまとめられる。しかし、葉青(2003)は日本語の例文を中国語に訳したときに受身文になるか否かしか考察しておらず、中国語の受身文と対応していない日本語の受身文がどのような中国語構文と対応しているかについては全く触れていない。

表 2－5　日本語受身文の各種類と中国語の「被字句」の対応状況

分　類		対応性	備　考
直接受身文	有情物主語の直接受身文	○	
	非有情物主語の直接受身文	×	被害でない場合
		△	被害である場合
間接受身文	自動詞受身文	×	一部分の動詞は対応できる
	持ち主の受身文	○	中国語は物でも主語になる
	目的語がつく間接受身文	×	対応する表現が存在しないものもある

（○：ほぼ対応；△：基本的には対応；×：ほぼ対応しない）

（葉青 2003:271）

藤田(1995)は、日本語の小説とその中国語訳、及び中国語の小説とその日本語訳を調査し、日本語の受身文とその中国語訳、中国語の受身文とその日本語訳でどちらも同じ受身文で表現される例は少なく、互いに異なった表現になることが多いと指摘している。例えば、日本語から中国語への翻訳では、受身文は能動文や使役文に訳されるのみならず「存現文」のようにその構造自体が変更されたり、意味上の受身文に訳されるものもあったという。また、日本語では受身文ではないのに対応する中国語では受身文になっている例、それとは逆に、日本語では受身文なのに中国語では受身文ではない例もあったと述べている。

姚莉萍(2002)は、受身文を直接受身、間接受身、持ち主受身に三分類した上で『中日対訳コーパス』を用い、日本語と中国語の受身文使用の分布、対応状況を分析した。その結果、日本語の直接受身文の主体が有情者である場合は中国語の「被」構文と対応することが多いが、その主体が無情物である場合には中国語の意味上の受身文に対応すること、一方、日本語の間接受身文、持ち主受身文はほとんど中国語の「被」構文に対応することを示した。

劉学敏（2007）も『中日対訳コーパス』を利用した日中受身文の対照研究であるが、動作主と対象が生命体であれば、日本語の受身文は中国語の受身文に訳すことができるという結論を出している。

飯嶋(2007)は、日本語の受動表現と中国語の対応関係を網羅的に研究したものであるが、研究対象は論説文の中の日本語受動表現に限られている。

李湘琴(2013)は、受身文の「被害」か「中立」かという意味的特徴、主語と動作主の有生性、自他動詞との関連などの要素を総合的に捉え、統一した視点から日中両言語における受身文の異同を整理した。その直接受身文の異同をまとめると表 2－6 になる。しかし、李湘琴の研究は、中国語の受身文として、受身マーカー“被 / 叫 / 让 / 给”を使う有標のものしか研究対象としていない。

表 2－6　李湘琴（2013）の対照研究のまとめ

<table>
<tr><th colspan="2">受身文の種類</th><th colspan="2">ファクター</th><th>日本語</th><th>中国語</th></tr>
<tr><td rowspan="9">直　接
受身文</td><td rowspan="5">[有＋有]型</td><td colspan="2">典型的な他動詞</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">感情動詞
心理動詞</td><td>被害の意味あり</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>被害の意味なし</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授受動詞</td><td>一般</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>特例：授与される</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">発話・思考動詞</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">[有＋無]型</td><td rowspan="2">心理動詞</td><td>一般</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>特例：感動する</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">働きかけ性のない動作主</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">[無＋有]型</td><td colspan="2">一人称動作主</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">一人称以外の動作主</td><td>一般</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>特例：作成動詞(抽象物主語)</td><td>○</td><td>×</td></tr>
</table>

	［無＋無］型	２つの無情物に包摂関係あり		○	○
		２つの無情物に包摂関係なし		○	×
	［無＋φ］型	動作主が 不特定多数か不明	被害の意味あり	○	○
			被害の意味なし	○	×
		内容の受身	と呼ばれる	○	○
			と言われる	○	×

（李湘琴 2013:90）

2.4 先行研究の問題点と本研究の立場

以上、受身文の分類、構文上と意味上の特徴を中心にして、日本語の受身文に関する研究、中国語の“被动句”に関する研究及び日中対照研究を概観した。受身文に関する研究は、日本語においても、中国語においても、膨大な蓄積がある。日本語と中国語の対照研究の立場からも、いろいろな側面から研究がなされてきたが、体系的に両言語の受身文の対応関係を概観するようなものは管見の限りまだ見られない。また、抽出例の出典は偏り、例文数も不足しており、相違点に関する考察、特にそれが生じる原因に関する考察は不十分であるという問題点も見られる。つまり、先行研究における問題点をまとめると次のとおりである。

①いろいろな側面から研究がなされてきたが, 体系的に両言語の受身文の対応関係を概観するようなものはまだ見られない。
②抽出した例文数が不足している。
⑤相違点に関する考察、特にそれが生じる原因に関する考察は不十分である。

日本語と中国語の受身文に関しては、「被害」か「中立」かという意味的特徴、主語と動作主の有生性、自他動詞との関連など、さまざまな要素が含まれており、いずれか一つの側面だけを見て受身文全体の記述をすることは不可能である。本研究では、体系的考察

を行い、受身文に関わるこれらの要素を総合的に捉え、両言語の異同点を明らかにしたうえで、両言語の相違が生じる原因も探りたい。

また、2.1.1 ですでに論じたように、本研究では先行研究を踏まえ、中日対訳コーパスから文学作品においてよく用いられる日本語受身文を取り出し、「直接受身」、「間接受身」と「持ち主受身」という三種類に分けた。そのうち、直接受身文は 2491 例、間接受身文は 247 例、持ち主受身文は 206 例である。本研究では、以下の理由で、2491 例の直接受身文を研究対象にする。

①直接受身文の主語は、有情物もあり、非情物もある。一方、間接受身文と持ち主受身文の主語は有情物に限られる。そのため、対照分析するとき、主語の有情・非情の違いについての分析が不可能である。

②直接受身文には動作主マーカーとして、「に」、「から」、「によって」が挙げられる。一方、間接受身文と持ち主受身文においては、「に」しか用いられない。そのため、対照分析するとき、動作主マーカーの違いについての分析が不可能である。

③直接受身文の意味は、被害、受益、中立という三種類に分けられるが、間接受身文と持ち主受身文は基本的に被害・迷惑の意味しか表さない。そのため、対照分析するとき、被害の意味の有無の違いについての分析は不可能である。

④中島（2007:99）が「一般に中国語の受身は日本語の直接受身に対応し、間接受身に対応する受身文はないというのが大方の見解である。特に自動詞の受身文は日本語だけにあり、中国語においては成立しないといわれている」と指摘したように、日本語の間接受身文は中国語の能動文、特殊構文にしか対応していない。そのため、日中受身表現の対応関係を体系的に記述する研究の一環として、日本語の直接受身文が中国語に訳される場合にいかなる表現として訳出されるのかを明らかにすれば、日中両言語の受身文の全貌を概観するのに資すると考えられる。

本研究では収集した 2491 例の直接受身文およびその対訳文を用いて、言語教育への実用化に向けた対照分析を行う。また、本研究は 1970、1980 年代から盛んになってきた認知言語学理論に準拠し、「パースペクティヴ」、「アクションチェーン」、「プロトタイプ理論」という観点からの考察を行う。本研究の成果は、日中両国の対訳、とりわけ日本語教育に応用できると考えられる。また、本研究をきっかけとして、日中両言語の言語表現の異同から認知方法の異同を理解することに役立つことも期待できる。

第３章　理論的枠組みと研究方法

本研究は、認知言語学的アプローチにより日中両言語における受身文の対照分析を行う。本章では、具体的な考察にあたって基盤とする認知言語学の理論的枠組みを概観し、本研究の研究方法を説明する。

3.1　理論の枠組み

文法的構文は、主語・目的語などの文法関係を含む節（clause）レベルの言語表現であり、特定の形式と意味を有するものと特徴付けられる。こうした節レベルの表現が表しているのはひとつの事態（event）であり、とりわけ話者がどのようにその事態を解釈したかがその文の意味にとって重要であることが、これまでの認知言語学的研究で示されてきている。本研究では、そうした事態概念に関わる言語事象―すなわち動詞および文法構文の意味について、体系的な分析を試みる。

この節では、具体的な現象の分析にあたって基盤とされる認知言語学の理論的枠組みを概観する。

3.1.1 認知言語学における「構文」分析

認知言語学では構文を言語形式と意味が慣習的に対になったもの（conventional association of linguistic form and content）と捉えており、「形式と意味の組み合わせ」を文法記述における基本単位としている。すなわち、構文そのものが、文中の動詞などの単語の意味から独立して意味をもつと考えるのである。この枠組みにおいては語用論的機能も排除されることなく構文の重要な要素として記述され、二つの構文の形式が異なればそれらの語用論的機能も異なると判断される。

Goldberg（1995）は、二つの構文の統語形式が異なる場合、両者は意味論的にも語用論的にも異なるとする「非同義性の原則（Principle of No Synonymy）」を提示している。ここで言う構文の意味とは文の真理条件のみを対象とする客観主義的意味論とは異なり、話し手が事態をどのように解釈し概念化したかという認知プロセスが大きく関与したものである。

従来の文法理論では、構文の形式面だけを扱い、構文を静的な統語の型のように捉える傾向があった。しかし、認知言語学では構文を形式と意味が語用論的知識や現実世界に対する知識をも含むダイナミックな構成体であると捉える。

3.1.2 事態解釈とパースペクティヴ

言語表現の意味とは、ただ単にその言語表現が喚起する概念内容を指すのではない。言語が喚起する概念内容と同様に重要なのは、それをいかに解釈するかである。認知言語学では、人間を通してみた外界認知の表れとしての言語を研究対象にしている。この立場から言うと、言語で表されている事態とは、人間から切り離された客観的な存在ではなく、五感を基礎とした身体感覚や種々の経験をもとにしたもので、個々人が数ある見方・切り取り方の一つを主体的に選び取ったものである。認知言語学で解釈と呼ばれるこの基本的な外界理解には、いくつかの特徴が見いだされる。たとえば、ある場面を捉える際、実際に何を捉えているかは、どの程度詳細に場面を観察しているか、場面の中から何を捉えようとして選択しているか、どの要素に最も注意を向けているのか、そして、場面をどこから見ているのかに依拠している。ロナルド・W・ラネカー（2011b）は、事態解釈の多様な側面を、詳述性（specificity)、焦点化(focusing)、際立ち(prominence)、パースペクティヴ(perspective)に区分する。これら４つは解釈現象の幅広い領域に関係しており、あらゆるドメイン内の概念にも適用することができる。つまり、パースペクティヴは、事態解釈にはたらく認知的特性の一つである。

辻（2002:98）によると、パースペクティヴ／視点という両者の用語は、厳密な区別なしで用いられる場合がある。こうした場合は、概略、主体である話し手が状況の解釈においてとる見解・立場の意である。たとえば、目と鼻の位置関係は、目を基点にすれば鼻は「目の下」にあるし、鼻を基点にすれば、目は「鼻の上」にある。つまり、基点をどこに据えるかという話し手の視点の取り方によってそのものの解釈が相対的に決定される。視点を変えることによって、同じ一つの状況でも違った描写が可能になる。そういう視点の取り方が表現に現れている事実を認知言語学では重視するのである。

したがって、一つの出来事を描写するとき、能動的な表現と受動的な表現どちらを用いてもいい。両者の違いの一つとして、視点の取り方の違いが挙げられる。

本研究の第 5 章では、この認知言語学における事態解釈に働く認知的特性の一つである

「視点」理論を援用し、受身文における主語と動作主について検討する。

3.1.3　カテゴリー化とプロトタイプ理論

われわれはある世界を解釈していく時、その世界を構成する対象のうち最も安定し認知しやすい事例に注目し、この種の事例に基づくカテゴリー化のプロセスを介して、与えられた対象世界を解釈していく。この人間の認知過程は、外部世界の一般的な解釈の問題だけでなく、言語現象の解釈の問題にもあてはまる。

カテゴリー化とは、事物や事象の同定（identification）や差異化（differentiation）を行い、共通性や関係性に基づき一般化（generalization）を通してまとめあげる認知活動を指し、重要な認知プロセスの一つである（辻 2002）。認知言語学でのカテゴリー化とは、さまざまな概念をグループにまとめるといった心的過程を指す。すべてのものごと、それが視覚、聴覚、触覚その他どのような感覚様式であろうと、我々はそれを情報として経験する時、何らかの分類、つまりカテゴリー化を行っていると考えられる。

カテゴリーと関連するもう一つの用語としての「プロトタイプ」は、あるカテゴリーの典型的なメンバーを指す。この術語はRosch（1975）の“FURNITURE”などの10のカテゴリーへの調査実験から名づけられたものである。これらの実験で、被験者からカテゴリーのメンバーの「メンバーらしさ」には程度の差があると認められ、また、10 の力テゴリーにはそれぞれプロトタイプ効果が出ていた。つまり、“每个范畴都有一些与其原型十分接近的中心成员，也有一些原理原型的边缘成员（各力テゴリーにはプロトタイプに近い中心的メンバーもあれば、プロトタイプから離れた周辺的メンバーもある）”（藍純 2005：25）という考え方である。そしてカテゴリーの成員が部分的に共通した特徴で相互に結びつく状況は家族的類似性（family resemblance）と呼ばれている。

プロトタイプ理論が誕生してから、語彙の多義性（上原 2002 など）、助詞の意味構造（森山 2008 など）、他動性（Lakoff 1977 など）、構文分析（堀 2005 など）など、言語学の諸分野においてそれが応用されてきた。

3.1.4　アクション･チェーン

我々は外部世界の事態（event）を表現するのに日常言語の構文を使う。構文によって

表現された事態には「本を読む」といった動態的な行為だけでなく、「この本はおもしろい」といった静態的な状態も含まれる。また、一つの構文によって表される意味には、事態の客観的な面だけではなく、話し手がそれをどのように解釈し概念化したかも反映されている。つまり、構文が表すのは一つの「事態概念」であるといえる。

Langacker（1990a）は、この事態概念を認知的に理想化して捉える一つのモデルとして「ビリヤードボール・モデル」を提案した。このモデルでは、外界の存在物がすべてボールのような物理的物体とみなされる。つまり、1 個のボールが外から力を加えられて移動し、別のボールに衝突することで力を伝達し、さらに力を伝達されたボールが移動を始め･･･といった具合に、力（エネルギー）のやり取りによってボールの運動が連鎖的に引き起こされる。このようなエネルギー伝達から成立する相互関係は事態概念の中で経験的に最も基本的なものと考えられる。

本来、エネルギー伝達のあり方は図 3-1 のようにネットワーク状である。しかし、その中で特に注目されるのは、エネルギーが一方向的に伝えられる非対称的な連鎖関係であり、Langacker はこれを「アクション・チェーン」と名付けている。

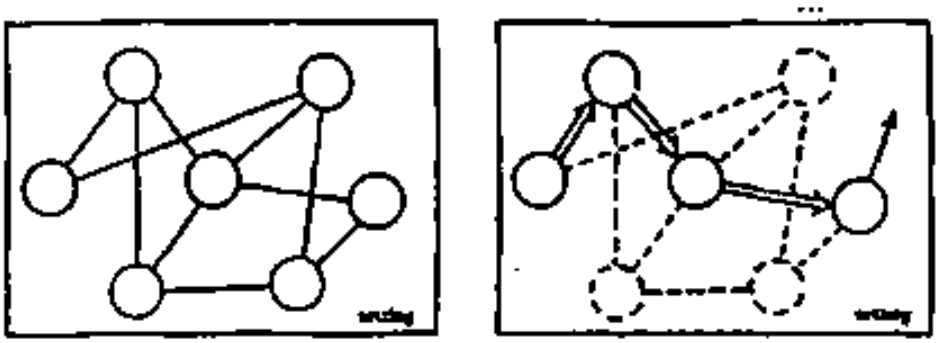


図 3－1　エネルギー伝達のあり方とアクション・チェーン

Langacker（1990a：219 ）

本研究は、この認知言語学の分野で用いられるアクション・チェーンという事態の解釈に関わる認知モデルを研究の基礎にする。このモデルは、動作主から受動者に対して何らかの働きかけがあり、その影響を受けて何らかの結果が生じたという他動的事態を想定し、以下の図 3－2 はその他動的事態を一般化したものである。

a. John broke the window.（ジョンは窓を壊した。）

b. John drove the car.（ジョンは車を運転した。）

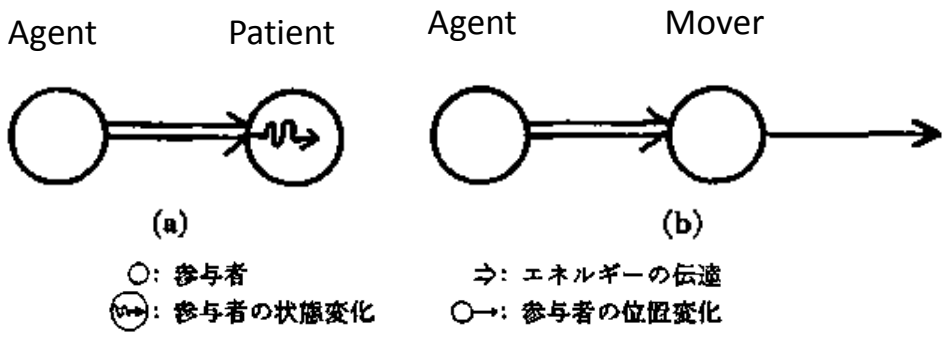


図 3－2　状態と位置の変化

（a）のように動作の対象物が状態変化を被る場合も、（b）のように対象物の空間的位置が変化する場合も、アクション・チェーンによる表示が可能であることが図 3－2 から分かる。

3.2 本研究の研究方法

3.2.1 データベース

本研究は実例研究を用いる。データとして取り扱ったのは北京日本学研究センター（2003）『中日対訳コーパス（第一版）』に収録された小説である。日本語小説は 22 冊あるが、年代別にそのうちの 10 冊を選択した。選択する際には、まず、原則的に、同じ作者の作品は 1 冊のみ、また、同じ年代の作品がある場合、その訳本の出版年の近いほうを選択した。その詳細は以下の表 3－1 を参照されたい。

表 3－1　本研究用例の出典[1]

日本語原文		中国語訳文	
小説名（発表年）	著者	訳本名（出版年）	訳者
高野聖（1900）	泉鏡花	高野圣僧（1990）	文洁若
蒲団（1907）	田山花袋	棉被（1987）	黄凤英
こころ（1914）	夏目漱石	心（1983）	周大勇
痴人の愛（1925）	谷崎潤一郎	痴人之爱（1988）	郭来舜、戴璨之
雪国（1937）	川端康成	雪国（1998）	叶谓渠
斜陽（1947）	太宰治	斜阳（1981）	张嘉林
あした来る人（1954）	井上靖	情系明天（1988）	林少华
金閣寺[2]（1956）	三島由紀夫	金阁寺（1995）	唐月梅
砂の女（1962）	安部公房	砂女（1997）	杨炳辰、王建新
ノルウェイの森（1987）	村上春樹	挪威的森林（2001）	林少华

3.2.2　収集方法

本研究では、日本語小説における日本語直接受身文とその中国語対訳文を研究対象にする。用例の収集方法は以下の通りである。

①日本語の「れ」をキーワードとして検索し、日本語原文およびその中国語対訳文をコーパスから抽出する。抽出例は図 3－3 の通りである。

[1]各章で使用する例文は、コーパスから取った用例である。なお、中国語対訳文については誤植や翻訳ミスがあるため、可能な限り原著に当たって修正した。
[2] コーパスには 70 年代の作品が収録されていないため、50 年代の作品を 2 冊選択した。

検索条件 = 候補語指定: 前単語(れ)

No	行番	あした来る人 (原文)	情系明天(訳文)
3	10	浜名湖の湖面には春の陽が散っているが、湖面の色も、湖の流れ方も寒々としている。まだ冬の感じである。湖面の海への切り口に、白い波濤が、これも冷たく砕けている。曾根二郎はちょっと考える風にしていたが、網棚の方へ手を伸ばして、重そうなリュックサックを降ろすと、それを肩にかけて歩き出そうとした。	浜名湖上、尽管春日阳光晃晃闪烁、但无论湖面的色调还是水的流姿、都显得冷气森森、给人以寒冬未尽之感。湖水入海口处、雪浪叠起、也是冷清清地栽下海去。曾根二郎沉吟片刻、把手伸向行李架、取下似乎重重的旅行背囊、挎在肩上。刚要迈步、忽听得有人叫他:
7	20	壜詰一本で決して自分が満足しないことを彼はよく知っている。酒が運ばれて来ると、トンカツを頼んだ。脂っこいものが好きである。曾根は何年か振りで見る東海道の風景と、前に坐っている麗人を観賞しながら酒を飲もうと思った。	曾根了解自己、一瓶是解不了酒瘾的。酒拿来后、便吩咐上炸猪排。他喜欢油腻食物。曾根打算一边喝酒、一边观赏窗外久违的东海道景致和眼前端坐的佳丽。

検索条件 = 候補語指定: 前単語(れ)

No	行番	こころ (原文)	心(訳文)
1	9	私はその人を常に先生と呼んでいた。だから此所でもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を憚かる遠慮というよりも、その方が私に取って自然だからである。私はその人の記憶を呼び起すごとに、すぐ「先生」と云いたくなる。筆を執っても心持は同じ事である。余所々々しい頭文字などはとても使う気にならない。	我常常把他称为先生、因此在这里也只写作先生、而不公开他的姓名。与其说这是顾忌人言可畏、不如说这样对我更自然一些。每当我唤起对他的记忆时、马上就想叫先生、拿起笔来心情也是一样。我不愿意使用那种冷冰冰的缩写字头。
5	13	宿は鎌倉でも辺鄙な方角にあった。玉突だのアイスクリームだのというハイカラなものには長い畷を一つ越さなければ手が届かなかった。車で行っても二十銭は取られた。けれども個人の別荘は其所此所にいくつでも建てられていた。それに海へは極近いので海水浴を遣るには至極便利な地位を占めていた。	宿店在镰仓也算处于偏僻的角落、要冲时髦打弹子或吃杯冰激凌不走过一条很长的田间小路是办得到。光坐车也得花两毛钱。不过、到处建了许多私人别墅、而且这地方离海很近、洗海水浴很方便。

検索条件 = 候補語指定: 前単語(れ)

No	行番	金閣寺 (原文)	金阁寺(訳文)

2	10	成生岬の寺の近くには、適当な中学校がなかった。やがて私は父母の膝下を離れ、父の故郷の叔父の家に預けられ、そこから東舞鶴中学校へ徒歩で通った。	成生海峡靠近寺院一带、没有一所象样的中学。所以不久以后我便离开双亲、寄居叔父家中、那里也是父亲的家乡。我就地升入了东舞鹤中学、每天步行往返。
4	12	五月の夕方など、学校からかえって、叔父の家の二階の勉強部屋から、むこうの小山を見る。若葉の山腹が西日を受けて、野の只中に、金屏風を建てたように見える。それを見ると私は、金閣を想像した。	比如说 5 月里、下午放学回来、正是傍晚、我在叔父家楼上的书房里望对面的那座小山。绿葱葱的半山腰上、夕阳把金光洒满了、就象是旷野中立下的一架金屏风、每逢望见它、我就联想起金阁。

図 3－3　「れ」の検索結果（一部）

②「これ」、「それ」、「けれども」、「なければ」、「離れ」などのような受身形ではない用例を排除し、また、文脈から判断された可能、自発、尊敬を表す用例も排除する。

③先行研究を踏まえ、収集した日本語受身文を以下の例に見られる「直接受身」、「間接受身」と「持ち主受身」の三種類に分類する。そのうち、直接受身文は 2491 例、間接受身文は 247 例、持ち主受身文は 206 例である。本研究では、2491 例の直接受身文を研究対象にする。

直接受身文：

ここに住むことになると、金閣は私の見るときだけ私の眼前に現われ、本堂で夜眠っているときなどは、金閣は存在していないような気がした。そのため、私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。　（金閣寺）

間接受身文：

また、逆もどり。阿佐ヶ谷から省線で立川行きに乗り、荻窪、西茨窪、駅の南口で降りて、こがらしに吹かれてうろつき 、交番を見つけて、チドリの方角をたずねて、それから、教えられたとおりの夜道を走るようにして行って、チドリの青い燈籠を見つけて、ためらわず格子戸をあけた。（斜陽）

持ち主受身文：

一同も多少のためらいはあったが、引っ張られるように、それについて行った。二台電車をやり過し、三台目に乗った。克平は背をアルさんに押されて、むりやりに詰め込まれた格好だった。（あした来る人）

第 4 章　直接受身文とその中国語対訳文の対照分析

第 3 章で述べたように、中日対訳コーパスから収集した日本語直接受身文は 2491 例である。具体的には、次のような例文がある。

a)私はさっき心にひらめいた一つの意味へ向って、確実に一歩々々近づいてゆくという喜びに再び襲われた。（金閣寺）

a)’喜びが私を襲った。

b)偉大な仕事というものは、常に曾根二郎のような素朴な人間によって、だれにも知られぬ片すみで、ひそやかに行われているものであろう。（あした来る人）

b)’曾根二郎のような素朴な人間は偉大な仕事を行っている。

c)僕の二十回目の誕生日の三日あとに直子から僕あての小包みが送られてきた。

（ノルウェイの森）

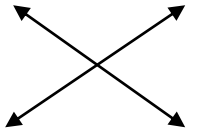
c)’直子が小包みを僕に送った。

d) 私は日ごろは温和な叔父からひどく叱責された。（金閣寺）

d)’叔父は私を叱責した。

以上の例文から見ると、直接受身文 a、b、c、d と能動文 a’b’c’d’は次のように対応していることが分かる。

能　動　文：　NP1　　が　　NP2　を V



直接受身文：　NP2　　が　　NP1　　に/によって/から　　V〈ら）れる

これから見ると、NP1 と NP2 が、出来事の二つの要素として、文の中に含まれている。a)～d）の例文では、動詞「襲う」、「行う」、「送る」、「叱責する」はそれぞれの目的語「私」、「仕事」、「小包み」、「私」を持っている他動詞である。また、収集した直接受身文に用い

られた動詞を見てみると、全部他動詞である。

また、例 a)’～d)’が示すように、直接受身文 a）～d）は、客観的に同じ事態を表す能動文を持っている。

直接受身文には、他動詞しか使えないため、通常動作主の対象への働きかけによって、対象が何かの影響を受けることを表している。a）のような場合、NP1「喜び」を表示するには、「に」という格助詞を用いているが、b)、c)、d）のような直接受身文には、NP1「曾根二郎のような素朴な人間」、「直子」、「叔父」が「によって」と「から」をもって提示されている。「によって」を用いるのは、先行研究が指摘するように、「人間は仕事を行う」のように何か生産物（具体的なモノと抽象的なモノ）が生じる動詞の場合、「に」ではなく「～によって」で表わすのが普通であるからである。また、c)、d）のような直接受身文には、動作主「直子」、「叔父」が「から」で表されるのは、対象「小包み」の移動する起点、言語活動「叱責する」の起点として解釈されるからであると考えられる。つまり、動作主マーカーとしては、「に」を用いるのが一般的だが、「によって」と「から」を用いるものもある。そのため、本研究では、以上の例文 a、b、c、d のような例を直接受身文と見なし、本研究の研究対象とする。

一方、収集した日本語直接受身文の中国語対訳文については、以下のように、能動文、受身文[1]、意訳[2]という三つのパターンに分類した。

①能動文に訳された用例：

「わたくしは、この犬、川辺さんの奥さまに頼まれまして、お預りしてあるんですが」

（あした来る人）

---

[1]劉ほか(1991)は、中国語の受身文は

次郎　被／叫／让／给　太郎　打　了。(次郎は太郎に殴られた。)

次郎　PM　太郎　殴る　PERF

のような受身を表すマーカー“被／叫／讓／給”などのある “被字句（「被」構文）”と

信　写好　了。(手紙が書かれた。)

手紙　書き終わる　PERF

のようなマーカーのない“意義被動句（意味上の受動文）”の 2 種類があると指摘し、本研究はそれに従い、対訳文の受身文を「被」構文と「意味上の受身文」に分けた。

[2]本稿における「意訳」とは、日本語の原文と構造をまったく異にしただ意味だけを対応させたもののみならず、日本語の受身文に対応するものが中国語に存在しない「不訳」、日本語の受身文に対応するものが中国語の形容詞文や名詞文、特殊動詞叙述文などであるものも含む。

“这狗， 是 川边太太 拜托 给 我， 寄养 在 这里的……”

この犬 である 川辺さんの奥さま 頼む prep 私 預ける prep ここ

②受身文に訳された用例：

だからこそ私はあなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。

（ノルウエィの森）

也正因如此、我 才 不愿 被 你 怨恨。如若 被 你 怨恨、

だからこそ 私 prep NEG 願う PM あなた 憎む もしも PM あなた 憎む

我 势必 真正 归于 土崩瓦解。

私 必ず 本当に なる バラバラ

③意訳された用例：

洛中洛外の古い寺々が、維新以後めったに焼かれなくなったのは、こういう教養の賜物だった。(金閣寺)

洛中海外的古刹 到 明治维新 以后 很少 发生 火灾。这 正该

洛中洛外の古い寺々 至る 明治維新 以後 めったに 発生する 火事 これ まさに

归功于 教育的 丰硕 成果。

おかげ 教育の 豊か 成果

その結果をまとめると次の表 4-1 のようになる。

表 4－1 日本語の小説における直接受身文とそれに対応する中国語表現

日本語原文	中国語の訳文							
	能動文		受身文				意訳	
			「被」構文		意味上の受身文			
2491	978	39.3%	821	32.9%	194	7.8%	498	20.0%

収集した日本語直接受身文と中国語対訳文の対応状況を見てみよう。表 4-1 が示すように、日本語受身文の 40.7%は、中国語でも受身文に訳されている。一方、その 39.8%は中国語の「能動文」に訳されている。

また、実際の用例を観察した結果、主格と斜格の有無によって、対応する中国語表現に相違が生じたという現象が見られた。したがって、収集した 2491 の日本語の用例をさらに「主格も斜格もあり」、「主格省略」、「斜格省略」の 3 種類に分類した。その結果をまとめると次の表 4-2 のようになる。

表 4－2　日本語の小説における直接受身文の再分類

日本語原文	中国語対訳文				合計
	能動文	受身文		意訳	
		「被」構文	意味上受身文		
主格も斜格もあり	397(39.9%)	393(39.5%)	14(1.4%)	191(19.2%)	995
主格省略	118(39.9%)	156(52.7%)	0(0%)	22(7.4%)	296
斜格省略	463(38.6%)	272(22.7%)	180(15%)	285(23.7%)	1200

表 4-2 から分かるように、能動文との対応率は、3 種類の原文にはほぼ差がない。一方、受身文との対応率を見てみると、「斜格省略」の日本語原文の 15%は、中国語の意味上の受身文と対応しており、ほかの 2 種類より圧倒的に多い。また、「主格省略」の日本語原文と中国語の「被」構文との対応率もほかの 2 種類より明らかに高い。

以下において、この直接受身文およびそれに対応する中国語訳文との対照分析を行う。

4.1「主格も斜格もあり」の受身文

4.1.1 能動文に訳された場合

前掲の表 4－2 から分かるように、995 例の主格も斜格もある日本語受身文のうち、中国語の能動文と対応しているのは 397 例(39.9%)である。この 397 例をさらに主格名詞の有情、非情によって再分類し、結果をまとめると次の表 4－3 のようになる。

表 4－3　能動文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文

能動文に訳された直接受身文	主格名詞が有情物		主格名詞が非情物	
	斜格名詞が有情物	斜格名詞が非情物	斜格名詞格が有情物	斜格名詞が非情物
397	99(24.9%)	17(4.3%)	166(41.8%)	115(29%)

表 4－3 に示したように、能動文に訳された直接受身文は次の四種類に分けられる。

①主格名詞も斜格名詞も有情物

例：私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。（金閣寺）

②主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物

例：熱病にかかった子供が、冷たい銀紙にくるまれる夢をみたというような、詩を読んだことがあったっけ。（砂の女）

③主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物

例：焔は黒光りのする柱を透かして、私に見られていることを意識して、やさしく身づくろいをするように思われた。（金閣寺）

④主格名詞も斜格名詞も非情物

例：もうそんな寒さかと島村は外を眺めると、鉄道の官舎らしいバラックが山裾に寒々と散らばっているだけで、雪の色はそこまで行かぬうちに闇に呑まれていた。（雪国）

4.1.1.1　主格名詞も斜格名詞も有情物である場合

収集した397例のうち、主格名詞も斜格名詞も有情物である用例は99例（24.9%）である。次の用例を見てみよう。

5)そのため、私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。

（金閣寺）

5)’ 为此　我 一日中 总要　望　上　几次　金阁。

そのため　私　一日中　いつも　眺める COMP　何度　金閣

朋辈们　都　笑　我　痴。

朋輩たち　皆　笑う　私　ばかばかしい

6)怪しい話だとたかをくくっていたが、一時間ほどして女が女中に連れられて来ると、島村はおやと居住いを直した。（雪国）

6)’ 岛村 认为　这话　不可靠、　根本 没有　把　它　放　在　心上。约莫

島村　思う　この話　NEG 信憑性ある　全然　NEG　prep それ　置く prep 心の中　約

过　了 一个钟头、女佣 把　女子　领来、　岛村　不禁　一愣、正了正 坐姿。

過ぎる PERF　一時間　女中　prep　女 連れて来る　島村　思わず　驚く　直す　居住む

7)「わたくしは、この犬、川辺さんの奥さまに頼まれまして、お預りしてあるんですが」

（あした来る人）

7)’“这狗，　是　川边太太　拜托　给　我，　寄养　在　这里的……”

この犬　である　川辺さんの奥さま　頼む　prep　私　預ける　prep　ここ

8)「母さんになんて育てられません。わたし、お父さまに育てられましたわ。そう思っております」（あした来る人）

8)’“不是　母亲 养育的 我，　而是 您　这位 父亲，我　就这样　认为。”

conj　母親　育てる　私　conj あなた　この　父親　私　このように　思う

用例の対訳文を見てみると、例 5)’、6)’、7)’、8)’のいずれも原文の斜格である「朋輩の徒弟たち」、「女中」、「川辺さんの奥さま」、「母さん、お父さま」が主語に立てられ、能動文に訳されている。また、述語動詞を見てみると、例 5）の「笑う」と例 8）の「育てる」は一般動作動詞[3]、例 6）の「連れる」は位置関係動詞（移動の意味を表す）、例 7）の「頼む」は言語活動動詞である。さらに、文の意味[4]から見ると、例 8)は受益、例 6)、7)は中立、例 5)は被害の意味を表している。結果を整理すると、表 4-4 のとおりになる。

表 4-4　主格名詞も斜格名詞も有情物である直接受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 5	人（特定）[5]	人（特定多数）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害
例 6	人（特定）	人（特定）	位置関係動詞（空間的移動）	中立
例 7	人（特定）	人（特定）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	中立
例 8	人（特定）	人（特定）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	受益

[3]本研究では、先行研究を踏まえ、日本語直接受身文の述語動詞として用いられる動詞を一般動作動詞（対象の変化あり、対象の変化なし）、生産動詞、位置関係動詞（放置、空間的移動、相対的位置変化）、授受動詞、心理動詞（状態心理、知覚活動、思考活動）、言語活動動詞（内容への言及なし、内容への言及ある）という六種類に分けた。その詳細は第 6 章を参照されたい。

[4]本研究では、収集された日本語直接受身文の意味を「次郎が太郎に殺された」のような被害、「私はその人から鄭寧に先生の出先を教えられた」のような受益、「石段の下方は影に包まれている」のような中立という三種類に分けた。

[5]国立国語研究所編の『分類語彙表』には、日本語の名詞が「抽象的関係」、「人間活動主体」、「人間活動−精神および行為」、「生産物および用具物品」、「自然ものおよび自然現象」という五種類に分類されている（国立国語研究所（1964：11-16））。本研究では、その分類を参考し、収集した 2491 例の直接受身文における主語と動作主を以下のように分類する。

有情物：人間：私、島村、川辺さんの奥さま、先生、朋輩の徒弟たち・・・
　　動物：鯛、熊、子犬・・・
非情物：体の一部：背中、指先、両手、先生の口・・・
　　人間活動：寂しさ、恐怖、喜び、声音、質問、空襲の火・・・
　　自然現象：雨、風、雪、陰、地震、火事、潮・・・
　　物（具体的）：自動車、銀紙、砂の隆起、白粉・・・
　　物（抽象的）：生活、理論・・・

4.1.1.2　主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物である場合

この種類の用例は 17 例あり、全体の 4.3%を占めている。以下の用例の対訳文を見てみると、いずれも能動文であるが、例 9)’、10)’は原文の斜格「冷たい銀紙」、「喜び」が主語に立てられているのに対して、例 11)’、12)’は原文の主格名詞「自分」、「男、女」が主語に立てられている。(この例 11)’、12)’は中国語の動詞叙述文[6]であり、この場合は能動文であると考えられる。) また、述語動詞を見てみると、例 9) の「くるむ」は相対的位置変化の意味を表す位置関係動詞、例 10) の「襲う」は一般動作動詞、例 11) の「押し流す」は移動の意味を表す位置関係動詞、例 12) の「くどく」は言語活動動詞である。さらに、文の意味から見ると、例 9)、10)は受益、例 11) 、12)は中立の意味を表している。

9)熱病にかかった子供が、冷たい銀紙にくるまれる夢をみたというような、詩を読んだことがあったっけ。　(砂の女)

9)’似乎　读　过　这样的 诗，得　了　热病　的 孩子 梦见　了　冰凉的
たぶん　読む PERF　こんな　詩　かかる PERF　熱病　の　子供　夢見る PERF　冷たい
银纸 包裹 住　了　自己。
銀紙　包む COMP PERF　自分

10)花崗岩質の砂を踏んで、波打際へむかって歩くあいだ、私はさっき心にひらめいた一つの意味へ向って、確実に一歩々々近づいてゆくという喜びに再び襲われた。(金閣寺)

10)’当　脚下　踩　着 花冈岩质的细砂　走　向　岸边 时、一种 切实　逼近
prep 足元　踏む PROG　花崗岩質の砂　歩く 向かう　岸辺　時　一種　確実　近づく
先前 曾在　心中　闪现的 那一意义的喜悦　再一次 向　我　袭来。
先　すでに　心の中　閃く　その意味の喜び　再び　向かう　私　襲ってくる

[6]劉ほか(1991:549)により、動詞述語文とは、動詞を述語とする文で、主に人・事物の動作・行為や心理活動、変化・発展等を述べるのに用いられる。

11)自分はただもう無力であって、駒子の力に思いのまま押し流されるのを快いと身を捨てて浮ぶよりしかたがなかった。(雪国)

11)’他　感到　自己　已经　没有力气，只好 任凭　駒子的力量 随意　推 动，

彼　感じる　自分　すでに　NEG ある力　ただ　そのまま　駒子の力　恣意　押す COMP

愉快地　让　身体 飄飄然　浮　起来。

愉快的　させる　体　漫ろ　浮かぶ COMP

12)男だろうと、女だろうと、理論にくどかれる奴なんているわけがない。(砂の女)

12)’男的 也　好，女的　也　好，　没有　人　会　听信　理论。

男の人 も　いい　女の人　も　いい　NEG ある 人　prep 信じる　理論

以上の用例を整理すると表 4-5 のとおりになる。

表 4-5　主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物である直接受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 9	人（特定）	物（具体的）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	受益
例 10	人（特定）	人間活動	位置関係動詞（相対的位置変化）	受益
例 11	人（特定）	人間活動	位置関係動詞（空間的移動）	中立
例 12	人(不特定)	物（抽象的）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	中立

4.1.1.3　主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である場合

この種類の用例は 166 例あり、全体の 41.8%を占めている。具体的に見てみると、いずれも能動文に訳されているが、例 13)、14)、15)の主格名詞「孤独」、「ここの生活」、「遭

難」が対訳文の目的語になり、例 16)の対訳文は原文の主格名詞「焔」を主語に立ている動詞叙述文になっている。(この用例は擬人法を用いている。) 例 13) は「破る」という一般動作動詞、例 14) は知覚活動動詞「知る」、例 15) は言語活動動詞「伝える」、例 16) は「見る」という知覚活動動詞である。さらに、文の意味から見ると、例 14)は被害、例 13)、例 15)、16)は中立の意味を表している。

13)「寂しき人々」のヨハンネスと共に、家妻というものの無意味を感ぜずにはいられなかった。これが――この孤独が芳子に由って破られた。(布団)

13)’跟 《孤寂的人们》中 的 约翰奈斯 一样，他 感到 妻子 没有意思。

prep 「寂しき人々」 中 の ヨハンネス 同じ 彼 感じる 妻 無意味

芳子 却 来 打破 了 这种 孤独感。

芳子 conj 来る 破る PERF この 孤独感

14)だって、そうじゃないか、現にあんたは、ここの生活が、外部に知られると困ると言った……(砂の女)

14)’难道 不是 吗? 刚才 你 说， 外面的人 知道 了 这里的事

まさか NEG である MOD 先 あなた 言う 外部の人 知る PERF ここの事

会 惹 麻烦的……

conj かける 迷惑

15)…大貫氏はそれを目当てにして登って行ったものだが、氏の遭難は、その先発登山者のうちの一人に依って営林署巡回員に伝えられたものである。 (あした来る人)

15)’大贯氏 就 以 此 为 目标 往 上 攀去。 最后 还是

大貫氏 conj prep それ prep 目標 向かう 上 登っていく 最後 やはり

一名 先行登山者 把 他 遇难的消息 通知 了 营林署巡山员。

一人 先発登山者 prep 彼 遭難のこと 伝える PERF 営林署巡回員

16)焔は黒光りのする柱を透かして、私に見られていることを意識して、やさしく身づくろいをするように思われた。　（金閣寺）

16)’火苗　已　　意识到、 穿透　黑亮的柱子、 便　可以　让　我　看　到

焔　すでに　意識する　透かす　黒光りの柱　　conj できる　prep 私　見せる COMP

它　　妩媚的身影。　故而　　正在那　忸怩作态。

その焔　なよやかな姿態　　その為　　PROG　　身づくろいをする

結果を整理すると表 4-6 のとおりになる。

表 4-6　主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である直接受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 13	人間活動	人（特定）	一般動作動詞 （対象を変化させる）	中立
例 14	物（抽象的）	人（不特定多数）	知覚活動動詞	被害
例 15	人間活動	人（特定）	言語活動動詞 （内容に言及しない）	中立
例 16	物（具体的）	人（特定）	知覚活動動詞	中立

4.1.1.4　主格名詞も斜格名詞も非情物である場合

この種類の用例は 115 例あり、全体の 29%を占めている。用例の対訳文を見てみると、例 17)’～20)’いずれも原文の斜格である「砂の隆起」、「雨」、「空襲の火」が主語に立てられ、能動文に訳されている。また、述語動詞を見てみると、例 17）の「さえぎる」は相対的位置変化の意味を表す位置関係動詞、例 18)の「刺す」と例 19）の「叩く」は一般動作動詞であるが、文全体の意味から分かるように、動作主が対象に働きかけても、対象自体の変化は捉えられない。一方、例 20）の「焼き亡ぼす」は他動性が強く、対象を

変化させるが、このような例はこの一例しかない。さらに、文の意味から見ると、例 20)は被害の意味を表している以外、いずれも中立の意味を表している。

17)迷いながら、振返ってみると、さいわい火の見は小高い砂の隆起にさえぎられて、視界から切れている。(砂の女)

17)’他　迟疑 了，　回头　　一看，幸好　　小沙丘　　挡住　了　望哨，

彼　迷う PERF　振り返る　見る　　幸い　小高い砂の隆起　さえぎる PERF　火の見

遮断　了　那边的　视线。

切れる PERF　向こうの　視線

18)波が動揺しながらふくらんで砕けようとするあいだにも、その不安な水面は、間断なく雨に刺されている。(金閣寺)

18)’即使是 黑浪　膨胀着来、 碎裂着去　的 转瞬之间、急雨　　也

たとえ　黒波　膨らんでくる　砕けていく　の　　瞬間　　間断なく雨　やはり

不放过　　这　不安的水面、　鞭笞 着　　它。

NEG 見放す　この　　不安な水面　　刺す PROG　その水面

19)海景は何も見えなかった。波と、濡れている黒い石と、雨だけがあった。油をかけられた柩は、艶やかな木の肌の色をして、雨に叩かれていた。(金閣寺)

19)’这里、见不到　什么 海景。只有　波涛、湿漉漉的　　黑石 和 雨。

ここ　見る NEG　何か　海景　　ただ　波　　濡れる　黒い石　と　雨

雨水　打　在　浇　　了　油的 灵柩上、上面的木纹　显得 益发　清晰光艳。

雨水　叩く prep かける PERF　油の　柩の上　　その木紋　見える　益々　鮮やか

20)しかし、やがて金閣は、空襲の火に焼き亡ぼされるかもしれぬ。このまま行けば、金閣が灰になることは確実なのだ。(金閣寺)

20)’不过、说不定　兵燹　　真的会　毁掉　金阁。如果　　照　目前这个样子

しかし　たぶん　空襲の火　本当に　亡ぼす　金閣　　もしも　よる　今のこの様子

发展 下去、金阁　灰飞烟灭　也　　指日可待 了。

発展していく　金閣　灰になる　やはり　間近くなる PERF

結果を整理すると次の表 4-7 のとおりになる。

表 4-7　主格名詞も斜格名詞も非情物である直接受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 17	物(具体的)	物(具体的)	位置関係動詞（相対的位置変化）	中立
例 18	物(具体的)	自然現象	一般動作動詞 (対象の変化なし)	中立
例 19	物(具体的)	自然現象	一般動作動詞 (対象の変化なし)	中立
例 20	物(具体的)	人間活動	一般動作動詞 (対象の変化あり)	被害

4.1.2　受身文に訳された場合

中国語の受身文は受身を表すマーカー(被／叫／譲／給)のある “被字句(「被」構文)” とマーカーのない “意義被動句（意味上の受動文)” との二種類がある。表 4-2 に示したように、「主格も斜格名詞もあり」直接受身文が中国語の受身文に訳された場合、「被」構文が 393 例、意味上の受身文が 14 例である。

4.1.2.1「被」構文に訳された場合

中国語の受身文というと、まず「被」字文が思い出される。これが最も典型的な受身文であると言える。「被」のほかに、「叫」、「譲」、「給」、「由」なども受身マーカーであると言われている。本稿は劉他(1991)に従い、受身マーカーのある文を総じて「被」構文と言うことにする。

表 4-2 から分かるように、この種の用例は 393 例である。つまり、対訳文のうち、39.5%は、日本語と同じく主格名詞が主語に立てられ、訳されている。

21)だからこそ私はあなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。

（ノルウエィの森）

21)’也正因如此、我　才　不愿　被　你　怨恨。如若　被　你　怨恨、

だからこそ　私　prep　NEG 願う　PM　あなた　憎む　もしも　PM　あなた　憎む

我 势必　真正　归于　土崩瓦解。

私　必ず　本当に　なる　バラバラ

22)今度は老師の荒々しい怒りを、雷のような大喝を待った。殴打され、蹴倒され、血を流す羽目になっても悔いないだろうと私は思った。(金閣寺)

22)’这次 我　只　等 着　老师　暴跳如雷　了。我　想　即使

今度　私　ただ　待つ PROG　老師　荒々しく怒る PERF　私　思う　たとえ

被　他　打、　被　他　踢、　鲜血直流 也　不后悔。

PM　彼　殴打する　PM　彼　蹴倒する　血だらけ　も　NEG 後悔する

23)翌日、もとの運転手の松山さんにお伴をたのんで、お母さまは、お昼すこし過ぎにおでかけになり、夜の八時頃、松山さんに送られてお帰りになった。　(斜陽)

23)’第二天 母亲　请 从前的司机 松山先生　陪伴、　刚　过　中午 就

翌日　母親　頼む　元の運転手　松山さん　伴にする　ちょうど　過ぎる　昼　conj

去　了、晚上　八点多　由 松山先生　送　了　回来。

行く PERF　夜　八時過ぎ　PM　松山さん　送る　PERF　帰りになる

以上の用例を見てみると、いずれも主格名詞も斜格名詞も有情物である。また、例 21)の述語動詞「憎む」は状態心理動詞、例 22)の「殴打する」、「蹴倒する」は一般動作動詞、例 23)の「送る」のは空間的移動の意味を表す位置関係動詞である。さらに、文の意味から見ると、例 21)、22)は被害、例 23)は中立の意味を表している。

24)あの晩どこかの酒場で曾根はカジカの踊りをやり、それからそこを出て、この友達と別れた直後、梶の自動車にはねられたのである。(あした来る人)

24)’那天晚间，曾根　在 一家 酒巴　跳罢　　杜父鱼舞，　出门 同 这位朋友

あの夜　曾根　prep 一軒　酒場　踊り終わる　カジカの踊り　出る　と　この友達

分手后　不久　就　被　梶大助的汽车　撞　上　了。

別れる後　直後　conj PM　梶大助の自動車　はねる COMP　PERF

25)しかし目の前の蜻蛉の群は、なにか追いつめられたもののように見える。暮れるに先立って黒ずむ杉林の色にその姿を消されまいとあせっているもののように見える。

(雪国)

25)’但是、　眼前的 一群　蜻蜓、像是　被　什么　追逐　着　似的。

しかし　目の前の　一群　蜻蛉　まるで　PM　何か　追いつむ PROG　みたいだ

仿佛　急于抢在 夜色 降临、 杉林的幽黑　　吞没　它的身影 之前　飞走。

まるで　急ぐ　夜　来る　杉林の黒ずむの色　吞む　その姿　の前　飛んで行く

26)容貌もKの方が女に好かれるように見えました。性質も私のようにこせこせしていないところが、異性には気に入るだろうと思われました。(こころ)

26)’容貌 也　好像　是　K 比较 让 女人 喜欢，脾气 又　不似　我那样

容貌　も　らしい である　K　より　PM　女　好く　性質　も　NEG 似る　私のよう

拘束小气，　这　也　好像　是　异性 所　较　合意的　吧。

こせこせする　これ　やはり　らしい である　異性　prep　より　気に入る　MOD

27)曾根は自分の領分である魚が決して鳴かないことを思った。そこには同じように恋愛も愛欲の悩みもあるであろうが、一切がさっぱりと潮に洗われた。(あした来る人)

27)’他　想起　来，作为　自己 研究课题的杜父鱼　是　绝对　不叫的。

彼 思い出す COMP　として　自分　研究課題のカジカ　である　絶対　NEG 鳴く

它们　固然　也　有　恋爱 以至 情欲的苦恼，但　那　一切　都

カジカ　無論　も　ある　恋愛　至る　愛欲の悩み　しかし　その　一切　すべて

被　潮水　一冲而尽。

PM　潮　流し尽くす

例 24）～27)を見てみると、それぞれ主格名詞が有情物、斜格名詞が非情物である用例、主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である用例、主格名詞も斜格名詞も非情物である用例である。また、例 24)の述語動詞「はねる」は一般動作動詞、例 25)の「追い詰める」は空間的移動を表す位置関係動詞、例 26)の「好く」は状態心理動詞、例 27）の「洗う」は一般動作動詞である。さらに、文の意味から見ると、例 24)、25)は被害の意味を表しているが、例 26)、27)は受益の意味を表している。

「被」構文に訳された直接受身文の特徴を整理すると、表 4-8 のとおりである。

表 4-8　「被」構文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 21	人（特定）	人（特定）	状態心理動詞	被害
例 22	人（特定）	人（特定）	一般動作動詞 （対象の変化あり）	被害
例 23	人（特定）	人（特定）	位置関係動詞（空間的移動）	中立
例 24	人（特定）	物（具体的）	一般動作動詞	被害
例 25	動物	物（抽象的）	位置関係動詞（空間的移動）	被害
例 26	体の一部[7]	人（不特定）	状態心理動詞	受益
例 27	物（抽象的）	自然現象	一般動作動詞 （対象の変化あり）	受益

[7]本研究では、「克平は背をアルさんに押されて、むりやりに詰め込まれた格好だった。」のような「体の一部」である「背」がヲ格をとる場合、持ち主受身文と見なし、「容貌もKの方が女に好かれるように見えました。」のような「体の一部」がハ格/ガ格をとる場合、直接受身文と見なす。

4.1.2.2 意味上の受身文に訳された場合

前述したように、中国語には受身マーカーのない「意味上の受身文」がある。構文上、この意味上の受身文は動作の対象を主格の位置に置き、述語をその語に置くという形になる[8]。（斜格が文中に現れる場合は、主格の後に置かれる。）収集した意味上の受身文に訳された直接受身文は 14 例（1.4%）であるが、主格名詞はすべて非情物である。

28)足を掻いていた女が、呼ばれた犬のように顔をあげた。その丸い、すこし腫れたような顔は、童画風の鮮やかさで、白粉と紅に隈取られていた。（金閣寺）

28)’不断　挠脚　的 女人 像　　听到　唤叫的 狗　一样　　仰　起　脸来，
続く　掻く足 の　女　まるで　聞こえる　呼ぶ　　犬　みたいに　あげる COMP　顔
她　那 圆圆的　稍有些 虚肿的 脸，儿童画般　鲜艳，扑满　了　白粉。
彼女 その　丸い　ちょっと　腫れる　顔　童画みたい　鮮やか　みたす　PERF　白粉

29)その夜の開枕前に、老師宛に東京から電報が届き、それが早速、寺中の者に披露されたのである。（金閣寺）

29)’还　因　深夜 开枕时，东京　给　老师　打来　电报，
また　原因　深夜　開枕時　東京　prep　老師　打ってきた　電報
电文　迅速　传　开　了。
電報　早速　伝える COMP　PERF

30)延暦寺は元亀二年に灰燼に帰した。建仁寺は天文二十一年に兵火に罹った。三十三間堂は建長元年に焼亡した。本能寺は天正十年の兵火に焼かれた。……（金閣寺）

30)’元龟 2 年，延历寺　化为灰烬；天文 21 年，建仁寺　毁　于　兵燹；
元亀 2 年　延暦寺　帰す灰燼　天文 21 年　建仁寺　亡ぼす　prep　兵火
建长元年，三十三间堂　烧毁；天正 10 年，本能寺　烧毁　于　兵燹…。
建長元年　三十三間堂　焼き亡ぼす　天正 10 年　本能寺　焼き亡ぼす prep　兵火

[8]劉他(1991:641)を参照されたい。

用例 28）～30)を見てみると、例 28)の述語動詞「隈取る」は一般動作動詞、例 29)の「披露する」は言語活動動詞、例 30）の「焼く」は他動性の強い一般動作動詞である。また、文の意味から見ると、例 28)と例 29)は中立の意味、例 30)は被害の意味を表している。「意味上の受身文」に訳された直接受身文の特徴を整理すると、次の表 4-9 のとおりになる。

表 4-9　意味上の受身文に訳された「主格も斜格もあり」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 28	体の一部	物（具体的）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	中立
例 29	物(具体的)	人（特定）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	中立
例 30	物(具体的)	人間活動	一般動作動詞 （対象の変化あり）	被害

4.1.3 まとめ

本節では「主格も斜格もあり」の直接受身文及びその対訳文の対照分析を行った。その結果は以下の表 4-10 にまとめたとおりである。

表 4-10 から分かるように、中国語の能動文と対応する場合、まず、主格名詞が人の場合、述語動詞は対象の変化がない動作動詞か、内容に言及しない言語活動動詞か、位置関係動詞であるである。また、文の意味も受益、中立を表しているものが多い。一方、主格名詞が人以外の場合は、一般動作動詞（対象の変化あるもの、ないもの)、知覚活動動詞、等々、様々の動詞が用いられており、意味は中立、被害が多い。

一方、中国語の「被」構文と対応した場合は、他動性が強く、対象を変化させる一般動作動詞がよく直接受身文の述語動詞として用いられる。最後に、中国語の意味上の受身文に訳された直接受身文は、主格名詞がすべて非情物であり、文の多くが中立的意味を表わすという特徴を持っている。

表 4-10　「主格も斜格名もあり」の直接受身文及びその対訳文の特徴

<table>
<tr><th>原文
訳文</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="15">能
動
文</td><td rowspan="3">人
（特定）</td><td rowspan="3">人
（特定）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>受益</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td>人
（特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人
（特定）</td><td>物
（具体的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="2">受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間活動／
物（抽象的）</td><td>位置関係動詞</td></tr>
<tr><td>人
（不特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人間活動／
物（抽象的）</td><td>人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>人（不特定）</td><td>知覚活動動詞</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>物（具体的）</td><td>知覚活動動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="3">物
（具体的）</td><td rowspan="3">物（具体的）
／自然現象</td><td>位置関係動詞（相対的位置変化）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>被害</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="9">受身文</td><td rowspan="7">「被」構文</td><td rowspan="5">人（特定）</td><td rowspan="3">人（特定）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td rowspan="4">被害</td></tr>
<tr><td>状態心理動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（具体的）</td><td rowspan="2">一般動作動詞
（対象の変化あり）
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>動物</td><td>物（抽象的）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td rowspan="3">物
（抽象的）</td><td>人（不特定）</td><td>状態心理動詞</td><td rowspan="2">受益</td></tr>
<tr><td>物（具体的）
／自然現象</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">意味上の受身文</td><td rowspan="3">物
（具体的）</td><td>物（具体的）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>人間活動</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>被害</td></tr>
</table>

4.2「斜格省略」の受身文

コーパスから収集した用例から見ると、斜格が明示されない、つまり「斜格が不明確、または不問」という用法が一番多い。また、その対訳文を見ると、「斜格名詞省略」の 1200 例のうち、中国語の受身マーカーを用いない「意味上の受動文」）に訳されたのが 180 例(15%)であり、「主格も斜格もあり」や「主格省略」の場合より明らかに多い。

表 4－11　日本語の小説における受身文

日本語原文	中国語対訳文				合計
	能動文	受身文		意訳	
		「被」構文	意味上受身文		
主格も斜格もあり	397(39.9%)	393(39.5%)	14(1.4%)	191(19.2%)	995
主格省略	118(39.9%)	156(52.7%)	0(0%)	22(7.4%)	296
斜格省略	463(38.6%)	272(22.7%)	180(15%)	285(23.7%)	1200

4.2.1　能動文に訳された場合

4.2.1.1　原文の主格が訳文の主語に立てられている場合

31)先生の返事が来た時、私は一寸驚ろかされた。ことにその内容が特別の用件を含んでいなかった時、驚ろかされた。(こころ)

31)’接　　到　先生　回信 的 时候，我　稍微有些 吃惊。 尤其　因为　信里
もらう COMP　先生　返事　の　時　　私　ちょっと　驚く　　特に　原因　手紙の中
没有写着　什么　特别的事情。
NEG 書く　　何か　特别なこと

32)やがて私は父母の膝下を離れ、父の故郷の叔父の家に預けられ、そこから東舞鶴中学校へ徒歩で通った。(金閣寺)

32)’不久以后 我　便　　离开　双亲，寄居　叔父家中，那里　也　　是　父亲的家乡。
やがて　　私　conj　離れる　両親　預ける　　叔父家中　　そこ　　も　である　父の故郷
我　就地　　升入　了　　东舞鹤中学，　毎天　步行　往返。
私　そこから 入学　PERF　　東舞鶴中学校　　毎日　　徒歩　　往復

例 31)も例 32)も主格が「私」、斜格が明示されていない受身文である。対訳文を見てみると、原文の主格である「私」が主語に立てられているが、文は能動文である。日本語原文と同様に、文全体は主語の状態や様子を述べており、「中立」の意味を表している。また、例 31)の述語動詞は「驚く」という状態心理動詞、例 32)の「預ける」は一般動作動詞である。

4.2.1.2　文脈から判断された斜格を補い、訳文の主語として立てている場合

33)ところが、ある日、時雄は芳子に宛てた一通の端書を受取った。英語で書いてある端書であった。何気なく読むと、一月ほどの生活費は準備して行く、あとは東京で衣食の職業が見附かるかどうかという意味、京都田中としてあった。時雄は胸を轟かした。平和は一時にして破れた。晩餐後、芳子はその事を問われたのである。(布団)

33)’有一天，时雄拿到了寄给芳子的一张明信片，是用英语写的。他漫不经心地看了看，来信人说已经准备了一个月左右的生活费，接着问在东京是否能找到可以糊口的职业。署名是京都田中。时雄心中为之一怔，平静的生活一下子被搅乱了。

晚饭后，他　向　芳子　问　起　这件事。

晚餐後　彼　向かう　芳子　問う　COMP　この事

34)私は想像してもぞっとする。先生はそれでなくても、冷たい眼で研究されるのを絶えず恐れていたのである。(こころ)

34)’这是　只要 想象　一下，也会　吓得　使　我　打一寒噤的。因为

これ　ただ　想像する COMP　やはり　驚く　させる　私　ぞっとする　原因

尽管　人家　不是　这样，　先生　也是　不断地　担心　着

にもかかわらず　人々　NEG である　この様　先生　やはり　続く　心配する PROG

人家　会用　冷静的眼光 去　研究　他。

人々　prep　冷たい眼　prep　研究する　彼

35)「それから金を受け取ってもらおう。あいにく、僕は午後外出しなければならぬ。争議の調停を頼まれてね」。(あした来る人)

35)’“你　　只管　来　取　　钱　就是。不过　我 午后　　必须要

あなた　ただ　来る　受け取る　金　COMP　しかし　私　午後　なければならぬ

外出，　别人 托　我　调解　纠纷。”

外出する　他人　頼む　私　調停する　争議

36)杏子は、八千代の洋服生地を探すつもりで店を出た。・・・・・・日本劇場の前まで行った時、杏子はふいに声をかけられた。「山名さん」ひどく大きい声である。

（あした来る人）

36)’杏子　走出 店，　准备　　去　物色　八千代的衣料。・・・・・・

杏子　出る　店　　準備する　行く　探す　八千代の洋服生地

走到　日本剧场门前，忽然　听到　　有人 扯着大嗓门 叫道：“山名小姐!”

到着　日本劇場の前　　突然　聞こえる　ある人　大きな声　呼ぶ　　山名さん

以上の用例を見てみると、例 33)’には斜格“他（彼）”が主語に立てられ、「彼は芳子に聞く」という能動文に訳されている。このように、中国語の訳文は日本語の原文に斜格は明示されてはいないものの、文脈から判断された斜格を補い、訳文の主語に立てており、「主語+動詞+目的語」という能動文の構成に組み換えている。一方、34)’、35)’、36)’も、34)、35)、36)の原文に全く存在しない“人家（人々）”、“别人（他人）”、“有人（ある人）”を補い、「人々は先生を研究する」、「他人が私に頼む」、「ある人が声をかける」という能動文である。

また、用例の述語動詞を見てみると、例 33）の「問う」も例 35)の「頼む」も例 36）の「声かける」も言語活動動詞であり、例 34）の「研究する」は対象の変化がない一般動作動詞である。さらに、文の意味では、例 33)、34)は被害、例 35)、36)は中立の意味を表している。

4.2.1.3　訳文に主語がない場合

37)二人の恋の許可不許可も問題に上ったが、それは今研究すべき題目でないとして却けられ、当面の京都帰還問題が論ぜられた。（布団）

37)’是否　同意　两人的爱情，这　虽然　是　个　问题，但　并不是

や否や　賛成する　二人の恋　これ　けれども　である　一つ　問題　しかし　NEG である

眼下 值得　研究的题目，因而　被　搁 在一边，眼下 主要　讨论　回

今　値する　研究の題目　その為　PM　却ける COMP　今　主に　論じる　戻る

京都的　事。

京都　ということ

38)芍薬も十坪あまり一面に植え付けられていた。が、まだ季節が来ないので花をつけているのは一本もなかった。　（こころ）

38)’一块　十坪多一点儿的　地方上、种　满　了　芍药、可是　没到

一面　十坪あまりの　ところ　植える COMP　PERF　芍薬　しかし　NEG 来る

季节、一株 开花　的 也　没有。

季節　一本　咲く　の　も　ない

39)我々がテーブルに座ると、何も言わないうちに朱塗りの四角い容器に入った日変りの弁当と吸物の椀が運ばれてきた。（ノルウェイの森）

39)’我们 在　桌旁边　坐　定、还未　等　开口、就　端　上　了　两个

我々 prep　テーブル　座る COMP　まだ　待つ　言う　conj 運ぶ COMP PERF　二つ

四方形红漆容器、里边　放　着　每日一换 的　盒饭 和　一碗　汤。

四角い朱塗り容器　その中　入れる PROG　日替わり　の　弁当　と　一茶碗　吸物

例 37)、38)、39)も中国語の能動文に訳されている用例である。例文中に示されているように、中国語の訳文 37)’、38)’、39)’では、主語は明示されていないが、「（主語）＋動詞＋目的語」という、能動文の語順になっている。訳文に主語がないのは、日本語原文と同様に、主格名詞がコト、あるいは物である場合、斜格が人間であることが判断でき、また斜格名詞が特定人物であっても、それが誰か不明であるためからであると思われる。文全体としては、動作そのものかその動作の結果に焦点が置かれていると考えられる。また、用例の述語動詞を見てみると、例 37）の「論じる」は言語活動動詞、例 38)の「植える」は一般動作動詞、例 39）の「運ぶ」は空間的移動の意味を表す位置関係動詞である。

さらに、文の意味では、いずれも中立の意味を表している。

本節の分析結果は次の表 4-12 にまとめたとおりである。

表 4-12　能動文に訳された「斜格省略」の直接受身文の特徴

<table>
<tr><th>原文
訳文</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="2">原文の主格が訳文の主語に立てられている</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>状態心理動詞</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">文脈から判断できる動作主を補って主語に立てている</td><td rowspan="3">人（特定）</td><td>人（特定）</td><td rowspan="2">言語活動動詞
（内容への言及あり）</td><td>被害</td></tr>
<tr><td>人（不特定）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>人
（不特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="4">訳文には主語がない</td><td>人間活動</td><td>人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及あり）</td><td rowspan="4">中立</td></tr>
<tr><td rowspan="3">物（無形）
／植物</td><td rowspan="3">人（不特定）</td><td>一般動作動詞</td></tr>
<tr><td colspan="2">位置関係動詞（空間的移動）</td></tr>
</table>

4.2.2　受身文に訳された場合

中国語の受身文は受身を表すマーカーのある “被字句（「被」構文）” とマーカーのない “意義被動句（意味上の受動文）” との 2 種類がある。表 4-11 に示したように、「斜格省略」の直接受身文が中国語の受身文に訳された場合、「被」構文が 272 例（22.7%）、意味上の受身文が 180 例（15%）である。

4.2.2.1 「被」構文に訳された場合

40)僕は九月になって大学が殆んど廃虚と化していることを期待して行ってみたのだが、大学はまったくの無傷だった。図書館の本も掠奪されることなく、教授室も破壊しつくされることはなく、学生課の建物も焼け落ちてはいなかった。(ノルウェイの森)

40)’我 本来 盼望 校园9月份 一举 报废 才好，不料 到 校
私 本来 望む 大学 9月 一気に 廃虚と化する いい 思いがけず 着く 学校
一看，居然 完好无缺。图书馆的书 没 被 掠夺，教授室 未 被 破坏，
見る 意外にも 無傷 図書館の本 NEG PM 掠奪する 教授室 NEG PM 破壊する
学生科的办公楼 未 被 烧毁。
学生課の建物 NEG PM 焼き亡ぼす

41) ひとは互いにおびえ、あらゆる思想が姦せられ、努力は嘲笑せられ、幸福は否定せられ、美貌はけがされ、光栄は引きずりおろされ、所謂「世紀の不安」は、この不思議な一語からはっしていると僕は思っているんです。(斜陽)

41)’人 相互 感到 戒惧，一切 思想 都 遭到 亵渎，所有 努力 都
人 互いに 感じる 怯える 一切 思想 すべて 遭う けがす すべて 努力 すべて
受到 嘲笑，幸福 被 否定，美貌 被 糟踏，名誉 被 玷辱，所谓
受ける 嘲笑 幸せ PM 否定する 美貌 PM けがす 名誉 PM けがす 所謂
“世纪之不安”，我 认为 都是 由 这一句 奇怪的话 引 起 的。
「世紀の不安」 私 思う すべて prep この一句 不思議な言葉 引く COMP

42)自分ひとりだけ置き去りにされ、呼んでも叫んでも、何の手応えの無いたそがれの秋の曠野に立たされているような、これまで味わった事のない凄愴の思いに襲われた。
(斜陽)

42)’我 像是 黄昏 时 被 孤独地 遗弃 在 秋天的旷野里，怎么 呼喊
私 まるで 黄昏 時 PM 孤独的 置き去る prep 秋の曠野 どんなに 叫ぶ
都 没有用， 一种 从未尝到 过的 凄怆 感觉 不由得 涌上 心头。
すべて NEG 手応え 一種 NEG 味わう PERF 凄愴 感覚 思わず 湧く 心の中

43)「ねえ、私たち反革命なのかしら?」と教室を出てから緑が僕に言った。「革命が成就したら、私たち電柱に並んで吊されるのかしら?」。(ノルウェイの森)

43)' "噢，我们　怕　是　反革命 吧？"走出　教室　后 绿子　对　我

MOD　私たち　恐らくである　反革命　MOD　出る　教室　後　緑子　対して　私

说。"一旦　革命　成功，　我们　难保　不会　被　吊　到

言う　一旦　革命　成功する　私たち　請け合えない　NEG　PM　吊るす prep

电线杆 上去，　嗯？"

電柱　COMP　MOD

44)「恋愛というようなものは、だまし合いみたいなところがあるからな。現在の立場では、君の方が、結局だまされる方に回るだろう」(あした来る人)

44)' "因为 恋爱　这种东西，有　一种　互相　欺骗的 成份。 就　眼下 情况　看，

原因　恋愛　このもの　ある 一種　互いに　騙す　成分　prep　今　状況　見る

你　怕是要 成为　被　欺骗的 一方。"

あなた　恐れも　成る　PM　だます　方

以上は中国語の「「被」構文」に訳された用例である。受身マーカー「被」の意味はもともと動詞としての「被」の意味「蒙る、意外な遭遇」から発展してきたものであるため、劉月華他(1991)で、「「被」構文は、主語からみて不愉快或いは被害的な事柄を表すのに用いられるのがほとんどである[9]」と指摘されているように、中国語の「被」構文は、不幸や不愉快を表すのが一般的である。原文の 40) ～44) はいずれも「被害」の意味を表しているため、中国語の「被」構文と対応できる。

また、述語動詞を見てみると、例 40) の「掠奪する・破壊する」は対象の変化がある一般動作動詞、例 41)の「姦する・嘲笑する・否定する・けがす・引きずりおろす」は、対象の変化がない一般動作動詞、例 42)の「置き去る」は放置の意味を表す位置関係動詞、例 43)の「吊るす」は空間的移動の意味を表す位置関係動詞、例 44)の「騙す」は言語活動動詞である。

[9]劉月華他(1991:643)を参照されたい。

さらに、次の用例を見てみよう。

45)「これも知ってる、あれももう知ってる、うんもう全部わかったってさ。そういう人なんだよ。そういう人は世間では尊敬されるのさ」。(ノルウェイの森)

45)’“说 什么　这个 也　懂，那个 也　晓得，没一个　不明白的。他　就是
言う COMP　これ　も　知る　あれ　も　知る　NEG 一つ　NEG 分かる　彼　である
这样的人，而　这样的人 才　会　在　社会上　被　人　尊敬。”
こういう人　conj こういう人 conj できる prep　社会　PM　人々　尊敬する

46)女はやはり生れはこの雪国、東京でお酌をしているうちに受け出され、ゆくすえ日本踊の師匠として身を立てさせてもらうつもりでいたところ、・・・(雪国)

46)’女子　却 意外 坦率地 谈起 自己　也　是　生长　在　这个雪国，
女　逆に　意外　素直に　言う　自分　も　である　育てる prep　この雪国
在　东京的酒馆　当　女侍 时 被　人　赎身　出来，本　打算　将来
prep　東京の居酒屋　する　お酌　時　PM　人　受け出す COMP　本来　つもり　将来
做　个　日本舞蹈师傅 用以　维持　生计，……
する 一人　日本踊の師匠　perp　維持する　生活

47)一旦堅く括られた私の行李は、何時の間にか解かれてしまった。(こころ)

47)’一度 被 捆　得 结结实实的我的　行李，不记得 在什么时候　已经　打开 了。
一旦　PM　括る COMP　丈夫　私の　行李　NEG 覚える　いつか　すでに　解く PERF

用例 45)～47)も中国語の「被」構文に訳されている用例である。文の意味を見てみると、例 45)、例 46) は受益、例 47)は中立の意味を表わしている。受益の意味を表す日本語受身文が中国語の「被」構文と対応している用例はわずか 9 例しかなく、しかもすべて主格名詞が有情物である受身文である。一方、中立の意味を表す受身文が中国語の「被」構文と対応している用例は 53 例あり、その多くの主格名詞は非情物である。この受益／中立の意味を表す用例は被害の意味を表わす用例に比べると数がかなり少ない。

「被」構文に訳された「斜格省略」受身文の特徴を整理すると、次の表 4-13 のとおりになる。

表 4-13　「被」構文に訳された「斜格省略」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 40	物（具体的）	人（特定多数）	一般動作動詞 （対象の変化あり）	被害
例 41	人間活動	人（不特定多数）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害
例 42	人（特定）	人（不特定）	位置関係動詞（放置）	被害
例 43	人（特定）	人（不特定多数）	位置関係動詞（移動）	被害
例 44	人（特定）	人（特定）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	被害
例 45	人（特定）	人（不特定多数）	状態心理動詞	受益
例 46	人（特定）	人（不特定）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	受益
例 47	物（具体的）	人（不特定）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	中立

4.2.2.2　意味上の受身文に訳された場合

意味上の受身文に訳されている「斜格省略」の直接受身文を、さらに、主格名詞が有情物か非情物かによる分類すると表 4-14 のとおりになる。

表 4-14　意味上の受身文に訳された「斜格省略」受身文の主格名詞分類

原文の主格 訳　　文	有情物	非情物
意味上の受身文	3（1.7%）	177（98.3%）

つまり、意味上の受身文に訳された用例は 180 例あるが、そのうち「主格名詞が有情物」、すなわち人や動物の用例はわずか 3 例しかない。

48) 日蓮の生れた日に、鯛が二尾磯に打ち上げられていたとかいう言伝えになっているのです。　（こころ）

48)’相传在日莲诞生那天，有　两尾 鲷鱼　打上　了　海岸。

ある　二尾　鯛　打ち上げる PERF　海岸

49) 座敷の中をぐるぐる廻らなければいられなくなったのです。檻の中へ入れられた熊の様な態度で。（こころ）

49)’我耐不住在房间里绕着圈儿走个不停，有如　狗熊　关　在　了　笼子里。

まるで　熊　閉じ込める COMP　PERF　檻の中

50) 見ると、なるほど、窓際の小さい卓の上に、果物の空かごに赤いリボンで縛られた子犬が坐っていた。　（あした来る人）

50)’一看，果然，　那条 小狗 系　着　红结，　蹲　在　窗口边

見る　やはり　その　子犬　縛る PROG　赤いリボン　うずくまる prep　窓側

小桌上的　空果篓　里。

小さい卓上の　空かご　中

以上の 3 例のほか、中国語の意味上の受身文に訳されている例文の主格名詞はすべて非情物である。次の例文を見てみよう。

51)玄関の戸が内からひらかれた。もうかなりの、五十歳を超したくらいの、頭の禿げた小柄なおじさんが、派手なパジャマを着て、へんな、はにかむような笑顔で私たちを迎えた。(斜陽)

51)’大门　从　里边　打开　来。一个年近六十的秃顶矮老头穿着一身华丽的睡衣、
玄関の戸　から　内　開く　COMP
脸上露着奇怪的害羞笑容出来迎接我们。

52)新発見にしても、新学説の樹立にしても、過去に、もし同種の研究が発表されていれば、それは新発見とも新学説とも言えない。(あした来る人)

53)’新发现也好、新学说的确立也好、倘若　过去　已　有　同类　研究成果
もし　過去　すでに　ある　同種の　研究成果
发表、　就　不能　称　之　为　新发现、新学说。
発表する　conj　NEG できる　呼ぶ　それ　である　新発見　新学説

53)革命は、いったい、どこで行われているのでしょう。すくなくとも、私たちの身のまわりに於いては、古い道徳はやっぱりそのまま、みじんも変らず、私たちの行く手をさえぎっています。　(斜陽)

53)’革命　究竟　在 哪里 进行 着　呢？至少在我们身边、旧道德仍旧毫无改变、
革命　いったい prep どこ　行う PROG　MOD
还在拦住我们的去路。

この例 51)、52)、53)は、いずれも主格名詞が非情物、斜格名詞が有情物である用例であるが、例 51)の述語動詞「ひらく」は一般動作動詞、例 52)の「発表する」は言語活動動詞、例 53) の「行う」は生産動詞である。また、文の意味から見ると、みな中立の意味を表している。

「意味上の受身文」に訳された直接受身文の特徴を整理すると、次の表 4-15 のとおりになる。

表 4-15　意味上の受身文に訳された「斜格省略」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 48	動物	自然現象	位置関係動詞（空間的移動）	中立
例 49	動物	人（不特定）	位置関係動詞（放置）	被害
例 50	動物	人（不特定）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	中立
例 51	物 （具体的）	人（不特定）	一般動作動詞 （対象の変化あり）	中立
例 52	人間活動	人（不特定）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	中立
例 53	人間活動	人（不特定多数）	生産動詞	中立

4.2.3　まとめ

本節では、「斜格省略」の直接受身文及びその対訳文の対照分析を行った。その結果は次の表 4-16 にまとめたとおりである。

この表 4-16 から分かるのは、まず、明示されていない斜格の多くは不特定な人であることである。日本語はこの不特定な斜格を省略した受身文が中国語に訳されると、日本語の原文に明示されていない動作主が訳文の主語として補うまでして能動文に訳している用例が少なくない。また、中国語の「被」構文と対応した場合、他動性の強い述語動詞を用いており、「被害」の意味を表わすことが重要である。さらに、日本語の主格名詞が非情物である受身文、また「斜格省略」受身文は、特に、中国語の意味上の受身文の特徴（つまり、主格名詞が一般的に「非情物」であり、文が「中立的」意味を表わすこと）に近いため、中国語に訳すときには、意味上の受身文がよく用いられる。

表 4-16　「斜格省略」の受身文及びその対訳文の特徴

<table>
<tr><th colspan="2">原文
訳文</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="7">能動文</td><td rowspan="2">訳文①[10]</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>状態心理動詞</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">訳文②</td><td rowspan="4">人（特定）</td><td>人（不特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="2">被害</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td rowspan="3">言語活動動詞
（内容への言及あり）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人（不特定）</td><td rowspan="3">中立</td></tr>
<tr><td rowspan="3">訳文③</td><td>物（抽象的）</td><td>人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（抽象的）
／植物</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">受身文</td><td rowspan="9">被構文</td><td rowspan="5">人（特定）</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>位置関係動詞（放置）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="3">受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（不特定多数）</td><td>状態心理動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="3">位置関係動詞（空間的移動）</td><td rowspan="6">被害</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td>人間活動</td><td>人（不特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（具体的）</td><td>人（特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>中立</td></tr>
</table>

[10]ここの「訳文①」、「訳文②」、「訳文③」はそれぞれ「原文の主格が訳文の主語に立てられている場合」、「文脈から判断できる斜格を補って主語に立てている場合」、「訳文には主語がない場合」を指す。

<table>
<tr><td rowspan="6"></td><td rowspan="6">意味上の受身文</td><td rowspan="2">動物</td><td rowspan="4">自然現象／人（不特定）</td><td>位置関係動詞</td><td rowspan="6">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">物（具体的）／人間活動</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（不特定多数）</td><td rowspan="2">生産動詞</td></tr>
<tr></tr>
</table>

4.3「主格省略」の受身文

最後に、「主格省略」受身文を見てみよう。表 4-17 から分かるように、「主格省略」受身文の用例はほかの 2 種類「主格も斜格もあり」、「斜格省略」と比べると極めて少ないが、中国語の「被」構文との対応率はほかの 2 種類より明らかに高い。また、中国語の意味上の受身文に訳された用例が皆無であるのも特徴のひとつである。

表 4－17　日本語の小説における受身文

日本語原文	中国語対訳文				合計
	能動文	受身文		意訳	
		「被」構文	意味上受身文		
主格も斜格もあり	397(39.9%)	393(39.5%)	14(1.4%)	191(19.2%)	995
主格省略	118(39.9%)	156(52.7%)	0(0%)	22(7.4%)	296
斜格省略	463(38.6%)	272(22.7%)	180(15%)	285(23.7%)	1200

4.3.1　能動文に訳された場合

前節で述べた「斜格省略」の直接受身文では中国語の能動文と対応している用例を「原文の主格が訳文の主語に立てられている場合」、「文脈から判断できる斜格を補って主語に立てている場合」、「訳文には主語がない場合」という 3 種類に分けたが、収集した「主格省略」の直接受身文の用例を見てみると、能動文に訳されている 118 の用例は、例外なく、原文で省略された主格を文脈から判断し、補って文の目的語として立てている。

54)ただ、前のお家の西山さんのお嫁さん、といってももう四十くらいのおばさんだが、そのひとにだけは、びしびし叱られた。(斜陽)

54)’只有　一个人 严厉地 叱责 我，就是　对面　那家西山先生的小媳妇，
ただ　一人　厳しく　叱る　私　である　向こう　その西山さんのお嫁さん
说　是　小媳妇，实际上　是　个　四十左右　的　大婶　了。
言う　である　お嫁さん　実際に　である　一人　四十歳ぐらい　の　おばさん　MOD

55)叔父の家から二軒へだてた家に、美しい娘がいた。有為子という名である。目が大きく澄んでいる。家が物持のせいもあるが、権柄ずくな態度をとる。みんなにちやほやされるにもかかわらず、一人ぼっちで、何を考えているのかわからないところがあった。(金閣寺)

55)’同叔父只隔两家的一户街坊有个美丽的姑娘，名叫有为子。她长着一双水灵灵的大眼睛。也许是家中富有的缘故，为人十分傲气。
尽管　家里　十分　宠　她，至今　却　仍　待字闺中，
にも拘らず　家族　とても　ちやほやする　彼女　今まで　逆に　まだ　NEG 結婚する
孤单单的，不知她心里在想些什么。

56)「好きな方でしょうな。そう沢山は飲まないが。―自動車とぶつかった時は、確かに酔っ払っていました。大学の教授をしている友達に銀座を引っぱり回されたんです」。
(あした来る人)

56)’“算是吧。倒也喝不太多。不过撞到汽车上时，确实喝得酩酊大醉了。

一位　在　大学　当　教授 的 朋友　拉　我 在 银座 挨门逐户 喝 个不休。”
一人　prep 大学　やる　教授　の　友達　引っぱる　私 prep 銀座　次々　飲む　COMP

57)少年時代から、人に理解されぬということが唯一の矜りになっており、ものごとを理解させようとする表現の衝動に見舞われなかったのは、前にも述べたとおりだ。私は何ら斟酌なく自分を明晰たらしめようとしていたが、それが自己を理解したいという衝動から来ていたかどうか疑わしい。（金閣寺）

57)’如我在前面所说，我从小便以不被人理解为唯一的骄傲，
想　去　理解　事物 那种　表现的冲动　也 从未 光顾　过　我。
たい　COMP 理解する　物事　その　表現の衝動　も　NEG 見舞う PERF　私
即或有时我也想弄清楚自己，但这是否来自试图理解自己的冲动尚值得怀疑。

58)駒子の叫びは島村の身うちを貫いた。葉子の腓が痙攣するのといっしょに、島村の足先まで冷たい痙攣が走った。なにかせつない苦痛と悲哀とに打たれて、動悸が激しかった。（雪国）

58)’驹子的尖叫，直刺岛村的心。叶子的腿肚子在抽搐。与此同时，岛村的脚尖也冰凉得痉挛起来。
一种 无以名状的　痛苦和悲哀　侵袭 了　他，使得他的心房激烈地跳动着。
一種　言えない　苦痛と悲哀　襲う PERF　彼

用例を見てみると、例 54)’では省略された“我（私）”が目的語に立てられ、「そのひとは私を叱る」という能動文に訳されている。このように、中国語の訳文は日本語の原文内に主格は記されてはいないものの、文脈から判断される主格を補って目的語に立て、「主語+動詞+目的語」という能動文の構成に組み換えている。例 55)’、56)’、57)’、58）も同様に、“她（有為子）”、“我（私）”、“我（私）”、“他（島村）”を補って目的語に立てており、「家族は彼女をちやほやする」、「友達は私を引っぱる」、「衝動は私を見舞う」、「苦痛と悲哀は彼を襲う」という能動文にしている。また、用例の述語動詞を見てみると、例 54)の「叱る」と例 55）の「ちやほやする」は言語活動動詞、例 57）の「見舞う」と例 58）の「打つ」は対象の変化がない一般動作動詞、例 56）の「引っぱり回す」は空間的移動を表す

位置関係動詞である。さらに、文の意味では、例 55)は受益、例 54)、56)、57)、58）は被害の意味を表している。

以上の分析結果は次の表 4-18 にまとめたとおりである。

表 4-18　能動文に訳された「主格省略」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 54	人（特定）	人（特定）	言語活動動詞 （内容への言及なし）	被害
例 55	人（特定）	人（不特定多数）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	受益
例 56	人（特定）	人（特定）	位置関係動詞（空間的移動）	被害
例 57	人（特定）	人間活動	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害
例 58	人（特定）	人間活動	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害

4.3.2　受身文に訳された場合

前掲の表 4-17 が示すように、「主格省略」の受身文が中国語の受身文に対応している用例は 156 例あるが、意味上の受身文に訳された用例は一例もなく、全部「被」構文に訳されていた。

59）私は心のうちで、父と先生とを比較して見た。両方とも世間から見れば、生きているか死んでいるか分らない程大人しい男であった。<u>他に認められる</u>という点からいえば何方も零であった。（こころ）

59)’我暗暗把父亲和先生作了一番比较。从社会的角度来看，两个人都是生死无足轻重的老实人。在　　是否　<u>被</u>　<u>人</u>　<u>重视</u>　这一点上，他们俩又都是得的零分。

prep かどうか　PM　人　認める　この点上

60) 私はまだその後にいうべき事を有っていた。けれども奥さんから徒らに議論を仕掛ける男のように取られては困ると思って遠慮した。(こころ)

60)’本来 我 还 有 话 要说。但是 想到 可能会 被 太太 当作 跟 她

本来 私 まだ ある 話 言う しかし 思う たぶん PM 奥さん 思う conj 彼女

高谈阔论 的 人，那可 不妙， 因此 有所 顾虑。

議論を仕掛ける の 人 それ NEG 良い そのため ある 気兼ね

61) その噂でも師匠さんは聞き込んだのでしょう。でも、桜の園のロパーヒンみたいに私どもに思われているのではたまらないと、すっかりお機嫌を悪くした様子で、あと、世間話を少ししてお帰りになってしまいました。(斜陽)

61)’艺术家大概听到了这个传闻吧。不过他感到自己要是像《樱桃园》里罗巴辛那样

被 我们 看待 可受不了，于是显得情绪很不好，闲聊了一会就走了。

PM 私ども おもう たまらない

62)「馬鹿な女」「仕様のない奴だ」と、思えば思うほど尚意地悪くその美しさに誘惑される。これは実に私に取って不幸な事でした。(痴人の愛)

62)’“愚蠢的女人”、“毫无办法的东西”，我越是这样以为，便越

被 她 那 不怀好意的 美色 所 诱惑。对我来说，这真是一件不幸的事。

PM 彼女 その NEG 好意の 美しさ prep 誘惑する

63) だが、出しつけない声は、いかにもかぼそく、弱々しかった。おまけに、途中で砂に吸われ、風に吹きちらされて、どこまでとどくものやらも心もとない。(砂の女)

63)’叫喊不出的声音变得又细又弱。 声音 半道 被 沙 吸入， 被 风 吹散，

声 途中 PM 砂 吸い込む PM 風 吹き散らす

所以 根本就 吃不准 那叫喊声 究竟 能 送到 哪里。

そのため まったく NEG 分かる その叫び 一体 できる 届く どこ

以上は中国語の「「被」構文」に訳された用例である。原文の例 59）が受益の意味を表している以外、60）～63）はいずれも「被害」の意味を表している。これは前述したように、中国語の「被」構文が不幸や不愉快を表すというのと一致している。

また、述語動詞を見てみると、例 59）の「認める」と例 61)の「思う」は内容に言及しない思考活動動詞、例 60)の「取る」、例 62)の「誘惑する」は対象の変化を捉えない一般動作動詞である。例 63)の「吸う」と「吹き散らす」は元々空間的移動の意味を表す位置関係動詞であるが、文脈から見ると、ここでは対象を変化させる一般動作動詞であると考えられる。

「被」構文に訳された「主格省略」の受身文の特徴を整理すると、次の表 4-19 のとおりになる。

表 4-19　「被」構文に訳された「主格省略」の受身文の特徴

例文	主格名詞	斜格名詞	述語動詞	文の意味
例 59	人（特定）	人（不特定）	思考活動動詞 （内容への言及なし）	受益
例 60	人（特定）	人（特定）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害
例 61	人（特定）	人（特定）	思考活動動詞 （内容への言及なし）	被害
例 62	人（特定）	物事（抽象的）	一般動作動詞 （対象の変化なし）	被害
例 63	物(抽象的)	物（具体的） 自然現象	一般動作動詞 （対象の変化あり）	被害

4.3.3　まとめ

本節では、「主格省略」の直接受身文及びその対訳文の対照分析を行った。その結果は次の表 4-20 にまとめられるとおりである。

表 4-20　「主格省略」の受身文及びその対訳文の特徴

<table>
<tr><th>原文
訳文</th><th>主格名詞</th><th>動作主</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="4">能動文</td><td rowspan="4">人（特定）</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容に言及なし）</td><td rowspan="3">被害</td></tr>
<tr><td>位置関係動詞（空間的移動）</td></tr>
<tr><td>物（抽象的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>受益</td></tr>
<tr><td rowspan="4">受身文</td><td rowspan="4">人（特定）</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td rowspan="3">被害</td></tr>
<tr><td>思考活動動詞
（内容に言及なし）</td></tr>
<tr><td>物（抽象的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>思考活動動詞
（内容に言及なし）</td><td>中立</td></tr>
</table>

この表 4－20 から分かることは、対応する中国語が能動文であれ受身文であれ、日本語の「主格省略」の直接受身文で省略された主格の 9 割以上は特定の人であるということである。この特定の人の指示対象を具体的に見てみると、1 人称主語が 191 例（64.5%）、2 人称主語が 19 例（6.4%）、3 人称主語が 81 例（27.4%）であった。一方、例 63）のように抽象的なモノの主格名詞が省略されたものは 5 例しかなかった。つまり、日本語の「主格省略」の直接受身文の特徴は、人称代名詞が主格の場合、そのほとんどが表示されなくなるという点にある。

また、「主格省略」の直接受身文が中国語の能動文に対応する場合には、日本語の受身文で表示されなかった主格が文脈から推定され、対応する中国語能動文の目的語として明示されるという特徴も確認された。

一方、「主格省略」の直接受身文が中国語の受身文に対応する場合はすべて「被」構文となり、意味上の受身文に対応したものは１例もなかった。この結果は、中国語の意味上の受身文が「主語は多く特定のものである 」という構文の特徴を持つことに因ると思われる。すなわち、それは、「主格省略」の直接受身文の主語が示す「特定の人間」という特徴と中国語の意味上の受身文の主語が示す「特定のもの」という特徴が互いに相反するものということに起因する現象なのである。

4.4 本章のまとめ

本章では、収集した日本語直接受身文及びその中国語対訳文について、主格名詞と斜格名詞、述語動詞、文の意味特徴という三つの方面から対照分析を行い、各パターンの中国語表現と対応している日本語受身文の特徴を明らかにした。その結果をまとめると、次の表 4-21、表 4－22、表 4－23 のとおりになる。

表 4-21　能動文と対応している日本語直接受身文の特徴

<table>
<tr><th>要素
文の種類</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の
意味</th></tr>
<tr><td rowspan="6">「主格も斜格もあり」の受身文</td><td rowspan="3">人
（特定）</td><td rowspan="3">人
（特定）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人
（特定）</td><td>物（具体的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="2">受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間活動／物
（抽象的）</td><td>位置関係動詞</td></tr>
<tr><td>人
（不特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td>中立</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="7"></td><td rowspan="3">人間活動／物（抽象的）</td><td>人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>人（不特定）</td><td>知覚活動動詞</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td rowspan="4">中立</td></tr>
<tr><td>物
（具体的）</td><td>知覚活動動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="3">物
（抽象的）</td><td rowspan="3">物（具体的）
／
自然現象</td><td>位置関係動詞（相対的位置変化）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="8">「斜格省略」
の受身文</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>状態心理動詞</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人（特定）</td><td>人
（不特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="2">被害</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td rowspan="2">言語活動動詞
（内容への言及あり）</td></tr>
<tr><td>人（不特定）</td><td rowspan="4">中立</td></tr>
<tr><td>物（抽象的）</td><td>人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（抽象的）
／植物</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>位置関係動詞（移動）</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">「主格省略」の受身文</td><td rowspan="4">人（特定）</td><td>人（不特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td rowspan="3">被害</td></tr>
<tr><td>位置関係動詞（空間的移動）</td></tr>
<tr><td>物（抽象的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
</table>

表 4-22　「被」構文と対応している日本語直接受身文の特徴

<table>
<tr><th>要素
文の種類</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="7">「主格も斜格もあり」の受身文</td><td rowspan="5">人
（特定）</td><td rowspan="3">人（特定）</td><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td rowspan="4">被害</td></tr>
<tr><td>状態心理動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物（具体的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>動物</td><td>物（抽象的）</td><td>位置関係動詞
（空間的移動）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物
（抽象的）</td><td>人（不特定）</td><td>状態心理動詞</td><td rowspan="2">受益</td></tr>
<tr><td>物（具体的）／
自然現象</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="9">「斜格省略」
の受身文</td><td rowspan="6">人
（特定）</td><td rowspan="2">人（不特定）</td><td>位置関係動詞（放置）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td rowspan="3">受益</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人（不特定多数）</td><td>状態心理動詞</td></tr>
<tr><td>位置関係動詞（空間的移動）</td><td rowspan="5">被害</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td>人間活動</td><td>人（不特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物
（具体的）</td><td>人（特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td><td>中立</td></tr>
<tr><td rowspan="4">「主格省略」
の受身文</td><td rowspan="4">人
（特定）</td><td rowspan="2">人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td rowspan="3">被害</td></tr>
<tr><td>思考活動動詞
（内容に言及なし）</td></tr>
<tr><td>物（抽象的）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>思考活動動詞
（内容に言及なし）</td><td>中立</td></tr>
</table>

表 4-23　意味上の受身文と対応している日本語直接受身文の特徴

<table>
<tr><th>原文
訳文</th><th>主格名詞</th><th>斜格名詞</th><th>述語動詞</th><th>文の意味</th></tr>
<tr><td rowspan="3">「主格も斜格もあり」の受身文</td><td rowspan="3">物
（具体的）</td><td>物（具体的）</td><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td><td rowspan="2">中立</td></tr>
<tr><td>人（特定）</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>人間活動</td><td>一般動作動詞
（対象の変化あり）</td><td>被害</td></tr>
<tr><td rowspan="5">「斜格省略」の受身文</td><td rowspan="2">動物</td><td rowspan="4">自然現象／
人（不特定）</td><td>位置関係動詞</td><td rowspan="5">中立</td></tr>
<tr><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">物（具体的）
／人間活動</td><td>一般動作動詞
（対象の変化なし）</td></tr>
<tr><td>言語活動動詞
（内容への言及なし）</td></tr>
<tr><td>人（不特定多数）</td><td>生産動詞</td></tr>
</table>

本章の考察により、以下の点が明らかになった。先ず、中国語の能動文と対応する日本語直接受身文は、述語動詞としては他動性の弱い動作動詞か、内容に言及しない言語活動動詞か、位置関係動詞が多い。また、文の意味特徴から見ると、能動文に訳された直接受身文は、受益、中立の意味が多い。一方、中国語の「被構文」と対応した日本語直接受身文は、他動性が強く、対象を変化させる一般動作動詞を述語動詞とするものが多い。最後に、中国語の意味上受身文に訳された直接受身文は、主格名詞がすべて非情物であり、「中立的」意味を表わすものが多いという特徴を持っている。

次章からは、この結果を踏まえ、その特徴について更に詳しく考察を進めたい。

第 5 章　主語の選択と動作主マーカーの考察

本章では、まず、視点の置かれる位置、またその転換から日本語直接受身文における主語の選択に関して考察を行う。次に、動作主マーカー「に」、「から」、「によって」についての考察をする。

5.1 受身文における主語の選択

5.1.1「パースペクティヴ」の観点からの考察

日本語の受身文研究では視点の概念が用いられることが多い。

久野（1978)は機能文法の立場から話者の視点という概念を日常使用言語の文法分析の重要な概念と考え、「共感度」(Empathy）という概念を提唱し、次のように定義している。

> 文中の名詞句の X 指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感(Empathy)と呼び、その度合、即ち共感度を E(x)で表わす。共感度は、値 0(客観描写)から値 1(完全な同一視化)迄の連続体である。
>
> 久野（1978:134)

また、久野(1978)は「共感度」(Empathy）という概念を用いて視点に関する 3 種類のハイアラーキーを以下のように定式化している。(ここでの「＞」は、左側の方が右側より視点が採りやすいということを表している。)

発話当事者の視点ハイアラーキー: 1= E(1 人称）＞ E(2・3 人称)

久野（1978:146)

談話主題の視点ハイアラーキー: E(談話主題）≥E(新登場人物)

久野（1978:148-149)

表層構造の視点ハイアラーキー: E(主語）＞E(目的語）＞E(受身文の旧主語)

久野（1978:169)

奥津（1983）は「受身を直接受身-能動文の主語と目的語とを入れかえたもの-に限っていえば、話し手がその〈視点〉を〈動作主〉におくか、〈対象〉におくか、その序列の仮説によって、なぜ受身文が使われるかの説明ができる」とし、さらに、久野(1978)が定式化した視点のハイアラーキーのほかに、有生名詞と無生名詞、人間名詞と動物名詞、1 人称名詞（話し手）と非 1 人称名詞（非話し手）、2 人称名詞（聞き手）と 3 人称名詞（非聞き手）、内（身内）と外（非身内）という「序列」も設定し、図 5－1 のような序列の仮説を提示している。(U は無標（Unmarked)、M は有標（Marked))

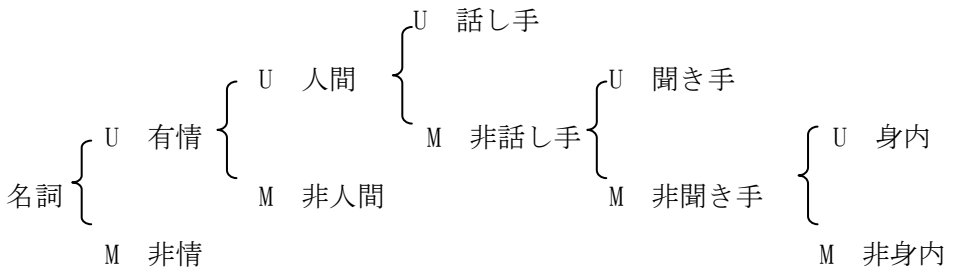


図 5－1　視点配置序列の仮説

奥津（1983：72）

以上の先行研究を踏まえ、日本語受身文における「視点」の配置序列は次のように示すことができよう。

A. 話し手（一人称）＞聞き手（二人称）＞非聞き手（三人称）
B. 同じ非聞き手の場合：非聞き手（身内）＞非聞き手（非身内）＞不明
C. 人間＞非人間（有情物）＞非情物

日本語の名詞において、「私」、「僕」などの一人称代名詞は「話し手」を表わし、「あなた」、「君」などの二人称代名詞は「聞き手」を表わす。「彼」、「彼女」、「あの人」などの三人称代名詞は「非聞き手」を表わすが、そのうち、親族であれば、「非聞き手（身内)」に属し、親族でなければ、「非聞き手（非身内)」に属する。また、動物は「非人間（有情

物)」に属し、植物および物は「非情物」に属する。

以下、この序列によって、日本語直接受身文における主語の選択について考察する。

5.1.1.1　話し手（一人称）＞聞き手（二人称）＞非聞き手（三人称）

この序列による考察をするため、まず、次の三種類の受身文を抽出した。

①一人称と二人称が現れた直接受身文
②一人称と三人称が現れた直接受身文
③二人称と三人称が現れた直接受身文

収集された 2491 例のうち、この三種類の受身文は合計 525 例、21.1%を占めている。その主語の選択の結果をまとめると次の表 5-1 のようになる。

表 5-1　　主語の選択結果 A

	日本語の原文		中国語の訳文		合計
一人称と二人称の組み合わせ	主格一人称	50(100%)	（主格）一人称	29(58%)	50
	斜格二人称	0	（斜格）二人称	21(42%)	
一人称と三人称の組み合わせ	主格一人称	421(99.8%)	（主格）一人称	221(52.4%)	422
	斜格三人称	1(0.2%)	（斜格）三人称	201(47.6%)	
二人称と三人称の組み合わせ	主格二人称	52(98.1%)	（主格）二人称	24(45.3%)	53
	斜格三人称	1(1.9%)	（斜格）三人称	29(54.7%)	

①一人称と二人称が現れた直接受身文

64)「わたしはわたしで、貴方に愛されたこともなかったかわりに、貴方に本当の愛情を持ったこともなかったかと思うんです。本当の愛情って、わたしが貴方に対して持っているものとは多分、違いますわ。」(あした来る人)

64)' "我 也 如此，既 没有 被 你 爱 过，同时也可能没有对你产生过
私 も そう conj NEG PM あなた 愛する PERF
真正的爱情。真正的爱情，同我对你怀有的情感是有所区别的。"

65)だからこそ私はあなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。
(ノルウェイの森)

65)' 也正因如此、我 才 不愿 被 你 怨恨。如若 被 你 怨恨、
だからこそ 私 prep NEG 願う PM あなた 憎む もしも PM あなた 憎む
我 势必 真正 归于 土崩瓦解。
私 必ず 本当に なる バラバラ

66)「あなたが、山本さまのお家から出て、西片町のお家へ帰って来た時、お母さまは何もあなたをとがめるような事は言わなかったつもりだけど、でも、たった一ことだけ、『お母さまはあなたに裏切られました』って一言ったわね。おぼえている？」(斜陽)

66)'"当你离开山木先生家回到西片町家里来的时候，妈妈相信并没有讲过什么责怪的话，
只说了一句：'你 辜负 了 妈妈 的 期望 啊！'你记得吗？"
あなた 裏切る PERF お母さんの 期待 MOD

67)「今更こんな事をいうのは変ですけれど、僕はとうから、一度あなたにこう云う所を発見されるまでもなく、自分の罪を打ち明けようと思っていました。」(痴人の愛)

67)' "现在再说这种话你会感到奇怪，不过 我 老早 就 打算 在
しかし 私 ずっと前 conj つもり prep
你 发现 这件事 之 前 坦白 自己的罪行。"
あなた 発見する この事 の 前 白状する 自分の罪

日本語の原文を見ると、以上の四つの用例も一人称の「私」、「僕」に視点を置かれ、主語に立てられている。(例 66) における「お母さま」は話し手「私」の自称である)。しかし、対応する中国語の訳文を見ると、例 64)’と例 65)’は原文と同じ一人称が主語の位置に置かれ、受身文に訳されているが、例 66)’と例 67)’は二人称の「あなた」が主語に立てられ、能動文に訳されている。つまり、視点が違うところに配置されることによって、日本語では受身文が、中国語では能動文が選択されている。

②一人称と三人称が現れた直接受身文

この種類の 422 用例のうち、421 例(99.8%)は「視点」の配置序列と一致し、一人称名詞が受身文の主語に立てられている。三人称名詞が主語の位置に置かれている用例はわずか 1 例である。一方、その対訳文を見てみると、201 例(47.6%)は三人称名詞が主語、能動文に訳されている。

68)今度は老師の荒々しい怒りを、雷のような大喝を待った。殴打され、蹴倒され、血を流す羽目になっても悔いないだろうと私は思った。(金閣寺)

68)’这次 我 只 等 着 老师 暴跳如雷 了。 我 想 即使

今度 私 ただ 待つ PROG 老師 荒々しく怒る PERF 私 思う たとえ

被 他 打、 被 他 踢、 鲜血直流 也 不后悔。

PM 彼 殴打する PM 彼 蹴倒する 血だらけ も NEG 後悔する

69)そのため、私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。

(金閣寺)

69)’为此 我 一日中 总要 望 上 几次 金阁。

そのため 私 一日中 いつも 眺める COMP 何度 金閣

朋辈们 都 笑 我 痴。

朋輩たち 皆 笑う 私 ばかばかしい

70)「わたくしは、この犬、川辺さんの奥さまに頼まれまして、お預りしてあるんですが」

（あした来る人）

70)’“这狗， 是 川边太太 拜托 我，寄养 在 这里的……”

この犬 である 川辺さんの奥さま 頼む 私 預ける prep ここ

以上の用例も一人称の「私」、「僕」に視点が置かれているが、対応する中国語の訳文を見ると、例 68)’は原文と同じ一人称が主語の位置に置かれ、受身文に訳されているが、例 69)’と例 70)’は三人称の「朋輩の徒弟たち」、「川辺さんの奥さま」が主語に立てられており、能動文に訳されている。

71)「御尤もです！そう仰ったのは御尤もです！」と、浜田も私に釣り込まれたのか、矢張濁声で云うのでした。「僕は、ほんとうの事を云うと、ナオミさんには最早のぞみがナイト云うことを、今日はあなたに宣告する気で来たんですよ。」

（痴人の愛）

71)’“当然！你说得对！”浜田 大概 是 受 了 我的 感染，

浜田 たぶん である 受ける PERF 私の 感染

也声嘶力竭地说：“说实话，我今天来这里，就是打算宣告纳奥米已经没有指望了。”

この用例は三人称名詞が主語に立てられ、「浜田」について述べている。つまりこの例 71)の主題は浜田である。日本語は一つの話題を叙述するとき、視点を一致させできるだけ変更しないという視点固定原則[1]が守られている。この用例は視点固定の原則に従うため、一つの文では視点を一致させ、三人称名詞を主語に立てているのであると考えられる。

③二人称と三人称が現れた直接受身文

この種類の 53 用例のうち、52 例(98.1%)は「視点」の配置序列と一致し、二人称名詞が主語に立てられている。三人称名詞が主語に立てられている用例は 1 例しかない。それ

[1]奥津（1983）が「視点固定の原則とは一度立てた主語は必要のないかぎり、途中で換えないという原則である。この原則により受身文が作られることもある」と指摘されている。また、この視点固定の原則に基づく考察は、次の 5.2 で詳述する。

に対し、対訳文の 29 例は三人称名詞が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。

72)私の忠告はとても簡単です。まず第一に緑さんという人にあなたが強く魅かれるのなら、あなたが彼女と恋に落ちるのは当然のことです。それはうまくいくかもしれないし、あまりうまくいかないかもしれない。(ノルウェイの森)

72)’我的建议非常简单。第一，如果　你　被　叫　绿子的 那个人 强烈 吸引，

第一　もしも　あなた　PM　呼ぶ　緑子の　あの人　強く　惹く

你同她坠入情网便是理所当然的。这或许一帆风顺，也可能一波三折。

73)「それはね、あなたが人に好かれなくったってかまわないと思っているように見えるからよ。だからある種の人は頭にくるんじゃないかしら」と彼女は頬杖をつきながらもそもそした声で言った。(ノルウェイの森)

73)’“那是由于：在别人眼里，

你　是　个　别人 不喜欢　你　也 觉得 无所谓 的　角色。

あなた である ひとり　別人　NEG 好き　あなた も　思う　平気　の　キャラクター

或许有些人对你这点感到棘手也未可知。”她手捧两腮，自言自语似地小声说。

74)「少しでもほめられた事は、一生わすれません。覚えていたほうが、たのしいもの。」

「こないだ、あの方からも、何かとほめられたのでしょう。」

「そうよ。それで、べったりになっちゃったの。私と一緒にいると霊感が、ああ、たまらない。」(斜陽)

74)’“受人称赞的哪怕是小事，一生也忘不了。记住它使人更高兴啊。”

“上次　那个人 大概　也　称赞　过　你　什么　吧？”

この間　あの人　たぶん も　ほめる PERF　あなた　なにか　MOD

“是啊，所以我变粘了。他说他跟我在一起就会有灵感……啊，真叫人受不了。”

以上受身文の用例も第二人称の「あなた」、「君」に視点が置かれている。それに対し、対訳文の 72)’は原文と同じ二人称名詞が主語に立てられており、受身文に訳されている

が、例 73)’と例 74)’は三人称名詞の「人」、「あの方」が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。

5.1.1.1.2　非聞き手（身内）＞非聞き手（非身内）＞不明

まず、収集された用例から、この種類の受身文を抽出し、その主語の選択結果を以下の表 5－2 のようにまとめた。

表 5-2　　主語の選択結果 B

原文の主語		対訳文の主語		合計
非聞き手（身内）	400(99.5%)	非聞き手（身内）	354(88.1%)	402
非聞き手（非身内）	2(0.5%)	非聞き手（非身内）	48(11.9%)	

収集された用例のうち、この種類の受身文は 402 例あり、16.1%を占めている。日本語原文には、400 例(99.5%)は「視点」の配置序列 B と一致し、非聞き手（身内）が主語に立てられている。非聞き手(非身内)が主語に立てられている用例は 2 例しかない。一方、対訳文を見ると、354 例(88.1%)が、日本語と同じ非聞き手（身内）に視点が置かれ、受身文に訳されているが、48 例(11.9%)は原文と違った非聞き手（非身内）が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。次の用例を見てみよう。

75)翌る日、もとの運転手の松山さんにお伴をたのんで、お母さまは、お昼すこし過ぎにおでかけになり、夜の八時頃、松山さんに送られてお帰りになった。(斜陽)

75)’第二天 母亲　请　从前的司机 松山先生　陪伴、　刚　过　中午　就
翌日　母親　頼む　元の運転手　松山さん　伴にする　ちょうど　過ぎる　昼　conj
去　了、晚上 八点多　由　松山先生　送　了　回来。
行く PERF　夜　八時過ぎ　PM　松山さん　送る　PERF　帰りになる

76)私は想像してもぞっとする。先生はそれでなくても、冷たい眼で研究されるのを絶えず恐れていたのである。(こころ)

76)’这是　只要 想象　一下，也会　吓得　使　我　打一寒噤的。因为

これ　ただ　想像する COMP　やはり　驚く　させる　私　ぞっとする　原因

尽管　人家　不是　这样，先生　也是　不断地　担心　着

にもかかわらず　人々　NEG である　この様　先生　やはり　続く　心配する PROG

人家　会用　冷静的眼光 去　研究　他。

人々　prep　冷たい眼　prep　研究する　彼

77)怪しい話だとたかをくくっていたが、一時間ほどして女が女中に連れられて来ると、島村はおやと居住いを直した。(雪国)

77)’a. 岛村 认为　这话　不可靠、　根本 没有　把　它　放　在　心上。约莫

島村　思う　この話　NEG 信憑性ある　全然　NEG　prep それ　置く prep 心の中　約

过　了 一个钟头、女佣 把　女子　领来、岛村　不禁　一愣、正了正 坐姿。

過ぎる PERF　一時間　女中　prep　女 連れて来る　島村　思わず　驚く　直す　居住む

b.岛村认为这话是靠不住的，并不以为然，可是约一小时之后，

女佣人　把　她　带　了　来，他不觉一惊，肃然坐起身来。

女中　prep 彼女　連れる PERF　COMP

c.这一套话，岛村觉得不大可信，根本就没当回事。过了一个来小时，

女佣　刚　把　那姑娘　带　了　来，岛村惊讶之下，肃然端坐起来。

女中　adv　prep　あの女の子 連れる PERF　COMP

この三つの用例を見ると、例 75)においては、原文、訳文とも同じ話し手の親族であり、非聞き手（身内）に属する三人称名詞「お母さま」を主語に選択し、受身文に訳されているが、例 76）の原文は「非聞き手（非身内）＞不明」という序列に一致し、非聞き手（非身内）である「先生」が主語に立てられているのに対して、訳文の例 76)’は補った不特定の三人称名詞「人々」が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。一方、例 77）においては、原文の主語は非聞き手（身内）の「女中」ではなく、非聞き手（非身内）で

ある「女」だが、訳文の例 77)’を見ると、原文と違った「女中」が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。

5.1.1.1.3　人間＞非人間（有情物）＞非情物

この序列による考察をするため、まず、次の三種類の受身文を抽出した。

① 人間名詞と動物名詞が現れた直接受身文
② 人間名詞と非情物名詞が現れた直接受身文
③ 動物名詞と非情物名詞が現れた直接受身文

収集された 2491 例のうち、この三種類の受身文は合計 902 例、36.2%を占めている。その主語の選択の結果をまとめると次の表 5-3 のようになる。

表 5-3　主語の選択結果 C

	日本語の原文		中国語の対訳文		合計
人間名詞と動物名詞の組み合わせ	主格：人間名詞	3(100%)	（主格）人間名詞	3(100%)	3
	斜格：動物名詞	0	（斜格）動物名詞	0	
人間名詞と非情物名詞の組み合わせ	主格：人間名詞	832(92.7%)	（主格）人間名詞	530(59%)	898
	斜格：非情物名詞	66(7.3%)	（斜格）非情物名詞	368(41%)	
動物名詞と非情物名詞の組み合わせ	主格：動物名詞	1(100%)	（主格）動物名詞	1(100%)	1
	斜格：非情物名詞	0	（斜格）非情物名詞	0(0%)	

① 人間名詞と動物名詞が現れた直接受身文

この種の用例はわずか3例であるが、原文も対訳文も「視点」の配置序列と一致し、人間名詞が主語に立てられている。

78)さて、私はいつのまにか犬に導かれていた。犬は見失われるかと思うと又現われた。

（金閣寺）

78)’我 不知不觉地 被 一只 狗 引领 着。狗一会儿不见踪影，一会儿又出现在眼前。

私 思わず PM 一匹 犬 導く PROG

79)そうして彼は、その黄色い前足をもったニワハンミョウに、すっかりとりこにされてしまったのである。 （砂の女）

79)’就这样，他 完全 被 那只有 黄色 前腿的 斑蟊虫 俘虏 了。

彼 完全 PM その 有る 黄色い 前足の ニワハンミョウ捕虜する PERF

80)まんまと策略にかかったのだ。蟻地獄の中に、とじこめられてしまったのだ。うかうかとハンミョウ属のさそいに乗って、逃げ場のない沙漠の中につれこまれた、飢えた小鼠同然に…… （砂の女）

80）’需要个巧妙漂亮的策略。他被关进了蚂蚁的地狱之中。

他 被 妖气十足的 斑蟊虫 引 到 这 没有退路 的 沙漠上 来，

彼 PM 怪しい ニワハンミョウ 誘う COMP この NEG 逃げ場 の 砂漠の上 COMP

就像饥寒交迫的小老鼠。

② 人間名詞と非情物名詞が現れた直接受身文

この種類の用例は898例である。日本語は832例(92.7%)が「視点」の配置序列と一致し、人間名詞が主語に立てられている。それに対して、対訳文の368例（41%）は日本語原文と違い、非情物名詞が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。

81)あの晩どこかの酒場で曾根はカジカの踊りをやり、それからそこを出て、この友達と別れた直後、梶の自動車にはねられたのである。(あした来る人)

81)’那天晚间，曾根　在 一家 酒巴　　跳罢　　杜父鱼舞，　出门 同 这位朋友

あの夜　　曾根　prep 一軒　酒場　踊り終わる　カジカの踊り　出る　と　この友達

分手　后　不久　就 被　梶大助的汽车　　撞　上　了。

別れる 後　直後　conj PM　梶大助の自動車　はねる COMP　PERF

82)飛びかかって吸いついたような勢いでありながら、島村はふわりと温いものに寄り添われたようで、駒子のしていることに不自然も危険も感じなかった。(雪国)

82)’驹子就像被吸引住似地猛扑了上来，岛村觉得

仿佛　　有　　一种 温暖的东西　轻轻的　　贴近　　过来，因而他对驹子的

まるで　ある　一種　　温いもの　　ふわりと　　寄り添う　COMP

这种举动并没有感到不自然或者危险。

収集した用例を見ると、例 81)’は原文と同じ人間名詞が主語に立てられ、受身文に訳されているが、例 82) ’は中国語では非情名詞「温いもの」、が主語の位置に置かれ、能動文に訳されている。

83)容貌もKの方が女に好かれるように見えました。性質も私のようにこせこせしていないところが、異性には気に入るだろうと思われました。(こころ)

83）’容貌　也 好像　是　　K 比较 让 女人 喜欢，脾气 又　不似　　我那样

容貌　も　らしい である　K　より　PM　女　　好く　　性質　も　NEG 似る　私のよう

拘束小气，　　这　　也　　好像　　是　　异性 所　　较　　合意　　的吧。

こせこせする　これ　やはり　らしい である　異性　prep　より　気に入る　MOD

84)「寂しき人々」のヨハンネスと共に、家妻というものの無意味を感ぜずにはいられなかった。これが――この孤独が芳子に由って破られた。(布団)

84)’跟《孤寂的人们》中的约翰奈斯一样，他感到妻子没有意思。

芳子　却　来　打破　了　这种　孤独感。

芳子　conj　来る　破る　PERF この　孤独感

一方、例 83)、84)において、日本語原文は「視点」の配置序列と一致せず、人間名詞「女」、「芳子」でなく、非情物の「容貌」、「孤独」が、主語の位置に置かれているのに対して、訳文の例 83)’、84)’は人間名詞「女」、「芳子」が主語として立てられている。

③　動物名詞と非情物名詞が現れた直接受身文

この種の用例は 1 例しかない。原文も対訳文も「視点」の配置序列と一致し、人間名詞が主語に立てられている。

85) しかし目の前の蜻蛉の群は、なにか追いつめられたもののように見える。暮れるに先立って黒ずむ杉林の色にその姿を消されまいとあせっているもののように見える。

（雪国）

85)’但是、　眼前的　一群 蜻蜓、像是　被 什么　追逐　着　似的。

しかし　目の前の　一群　蜻蛉　まるで　PM　何か　追いつむ PROG　みたいだ

仿佛　急于抢在夜色 降临、杉林的幽黑　　吞没　它的身影 之前　飞走。

まるで　急ぐ　　夜　来る　杉林の黒ずむの色　呑む　その姿　の前　飛んで行く

5.1.1.4　まとめ

本節の結果は次の表 5-4 のとおりである。

この表 5-4 から分かるように、926 例(99.6%)の日本語の受身文における主語の選択は「視点」の配置序列と一致しているが、369 例(41%)の中国語対訳文は日本語原文と違った主語が選択されており、「視点」の配置序列と一致していない。つまり、同じ出来事を描写するのに、中日両言語における視点の置かれ方が違うと考えられる。

例えば、例 69)「私は朋輩の徒弟たちに笑われた」の原文は一人称名詞「私」に視点が置かれているのに対して、その対訳文例 69)’はその「私」ではなく、三人称名詞の「朋輩の徒弟たち」に視点が置かれ、「朋辈们都笑我痴」という能動文で出来事が描写されて

いる。仮に日本語と同様、「私」に視点が置かれ、受身文「我被朋辈们笑(痴)。」に訳されると、非文になる。つまり、日本語の受身文における主語は厳しく「視点」の配置序列に従う。一方、中国語は「視点」の配置序列だけに制限されず、日本語より主語の選択がもっと自由であることが分かる。

表 5-4　視点の置かれ方による考察結果

	「視点」の配置序列と一致		「視点」の配置序列と不一致	
	日本語	中国語	日本語	中国語
人間名詞と人間名詞	926(99.6%)	631(67.8%)	4(0.4%)	299(32.2%)
人間名詞と非情物名詞	833(92.6%)	531(59%)	67(7.4%)	369(41%)

5.1.2 視点固定原則

視点固定原則とは、奥津（1983）が「視点固定の原則とは一度立てた主語は必要のないかぎり、途中で換えないという原則である。この原則により、受身文が作られることもある[2]」と指摘しているものである。

5.1.2.1 視点の固定と転換

視点固定原則に従い、日本語では一つの話題を叙述するとき、視点を一致させる。つまり、できるだけ視点を変更しないという法則を守るということである。例えば、

86）先生が太郎を叱って、太郎は泣いた。／老师批评了太郎，太郎哭了。

86)’先生に叱られて、太郎は泣いた。／（由于）被老师批评，太郎哭了。

前者では「太郎」と「先生」二つのガ格が現れ、視点固定の原則に違反するため、一つの文としては不自然となる。例 86)’の方が自然である。つまり、日本語は前後の文章のみ

[2]奥津（1983:78）を参照されたい。

ならず、一つの文の内部における「視点」の統一も重視する言語である。それに対し、中国語においては、文脈から見ると、全体的には「視点」が統一されているが、一つの文において「視点」の統一が日本語ほど厳しく要求されていない。二つの訳文のうち、例 86）の訳文がより中国語らしい。

次の用例も見てみよう。

87）私はごく普通の公立の学校に入りたかったの。・・・でも親の見栄であそこに入れられちゃったのよ。ほら小学校のとき成績が良いとそういうことあるでしょ？先生がこの子の成績ならあそこ入れますよ、ってね。で、入れられちゃったわけ。

（ノルウェイの森）

87）'“我 本　想　进　普通公立学校 来着。……可　父母 出于　虚荣心，

私　本来　つもり 入る　普通の公立学校　MOD　しかし両親　prep　見栄

偏偏　把　我　塞　去　那里。　你　知道，小学　如果 成绩 好，

わざわざ　prep 私　押し入れる COMP　あそこ　あなた　知る　小学校　もし　成績　良い

常　遇到　这种事：什么　老师 说　凭　这孩子的成绩 进 那里　没问题

いつも　遭う　こんな事　なんか　先生　言う　prep この子の成績　入る あそこ できる

等等，结果　就 被　硬　塞进去。”

など　結果　prep PM　強引　押し入れる

例 87）を見てみると、一貫して「私」に視点が置かれ、「話し手」を主語とする受身文が用いられている。文型としては、能動文→受身文→受身文になっている。それに対し、例 56）'における視点は「我」から「父母」、また「我」に移動しているため、文型も能動文→能動文→受身文になっている。例 87）の日本語原文および中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-5 のとおりになる。

表 5-5　例 87）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語原文	私→私→私	能動文→受身文→受身文
中国語の訳文	我→父母→我	能動文→能動文→受身文

88）花崗岩質の砂を踏んで、波打際へむかって歩くあいだ、私はさっき心にひらめいた一つの意味へ向って、確実に一歩々々近づいてゆくという喜びに再び襲われた。(金閣寺)

88)’ 当　脚下　踩　着 花冈岩质的细砂　走　向　岸边 时、一种 切实　逼近

prep 足元　踏む PROG　花崗岩質の砂　歩く 向かう　岸辺　時　一種　確実　近づく

先前 曾在　心中　闪现的 那一意义的喜悦　再一次 向　我　袭来。

先　すでに　心の中　閃く　その意味の喜び　再び　向かう　私　襲ってくる

例 88）は視点固定の原則に従い、受身文を用いている。それに対し、例 88)’の場合、視点が“我(私)”から“喜悦（喜び)”に移動している。例 57）の日本語原文および中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-6 のとおりになる。

表 5-6　例 88）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語原文	私→私	能動文→受身文
中国語の訳文	我→喜悦	能動文→能動文

89）駒子はうなずいた。浜松の男に結婚してくれと追い廻されたが、どうしても男が好きになれないで、ずいぶん迷ったと言った。(雪国)

89)’驹子　点点头。她　说，滨松　那个男人 死皮赖脸地　缠住　要　她

駒子　うなずく　彼女　言う　浜松　その男　あつかましく　しがみつく　ほしい 彼女

同 他　结婚，　可　她　怎么也　不喜欢　他 ，真　为难　啊。

と　彼　結婚する　しかし　彼女　どうしても　NEG 好き 彼　誠に　困る　MOD

例 89）も一つの話題を叙述するとき一貫して「駒子」に視点が置かれている。一方、例 89)’を見ると、三つとも能動文にしており、視点も「駒子」から「滨松」、また「駒子」に移動している。例 89）の日本語原文および中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5－7 のとおりになる。

表 5-7　　例 89）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語の原文	駒子→駒子→駒子	能動文→受身文→能動文
中国語の訳文	驹子→滨松→驹子	能動文→能動文→能動文

90）梶大助は絶対に人の悪口を言わない。いくら誘いかけられても、悪口の歩調を合せることがない。（あした来る人）

90)’梶大助　对　　任何人　　都 绝对　　不　说长道短。　　不论　别人　如何

梶大助　対する　いかなる人 も　絶対　NEG どうのこうの言う NEG 問う　他人　いかに

套话，　　他　也　　从不随声附和。

誘いをかける　彼　conj　NEG 付和雷同する

例 90）においては、一貫して「梶大助」という人に視点を置いているが、中国語の訳文を見ると、原文の「いくら誘いかけられても」における動作主が不明であるため、能動文に訳されるとき、“别人（他人）”という主語を補っている。つまり、中国語は動作主よりの視点をとろうとしている。例 90）の日本語の文及び中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-8 のとおりになる。

表 5-8　　例 90）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語の原文	梶大助→梶大助→梶大助	能動文→受身文→能動文
中国語の訳文	梶大助→别人→梶大助	能動文→能動文→能動文

91）これが為めかれはいつも運命の圏外に立って苦しい味を嘗めさせられるが、世間からは正しい人、信頼するに足る人と信じられている。　（布団）

91）’为此、　他　总是　站　在　命运的圈外、　被迫　　尝　　够　了
そのため　彼　いつも　立つ　prep 運命の圏外　余儀無くされる　嘗める　COMP　PERF
苦涩的滋味、但　人们　却　因此　而　认为　他　是　正直的人、
苦い味　しかし 世間 逆に その為 conj　信じる　彼　である　正しい人
是　足可　信赖的　人。
である　できる　信頼する　人

例 91）の文はいずれも「彼」に視点を置き、能動文→受身文→受身文にしているが、例 91）’における視点は「他」から「人们（世間）」に移動し、能動文→能動文→能動文に訳されている。例 91）の日本語の原文及び中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-9 のとおりになる。

表 5-9　例 91）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語の原文	彼→彼→彼	能動文→受身文→受身文
中国語の訳文	他→他→人们	能動文→能動文→能動文

92）時雄は常に苛々していた。書かなければならぬ原稿が幾種もある。書肆からも催促される。金も欲しい。けれどどうしても筆を執って文を綴るような沈着いた心の状態にはなれなかった。（布団）

92）’时雄 经常 焦躁不安，要　写的　稿件 有　好几篇，书店　来　　催　　他，
時雄　常に　苛々する　必要　書く　原稿　ある　数篇　書肆　来る　催促する　彼
他也　需要 钱　用，　但　怎么也　没法安下心来 执笔　写　文章。
彼 も　要る　金　使う　しかし どうしても　NEG 落ち着く　執筆する　書く　文章

例 92）においては、五つの文はいずれも「時雄」に視点を置き、主語又は主題としているが、訳文の例 93)’では、二番目と三番目の文が視点を時雄からそれぞれ原稿、書肆に移動している。例 92）の日本語の文及び中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-10 のとおりになる。

表 5-10　　例 92）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語の原文	時雄→時雄→時雄→ 時雄→時雄	能動文→能動文→受身文→ 能動文→能動文
中国語の訳文	时雄→稿件→书店→ 时雄→时雄	能動文→能動文→能動文→ 能動文→能動文

無論、日本語の原文にも「視点」が移動するものがある。ただし、その「視点」の移動は中国語ほど頻繁ではない。例 93）を見てみよう。

93) だから僕のようなこれといって特徴もない男が永沢さんの個人的な友人に選ばれたことに対してみんなはひどく驚いたし､そのせいで僕はよく知りもしない人間からちょっとした敬意を払われまでした。　　（ノルウェイの森）

93)’所以，当　永泽 把　我　这个 平庸无奇的　人　　选　　为　　他的 私人
だから conj　永沢　prep　私　この　　平凡　　人　選択する　として　彼の　私的
朋友　后，大家　都 大为惊异，甚至　素不相识的人　都　　对　　我
友人　後　みんな　prep　驚く　　さらに　知りもしない人　prep　対する　私
流露　出　一丝　敬意。
表す　COMP　少し　敬意

例 93）において、「選ぶ」「驚く」「(敬意を）払う」という三つの動詞が用いられ、視点が「僕」、「みんな」、また「僕」に置かれている。訳文の例 93)’の場合、視点が「永泽」「大家」、「素不相识的人」それぞれに置かれ、文型もすべて能動文になっている。例

93）の日本語原文および中国語の訳文における視点の置き方をまとめると表 5-11 のとおりになる。

表 5-11　例 93）の視点の置き方と文型の選択

	視点の置き方	文型の選択
日本語の原文	僕→みんな→僕	受身文→能動文→受身文
中国語の訳文	永泽→大家→素不相识的人	能動文→能動文→能動文

5.1.2.2 まとめ

以上の考察から分かるように、日本語は「視点」の固定化を重視する言語であり、文章全体のみならず、一つの文の内部でも「視点」の固定が要求されている[3]。「視点」を固定させるために受身文が用いられることがある。一方、中国語においては、文章全体の「視点」は固定しているが、一つの文の内部では視点の固定化が日本語ほど厳しく要求されていないため、「視点」を固定させるためにわざわざ受身文を用いることは極めて少ない。

5.1.3 事態内視点と事態外視点

町田（2011）は事態把握の様式には事態外視点と事態内視点の二つのタイプがあると提案した。

事態内視点：

認知主体が事態内に自らをおくタイプ（生態的自己＝観察者・参与者）

事態外視点：

認知主体が外側から事態を眺めるタイプ（分裂自己＝観察者⇔参与者）

[3]日本語は膠着語であり、文の中では助詞が多く用いられている。助詞などが用いられる場合、何が文の主題であるか、何が主語であるかなどの問題をはっきりさせなければならない。主語が多すぎると、文が複雑になるので、できるだけ主語を固定させ、即ち視点を固定させたほうがよい。これが日本語が視点の固定化を重視する原因の一つと言えよう。

事態内視点とは、図 5－2 の左図で示されるように、認知主体が事態の中に自らの視点を置くタイプの事態把握の様式である。この事態内視点の特徴は、認知主体が事態内に自らを置いているため、観察者であると同時に事態の参与者でもあるという点である。このような観察を認知図式にしたものが図 5－2 の右図である。SS（主観的状況（Subjective Scene））は点線の四角で図示されており、認知主体の主観的に見える場面を表す領域とされる。

一方、図 5－3 の左図で示されるように、認知主体が外側から事態を眺める様式を事態外視点と呼ぶ。この視点を取った場合、認知主体は自己を分裂させ、ステージの外から事態を眺める観察者とステージ上で行為を行う事態の参与者の二つの自己を把握することになる。認知主体が観察者として把握された場合は認知主体が主体的把握（subjective construal）を受けているといい、事態の参与者として把握された場合は客体的把握（objective construal）という[4]。図 5－3 の右図の C は主体的に把握された観察者としての認知主体を表しており、これと点線で結ばれたステージ上（OS）の要素は、客体として把握された認知主体である。

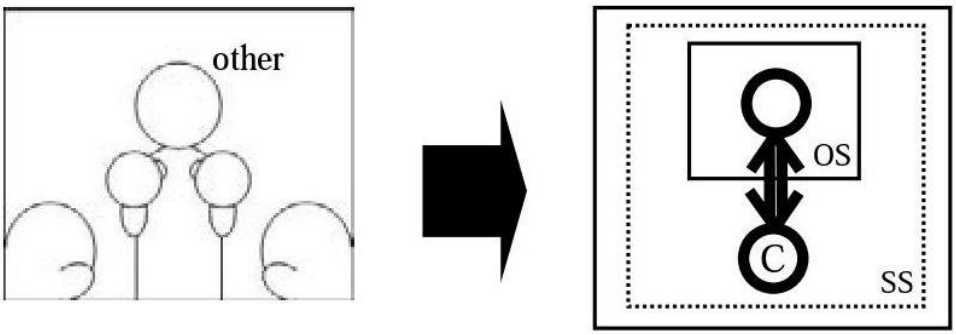


図 5－2　事態内視点

[4]この主体的把握と客体的把握は、河上（1996）の解釈の主体性・客体性と基本的に同じものである。つまり、我々がある場面を解釈し、それを言語表現で表すとき、その対象である場面や存在物を、我々とは完全に切り離された客体として描写する場合もあるが、我々自身が何らかの形で関わった形で描写する場合もある。また、この事態外視点と事態内視点はそれぞれ Langacker（1985）の言う＜最適視点配列＞（optimal viewing arrangement)と＜自己中心的視点配列＞（egocentric viewing arrangement)、池上（2003・2004）の「客観的把握」と「主観的把握」、中村（2004）の「D モード」と「I モード」に対応している。

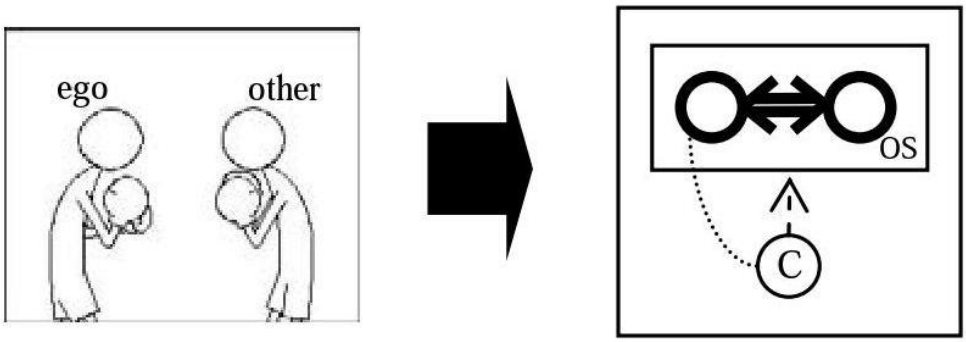


図５－３　事態外視点

従来、日本語は主観的表現を好む言語であるといわれてきた。これは、日本語母語話者が事態を主観的に把握していく傾向があるためである。日本語母語話者は、事態の中に身を置き、事態全体を自分の身体で感じながら直接的に把握していく傾向が強い。日本語には、このような事態認知を反映した主体的な意味を表す言語表現が多いのである。言い換えるならば、日本語においては、事態の中に視点を取り、それによって把握された事態を主体的・主観的に表現していく方がプロトタイプ的なのである。(森田(1998)、池上(2003・2004))

以下の用例を見てみよう。

94)「少しでもほめられた事は、一生わすれません。覚えていたほうが、たのしいもの。」
「こないだ、あの方からも、何かとほめられたのでしょう。」
「そうよ。それで、べったりになっちゃったの。私と一緒にいると霊感が、ああ、たまらない。」(斜陽)

94)'“受人称赞的哪怕是小事，一生也忘不了。记住它使人更高兴啊。”
“上次　那个人　大概也　称赞　过　你　什么　吧？”
この間　あの人　たぶん　ほめる　PERF　あなた　なにか　MOD
“是啊，所以我变粘了。他说他跟我在一起就会有灵感……啊，真叫人受不了。”

95)葉子の腓が痙攣するのといっしょに、島村の足先まで冷たい痙攣が走った。なにかせつない苦痛と悲哀とに打たれて、動悸が激しかった。（雪国）

95)’驹子的尖叫，直刺岛村的心。叶子的腿肚子在抽搐。与此同时，岛村的脚尖也冰凉得痉挛起来。一种 无以名状的 痛苦和悲哀 侵袭 了 他，

一種 言えない 苦痛と悲哀 襲う PERF 彼

使得他的心房激烈地跳动着。

例 94）においては、そもそも「あの方はあなたをほめる」という事態を表す文を話者が、「あの方からも、何かとほめられたのでしょう。」というように発話している。つまり、話者は事態の中にいない自分が事態の中に自らの身を置き、その事態の当事者として体験したように事態を把握をしている。例 95）も同様、話者はその事態に臨場する当事者である「島村」に自らを移入し、「自分が苦痛と悲哀とに打たれた」というように事態把握をした。一方、中国語の訳文を見ると、話者は傍観者の立場に立ち、事態をそのまま「あの方はあなたをほめる」、「苦痛と悲哀は彼（島村）を打つ」というように解釈している。また、以下の 95)’のように、「わたしがあなたに頼まれる」という事態を把握するとき、自ら事態に臨場しているにもかかわらず、「あなたが私を頼む」というように、事態を自らと切り離して把握している。

96)「いやあねえ。私そんなこと頼まれるとは夢にも思ってきませんでしたわ。」と、女はぷいと窓へ立って行って国境の山々を眺めたが、そのうちに頬を染めた。（雪国）

96)’“真讨厌！我 做梦 也 没想到 你 会 托 我 干 这种事!”

私 夢見る も NEG 思う あなた prep 頼む 私 する こんな事

她愤然地站到窗前，眺望着县界上的重山叠峦，不觉脸颊绯红了。

森田(1971)は物事の捉え方について、日本語母語話者は自分が積極的にそうするという動作主の立場よりは、本能的・自発的にそうなるよう持っていく動作の対象の立場に解釈するのを好むと指摘している[5]。つまり、日本語は話し手自身がいつも人間関係の中で己の体験として話を進めたり、文中の人物の立場に立って事態のなりゆきを体験的に述べる。

[5]森田(1971:19)を参照されたい。

このような場合、日本語は動作の対象の立場に立って叙述することが極めて多い。

それに対し、中国語母語話者は動作主が「～する」という動作主に視点を置く能動表現を好む。例えば、「私は父に叱られた」を中国語に訳すと、受身文である“我被爸爸骂了（私は父に叱られた）”より“爸爸骂了我（父は私を叱った）”という能動文がもっと好まれる。日本語母語話者は動作の対象である「私」の立場に立って「私」を主語として受身文で事態解釈をするのに対し、中国語母語話者は動作主である「父」の立場に立って「父」を主語として能動文で事態解釈をする。

5.2　動作主マーカーに関する考察

前節では、受身文における主語の選択について考察したが、本節においては、異なる動作主マーカー「に」、「によって」、「から」を用いる直接受身文と中国語の対応関係について考察する。

5.2.1「に」の場合

「に」は日本語受身文の最も基本的な動作主マーカーである。特に動作主が有情物である場合、多く用いられている。このとき、中国語の能動文とも（例 97)’、98)’)、受身文とも（例 99)’、100)’、101)’）対応できる。

97)「わたくしは、この犬、川辺さんの奥さまに頼まれまして、お預りしてあるんですが」

（あした来る人）

97)’“这狗，　是　　川边太太　　拜托　给　我，　寄养　在　这里的……”

この犬　である　川辺さんの奥さま　頼む　prep　私　預ける　prep　ここ

98)杏子は、克平がマダムに誘われるままに立ち上がって行ったのを、顔はその方に向けないで、見ていた。（あした来る人）

98)’因　女店主　刚才 来　叫　过，克平 又　起身　　离开　了。

原因　マダム　先　来る　誘う PERF　克平 また　立ち上がる　出る　PERF

杏子转脸看了下克平。

99)容貌もKの方が女に好かれるように見えました。性質も私のようにこせこせしていないところが、異性には気に入るだろうと思われました。(こころ)

99)’容貌 也　好像　是　　K 比较 让 女人 喜欢，脾气又不似我那样拘束小气，

容貌　も　らしい である　K　より　PM　女　　好く

这也好像是异性所较合意的吧。

100)だからこそ私はあなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。

(ノルウエィの森)

100)’也正因如此、我　才　　不愿　　被　　你　　怨恨。如若　　被　你　　怨恨、

だからこそ　　私　prep　NEG 願う　PM　あなた　憎む　もしも　PM　あなた　憎む

我 势必　　真正　归于　　土崩瓦解。

私　必ず　本当に　　なる　　バラバラ

101)あわれその時あの婦人が、蟇に絡られたのも、猿に抱かれたのも、蝙蝠に吸われたのも、夜中に魑魅魍魎に魘われたのも、思い出して、私は犇々と胸に当った。(高野聖)

101)’唉，这一切都使我想起当时的情景：妇人　　怎样　　被 癞蛤蟆　缠　住，

婦人　どのように　PM　　蟇　　絡る COMP

被　猴　搂抱，被　蝙蝠　吸上　一口，　以及 半夜里　怎样

PM　猿　　抱く　　PM　蝙蝠　　吸う　　COMP　　及び　夜中　　どのように

被　魑魅魍魎　魘　住。 真是感慨万端。

PM　　魑魅魍魎　魘う COMP

一方、動作主が非情物である場合、例 102)、103)のような具体物であるときには、中国語の受身文と対応するが、例 104)、105) のような人間活動、例 106)のような抽象的なものの場合には、中国語の能動文に訳されることが多い。また、例 107)～111) のように自然現象の場合、例 107)、108)のように静的な状況や景色を描写するときは中国語の受身文に対応するのに対し、例 109)～111)のように動的（つまり進行中）な状況や場面を描写する時は能動文に対応するのが一般的である。

102)あの晩どこかの酒場で曾根はカジカの踊りをやり、それからそこを出て、この友達と別れた直後、梶の自動車にはねられたのである。(あした来る人)

102)’那天晚间，曾根在一家酒巴跳罢杜父鱼舞，出门同这位朋友分手后不久就

被　梶大助的汽车　撞　上　了。

PM　梶大助の自動車　はねる COMP　PERF

103)なるほど開通したばかりの石のごろごろした道であった。自動車はがたぴし揺れながら雑木に覆われた山へとはいって行った。風が急に冷たくなって来た。

(あした来る人)

103)’果然是条新路，路面满是石子。汽车一边连续摇晃着，

一边　往　被 杂木 覆盖　的 山里　开去。冷风嗖嗖地从窗口吹了进来。

同時に　prep PM　雑木　覆う　の　山の中　行く

104)だが、すべては、気のもちようである。女の素振りに、気持をときほぐされて、こういう一夜も得がたい経験だなどと、自分に言いきかせたりした。(砂の女)

104)’然而，所有一切都让人兴致勃勃的。女人的举动 使　他　情绪　很　放松，

女の素振り　prep 彼　気持ち とても ときほぐす

他甚至对自己说，这一夜可真是难得的经历呀。

105)しかし、やがて金閣は、空襲の火に焼き亡ぼされるかもしれぬ。このまま行けば、金閣が灰になることは確実なのだ。(金閣寺)

105)’不过、说不定　兵燹　真的会　毁掉　金阁。如果照目前这个样子发展下去、

しかし　たぶん　空襲の火　本当に　亡ぼす　金閣

金阁灰飞烟灭也指日可待 了。

106)男だろうと、女だろうと、理論にくどかれる奴なんているわけがない。(砂の女)

106)’男的 也　好，女的　也　好，　没有　人　会　听信　理论。

男の人 も　いい　女の人　も　いい　NEG ある 人　prep　信じる　理論

107)石段の下方は影に包まれている。しかし中程から上は、月明りの中に在る。(金閣寺)

107)’石阶的下段　都　被　阴影 遮蔽、自中断以上才有月色照临。

石段の下方　すべて　PM　影　遮える

108)金閣のほうを見た。きらめく幻の金閣は薄れかけていた。勾欄は徐々に闇に呑まれ、林立する柱は分明でなくなった。水の光りは消え、軒庇の裏の反映も消え去った。

(金閣寺)

108)’我向金阁望去、幻觉中闪光的金阁这时已淡薄起来。曲栏 已　被 漫漫黑夜吞噬、

勾欄 すでに PM　闇　呑む

林立的细栏也不再分明。水光消失、映入檐下的波光也暗灭下来。

109)波が動揺しながらふくらんで砕けようとするあいだにも、その不安な水面は、間断なく雨に刺されている。(金閣寺)

109)’即使是 黑浪　膨胀着来、 碎裂着去　的 转瞬之间、急雨　也

たとえ　黒波　膨らんでくる　砕けていく　の　瞬間　間断なく雨　やはり

不放过　这　不安的水面、　鞭笞 着　它。

NEG 見放す　この　不安な水面　刺す PROG　その水面

110)海景は何も見えなかった。波と、濡れている黒い石と、雨だけがあった。油をかけられた柩は、艶やかな木の肌の色をして、雨に叩かれていた。(金閣寺)

110)’这里、见不到　什么 海景。只有　波涛、湿漉漉的　黑石 和 雨。

ここ　見る NEG　何か　海景　ただ　波　濡れる　黒い石　と　雨

雨水　打　在　浇　了　油的 灵柩上、上面的木纹　显得 益发　清晰光艳。

雨水　叩く prep かける PERF　油の　柩の上　その木紋　見える　益々　鮮やか

111)とにかく私は、何が何やら上の空で喫煙室を飛び出しました。そしてぬかるみの往来へ立って冷めたい雨に打たれるまでは、足が大地に着きませんでした。(痴人の愛)

111)’我不管三七二十一，神情恍惚地跑出吸烟室。我脚不停点地飞奔着，一直来到泥泞的大街上，让　冰冷的 雨水　浇　　在　身上。

させる　冷たい　雨水　かける　prep　体

5.2.2「によって」の場合

金水（1991）によれば、「によって」はまず対象作成動詞（本研究の生産動詞に相当する）から作られる受身文（例 112)）における動作主マーカーとして、オランダ語翻訳を通して生まれたとされる。しかし、現時点ではそれに止まらず、幅広く使われている。

112)偉大な仕事というものは、常に曾根二郎のような素朴な人間によって、だれにも知られぬ片すみで、ひそやかに行われているものであろう。決して新聞になぞ出はしないのだ。（あした来る人）

112)’所谓 伟大的工作，想必　往往　　是　　曾根二郎那样　　质朴无华的人

所謂　偉大な仕事　　思う　いつも である　曾根二郎のような　　素朴な人

在　鲜为人知 的 角落里　默默无闻地　于 出来的，决不至于动辄上什么报纸。

prep　NEG 知る　の　片隅　　ひそやかに　行う　COMP

113)「寂しき人々」のヨハンネスと共に、家妻というものの無意味を感ぜずにはいられなかった。これが――この孤独が芳子に由って破られた。（布団）

113)’跟《孤寂的人们》中的约翰奈斯一样，他感到妻子没有意思。

芳子　却　　来　打破　了　这种　孤独感。

芳子　conj　来る　破る　PERF この　孤独感

114) どうして死刑を公開しないんだ」と、夢みるようにつづけた。「戦争中の安寧秩序は、人の非業の死の公開によって保たれていたと思わないかね。（金閣寺）

114)’死刑。为什么不公开死刑？”柏木象说梦话似地继续说道：

“战争期间 所谓 的 安宁秩序　　是　　由 人的非业之死 得以 维护的，不是吗？

戦争中　　所謂　の　安寧秩序　である　原因　人の非業の死　prep　保つ

115)柏木を知ってから鶴川をいくらか疎略にしていた私であったが、失って今更わかることとは、私と明るい昼の世界とをつなぐ一縷の糸が、彼の死によって絶たれてしまったということであった。（金閣寺）

115)’自今与柏木结交，使我同鹤川的来往疏淡下来，现在我才由衷地感到，

他　这 一死　使　我 和 光明的世界 相联的 一根 心线 就此 中断　了。

彼　この　死　させる　私 と　光明の世界　繋ぐ　一本　糸　prep　絶つ　PERF

116)…大貫氏はそれを目当てにして登って行ったものだが、氏の遭難は、その先発登山者のうちの一人に依って営林署巡回員に伝えられたものである。　（あした来る人）

116)’大贯氏　就　以　此　为　目标　往　上　攀去。　最后　还是

大貫氏　conj　prep それ　prep　目標　向かう 上　登っていく　最後　やはり

一名　先行登山者　把　他 遇难的消息　通知 了　营林署巡山员。

一人　先発登山者　prep 彼　遭難のこと　伝える PERF　営林署巡回員

例 113)～115)を見ると、「によって」でマークされるのは、それらが当該受身文の動作主が原因・理由を示しているからである。ただし、細川（1986;124）が指摘しているように「受身文が行為の結果の状態を示すとき、動作主がその状態を引起した使役者（causer）と解釈できれば、動作主もニヨッテで示すことが許容される」。たとえば、例 116)においては動作主である「先発登山者のうちの一人」が「氏の遭難が伝えられた」という状態を引起した使役者であると解釈できる。一方、以上の用例の対訳文はいずれも能動文である。収集された動作主マーカー「によって」を用いる用例のうち、中国語の受身文に訳されたのは、以下の一例しかない。

117)一定の小さな空間が、はじめは物体によって占められていたのが、凝結した時間によって占められるようになる。それは或る種の霊への化身だ。(金閣寺)

117)’一定的　小　空间，起初　由 物体　占有，最后 将　被 凝结的时间　占有。

一定の　小さい　空間　最初　PM　物体　占める　最後 adv　PM　凝結の時間　しめる

它是某种灵向的化身。

5.2.3「から」の場合

「から」は元々移動の起点を表す助詞である。以下の用例において、動作主マーカーとして「から」が用いられるのは、物あるいは情報の移動における起点の解釈が可能であるからと考えられる。以下の用例のうち、例 118)、119)、120)は具体物、例 121)、122)は言語活動による情報、例 123)は心理活動による感情の起点を示している。

一方、その対訳文を見ると、例外なしに能動文である。

118) 父の実の弟ですけれども、そういう点で、性格からいうと父とはまるで違った方へ向いて発達した様にも見えます。父は先祖から譲られた遺産を大事に守って行く篤実一方の男でした。楽みには、茶だの花だのを遣りました。(こころ)

118)’虽然是我父亲的同胞兄弟，可是从性格方面说起来，在这一点上好像是朝着和父亲完全不同的方向发展的。父亲 兢兢业业地 守 着 祖上 留下来 的 遗产、
父 大事に 守る PROG 先祖 残す COMP の 遺産
纯粹是个忠厚笃实的人。他的嗜好，是品茗，研究插花艺术。

119) 鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も潤沢に家から送られ、ただ徒弟の修業を味わわせるために、・・・(金閣寺)

119)’他住在东京近郊、是颇有名望的寺院之子、
学费、零用和口粮 都 由 家中 充分 供给、…
学費 小遣と食糧 すべて prep 家 充分 提供する

120)僕の二十回目の誕生日の三日あとに直子から僕あての小包みが送られてきた。
(ノルウェイの森)

120)’过罢 20 岁生日的第四天，接 到 直子 寄来的 邮包。
もらう COMP 直子 送って来る 小包み

121）時雄は常に苛々していた。書かなければならぬ原稿が幾種もある。書肆からも催促される。金も欲しい。けれどどうしても筆を執って文を綴るような沈着いた心の状態にはなれなかった。（布団）

121）’时雄　经常 焦躁不安，要　写的 稿件 有　好几篇，书店　来　催　他，
時雄　常に　苛々する　必要　書く　原稿　ある　数篇　書肆　来る　催促する　彼
他也需要钱用，但怎么也没法安下心来执笔写文章。

122)「少しでもほめられた事は、一生わすれません。覚えていたほうが、たのしいもの。」
「こないだ、あの方からも、何かとほめられたのでしょう。」
「そうよ。それで、べったりになっちゃったの。私と一緒にいると霊感が、ああ、たまらない。」（斜陽）

122)’“受人称赞的哪怕是小事，一生也忘不了。记住它使人更高兴啊。”
“上次　那个人 大概　也　称赞　过　你　什么　吧？”
この間　あの人　たぶん　も　ほめる　PERF　あなた　なにか　MOD
“是啊，所以我变粘了。他说他跟我在一起就会有灵感……啊，真叫人受不了。”

123）だから僕のようなこれといって特徴もない男が永沢さんの個人的な友人に選ばれたことに対してみんなはひどく驚いたし、そのせいで僕はよく知りもしない人間からちょっとした敬意を払われまでした。　（ノルウェイの森）

123）’所以，当永泽把我这个平庸无奇的人选为他的私人朋友后，大家都大为惊异，
甚至　素不相识的人　都　对　我　流露　出　一丝　敬意。
さらに　知りもしない人　prep　対する 私　表す　COMP　少し　敬意

5.2.4 まとめ

本節では、動作主マーカー「に」、「によって」、「から」それぞれを用いる日本語直接受身文と中国語の対応関係について考察をした。結論として、まず、「によって」、「から」を使用している日本語直接受身文は中国語の能動文と対応していることが挙げられる。ま

た、「に」を使用している場合、動作主が人間活動、抽象的なものであれば、中国語の能動文に訳されるのが多いということが分かった。

5.3　本章のまとめ

本章では、受身文における主語の選択と動作主マーカーに関する考察を行った。まずは、視点の置かれ方、またその転換、事態内視点と事態外視点からガ格の選択について考察した。その結果、以下の点が明らかになった。

第一に、日本語の受身文における主語は厳しく「視点」の配置序列に従う。一方、中国語は「視点」の配置序列に制限されず、日本語より主語の選択がより自由である。第二に、日本語は「視点」の固定化を重視する言語であり、文全体のみならず、一つの文の内部でも「視点」の固定が要求されている。一方、中国語においては、文全体の「視点」は固定しているが、一つの文の内部では視点の固定化が日本語ほど厳しく要求されていないため、「視点」を固定させるためにわざわざ受身文を用いることは極めて少ない。第三に、日本語の場合は、事態を主観的に把握する傾向があるのに対し、中国語の場合は、たとえ話し手自身が事態に臨場していても、事態を自らと切り離して把握し、言語化する傾向がある。また、動作主マーカー「に」、「によって」、「から」それぞれを用いる日本語直接受身文と中国語の対応関係についての考察から、「によって」、「から」を使用している日本語直接受身文は中国語の能動文と対応することが分かった。

第 6 章　述語動詞に関する考察

受身文が文法的に成立するかどうかは、「述語動詞」の特徴と深い関わりを持っている。次の例を見てみよう。

124）華々しい結婚式が挙げられた。

124）’他们举行了豪华的婚礼。

124)”？豪华的婚礼被举行了。

125）*私は映画の主人公に感動された。

125）’我被电影的主人公感动了。

動詞「挙げる」の受身表現である「挙げられる」は受身文として可能ではあるが、“被举行”という動詞の受身表現「被举行」は中国語の受身文には用いられないため、例 124）は例 124）”の受身文ではなく、例 124）’の能動文に訳されている。一方、例 125）においては、日本語では「感動される」という受身表現は用いられないが、125）’の“被感动”は中国語受身文として成立する。つまり、日中両言語における受身文の対応性は述語動詞と深い関わりを持っている。本章では、述語動詞の意味特徴を中心にして、両言語の対応性を考察し、異同点を明らかにした上で、ずれが生じる原因を解明する。

6.1　述語動詞の分類

国立国語研究所編の『分類語彙表』には、日本語動詞が「抽象的関係」、「精神および行為」、「自然現象」という三種類に分類されている[1]。そのうち、「抽象的関係」は存在、整備、変化、動き、移動など 61 種類、「精神および行為」は感覚、思考、創作、支配、授受など 63 種類、「自然現象」は光、音、煙、晴雨、生理、病など 14 種類に下位分類されている[2]。

一方、第 2 章で挙げたように、寺村（1982）は、意味によって動詞を以下のように分けている[3]。

[1]国立国語研究所（1964:16～18）を参照されたい。
[2]国立国語研究所（1964:120～145）を参照されたい。
[3]その詳細は本研究の表 2－1 を参照されたい。

二者の関係を表わす動詞：殺す、愛する、見る、作る、噛み付く、会う、似る･･･

移動の動詞：出る、離れる、通る、歩く、入る、乗る、住む、泊まる･･･

変化の動詞：化ける、なる、変る･･･

授受動詞：贈る、教える、もらう、あずかる･･･

「入れる、出す」類の動詞：おろす、出す、入れる･･･

「変える」類の動詞：換える、増やす･･･

コトを補語としてとる動詞：見る、思う、言う･･･

さらに、工藤（1990）は、動詞の性質と能動―受動の対立を考察するとき、動詞を他動性の強弱により、次の分類を行った。

a 対象（客体）に積極的にはたらきかけてゆくもの

a.1 対象にはたらきかけて対象を変化させるもの

-殺す、切る、壊す、開ける、濡らす、暖める、入れる、出す、止める、外す、消す

a.2 対象にはたらきかけるが、対象の変化はとらえていないもの

-たたく、ける、なでる、もむ、かきまわす、いじる

-話す、伝える、尋ねる（聞く）、教える、読む、歌う、頼む、命令する、許す、すすめる

-(～ニ）かみつく、のしかかる、しがみつく、抱きつく、挨拶する、プロポーズする

a.3 対象に対する積極的な心的態度を表すもの

-（動作的）叱る、からかう、なじる、ほめる、けなす、批判する、注意する

-（状態的）（～ヲ）愛する、嫌う、可愛がる、恐れる、恨む、憎む、騙す、尊敬する、喜ぶ、好む、信用する、軽蔑する、無視する

（～ニ）感心する、背く、注目する、ほれる、感謝する、期待する、同情する

b 対象へのはたらきかけ性が弱いもの

b.1 知覚（感性的認識）活動-見る、聞く、眺める、覗く、見上げる

b.2 思考（知的認識）活動-思う、考える、理解する、想像する、
疑う、推測する

b.3 その他-待つ

c 対象へのはたらきかけ性がないもの、あるいはむしろはたらきかけをうけるもの

-（～ヲ）感じる、知る、察する、ためらう、悔やむ、思い出す、
はばかる、意識する

-（～ニ）驚く、あきれる、苦しむ、困る、怯える、悩む

-つかまる、みつかる、教わる、うけとる、得る

-受ける

工藤（1990:61-62）

本研究では、以上の先行研究を踏まえ、日本語直接受身文の述語動詞として用いられる動詞を次の六種類に分けた。

a 一般動作動詞：

対象を変化させる動詞:殺す、乾かす、壊す、温める、殴る、押す、奪う･･･

対象の変化を捉えていない動詞: たたく、ける、なでる･･･

b 生産動詞：作る、築く、建てる･･･／開く、行う･･･

c 位置関係動詞：

放置の意味を表す動詞：並べる、置く、貼る、敷く･･･

空間的移動の意味を表す動詞：吊る、挙げる、降ろす、抜く･･･

相対的位置変化の意味を表す動詞：包む、覆う、囲む･･･

d 授受動詞：与える、送る、渡す、配る･･･

e 心理動詞：

状態心理動詞：愛する、恨む、好む、信頼する、尊敬する･･･

知覚活動動詞：見る、聞く、眺める、覗く･･･

思考活動動詞：思う、理解する、疑う、考える･･･

f 言語活動動詞：

内容に言及しない動詞：誘う、励ます、ほめる、叱る、責める、口説く･･･

内容に言及する動詞：発表する、述べる、説明する、話す、伝える、報告する･･･

6.2　述語動詞の対応性についての考察

6.2.1 一般動作動詞

人または物事が対象に積極的に働きかけ、対象を変化させる意味を表わす動詞を一般動作動詞 1 とする。日本語では、「殺す」、「壊す」、「温める」、「殴る」などがこの一般動作動詞 1 として挙げられる。この種類の動詞は他動性が強いため、日本語受身文の述語動詞として用いられる。収集した用例のうち、述語動詞が一般動作動詞 1 であるのは 1534 例、73.01%を占めている。また、その対訳文を見てみると、その 93%は例 126)、例 127）のように中国語の受身文と対応している。

一方、「たたく」、「なでる」、「抱擁する」などのような人または物事が対象に積極的に働きかけるが、対象に変化は及ぼさない動詞もある。本研究ではこの種類の動詞を一般動作動詞 2 とする。対訳文から見てみると、この種類の述語動詞を用いる日本語原文の 79.8%は中国語の能動文に訳されている（例 128)、例 129)）。

126)「何だかそれは私にも解らないが、自殺する人はみんな不自然な暴力を使うんでしょう」――「すると殺されるのも、やはり不自然な暴力の御蔭ですね」（こころ）

126）’“那是什么，我也不知道。不过，自杀的人都是使用非自然的暴力吧。”

“这么　说、被　杀　的　人、也是　沾了　非自然暴力　的 光　啦。”

こう　言う　PM　殺す　の　ひと　やはり　つける　不自然な暴力　の　蔭　MOD

127)今度は老師の荒々しい怒りを、雷のような大喝を待った。殴打され、蹴倒され、血を流す羽目になっても悔いないだろうと私は思った。（金閣寺）

127）’这次　我　只　等 着　老师　暴跳如雷　了。我　想　即使

今度　私　ただ　待つ PROG　老師　荒々しく怒る PERF　私　思う　たとえ

被　他　打、　被　他　踢、　鮮血直流 也　不后悔。

PM　彼　殴打する　PM　彼　蹴倒する　血だらけ　も　NEG 後悔する

128)海景は何も見えなかった。波と、濡れている黒い石と、雨だけがあった。油をかけられた柩は、艶やかな木の肌の色をして、雨に叩かれていた。(金閣寺)

128)’这里、见不到　什么 海景。只有　波涛、湿漉漉的　黑石 和 雨。

ここ　見る NEG　何か　海景　ただ　波　濡れる　黒い石　と　雨

雨水　打　在　浇　了　油的 灵柩上、上面的木纹　显得 益发　清晰光艳。

雨水　叩く prep かける PERF　油の　柩の上　その木紋　見える　益々　鮮やか

129)叔父の家から二軒へだてた家に、美しい娘がいた。有為子という名である。目が大きく澄んでいる。家が物持のせいもあるが、権柄ずくな態度をとる。みんなにちやほやされるにもかかわらず、一人ぼっちで、何を考えているのかわからないところがあった。(金閣寺)

129)’同叔父只隔两家的一户街坊有个美丽的姑娘，名叫有为子。她长着一双水灵灵的大眼睛。也许是家中富有的缘故，为人十分傲气。

尽管　家里　十分　宠　她，至今却仍待字闺中，孤单单的，不知她

にも拘らず　家族　とても ちやほやする　彼女

心里在想些什么。

6.2.2 生産動詞

対象がなかった状態から存在する状態に作り出すことを表す動詞を生産動詞と呼ぶ。日本語においては、「作る」、「築く」、「建てる」のような動詞が生産動詞に属する。生産動詞は日本語受身文の述語動詞として用いられる。しかし、中国語の対訳文を見てみると、“被”などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、意味上の受身文に訳されている。

130)宿は鎌倉でも辺鄙な方角にあった。玉突だのアイスクリームだのというハイカラなものには長い畷を一つ越さなければ手が届かなかった。車で行っても二十銭は取られた。けれども個人の別荘は其所此所にいくつでも建てられていた。(こころ)

130）’宿店在镰仓也算处于偏僻的角落，要冲时髦打弹子或吃杯冰激凌不走过一条很长的田间小路是办得到。光坐车也得花两毛钱。

不过　在　那一带、私人别墅 却　散散落落地 建　有　好多　所。

けれども prep　あの辺り　個人別荘　逆に　ばらばら　建てる　ある　いくつ　棟

131）再び克平のところへ戻ると、昼食の食膳が作られてあった。(あした来る人)

131）’当　再次　折回　克平那里　时、午饭　已经　做　好　了。

prep　再び　戻る　克平のところ　とき　昼食　すでに　作る　COMP　PERF

一方、「開く」、「行う」などのような、抽象的な物事を対象とする生産動詞となると、日本語受身文の述語動詞として用いられるが、中国語においてはほとんど用いられない。それらは次の例 132）と例 133）のようにみな中国語では能動文に訳されている。

132)私はずっと前からこの宣告を予感し、覚悟していた筈である。私は寝耳に水の宣告をうけたのではない。それに今更仰天し、狼狽したわけではない。にもかかわらず、私は自分の出奔が衝動によって行われたと考えるほうを好む。(金閣寺)

132）’可以说我早已有预感，早已觉悟到这一点。并非晴天霹雳，所以事到如今，我并不狼狈失措。尽管如此，

我　还是　愿意　把　自己的出走　看成　是　冲动 引发　的 结果。

私　やはり　ほしい prep　自分の出奔　見なす　である　衝動　行う　の　結果

132)”＊我　还是　愿意　把　自己的出走 看成　是　被 冲动 引发 的　结果。

私　やはり　ほしい prep　自分の出奔　見なす　である PM　衝動　行う　の　結果

133）浜へ下りるには、低い崖づたいに下りる小径があった。そこで甚だしい浸蝕に抗して、ほそぼそと護岸工事が行われているのがわかった。、(金閣寺)

133）’低崖边有一条石头小道。为了防止严重的浸蚀，那里　正在 建设 护岸工事。

そこ　PROG　行う　護岸工事

到处都躺卧着白骨般的钢筋混凝土柱子,沙土地上这些新混凝土构件格外显眼。

133)”*低崖边有一条石头小道。为了防止严重的浸蚀,护岸工事 正在 那里 被 建设。

護岸工事　PROG　そこ PM　行う

6.2.3 位置関係を表わす動詞

位置関係を表わす動詞には、放置、空間的移動、相対的位置変化の意味を表わす動詞が含まれている。放置の意味を表す動詞は「並べる」、「置く」、「貼る」、「敷く」など、移動の意味を表す動詞は、「吊る」、「挙げる」、「降ろす」、「抜く」など、相対的位置変化の意味を表わす動詞は「包む」、「覆う」、「囲む」などが挙げられる。

6.2.3.1 放置の意味を表す動詞

放置の意味を表す動詞は、一般的に日中両言語とも受身文の述語動詞として用いられる。しかし、主語が非情物である場合、中国語の“存現文”（“场所＋他動詞＋后置主語”）に対応するものが多い。なぜなら、これらの動詞を用いている直接対象受身文は、例 134）と例 135）のように、ほぼ結果状態を表すからである。

134)自分ひとりだけ置き去りにされ、呼んでも叫んでも、何の手応えの無いたそがれの秋の曠野に立たされているような、これまで味わった事のない凄愴の思いに襲われた。

（斜陽）

134)’我　像是　黄昏　时 被 孤独地　遗弃　在 秋天的旷野里，怎么　呼喊

私　まるで　黄昏　時　PM　孤独的　置き去る　prep　秋の曠野　どんなに　叫ぶ

都　没有用，一种　从未尝到　过的 凄怆　感觉 不由得　涌上　心头。

すべて　NEG 手応え　一種　NEG 味わう PERF　凄愴　感覚　思わず　湧く　心の中

135）空の色は深く碧く、日の光は透通った空気に射渡って、夕の影が濃くあたりを隈ど

るようになった。取り残した芋の葉に雨は終日降頻って、八百屋の店には松茸が並べられた。（布団）

135）’天空一片湛蓝，充满了晴朗的阳光。黄昏的日影浓浓地勾画出周围的轮廓。雨点整天不停地打在拔剩的山芋叶上。菜店里　摆　出　了　松蘑。

八百屋中　並べる COMP　PERF　松茸

136）机の上に郵便物が二つのかごにはいって置かれてある。一つのかごには「要返事」と書かれた紙がはられてある。　（あした来る人）

136）’桌上　放　有　两个　信函篓。一个贴着纸条、上面写着“待复信”。

机の上　置く　有る　二つ　郵便物のかご

6.2.3.2 空間的移動の意味を表わす動詞

移動の意味を表す動詞は日本語の場合、受身文の述語動詞として用いられるが、中国語の場合、対象が有情物であれば、例 137）のように“被”などの受身マーカーを持つ典型的な受身文の述語動詞として用いられる。対象が無生物であれば、例 138）のように「意味上の受身文」の述語動詞として用いられる。

137）暗い中で三沢がだれかと話す声が聞えていたが、やがて、一同は神社の裏手へ案内された。少し傾斜をなしている狭い区域になわ張りがして、むしろが敷いてあり、一同はその一つに招じ入れられた。（あした来る人）

137）’黑暗之中，听得三泽同某人说话。不一会儿，

一行人 被　领　入　神社后院。这里有片狭窄的缓坡，四周拉有绳砣，

一同　PM　案内する　COMP　神社の裏手

中间铺着草席，他们来到席子跟前。”

138）国旗がポールから降ろされ、食堂の窓に電気が灯った。（ノルウェイの森）

138）’国旗　从　旗杆　降下、　食堂窗口　亮　起　灯光。

国旗　から　ポール　降ろす　　食堂の窓　灯る COMP　電気

6.2.3.3　相対的位置変化の意味を表わす動詞

「包む」、「覆う」、「囲む」など相対的位置変化の意味を表わす動詞は、基本的に主語も動作主も非情物である受身文の述語動詞として用いられる。これらの動詞は、対象にはたらきかけ、対象の位置変化をとらえるため、日中両言語の受身文にも述語動詞として用いられる。

139)石段の下方は影に<u>包まれている</u>。しかし中程から上は、月明りの中に在る。(金閣寺)

139)’石阶的下段　　都　<u>被</u>　<u>阴影</u> <u>遮蔽</u>、自中断以上才有月色照临。

石段の下方　すべて　PM　影　遮える

140)なるほど開通したばかりの石のごろごろした道であった。自動車はがたぴし揺れながら雑木に<u>覆われた</u>山へとはいって行った。風が急に冷たくなって来た。

（あした来る人）

140)’果然是条新路，路面满是石子。汽车一边连续摇晃着，

一边　往　<u>被</u> <u>杂木</u> <u>覆盖</u>　的 山里　开去。冷风嗖嗖地从窗口吹了进来。

同時に　prep PM　雑木　覆う　の　山の中　行く

6.2.4 授受動詞

「与える」、「配る」、「譲る」、「贈る」など授受の意味を表わす動詞は、日本語受身文の述語動詞として用いられる。こういう動詞を用いた受身文は、被害の意味が含まれず、受益の意味が含まれている（例 141）と 142))。一方、対訳文を見てみると、受身文ではなく、能動文である。つまり、授受の意味を表わす動詞が中国語の受身文の述語動詞として用いられるのは対象が被害を被る場合だけであると考えられる。

141）父の実の弟ですけれども、そういう点で、性格からいうと父とはまるで違った方へ

向いて発達した様にも見えます。父は先祖から譲られた遺産を大事に守って行く篤実一方の男でした。楽みには、茶だの花だのを遣りました。(こころ)

141）’虽然是我父亲的同胞兄弟，可是从性格方面说起来，在这一点上好像是朝着和父亲完全不同的方向发展的。父亲 兢兢业业地 守 着 祖上 留 下来 的 遗产、
父 大事に 守る PROG 先祖 残す COMP の 遺産
纯粹是个忠厚笃实的人。他的嗜好，是品茗，研究插花艺术。

142）鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も潤沢に家から送られ、ただ徒弟の修業を味わわせるために、・・・(金閣寺)

142）’他住在东京近郊、是颇有名望的寺院之子、
学费、零用和口粮 都 由 家中 充分 供给、…
学費 小遣と食糧 すべて prep 家 充分 提供する

143)僕の二十回目の誕生日の三日あとに直子から僕あての小包みが送られてきた。
(ノルウェイの森)

143)’过罢 20 岁生日的第四天，接 到 直子 寄来的 邮包。
もらう COMP 直子 送って来る 小包み

6.2.5 心理動詞

李临定（1990）は心理動詞を以下のように定義している。

“凡表示喜爱、怨恨、感觉、认知、遗忘等和心理活动密切有关的动词、称为心理活动动词。[4]”

（凡そ好き、恨む、感覚、認知、忘れるなどの心理の動きと密接な関係を表す動詞を心理動詞と呼ぶ。）

本研究では、この定義に適すると思われる動詞について、「対象に対する積極的な心的

[4]李临定（1990:249）を参照されたい。

態度を表すもの」を「心理動詞」とし、またその下位分類としてそれぞれ「状態心理動詞」（「愛する」、「恨む」、「好む」、「信頼する」、「尊敬する」など）、「知覚活動動詞」（「見る」、「聞く」、「眺める」、「覗く」など）、「思考活動動詞」（「思う」、「理解する」、「疑う」、「考える」など）と呼ぶことにする。

6.2.5.1 状態心理動詞

144)「わたしはわたしで、貴方に愛されたこともなかったかわりに、貴方に本当の愛情を持ったこともなかったかと思うんです。」　（あした来る人）

144）’“我　也如此、 既 没有 被　 你　　爱　　过、
私も　同じ　　conj NEG　 PM　あなた　愛する　PERF
同时也可能没有对你产生过真正的爱情。

145)「これも知ってる、あれももう知ってる、うんもう全部わかったってさ。そういう人なんだよ。そういう人は世間では尊敬されるのさ」。　（ノルウエィの森）

145)’“说 什么　这个 也　懂，那个 也　晓得，没一个　 不明白的。他　 就是
言うCOMP　これ　も　知る　あれ　も　知る　 NEG一つ　NEG分かる　　彼　である
这样的人，而　 这样的人 才　 会　在　社会上　被　人　 尊敬。”
こういう人　conj こういう人 conj できる prep　社会　　PM　人々　尊敬する

146)先生の返事が来た時、私は一寸驚ろかされた。ことにその内容が特別の用件を含んでいなかった時、驚ろかされた。（こころ）

146)’接　　到　先生　回信 的 时候，我　 稍微有些 吃惊。 尤其　因为　信里
もらうCOMP　先生　 返事　の　時　　私　　ちょっと　 驚く　 特に　原因　 手紙の中
没有写着　什么　特别的事情。
NEG書く　　何か　特別なこと

146)”*接　 到　 先生 回信 的 时候，我　稍微有些　　被　吃惊。
もらうCOMP　先生　返事　の　時　　私　ちょっとある　 PM　 驚く

147) 自分が遭難者に間違えられたことで、まるで自分がだれからも心配されて然るべき権利を持ってでもいるような言い方をした。　　（あした来る人）

147）’瞧他那口气、就好像他被误认为遇难者、

因此　就　拥有 任何人　都 必须　担心　自己的权利 似的。

そのため　prep 持つ すべての人 prep 必ず 心配する　自分の権利　みたい

147)” ＊因此　就　拥有 自己　必须 被　任何人　担心　的 权利　似的。

そのため　prep　持つ　自分　必ず　PM　すべての人　心配する　の 権利　みたい

以上の例で見られるように、日本語はいずれも成立するが、中国語においては、例 144）の「愛する」、例 145）の「尊敬する」は受身文の述語動詞として用いられるが、例 146）の「驚かす」、例 147)の「心配する」は用いられない。つまり、状態心理動詞の場合、日本語は中国語より受動が成立しやすい。

6.2.5.2 知覚活動動詞

本研究では、人間が視覚・聴覚・味覚など五感により行った知覚活動を表わす動詞を知覚活動動詞とする。日本語の「見る」はその代表的な動詞である。他には、「聞く」、「眺める」、「覗く」なども含まれている。このような動詞は、行為者の積極的な意志が入っているため、日中両言語の受身文の述語動詞としても用いられる。

148）近所の人に見られて不審に思われるんじゃないかと心配したが、、朝の六時前にはまだ誰も通りを歩いてはいなかった。（ノルウェイの森）

148）’我　担心　被　附近的人 发现　　招致　　怀疑、

私　心配する　PM　近所の人　見かける　招致する　疑い

好在清早 6 点之前的街上尚无任何人通过。

149)不具者も、美貌の女も、見られることに疲れて、見られる存在であることに飽き果てて、追いつめられて、存在そのもので見返している。　（金閣寺）

149）’残疾人 也 好、 美女 也 好、都已　　疲　于　被 人 注视、

不具者　も 良い　美女 も 良い もうすでに　疲れる prep　PM　人　見る

厌于再做一个被看的存在；当其走投无路时、遂回首以其存在本色相见。

6.2.5.3 思考活動動詞

思考活動動詞の受身文はその思考の「内容」に言及するかどうかにより以下の二種に分けられる。

A「人が＋人に＋思考活動動詞」

B「人が(＋人に)＋内容を／と＋思考活動動詞」

A の「人が＋人に＋動詞」に用いられる動詞として、「知る」、「間違える」、「理解する」などが挙げられ、それに対応する中国語動詞には“知道”、“搞错”、“理解”などがある。これらの動詞は日中両言語においても、受身文の述語動詞として可能である。

150)「まさか」と僕は言った。「僕はそれほど強い人間じゃありませんよ。誰にも理解されなくていいと思っているわけじゃない。理解しあいたいと思う相手だっています。ただそれ以外の人々にはある程度理解されなくても、まあこれは仕方ないだろうと思っているだけです。(ノルウェイの森)

150)’“难说。”我答道，“我不是那样的强者，也并不认为

不　被　任何人　理解　也 无所谓，希望相互理解的对象也是有的。

NEG　PM　すべての人　理解する　も 構わない

只不过对除此以外的人，觉得在某种程度上即使不　被　理解　也 无可奈何，

NEG　PM　理解する も　仕方ない

这是不可强求的事。”

151)「ねえ、私、悪く言ってるんじゃないのよ。私ね、うまく感情を言葉で表わすことができないのよ。だからしょっちゅう誤解されるの。私が言いたいのは、あなたのことが好きだってこと。これさっき言ったかしら?」　(ノルウェイの森)

151)’“嗳，我说话可能不大中听，我不善于用语言表达感情，

时常　被　人　误解。其实我想说的是：我喜欢你。刚才也说了吧？”

いつも　PM　人　誤解する

一方、B に用いられる動詞は、「思う」「考える」などであり、それに対応する中国語の動詞は“认为”“ 觉得”などである。こういった動詞は、例 152)、例 153）のような受身文の述語動詞として用いられる用例もあるが、例 154）のように、受身より自発と解釈されるほうがより適切であると考えられる用例もある。

152）キズキにはたしかに冷笑的な傾向があって他人からは傲慢だと思われることも多かったが、…（ノルウェイの森）

152）’木月　有　一种 喜欢 冷笑的倾向、往往　被 人 认为 傲慢、……

キズキ ある　一種　好き　冷笑的な傾向　いつも　PM　人　思う　傲慢

153)戦争中、政府の役人に奥さんほど判った人が居たら、苦労はしませんでしたよ。食糧増産に関する研究でないと研究とは見なされませんでしたからね。（あした来る人）

153）’战争期间，如果政论官员中有太太这样的开明人士，事情可就好办多了。那时候，只要研究课题不同增产粮食有关，就 一律 不 被　视为　科研。

conj 一律 NEG PM　見なす　研究

154）その身と芳子とは尽きざる縁があるように思われる。（布団）

154）’总　觉得 他和芳子之间 有　无限的 缘分。

いつも　思う　彼と芳子の間　有る　無限の　縁

154)”＊ 被 觉得 他和芳子之间 有　无限的 缘分。

PM　思う　彼と芳子の間　有る　無限の　縁

6.2.6 言語活動動詞

人が言葉を通じてコミュニケーションする活動を表わす動詞を言語活動動詞とする。この言語活動動詞を述語動詞とする受身文はさらに以下の二種類に分けられる。

A「人が＋人に＋言語活動動詞」

B「人が(＋人に)＋内容を／と＋言語活動動詞」

A の「人が＋人に＋動詞」という文型であるが、「人」に対する働きかけを表わすのみで、言語活動の内容には触れない。日本語においては、この種の能動文に用いられる動詞として、「誘う」、「励ます」、「ほめる」、「叱る」、「責める」、「口説く」などが挙げられる。対応する訳文を見ると、中国語においても、この動作主の意図性が強い動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられる。

155）宅へ帰って食卓に向った時、奥さんはどうして遅くなったのかと尋ねました。私はKに誘われて上野へ行ったと答えました。（こころ）

155）’回到家里坐向餐桌时，太太问为什么回来迟了，
我 回答说 被 K 约 到 上野公园 去 了。
私 答える PM K 誘う COMP 上野公園 行く PERF

156）成程客を置いている以上、それも尤もな事だと私が考えた時、御嬢さんは私の顔を見て又笑い出しました。然し今度は奥さんに叱られてすぐ已めました。（こころ）

156）’既然招留了房客，那也是理所当然的事。我正在思索时，小姐看着我的脸又笑起来了。然而 这回 被 太太 叱责 一下 就 止住 了。
しかし 今回 PM 奥さん 叱る COMP conj 已める PERF

157）八千代にきかれて、梶はつまった。（あした来る人）

157）’给 八千代 这么 一问，梶 一时 语塞。
PM 八千代 このように 聞く 梶 一時的 詰まる

一方、B の「人が(＋人に)＋内容を／と＋動詞」という形の文は、A のタイプの動詞を用いた能動文と異なり、言語活動の内容に触れている。つまり、言語活動を行う前に言語活動の内容は存在せず、言語活動を行ってはじめてその内容が存在するようになるわけである。この意味では、生産動詞と共通している。この種類の動詞として、「発表する」、「述べる」、「説明する」、「話す」、「言う」、「呼ぶ」、「伝える」、「報告する」などが挙げられる。

これらの動詞を述語動詞とする受身文は、ほとんど例 158)、例 159）のように中立的な意味を表している。

158）禅は無相を体とするといわれ、自分の心が形も相もないものだと知ることがすなわち見性だといわれるが……（金閣寺）

158）’禅家 据说 以 无相 为 体、以悟得己心无相为体、以悟得己心无相为见性。
禅 言う prep 無相 perp 体

158)”？禅家 被 说 以 无相 为 体、以悟得己心无相为体、……
禅 PM 言う prep 無相 perp 体

159) 上からは食糧費源としての鮫をやれと言われたんです。それもいいが研究費が年額三千五百円です。どうにもなりませんでしたよ。 （あした来る人）

159）’上头 叫 研究 作为 粮食资源 的 鲨鱼。那倒并无不可，
上 言う 研究する として 食料資源 の 鮫
只是研究经费一年才三千五百元，根本无济于事。

159)”？被 上头 叫 研究 作为 粮食资源 的 鲨鱼。那倒并无不可，……
PM 上 言う 研究する として 食料資源 の 鮫

中国語の訳文の見ると、例 158)’も 159)’も能動文である。もし 158)”、159)”のように日本語と同じ受身文にすると、被害の意味が含まれることになり、中立的な意味を持つ日本語の受身文とニュアンスが異なってくる。そのため、例 158)、例 159）の中国語の訳文として、“被说成……”より“据说……”、“被上头叫……”より“上头叫……”のほうがより自然なわけである。要するに、言語活動動詞は、一般的に日本語受身文の述語動詞として用いられるが、中国語は、言語活動の内容にしか触れず、しかも被害の意味を表さない場合は受身文は用いられない。

6.2.7　まとめ

以上の分析結果は次の表 6－1 にまとめられる。

表 6－1　日本語受身文における述語動詞と中国語の対応状況

<table>
<tr><th colspan="3">日本語受身文における述語動詞の種類</th><th>中国語受身文の述語動詞として用いることができるかどうか</th></tr>
<tr><td rowspan="2">一般動作動詞</td><td colspan="2">対象の変化あり</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">対象の変化なし</td><td>△</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生産動詞</td><td colspan="2">具体的</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">抽象的</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">位置関係動詞</td><td colspan="2">放置</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">空間的移動</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">相対的位置変化</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="3">授受動詞</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="4">心理動詞</td><td colspan="2">状態</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">知覚活動</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">思考活動</td><td>内容への言及なし</td><td>○</td></tr>
<tr><td>内容への言及あり</td><td>△</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語活動動詞</td><td colspan="2">内容への言及なし</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">内容への言及あり</td><td>×</td></tr>
</table>

（「○」は成立すること、「×」は成立しないこと、「△」は揺れがあることを表す。）

この表 6－1 から日中両言語における受身文述語動詞の異同がうかがえる。

共通点としては、動作性の強い（対象を変化させる）一般動作動詞 1、位置関係動詞、内容への言及がない思考活動動詞、言語活動動詞が受身文の述語動詞として用いられやすい、という点が挙げられる。

一方、相違点としては、まず、抽象的な生産の意味を表わす生産動詞、授受動詞、内容への言及がある言語活動動詞は中国語の受身文の述語動詞としては用いられない。また、具体的な生産の意味を表わす動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられるが、「被」などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、「意味上の受身文」となる。

本節では、述語動詞の意味特徴を中心にして、両言語の対応性を検討した、次は、この結果について更に詳しく考察を進めたい。

6.3　両言語の相違点に関する考察

6.3.1 他動的事態と動詞のプロトタイプ

第 3 章でも触れたように、Langacker（1990a）は、事態概念を認知的に理想化して捉える一つのモデルとして「ビリヤードボール・モデル」を提案し、さらにその一側面に相当する事態認知モデルをアクション･チェーンと名づけた。このアクション･チェーンモデルは物体が相互にエネルギー伝達を行うことで形成されるネットワークの中で、特に一方向的なエネルギーの流れを指す。前掲の図 3－2 に示したように、他動的事態のプロトタイプ（動作主（Agent）がエネルギーを動作の対象（Patient）に与えることでその位置・状態を変化させるのはアクション･チェーンによる表示が可能である。つまり、このアクション･チェーンを用いることにより、エネルギー伝達に関わる事態がどのように参与者を含み、どのような種類の関係から成立しているかを表示することができ、文や動詞など事態に関わる現象の分析に有効である[5]。

[5]河上（1996:118）を参照されたい。

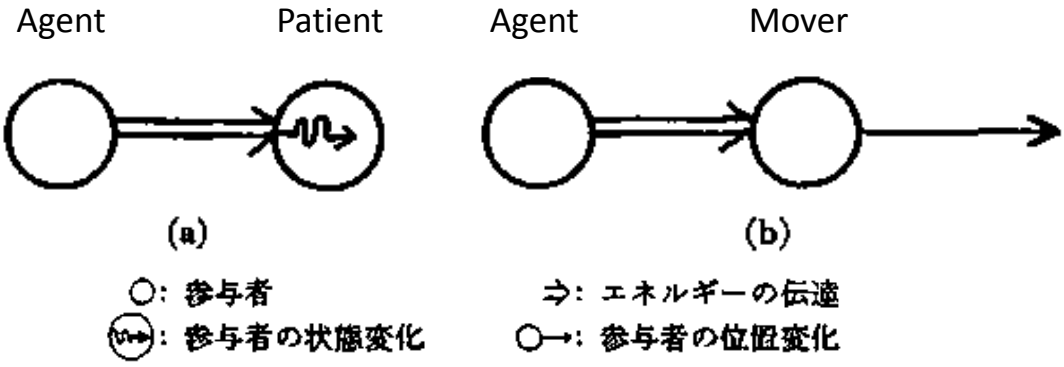


図 3－2　状態と位置の変化

一方、Hopper and Thompson （1980）は、この事態の他動性に関する研究として、「他動性のプロトタイプ」に、以下のように 10 の特性が見られると述べている。

a. Two noun phrase participants, an agent and an object
（動作主とその対象の二つの参与者を表す名詞句）[6]
b. Kinesis, denoting an action or event
（行為や出来事を表す運動）
c. Telic aspect, i.e. sense of a completed goal
（完結のアスペクト：目標の達成）
d. Punctuality, denoting a sudden action
（点的で突然の行為を述べる）
e. Volitionality, denoting a deliberate action
（意志性：故意の行為を表す）
f. Affirmation—an affirmative clause
（肯定性：肯定的節である）
g. Modality—the clause is in the realis mode
（法性：現実を表す節である）
h. Agency—the agent is human or otherwise autonomous
（動作主性：動作主は人間、あるいは自立したもの）
i. Object affectedness—the object is changed in some way
（対象の影響性：対象が何らかの変化を受ける）

[6] 和訳は河上（1996:119）より引用したものである。

j. Object individuation, i.e. definiteness-referentiality
（対象の個別性：特定的で指示的なもの）

Hopper and Thompson（1990:284-288）

河上（1996）は、これらの研究を踏まえ、他動性と文法関係に関するプロトタイプをまとめ、次のように表している。

他動性のプロトタイプ：動作主・被動作主の 2 者が関与し、動作主からエネルギーによって被動作主が位置・状態の変化を起こす。

（河上 1996:119-120）

さらに、ロナルド・W・ラネカー（2011a）は名詞がモノをプロファイル[7]するように、すべて動詞はプロセス[8]をプロファイルすると述べ、動詞のプロトタイプは、以下のように指摘している。

行為、すなわち意図を持った動作主によって観察可能な変化がもたらされる事象である。

ロナルド・W・ラネカー（2011a:49）

以上の先行研究から見ると、他動性に関わる最も重要な条件は「動作主の意図性」、「エネルギーの伝達」と「対象の変化」であると考えられる。ここで、もう一度 6.1 で分類された動詞を見てみよう。

[7]プロファイルとは、ロナルド・W・ラネカーの認知文法における用語。語の意味を得る際に焦点化される部分的な構造である。

[8]ロナルド・W・ラネカー（2011a）はすべての動詞に共通するよりスキーマ的な概念として、出来事を時間の展開にそって 1 コマごとに順次的に心的操作するという関係を提案する。また、これを「プロセス（process）」と呼ぶ。

表 6－2　動詞の他動性

		動作主の意図性	エネルギーの伝達	対象の変化
一般動作動詞	1	＋	＋	＋
	2	＋	＋	－
生産動詞	具体的	＋	－	＋
	抽象的	＋	－	－
位置関係動詞	放置	＋	＋	＋
	空間的移動	＋	＋	＋
	相対的位置変化	－	＋	＋
授受動詞		＋	＋	＋
心理動詞	状態	＋	＋	＋
	知覚活動	＋	＋	－
	思考活動	＋	＋	－
言語活動動詞		＋	－	－

人または物事がある対象に積極的に働きかけ、その対象を状態変化させる意味を表わす一般動作動詞 1、位置変化させる放置、空間的移動、相対的位置変化の意味を表す位置関係動詞、物事を授受する意味を表す授受動詞はプロトタイプと合致し、プロトタイプ的な他動詞と見なされる。

人または物事がある対象に積極的に働きかけるが、対象の変化はとらえていない一般動作動詞 2 は意図を持った動作主からエネルギーの伝達はあるが、観察可能な状態／位置変化がもたらされない。また、物事がなかった状態から存在する状態に作り出すことを表す動詞である生産動詞は結果的に物事の状態／位置変化が捉えられるが、行為開始時点では

物事が存在していないため、動作主から直接エネルギーを与えることはできない。したがって、この一般動作動詞 2、生産動詞、はプロトタイプからやや逸脱していると考えられる。

人間の心理の動きと密接な関係を表す心理動詞と人が言葉を通じてコミュニケーションする活動を表わす言語活動動詞は動作主・対象の 2 者の間エネルギーの伝達もなく、観察可能な状態／位置変化ももたらされないため、プロトタイプからかなり逸脱していると考えられる。

一方、谷口（2005）は Langacker（1990a）のピリヤードボール・モデルに基づくアクション・チェーンモデルによって、プロトタイプ的他動関係を次の図 6－1 のように表示する。

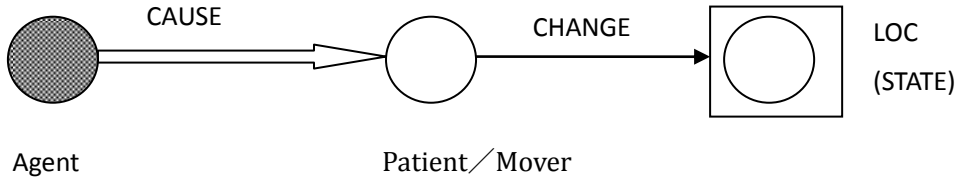


図 6－1　P-transitive　relation[9]

谷口（2005:34）

これは、動作主の意味役割を担う参与者が、もう 1 つの参与者である対象にエネルギーを伝達し、その状態を変化させる状態的な他動関係である。また、動作主からのエネルギー伝達を受け、対象の位置が移動する空間的な他動関係も同様に捉えることができる。つまり、アクションチェーンによって表示されて他動的事態がこの P-transitive relation に合致する度合によって、他動性の高さが予測できると考えられる。

6.3.2 受身文における述語動詞の他動性

6.3.2.1　一般動作動詞

[9]谷口（2005:34）では“Prototypical transitive relation（プロトタイプ的他動関係）”が「P-transitive relation」と省略されている。

160）太郎は次郎を殺した。［Patient］

161）太郎は次郎の肩を叩いた。

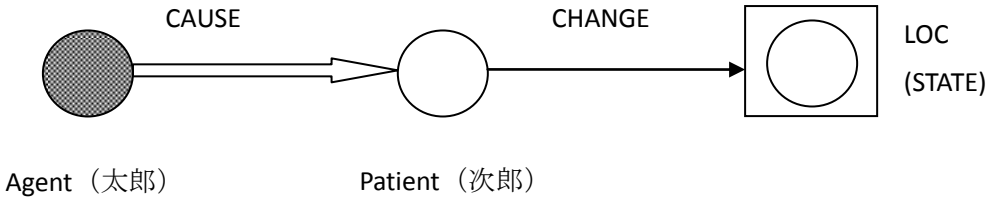


図 6－2　一般動作動詞 1

この図 6-2 は、例 160）の「太郎は次郎を殺した」といった他動的な事態がアクションチェーンによって表示されたものである。まず、動作主(Agent)である太郎が、対象(Patient)である次郎に対してエネルギーの伝達の関係が CAUSE であり、図では二重矢印で表記している。次に、エネルギーを与えられた結果、対象の状態が変化する（つまり、生きている状態から死んだ状態に変化した)。この対象の状態の変化が CHANGE であり、図では一重矢印で表わしている。その結果、最終的にある結果状態（次郎が死んだ状態）が生じる。この結果状態が LOC(STATE)で、図では四角囲みで表記されている。

この図 6-2 から分かるように、対象の状態変化がある一般動作動詞 1 が表す他動的事態のアクションチェーンはプロトタイプ的他動関係（図 6－1）に合致している。つまり、この一般動作動詞 1 がプロトタイプ的な他動詞であるとみなされる。収集した用例から見ると、以下の例 162)が示したように、この他動性が強い他動詞である一般動作動詞 1 が日中両言語の受身文の述語動詞として用いられる。

162)「何だかそれは私にも解らないが、自殺する人はみんな不自然な暴力を使うんでしょう」――「すると殺されるのも、やはり不自然な暴力の御蔭ですね」（こころ）

162）’ “那是什么，我也不知道。不过，自杀的人都是使用非自然的暴力吧。”

“这么　说、被　杀　的　人、也是　沾了　非自然暴力　的 光　啦。”

こう　言う　PM　殺す　の　ひと　やはり　つける　不自然な暴力　の　蔭　MOD

一方、例 161)の「太郎は次郎の肩を叩いた」といった事態では、動作主がある対象にエネルギーを加えているものの、その結果として対象の位置／状態変化が捉えられていない。それは、動作主の作用があくまで対象の表面に留まっているからであると考えられる。

こうした特性から、一般動作動詞 2 の表す事態をアクションチェーンによって表示すると、以下の図 6－3 のようになる。

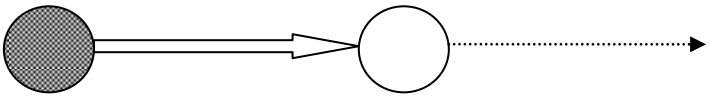


図 6－3　一般動作動詞 2

この図が示したように、一般動作動詞 2 は、エネルギーを受ける対象の状態的変化を含意しないため、LOC(STATE)を欠いた形で表されている。この点で、このタイプの他動詞はプロトタイプから逸脱していることが分かる。収集した用例を見ると、このタイプの動詞を述語動詞として用いられた日本語受身文の 8 割は中国語の能動文に訳されている。

163)海景は何も見えなかった。波と、濡れている黒い石と、雨だけがあった。油をかけられた<u>柩は</u>、艶やかな木の肌の色をして、<u>雨に叩かれていた</u>。（金閣寺）

163)’这里、见不到　什么 海景。只有　波涛、湿漉漉的　　黑石 和 雨。

ここ　見る NEG　何か　海景　　ただ　波　　濡れる　黒い石　と　雨

<u>雨水</u>　<u>打</u>　<u>在</u>　浇　　了　油的 <u>灵柩上</u>、上面的木纹　显得 益发　清晰光艳。

雨水　叩く prep かける PERF　油の　柩の上　　その木紋　見える　益々　鮮やか

6.3.2.2　生産動詞

164）太郎は家を<u>建てた</u>。

165）学校は卒業式を<u>行った</u>。

この例 164)の動詞「建てる」が表す生産行為において、作り出されるものに相当する対

象は動作の開始時点から存在しているのではなく、動作が完結した時に具体化するものである。例えば、164)では動作主である太郎は建てるという動作を開始した時点で家(対象)はまだ存在しておらず、太郎の生産行為の完結とともに生じるものである。動作の開始時点に対象が存在してないため、動作主による直接エネルギーの伝達が不可能である。そのため、この事態はアクションチェーンを用いて次のように表示されている。

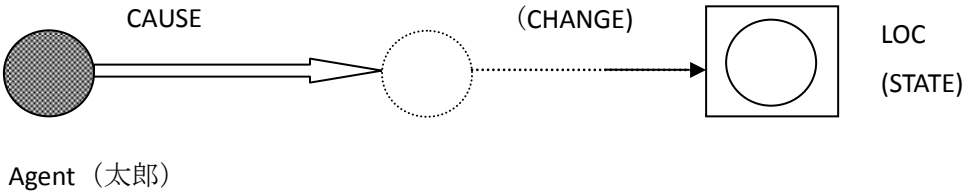


図 6－4　　生産動詞（具体物）

この図 6-4 から分かるように、このタイプの動詞の表す事態が、対象が動作の開始時点に存在してないため、アクションチェーンの中間部に相当する CHANGE が欠落した形となった。つまり、このタイプの動詞はプロトタイプから逸脱するのである。収集した用例を見ると、日中両言語でもこの対象が具体物である生産動詞を受身文の述語動詞として用いるが、中国語の場合、“被”などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、意味上の受身文である。

166)宿は鎌倉でも辺鄙な方角にあった。玉突だのアイスクリームだのというハイカラなものには長い畷を一つ越さなければ手が届かなかった。車で行っても二十銭は取られた。けれども<u>個人の別荘は</u>其所此所にいくつでも<u>建てられていた</u>。(こころ)

166）’宿店在镰仓也算处于偏僻的角落，要冲时髦打弹子或吃杯冰激凌不走过一条很长的田间小路是办得到。光坐车也得花两毛钱。

不过　在　那一带、<u>私人别墅</u> 却　散散落落地 <u>建</u>　有　好多　所。

けれども prep　あの辺り　個人別荘　逆に　ばらばら　建てる　ある　いくつ　棟

一方、165)の動詞「行う」が表す生産行為において、作り出されるものに相当する対象は動作の開始時点から存在してないだけでなく、動作が完結した時にも具体化していない。

アクションチェーンを用いて表示すると、次の図 6－5 のとおりである。

165)の動作主がその対象に直接エネルギーを与えることができないのは 164)と同じである。しかし、164)の生産動詞の対象は動作の完結時点に生じるが、165)の動作の完結時点でも、その対象を具体化していない。つまり、エネルギーの伝達もなく、対象の状態／位置変化も捉えていない。

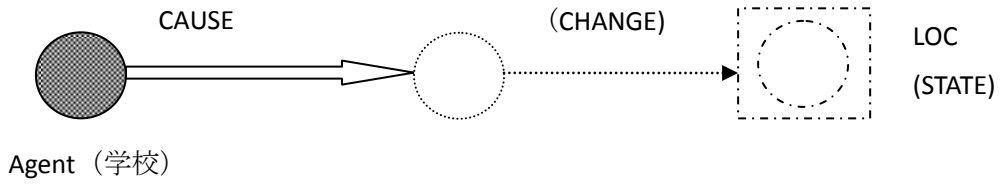


図 6－5　　生産動詞（抽象物）

収集した用例を見ると、以下の例 167)が示したように、この対象が抽象物である生産動詞はプロトタイプからかなり逸脱しており、日本語は受身文の述語動詞として用いられるが、中国語においてはほとんど用いられない。

167）浜へ下りるには、低い崖づたいに下りる小径があった。そこで甚だしい浸蝕に抗して、ほそぼそと護岸工事が行われているのがわかった。、(金閣寺)

167）’低崖边有一条石头小道。为了防止严重的浸蚀，那里　正在 建设 护岸工事。
そこ　PROG　行う　護岸工事

到处都躺卧着白骨般的钢筋混凝土柱子,沙土地上这些新混凝土构件格外显眼。

6.3.2.3　位置関係動詞

168)太郎は机の上に本を置いた。[Mover]

太郎はボールから国旗を降ろした。[Mover]

太郎は紙で本を包んだ。[Mover]

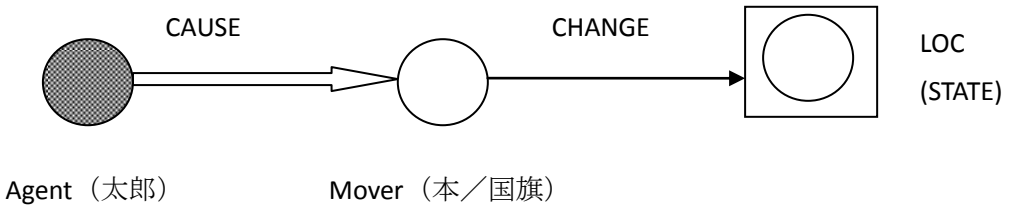


図 6－6　　位置関係動詞

この例 168)の「太郎は机の上に本を置いた／国旗を降ろした／紙で本を包んだ」といった事態においては、動作主からエネルギーを伝達した結果、対象の状態ではなく、位置が変化するため、Patient ではなく、Mover で表示している。この図から見ると、位置関係動詞が表す他動的事態のアクションチェーンはプロトタイプ的他動関係（図 6－1）に合致している。つまり、位置関係動詞がプロトタイプ的な他動詞であるとみなされる。そのため、位置関係動詞が以下の例 169)、170)、171)が示したように、日中両言語でも受身文の述語動詞として用いられる。

169）机の上に郵便物が二つのかごにはいって置かれてある。一つのかごには「要返事」と書かれた紙がはられてある。　（あした来る人）

169）’桌上　放　有　两个　信函篓。一个贴着纸条、上面写着“待复信”。
机の上　置く　有る　二つ　郵便物のかご

170）国旗がポールから降ろされ、食堂の窓に電気が灯った。（ノルウェイの森）

170）’国旗　从　旗杆　降下、食堂窗口　亮　起　灯光。
国旗　から　ポール　降ろす　食堂の窓　灯る COMP　電気

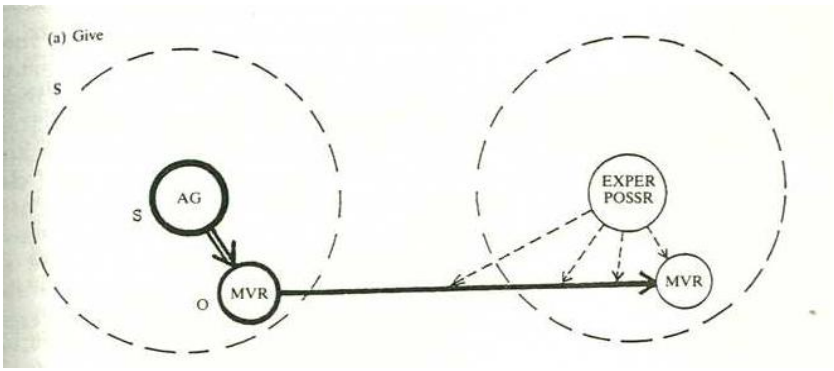
171)石段の下方は影に包まれている。しかし中程から上は、月明りの中に在る。(金閣寺)

171)’石阶的下段　都　被　阴影 遮蔽、自中断以上才有月色照临。
石段の下方　すべて　PM　影　遮える

6.3.2.4　授受動詞

172）太郎が次郎に本を送った。

次は、授受動詞を見てみよう。このタイプの動詞が「動作主から受領者へ対象を移動する」という事態を表し、動作主(Agent)、受領者(Recipient)、対象(Patient)という意味役割を取る項が必要である。Langacker（1990b）は give の表す事態を次のように表示している。



Langacker（1990b：227）

破線の円は Agent と Recipient の所有領域を表している。Agent が、Mover に対してエネルギーの伝達の関係が二重矢印で表記されており、エネルギーを与えられた結果、Mover の位置が移動するが、この位置の変化は一重矢印で表わされている。破線の矢印は Recipient から Mover への注意や意識を向ける複雑な方法を表している。つまり、例172）の「太郎が次郎に本を送った」といった事態は以下の図 6-7 のようにアクションチェーンによって表示できる。

このように、動作主の所有領域から受領者の所有領域へと Mover が移動するという事態は、プロトタイプ的他動関係、つまり、図 6－1 で提示された P-transitiverelation に受領者の所有領域が加わることで拡張されたものと見なされる。そのため、授受動詞も他動性が高いと考えられる。しかし、収集した用例から見ると、この授受動詞は、他動性が高いとは言え、中国語の受身文には用いられない。

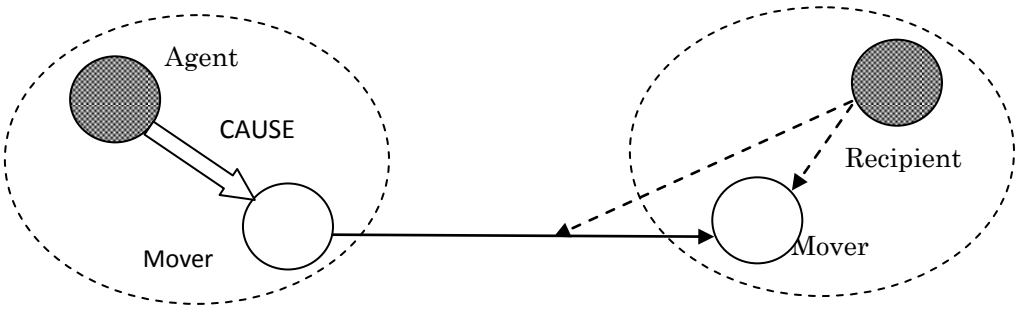


図 6－7　　授受動詞

173）鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も潤沢に家から送られ、ただ徒弟の修業を味わわせるために、・・・（金閣寺）

173）’他住在东京近郊、是颇有名望的寺院之子、

学费、零用和口粮　都　由　家中　充分　供给、…

学費　小遣と食糧　すべて prep　家　充分　提供する

6.3.2.5　心理動詞

174）太郎は花子を愛している。

175）太郎は次郎を見た。

176）太郎はそのことを誤解した。

174)の「愛する」という状態心理動詞において、動作主は対象に物理的にはたらきかけるのではなく、積極的に心的態度を表す。つまり、動作主から対象に物理的エネルギーは与えない。しかし、動作主は心理的な力を対象に与えることによってその状態を変化させており、対象に相当の影響を及ぼす「心理的な力」をメタファー的に「エネルギー」と解釈することも可能である。そのため、アクションチェーンでは次のように表示される。動作主から対象の二重矢印が点線となっているのは、それが物理的ではなくメタファー的なエネルギー伝達であることを示す。

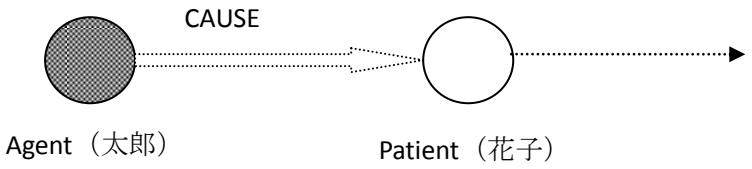


図 6－8　　状態心理動詞

一方、例 175）と 176)のタイプの動詞によって表される他動的事態では、太郎は動作主であると見なされるより、経験者（Experiencer）であると見なされたほうがより適切であると考えられる。したがって、このような知覚経験に相当する事態においては、経験者が対象にエネルギーを伝達するわけではなく、従って知覚の対象の状態的／位置的な変化は起こらない。しかし、河上（1996）で指摘されたように、このような事態は、他動性のプロトタイプにおけるエネルギー伝達と同様、一方の動作主から対象への「非対称的関係」であると認めることができる。したがって、アクションチェーンに類似したものとして表示される[10]。このモデルでは、経験者から対象へのメンタルコンタクト（mental contact：注意や意識を向けること）が破線矢印によって表される。

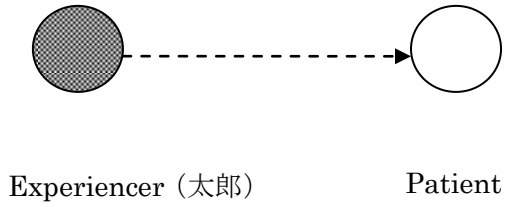


図 6－9　　知覚･思考活動動詞

以上の図 6-8 と図 6-9 から分かるように、心理動詞は、対象の位置的・状態的変化を含意しないため、LOC(STATE)を欠いた形で表す事態を表示しており、プロトタイプから逸脱していると言える。しかし、状態心理動詞の場合、動作主のメタファー的なエネルギー伝達によって、対象の心理状態が変化される。知覚･思考活動動詞の場合、一方の動作主（経験者）から対象への「非対称的関係」であると認めることができる。そのため、心理

[10]河上（1996:120）を参照されたい。

動詞は、他動性が高いと考えられる。収集した用例を見ると、日中両言語でもこの心理動詞が受身文の述語動詞として用いられる（例 177)、178)、179))。

177）「わたしはわたしで、貴方に愛されたこともなかったかわりに、貴方に本当の愛情を持ったこともなかったかと思うんです。」　（あした来る人）

177）’“我　也如此、 既 没有 被　 你　　爱　　过、

私も　同じ　　conj NEG　 PM　あなた　愛する　PERF

同时也可能没有对你产生过真正的爱情。

178）近所の人に見られて不審に思われるんじゃないかと心配したが、、朝の六時前にはまだ誰も通りを歩いてはいなかった。（ノルウェイの森）

178）’我　 担心　 被　附近的人 发现　　招致　　怀疑、

私　心配する　PM　近所の人　 見かける　招致する　疑い

好在清早 6 点之前的街上尚无任何人通过。

179)「ねえ、私、悪く言ってるんじゃないのよ。私ね、うまく感情を言葉で表わすことができないのよ。だからしょっちゅう誤解されるの。私が言いたいのは、あなたのことが好きだってこと。これさっき言ったかしら?」　（ノルウェイの森）

179）’“嗳，我说话可能不大中听，我不善于用语言表达感情，

时常　 被　人　误解。其实我想说的是：我喜欢你。刚才也说了吧？”

いつも　PM　人　誤解する

6.3.2.6　言語活動動詞

180）太郎は次郎を叱った。

181）太郎行かないと言った。

例 180) のような内容への言及がない言語活動動詞においては、動作主は対象に対して、物理的にエネルギーを伝達するのではないため、エネルギーの伝達の関係が表す CAUSE

が破線の二重矢印になっている。また、動作の結果として対象の位置／状態変化がないため、LOC(STATE)を欠いた形で表されている。

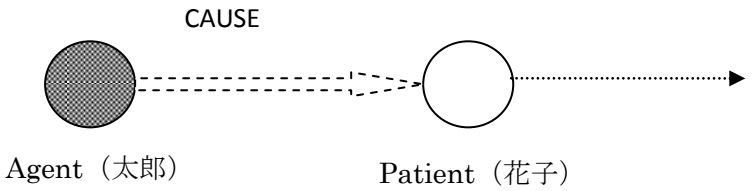


図 6－10　言語活動動詞（内容への言及なし）

この図から見ると、このタイプの動詞はプロトタイプから逸脱しているが、動作主と対象が存在し、動作主から物理的にエネルギーを伝達していないが、意図性の強い働きかけがある。つまり、このタイプの動詞は他動性が高いと考えられる。また、収集した用例から見ると、日中両言語でもこの内容へ言及しない言語活動動詞が受身文の述語動詞として用いられる（例 182)）。

182）成程客を置いている以上、それも尤もな事だと私が考えた時、御嬢さんは私の顔を見て又笑い出しました。然し今度は奥さんに叱られてすぐ已めました。（こころ）

182）’既然招留了房客，那也是理所当然的事。我正在思索时，小姐看着我的脸又笑起来了。然而　这回　被 太太　叱责 一下　就　止住　了。

しかし 今回　PM　奥さん　叱る　COMP　conj　已める　PERF

一方、例 181）のような内容への言及がある言語活動動詞においては、動作主による言語活動を行う前に言語活動の内容が存在せず、言語活動を行ってはじめてその内容が存在するようになるわけである。この意味では、生産動詞と共通している。また、言語活動による「生産」されたことはすべて抽象的であるため、生産動詞（抽象物）と同じアクションチェーンで表示される。

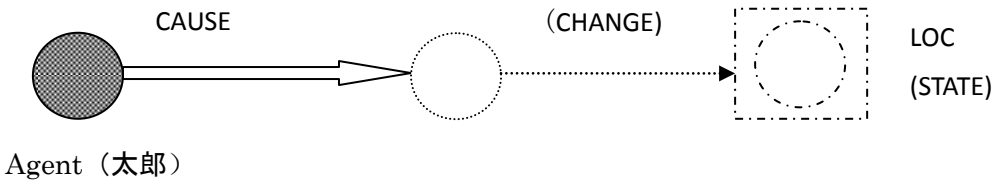


図 6－11　　言語活動動詞（内容への言及あり）

収集した用例から見ると、例 183)が示したように、日本語は受身文であるが、中国語は能動文を用いる。

183）禅は無相を体とするといわれ、自分の心が形も相もないものだと知ることがすなわち見性だといわれるが……（金閣寺）

183）’禅家 据说 以 无相 为 体、以悟得己心无相为体、以悟得己心无相为见性。
禅 言う prep 無相 perp 体

6.3.2.7 まとめ

以上の分析により、一般動作動詞１、位置関係動詞といった動詞が表す他動的事態のアクションチェーンはプロトタイプ的他動関係（図 6－1 で提示された P-transitive relation）に合致しているため、この一般動作動詞１、位置関係動詞がプロトタイプ的な他動詞であるとみなされる。

また、「動作主から受領者へ対象を移動する」という事態を表す授受動詞はプロトタイプ的他動関係に受領者の所有領域が加わることで拡張されたものと見なされるため、この授受動詞も他動性が高いと考えられる。

一方、一般動作動詞２、状態心理動詞は、エネルギーを受ける対象の位置的・状態的変化を含意しないため、LOC(STATE)を欠いた形で表されている。この点で、この 2 種類他動詞はプロトタイプから逸脱していることが分かる。

最後に、具体的な生産の意味を表わす生産動詞は対象が行為の完結時点に生じることから、その対象はアクションチェーンの終点部（STATE）に位置するものと特定される。つまり、生産者である動作主がその対象に直接エネルギーを加えるのは、生産の必要な原料や材料としたものであり、生産対象そのものに直接はたらきかけることはできない。その結果、アクションチェーンの中間部に相当する CHANGE が欠落した形となり、プロトタイプから逸脱するのである。一方、抽象的な生産の意味を表わす生産動詞、内容への言及がある言語活動動詞はエネルギーの伝達もなく、対象の状態／位置変化も捉えていない。そのため、この対象が抽象物である生産動詞はプロトタイプからかなり逸脱しており、低い他動性を示している。

つまり、6.1 で分類された述語動詞の他動性について、次の序列が提示できる。

一般動作動詞 1	＞	一般動作動詞 2	＞	言語活動動詞(内容への言及あり)
位置関係動詞		生産動詞(具体物)		生産動詞(抽象物)
授受動詞		心理動詞		
		言語活動動詞(内容への言及なし)		

6.4　本章のまとめ

本章では、「アクションチェーン」、「プロトタイプ理論」により、受身文の述語動詞に関する考察を行った。結論として、次の点が挙げられる。

まず、他動性が強い他動詞、つまり、プロトタイプ的な他動詞である一般動作動詞 1、位置関係動詞が日中両言語の受身文の述語動詞として用いられる。プロトタイプからやや逸脱している一般動作動詞 2、具体的な生産の意味を表わす生産動詞、心理動詞が揺れがあるが、中国語受身文の述語動詞として用いられることもある。

また、プロトタイプからかなり逸脱している抽象的な生産の意味を表わす生産動詞、内容への言及がある言語活動動詞は中国語の受身文の述語動詞としては用いられない。つまり、中国語受身文の述語動詞として用いられるか否かは述語動詞の他動性と密接に関わっている。動詞の他動性が強ければ強いほど受身文になりやすいと考えられる。

さらに、プロトタイプから拡張された「与える」、「配る」、「譲る」、「贈る」など授受の意味を表わす他動詞は、他動性が高いとは言え、中国語の受身文に用いられないのは、これらの動詞に対応する中国語動詞“给予”、“配送”、“赐予”“赠予”なども日本語と同様、被害ではなく、受益という意味を表すのは一般的であるからと考えられる。つまり、これは不愉快なこと、あるいは被害を蒙ることを表す時用いる中国語の「被」構文の意味とは矛盾する。そう考えると、授受動詞は中国語の受身文の述語動詞として用いられないことは理解できる。

第７章　文の意味に関する考察

次の用例を見てみよう。

184）　太郎が次郎を殺した。／太郎杀了次郎。

185）　次郎が太郎に殺された。／次郎被太郎杀了。

例 184）と例 185）を比べると、例 185）の日本語の受身文「次郎が太郎に殺された。」にも、また、中国語の“次郎被太郎杀了”にも、「次郎」が被害を被るという意味が含まれているが、例 184）の日本語と中国語の能動文には被害の意味が感じられない。つまり、「被害」の意味を表すのが日中両言語における受身文の共通点のひとつと考えられる。「被害」の意味があるとき、日中両言語とも受身文を選択する傾向がある。一方、「被害」の意味だけでなく、「女の素振りに、気持をときほぐされた」のように受益、「石段の下方は影に包まれている」のように中立の意味を表す受身文も存在する。この章では、受身文の意味特徴を検討していく。

まず、収集した日本語直接受身文の用例を文の意味特徴により、「被害」、「受益」、「中立」に分け、中国語との対応性を調査した。その結果は次の表 7-1 のとおりである。

表７－１　文の意味特徴から見る日本語直接受身文と中国語の対応状況

原文の意味特徴	対訳文			合計
	能動文	受身文	意訳	
被害	235(20%)	801(68.1%)	140(11.9%)	1176(47.2%)
受益	199(65%)	20(6.5%)	87(28.5%)	306(12.3%)
中立	544(53.9%)	194(19.2%)	271(26.9%)	1009(40.5%)

7.1 被害の意味を表す受身文

表 7－1 で示されたように、被害の意味を表す受身文はほかの二種類より、中国語の受身文との対応率が明らかに高い。それは中国語の受身マーカー「被」の意味がもともと動詞としての「被」の意味「蒙る、意外的な遭遇」から発展してきたものであるため、中国語の「被」構文は、主格から見て不愉快或いは被害的な事柄を表すのに用いられるのがほとんどであるためと考えられる。

186)「恋愛というようなものは、だまし合いみたいなところがあるからな。現在の立場では、君の方が、結局だまされる方に回るだろう」（あした来る人）

186)’“因为 恋爱 这种东西，有 一种 互相 欺骗的 成份。 就 眼下 情况 看，
原因 恋愛 このもの ある 一種 互いに 騙す 成分 prep 今 状況 見る
你 怕是要 成为 被 欺骗的 一方。”
あなた 恐れも 成る PM だます 方

187)「ねえ、私たち反革命なのかしら?」と教室を出てから緑が僕に言った。「革命が成就したら、私たち電柱に並んで吊されるのかしら?」。（ノルウェイの森）

187)’“噢，我们 怕 是 反革命 吧？”走出 教室 后 绿子 对 我
MOD 私たち 恐らくである 反革命 MOD 出る 教室 後 緑子 対して 私
说。“一旦 革命 成功， 我们 难保 不会 被 吊 到
言う 一旦 革命 成功する 私たち 請け合えない NEG PM 吊るす prep
电线杆 上去， 嗯？”
電柱 COMP MOD

188）ひとは互いにおびえ、あらゆる思想が姦せられ、努力は嘲笑せられ、幸福は否定せられ、美貌はけがされ、光栄は引きずりおろされ、所謂「世紀の不安」は、この不思議な一語からはっしていると僕は思っているんです。（斜陽）

188)’人 相互 感到 戒惧，一切 思想 都 遭到 亵渎，所有 努力 都
人 互いに 感じる 怯える 一切 思想 すべて 遭う けがす すべて 努力 すべて

受到　嘲笑，幸福　被　　否定，美貌　被　糟踏，名誉 被　　玷辱，所谓

受ける　嘲笑　　幸せ　PM　否定する　美貌　PM　けがす　名誉　PM　けがす　　所謂

“世纪之不安”，我　认为　　都是　由　　这一句　　奇怪的话　　引 起 的。

「世紀の不安」　　私　　思う　すべて　prep　この一句　不思議な言葉　　引く COMP

この三つの用例を見てみると、日本語原文では、「だます」、「吊す」、「嘲笑する」、「否定する」、「けがす」などマイナスイメージの動詞が用いられているため、文全体は被害の意味を表している。それ故、中国語のほうも、「被」構文を用いて同じ事態を表している。

一方、数は多くないが、中国語の能動文に訳されている被害の意味を表す日本語受身文の用例もある。

189)先生の返事が来た時、私は一寸驚ろかされた。ことにその内容が特別の用件を含んでいなかった時、驚ろかされた。(こころ)

189)’接　　到　先生　回信 的 时候，我　　稍微有些 吃惊。 尤其　因为　信里

もらう　COMP　先生　返事　の　時　　私　ちょっと　　驚ろく　特に　原因　　手紙の中

没有写着　什么　特别的事情。

NEG 書く　　何か　特別なこと

190)「直子が来てから私は来る日も来る日もビートルズのものばかり弾かされているのよ。まるで哀れな音楽奴隷のように・・・」(ノルウェイの森)

190)’“直子 来到　后，　我　就　　日复一日地　　没完没了地　弹　　甲壳虫，

直子　　来る　後　　私　conj　　毎日毎日　　きりがなく　　弾く　　ビートルズ

活活　　成　　了　　可怜的音乐奴隶。”

まるで　なる PERF　　可哀想な音楽奴隷

例 189)’と例 190)’は原文の 189)、190)と同じ、「私」が文の主語に立てられているが、文全体を見てみると、能動文である。それにもかかわらず、話者が被害・影響を受けたということが表わされている。

191)そのため、私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。

（金閣寺）

191)’为此　我 一日中 总要　望　上　几次　金阁。

そのため　私　一日中　いつも　眺める COMP　何度　金閣

朋辈们　都　笑　我　痴。

朋輩たち　皆　笑う　私　ばかばかしい

192）「私が笑われるから、帰って頂戴。」（雪国）

192)’“人家　会　取笑　我　的，　你　快　回去　吧!”

人々　prep　笑う　私　MOD　あなた　早く　帰る　MOD

193)ただ、前のお家の西山さんのお嫁さん、といってももう四十くらいのおばさんだが、そのひとにだけは、びしびし叱られた。（斜陽）

193)’只有　一个人 严厉地 叱责 我，就是　对面　那家西山先生的小媳妇，

ただ　一人　厳しく　叱る　私　である　向こう　その西山さんのお嫁さん

说　是　小媳妇，实际上　是　个　四十左右　的　大婶　了。

言う　である　お嫁さん　実際に　である　一人　四十歳ぐらい　の　おばさん　MOD

194)「この羽織はつい此間拵らえたばかりなんだよ。だから無暗に汚して帰ると、妻に叱られるからね。有難う」（こころ）

194)’“这件褂子是最近才做的。倘若随随便便给弄脏了，

回去　我 太太　会 责怪　的。　谢谢　你！”

帰る　私　妻　prep　叱る　MOD　あり難う　あなた

この四つの被害の意味を表す日本語受身文も中国語の能動文と対応している。述語動詞を見ると、例 191)、192)には「笑う」、例 193)、194)には「叱る」が用いられている。

195)駒子の叫びは島村の身うちを貫いた。葉子の腓が痙攣するのといっしょに、島村の足先まで冷たい痙攣が走った。なにかせつない苦痛と悲哀とに打たれて、動悸が激しかった。（雪国）

195)’驹子的尖叫，直刺岛村的心。叶子的腿肚子在抽搐。与此同时，岛村的脚尖也冰凉得痉挛起来。

一种 无以名状的 痛苦和悲哀 侵袭 了 他，使得他的心房激烈地跳动着。

一種 言えない 苦痛と悲哀 襲う PERF 彼

196)克平には、やはり曾根は奇妙な男に見えた。さびしい、さびしいと言われると、克平は自分のあ方も、暫く眼をふさいでいたさびしさに、再び襲われ始めた。(あした来る人)

196)’在克平看来，曾根这男子终究不同寻常。他一口一个寂寞，使克平自己那暂且丢在一旁的寂寞感 也 再次 涌 上 心头。

寂しいさ も 再び 湧く COMP 心

197)私はずっと前からこの宣告を予感し、覚悟していた筈である。私は寝耳に水の宣告をうけたのではない。それに今更仰天し、狼狽したわけではない。にもかかわらず、私は自分の出奔が衝動によって行われたと考えるほうを好む。(金閣寺)

197）’可以说我早已有预感，早已觉悟到这一点。并非晴天霹雳，所以事到如今，我并不狼狈失措。尽管如此，

我 还是 愿意 把 自己的出走 看成 是 冲动 引发 的 结果。

私 やはり ほしい prep 自分の出奔 見なす である 衝動 行う の 結果

この三つの用例の原文を見ると、主格の「島村」、「克平」、「私」は抽象的な感情によって影響を受け、心理的な変化が起こったということを表している。つまり、この受身文が表している出来事は、誰かが意志的に相手に働きかけ、物理的・位置的変化を引き起こすものではない。

以上の例において、被害の意味を表す日本語直接受身文と中国語の対応性を観察した。その 68.1%は中国語の受身文と対応しているが、動詞「笑う」、「叱る」が述語動詞として

在　东京的酒馆　当　女侍 时 被　人　赎身　出来，本　打算　将来
prep　東京の居酒屋　する　お酌　時　PM　人　受け出す COMP　本来　つもり　将来
做　个　日本舞蹈师傅 用以　维持　生计，……
する 一人　日本踊の師匠　perp　維持する　生活

201)「これも知ってる、あれももう知ってる、うんもう全部わかったってさ。そういう人なんだよ。そういう人は世間では尊敬されるのさ」。(ノルウェイの森)

201)’“说 什么　这个 也　懂，那个 也　晓得，没一个　不明白的。他　就是
言う COMP　これ　も　知る　あれ　も　知る　NEG 一つ　NEG 分かる　彼　である
这样的人，而　这样的人 才　会　在　社会上　被　人　尊敬。”
こういう人　conj こういう人 conj できる prep　社会　PM　人々　尊敬する

7.3 中立の意味を表す受身文

受けた影響が主格にとって有利とも言えず、不利とも言えないならば、この受身文の意味は「中立的」であると考えられる。「中立的」意味を表わす受身文は、有情物を主格とするものと、非情物を主格とするものの二種に分けられる。

主格名詞が有情物である場合、中国語の能動文と対応しているのか、受身文と対応しているのかにもかかわらず、空間的移動の意味を表す位置関係動詞（例 202)、203）の「連れる」、例 204）の「送る」、例 205）の「案内する」）がよく述語動詞として用いられる。

202)怪しい話だとたかをくくっていたが、一時間ほどして女が女中に連れられて来ると、島村はおやと居住いを直した。(雪国)

202)’岛村 认为　这话　不可靠、　根本 没有　把　它　放　在　心上。约莫
島村　思う　この話　NEG 信憑性ある　全然　NEG　prep それ　置く prep 心の中　約
过　了 一个钟头、女佣 把　女子　领来、　岛村　不禁　一愣、正了正 坐姿。
過ぎる PERF　一時間　女中　prep　女 連れて来る　島村　思わず　驚く　直す　居住む

203)一同はそこを横切り、三沢に連れられて神社の建物の横手に回った。あたりは暗かった。(あした来る人)

203)’三泽　领　　着　众人，拐　　往　　神社　一侧，四周一片黑暗。

三沢　連れる　PROG　皆　回る　向かう　神社　横手

204)翌る日、もとの運転手の松山さんにお伴をたのんで、お母さまは、お昼すこし過ぎにおでかけになり、夜の八時頃、松山さんに送られてお帰りになった。　(砂の女)

204)’第二天　母亲　请 从前的司机 松山先生　陪伴、　刚　　过　中午 就

翌日　母親　頼む　元の運転手　松山さん　伴にする　ちょうど　過ぎる　昼　conj

去　了、 晚上　八点多　由　松山先生　送　了　回来。

行く PERF　夜　八時過ぎ　PM　松山さん　送る　PERF　帰りになる

205)暗い中で三沢がだれかと話す声が聞えていたが、やがて、一同は神社の裏手へ案内された。少し傾斜をなしている狭い区域になわ張りがして、むしろが敷いてあり、一同はその一つに招じ入れられた。(あした来る人)

205)’黑暗之中，听得三泽同某人说话。不一会儿，

一行人 被　领　入　神社后院。这里有片狭窄的缓坡，四周拉有绳砣，

一同　PM　案内する　COMP　神社の裏手

中间铺着草席，他们来到席子跟前。”

一方、非情物を主格とする受身文、いわゆる「非情の受身文」の多くは中立的意味を表わしている。(無論、「被害」や「受益」の意味を表わす非情の受身文が存在しないわけではない。) こういう受身文は知覚された状況を描写する場面で用いられる場合が多い[1]。

206)石段の下方は影に包まれている。しかし中程から上は、月明りの中に在る。(金閣寺)

206)’石阶的下段　都　被　阴影 遮蔽、自中断以上才有月色照临。

石段の下方　すべて　PM　影　遮える

[1]金水 (1991：4) はこういう受身文を「叙景文」と名付けている。

207)金閣のほうを見た。きらめく幻の金閣は薄れかけていた。勾欄は徐々に闇に呑まれ、林立する柱は分明でなくなった。水の光りは消え、軒庇の裏の反映も消え去った。

（金閣寺）

207）’我向金阁望去、幻觉中闪光的金阁这时已淡薄起来。曲栏 已 被 漫漫黑夜吞噬、

勾欄 すでに PM 闇 呑む

林立的细栏也不再分明。水光消失、映入檐下的波光也暗灭下来。

208)なるほど開通したばかりの石のごろごろした道であった。自動車はがたぴし揺れながら雑木で覆われた山へとはいって行った。風が急に冷たくなって来た。

（あした来る人）

208）’果然是条新路，路面满是石子。汽车一边连续摇晃着，

一边 往 被 杂木 覆盖 的 山里 开去。冷风嗖嗖地从窗口吹了进来。

同時に prep PM 雑木 覆う の 山の中 行く

また、この中立の意味を表す主格名詞が非情物である受身文が、斜格を明示しない場合、中国語の意味上の受身文と対応するのが一般的である。

209)その虫除けの金網も取りはずされた。虫の声がめっきり寂れた。（雪国）

209)’防虫的纱窗 已经 取下来 了， 虫声 明显地 变 得 稀落 了。

虫除けの金網 すでに 取りはずす PERF 虫の声 めっきり 変る COMP 疎ら PERF

210) 国旗がポールから降ろされ、食堂の窓に電気が灯った。（ノルウェイの森）

210）’国旗 从 旗杆 降下、 食堂窗口 亮 起 灯光。

国旗 から ポール 降ろす 食堂の窓 灯る COMP 電気

211)玄関の戸が内からひらかれた。もうかなりの、五十歳を超したくらいの、頭の禿げた小柄なおじさんが、派手なパジャマを着て、へんな、はにかむような笑顔で私たちを迎えた。（斜陽）

211)’大门　从　里边 打开　来。一个年近六十的秃顶矮老头穿着一身华丽的睡衣、

玄関の戸　から　内　開く　COMP

脸上露着奇怪的害羞笑容出来迎接我们。

212)新発見にしても、新学説の樹立にしても、過去に、もし同種の研究が発表されていれば、それは新発見とも新学説とも言えない。(あした来る人)

212)’新发现也好、新学说的确立也好、倘若　过去　已　有　同类　研究成果

もし　過去　すでに ある　同種の　研究成果

发表、　就　不能　称　之　为　新发现、新学说。

発表する　conj　NEG できる　呼ぶ　それ　である　新発見　新学説

7.4　動作主称揚と動作主批判

先行研究でも触れたように、杉村 (1992) は中国語の「被」構文に独特な「感情的色彩」があることを指摘し、「自己称揚」と「自己批判」という二つの概念を打ち出した。杉村はこの「自己称揚」と「自己批判」の意味を表す受身文をそれぞれ「自己称揚の被動文」と「自己批判の被動文」と名づけている。しかし、そういった受身文の斜格は話者本人に限らず、二人称、三人称にも成りうる。したがって、本研究においては、「自己称揚」を「動作主称揚」とし、「自己批判」を「動作主批判」とする。

「動作主称揚」の受身文は「難事の達成」、すなわち難しいことが話者本人あるいは話者の感情、視点が移入された存在によって達成されたという意味を表す。この受身文を用いることにより、難しいことを実現した動作主の努力を褒め称える意味が表される。たとえば、以下の例 213)’と例 214)’は“我 (私)”の努力をほめたたえている。しかし、日本語の原文を見てみると、例 213)も例 214)も受身文ではなく、能動文を用いている。

213) 坂を一つ這い上ったところで、振り向いてみた。追手の明りは消えていた。一呼吸、二呼吸まで待ってみたが、やはり現われない。うまく、逃げきれたのだろうか？期待のたかぶりが、心臓の圧力をあげ、そうだとすれば、なおさら、休むわけにはいかない……さあ、もう一と息、次の丘までつっ走れ！ (砂の女)

213)’他又爬上一个斜坡，回头一看，追兵的灯消失了。等他喘息稍定，灯还未出现。

难道　竟　给 我　逃脱　　了　吗？期待的兴奋给心脏以压力，假如真是

まさかadv　PM　私　逃げきる PERF MOD

这样，那就更不能休息了……好了，再喘口气，跑去下一个沙丘！

214)死の空は明るくて、生の空と同じように思われた。そして私は暗い考えを忘れた。この世には苦痛は存在しないのだ。(金閣寺)

214)’死时的天空也是明亮的，和生时的天空并不差样。

灰色的 情绪　全　被 我　推　到　脑后，因为这个世界不存在所谓痛苦。

暗い　気持ち すべて　PM　私　押す　prep 脳外

一方、「動作主批判」の受身文を用いると、動作主の不注意または意地悪を責める意味を表す。たとえば、例 215)’、例 216)’、例 217)’はそれぞれ“我们（我々)”、“我（私)”、“她自己（彼女自身)”を責める意味が含まれている。「動作主称揚」の受身文と同様に、日本語の原文は受身文ではない。

215)「それにしても大変御迷惑かけました。まさに営業妨害でしたね。こういうことになるんではないかと思って、初め本部を置く時躊躇したんですが」（あした来る人）

215)’“不过也确实给您添了好大一场麻烦。营业 也　给 我们　　搅　　了，

営業　も　PM　我々　妨害する　PERF

当初计划在这里设总部的时候已经料到会闹到这步田地，所以有点犹豫来着。”

216）正直に言って、私は両親にはあまり会いたくありません。あのころは私のことですごく混乱していて、会って話をしても私はなんだか惨めな気分になるばからです。それに私にはあなたに説明しなくてはならないことがいくつかあるのです。

（ノルウェイの森）

216)’老实说，我不大想见父母。他们　被　我　搅　得　心慌意乱，

彼ら　PM　私　煩わす COMP　取り乱す

见面交谈恐怕也只能使我凄惶不安。况且我还有几件事必须向你解释。

217) 家中冬物の始末でひっくり返しているというのは嘘だった。ひっくり返しているのはほかのことである。とらの子の千円札三枚をどこかへ置き忘れてしまったからである。月の初めではあるが、三千円が寄金の全部である。どうせ足りないことは判っているが、それにしても、出で来ないとなると、さし当って今日明日が困るのである。（あした来る人）

217)’说家里为收拾冬季用品弄得天翻地覆是谎话。天翻地覆倒不假，但为的是别的——那　举足轻重的 三张 千元钞票 不知　被　她自己　放到 哪里　去　了。

その　虎の子の　三枚　千円札　NEG 知る　PM　彼女自身　置く　どこ　COMP　PERF

虽是月初，三千元却是全部存款。反正不够用她是清楚的，但若找不出来，今明两天就无法应付。

この三つの用例の原文を見ると、「動作主称揚」の受身文と同様に、日本語の原文は受身文ではない。つまり、日本語には、中国語のような「動作主称揚」と「動作主批判」受身文は存在しない。

7.5　本章のまとめ

本章では、受身文の意味特徴について考察してきた。日本語の直接受身文と中国語の「被」構文はともに「被害と迷惑」「受益」「中立」などの意味を表わすことができるが、日本語には、「中立」や「受益」の意味を表わす受身文が中国語より明らかに多い。一方、中国語で受身文となるのは、「受益」、「中立」の意味より、「被害」の意味を表わすものが一般的である。また、「動作主称揚と動作主批判」の意味を表わす文も少なくないが、それは中国語の「被」構文の意味上の特徴と言えよう。

第8章　結　論

日本語受身文または中国語“被動句”の問題は以前から注目を集めており、それについて多くの研究が行われたが、本研究では『中日対訳コーパス』から文学作品において用いられる用例を収集し、日本語直接受身文及びその中国語対訳文を分析することで、それぞれの特徴を明らかにし、その分析結果に基づき考察を行った。本章において本研究の結論をまとめた上で、今後の課題について述べてみたい。

8.1　本研究のまとめ

本研究では、まず、収集した日本語直接受身文及びその中国語対訳文について、主格と斜格、述語動詞、文の意味特徴という三つの方面から対照分析を行い、各パターンの中国語表現と対応する日本語直接受身文の特徴を明らかにした。その結果として、以下の三点が挙げられた。第一に、中国語の能動文と対応する日本語直接受身文は、述語動詞としては他動性の弱い動作動詞か、内容に言及する言語活動動詞か、抽象的な物を生産する生産動詞である。第二に、文の意味特徴から見ると、能動文に訳された直接受身文は、受益、中立の意味を表している。一方、中国語の「被構文」と対応した日本語直接受身文は、他動性が強く、対象を変化させる一般動作動詞を述語動詞とするものである。第三に、中国語の意味上受身文に訳された直接受身文は、主格がすべて非情物であり、文の多くが「中立的」意味を表わすという特徴を持っている。

次に、その分析結果に基づき、視点の置かれ方、およびその転換から受身文における主語の選択関して考察を行った。その考察により、以下の点が明らかになった。日本語の受身文における主語の選択は厳しく「視点」の配置序列に従う。一方、中国語は「視点」の配置序列だけに制限されず、日本語より主語の選択がより自由である。また、日本語は「視点」の固定化を重視する言語であり、文章全体のみならず、一つの文の内部でも「視点」の固定が要求されている。一方、中国語においては、文章全体の「視点」は固定しているが、一つの文の内部では視点の固定化が日本語ほど厳しく要求されていないため、「視点」を固定させるためにわざわざ受身文を用いることも極めて少ない。さらに、日本語の場合は、事態を主観的に把握する傾向があるのに対し、中国語の場合は、たとえ話し手自身が事態に臨場していても、事態を自らと切り離して把握し、また自身の行為や自身に関わる

事態であっても、自身を客体化して把握し、言語化する傾向がある。一方、動作主マーカー「に」、「によって」、「から」それぞれを用いる日本語直接受身文と中国語の対応関係についての考察から、「によって」、「から」を使用している日本語直接受身文はよく中国語の能動文と対応していることが分かった。

さらに、本研究では「アクションチェーン」、「プロトタイプ理論」により、受身文の述語動詞に関する考察を行った。日中両言語の共通点としては、一般に、動作性或いは対象への影響の強い動詞は受身文の述語動詞として用いられやすく、対象に影響を与えない動詞は受身文の述語動詞として用いられることが少ない、という点が挙げられる。一方、相違点としては、まず、抽象的な生産の意味を表わす動詞、授受動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられない。具体的な生産の意味を表わす動詞、受動者が非情物の移動動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられるが、「被」などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、「意味上の受身文」として成立している。さらに、状態心理動詞はめったに中国語受身文にはならない。

最後に、受身文の意味特徴についての考察を行った。日中受身文はともに「被害と迷惑」「受益」「中立」などの意味を表わすことができるが、日本語には、「中立」や「受益」の意味を表わす文が中国語より明らかに多い。一方、中国語で受身文となるのは、「受益」、「中立」の意味より、「被害」の意味を表わすものが一般的である。また、「動作主称揚と動作主批判」の意味を表わす文も少なくないが、それは中国語受身文の意味上の特色と言えよう。

本研究は教育現場に成果を還元できる研究を目指して、言語教育への実用化に向けて日中対照分析を行った。その成果は、日中両言語の翻訳、とりわけ日本語教育に応用することができ、さらには、日本語と中国語の事態認識の相違を解明することに繋がると期待できる。

8.2 今後の課題

最後に、本研究で取り扱えなかった部分、つまり今後の課題になると考えられる部分は以下の通りである。

まず、本研究では、日本語直接受身文及びその中国語対訳文を研究対象としているが、日本語の間接受身文についての研究も必要である。

次に、本研究では、日本語直接受身文と中国語の対応状況を考察したが、中国語受身文と日本語の対応状況はどうなるかについては今後考察する必要がある。

最後に、本研究の用例出典は『中日対訳コーパス』に収録された日本語の小説に限られているため、収集した用例は談話場面における話し言葉も多少あるが、基本的には書き言葉である。実際の会話中の受身文の使用状況は小説のそれとは異なると考えられ、今後は会話場面における用例を収集し、分析する必要がある。

参考文献

［日本語］

飯嶋美知子（2004）「結果継続表現の日中対照研究 ―「他動詞の受身＋ている」と中国語の存在文，受身文―」『早稲田大学日本語教育研究』pp. 53-66

_____(2007)「論説文の訳文から見た受動文の日中対照研究－国語母語話者への教育の一環として－」『早稲田大学日本語教育研究』pp. 17-30

庵功雄(2001)『新しい日本語学入門―ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク

池上嘉彦（1981）「＜使役＞と＜受身＞の構造型（１）（２）」『「する」と「なる」の言語学』 大修館書店

_____（2003）「言語における＜主観性＞ と＜主観性＞の指標(1)」『認知言語学論考』第 3 号　ひつじ書房　pp. 1-49

_____（2004）「言語における＜主観性＞ と＜主観性＞の指標(2)」『認知言語学論考』第 4 号　ひつじ書房　pp. 1-60

井上和子(1976)『変形文法と日本語　上・下』大修館書店

上原聡(2002)「日本語における語彙のカテゴリー化―形容詞と形容動詞の差について―」大堀壽夫編『認知言語学 II：カテゴリー化』東京大学出版社　pp. 81-103

牛島徳次（1985）「中国語の受動表現」『日本語学』4 月号　pp. 24-34

大河内康憲(1982)「中国語の受身」　『講座日本語学 10』 明治書院　pp. 319-332.

_____（1983）「日中語の被動表現」『日本語学』４月号明治書院　pp. 31-38

大堀壽夫（2002）『認知言語学』東京大学出版会

奥津敬一郎(1983)「何故受身か？―＜視点＞からのケース・スタディ―」『国語学』132 集　国語学会　pp. 65-80

_____(1987)「使役と受身の表現」『国文法講座６』明治書院　pp. 232－251

河上誓作(1996)『認知言語学の基礎』研究社

河上誓作・谷口一美［共編］(2007)『ことばと視点』英宝社

木村英樹(1992)「BEI 受身文の意味と構造」『中国語』389 号　pp. 10-15

_____(2000)「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』247 号 pp. 19-39

魏志珍（2010）「事態描写における台湾人日本語学習者と日本語母語話者の視点の比較―視座の置き方に注目して―」『言葉と文化』v. 11　pp. 255-270

金水敏（1991）「受動文の歴史についての一考察」『国語学』164 集　国語学会 pp. 1-14

_____（1992）「場面と視点―受身文を中心に―」『日本語学』8 月 pp. 12-19
工藤真由美（1990）「現代日本語の受動文」言語学研究会［編］『ことばの科学 4』むぎ書房　pp. 47-102
久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店
_____（1983）『新日本文法研究』大修館書店
小泉保・船城道雄・本田畠治・仁田義雄・塚本秀樹（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
国立国語研究所（1964）『分類語彙表』秀英出版
阪田雪子（1980）「受身を表す言い方」『教師用日本語教育ハンドブック④文法 II』凡人社
迫田久美子（2002）『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク出版
下地早智子（1999）「被害受身の日中比較」『中国語学』246 号　pp. 107-116
須賀一好・早津恵美子（1995）『動詞の自他』ひつじ書房
杉村博文（1997）「遭遇と達成―中国語被動文の感情的色彩―」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版　pp. 277-294
鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』むぎ書房
砂川有里子（1984）「『に』受身文と『によって』受身文」『日本語学』 pp. 3-7
高見健一（1995）『機能的構文論による日英語比較―受け身文・後置文の分析―』くろしお出版
田窪行則編（1997）『視点と言語行動』くろしお出版
谷口一美（2005）『事態概念の記号化に関する認知言語学的研究』ひつじ書房
張志軍（2000）「受動文から見る日本語と中国語の違同」『横浜商大論集』第 33 巻第 2 号　横浜商科大学学術研究会　pp. 160-180
張麟声（1995）「ニとカラとニヨッテ―受動文における動作主マーカー―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（上）』 くろしお出版　pp. 131-140
_____（1998）「受動文における非典型的動作主につく動作主マーカーについて」『世界の日本語教育』8 号　pp. 191-201
辻幸夫（編）（2002）『認知言語学キーワード事典』研究社
_____（2005）『認知言語学への招待』大修館書店
坪井栄治郎（2002）「受影性と受身」西村義樹編『認知言語学Ⅰ：事象構造』東京大学出版会　pp. 63-86

鄭暁青（1991）「日本語・中国語受動文比較の考察」『日本文学研究 30』大東文化大学研究会　pp. 167-175

_____（1996）「中国語と日本語の受け身文――動詞のボイスの研究のために」『国文学 解釈と鑑賞』第 61 巻 7 号　至文堂　pp. 78-85

_____(2004)「非情物受け身文における日中受動表現の相違点」『21 世紀言語学研究 鈴木康之教授古希記念論集』白帝社　pp. 198-216

テイラー, ジョン・R (2008) 辻幸夫［訳］『認知言語学のための 14 章』紀伊国屋書店（Taylor, John R. (1989) *Linguistic Categorization Prototypes in Linguistic Theory:* Oxford University Press）寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味』第 I 巻　くろしお出版

豊島裕子(1988)「“被”字句の成立条件にかんして」『中国語』235 号　pp. 99-108

中島悦子(1993)「自動詞の受身―日本語と中国語の受身表現―」『会誌 12』日本女子大学大学院の会　pp. 13-20

_____(1994)「日本語と中国語の受身表現―語彙的受身―」『会誌 13』日本女子大学大学院の会　pp. 1-9

_____（2007)『日中対照研究「ヴォイス」―自・他の対応・受身・使役・可能・自発―』おうふう

_____(2012)『日中対照研究「ヴォイス」―受身を中心として―』『日本語と中国語のヴォイス』　白帝社　pp. 1-19

中右実・西村義樹（1998)『構文と事象構造』研究社出版

中村芳久(1993)「構文の認知構造ネットワーク―全域的な言語理論を求めて―」 福岡言語学研究会(編)『言語学からの眺望』 九州大学出版会　pp. 247-268

_____（2004)「主観性の言語学：主観性と文法構造・構文」中村芳久［編］『認知文法論 II』大修館書店　pp. 3-51

日本語記述文法研究会（編）(2009)『現代日本語文法②』くろしお出版

野田尚史（1991b)「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」仁田義雄［編］『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版　pp. 211-232

梅佳（2014)「日本語受身文とその中国語対訳文の対照研究―『動作主なし』の直接受身文を中心に―」『比較社会文化』第 35 号　九州大学比較社会文化学府　pp. 53-60

_____（2015a)「日本語受身文とその中国語対訳文の対照研究―『パースペクティヴ』の

視点から―」『東アジア日本語・日本文化研究』第 19 集　pp. 65-81
_____（2015b）「日中受身文の構文分析―述語動詞の意味特徴を中心に―」『地球社会統合科学研究』第 3 号　pp. 55-62
早津恵美子（1995）「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』ひつじ書房　pp. 179-197
深田智・仲本康一郎（2008）『概念化と意味の世界』研究社
藤田糸恵（1995）「日本語と中国語の受身文の対照」『和光大学人文学部紀要』第 30 号 pp. 95-101
細川由起子（1986）「日本語の受身文における動作主のマーカーについて」『国語学』144 巻　pp. 113-124
堀恵子（2005）「日本語条件文のプロトタイプ的意味・用法と拡張―コーパス調査と言語学的有標性の 2 つの観点から―」『日本語教育』126 号　pp. 124-133
益岡隆志（1982）「日本語受動文の意味分析」『言語研究』第 82 号　日本言語学会発行 pp. 48-64
_____（1987）『命題の文法』くろしお出版
_____（1991）「受動表現と主観性」仁田義雄［編］『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版　pp. 105-121
_____（2000）「叙述の類型から見た受動文」『日本語文法の諸相』くろしお出版 pp. 55-69
町田章（2011a）「日本語認知文法の課題－認知主体をどう扱うか－」札幌大学認知言語学研究会主催　認知言語学ゼミナー2011　札幌大学　発表資料
_____（2011b）「日本語受身文の分化と客体化－経験主発生の認知メカニズム－」（招聘発表）日本英文学会北海道支部第 56 回大会札幌学院大学 発表資料
_____（2014）「英語属性叙述受動文の合成構造」『日本認知言語学会論文集』第 14 巻（JCLA 14 日本認知言語学会誌）pp. 768-773
松岡弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク出版
松下大三郎（1928）『改撰標準日本文法』 紀元社
三上章（1972）『現代語法序説 シンタクスの試み』 くろしお出版
村木新次郎（1991a）「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」仁田義雄［編］『日本語

のヴォイスと他動性』くろしお出版　pp. 1-30
_____(1991b)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
森田良行（1971)「受身・使役の言い方」『講産日本語教育』第 9 分冊　早稲田大学語学教育研究所　pp. 18-42
_____(1998)『日本人の発想、日本語の表現：「私」の立場がことばを決める』中央公論社
_____(2006)『話者の視点がつくる日本語』ひつじ書房
森山新（2008)『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』ひつじ書房
森山卓郎（1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院
ヤコブセン，ウェスリー・M(1989)「他動性とプロトタイプ論」久野暲・柴谷方良（編）『日本語学の新展開』くろしお出版　pp. 213-248
山田孝雄（1908)『日本文法論』 宝文館
山梨正明（1995)『認知文法論』ひつじ書房
_____（2009）『認知構文論』大修館書店
山梨正明・有馬道子(2003)『現代言語学の潮流』勁草書房
楊凱栄（1989)「文法の対照的研究―中国語と日本語―」『講座日本語と日本語教育　第 5 巻』明治書院　pp. 312-340
吉村公宏（2004)『はじめての認知言語学』研究社
楊彩虹(2009)「中国語受身文の成立条件―日本語との対照研究を通して―」『NEAR conference proceedings working papers』2009-10　国際大学　pp. 1-23
葉菁(2003)「日中受動文の対照研究:『新編日語』における文法説明への提案」『早稲田大学日本語教育研究』　pp. 261-274
姚莉萍(2002)「中国語と日本語の受身の構文と意味についての比較」徐一平・曹大峰主编『中日对译语料库的研制与应用研究论文集』外語教学与研究出版社　pp. 257-269
ラネカー，ロナルド・W（2011a)「概念化・記号化・文法」マイケル・トマセロ［編］大堀壽夫・秋田喜美・古賀裕章・山泉実［訳］『認知・機能言語学－言語構造への 10 のアプローチ』 研究社　pp. 25-76(Tomasello, Michael(2002) *The New Psychology of Language: Cognitive and Functional Approaches to Language Structure*)
_____(2011b)山梨正明［監訳］『認知文法論序説』研究社(Ronald W.　Langacker(2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction,* Oxford University Press)

李湘琴（2013)「日本語と中国語の受身文の対照研究―網羅的な記述を目指して―」『言語文化学研究』大阪府立大学　pp.87-105
劉学敏（2007)「日汉被动句意义特征的对比研究」CNKI 修士論文
劉月華・潘文娱・故韡（1991）相原茂[監訳]『現代中国語文法総覧（下)』くろしお出版

［中国語］

陳昌来(2000)《现代汉语句子》华东师范大学出版社
_____（2002）《现代汉语动词的句法语义属性研究》　学林出版社
陈力（2002）《“被”和“让”表被动的句法语义对立及其功能解释》CNKI 修士論文
丁声树等（1961）《现代汉语语法讲话》商务印书馆
何午（2001）《再论日语被动表达－－兼与中文被动句比较》《日语学习与研究》pp.99-108
胡以南（2003）《浅谈日语“受身形”表达方式》《日语学习与研究》第 2 期　pp.54-56
侯学超［编］（1998）《现代汉语虚词词典》北京大学出版社
靳玮珊（2009）《无标记被动句的认知分析》《中国校外教育》第 8 期　pp.57-60
蓝纯（2001）《语言的范畴化：语言学中的类典型》外语教学与研究出版社
蓝纯（2005）《认知语言学与隐喻研究——中国英语教师丛书》 外语教学与研究出版社
李临定（1980）《“被”字句》《中国语文》第 6 期　pp.401-412
_____(1986)《现代汉语句型》 商务印书馆
_____(1990)《动词分类研究说略》《中国语文》总第 217 期
李珊(1993)《现代汉语被字句的研究》北京大学出版社
李宗江（2004）《汉语被动句的语义特征及其认知解释》《解放军外国语学院学报》第 27 卷第 6 期　pp.7-11
刘月华・潘文娱・故韡（1983）《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
陆俭明（2004）《有关汉语被动句的几个问题》《汉语学报》第 2 期　pp.9-15
吕叔湘・朱德熙（1952）《语法修辞讲话》《吕叔湘全集》第 4 卷　辽宁教育出版社
屈哨兵（2004）《现代汉语被动标记研究》 CNKI 博士論文
杉村博文(2003)《从日语角度看汉语被动句的特点》《语言文字应用》2003 年第 2 期　pp.64-75.
邵桂珍（2001）《现代汉语无标志被动句及其功能探析》CNKI 修士論文

蘇琦（1988）《试论被动句汉译日的规律》《日语学习与研究》1988 年 05 期　pp.33-35
熊学亮・王志军（2002）《被动句式的原型研究》《外语研究》2002 年第 1 期　pp.19-23
_____（2003）《被动句认知解读一二》《外语教学与研究》2003 年第 35 卷
第 3 期　pp.195-199
王还(1984)《汉语知识讲话　“把”字句和“被”字句》　上海教育出版社
王力(1950)《中国现代语法》　商务印书馆
_____(1985)《中国现代语法》商务印书馆
_____（1989）《汉语语法史》　商务印书馆
王黎今（2009a）《日语“に受身文”和汉语“被”字句谓语部分的对比研究》《外语研究》
2009 年第 3 期　pp.57-61
_____(2009b)《日语「受身文」和汉语"被"字句的语义对比研究》《日语学习与研究》2009
年 06 期　pp.36-40
薛凤生（1994）《把”字句和“被”字句的结构意义—真的表示“处置”和“被动”？》
戴浩一・薛凤生(主编)《功能主义与汉语语法》　北京语言学院出版社　pp.34-59
蚁坤(2000)《汉语被动句的句法语义特征和使用条件》CNKI 修士論文
游舒(2005)《现代汉语被字句研究》CNKI 博士論文
张伯江(2001)《被字句和把字句的对称与不对称》《中国语文》2001 年第 6 期 pp.519-524
张斌主編（2001）《现代汉语虚词词典』商务印书馆
张苏（2012）《从原型 prototype 理论观点研究中国人学习日语被动句的习得》《安徽文学》
2012 年第 8 期　pp.110-114
张兴旺(2003)《现代汉语标志型被动句研究》　CNKI 修士論文
郑媛(2004)《汉语被动式的界定及其语法化》CNKI 修士論文
周平・陈晓芬（1994）《新编日语》第二册　上海外语教育出版社
周文华(2005)《“让”字句功能分析与习得研究》CNKI 修士論文
朱德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆

［英語］

Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, Chicago: University of Chicago Press.

Hashimono, Mantaro J.(1988.) The structure and typology of the Chinese passive construction. In Masayoshi Shibatani, Ed. *Passive and Voice*, pp.329-354 Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company. (再収録)

Hopper, Paul J. & Thompson, Sandra A . (1980) Transitivity in Grammar Discourse *Language, Volume56, Number2.* 251-299

Lakoff, George. (1977) Linguistic Gestalts *CLS13*. 236-287

_____(1987) *Women, Fire and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind.* Chicago and London: University of Chicago Press.

Langacker, Ronald W. (1985) Observations and speculations on subjectivity In *Iconicity in Syntax*. John Haimaned. John Benjamms. 109-150

_____(1987) *Foundations of cognitive grammar, Vol.1. Theoretical prerequisites.* Stanford University Press.

_____(1990a) *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar.* Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

_____(1990b) "Settings, Participants, and Grammatical Relations" In Savas L. Tsohatzidis, ed. *Meanings and Prototypes: Studies in Linguistics Categorizations*, London: Routledge : 213-238

_____(1991) *Foundations of cognitive grammar, Vol.2. Descriptive application.* Stanford University Press.

Rosch, Eleanor (1975) Cognitive representation of semantic categories *Journal of Experimental Psychology: General, 104*(3). 192-233.

付録　データ資料

行番	金閣寺（原文）	金阁寺(訳文)
9	私の生れたのは、舞鶴から東北の、日本海へ突き出たうらさびしい岬である。父の故郷はそこではなく、舞鶴東郊の志楽である。懇望されて、僧籍に入り、辺鄙な岬の寺の住職になり、その地で妻をもらって、私という子を設けた。	我的出生地－－成生海峡，在舞鹤东北边陲的尽头。那里三面伸入日本海，是一个荒凉孤寂的小岛。父亲的故乡不是此地，而是舞鹤东郊的志乐。由于诚心信佛他籍入僧门，来到僻远的海峡，成为寺院住持。随后在当地娶妻，生得我这么个儿子。
10	成生岬の寺の近くには、適当な中学校がなかった。やがて私は父母の膝下を離れ、父の故郷の叔父の家に預けられ、そこから東舞鶴中学校へ徒歩で通った。	成生海峡靠近寺院一带，没有一所象样的中学。所以不久以后我便离开双亲，寄居叔父家中，那里也是父亲的家乡。我就地升入了东舞鹤中学，每天步行往返。
11	父の故郷は、光りのおびただしい土地であった。しかし一年のうち、十一月十二月のころには、たとえ雲一つないように見える快晴の日にも、一日に四五へんも時雨が渡った。私の変りやすい心情は、この土地で養われたものではないかと思われる。	父亲的故乡真可说是阳光普照的一方宝地，不过，一年当中的１１月和１２月里，就是一丝云彩没有的大晴天儿，每日也会下四五场阵雨。我想我的没有定性的气质，可能就是受了此地风情的浸染。
15	こういう風に、金閣はいたるところに現われ、しかもそれが現実に見えない点では、この土地における海とよく似ていた。舞鶴湾は志楽村の西方一里半に位置していたが、海は山に遮ぎられて見えなかった。しかしこの土地には、いつも海の予感のようなものが漂っていた。風にも時折海の匂いが嗅がれ、海が時化ると、沢山の鴎がのがれてきて、そこらの田に下りた。	这真是无处不金阁了。就其并非目力可及这点而言，恰似此村之于海。志乐村距舞鹤湾大约一里半，又有高山遮挡。尽管是隔山相望，村民们仍可感到大海的生息。海风吹送着阵阵腥气，海啸时有成群的海鸥到田里落脚。
20	こういう少年は、たやすく想像されるように、二種類の相反した権力意志を抱くようになる。私は歴史における暴君の記述が好きであった。吃りで、無口な暴君で私があれば、家来どもは私の顔色をうかがって、ひねもすおびえて暮らすことになるであろう。	不难想象，象我这样的少年，自然会抱有两种相反的权力意志。我爱看历史上关于暴君的记叙。我想，我要是做一个口吃的、缄默不语的暴君，家臣仆妾们肯定会变得尊前观色，整日里战战兢兢。
21	何か拭いがたい負け目を持った少年が、自分はひそかに選ばれた者だ、と考えるのは、当然ではあるまいか。この世のどこかに、まだ私自身の知らない使命が私を待っているような気がしていた。	具有某些难以拂拭的缺陷的少年，认为自己来到世上乃是上苍的选擢，这不是很自然的吗？我的内心隐隐感到，在这个世界的某处，似乎有我尚不知晓的重任正等待我前往承担。
24	東舞鶴中学校は、ひろいグラウンドを控え、のびやかな山々にかこまれた、新式の明るい校舎であった。	东舞鹤中学座落在群山环抱之中，这是一所拥有宽敞的运动场地和明亮校舍的新式中学。
31	と、初対面の私に呼びかけた。私はだまったまま、まじまじと彼を見つめた。私に向けられた彼の笑いには、権力者の媚びに似たものがあった。	我没作声，目不转睛地望着他。他对我微微一笑，内中不无对权势者谄媚之意。
44	中学生みんなが憧れている短剣は、実に美しい装飾だった。海兵の生徒はその短剣でこっそり鉛筆を削るなんぞと言われていたが、そういう荘厳な象徴をわざと日常些末の用途に使うとは、何と伊達なことだろう。	中学生谁不向往有那么一把短剑，它实在是美好的装饰。听说海军学员背地里拿它削铅笔。把那么庄严的象征特意分润一些给日常琐细，这是多么惬意啊！
45	たまたま、機関学校の制服は、脱ぎすてられて、白いペンキ塗りの柵にかけられていた。ズボンも、白い下着のシャツも。……それらは花々の真近で、汗ばんだ若者の肌の匂いを放ってい	他脱下来的海军机校制服，此刻恰好挂在白漆栅栏上，裤子和白汗衫也挂在一起……它们离花坛那么近，散发着青年人肌肤特有的汗香，恐怕蜜蜂也会被迷得眼差，来到白

	た。蜜蜂がまちがえて、この白くかがやいているシャツの花に羽根を休めた。金モールに飾られた制帽は、柵のひとつに、彼の頭にあったと同じように、正しく、目深に、かかっていた。彼は後輩たちに挑まれて、裏の土俵へ、角力をしに行ったのである。	得耀眼的汗衫的花朵上落脚的。那顶金丝边制帽也挂在那里，就象戴在他头上那样，端端正正，拉到齐眉。而他则为接受母校后辈的挑战，到后边柔道场比武去了。
46	脱ぎすてられたそれらのものは、誉れの墓地のような印象を与えた。五月のおびただしい花々が、この感じを強めた。わけても、庇を漆黒に反射させている制帽や、そのかたわらに掛けられた帯革と短剣は、彼の肉体から切り離されて、却って抒情的な美しさを放ち、それ自体が思い出と同じほど完全で……、つまり若い英雄の遺品という風に見えたのである。	望着他脱下来的衣着，我恍如进入英雄墓地。五月的繁花更加强了我这种感觉。尤其是阳光反射下的漆黑制帽，帽旁挂着的皮带和那把短剑，这些已和他肉体分离的东西，却仍在放射出抒情的光彩。它们本身就象一个完整的回忆……也就是说，就象是英雄青年留下的遗物似的。
50	人に理解されないということが唯一の矜りになっていたから、ものごとを理解させようとする、表現の衝動に見舞われなかった。人の目に見えるようなものは、自分には宿命的に与えられないのだと思った。孤独はどんどん肥った、まるで豚のように。	由于我把不为人理解看成是最大的骄傲。所以始终缺少为求得他人理解而竭力自我表现的冲动。流芳百世之类的幸运，在我来说是命中注定无缘受领的。我心里的孤独在飞快的膨胀，简直就象一只肥猪似的。
54	叔父の家から二軒へだてた家に、美しい娘がいた。有為子という名である。目が大きく澄んでいる。家が物持のせいもあるが、権柄ずくな態度をとる。みんなにちやほやされるにもかかわらず、一人ぼっちで、何を考えているのかわからないところがあった。嫉み深い女は、有為子がおそらくまだ処女であるのに、ああいう人相こそ石女の相だなどと噂した。	同叔父只隔两家的一户街坊有个美丽的姑娘，名叫有为子。她长着一双水灵灵的大眼睛。也许是家中富有的缘故，为人十分傲气。尽管家里十分宠爱她，至今却仍待字闺中，孤单单的，不知她心里在想些什么。心怀嫉妒的女人造谣说，有为子还没出嫁，就摆出一副谁都不理的面孔，八成是个石女！
57	有為子の体を思ったのは、その晩がはじめてではない。折にふれて考えていたことが、だんだんに固着して、あたかもそういう思念の塊のように、有為子の体は、白い、弾力のある、ほの暗い影にひたされた、匂いのある一つの肉の形で凝結して来たのである。私はそれに触れるときの自分の指の熱さを思った。またその指にさからってくる弾力や、花粉のような匂いを思った。	有为子的倩影在我心中萦绕，不自今日始。起初不过是倏忽一闪，后来便渐渐盘踞在我心中，拂也拂不去了。她的皮肤那么白嫩，那么富有弹性，仿佛月下一朵香气四溢、含露带风的鲜花，不胜娇柔。我想象得到触摸她的肉体时自己的手指会怎样发热，并且还想象得到从她反抗的手上生出的弹性和花粉般的香气。
62	有為子は自転車に乗ったらしかった。前燈が点けられた。自転車は音もなく辷ってきた。欅のかげから、私は自転車の前へ走り出た。自転車は危うく急停車をした。	有为子好象是骑在自行车上，前灯亮着，车子悄无声息地驰来，转瞬间已飞至眼前。我从榉树后面跑了出来，有为子见状慌忙来个急煞车。
64	///暁闇の中にかすかな輪郭をうかべている村の屋根々々にも、黒い木立にも、青葉山の黒い頂きにも、目前の有為子にさえも、おそろしいほど完全に意味が欠けていた。私の関与を待たずに、現実はそこに賦与されてあり、しかも、私が今まで見たこともない重みで、この無意味な大きな真暗な現実は、私に与えられ、私に迫っていた。	///拂晓前轮廓分明的村落房舍、黑黑的树林、草木繁盛的黛色峰顶，甚至眼前的有为子……都成了失去任何意义的可怖的存在。现实原本就是不待我的干预而存在着的。此刻这毫无意义、阴森可怖的现实正以一种我从未感到过的沉重，向我劈头盖脸地压过来。
65	言葉がおそらくこの場を救う只一つのものだろうと、いつものように私は考えていた。私特有の誤解である。行動が必要なときに、いつも私は言葉に気をとられている。それというのも、私の口から言葉が出にくいので、それに気をとられて、行動を忘れてしまうのだ。私には行動という光彩陸離たるものは、いつも光彩陸離たる言	我象平素那样想，在这种场合只有语言才是唯一得救的手段。然而这是我特有的误解。因为每当需要采取行动时，我总是受语言表述的羁绊。要我开口说话并不容易，心里光为此事担心，反倒把行动完全忘掉了。看来要想有光怪陆离的行动必定要有光怪陆离的语言相伴随。

	葉を伴っているように思われるのである。	
69	——その晩、有為子の告口で、彼女の母が、私の叔父の家へやって来た。私は日ごろは温和な叔父からひどく叱責された。私は有為子を呪い、その死をねがうようになり、数ヶ月後には、この呪いが成就した。爾来私は、人を呪うということに確信を抱いている。	——当天晚上，有为子回家后便告了我一状，于是她母亲找到我叔父家来了。叔父一反平素慈祥可掬的态度，把我大骂了一通。我心里恨透了有为子，诅咒她快死。没过几个月，我的话果然应验了。从那时起，我便开始相信：咒人确不虚妄。
70	寝ても覚めても、私は有為子の死をねがった。私の恥の立会人が、消え去ってくれることをねがった。証人さえいなかったら、地上から恥は根絶されるであろう。他人はみんな証人だ。それなのに、他人がいなければ、恥というものは生れて来ない。	我日里梦里都在盼望着有为子死掉。我盼望知道我丑事的见证人死掉。只要没了证人，羞耻便会就地根绝了。不过，其他人也都是证人。因此只要其他人还在，羞耻便不会消逝。
79	私たちは田を一つ隔てたこちらの畦から眺めていた。見物はだんだん増え、お互いに無言の肩が触れた。月が絞られたように小さく、われわれの頭上にあった。	我们隔着一块田站在就近的田埂上向那边张望。看热闹的人越聚越多，众人相互碰碰肩膀，都不作声。月光象是被挤缩成的一个小圆点，高悬在头上。
81	弁当包みを持って家を抜け出して、隣りの部落へ行こうとしていた有為子が、待ち伏せしていた憲兵につかまったこと。その弁当は脱走兵へ届けるものに相違ないこと。脱走兵と有為子は海軍病院で親しくなり、そのために妊娠した有為子が病院を追い出されたこと。憲兵は脱走兵の隠れ家を言えと詰問しているが、有為子はそこに坐ったまま一歩も動かず、頑なに押し黙っていること。……	“她拿上饭盒包裹出了家门，正想去邻村时，给埋伏的宪兵抓到了。那饭盒肯定送给逃兵的。那个逃兵和有为子在海军医院很要好，有为子怀孕后便被赶回家了。宪兵正逼她说出逃兵的下落，而她却稳坐着一动不动，顽固得绝不开口。”
82	私はといえば、目ばたきもせずに、有為子の顔ばかりを見つめていた。彼女は捕われの狂女のように見えた。月の下に、その顔は動かなかった。	我目不转睛地紧盯着有为子的脸。看上去，她就象一个被捉住的疯女。月光下，那张面孔纹丝不动。
83	私は今まで、あれほど拒否にあふれた顔を見たことがない。私は自分の顔を、世界から拒まれた顔だと思っている。しかるに有為子の顔は世界を拒んでいた。月の光りはその額や目や鼻筋や頬の上を容赦なく流れていたが、不動の顔はただその光りに洗われていた。一寸目を動かし、一寸口を動かせば、彼女が拒もうとしている世界は、それを合図に、そこから雪崩れ込んで来るだろう。	迄今为止我还从来没见过带有如此固拒神情的面孔。我一直认为自己的脸是被世人拒斥的；而有为子的脸却在拒斥世人。月光顺着她的前额、眉眼、鼻梁直至双颊冷冷地流泻，而那张脸却任其流泻，丝毫不为其所动。此刻，只要她眉头微蹙，嘴角稍敛，她决心与之颉颃的那个世界，就会雪崩一般地乘虚而入。
84	私は息を詰めてそれに見入った。歴史はそこで中断され、未来へ向っても過去へ向っても、何一つ語りかけない顔。そういうふしぎな顔を、われわれは、今伐り倒されたばかりの切株の上に見ることがある。新鮮で、みずみずしい色を帯びていても、成長はそこで途絶え、浴びるべき筈のなかった風と日光を浴び、本来自分のものではない世界に突如として曝されたその断面に、美しい木目が描いたふしぎな顔。ただ拒むために、こちらの世界へさし出されている顔。……	我屏息注视着这个场面。有为子的脸宣告了历史的中断，既不诉诸未来，也不诉诸过去。她的脸上那种不可思议的表情，简直就象刚刚遭到砍伐后遗下的树桩：无论其怎样新鲜和充满活力，成长已告中断。沐浴着自己本不应再享有的秋日金风，突然暴露在不属于自身的世界的断面上那美丽的年轮，就是她奇妙表情的写照。这张脸正是为全力抗拒才被推到这个世界上来……
91	それから私にも、子供らしいお祭りさわぎのよろこびが生れた。憲兵は手分けをして、金剛院を四方から囲むことになった。村民の協力が要請された。意地のわるい興味から、私は他の五六人の少年と共に、案内の有為子を先立ててゆく第一隊に加わった。月の道を、有為子が憲兵に附	闻听此言，我心里顿时生出一种快意，就象孩子们要去赶庙会一般。宪兵分开人群从四面向金刚院包抄。村民们奉命协助。出于兴灾乐祸的心理，我和五六个少年加入到由有为子带路先行的第一队。洒满月色的路上，有为子在宪兵护卫下，迈着轻快的脚步走在

	添われて、先頭に立って歩くその確信にみちた足取に、私はおどろいた。	最前面，我不禁为她的自信而惊讶。
92	金剛院は名高かった。それは安岡から歩いて十五分ほどの山かげにあり、高丘親王の御手植の栢や、左甚五郎作と伝えられる優雅な三重塔のある名刹である。夏にはよく、その裏山の滝を浴びて遊んだ。	金刚院久负盛名，从安冈步行到此也只１５分钟的山荫路。相传这里有高丘亲手植的古柏以及左甚五郎修造的古雅的三重宝塔。夏日里，我们经常到后山瀑布潭游嬉玩耍。
97	憲兵は有為子を促した。彼女一人が丸木橋をわたり、しばらくして私たちはそれにつづいた。石段の下方は影に包まれている。しかし中程から上は、月明りの中に在る。われわれは石段の下方の、そこかしこの物蔭に身を隠した。色づきかけた紅葉は、月の光りに黒ずんで見えた。	宪兵让有为子先行过桥，稍停片刻，才让我们尾随其后。石阶的下段都被阴影遮蔽，自中断以上才有月色照临。我们在石阶下部随处的暗影中隐身。枫叶刚刚开始泛红，月下望去黑影幢幢。
98	石段の上には金剛院の本殿があり、そこから左へ斜めに渡殿が架せられ、神楽殿のような空御堂に通じている。その空御堂は空中にせり出し、清水の舞台を模して、組み合わされた多くの柱と横木が、崖の下からそれを支えているのである。御堂も渡殿も、支える木組も、風雨に洗われて、清らかに白くて、白骨のようである。紅葉の盛りには、紅葉の色と、この白骨のような建築とが、美しい調和を示すのだが、夜だと、ところどころ斑らに月光を浴びた白い木組は、怪しくも見え、なまめかしくも見える。	金刚院的正殿在石阶最顶端，正殿左有一斜向的寝殿，可直通状似神乐殿的空中御堂。这座凌空而起的御堂在建造上借鉴了清水舞榭格局，崖下有很多根梁柱支掌。无论是正堂、寝殿，还是支撑它们的木构支架，都饱经风雨，剥蚀得清白如骨。霜林尽染的晴昼，枫叶赤、古楼白，交相辉映，煞是美丽动人。而至夜晚，冷月下，枯影斑驳，望之又显出骇人的妖艳。
100	私たち証人は、蔭にかくれ、息を詰めていた。十月下旬の冷たい夜気に包まれながら、私の頬はほてった。	我们这些证人躲在树丛里，大气也不敢喘。１０月下旬，寒气侵肤，而我的两颊却在发烫。
108	だから私は、それを古い石版刷のような光景としてしか思い出すことができぬ。……有為子は渡殿を渡って、御堂の闇へ呼びかけた。男の影があらわれた。有為子は何か語りかけた。男は石段の途中へ向けて、手にしていた拳銃を撃った。これに応戦する憲兵の拳銃が、石段の中途の繁みから発射された。男はもう一度拳銃を構えると、渡殿のほうへ逃げようとしている有為子の背中へ、何発かつづけて射った。有為子は倒れた。男は拳銃の銃先を、自分の顳┤に当てて発射した。……	因此我只可把她登攀的情形作为古版印刷的图景来加以回顾。……有为子走过寝殿，向黑洞洞的御堂喊起活来。一个男子的身影出现了。有为子向他说了些什么，那男子向石阶上举枪便射，行至中途的宪兵们也开枪应战，一刹时只听枪声大作。此时，有为子正要向寝殿逃去，那男子抬手向她背后连发几枪，随后又举枪对准自己太阳穴扣动了扳机……
110	目がさめたとき、皆の置き忘れた私のまわりは、小鳥の囀りにみたされ、朝陽がまともに紅葉の下枝深く射し込んでいた。白骨の建築は、床下から日をうけて、よみがえったように見えた。静かに、誇らしげに、紅葉の谷間へ、その空御堂をせり出していた。	不知不觉间我昏昏睡去，醒来时四下一望，众人早已弃我而去。小鸟在枝头啼叫，朝阳真情地照射到红叶深枝下。白骨般的楼阁通身沐浴着阳光，仿佛刚从酣睡中醒来。它静静地带有几分矜持地把空中御堂从枫林沟谷间推出。
116	まだ見ぬ金閣にいよいよ接する時が近づくにつれ、私の心には躊躇が生じた。どうあっても金閣は美しくなければならなかった。そこですべては、金閣そのものの美しさよりも、金閣の美を想像しうる私の心の能力に賭けられた。	此外也因为从没见过的金阁马上就要亲眼目睹了，内心反倒踌躇起来。若说金阁不美，这在我是不可思议的。我只是担心自己的想象在现实的金阁美面前会显得默然失色。
118	「足利義満は西園寺家の北山殿を譲り受け、ここに大規模な別荘を営んだ。その主要建築は、舎利殿、護摩堂、懺法堂、法水院などの仏教建築と、宸殿、公卿間、会所、天鏡閣、拱北楼、泉殿、看雪亭などの、住宅関係の建築とであった。舎利殿は最も力を注いで造られ、後に金閣と言われた	“足利义满氏继西园寺家之后，于北山殿旧址大造庭园。其中佛教殿堂以舍利殿、护摩堂、忏法堂、法水院等为主；府第宅庄则以宸殿、公卿馆、会所、天镜阁、拱北楼、泉殿、看雪享等居首。尤以舍利殿之营构最为倾神费力，此殿即后世所谓金阁也。唯其更

	建物である。いつ頃から金閣というようになったか、はっきりと一線を引くのは困難であるが、応仁の乱以後らしく、文明頃には可成普遍的に用いられている。	名年代，今已无籍可考。或有以应仁之乱推之者，迄晚近文明开化之称，遂悉以金阁称之。
120	義満の死後、北山殿は遺命により禅刹となし、鹿苑寺と号した。その建物も他に移されたり、または荒廃したりしたが、金閣だけは幸いに残された。……」	及义满残，北山殿诸胜遵嘱改为禅刹，名鹿苑寺。它者或迁或变，不知所向，存者唯金阁一寺。……”
121	夜空の月のように、金閣は暗黒時代の象徴として作られたのだった。そこで私の夢想の金閣は、その周囲に押しよせている闇の背景を必要とした。闇のなかに、美しい細身の柱の構造が、内から微光を放って、じっと物静かに坐っていた。人がこの建築にどんな言葉で語りかけても、美しい金閣は、無言で、繊細な構造をあらわにして、周囲の闇に耐えていなければならぬ。	综观上述，金阁若星空之月，是黑暗时代的象征。我的种种泛想也必以它昏暗的往事为时代背景。在灰蒙蒙的空间里，金阁的整体是那么窈窕纤细，而又涵光迸发。它悄然无语，肃穆而立，一任时贤评说去。它忍耐着周围的昏暗，永远如实地表白自己。
122	私はまた、その屋根の頂きに、永い歳月を風雨にさらされてきた金銅の鳳凰を思った。この神秘的な金いろの鳥は、時もつくらず、羽ばたきもせず、自分が鳥であることを忘れてしまっているにちがいなかった。しかしそれが飛ばないようにみえるのはまちがいだ。ほかの鳥が空間を飛ぶのに、この金の鳳凰はかがやく翼をあげて、永遠に、時間のなかを飛んでいるのだ。時間がその翼を打つ。翼を打って、後方に流れてゆく。飛んでいるためには、鳳凰はただ不動の姿で、眼を怒らせ、翼を高くかかげ、尾羽根をひるがえし、いかめしい金いろの双の脚を、しっかと踏んばっていればよかったのだ。	我想到阁顶的金铜凤凰，那是金色的神秘的鸟啊！从来不理睬时光，从来不展翅飞翔。风雨春秋，晦明昼夜，它也许忘记自己是只鸟了。然而谁要说它真的不飞，那就错了。凡鸟们都飞翔于空间，而这金凤凰则鼓起灿烂的双翼，永远翱翔在时光中。时光为它鼓翼，向它身后流逝。为了高飞，这凤凰只要安然而立，怒目圆睁，振鼓双翼，连美丽的尾羽也高高翘起，雄踞在此就已足矣。
124	私が人生で最初にぶつかった難問は、美ということだったと言っても過言ではない。父は田舎の素朴な僧侶で、語彙も乏しく、ただ「金閣ほど美しいものは此世にない」と私に教えた。私には自分の未知のところに、すでに美というものが存在しているという考えに、不満と焦躁を覚えずにはいられなかった。美がたしかにそこに存在しているならば、私という存在は、美から疎外されたものなのだ。	我在人生里遇到的第一个难题就是美。这绝非夸大其词。父亲是穷乡僻壤的一个寒僧。他寡言少语，能教我的只有一句话：“世上要数金阁最美了。”当我知道在我所不知处美已存在时，内心不由得充满了不安与焦躁。如果美确时已经存在，那我的存在自然被排斥在美之外了。
130	私は窓外のどんよりした春の曇り空を見た。父の国民服の胸にかけられた袈裟を見、血色のよい若い下士官たちの金釦をはね上げているような胸を見た。私はその中間にいるような気がした。やがて丁年に達すれば、私も兵隊にとられる。しかし、私はたとえ兵隊になっても、目の前の下士官のように、役割に忠実に生きることができるかどうか。	我看着窗外春日里阴霾密布的天空，看着父亲国民服外面罩的那件袈裟，看着血气方刚的下士官们那壮实得几乎要绽开制服上的金钮扣的胸肌，我觉得自己好象也成了他们当中的一员。等再过些时候年龄一到，我也将应征入伍了。不过我会不会跟他们一样精忠报国，这可不好说。
133	父が咳き入るのを看取りながら、私はたびたび保津川を窓外に見た。それは化学の実験で使う硫酸銅のような、くどいほどの群青いろをしていた。トンネルを出る毎に、保津峡は、線路から遠くにあったり、また意外に目近に寄り添うて来ていて、滑らかな岩に囲まれて、その群青の轆轤をとどろに廻していたりした。	我一边看护哮喘不止的父亲，一边不时向窗外保津川瞥上几眼。河水泛着化学实验用的硫酸铜一般混沌的佛头青色。每一次钻出隧洞，都会看到保津峡，忽而近在身旁，忽而相距遥遥。而佛头青绞辘就在滑岩圈起的谷道中，轰鸣咆哮而去。
138	日は傾きかけ、山々は霞に包まれていた。数	红轮西坠，群山笼罩在晚霞之中。几个游

	人の見物が、私たち父子と前後してその門をくぐった。門の左方には、鐘楼をめぐって残んの花をつけた梅林があった。	客和我们父子前后相随走进这座门去。门的左侧，环绕着钟楼有一片梅林，尚有点点残花挂在枝头。
139	父は、大きな櫟の木を前に控えた本堂の玄関に立って案内を乞うた。住職は来客中なので、二三十分待ってほしいと云われた。	父亲走到正殿门前几棵大柞树下请求通报。老方丈正在会客，叫我们等上二三十分钟。
145	「どや、きれいやろ。一階を法水院、二階を潮音洞、三階を究竟頂と云うのんや」+++父の病んだ肉の薄い手は私の肩に置かれていた。	父亲把因病而愈加瘦削的手搭在我的肩头，说：+++“怎么样？很美吧！这第一层叫法水院，二层叫潮音洞，第三层叫究竟顶。”
147	もし私が謙虚な勉強好きの少年だったら、そんなにたやすく落胆する前に、自分の鑑賞眼の至らなさを嘆いたであろう。しかし私の心があれほど美しさを予期したものから裏切られた苦痛は、ほかのあらゆる反省を奪ってしまった。	若然我是个谦虚好学的少年，也许不会就这样轻易地感到失望了，我会为自己鉴赏力不济而叹息。无奈我心里把它想象得过于美了。由与期望相违而引起的痛苦把此外的一切反思都彻底剥夺了。
148	私は金閣がその美をいつわって、何か別のものに化けているのではないかと思った。美が自分を護るために、人の目をたぶらかすということはありうることである。もっと金閣に接近して、私の目に醜く感じられる障害を取除き、一つ一つの細部を点検し、美の核心をこの目で見なければならぬ。私が目に見える美をしか信じなかった以上、この態度は当然である。	我怀疑金阁是在幻演魔术，隐去了美的真容。美为了卫护自己而遮人眼目，这也不是不可能的。看来我应当靠得更近些，摒除所有令我感到丑的屏障，深入检点每一细部，以透视其美的内核。既然我只相信亲眼见到的美，采取这种态度也是自然的。
149	さて父は私を導いて、うやうやしく法水院の縁先に上った。私はまず硝子のケースに納められた巧緻な金閣の模型を見た。この模型は私の気に入った。このほうがむしろ、私の夢みていた金閣に近かった。そして大きな金閣の内部にこんなそっくりそのままの小さな金閣が納まっているさまは、大宇宙の中に小宇宙が存在するような、無限の照応を思わせた。はじめて私は夢みることができた。この模型よりもさらにさらに小さい、しかも完全な金閣と、本物の金閣よりも無限に大きい、ほとんど世界を包むような金閣とを。	这回我随着领路的父亲，恭谨地站立在法水院长廊边。我先看了收入玻璃匣中金阁的精巧模型。我对这个模型很着迷，毋宁说它和我梦想中的金阁更为近似。大金阁中收容着这个模样逼真的小金阁，就象大宇宙中存在着小宇宙，这引起了我无限的遐想。我平生首次进入了一种梦幻之中：仿佛看到一个比眼前的模型更小更小而且同样完整的金阁和那比实际的、真正的金阁大到无限、几乎囊括了整个世界的大金阁。
150	しかし私の足は、いつまでも模型の前に止まっていたわけではない。次いで、父は名高い国宝の義満像の前へ私を案内した。その木像は義満の剃髪ののちの名、鹿苑院殿道義の像と呼ばれている。	不过，我并没在模型前逗留很久，父亲接着又带我看义满的木雕去了。这尊价值连城的国宝用的是义满削发为僧以后的法号，称作鹿苑院殿道义之像。
151	それも私には煤けた奇妙な偶像と見えただけで、何の美しさも感じられなかった。さらに二階の潮音洞に昇り、狩野正信の筆と云われる天人奏楽の天井画を見ても、頂上の究竟頂の隈々にのこる、哀れな金箔の痕跡を見ても、美しいと思うことはできなかった。	这尊木雕，在我看来也仅只是一座黑不溜秋的奇特的偶像，没有一点美感。上到二层潮音洞，看了天棚上相传为狩野正信所绘的天人奏乐图，又上到三层究竟顶，看了四处金箔剥落的惨相，我都没感到有什么美可言。
155	われわれ父子は、金閣拝見のあと、ふたたび本堂の玄関をおとなうと、長いひろびろとした廊下をみちびかれて、名高い陸舟松のある庭を見わたす大書院の住職の部屋へとおされた。	我们父子二人叩拜金阁，焚香一炷后，又回到正殿门前，随长老走过一道宽阔的长廊，来到长老的居室大书院。这里是宽宽的院落，院里有一棵名闻遐迩的陆舟古松。
156	私は学生服の膝を畏まらせて、固くなって坐っていたが、父はここへ来て俄かに寛ぎを見せた。しかし父と、ここの住職とは、同じ出身でも、福々しさがずんとちがっていた。父は病み衰え、貧相で、粉っぽい肌をしているのに、道詮和尚は、まるで桃いろのお菓子みたいに見えた。和尚の机の	进屋之后，父亲才显得有些精神气，我因学生服不便，跪坐稍许便改为盘腿。父亲虽与道诠大师资历相同，却福缘不济，现在就已病体不支，满脸落魄之相。而道诠大师却仙桃肌肤、粉白红润，坐守宝刹，而书籍佳珍并至，可见交际之广。大师从桌上尚未启

	上には、こんな花々しい寺らしく、諸方から送られた小包や雑誌類、本、手紙などが、封も切られずに山と積まれていた。和尚はむっちりした指さきで、鋏をとって、小包の一つを器用に剥いた。	封的小山般的物品堆中取了一个包裹，用丰满的手指抄起剪刀，麻利地挑开缝线：
160	住職は小肥りしていて、もちろん皺もあったが、一つ一つの皺の中までが、きれいに洗い込まれている。丸顔で、鼻だけが長くて、流れてきた樹脂が固まったような形をしている。顔がそういう風なのに、剃り上げた頭の形はいかつく、精力が頭に集まっているようで、頭だけがひどく動物的なのである。	长老身材敦实，脸上虽也生出一些皱纹，然而就连这些皱纹里也透着光亮。他长着团团脸，只有鼻子稍长，酷似树脂流下凝结而成的。尽管模样不济，剃的光头却很威风，天庭豁豁有光，显得精悍无比。看他全身上下只有头颅尚具凡胎之相。
161	父と住職の話題は、僧堂時代の思い出に移った。私は庭の陸舟松を眺めていた。それは巨松の枝が低くわだかまって、船の形をし、舳のほうの枝だけが、こぞって高まっているのである。閉園間近に団体の見物が来たらしく、塀ごしに金閣のほうからざわめきがひびいて来る。その足音も人声も、春の暮れがたの空に吸われて、音が尖ってきこえず、やわらかい円みを帯びてきこえる。足音がまた潮のように遠ざかってゆくのが、いかにも地上を通りすぎてゆく衆生の足音という風に思われる。私は暮れ残る光りを凝らしている金閣頂上の鳳凰をじっと見上げた。	二人的话语又转向追忆当年，海阔天空地聊起来。我则望着庭中那株古树，陆舟松枝干蟠曲，匝地处作船形，一个巨枝作船头状高高矗起。已近闭园时间，可能又有一队游客赶来，隔墙可听见金阁那边传来的阵阵喧声。脚步声，说话声消融在暮春的夕空中，似有似无，听来十分圆润。没多久，这喧声便退潮般渐远渐弱渐稀，不由得令人想到芸芸众生从地上匆匆而过的跫音。我目不转睛地望着苍茫暮色中金阁顶上那只凤凰。
162	「この子をな、……」と父の言っている声をききつけて、私は父のほうへふりむいた。ほとんど暗くなった室内では、私の将来が、父から道詮師に託されているのだった。	“这孩子就……”父亲这一句话使我转过脸去。我明白。在这尚未掌灯的昏黄屋子里，我的将来就这样被托付给道诠长老了。
168	薬石と呼ばれる夕食を御馳走になり、その晩は寺に泊めてもらうことになったが、夕食後私は父を促して、もう一度金閣を見に行った。月がのぼったからである。	晚上在长老处进斋，名曰“药石”。当晚留宿既定，饭后我便央求父亲，趁月光好，再看一次金阁。
175	あれほど失望を与えた金閣も、安岡へかえったのちの日に日に、私の心の中でまた美しさを蘇らせ、いつかは、見る前よりももっと美しい金閣になった。どこが美しいということはできなかった。夢想に育まれたものが、一旦現実の修正を経て、却って夢想を刺戟するようになったとみえる。	金阁虽说如此使我失望，然而回到安冈以后，它的美却又在我心中日日醒转来。不知何时起我觉得它甚至比没见到以前更美。至于美在何处，我却说不出。大抵在梦想中美育过的事物，一经现实印证之后，便会更加刺激了梦想。
184	駈けつけたとき、父はすでに棺の中に横たわっていた。というのは、内浦まで徒歩で行って、そこから船を頼んで、浦づたいに成生へかえるには、丸一日かかったからである。季節は梅雨入り前の、照りつける暑い毎日である。私が対面すると匆々、柩は荒涼たる岬の焼場に運ばれて、海のほとりで焼かれることになっていた。	当我赶到家时，父亲已被装敛入棺。我是步行到的内浦，从那再搭船顺内港返回成生，故而误时整整一天。时令已近梅雨，每天烈日曝晒，酷暑难当。我只来得及向灵柩匆匆一瞥，父亲的遗体便被运到海岬荒凉的火葬场，在海滩上火化了。
185	田舎の寺の住職の死というものは、異様なものである。適切すぎて、異様なのである。彼はいわば、その地方の精神的中心でもあり、檀家の人たちのそれぞれの生涯の後見人でもあり、彼等の死後を委託される者でもあった。その彼が寺で死んだ。それはまるで、職務をあまりにも忠実にやってのけたという感銘を与え、死に方を教えて廻っていた者が、自ら実演してみせてあやまって死	乡下寺院住持的圆寂本身就不同风俗，而父亲又过于死得其所，这就更令人觉得非比寻常。父亲可说是此地的精神支柱、施主们的人间见证人以及死后灵魂的超度者。他就这样在寺院终其一生。他克尽职守，为普渡众生而鞠躬尽瘁。这种现身说法式的死亡甚至令人感到是一种不应有的过失。

	んだような、一種の過失と謂った感を与える。	
186	実際父の柩は、用意万端整えられていたものの中にはめ込まれたような、所を得すぎた感じで置かれていた。母や雛僧や檀家の人々はその前で泣いていた。雛僧のたどたどしい読経も、半ば、柩の中の父の指示に頼っているという風なのである。	父亲安葬时，所用的祭奠物品一应俱全，甚至令人觉得超过了死者应得的歆飨程度。母亲、僧童以及施主们都跪在父亲灵前稽颡泣血。就连僧童们那悠悠的念经声，也仿佛受了父亲冥冥中的指点。
187	父の顔は初夏の花々に埋もれていた。花々はまだ気味のわるいほど、なまなましく生きていた。花々は井戸の底をのぞき込んでいるようだった。なぜなら、死人の顔は生きている顔の持っていた存在の表面から無限に陥没し、われわれに向けられていた面の縁のようなものだけを残して、二度と引き上げられないほど奥のほうへ落っこちていたのだから。	父亲被安葬在初夏盛开的花丛里。生机勃勃的花儿迄今仍不快活。花儿如窥视井底般低垂着头。它们为何如此？这只因死者的面孔已从活着时候存在过的表面作无限的塌陷，仅有朝向我们这一面的边框残存着，它向深层沉降，塌陷到再也提它不起。
190	屍はただ見られている。私はただ見ている。見るということ、ふだん何の意識もなしにしているとおり、見るということが、こんなに生ける者の権利の証明でもあり、残酷さの表示でもありうるとは、私にとって鮮やかな体験だった。大声で歌いもせず、叫びながら駈けまわりもしない少年は、こんな風にして、自分の生を確かめてみることを学んだ。	尸体只能是被人瞻望着，而我则只能瞻望。所谓瞻望，恰如平日无意的所为，它就这样既是生者权力的证明，又是人的残酷的标志。这对我来说，乃是一种新鲜的体验。一个既不放声歌唱也不呼号奔跑的少年，就这样学会了证实自己的生。
192	起龕の読経がはじまり、私はそれに加わった。本堂は暗かった。柱にかけられた幡、内陣の長押の華鬘、香炉や華瓶のたぐいは、燈明のちらちらする光りをうけて煌めいた。ときどき海風が入って来て、私の僧衣の袂をふくらませた。	起灵时开始念经，我加入其中。正殿里黑洞洞的，柱上挂的灵幡，佛堂承尘上的华■、香炉和花瓶等器物，在长明灯映照下忽明忽暗，闪烁着飘忽不定的光彩。阵阵海风吹进，撩卷着我僧袍的袂袖。
195	――葬列がもう一二丁で焼場へ着くというとき、私たちは突然の雨に会った。折よく気のよい檀家の前だったので、柩もろとも雨宿りをすることができた。雨は止むけしきがなかった。葬列は前へ進まねばならなかった。そこで一同の雨具が整えられ、柩は油紙で覆われて焼場へ運ばれた。	――再向前走一两百米就是火葬场了，谁知却突然遇上了大雨。正巧来到一家好心的施主门前，我们这支送葬队伍才得以停下灵柩避雨。看看老天并没有放晴的意思，送葬队伍又不能久留此地，众人便匆忙披上雨具，又用油纸把灵柩遮严，继续向火葬场走去。
196	そこは村の東南へ突き出た岬の根方の、石だらけの小さな浜である。そこで焼く煙は村のほうへひろがらないので、昔からそこが焼場に使われて来たものらしい。	这里是村东南山岬下濒海的一块乱石滩。据说在这儿火葬，冒的烟不会刮向村里，所以自古便被选作火葬场了。
197	その磯の波は格別荒い。波が動揺しながらふくらんで砕けようとするあいだにも、その不安な水面は、間断なく雨に刺されている。光りのない雨はただならぬ海面を、冷静に刺し貫ぬいているだけである。しかし海風が、ふとして、雨を荒涼とした岩壁に吹きつける。白い岩壁は、墨の繁吹を吹きつけられたように黒くなる。	濒海的乱石滩口波涛格外凶猛，即使是黑浪膨胀着来、碎裂着去的转瞬之间，急雨也不放过这不安的水面，鞭笞着它。无光的雨向不肯轻易认输的海水抽打又抽打，一下比一下有力。然而海风看准时机，又会把雨帘推挤到荒凉的岩壁上。白色的石崖就向被喷上了一层黑色泡沫似的，乌黑发亮。
199	海景は何も見えなかった。波と、濡れている黒い石と、雨だけがあった。油をかけられた柩は、艶やかな木の肌の色をして、雨に叩かれていた。	这里，见不到什么海景。只有波涛、湿漉漉的黑石和雨。浇了油的灵柩经雨水一打，上面的木纹显得益发清晰光艳。
200	火がつけられた。配給の油が、住職の死のためにたっぷり用意されたので、火は却って雨に逆らって、鞭打つような音を立てて募った。昼間の焔が、おびただしい煙のなかに、透明な姿で、はっきり見えた。煙はふくよかに累なりながら、少しずつ崖のほうへ吹き寄せられ、ある瞬間に	点火了，配给寺院长老火化用的油是足够多的，因而火势逆着雨直穿，一时鞭炮似地带着响声燃起。白日里，透过滚滚的浓烟可以清楚地看到那透明的火焰。浓烟升腾着缓缓向山崖那边瓢去。在某一瞬间，急雨中只有火焰那端丽的身影在跳跃。

	は、雨の只中に、焔だけが端麗な形で立上った。	
207	寺に入ってすぐ気のついたことだが、やかましい寮頭は兵隊にとられ、寺には老人とごく若い者としか残っていなかった。ここへ来て、いろんな点で私はほっとした。在家の中学のように、お寺の子だからと云ってからかわれることはなく、ここにいるのは同類ばかりだったから。……私は吃りで、皆より少し醜い点だけがちがっていた。	进了庙门，我就听说那位爱挑刺的大师兄已应证入伍了，寺里只剩下老的老小的小。出家到此，不论从哪方面看，都还让人舒心顺气。不会再有谁象家乡上中学时那样说我是和尚的儿子，拿我寻开心了。因为在这里大家都彼此彼此……唯有一点不同，那就是我有口吃的毛病。
208	東舞鶴中学校を中退して、田山道詮和尚の口ききで、臨済学院中学へ転校することになった私は、一ト月足らずしてはじまる秋学期から、転校先へ通うことになっていた。しかし学校がはじまれば、いずれすぐどこぞの工場へ、勤労動員をされることはわかっていた。今、私の前には、新たな環境における、数週間の夏休みが残っていた。喪中の夏休み、昭和十九年の戦争末期に置かれたふしぎにしんとした夏休み、……寺の徒弟生活は規則正しく送られたが、私にはそれが、最後の、絶対的な休暇だったように思い出される。	我从东舞鹤中学办了退学手续，经田山长老介绍，转到临济中学。现在正放暑假，离秋季新学期开始尚有不到一个月的时间，我得等暑假过后才能去新学校。不过我知道，开学后我们也许马上就会被动员去某处的工厂劳动。眼下，在进入新环境以前，我尚有几个星期的暑假时间。这是我服丧期中的暑假，是昭和十九年战争后期意外平静的暑假。……在寺院中，我过着循规蹈矩的出家生活。对于我来说，这个暑假已是最后的、绝对最后的一次了。
212	私は得度の折に剃られたばかりの青々とした頭をしていた。空気が頭にぴったりと貼りついているようなその感覚、それは自分の頭の中で考えていることが、薄い敏感な傷つきやすい皮膚一枚で、外界の物象と接していると謂った妙に危険な感覚だ。	我出家时刚刚剃过不久的头，现在又长出了青森森的毛茬。空气紧紧贴附在头皮上，凉凉的。一想到脑中所思所念只隔一层薄薄的、敏感易伤的皮肤同外界物象相邻接，顿时令人生出一种奇妙的危险感。
216	戦乱と不安、多くの屍と夥しい血が、金閣の美を富ますのは自然であった。もともと金閣は不安が建てた建築、一人の将軍を中心にした多くの暗い心の持主が企てた建築だったのだ。美術史家が様式の折衷をしかそこに見ない三層のばらばらな設計は、不安を結晶させる様式を探して、自然にそう成ったものにちがいない。一つの安定した様式で建てられていたとしたら、金閣はその不安を包摂することができずに、とっくに崩壊してしまっていたにちがいない。	不用说，战乱与不安、遍野尸横和血雨腥风的确给金阁的美增色不少，因为金阁本也是狂乱不安的造化。这座由将军足利义满及其幕下无数颗阴沉的心企划建成的三层楼阁。在建筑格局上的东拼西凑（美术史家从中只看到了风格的折衷），肯定是设计者们那狂躁不安的心理流注于样式设计所致。如果金阁真的按一种安定风格设计建成，那么它肯定会因难以统摄不安而在落成伊始便崩坍无存。
218	舞鶴にいて思うと、金閣は京都の一角に、恒常的に在るように思われたが、ここに住むことになると、金閣は私の見るときだけ私の眼前に現われ、本堂で夜眠っているときなどは、金閣は存在していないような気がした。そのため、私は日に何度となく金閣を眺めにゆき、朋輩の徒弟たちに笑われた。私には何度見ても、そこに金閣の存在することがふしぎでたまらず、さて眺めたあと本堂のほうへ帰りがてら、急に背を反してもう一度見ようとすれば、金閣はあのエウリュディケーさながら、姿は忽ち掻き消されているように思われた。	在舞鹤时我曾想，金阁就象一个永恒的存在，立于京都的一角。然而一来到金阁住下，却又觉得只有我看到它时它才存在。夜里睡下后它便立时成为一个缥缈，再无所谓金阁了。为此我一日中总要望上几次金阁。朋辈们都笑我痴。哪次去看金阁，它都安然无恙地立在那里，这使我奇怪不已。看了以后回头向正殿走，心里仍觉惴惴，总忍不住回转身想再望上一望。而此时则又会觉得金阁象海市蜃楼一般，说不定马上就会消失的。
221	裏の山中に、藻におおわれた寂しい沼、安民沢というのがあった。池中に小島があり、白蛇塚と呼ばれる一基の五重の石塔が立っていた。そのあたりの朝は、鳥のさえずりがかまびすしく、鳥の姿は見えないで、林全体が囀っていた。	后山有一个寂静的古池叫安民泽。池面上布满了水藻。水中有个小岛，岛上有座五重石塔，塔名白蛇冢。清晨的小岛上，但闻鸟语喧闹，却不见鸟的踪影，仿佛是树林在叽喳嬉戏。

224	鶴川というその少年には、昨夜紹介されたばかりであった。鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も潤沢に家から送られ、ただ徒弟の修業を味わわせるために、住職の縁故で金閣寺に預けられているのであった。夏休みを帰省していたのが、早目に昨夜帰ってきたのである。水際立った東京弁を話す鶴川は、秋からは臨済学院中学で私と同級になる筈で、その口早な快活な話しぶりが、昨夜すでに私を怖気づかせていた。	这少年名叫鹤川，我们昨晚才刚刚相识。他住在东京近郊，是颇有名望的寺院之子，学费、零用和口粮都由家中充分供给。他的父亲和住持有深交，送他来金阁寺，只是为了让他体验一下在外修行的滋味。暑假他正好回家探亲，昨晚提前返寺。等到秋季，这位站在池畔、满口东京话的鹤川，就将在临济中学与我共牖同窗了。他那爽快善讲的性格，自昨晚乍一接触就有些令我怯怯不安了。
225	そして今も、「何だ君か」と云われると、私の口は言葉を失った。が、私の無言が、彼には一種の非難のように解されたらしかった。	现在听他这么一喊，一时间不知说什么才好。他也许把我的窘迫不语，看作是对他的一种非难，便说：
226	「いいんだよ、そんなにまじめに掃除なんかしなくても。どうせ見物が来れば汚されちゃうんだし、それに見物の数も少ないんだから」	“算了吧！甭那么认真打扫了！一会儿游客进来照样还得弄脏。再说，现在也没什么人来玩了！”
235	私は何の反撥をも感じないで、こう云われると、自分が淋しく見えたという相手の感想から、或る安心と自由を贏ち得て、言葉がすらりと出た。	他这样说我并没觉得反感。听他说我悲苦，心里反而感到一种安慰，讲起话来也就流畅多了：
262	という答えがあって部屋へ上るまでに、僧衣の裾で、濡れた足を手早く拭っておくという秘伝を、私は朋輩から教わった。+++私は印刷インクの放つ、俗世の鮮烈な匂いを嗅ぎながら、新聞の大見出しを、ちらちらと盗み見て廊下をいそいだ。すると「帝都空襲不可避か？」という見出しが読まれた。	听到答声后方可进去。师兄弟们暗地里曾叮嘱我说，进屋前务必要用僧袍大襟把湿脚擦干净，万不可湿着脚进入。我在长廊中匆忙向前走去，纸上散发出一种尘世特有的刺鼻的油墨味儿，我两眼匆匆向报纸的大标题浏览了一番，但见一行醒目的大字跃在眼前：“京都空袭或不可免？”
263	それまで、奇妙なことに思われようが、私は金閣と空襲とを結びつけて考えてみたことがなかった。サイパンが陥ちてこのかた、本土空襲は免がれないものとされ、京都市の一部にも強制疎開が急がれていたが、それでも金閣というこの半ば永遠の存在と、空襲の災禍とは、私の中でそれぞれ無縁のものでしかなかった。金剛不壊の金閣と、あの科学的な火とは、お互いにその異質なことをよく知っていて、会えばするりと身をかわすような気がしていた。……しかし、やがて金閣は、空襲の火に焼き亡ぼされるかもしれぬ。このまま行けば、金閣が灰になることは確実なのだ。	若在过去，看到这样的消息，我肯定会觉得是奇谈怪论。我还从来没把金阁与空袭联在一起考虑过。塞班岛失陷后，本土遭到轰炸就属不可避免的了，京都部分地区已开始对人口进行强制疏散。尽管形势如此危急，我仍然认为，象金阁这样近乎永恒的存在与空袭之灾是根本不搭边的。我总觉得，金刚不坏的金阁和那种科学上的所谓火，它们肯定都对双方本质上的差异认识得极为清楚；即使相遇，也会漠不相关地交臂而过。……不过，说不定金阁也真的会毁于兵燹。如果照目前这个样子发展下去，金阁灰飞烟灭也指日可待了。
266	それは明日から学校がはじまる日、夏の最後の日の午後であった。住職は副執事を連れて、どこかの法事に頼まれて出かけていた。鶴川は私を映画に誘った。しかし私が気乗薄だったので、彼も忽ち気乗薄になった。鶴川にはそういうところがあった。	那是临开学的头一天，也是三伏出暑的最后一日下午，寺院长老带着副执事应约外出为施主做法事去了。鹤川邀我看电影，不过，我却没这份兴致。鹤川见我不去，他也顿觉兴味索然，只得作罢。他就是这么一种脾性。
269	私はそれに答えて、どこかへ行く前に金閣をしみじみ見てゆきたい、明日からはこの時刻に金閣を見ることはできなくなるし、われわれが工場へ行っている留守に金閣は空襲で焼かれているかもしれない、と言った。私のたどたどしい言訳はしばしば吃り、鶴川はそのあいだ、呆れたようなじれったい表情できいていた。	我随口应道：先别急着转，还是好好看看金阁吧，从明天起这时辰就看不见它了。说不定下厂劳动离开寺院时，金阁便在空袭中烧毁了。我笨咧咧地勉强挤出这么几句话，还不时打着磕绊。鹤川用一种惊讶的表情，急不可耐地听我讲着。
273	私は言い了った。言い了ると同時に怒りにから	我说完了。吐完最后一字的同时，我感到

	れた。鶴川ははじめて会ってから今まで一度も私の吃りをからかおうとしないのだ。	怒不可遏。因为从开始相识直到现在，鹤川从没讥笑过我口吃。
276	鶴川はえもいわれぬやさしい微笑をうかべた。そしてこう言った。	鹤川起初只是和善地微微一笑，并不辨解，随后才开口说：
278	私は愕いた。田舎の荒っぽい環境で育った私は、この種のやさしさを知らなかった。私という存在から吃りを差引いて、なお私でありうるという発見を、鶴川のやさしさが私に教えた。私はすっぱりと裸かにされた快さを限なく味わった。鶴川の長い睫にふちどられた目は、私から吃りだけを漉し取って、私を受け容れていた。それまでの私はといえば、吃りであることを無視されることは、それがそのまま、私という存在を抹殺されることだ、と奇妙に信じ込んでいたのだから。	我不由感到愕然。自幼生长在乡村粗野的环境，我还从未感受过这样的温情。从我这一存在中去除口吃成分后竟然还可以是我——这种发现是鹤川的温柔教给我的。真好比脱光了身子，我觉得通身无比地爽快！鹤川那双毛茸茸的眼睛在看我时，唯独，滤去了我的口吃症。而过去我却一直抱一种奇怪的想法，深信我与口吃是不可分的，故而无视我的口吃，就等于抹杀了我的存在。
281	……私にはありありと思い出される。鏡湖池の片ほとりに、ゲートルを巻いた二人の白シャツの少年が肩を組んで立っている。その二人の前に、金閣が、何ものにも隔てられずに存在していたのだ。	……我记得很清楚，我们俩都穿着白衬衫，打着绑腿，肩并肩站在镜湖池畔。金阁就在眼前，它毫无遮挡地向我们坦露着胸。
283	晩夏のしんとした日光が、究竟頂の屋根に金箔を貼り、直下にふりそそぐ光りは、金閣の内部を夜のような闇で充たした。今まではこの建築の、不朽の時間が私を圧し、私を隔てていたのに、やがて焼夷弾の火に焼かれるその運命は、私たちの運命にすり寄って来た。金閣はあるいは私たちより先に滅びるかもしれないのだ。すると金閣は私たちと同じ生を生きているように思われた。	晚夏的阳光静静地洒下，给究竟顶贴上了一层金箔。那当空直射的光芒照不进金阁，阁内是夜一般的阴影弥漫。过去这座建筑曾以其超越时光的不朽令我喟然，拒我于千里之外；而今它又在即将焚于战火之际，向我们靠拢。是命运把我们连在一起。金阁也许会先我们而亡，如此说来，它似乎也有生生死死了。
284	金閣をめぐる赤松の山々は蝉の声に包まれていた。無数の見えない僧が消災呪を称えているかのように。「・・。・哂・哂。吽吽。入・・入・・。・・入・・・・入・・。」	金阁掩映在红松林中，那里蝉声四起，久唱不歇，仿佛有无数和尚在诵经祛灾：+++“■■，■■■■。■■，入■■入■■。■■入■■，■■入■■。”
294	この世に私と金閣との共通の危難のあることが私をはげました。美と私とを結ぶ媒立が見つかったのだ。私を拒絶し、私を疎外しているように思われたものとの間に、橋が懸けられたと私は感じた。	在这个世界上，我和金阁有着共同的危难，这使我得到鼓舞。因为我在自身与美的天国之间找到了一架虹桥。有了它，美的天国就再不能拒我千里，将我置之度外了。
296	その一年間、私が経も習わず、本も読まず、来る日も来る日も、修身と教練と武道と、工場や強制疎開の手つだいとで、明け暮れていたことを考えてもらいたい。私の夢みがちな性格は助長され、戦争のおかげで、人生は私から遠のいていた。戦争とはわれわれ少年にとって、一個の夢のような実質なき慌しい体験であり、人生の意味から遮断された隔離病室のようなものであった。	请想想那一年，我不诵经不读书，整天价修身、集训、练武；此外还要下工厂劳动，协助疏散人口，就这样东奔西忙、日复一日。这种生活无疑助长了我那酷爱梦想的性格。是战争使我得以远离人生。战争对我们这些少年来说，宛如一个梦，一种没有任何实在内容的慌慌张张的体验，一个所有同人生意义的联系都被切断了的隔离病房。
297	昭和十九年の十一月に、B29の東京初爆撃があった当座は、京都も明日にも空襲を受けるかと思われた。京都全市が火に包まれることが、私のひそかな夢になった。この都はあまりにも古いものをそのままの形で守り、多くの神社仏閣がその中から生れた灼熱の灰の記憶を忘れていた。応仁の大乱がどんなにこの都を荒廃させたかと想像すると、私には京都があまり永く、戦火の不安を忘れていたことから、その美の幾分かを失って	昭和１９年１１月，Ｂ－２９型喷气轰炸机首次空袭东京。当时人们纷纷猜测，也许明天就会空袭京都吧。我甚至梦想着京都也能陷于火海。都因这个城市过于恪守旧容，当年多少佛阁、神社一朝化为乌有，它似乎全都忘记了。每念及应仁之乱京城夷为焦土的历实，我便感到京都是过于陈旧了；它已忘记昔日的刀光剑影，由是益令人感到它已不再是完美无缺的了。

	いることを思うのであった。	
298	明日こそは金閣が焼けるだろう。空間を充たしていたあの形態が失われるだろう。……そのとき頂きの鳳凰は不死鳥のようによみがえり飛び翔つだろう。そして形態に縛しめられていた金閣は、身もかるがると碇を離れていたるところに現われ、湖の上にも、暗い海の潮の上にも、微光を滴らして漂い出すだろう。……	明天金阁便会沦为火海，它所占有的空间将不复存在了。……那时楼顶的金凤凰也许会象不死鸟一样从火中醒转振翅翱翔，而金阁也将挣脱身上的所有羁绊，起锚扬帆。随处都可见到它的身影。它曳着微光、漂洋过海，向前驶去。……
299	待てども待てども、京都は空襲に見舞われなかった。あくる年の三月九日に、東京の下町一帯が火に包まれたというしらせをきいても、災禍は遠く、京都の上には澄んだ早春の空だけがあった。	我一等再等，仍不见空袭京都的日子到来。直等到翌年 3 月 9 日东京下町一带燃成一片火海。然而火神却始终迟迟不肯西顾，京都依旧是一派早春景象。
301	私は今でもふしぎに思うことがある。もともと私は暗黒の思想にとらわれていたのではなかった。私の関心、私に与えられた難問は美だけである筈だった。しかし戦争が私に作用して、暗黒の思想を抱かせたなどと思うまい。美ということだけを思いつめると、人間はこの世で最も暗黒な思想にしらずしらずぶつかるのである。人間は多分そういう風に出来ているのである。	有些事现在想来仍觉得不可思议。我压根就不是什么黑色思潮的弄潮儿，我所关心、我所疑惑的，唯有美这一个问题。我并不认为自己是受了战争洗礼才如此心境黯然的。我觉得美的确是一种触媒，任你是谁，一经钻进它的象牙之塔，便会与人世间灰暗的思想不期而遇。生而为人，这恐怕也是必然的事！
303	戦争末期の京都の、或る挿話が思い出される。それはほとんど信じがたいことであるが、目撃者は私一人ではない。私の傍らには鶴川がいたのである。	我想起战争末期京都的一段插曲。说来这事几乎令人难以置信，好在目击者并不是我一个人，身旁还有鹤川。
305	五月のよく晴れた日であった。インクラインはもう使われていず、船を引き上げる斜面のレールは錆びて、レールはほとんど雑草に埋もれていた。その雑草には白いこまかな十字形の花が風にわなないていた。インクラインの斜面の起るところまで、汚れた水が淀み、こちら岸の葉桜並木の影をどっぷりと涵していた。	5 月里艳阳天，桥下为运输铺设的小铁道荒置已久，牵引斗车用的斜铺着的铁轨锈迹斑斑，掩映在杂草丛中，十字形的小白花迎风抖动。污水已没到铺有铁轨的隆起坡道上，岸上成排的叶樱倒影也浸入水中。
306	私たちはその小さな橋の上で、何の意味もなしに、水のおもてを眺めていた。戦争中の思い出のほうぼうに、こういう短い無意味な時間が、鮮明な印象でのこっている。何もしていなかった放心の短い時間が、時たま雲間にのぞかれる青空のように、ほうぼうに残っている。そういう時間が、まるで痛切な快楽の記憶のように鮮やかなのは、ふしぎなことだ。	我们站在这座小桥上有眼无心地看着水面。战争中的回忆纷然杂沓，唯有这种短暂而无意味的片刻印象最感鲜明。什么都不想，什么都不做。这心神无羁的短暂时刻，就象偶尔从满天云雾间望到的一块块青空，散布在记忆四处。其印象之鲜明，简直就象快活的回忆一样。真是奇特无比。
315	南禅寺は同じ臨済宗でも、相国寺派の金閣寺とちがって、南禅寺派の大本山である。私たちは同宗異派の寺にいるわけである。しかし並の中学生同様、二人は案内書を片手に、狩野探幽守信と土佐法眼徳悦の筆に成るといわれる色あざやかな天井画を見てまわった。	///虽然同属临济宗，但南禅寺与相国寺派的金阁不同，它是南禅寺派的大本营。如此说来我们现在是在同宗异派的寺院里了。不过，我们还是象寻常的中学生那样，手拿一份导游图，转着圈看堂内五彩缤纷的天井画。据说这是狩野探幽守信和土佐法眼德悦的手笔。
316	天井の片方には、飛翔する天人と、その奏でる琵琶や笛の絵が描かれていた。別の天井には白い牡丹を捧げ持つ迦陵頻伽が羽搏いていた。それは天竺雪山に住む妙音の鳥で、上半身はふくよかな女の姿をし、下半身は鳥になっている。また中央の天井には、金閣の頂上の鳥の友鳥、あのいかめしい金色の鳥とは似ても似つかぬ、華麗な虹の	角落里一块天花板上，绘有飞天图。天女怀抱琵琶，手握玉笛。另一块天花板上绘有迦陵频迦，口衔白牡丹花枝，展翅飞翔。据说这是生息在天竺雪山上的妙音鸟；其上半部为丰满的女身，下半部才是鸟形。正中央天花板上绘有一只金凤凰，羽翼有如五彩虹霞，似乎是金阁顶上那只凤凰的伴鸟。不过

	ような鳳凰が描いてあった。	它与金阁那只金凤凰相比，似象非象，华丽有余而威严不足。
319	そうではなかった。われわれの眼下には、道を隔てて天授庵があった。静かな低い木々を簡素に植えた庭を、四角い石の角だけを接してならべた敷石の径が屈折してよぎり、障子をあけ放ったひろい座敷へ通じていた。座敷の中は、床の間も違い棚も隈なく見えた。そこはよく献茶があったり、貸茶席に使われたりするらしいのだが、緋毛氈があざやかに敷かれていた。一人の若い女が坐っている。私の目に映ったものはそれだったのである。	定睛看时，哪里有什么妙音小鸟，分明是天授庵的轮廓，隔一条大道横在对面了。院落里沓无人迹，几株矮小的树木疏影低垂。一条由方形角石拼铺而成的甬道曲曲弯弯通向庵内。庵里拉门大敞四开，客间里十分明亮。壁龛、搁板，角角落落一览无遗。一条绯红色地毡铺在地板上，鲜艳夺目。看样，这里似乎是举行献茶、茶会的地方。此刻正有一个年轻女人坐在地毡上。我刚才误以为看花了眼的可能就是这种景象了。
320	戦争中にこんなに派手な長振袖の女の姿を見ることはたえてなかった。そんな装いで家を出れば、道半ばで咎められて、引返さざるをえなかったろう。それほどその振袖は華美であった。こまかい模様は見えないが、水色地に花々が描かれたり縫取りされたりしており、帯の緋にも金糸が光り、誇張して云うと、あたりがかがやいていた。若い美しい女は端然と坐っていて、その白い横顔は浮彫され、本当に生きている女かと疑われた。私は極度に吃って言った。	女人身着一件十分华丽的长袖和服。战争年代里，还从没见过这种打扮的女人。要是穿着这一身漂亮的衣妆走出家门，遇有行人过来搭讪，准会羞得半途折返的。那长长的水袖可真是漂亮呵。离得近也许会看得更清楚，绯红的金丝绸带晶光耀眼，映得满堂生辉。女人端坐在那里，白晰的面庞，从侧面望去俨然是一座浮雕。我甚至怀疑她不是血肉之躯，一激动，口吃也更厉害了：
326	信じがたいことが起ったのはそのあとである。女は姿勢を正したまま、俄かに襟元をくつろげた。私の耳には固い帯裏から引き抜かれる絹の音がほとんどきこえた。白い胸があらわれた。私は息を呑んだ。女は白い豊かな乳房の片方を、あらわに自分の手で引き出した。	那件难以置信的事就是这时发生的。只见那女人正端坐中，忽然敞开衣领，从紧系的衣带中向外抽动领襟。那■■的绢擦声，我好象都听见了。白白的酥胸坦露出来。我大气也不敢出。女人用手把一侧丰满的乳房托了出来。
329	男は茶碗をかかげ、そのふしぎな茶を飲み干した。女の白い胸もとは隠された。	那男子将茶碗微微一倾，然后将这奇特的茶水一饮而尽。女人重新敛胸如初。
330	私たち二人は、背筋を強ばらせてこれに見入った。あとから順を追って考えると、それは士官の子を孕んだ女と、出陣する士官との、別れの儀式であったかとも思われる。しかしそのときの感動は、どんな解釈をも拒んだ。あまり見詰めすぎたので、いつのまにかその男女が座敷から姿を消し、あとにはひろい緋毛氈だけの残されていることに、気のつくには暇がかかった。	我和鹤川挺直脖筋，简直看呆了。事后我们顺情猜测，这可能是一个怀过士官孩子的女人和即将出征的士官在举行告别仪式，不过，当时的内心震撼却拒绝大脑作任何理智的诠释。由于看得太入神，竟没有察觉这对男女什么时候走的。过了好长时间，我才回过神来，屋内唯有那张宽宽的地毡红得耀眼。
338	東舞鶴中学校へ入学して、叔父の家に預けられて、第一学年の夏休みに、はじめて帰省したときのことである。そのころ母の縁者の倉井という男が、大阪で事業に失敗して、成生へ帰ったが、家附の娘である彼の妻は、彼を家に入れなかった。そこでやむなく、ほとぼりがさめるまで、倉井は私の父の寺に身を寄せていた。	我进东舞鹤中学以后，在叔父家寄居。这事便发生在第一年暑假我头一次回乡。当时我母亲的亲戚中有一个叫仓井的男人，在大阪经营破产回到成生。他是倒插门的女婿，妻子不许他再进家门。父亲不得已答应仓井来寺院我们家暂住，直到他们夫妻双方冷静下来为止。
340	蚊帳は風を孕みかけては、風を漉して、不本意に揺れていた。だから吹き寄せられる蚊帳の形は、風の忠実な形ではなくて、風が頽れて、稜角をなくしていた。畳を笹の葉のように擦る音は、蚊帳の裾が立てている音であった。	蚊帐不窝风，有风就要滤过，不由自主地摇动。因此，一有风吹过，蚊帐便会鼓胀起来；风小时棱角便没了，在铺席上磨擦出如同风吹竹叶般的沙沙声。
341	私はおそるおそる目をその源のほうへ向けた。すると闇のなかにみひらいた自分の目の芯を、錐で突き刺されるような気がした。	我小心翼翼地睁大睡眼，寻找着波浪的源头。忽然，黑暗中我那睁大的眼睛就象扎进了锥子一般。
343	父が目をさましているのに気づいたのは、咳を	我发现父亲醒着，因为他一口痰憋在嗓子

	押し殺している呼吸の不規則な躍り上るような調子が、私の背に触れたからである。そのとき、突如として、十三歳の私のみひらいた目は、大きな暖かいものにふさがれて、盲らになった。すぐにわかった。父のふたつの掌が、背後から伸びて来て、目隠しをしたのである。	眼，气总喘不顺，身子一抖一抖碰到了我的背上。这时１３岁的我那大睁的双眼，突然被一种温热而巨大的东西遮住，成了瞎子。我马上明白过来：是父亲的两只大手从背后伸过来，蒙住了我的眼睛。
344	今もその掌の記憶は活きている。たとえようもないほど広大な掌。背後から廻されて来て、私の見ていた地獄を、忽ちにしてその目から覆い隠した掌。他界の掌。愛か、慈悲か、屈辱からかは知らないが、私の接していた怖ろしい世界を、即座に中断して、闇のなかに葬ってしまった掌。	父亲的巴掌至今还活现在我的记忆中。这是一双无法言喻的巨掌。这是来自背后，把我业已看到的地狱图一下抹消的巴掌。这是冥冥之中伸来的巨掌。我不知道这是出于爱，还是慈悲，抑屈辱。总之是这双巴掌把我视线中的骇人世界一下斩断，并将之埋葬到黑暗中去了。
345	私はその掌の中でかるくうなずいた。諒解と合意が、私の小さな顔のうなずきから、すぐ察せられて、父の掌は外された。……そして私は、掌の命ずるまま、掌の外されたのちも、不眠の朝が明けて、瞼がまばゆい外光に透かされるまで、頑なに目を閉じつづけた。	我在那双手掌里轻轻点了点头，父亲从那小脸的动作中察觉到了谅解与同情，便把巴掌抽回去了。……而我呢，即使那巴掌抽回了，不眠的早晨来到了，眼皮被晃眼的外光穿透了。象那双巨掌命令的那样，也还是狠狠地闭着双眼。
347	――後年、父の出棺のとき、私がその死顔を見るのに急で、涙ひとつこぼさなかったことを想起してもらいたい。その死と共に、掌の羈絆は解かれて、私がひたすら父の顔を見ることによって、自分の生を確かめたのを想起してもらいたい。私はあの掌、世間で愛情と呼ぶものに対して、これほど律儀な復讐を忘れなかったが、母に対しては、あの記憶を恕していないこととは別に、私はついぞ復讐を考えなかった。	――读者们想必还记得，后来我长大成人，亡父出殡时，我虽为与死去的父亲见上最后一面，而心急如焚，但却没流一滴泪。父亲一死，我从巴掌的羁绊中解脱出来后，又一心想通过瞻望父亲的死，来证实自己的生。我始终没有忘记向那个大巴掌，向那种世界所谓的爱，进行誓死的复仇。然而对于母亲，我却从没想到复仇（对那种记忆的不宽恕则另当别论）。
348	……母は命日の前日に、金閣寺へ来て一夜の宿りを許される手筈になっていた。命日の当日は、私も学校を休めるように、住職が手紙を書いてくれた。勤労動員は通いであった。前日私は鹿苑寺へかえるのが気が重かった。	……母亲来金阁寺的事已经定下，她将在父亲周年忌日的前一天来，在寺中住一晚。长老写信来，忌日那天让我也请假从学校赶回去。我现在正下厂劳动，临回鹿苑寺的前一天，心情越发沉重。
355	そうだ。時には鶴川は、あの鉛から黄金を作り出す錬金術師のようにも思われた。私は写真の陰画、彼はその陽画であった。ひとたび彼の心に濾過されると、私の混濁した暗い感情が、ひとつのこらず、透明な、光りを放つ感情に変るのを、私は何度おどろいて眺めたことであろう！	不错，有时我常把鹤川想象成点石成金的道家方士。如果说我是底片，那他就是正片。我那混浊灰暗的情感经他的心灵一过滤，就会变得晶莹剔透，光彩四溢。这使我每每震惊不已。当我磕磕巴巴，张口结舌时，鹤川总能把我的情感翻里作面、化内为外。
356	京都では空襲に見舞われなかったが、一度工場から出張を命ぜられ、飛行機部品の発注書類を持って、大阪の親工場へ行ったとき、たまたま空襲があって、腸の露出した工員が担架で運ばれてゆく様を見たことがある。	在京都没见到的空袭，却在大阪看到了。工厂曾派我出差，当我拿着飞机零件订单去大阪总厂时，正好看见空袭过后，有工人抬担架去医院。担架上，伤号的肠子露在肚皮外面。
378	「そやかて、いずれ兵隊にとられて、戦死せんならんかもわからへん」	“说不定什么时候我就当兵死掉了呢”。
379	「あほ。こんな吃りが兵隊にとられたら、日本もおしまいやな」	“混蛋！要你这么个结巴嗑子去当兵，日本早该完蛋了。”
389	一方、思いもかけない母の野心は、それを憎みながらも、私を虜にした。父は一言も言わなかったが、母と同じ野心の下に、私をこの寺へ送ったのかもしれなかった。田山道詮師は独身であった。師自身が、先代に嘱望されて鹿苑寺を継いだのであれば、私も心がけ次第で、師の後継者に	另一方面，对母亲那出人意料的野心，我虽然心怀憎恨，但同时又不得不为其所俘获。虽然当初父亲送我来金阁时，并没多说什么，但他很可能也抱有和母亲同样的野心。因为田山法师是个单身汉，如果他果真能得到先辈嘱望，成为鹿苑寺传人，那么只要我多长

	擬せられるかもしれなかった。もしそうなれば、金閣は私のものになるのである！	点心眼，便有望成为他的后继人。假如我真的成为方丈，金阁寺不就属于我了吗？
390	私の考えは混乱した。第二の野心が重荷になると、第一の夢想——金閣が空襲を受けること——に立戻り、その夢想が母のあからさまな現実判断で破られると、また第二の野心に立戻って、あまりあれこれと思いあぐねた結果、私の首の附根には、赤い大きな腫物ができた。	我的头脑乱成了一锅粥。当第二个野心实行起来显得困难时，我便移到第一个梦想——盼望金阁遭到空袭——上来。然而，这个梦想一经母亲那极其现实、直截了当的判断戳破之后，我便又回到第二个野心上来。太过虑也就太心烦，结果脖根上长出一个大脓包，又红又肿。
401	敗戦の衝撃、民族的悲哀などというものから、金閣は超絶していた。もしくは超絶を装っていた。きのうまでの金閣はこうではなかった。とうとう空襲に焼かれなかったこと、今日からのちはもうその惧れがないこと、このことが金閣をして、再び、「昔から自分はここに居り、未来永劫ここに居るだろう」という表情を、取戻させたのにちがいない。	金阁超越了战败的冲击和民族的悲哀。或者说它是在装作超越。昨天以前它还不是这样。免于葬身空袭，从今以后也不必再为此担忧——这使得它可以再次自豪地宣称："这儿自古便是一片净土。无论是过去，还是将来，我都将永劫不变地立于此地。"
402	内部の古びた金箔もそのままに、外壁に塗りたくった夏の陽光の漆に護られて、金閣は無益な気高い調度品のようにしんとしていた。森の燃える緑の前に置かれた、巨大な空っぽの飾り棚。この棚の寸法に叶う置物は、途方もない巨きな香炉とか、途方もない厖大な虚無とか、そういうものしかなかった筈だ。金閣はそれらをきれいに喪い、実質を忽ち洗い去って、ふしぎに空虚な形をそこに築いていた。もっと異様なことには、金閣が折々に示した美のうちでも、この日ほど美しく見えたことはなかったのである。	金阁内部的金箔依旧金光闪闪：外壁则有夏日的骄阳为它遍染光辉。金阁就象格调高雅、但并不适用的装饰品，静静地摆在那里。这是郁郁蓊蓊的森林前设置的一座巨大而空荡荡的彩楼。宜于这座彩楼的摆设，只有大得出奇的香炉或硕大无朋的虚无之类。而今金阁却已将它的丧失殆尽；并将自己的本质也全然荡尽，只剩下一座奇特的空壳。更为奇怪的是，今日的金阁较之以往任何时候都显得壮美。
409	その晩は開枕の読経の前に、特に陛下の御安泰を祈り、戦歿者の霊を慰めるために、長いお経が上げられた。戦争このかた、各宗で簡略な輪袈裟が用いられるようになっていたが、今夜特に老師は、久しく納われていた緋の五条の袈裟を召した。	那日深夜，在开枕前的读经时间，我特地为天皇陛下的安泰做了祈祷，为战死沙场的英灵做了长时间的超度。自战争开始后，各派僧侣纷纷穿起环袍袈裟，今夜老方丈特地换上久藏空箱的绯红色五条僧袍。
410	皺の中まで洗い込まれたように清浄な、小肥りしたその顔は、今日もまことに血色がよく、何かに満ち足りていた。暑い夜であったので、その衣摺れの音のすずしさが冴えた。	他那胖胖的脸上，就连皱纹也净洗过似的，气色格外红润，一副称心如意的神情。在这样一个闷热的夏夜，他衣褶的磨擦声听上去却透着一股清凉爽快。
411	読経のあとで、寺の者はみんな老師の居室に呼ばれ、そこで講話があった。	读罢经，老方丈把全寺僧徒都召到自己居室，给众人讲起佛门故事。
414	唐代の頃、池州南泉山に普願禅師という名僧があった。山の名に因んで、南泉和尚と呼ばれている。	据说中国大唐时代，池州南泉山上有一位名僧普愿禅师。后缘山易名，又称南泉法师。
425	南泉和尚が猫を斬ったのは、自我の迷妄を断ち、妄念妄想の根源を斬ったのである。非情の実践によって、猫の首を斬り、一切の矛盾、対立、自他の確執を断ったのである。これを殺人刀と呼ぶなら、趙州のそれは活人剣である。泥にまみれ、人にさげすまれる履というものを、限りない寛容によって頭上にいただき、菩薩道を実践したのである。	南泉法师斩猫之举，意指自决迷妄，斩除妄念妄想之根。通过非理性的斩猫之举，来表达对一切矛盾、对立以及其他纠缠通除断。如果说南泉手中的割草镰刀是杀人刀，那么赵州头上的破草鞋便等于活人剑了。赵州以无限的宽容之心甘愿顶着风里泥里、千人踏万人践的草鞋走路，他行的是菩萨之道啊！
426	老師はこのように説明すると、日本の敗戦には少しも触れずに講話を打切った。私たちは狐につままれたようであった。なぜ敗戦のこの日に、	老方丈如此这般地作着说明，一点没联系到日本的战败，就切断了话头。我们都象坠入五里雾中。为什么偏在战败之日选择这样

	特にこの公案が選ばれたのか、少しもわからない。	一个公案来讲？真是莫名其妙。
430	一つの寺では、通例、住職に対する尊敬の念が、寺の秩序を保たせるのだが、過去一年お世話になっていながら、私には老師に対する深い敬愛の心が湧いて来なかった。それはそれでよかった。しかし母によって野心に火を点ぜられて以来、十七歳の私の目は、時折老師を批判して見るようになっていた。	在一个寺院里，尊敬管家长老通常是保证寺院秩序的必要规章。尽管在过去的一年里，从老师处受益匪浅，但我却并不打心眼里敬佩他。这自然也并无不可。然而自从母亲来寺，给我的野心点起一把火之后，我便用我那１７岁少年的目光对老师横挑鼻子竖挑眼了。
432	老師は女遊びをし尽した人だときいていた。老師が遊んでいるところを想像すると、可笑しくもなり、不安にもなる。桃色の餅菓子のような体に抱きしめられて、女はどんな気持がするのだろう。世界のはてまでその桃いろの柔らかい肉がつながって、肉の墓に埋められたような気がするだろう。	听说他贪色透顶。一想到他逛青楼时的情景，我就觉得既可笑又不安。试想一个落■飘茵的妓女，被抱紧到他那桃粉色点心一般的法身里，她会做何感想呢？她肯定会觉得，那桃粉色的肉同地狱之门紧密邻接，而自己则是被埋到了肉的坟墓中了。
433	私は禅僧にも肉体のあることがふしぎでならなかった。老師が女遊びをし尽したのは、肉体を捨離して、肉を軽蔑するためだったと思われる。それなのに、その軽蔑された肉が思うさま栄養を吸って、つやつやして、老師の精神を包んでいるのはふしぎに思われる。よく馴らされた家畜のような温順な、謙譲な肉。和尚の精神にとっては、まさに妾のようなその肉……。	禅僧也讲求肉欲，这在我看来简直是不可思议的。老师耽于女色可能是一种旨在舍弃肉身、轻蔑肉体的实验。奇怪的是，那被蔑视的肉体却偏偏吸取了十分的营养、光艳滋润，包容着老师的精神。这真是家畜般温顺而又谦虚的肉体。对和尚的精神来说，这肉体就好似妻妾一般……。
437	寺の日課は敗戦のあくる日から、又同じようにつづけられた。開定、朝課、粥座、作務、斎座、薬石、開浴、開枕。……その上、老師は闇米を買うことを厳しく止められたので、檀家の寄附にかかる米だの、あるいは副司さんが発育ざかりの私たちのために、寄附と称して買うわずかな闇米が、乏しい粥の椀に沈んでいた。甘藷の買い出しにもときどき行った。粥座は朝だけでなく、昼も夜も粥や藷の食事がつづき、私たちはいつも飢えていた。	寺院里的日课，从战败翌日便开始恢复：开定、早课、粥座、作务、斋座、药石、开浴、开枕……忙煞人累煞人。加上老方丈又下令严禁到黑市买米，故而每日粥饭都清可见底。只有靠施主送来的那一点米和副司务为了使正处于发育期的徒弟们不致过于受饿，有时假称化缘买来的那点黑市米勉强维持。甘薯成了家常便饭，一日三餐都吃粥，除了米粥就是甘薯粥。我们经常饿得前胸贴后胸。
443	そういうものすべてから私は隔てられていた。私には金もなく、自由もなく、解放もなかった。しかし「新らしい時代」と私が言うとき、十七歳の私が、まだそれとはっきりは形を成さぬながら、一つの決意を固めていたことはたしかである。	我同这一切已远远隔离开来。我没有钱，没有自由，也没有解放。尽管当我说到“新时代”时，我才１７岁，对新时代的认识也远没成形。但是我的决心确已下定了。
449	私はちらとその青さを見て、不安に搏たれた。この少年は私などとはちがって、生命の純潔な末端のところで燃えているのだ。燃えるまでは、未来は隠されている。未来の燈芯は透明な冷たい油のなかに涵っている。誰が自分の純潔と無垢を予見する必要があるだろう。もし未来に純潔と無垢だけしか残されていないならば。	我恍惚间看到他眉上的阴翳，心里很是忐忑不安。这个少年和我这种人不同，他的未来是隐而不露的。他那纯洁的生命灯芯点燃的只是末端，未来的那部分则浸泡在透明、清凉的灯油中。也许谁都有必要预见自己未来的纯洁无瑕吧，如果未来只剩下纯洁无瑕的话。
452	ときたま私は夢精をすることがあった。それも確たる色慾の影像はなく、たとえば暗い町を一匹の黒い犬が駈けていて、その炎のような口の喘ぎが見え、犬の首につけられた鈴がしきりに鳴るにつれて昂奮が募り、鈴の鳴り方が極度に達すると、射精していたりした。	我也偶有梦遗，不过并无确实的色欲影象。例如，梦见夜里街道上跑着一条黑狗，它张着嘴直喘粗气，红红的舌头吐在外面。随着它脖子上叮咚作响的铃声我越来越兴奋，等到铃声响到最繁密时，我便射精了。
455	鹿苑寺の裏手、夕佳亭のあるところより更に東	在鹿苑寺后面，夕佳亭再往东，有一座不

	に、不動山という山がある。赤松に覆われた山で、松のあいだに生い茂る笹にまじって、うつぎ、躑躅などの灌木があった。その山には夜道でも躓かずに登れるほど馴れていた。頂きに登れば上京中京、はるかに叡山や大文字山を望み見ることができた。	动山。山上长满红松。红松中夹杂着茂密的矮竹，还有水晶花和杜鹃等灌木丛。这山我常来常往，即使摸黑也不会跌半个筋斗。从山顶极目四望，上京、中京、睿山以及大文字山尽收眼底。
456	私は登った。おどろかされた鳥の羽音の中を、わき目もふらずに、木の株を除けながら登った。何も考えないこの登攀が、たちまち私を癒やすのを感じた。頂上に着いたとき、涼しい夜風が来て、汗にまみれた体を捲いた。	我头也不回地攀登着，扒开树丛一直向上，惊起的鸟雀拍打着翅膀飞走了。我忘情地向上爬着，一切都不再想，内心渐渐平和了。爬至顶峰，凛凛的夜风吹在汗涔涔的身上，暑意顿时消失得无影无踪。
457	目の前の眺望がわが目を疑わせた。久しいあいだの燈火管制を解かれた京都市は、見わたすかぎりの灯であった。戦後になって、夜、一度もここへ登ったことがなかったので、この光景は私にとって殆んど奇蹟であった。	我简直不敢相信自己的眼睛了：从长期灯火管制中解放出来的京都市，此刻正是万家灯火。战后，我还没在夜里登过山。这光景在我眼前真是近乎奇迹了。
460	『これが俗世だ』と私は思った。『戦争がおわって、この灯の下で、人々は邪悪な考えにかられている。多くの男女は灯の下で顔を見つめ合い、もうすぐ前に迫った、死のような行為の匂いを嗅いでいる。この無数の灯が、悉く邪まな灯だと思うと、私の心は慰められる。どうぞわが心の中の邪悪が、繁殖し、無数に殖え、きらめきを放って、この目の前のおびただしい灯と、ひとつひとつ照応を保ちますように！　それを包む私の心の暗黒が、この無数の灯を包む夜の暗黒と等しくなりますように！』	“这就是尘世了。”我想，“战争已经过去，灯火里邪恶正撩动着人心。成对的男女聚在灯下互相对视，嗅到了迫在眼前的死一般的行为的气息。一想到这无数的灯火都是邪恶的灯火，我的心便得到了安慰。但愿我心中的邪念繁殖起来，增至无数，大放异彩，以同眼前这万盏灯火一一保持照应！并使我心中的黑暗同为无数灯火所包围的夜的黑暗等而广之！”
465	今まで金閣の拝観者は、軍服や作業服やもんぺ姿の、つつましいまばらな客でしかなかった。やがて占領軍が到着し、俗世のみだらな風俗が金閣のまわりに群がるにいたった。一方、献茶の習慣もよみがえり、女たちはあちこちへ隠していたとっておきの華美な衣裳を着て、金閣へ昇った。かれらの目にさらされる私たち、私たちの僧衣の姿、それは今でははっきりした対照をなし、まるでわれわれは酔興に僧侶の役を演じているかのようであった。或る地方の珍奇な風俗を見にやって来る観光客のために、殊更昔の珍奇な風俗を固守している住民のように。……とりわけ米兵たちは、無遠慮に私の僧衣の袖を引張って、笑ったりした。あるいはいくばくの金を差出し、記念写真をとらせるために、僧衣を貸してくれ、と言ったりした。それというのも、英語のできない案内人の代りに、時折、鶴川や私が、片言の英語の案内に狩り出されたからである。	过去前来参拜的，大都是些身着军装、工作服以及扎腿女裤的虔诚的善男信女，而且人数不多，稀稀落落，三三两两。战败不久，战领军来到，世俗的淫秽风习遂开始在金阁四外蔓延。献茶的习惯重新恢复了，女人们也把东挪西藏的华丽服装穿出，招摇过市的登临金阁。在游客的眼里，我们的形象包括我们的僧袍，都与他们形成鲜明对照，仿佛我们是乘着酒兴扮演起僧侣角色的。就象是专供那些猎奇的游客们开眼的固守古风奇俗的原始部落民。……特别是美军，常常毫无顾忌地拉扯我们的袍袖，把我们当做笑料。或拿出美钞向我们租赁僧衣，说要照张纪念像。这些都是我的亲身经历。因为我和鹤川常常要被拉去顶替那些不懂英语的导游，尽管我们也只会片言只语。
468	午後も雪であった。私はゴム長靴に、肩から鞄をかけたまま、参観路から鏡湖池のほとりへ出た。雪は暢達な速度で降った。子供のころよくそうしたものだが、私は今も天へむかって大きく口をあけた。すると雪片はごく薄い錫の箔をうちあてるような音を立てて、私の歯にさわり、さて、温かい口腔の中へ、隈なく雪が散って来て、私の赤い肉のおもてに融け浸み入るのが感じられた。そのとき私は究竟頂上の鳳凰の口を想像し	午后雪还在下着。我脚穿长筒靴。挎着书包，沿着参观路线来到镜湖池畔。鹅毛大雪纷纷扬扬，我仰面朝天，大张着嘴，象儿时那样，接起雪花来，雪片簌簌下落，带着薄薄的锡箔相互碰撞般的声响，飘落在我的牙齿上。漫天的飞雪，飘飘悠悠落入我温热的口中，仿佛浸透到我那红红的肉皮里了。此时，我不禁想起究竟顶上那凤凰的金喙来，那只金色的怪鸟也有一张滑润温热的嘴啊。

	ていたのだった。あの金色の怪鳥の、なめらかな熱い口を。	
470	雪に包まれた金閣の美しさは、比べるものがなかった。この吹き抜けの建築は、雪のなかに、雪が吹き入るのに委せたまま、細身の柱を林立させて、すがすがしい素肌で立っていた。	雪中的金阁之美委实妙不可言。这座四面通风的建筑，任凭飞雪的吹打。林立的细柱在雪中更见清矍，好一座银妆素裹的金阁！
471	どうして雪は吃らぬのか？　と私は考えた。それは八つ手の葉に障るときなど、吃ったように降って、地に落ちることもあった。しかし遮ぎるもののない空から、流麗に落ちてくる雪を浴びていると、私の心の屈曲は忘れられ、音楽を浴びているように、私の精神はすなおな律動を取戻した。	雪为什么就不口吃呢？我心中暗暗想道，当它碰到八角金盘叶子的阻碍后，再降落到地面，那情形不就颇象口吃吗。不过，当我沐浴着从无遮无拦的天空中洒脱地流泻下来的飞雪时，我便忘记了所有的心灵羁绊。就象沐浴在动人的乐曲声中，我的心又恢复了纯真的律动。
472	事実、立体的な金閣は、雪のおかげで、何事をも挑みかけない平面的な金閣、画中の金閣になっていた。両岸の紅葉山の枯枝は、雪をほとんど支え得ないで、その林はいつもよりも裸かに見えた。おちこちの松に積む雪は壮麗だった。池の氷の上にはさらに雪がつもり、ふしぎにつもらぬ個所もあって、白い大まかな斑らは、装飾画の雲のように大胆にえがかれていた。九山八海石も淡路島も、池の氷上の雪とつながって、そこに茂る小松は、あたかも氷と雪の原の只中から、偶然生い立ったもののように見えるのであった。	只因有了洁白如玉的飞雪，这立体的金阁才得以从三维空间中超脱，成为不再负载任何物事的平面，成为画中的金阁。镜湖池两岸的红叶山上，已是雪压寒枝，疏林瘦木显得比以往任何时候都更加突兀鹤立，远近松林的积雪也颇为壮美。池面寒冰上堆云积翠，只是不知为何有些地方不见落雪，露出块块粗疏的斑纹，仿佛装饰画上随意点洒的云朵。九山八海石和淡路岛也同池冰上的雪连成一片。尤其是那些枝繁叶茂的小松树，看去就象从冰野雪原中一夜之间突然冒出来的。
474	究竟頂の扉は今日も雪空に向って開け放たれていた。そこを見上げている私の心は、降り込む雪片が、究竟頂の何もない小さな空間を飛びめぐり、やがて壁面の古い錆びた金箔にとまって、息絶えて、小さな金いろの露を結ぶにいたるまでの、逐一を見るのであった。	今日里究竟顶上的门扉也是洞然大开，向着雪空敞开心室。我抬首仰望，心里总觉得那围绕着空无一物的究竟顶飞舞的雪花，旋即便会落到内壁古迹斑斑的金泊上断了气，化作点点金色的露珠。
482	ジープの踏台の上へ、細いハイヒールの脚がさし出された。この寒いのに素足であったので私はおどろいた。女は外人兵相手の娼婦だと一目でわかる真赤な炎いろの外套を着、足の爪も手の爪も、同じ炎いろに染めていた。外套の裾のさばけるときに、うす汚れたタオル地の寝間着が見えた。女もひどく酔っていて目が据っていた。	一双穿着高跟鞋的赤脚从车内伸到外面的脚踏板上。这么冷的天却不穿袜子，摩登得吓人！明眼人一看她那身打扮，便知这是专跟美国佬厮混的娼妓。她身着榴火一般鲜艳的红色大衣，手、脚指甲盖都涂得血红。大衣襟撩起来时，略有些脏的毛巾布睡衣便露了出来。她也醉得两眼直勾勾的。
488	その朝早く、寺中総出で、辛うじて参観路の雪掻きは済んでいた。団体でも来られると困るが、並の人数なら、一列に歩けるほどの通路がひらかれた。そこを私は、米兵と女との先に立って歩いた。	那天早晨，全寺院出动，好容易才把参观路线上的积雪扒开。清出的通路很窄，如果游客成群结队地涌来恐怕都走不开。不过要是还象平日那样游人不多，排成队走倒也绰绰有余。我踏上了新开的雪道。
492	私は法水院の欄にもたれ、すさまじく照りかがやく池を眺めた。金閣の中がこんなに不安なほど明るく照らし出されていることはなかった。	我倚在法水院的栏杆上、望着凛凛生寒、光亮耀眼的冰池。我还从未见过金阁中如此明光豁亮，恍恍中隐着不安。
500	何のことか私にはわからなかった。しかし彼の青い目は高所から命じていた。彼のひろい肩幅のうしろには、雪をいただいた金閣がかがやき、洗われたように青い冬空が潤んでいた。彼の青い目は少しも残酷ではなかった。それを、その瞬間、世にも抒情的だと感じたのは何故だろう。	我觉得莫名其妙。他那双居高临下的碧眼中还是一副命令的神情。他宽宽的肩膀后边，是玉冠银镶的金阁在放着华彩。碧空如洗的冬日荡漾着温润。再瞧那双蓝眼睛，早已没了方才的残酷。为何刹那之间，世界竟会变得如此富于抒情色彩了？真是令人费解。
512	すべては告白の必要のないことだった。私は命ぜられ、強いられてやったにすぎない。もし反抗したら、私自身がどんな目に会っていたかし	刚才的事没有一五一十都向他坦白的必要。那不过是我受命于人，被迫而干的。如果我敢于反抗，谁知道将会是什么下场！

	れないのである。	
515	頭が剃られるあいだ、老師は目をつぶり紙を両手でささげて、落ちる毛を受けている。剃られるにつれてその頭の動物的ななまなましい輪郭がはっきりしてくる。剃りおわると副司さんは、温かい手拭で老師の頭をくるんだ。しばらくしてそれを剥がす。その下から、生れたてのような、ほかほかした、茹でたような頭が現われる。	剃头时老师闭着眼，两手擎着纸接住剃下的头茬儿。剃一刀露一块头皮，活生生的动物轮廓出现了。头刚剃完，副司务便拿来热手巾把老师的头裹上。过了片刻解开再看，那头颅就象刚出生的一般，又象一个煮熟的鸡蛋，在毛巾下闪着光亮。
517	「ほほう。御苦労だった」+++と老師は、自分の顔の外れで笑うような微笑をちらとうかべて言った。それきりであった。二本の煙草包は、老師の手で、大そう事務的に、いろんな書類や手紙の積まれた机の上に無造作に重ねられた。	///老师一见顿时笑得合不拢嘴，说：+++“哈哈！辛苦啦！”+++ 随即再无二话。这两条烟到了老师手之后，便被胡乱扔到堆满各种大概是公文、信件之类的物品的桌子上。
521	――このニュースは、忽ち副司さんの口から寺じゅうに伝えられた。老師のほうから大学進学の話があるのは、よほど嘱望されている証拠だというのであった。昔徒弟が大学へ行かしてもらうために、住職の部屋へ肩を揉みに百夜も通って、やっと望みを叶えられたという話は山程ある。家の費用で大谷大学へ行かしてもらうことになっている鶴川は、私の肩を叩いて喜び、老師から何の沙汰もないもう一人の徒弟は、爾後私とは口をきかなくなった。	这消息立刻由副司务传遍整个寺院。既然是老师亲口应允的，可见是非常受看重了。过去常听人说，一个徒弟要想上大学，须得上百天给寺主方丈揉肩捶背，方能有些许希望。自费上大学的鹤川听到这个消息后，拍着我的肩膀向我道喜；而另外一个也想上大学的徒弟，由于老师没露半点口风，后来便不再和我说话。
525	私がやがて、昭和二十二年の春、大谷大学の予科へ入ったとき、老師の渝らぬ慈愛と、同僚の羨望とに包まれて、意気揚々と入学した、というのではなかった。外目にはおそらくそう見えた。しかしこの進学については、思い出すさえ忌々しい事情がある。	过了不久，昭和２２年春，我进了大谷大学读预科，若在外人，也许会以为这是老师对我始终不渝的关怀，是件令同事们钦羡的美事，我应为此而感到春风得意。然而，我自己却另有难言之隐，甚至不愿再提此事。
552	///私がもし本当に無辜なら、かくて、私は何も感ぜず、何も知らずにその日その日を送ることができる。一方、私がもし非行を犯していれば、そして私に多少の知恵があれば、無辜の私が送るであろう純潔な沈黙の日々を、つまり決して懺悔の必要のない日々を、完全に模倣することができる。いや、模倣すればよいのである。それが最善の方法であり、それが私の身の明しを立てる唯一の道なのだ。老師はそれを暗示している。その罠に私を引っかけている。……ここに思いいたると、私は怒りに駆られた。	///如果我确实无辜，那么我就可以毫无察觉地跟没这回事时一样正常生活下去。就是我真的造了孽也不打紧，但能头脑放聪明些，夹起尾巴做人，便可模仿往日那种纯洁、沉默，继续过着决无忏悔必要的生活。不，不必完全做到往日那种程度，只要模仿便可以了。这便是我最佳的选择，也是我雪耻立身的唯一道路。――老师暗示的就是这个。他设下了圈套要我去钻……一想到这里，我便怒火中烧。
553	私とて、弁疏の余地がないわけではない。もし私が女を踏まなかったら、外人兵は拳銃をとり出して、私の生命をおびやかしたかもしれない。占領軍に反抗することはできない。私はすべてを強いられてやったのである。	就我自己的行为来看，也不是再无辩解的余地。外国兵叫我踩女人肚子，若是我拒绝了，他掏出手枪，我的性命还能保住吗！占领军是反抗不得的。我不过是出于万般无奈才那样做的。
554	しかし私のゴム長の靴裏に感じられた女の腹、その媚びるような弾力、その呻き、その押しつぶされた肉の花ひらく感じ、或る感覚のよろめき、そのとき女の中から私の中へ貫ぬいて来た隠微な稲妻のようなもの、……そういうものまで、私が強いられて味わったということはできない。私は今も、その甘美な一瞬を忘れていない。	不过，当我的长靴踏在那女人肚子上时，那媚人的弹性，那痛苦的呻吟，那肉体被踩得绽开了花时的感觉，那种感觉上莫名的迷醉颠狂，以及当时从女人体内直达我肺腑的微微麻人的电流般的感觉……这些却不能说也是我被迫感到的。那一刹那的甜美至今仍难以忘怀。
556	それから一年、私は籠に捕えられた小鳥のようになった。籠は私の目にたえず見えていた。決	在此后一年里，我一直象一个关在笼中的小鸟。笼子每天都在我的视线中。我一边下

	して懺悔しまいと思いながら、私の毎日には安堵がなくなった。	决心不露出丝毫忏悔表示，一边迎送烦恼不安的日子。
559	晩秋のことである。或る古い檀家の葬式に招かれて、それが汽車で二時間もかかる土地であったので、老師は朝五時半に出発する旨を、前の晩から申し渡した。副司さんがお供についてゆく。私たちも、その時間に老師が出門するのに間に合うように、四時には起きて、掃除や食事の仕度をせねばならぬ。	那年晚秋，老师应邀为一檀家送葬。路上乘火车要两小时。于是老师头天晚上便传下话，说明天早晨 5 点半出发，副司务同行。为赶在老师出行之前，我们必须 4 点半起床，洒扫庭除，准备早餐。
565	まだ夜は明けない。空は星に充たされている。山門までのあいだの石だたみは、星あかりにしらじらと伸びているが、巨木の櫟や梅や松の影が、いたるところにはびこって、影は影に融けて地を占めている。穴のあいたスウェーターを着ている私の肱からは、暁の冷気がしみた。	夜未央，满天的星斗。去山门的石板路在星光映照下泛着银辉，随处撒布着柴杉和松梅的影子。树影相叠交融，铺满了地面。我穿着多孔毛衣还觉得胳膊肘发凉。
566	すべては無言で行われる。私たちは黙って頭を下げる。老師はほとんどそれに応えない。そして老師と副司さんの下駄の音が、石だたみの上を戛々とわれわれから遠のいてゆく。後ろ姿が全く見えなくなるまで見送るのが、禅家の礼である。	一切都在无言中进行，我们默默地向老师行礼。老师几乎没什么反应。只听他和副司务脚下的木屐踏在石板上咯嗒作响，越走越远。我们必须目送到二人远去，直至看不见他们的身影为止。这是禅家的规矩。
569	そのとき私の内には異様な衝動が生れていた。大事な言葉が迸ろうとして吃音に妨げられる時と同様、この衝動は私の咽喉元で燃えていた。私は解き放たれたかった。母がかつて暗示した、住職の跡を襲う望みはおろか、大学進学の望みもこのときにはなかった。無言で私を支配し、私にのしかかっているものから遁れたかったのである。	当时我内心中升起一股异样的冲动。如同想倒出一句至关紧要的话，却给口吃绕妨住一样，这一冲动就卡在我的喉咙口，火烧火燎的。我太想获得解放了。母亲的暗示已是竹篮子打水，漫说承袭方丈宝位，就连上大学也怕没了指望。我多想从缄默无语地摆布我、扼制我的铁腕下解脱出来，逃之夭夭呵。
573	皆はふいに、解き放たれて、ざわざわと玄関の中へ駈け入った。ぼんやりしている私の肩を鶴川が叩いた。私の肩は目ざめた。この痩せた見すぼらしい肩は、矜りを取戻した。	众僧突然象被松了绑似的，哄作一团向门里跑去，鹤川在我木呆呆的肩头上拍了一下。我的肩膀清醒过来，这瘦削的、不堪入目的肩膀重又恢复了以往的矜持。
582	玄関のわきには、樹齢の高い菩提樹があって、その荘厳な葉叢は、日が当ると赤銅いろに照り映える。校舎は本館から建増しに建増しを重ね、何の秩序もなくつながっているが、多くは古い木造の平屋で、この学校では土足が禁じられているので、棟と棟とは、壊れかかった簀の子を際限もなくつらねた渡り廊下で連絡されている。簀の子は、思い出したように、壊れた部分だけが修理される。そこで、棟から棟へ渡ると、もっとも新らしい木の色から、もっとも古い木の色にいたるまでの、各種の濃淡のモザイクが、足の下に踏まれた。	大门旁有一棵百年菩提古树，它那庄严的叶丛在阳光下泛着赤铜色。校舍由主楼向四外扩建，虽也连成一片；但因缺乏任何规划，东一座西一座的，故而看去杂乱无章。内中尤以木造平房最多。由于学校禁止穿鞋入室，故而在各所房屋之间多铺有板条式外廊。这种破旧的外廊蜿蜒伸展，构成一条相互联接的室外通道。年深日久，坏哪儿补哪儿；因而可以想见，如若有暇在各堂舍间巡视一遍，便可看到脚下从最新花色、浓淡不一的木料到最古老陈旧的木料，无所有备。
587	入学当初から、私が柏木に注目したのは、いわれのないことではない。彼の不具が私を安心させた。彼の内飜足は、私の置かれている条件に対する同意を、はじめから意味していた。	自打刚一入学，我就注意到了柏木。这并非毫无来由。正因为他也有生理缺陷，所以我才放心。他那双内翻足自始便意味着对我的介入的赞同。
588	柏木は、裏庭のクローバアの原っぱで弁当をひらいていた。唐手部や卓球部の、ほとんど窓硝子の破れ落ちた廃屋の部室が、この裏庭に面していた。五六本の痩せた松が生え、空っぽの小さなフレイムがあった。フレイムに塗られた青いペンキは、剥げて、けば立って、枯れた造花のように	柏木坐在后庭紫苜蓿草坪上打开饭盒。样儿恰好面对拳击部和乒乓球部那几乎没有一块玻璃的废弃的空屋。五六株苍松下，是一片空荡荡的温室。上面涂的青漆早已剥离得翻卷起皮了，活象一朵朵干枯的人造花。温室旁还有一个带有两三层搁板的盆栽木架，

	巻きちぢれていた。かたわらには二三段の盆栽の棚があり、瓦礫の山があり、ヒヤシンスや桜草の花圃もあった。	离木架不远处是堆积如山的瓦砾。此外就是植有风信子花和樱草的花圃了。
589	クローバアの草地は坐るのに佳かった。光りはその柔らかな葉に吸われ、こまかい影も湛えられて、そこら一帯が、地面から軽く漂っているように見えた。坐っている柏木は、歩いているときとちがって、人と変らぬ学生であった。のみならず、彼の蒼ざめた顔には、一種険しい美しさがあった。肉体上の不具者は美貌の女と同じ不敵な美しさを持っている。不具者も、美貌の女も、見られることに疲れて、見られる存在であることに飽き果てて、追いつめられて、存在そのもので見返している。見たほうが勝なのだ。弁当を喰べている柏木は伏目でいたが、私には彼の目が自分のまわりの世界を見尽していることが感じられた。	紫苜蓿草地坐上去实在惬意。阳光照在柔嫩的草叶上，暑气顿消。草地上满目是细细的叶影。这块草坪就象是飘浮在黑土地上的一朵翠云。坐着的柏木与走路时简直判若两人，他坐下时看上去跟正常人毫无二致。不仅如此，他那苍白的脸上，还有一种险峭的美。肉体上有缺陷的人同美女一样，都具有一种无可匹敌的美。残疾人也好，美女也好，都已疲于被人注视，厌于再做一个被看的存在；当其走投无路时，遂回首以其存在本色相见。艰窘既脱，风彩立现。被看者成了制胜者。柏木吃饭时虽说低眉垂目，我却感到他已经将整个世界尽收眼底了。
608	俺は絶対に女から愛されないことを信じていた。これは人が想像するよりは、安楽で平和な確信であることは、多分君も知っているとおりだ。自分の存在の条件と和解しないという決心と、この確信とは、必ずしも矛盾しない。なぜなら、もし俺がこのままの状態で女に愛され得ると信じるなら、その分だけ、俺は自分の存在の条件と和解したことになるからだ。俺は現実を正確に判断する勇気と、その判断と戦う勇気とは、容易に馴れ合うものだと知った。居ながらにして、俺は戦っているような気になれたのだ。	我相信，决不会有任何女人能爱上我。这种信念比人们想象的要安乐、平和得多。对此你也很清楚。决不和自己的存在条件和解的决心与这种确信未必就有矛盾。因为如果我相信自己现在这副样子就能得到女人的爱，那就等于说我已经同自己的存在条件和解了。我知道，对现实做出正确判断要有勇气，同这一判断做斗争也要有勇气，而这种勇气又最容易相互勾结、相互妥协。我已经习惯于把坐待当格斗了。
609	こういう俺が、友だちのするように、商売女で以て、童貞を破ろうと心掛けなかったのは、当然だと云わなければならない。なぜなら、商売女は客を愛して客をとるわけではない。老人でも、乞食でも、目っかちでも、美男でも、知らなければ癩者でも客にとるだろう。並の人間なら、こういう平等性に安心して、最初の女を買うだろう。しかし俺にはこの平等性が気に喰わなかった。五体の調った男とこの俺とが、同じ資格で迎えられるということが我慢がならず、それは俺にとっては怖ろしい自己冒涜に思われた。俺の内飜足という条件が、看過され、無視されれば、俺の存在はなくなってしまうという、君が今抱いているような恐怖に、俺も捕われていたわけだ。俺の条件の全的な是認のためには、並の人間より数倍贅沢な仕組が要る筈だった。人生はどうしてもそういう風に出来ていなければならぬ、と俺は思った。	我正是这样一个人，自然不会学朋友那样，让妓女破了童贞。因为妓女无所谓爱不爱，没有对嫖客挑挑拣拣这一说。不论是老头子还乞丐，也不论是独眼还是美少年，只要事前不知，就是一条癞皮狗也不能推辞。一般人正是从这种平等性中获得一种安全感，才开始去嫖赌的。然而我却僧恶这种平等。对一个五体周正的男子和我这样的半残废都以同等资格接待，这实在令我难以忍受。我觉得这简直是最可怕的自我亵渎。如果别人对于我内翻足这样一种条件加以回避、无视，那便等于否定了我的存在。你现在正抱有的这种恐惧心理也曾同样折磨过我。为了使自己的条件得到人们彻底的认可，就势必要有超过常人几倍的应变能力。我认为人生就应该这样度过。
610	われわれと世界とを対立状態に置く怖ろしい不満は、世界かわれわれかのどちらかが変れば癒やされる筈だが、変化を夢みる夢想を俺は憎み、とてつもない夢想ぎらいになった。しかし世界が変れば俺は存在せず、俺が変れば世界が存在しないという、論理的につきつめた確信は、却って一種の和解、一種の融和に似ている。ありのままの俺が愛されないという考えと、世界とは共存し	将我们与世界置于对立状态——由此而产生的可怕的不满，按理说已到了要么是客观世界、要么是我只有动大手术才能根治的地步。然而我却憎恶做这种变化的梦想。我讨厌所有不切实际的梦想。那种认为世界变了，我便不存在，我变了，世界便不存在的极端想法，在逻辑上是走进了死胡同，反倒成了一种类似和解与融合的东西。因为我现在这

	得るからだ。そして不具者が最後に陥る罠は、対立状態の解消でなく、対立状態の全的な是認という形で起るのだ。かくて不具は不治なのだ。……	副样子不会被人爱的想法是可以与世界的存在并行不悖的。残疾人最后总要陷入罗网，这往往不是起因于对抗状态的解除，而是对抗状态的被容忍、如此一来，残疾也就成了不治的绝症……。
615	俺はこういう不合理に納得がゆきかねた。その実俺の欲望はだんだん烈しく募って来ていたが、欲望が彼女と俺とを結ぶとは思われなかった。彼女がもし他人をでなくこの俺を愛しているのだとすれば、俺を他人から分つ個別的なものがなければならない。それこそは内飜足に他ならない。だから彼女は口に出さぬながら俺の内飜足を愛していることになり、そういう愛は俺の思考に於て不可能である。もし、俺の個別性が内飜足以外にあるとすれば、愛は可能かもしれない。だが、俺が内飜足以外に俺の個別性を、俺の存在理由を認めるならば、俺はそういうものを補足的に認めたことになり、次いで、相互補足的に他人の存在理由をも認めたことになり、ひいては世界の中に包まれた自分を認めたことになるのだ。愛はありえない。彼女が俺を愛していると思っているのも錯覚だし、俺が彼女を愛していることもありえない。そこで俺はくりかえし言った。「愛していない」と。	她的这种反常行为，很令我费思量。这当中我确实对她产生了欲望，且越来越强烈。然而我同时又深知，我的欲望并不能真的将我与她结合在一道。假如她真的不爱别人，只爱我一个，那她爱的必定是能将我与他人区别开来的某种独特的东西，而我的独特之处恰恰就是这双内翻足。尽管她没点明，实际上却是如此。这种爱在我看来是不可能的。如果我的独特性不在内翻足，爱也许就是可能的了。然而，如果将我内翻足之外的独特性作为我存在的理由，那么，我便是在作为他的补充意义上才得到承认的；接下来我也要从相互补充的意义上承认他人的存在理由，并进而从为世界所包容的角度来认识自己了。爱遂成为不可能。她认为她爱我，这不过是一种错觉，而我也不能爱她。因此我便屡屡回答说："我不爱你"。
617	こんな大失敗は、凡てを簡単に解決した。やっと彼女には、俺が「愛していないこと」が証明されたらしかった。彼女は俺を離れた。	这种惨败，使一切问题都简化了。她似乎终于得到证明：我"不爱"她。于是，她离开了我。
618	俺は恥じていたが、内飜足であることの恥に比べれば、どんな恥も言うに足りなかった。俺を狼狽させたのはもっと別のことである。不能の理由が俺にはわかっていた。その場になって、俺は自分の内飜足が彼女の美しい足に触れるのを思って、不能になったのだ。この発見は、決して愛されないという確信の持っていた平安を、内側から崩してしまった。	我羞愧呵，然而，与我是内翻足这一羞耻相比，其它任何羞耻都不足道了。令我狼狈的乃是更为特殊的原因，为什么会阳萎只有我心里清楚。那是因为当我们倒在一起时，我脑子里总在顾虑我的内翻足会不会碰到她那美丽双足，所以才阳萎了。这一发现彻底摧毁了由坚信无人会爱上我而产生的内心平静。
619	何故なら、そのとき、俺には不真面目な喜びが生れていて、欲望により、その欲望の遂行によって、愛の不可能を実証しようとしていたのだが、肉体がこれを裏切り、俺が精神でやろうとしていたことを、肉体が演じてしまったからだ。俺は矛盾に逢着した。俗悪な表現を怖れずに言えば、俺は愛されないという確信で以て、愛を夢見ていたことになるのだが、最後の段階では、欲望を愛の代理に置いて安心していた。しかるに欲望そのものが、俺の存在の条件の忘却を要求し、俺の愛の唯一の関門であるところの愛されないという確信を放棄することを要求しているのが、わかってしまったのである。俺は欲望というものはもっと明晰なものだと信じていたので、それが少しでも己れを夢見ることを必要とするなどとは、考えもしていなかった。	为什么呢，因为当时我心中生出一股玩世不恭的喜悦，想用欲望、想用这种欲望付诸行动来证明爱是不可能的。然而，肉体却反其道而行之，我的精神想做的事由肉体越俎代疱了。我碰上了一个矛盾。用更粗俗的话来说，就是我是怀着不会为人所爱的坚定信条做爱之梦的。然而，一旦到了最后的关头，却又非用情欲来代理爱情才能心安。而情欲这鬼东西却又要求我忘却自己的存在条件，忘却我的爱的唯一一道关隘——不会被人爱的信念。对此我再清楚不过了。由于我坚信情欲是更为明晰的，所以根本不认为它也有自梦的必要，哪怕是些许的自梦。
622	鏡を借りなければ自分が見えないと人は思うだろうが、不具というものは、いつも鼻先につきつけられている鏡なのだ。その鏡に、二六時	人们大概不会否认，要想看到自己的面目就必须借助镜子。残疾便是时时刻刻悬在我眼皮底下的镜子。这面镜子二六一十二个小

	中、俺の全身が映っている。忘却は不可能だ。だから俺には、世間で云われている不安などというものが、児戯に類して見えて仕方がなかった。不安は、ないのだ。俺がこうして存在していることは、太陽や地球や、美しい鳥や、醜い鰐の存在しているのと同じほど確かなことである。世界は墓石のように動かない。	时中，都在映出我的全身。忘却它是不可能的。所以在我看来，世人所谓的不安简直如同儿戏。不安是不存在的。我如此存在着，同太阳、地球、美丽的小鸟、丑陋的鳄鱼的存在同样是确凿无疑的。世界就象墓石一般蚊丝不动。
624	俺は自分の村に、たった一人で住んでいる老いた寡婦に目をつけた。六十歳だともいわれ、それ以上だともいわれた。亡父の命日に俺は父の代理で経を上げに行ったのだが、親戚一人いず、仏前にはこの老婆と俺だけだった。経がすんで、別室で茶を御馳走になっていたとき、夏だったので、俺は水を浴びさせてもらいたいとたのんだ。	我看上了家乡的一位老寡妇，她孤身一人。有人说她６０岁，也有人说她还要老。那一天正是她亡父的祭日，我作为父亲的代理人前去念经超度。她家再没有别的什么人，当时佛前只有这老太婆和我。读罢经，移至别室款茶。当时正是盛夏，我请老娘子帮我冲个澡。
626	俺がどうやって笑いをこらえていたか想像してみるがいい。俺の内部は笑いに溢れていた。そして俺は露ほどもおのれを夢みてはいなかった。老婆が経を称えながら、俺の足をしきりに拝んでいるのがわかった。俺は拝まれている自分の足のことだけを考え、その滑稽さに息が詰りそうな心地がした。内飜足、内飜足、ただそれだけを思い、それだけを脳裡に見ていた。その奇怪な形。その置かれた醜悪きわまる状況。その野放図の茶番。事実たびたび叩頭する老婆のほつれ毛は足の裏に触れ、くすぐったさはますます可笑しさをあおったのである。	你也许想象得到，我是强忍着才没笑出声来的。我的心被笑憋得发痒。并且，我丝毫也没意识到自己在干什么。我知道，老太婆仍在一边念经一边向我双足频频下拜。我一时只想着自己受拜的双足了，心里感到滑稽得要命。内翻足啊内翻足！我脑子里只想着这桩事，眼前只有这一种形象。那奇怪地形状，那丑陋不堪的样子，那野蛮的滑稽。实际上这滑稽都是由不停下拜的老太婆那蓬发触到我脚心后产生的痒痒逐渐煽起的。
628	俺は起き上り、老婆をいきなり突き倒した。老婆が少しも愕いていないのを、ふしぎに思う暇もなかった。老いた寡婦は突き倒されたまま、じっと目をつぶって、経を読みつづけていた。	我站起身来，冷不防将老太婆推倒。她全然没感觉到惊愕。我虽然觉得奇怪，但当时已无暇细想。老太婆就那么躺着，紧闭双眼，仍旧念经。
633	俺の目の前には、目をつぶって俺を迎えている六十幾歳の女の、化粧もしない、日に灼けた顔があったのだ。俺の昂奮はすこしも途絶えなかった。そしてこれが茶番の最たるものだが、俺はしらずしらず誘導されていた。……	我望着这位年逾花甲、不施粉黛的老婆娘，她双眼紧闭，一张老脸饱经风霜。我的昂奋兴头丝毫未减。并且，这回才是最滑稽的，我竟不知不觉被诱惑了……
636	見るがいい。そのとき俺は、そこに停止していて同時に到達しているという不具の論理、決して不安に見舞われぬ論理から、俺のエロティシズムの論理を発明したのだ。世間の人間が惑溺と呼んでいるものの、相似の仮構を発明したのだ。隠れ蓑や風に似た欲望による結合は、俺にとっては夢でしかなく、俺は見ると同時に、限なく見られていなければならぬ。俺の内飜足と、俺の女とは、そのとき世界の外に投げ出されている。内飜足も、女も、俺から同じ距離を保っている。実相はそちらにあり、欲望は仮象にすぎぬ。そして見る俺は、仮象の中へ無限に顛落しながら、見られる実相にむかって射精するのだ。俺の内飜足と、俺の女とは、決して触れ合わず、結びつかず、お互いに世界の外に投げ出されたまま。……欲望は無限に昂進する。何故なら、あの美しい足と俺の内飜足とは、もう永久に触れ合わないですむのだから。	说到此你该明白了吧，那时，我从停止于斯同时到达于斯这一残疾的理论和决不会陷于不安的理论，发明了我的色情主义论，发明了相似的假设——虽然世人总喜欢称之为耽溺。对于我来说，色欲之结和隐身草乃至风的形象相差无几，仅只是梦幻而已。我在看的同时也须无所不被看。我的内翻足、我的女人当时全被抛在九霄云外了。内翻足也好，女人也好，都同我保持相同距离。实相正在此中，色欲不过是一种假象。我恰是一边向假象中作无限的堕落，一边对着被看的实相射精的。我的内翻足和我的女人决不接触、结合，相互安于被抛到世界以外后的各自所……只有色欲无限地昂进，这乃是因为我只要永远不让那美丽的双足和我的内翻足相互接触即可。
637	俺の考え方はわかりにくいだろうか。説明を要	你也许觉得我的想法很费解吧，要不要我

	するだろうか。しかし俺がそれ以来、安心して、「愛はありえない」と信ずるようになったことは、君にもわかるだろう。不安もない。愛も、ないのだ。世界は永久に停止しており、同時に到達しているのだ。この世界にわざわざ、「われわれの世界」と註する必要があるだろうか。俺はかくて、世間の「愛」に関する迷蒙を一言の下に定義することができる。それは仮象が実相に結びつこうとする迷蒙だと。——やがて俺は、決して愛されないという俺の確信が、人間存在の根本的な様態だと知るようになった。これが俺の童貞を破った顛末だよ。	再做些说明？不过，从那以后我安心多了。又相信“不会有爱了。”这你也能理解吧。既无不安也无爱，世界既是停止，同时又是到达。特地为这个世界加上注解说“这是我们的世界”，这有什么必要呢。我想可以用这样一句话为与世间的“爱”相关的迷蒙下个定义：爱也者假象欲同实相结合之迷蒙耳。+++我终于懂得了我所坚信的“决不会被爱”乃是人的存在的一种根本方式。这就是我破了童贞的始末。
641	きいていた私はようやく息をついた。烈しい感銘に見舞われ、今まで考えもしなかった考え方に触れた苦痛から醒めなかった。柏木が語り終ると、ややあって、あたりの春の日ざしが私のまわりに目ざめ、明るいクローバアの草生がかがやきだした。裏手のバスケットのコートから、ひびいてくる喚声もよみがえった。しかしすべては同じ春の真昼のまま、意味をすっかり変えて現われて来たように思われた。	我听到此才喘了一口粗气。我受到了强烈的震动。一时还不能从苦痛中清醒过来。以前我还从未听到有人怀有这种想法。柏木说罢稍许，春天的艳阳便在我周围醒来，明亮的紫苜蓿草坪开始放出光彩，后院篮球场上的吆喊声也苏醒了。在同一个正午里，但觉一切都换了一种意味似地出现在眼前。
651	柏木は私に私の恥の在処をはっきりと知らせた。同時に私を人生へ促したのである。……私のすべての面伏せな感情、すべての邪まな心は、彼の言葉で以て陶冶されて、一種新鮮なものになった。そのためか、われわれが砂利を踏んで、赤煉瓦の正門を出てきたとき、正面に見える比叡の山は、春日に潤んで、今日はじめて見る山のように現われた。	柏木已经明确地向我指出了我的耻处何在，同时将我向人生大大推进了一步。……我所有的羞怯情感和邪恶意念，经过他这番话的陶冶，顿时变得面目一新。也许正是因为这个缘故，当我们踏着砂石路走出红砖正门时，眼前的睿比山也显得陌生了，仿佛头一次见到似的。那艳阳下的青峰沐浴着春光，看去格外滋润。
658	「阿呆な奴らだな」と、負け惜しみにきこえる余地を少しも残さずに柏木は言った。「あのざまは一体何だろう。奴らが健康だというのか。それなら健康を人に見せびらかすことが何の値打があるんだい。スポーツはいたるところで公開されているね。まさに末世の徴さ。公開すべきものはちっとも公開されない。公開すべきものとは、……つまり死刑なんだ。どうして死刑を公開しないんだ」と、夢みるようにつづけた。「戦争中の安寧秩序は、人の非業の死の公開によって保たれていたと思わないかね。死刑の公開が行われなくなったのは、人心を殺伐ならしめると考えられたからだそうだ。ばかげた話さ。空襲中の死体を片附けていた人たちは、みんなやさしい快活な様子をしていた。	“这些混蛋！”柏木骂着，吃奶的劲都使出来了：+++“这成什么话，显摆自己健康？用得着这么卖弄么？简直没半点价值！体育运动到处都在公开举行，这不是末世征兆是什么？该公开的半点不公开。应当公开……死刑。为什么不公开死刑？”+++ 柏木象说梦话似地继续说道：“战争期间所谓的安宁秩序是由人的非业之死得以维护的，不是吗？听说死刑不变公开，是怕人们感到恐怖。真他妈的混仗透顶！你不是也曾见过，那些收拾空袭中的死尸的人哪一个不是有说有笑？
659	人の苦悶と血と断末魔の呻きを見ることは、人間を謙虚にし、人の心を繊細に、明るく、和やかにするんだのに。俺たちが残虐になったり、殺伐になったりするのは、決してそんなときではない。俺たちが突如として残虐になるのは、たとえばこんなうららかな春の午後、よく刈り込まれた芝生の上に、木洩れ陽の戯れているのをぼんやり眺めているときのような、そういう瞬間だと思わないかね。	……看着死者的痛苦面孔，看着血，看着临终时剩最后一口气的人，会使人变得更谦敬，会使心灵变得更纤细、明朗、平和，可是……，我们却变得更残暴了、杀气腾腾，这决不是看了死的痛苦所致。那令人突然残酷起来的，也许正是这样的时候，在这种春和日丽的午后，坐在修剪齐整的草坪上，呆呆地望着叶隙间投下的斑斓日影……不正是这种瞬间吗？……
662	「女かい？　ふん。俺にはこのごろ、内翻足の男	“说女人吗？哼！我现在对喜欢起内翻足的

	を好きになる女が、カンでちゃんとわかるようになった。女にはそういう種類があるんだよ。内飜足の男を好きだということは、もしかすると一生隠されたまま、墓場へまで一緒にもって行きかねない、その種の女の唯一の悪趣味、唯一の夢なんだが。	女人凭直觉就看得出。女人当中确有这种人。喜欢内翻足的男人，说不定就是这种女人唯一的恶魔趣味，唯一的梦幻。她们也许一辈子都缄守着这一秘密，不对任何人讲，直至带入坟墓中去。
669	女が出て来たのは、宏壮なスペイン風の邸の耳門であった。二つの煙出しを持ち、斜め格子の硝子窓を持ち、ひろい温室の硝子屋根を持っている邸は、いかにも壊れやすい印象を与えるが、当然そこの主人の抗議で設けられたにちがいない高い金網が、道をへだてたグラウンドの一辺にそそり立っていた。	女人是从一幢气派的西班牙洋房的耳门走出来的。这所府第有两个烟囱、有斜格玻璃窗、屋顶上还有宽大的玻璃温室，给人的印象是过于单薄纤巧，很难抵挡急风暴雨。一道高大的铁丝护网，隔路耸立在体育场外，想必是主人提出抗议之后才架设起来的。
670	柏木と私はネットの外れの遊動円木にいたのである。女の顔を窺った私は愕きに搏たれた。そのけだかい顔は、柏木が私に説明した「内飜足好き」の女の人相に、そっくりであったからだ。しかし後になって私はこの愕きを莫迦らしく思うのだが、柏木はその顔をずっと前から見知っていて、夢みていたのかもしれないのである。	柏木和我坐在离护网不远的浪桥上。我看到这个女人时心中实在大为吃惊，因为她那高雅的风度特征正与柏木说的那种“喜爱内翻足”的女人相同。不过事后我才知道自己的吃惊实在是傻得可怜，因为柏木早就瞟上了她，把她的脸形记在心里。而我却被蒙在鼓里犯着憨。
671	私たちは女を待ち設けていた。春の日光の遍満の下に、むこうには濃紺の比叡の峯があり、こちらには次第に歩み寄って来る女があった。私はさきほどの柏木の言葉、彼の内飜足と彼の女とが、二つの星のように、互いに触れ合わずに実相の世界に点在し、彼自身は仮象の世界に無限に埋もれつつ欲望を遂げるという奇怪な言葉、あの言葉の与えた感動からまだ醒めずにいた。このとき雲が日のおもてをよぎり、私と柏木は稀薄な翳に包まれたので、私たちの世界は、たちまち仮象のすがたを露わすように思われた。すべては灰色に覚束なく、私自身の存在も覚束なくなった。そしてかなたの比叡の紫紺の頂きと、ゆっくり歩いてくる気高い女と、この二つのものだけが実相の世界にきらめいて、確実に存在しているように思われた。	我们正等着她走上前来。在这春光明媚的时刻，对面有黛青色的睿山默然而立，此处有女人款款行来。我沉浸在柏木刚才说的那些奇谈怪论之中——什么他的内翻足和那个少女就象是天各一方的两颗星，分处在实相世界里却无交接，而他自己则是向假象世界无限沉沦地完遂欲望——还没有从感动中醒转来。这时候正好有一片乌云飘过来把太阳遮住了。我和柏木也被裹在云翳里，这使我忽然感到世界好象在制造假象，觉得一切都灰蒙蒙的令人捉摸不透，就连自己存在也变得虚无缥缈起来，仿佛只有对面青紫色的睿山峰头和漫步走来的气宇高雅的女人是实相世界最耀眼的确实在存在。
677	私の背が柏木の尖った指先で押された。私はごく低い石塀をまたいで、道の上へ跳び下りた。二尺の高さは何ほどでもなかった。しかしそれにつづいて、内飜足の柏木が、怖ろしい音を立てて、私の傍らに崩れ墜ちていた。当然のことながら、彼は跳びそこねて倒れたのである。	///柏木用指尖捅捅我的后面下了命令。+++我跨过矮墙，朝路上纵身跳下。这高度对我来说根本不算一回事，可是拐着腿紧跟我跳下的柏木却摔得不轻，咕咚一声跌落在我身旁，自然是跳下摔伤了。
680	しかし忽ち幻影は消え、まだ二十歳を越していない女が、私を蔑む眼差で見て、ゆきすぎようとするのが見られた。	但是这幻影只倏忽一闪便消失了。这女人最多不过２０岁，她用轻蔑的眼神望着我，似乎要走过去不管了。
690	柏木を擁して、あのスペイン風の洋館の耳門を、女を先立ててくぐるや否や、恐怖に搏たれた私は、柏木をそこに放置して、あとをも見ずに逃げ帰った。学校へ立寄る裕りもなかった。深閑とした歩道を駈けた。薬屋、菓子屋、電気屋の家並の前を駈けた。そのとき目のはじに、紫や紅いのひらめいたのは、多分、梅鉢の定紋付の提灯を黒塀の上につらね、門には同じ梅鉢の紫の幔幕を張りめぐらした、天理教弘徳分教会の前を、駈	我搀扶着柏木走到那座西班牙洋房的耳门。当走在前头的女人刚钻进门时，我心下一阵恐惧，把柏木扔在原地头也没回就逃走了。我在幽静的人行道上飞跑，连学校也没顾得上回。眼前掠过一家家药店，糕点铺、电器商店……，直到一片姹紫嫣红飞入眼帘，我才意识到已跑到天理教弘德分会了。在教会的黑墙上挂着一排梅花家徽灯笼、大门顶上悬有梅花紫色幔帐。

	け抜けたときだったと思われる。	
693	こうして私は、舞い立つ埃と醜い群衆に囲まれている春の金閣の前に在った。案内人の大声がひびいている中では、金閣はいつもその美を半ば隠して、空恍けているように見えた。池の投影だけが澄明だった。しかし見ようによっては、聖衆来迎図の諸菩薩に囲まれた来迎の弥陀のように、埃の雲は、諸菩薩を包んでいる金色の雲に似かよい、金閣が埃に霞む姿も、古い褪色した絵具や、すりきれた絵柄に似かよっていた。この混雑と喧騒が、繊細な柱のたたずまいの裡に澄み入り、小さな究竟頂や頂きの鳳凰の次第に細まり聳え立って接している白っぽい空へ、吸い込まれてゆくのは奇異ではなかった。	我终于来到金阁面前。金阁处于飞扬的尘土和杂沓的人流包围中，在导游人那声嘶力竭的解说声下，好似半隐姝容、佯装不知的样子。只有池中的倒影还是那样澄彻明净。若以《众圣来迎图》中诸菩萨簇拥着来迎的弥陀佛的情形作比，那么尘云可说是拥围诸菩萨的祥云瑞霭，而尘雾空蒙的金阁则象古色古香的画卷或稀世古玩。四周的喧嚣杂沓进入纤柱林立的底楼后得到净化，又沿着小小的究竟顶或顶端傲立的金凤凰那渐渐聚拢的尖端直上云霄。这实在是不足为奇。
694	///建築は、そこに存在するだけで、統制し、規制していた。周囲のさわがしさが募れば募るほど、西に漱清を控え、二層の上に俄かに細まる究竟頂をいただいた金閣、この不均整な繊細な建築は、濁水を清水に変えてゆく濾過器のような作用をしていた。人々の私語のぞめきは、金閣から拒まれはせずに、吹き抜けのやさしい柱のあいだへしみ入って、やがて一つの静寂、一つの澄明にまで濾過された。そして金閣は、少しもゆるがない池の投影と同じものを、いつのまにか地上にも成就していたのである。	///金阁只要存在着，它就自然会行使其统制、规范的职能。西控漱清亭、上有峭拔的究竟宝顶——这座纤巧的非对称性建构，就象一台净化器。不管四周多么骚乱、嘈杂，只要经它一过滤，立刻会浊水变清水、喧骚变静寂。它那通畅疏朗的立柱，任凭涌进多少游人的喧声笑语，都会立时还你一个寂静，还你一个澄明。于是乎金阁就在不知不觉间，又把池中那个纹丝不动的倒影的精灵重新唤回到尘世上来。
695	私の心は和み、ようようのこと恐怖は衰えた。私にとっての美というものは、こういうものでなければならなかった。それは人生から私を遮断し、人生から私を護っていた。+++『私の人生が柏木のようなものだったら、どうかお護り下さい。私にはとても耐えきれそうもないから』+++と私は殆んど祈った。	我的心平和了，恐怖渐渐消失。对我来说，美，就应是这样的。是它使我免遭尘市喧嚣的烦扰，为我建起人生的避风港。我不由得在心中暗暗祈祷：+++“我的人生道路如果也象柏木那样，请你多多保佑！因为我实在忍受不了！”
696	柏木が暗示し、私の前に即座に演じてみせた人生では、生きることと破滅することとが同じ意味をしか持っていなかった。その人生には自然さも欠けていれば、金閣のような構造の美しさも欠けており、いわば痛ましい痙攣の一種に他ならなかった。それに私が大いに惹かれ、そこに自分の方向を見定めたことも事実であったが、まず棘だらけな生の破片で手を血みどろにせねばならぬことは怖ろしかった。柏木は本能と理智とを同じ程度に蔑んでいた。奇怪な形をした鞠のように、彼の存在そのものがころげまわり、現実の壁を破ろうとしていた。	按照柏木所暗示并在我面前做过即兴表演的那种人生哲学来看，生存与破灭，说到底是一个意思。如果说这种人生缺乏自然性，那它肯定也缺少金阁这种结构的美，即是说它只不过是一种痛苦的痉挛罢了。虽然事实上我也曾受其诱惑，并决定以此为自己的人生方向，不过，一想到必须用荆棘丛生的生的碎片将双手刺得鲜血淋漓，我便不寒而栗。柏木对本能与理智都一视同仁地予以蔑视。他的存在本身，就象一个奇形怪状的球体，四处滚动，企图打破现实的墙壁。
707	そのとき私は彼の詐術を見たように思ったのだが、わざわざああして路上に崩折れたのは、女の注意を惹くためであったのは勿論だが、怪我の仮装で彼の内飜足を隠そうとしたのではなかったか？　しかしこの疑問は一向彼に対する軽蔑とはならず、むしろ親しみを増す種子になった。そして私はごく青年らしい感じ方をしたのだが、彼の哲学が詐術にみちていればいるほど、それだけ彼の人生に対する誠実さが証明されるように思われたのである。	我这时才明白他的骗术。当时，他故意摔倒在地固然是为了吸引女人的注意力，但同时也不能排除假装摔倒隐藏内翻足的企图。+++不过，我的这一疑问丝毫不含有对他的轻蔑，毋宁说这更加增添了我对他的亲近。随后我以一个非常天真的青年人的思考去理解柏木。我觉得，他的哲学越是充满的诡诈，就越能证明他对人生是诚实的。

711	われわれはふつうに嵐電と呼ばれる京福電鉄の北野駅で待ち合わせた。当日は幸いに、五月にめずらしい曇った鬱陶しい天気であった。	我们约好在京福线电铁的北野站，即俗称岚电的地铁车站会合。这一天很幸运，赶上了5月难得的一个阴凉天儿。
712	鶴川は何か一族にごたごたがあって、一週間ほど休暇をとって東京へかえっていた。決して告げ口をするような彼ではなかったが、私は朝一緒に登校して途中から行方をくらまさねばならぬ気まずさを免かれた。	鹤川家里可能发生了什么纠纷，他请了一周假回东京了。这样一来倒也不错，省得一起上学中途溜走时再跟他费口舌解释，闹出什么不愉快的事来。尽管他并非那种爱搬弄是非的人。
714	その日風は南西から吹き、急に勢いを増すかと思うと、はたと止んで、不安な微風がさざめいたりした。空は暗かったが、全く太陽の在処が知れないのではなかった。雲の一部分が、多くの重ね着の襟元にほの見える白い胸のように白光を放ち、その白さがいかにも模糊としている奥に、陽の在処が知れるのだが、それはまた忽ち、曇り空の一様な鈍色に融かされてしまった。	这一日天空刮起西南风，正刮得猛时忽然又停了，只有不安的微风在轻轻吹拂。天空阴沉沉的，但又不是全然不见太阳，几片白云从乌云间露出，仿佛一个穿了好几件衣服的少女那领口露出的白胸。太阳是在白蒙蒙的云层里面，只偶尔露一下脸，随即便融入到薄纱一般的阴云之中，模糊不见了。
715	柏木の約束は嘘ではなかった。彼は本当に二人の若い女に護られて、改札口に姿をあらわした。	柏木没有瞎吹，他果真由两个女人簇拥着站在剪票口等我。
718	往きの車内からすでに、愉しかるべき遊山の気分は崩された。その内容ははっきり聴きとれないが、柏木と令嬢とはたえず口あらそいをし、令嬢は時折涙をこらえるように唇を噛んだ。下宿の娘はすべてに無関心で、低くはやり唄を口吟んでいた。突然娘は、私にむかってこんなことを語りだした。	一坐上车，游山逛景的愉快情绪便被彻底破坏了。柏木和那位女郎不停地争吵。女郎不时咬紧嘴唇怕眼泪流出。为什么争吵听不清楚。房东女儿一副若无其事的样子，低头哼着流行小曲。突然她开口对我说：
724	塚は細い小径の奥にあり、巨きな楓と朽ちはてた梅の古木とにはさまれている小さい石塔にすぎなかった。私と柏木は、殊勝らしく短い経を手向けた。柏木のひどく生まじめで冒涜的な経の読み方が私にも伝染り、私はそこらの学生が鼻唄をうたうような心意気で読経をやってのけたが、この小さな涜聖がひどく私の感覚を解放し、いきいきとさせた。	小督局墓■座落在小径深处，不过是一座小石塔，周围植有高大的枫树、朽梅等古木。我和柏木煞有介事地捧献一段短经。柏木以苦涩至极的腔调随风高吟，他那冒■神灵的调子使我也受了感染。我也以出色的现学现卖的学生意气、象哼唱鼻歌一样哼唱。这一小小的亵渎使我大大地解放了，感到自然又生动。
736	どうやら柏木のこの言い方は、私には当てずっぽうに思われた。が、私も亦、彼に倣って、その景色を地獄のつもりで眺めようと試みた。この努力は徒ではなかった。若葉に包まれた静かな何気ない目前の風景にも、地獄が揺曳していたのである。地獄は、昼も夜も、いつどこにでも、思うがまま欲するがままに現われるらしかった。われわれが随意に呼ぶところに、すぐそこに存在するらしかった。	我总觉得柏木的这些话都是胡诌八扯。不过，我仍试着模仿他把眼前的景色想象成地狱。我这个努力并非徒劳，眼前这绿荫一片的安谧景色，果然有地狱摇曳。地狱好似可以不分昼夜，不拘时空尽情地、随心所欲地出现。好象我们可以呼之即来、挥之即去。
737	十三世紀に吉野山の桜を移植したと云われる嵐山の花は、すでに悉く葉桜になっていた。花季がすぎると、花はこの土地では、死んだ美人の名のように呼ばれるにすぎなかった。	岚山的花，如今已是青一色的叶樱了。根说是１３世纪从吉野山移植来的。花季一过，当地人再也没有肯提，因此都管它称做死美人。
740	われわれは凹地に設けられたブランコに若い男女が乗っているかたわらを登って、小さな丘陵の頂きの唐傘なりの東屋で休んだ。そこからは東のほうに公園のほぼ全貌が眺められ、西には保津川の水が木がくれに見下ろされた。ブランコの軋り音は、たえず歯ぎしりのように、東屋へ昇ってきた。	我们从凹地上正在荡秋千的一对男女身旁穿过，一直登到小丘陵上那座光顶亭子间才歇住脚，从这往东可以俯瞰公园的全貌，往西可以望见绿荫掩映下的保津川。秋千不断发出咬牙般的咯吱声，几乎荡到和亭子间一齐了。
741	令嬢が包みをひろげた。柏木が弁当は要らない	女郎打开了包裹，看来柏木说不用我俩带

	と言ったのは嘘ではなかった。そこには四人前のサンドウィッチだの、手に入りにくい舶来の菓子類だの、最後には、進駐軍の需要にだけ充てられているために、闇でしか入らないサントリイ・ウイスキーが現われた。当時京都は、京阪神地方の闇売買の中心地と云われていた。	饭确不虚妄。我们面前立刻摆出了三明治火腿和一般人很难弄到的西洋点心，最后还拿出了一瓶专门供应进驻军的只能在黑市上见到的三得利威士忌。据说当时的京都正是京阪神三个地区的黑市交易中心。
742	私はほとんど呑めなかったが、柏木と共に、さし出されたグラスを、合掌してから、手にとった。女二人は水筒の紅茶を飲んだ。	我虽滴酒不沾，但仍和柏木合掌坐揖，然后端起了酒杯，两位女伴喝着小水壶里的红茶。
744	「さっき電車の中で喧嘩をしていたろう。あれはね、彼女が家からやかましく言われて、厭な男と結婚を迫られているからなんだ。彼女はすぐ弱気になって負けそうになるんだ。それで俺が、その結婚を徹底的に邪魔してやると云って、慰めたり脅かしたりしていたんだよ」	“看见我们刚才在电车上口角了吧！她过于脆弱，家里强迫她和一个讨厌的男子结婚，她几乎一蹶不振，我便说我替你出面干预，对她是又安慰又恫吓，这才……”
745	これは本来、当人の前で云い出すべきことではなかったが、柏木はかたわらに当の令嬢がまるでいないかのように平気で言った。それをきいている令嬢の表情にも、何らの変化が現われていなかった。しなやかな頸筋には陶片をつらねた青いネックレースをかけ、曇り空を背に、たわわな髪の輪郭がその鮮明すぎる顔だちをぼかしていた。目は過度に潤み、目だけがそのためになまなましい裸かな印象を与えた。	这本是不该当着女郎的面直说，可柏木就当她不在场似的说得那样平静。他身旁的女郎听了倒也没任何表情，女郎脖颈上带着蓝色陶片串成的项链，在阴郁的天空下，她那轮廓鲜明的面庞衬着弯曲的发丝显得柔美动人。她的两只眼睛过分的水灵，好似专为一种怪癖而展示锋芒。
747	「痛い！　痛い！」と柏木は真に迫った声で呻いた。思わず私はかたわらの令嬢の顔を見た。その顔には著しい変化があらわれ、目は落ちつきをなくし、口は性急にわななき、冷たい高い鼻だけが物に動じないでいるさまが奇異な対照を示して、顔の調和と均衡は打ち破られていた。	“唉呀！唉呀！”柏木不停地喊痛。我不由得扫了一眼身旁的女郎，但见她脸上突然起了明显的变化，手足失措，两眼失神，嘴唇在颤抖，只有冷峻的高鼻梁显得无动于衷，同其他部位形成鲜明对照，从而破坏了她的面部平衡。
749	私は再びあのときのような恐怖に搏たれた。下宿の娘を見た。娘はあらぬ方を眺めて鼻歌を唄っていた。	回想起体育场外那天的事，我心中突然又是一阵忐忑。可是身旁的房东女儿却若无其事地哼着歌，两眼瞧向空茫的前方。
750	……このとき日が雲間を洩れたように思われたが、私の錯覚であったかもしれない。しかし静かな公園の全景の構図に違和が生じて、私たちが包まれていた澄明な画面、その松林、川の光り、遠い山々、白い岩肌、点在する杜鵑花の花々、……こういうもので充たされた画面の隅々まで、細かい亀裂がいちめんに走ったように感じられた。	……这时太阳好象从云缝中钻出，或许这只是我的错觉。不过，我还是感到静谧的公园全景都与方才不大相同，包括我们在内的澄明画面——那松林、水光、远山、白岩以及繁星一般四处盛开的杜鹃花……在这张万景图上的所有地方，现在都出现了细细的裂痕。
753	そして女の髪を両手でつかんでもちあげた。髪をつかまれた女は、忠実な犬の表情で柏木を見上げて微笑した。白い曇った光線の加減で、この瞬間、私には美しい令嬢の顔が、いつか柏木の話した六十幾歳の老婆の顔そのものに見えたのである。	柏木双手拉住女郎的头发，往上撩起。女郎微笑着，象一只忠实的狗那样温顺地望着柏木。也许是光线昏的缘故，一瞬间我只觉得眼前这位女郎的脸忽然变得象柏木说过的那位老寡妇一般丑。
755	「なぜ口説かないんだ」と黙っている私に言った。「折角君のためにも娘さんを一人連れて来たんだのに。それとも吃って笑われるのがはずかしいのか。吃れ！　吃れ！　彼女だって吃りに惚れるかもしれないんだ」	“你为什么不吭气？”柏木见我默不作声，便说：+++ “特地为你带来一个小姑娘，你怎么……怕磕巴起来让人见笑？磕巴呀，你倒是磕巴呀，没准儿她喜欢口吃呢！”+++房东女儿好象这才发现我口吃似地说：
757	この言葉ははげしく私を刺し、いたたまれぬ気持にさせた。娘に感じた憎悪が、しかし、一種	这句话刺伤了我，我简直难以容忍。对房东女儿的憎恨伴随着一种令人目眩的冲动，

	の目まいのようなものを伴って、そのまま突然の欲望に移って行ったのは奇異だった。	直接转化为突然涌上的欲望，这真是太奇怪了。
771	——さて私と娘は、坂を登りつめて深閑とした小さな野に出た。松と杉のあいだから、大文字山、如意ヶ岳などの遠山が、おぼろげに望まれた。竹藪が、この丘陵から町へ下りる斜面をおおい、藪の外れに、一本の遅桜がまだ花を落さずにいた。それは実に遅い花で、吃り吃り咲き出したために、こんなにも遅れたのではないかと思われた。	——我伴同小姑娘登上丘岗，来到闲寂的杂木林。从松杉丛中可隐约望到远方的大文字山和如意岳。脚下的竹篁又高又密，铺满了丘陵到镇上的一面坡。在竹丛边上有一棵樱花尚未凋榭，这是一株花期较晚的樱树，真是名符其实的晚樱。也许它也是因为结结巴巴、开不顺利，所以才拖延到现在吧？
774	///それでも、事実それでもなおかつ、それは人生だった。それは前進し、獲得し、推移し、喪失することができた。典型的な生とは云えぬにしても、生のあらゆる機能はそれに備わっていた。もしわれわれの目に見えぬところに、あらゆる生の無目的という前提が与えられていたとしたら、それはますます他の通例の生と等価の生であった。	///尽管如此，……尽管事实再怎样令人难以理解，它仍然是真正的人生！它可以前进、获得，推移、丧失。虽则它称不上典型的人生，然而生所具有的机能它也兼备无遗！如果我们能在目力所不及处为所有的生赋予一种无目的的前提，那么它便会渐渐成为与人们通常所说的生等量齐观的生了。
776	……私たちが腰を下ろしたのは、色あせて蝕まれた杜鵑花の花かげであった。下宿の娘がどうしてそんな風に私と附合う気になったのかはわからなかった。私は自分に対して酷い表現を故ら用いるが、どうして娘がわが身を「けがしたい」という衝動にかられているのかわからなかった。世には羞恥とやさしさに充ちた無抵抗もある筈だが、娘はその小肥りした小さな手の上に、昼寝の体にたかる蠅のように、私の手をただたからせていた。	……我们坐在虫蚀风摧、娇容憔悴的杜娟花荫下。我不知道房东女儿为什么就这样同我搞上了。我对自己是故意使出残酷的表现方式的，可为什么她冲动之下希望我也“摔伤才好”呢？世界上羞耻与和善兼具的不抵抗也是有的，可她那丰满的小手却象午睡合眼时扇赶蚊子似的，一个劲地把我的手往她自己身上哄赶。
778	私はむしろ目の前の娘を、欲望の対象と考えることから遁れようとしていた。これを人生と考えるべきなのだ。前進し獲得するための一つの関門と考えるべきなのだ。今の機を逸したら、永遠に人生は私を訪れぬだろう。そう考えた私の心はやりには、吃りに阻まれて言葉が口を出かねるときの、百千の屈辱の思い出が懸っていた。私は決然と口を切り、吃りながらも何事かを言い、生をわがものにするべきであった。柏木のあの酷薄な促し、「吃れ！　吃れ！」というあの無遠慮な叫びは、私の耳に蘇って、私を鼓舞した。……私はようやく手を女の裾のほうへ辷らせた。	毋宁说我对眼前的姑娘已不当做爱欲的对象。我要脱身溜走。我应当把她视为人生的象征。应当视为我前进与获得的一道关卡。现在失却这一机会将永远失却了自己的人生。我这样想时，心中焦急、口吃又阻碍我说出，于是千百件屈辱又都回忆出来。我决心开口，口吃也要说些什么，应当争取生存。柏木曾那样刻薄地催促我“磕巴呀，磕巴呀！”虽说他是无所顾忌地狂叫，却也敲聪了耳朵，我得到了鼓舞……寻思好久我终于把手滑到女人的衣裾里。
782	下宿の娘は遠く小さく、塵のように飛び去った。娘が金閣から拒まれた以上、私の人生も拒まれていた。限なく美に包まれながら、人生へ手を延ばすことがどうしてできよう。美の立場からしても、私に断念を要求する権利があったであろう。一方の手の指で永遠に触れ、一方の手の指で人生に触れることは不可能である。人生に対する行為の意味が、或る瞬間に対して忠実を誓い、その瞬間を立止らせることにあるとすれば、おそらく金閣はこれを知悉していて、わずかのあいだ私の疎外を取消し、金閣自らがそういう瞬間に化身して、私の人生への渇望の虚しさを知らせに来たのだと思われる。	房东女儿象一粒微尘一般飞去，远了小了。既然她为金阁所不容，亦必为我的生所不容。怎么可能既一身隐藏到美的象牙塔中，又同时展翅去翱翔人生的青空呢？即使从美的观点出发，也有权会要我断想的。不可能一方面这只手指去触摸永恒，一方面那只手指去触摸人生。如果说行为对于人生，只在誓死忠于暂短的某一瞬并使这一瞬停止不动才有意义的话；我想只有金阁不尽得其中的三味，它用了仅少的一点时间便取消了对我的驱逐与见弃，它亲自化身为一瞬，来告知我对人生的渴望是虚幻的。
784	……さて私が幻の金閣に完全に抱擁されていたのは永い時間ではなかった。われに返ったと	……却说我被拥抱在幻影的金阁的怀里的时间并没多久。我觉醒时金阁已经隐而不出。

	き、金閣はすでに隠れていた。それはここから東北のはるか衣笠の地に、今もそのまま存在している一つの建築にすぎず、見える筈はなかった。あのように金閣が私を受け入れ、抱擁していた幻影の時は過ぎ去った。私は亀山公園の丘のいただきに横たわり、周囲には草の花や昆虫の鈍い飛翔と共に、放恣に寝そべっている一人の娘がいるだけだった。	我定神再想已逝的金阁，它不过是位于遥远的东北部盛产绸子伞地区的一座至今尚存的建筑，我现在岂能望得见它。我被接纳、拥抱在金阁幻影中的时光已然过去。我是横躺在龟山公园的岗丘巅顶。只有一个小姑娘放纵不顾地躺在草丛中，周围是花草和钝飞的昆虫陪着。
788	遊山がみじめに終ったこともそうであったが、その一日が、際立って暗い印象を残しているのは、このためばかりではない。その夜の開枕前に、老師宛に東京から電報が届き、それが早速、寺中の者に披露されたのである。	野游就此不欢而散，然而这一天给我留下特别抑郁的印象，也不只由于这一点点，还因深夜开枕时，东京给老师打来电报，电文内容迅速传开了。
789	鶴川が死んだのだった。電文は簡単に、事故で死んだとだけ書かれていたが、のちにわかった詳細はこうであった。前日の晩、鶴川は浅草の伯父の家へゆき、馴れぬ酒を御馳走になった。その帰るさ、駅の近くで横丁から突然あらわれたトラックにはねとばされて、頭蓋骨折で即死したのである。途方に暮れたままの家族が、鹿苑寺へ電報を打つべきことにようやく気づいたのは、あくる日の午後であった。	电文很简单，鹤川因事故死亡。后来我才知道出事前一天晚上，鹤川在浅草的伯父家中饮酒过度，途中在车站附近，因横穿马路被突然冲出的一辆卡车撞倒在地，当即头盖骨碎裂身亡。他的家人被这意外事件惊得张惶失措，直到第二天下午才想起给鹿苑寺打电报。
790	父の死のためにも流さなかった涙を私は流した。何故なら鶴川の死は父の死にもまして、私に喫緊の問題とつながりがあると思われたからだ。柏木を知ってから鶴川をいくらか疎略にしていた私であったが、失って今更わかることは、私と明るい昼の世界とをつなぐ一縷の糸が、彼の死によって絶たれてしまったということであった。私は喪われた昼、喪われた光り、喪われた夏のために泣いたのである。	我面对亡父尸骨毫无怨情，鹤川家的一封电报却使我泪不能止。因为他的消逝比父亲故去更与我吃紧的问题相关。自今与柏木结交，使我同鹤川的来往疏淡下来，现在我才由衷地感到，他这一死使我和光明的世界相联的一根心线就此中断了。我是为失掉白昼、失掉温暖的夏天哭泣。
792	私は鶴川の亡骸も見ず、葬いにも列ならず、どうして鶴川の死を自分の心にたしかめたらよいかと迷った。かつて木洩れ陽を浴びて波打っていた彼の白いシャツの腹は今燃えている。あのように光りのためにだけ作られ、光りにだけふさわしかった肉体や精神が、墓土に埋もれて休らうことができると誰が想像しよう。彼には夭折の兆候とて微塵もなく、不安や憂愁を生れながらに免かれ、少しでも死と類似の要素を持たなかった。彼の突然の死はまさにそのためだったかもしれないのだ。純血種の動物の生命が脆いように、鶴川は生の純粋な成分だけで作られていたので、死を防ぐ術がなかったのかもしれない。すると私にはその反対に、呪うべき長寿が約束されているようにも思われる。	从鹤川暴死到出殡，我既未去见一面遗容也未参加安葬，我简直不知怎样在心中证实他的死才好。那曾沐浴着枝叶间泄下的阳光、一鼓一鼓的白衬衫下的肚皮至今仍在放着光彩。这样一个仿佛专为光而生、专为光而存在的少年的精神与肉体竟会被永远葬入坟墓中了。本无半点死亡预兆，生来的乐天派，充满了新生命的细胞，没有忧愁没有惶恐。他的死证明了这一点：纯血统的动物生命脆弱，鹤川的纯粹成分太多了，却缺乏防死之术。而我却正与他相反，好象被可诅咒的长寿拘禁住了。
793	+++鶴川の住んでいた世界が明るい感情や善意に溢れていたとしても、彼は誤解や甘い判断によってそこに住んだのではなかったと断言できる。彼のこの世のものならぬ明るい心は、一つの力、一つの靭い柔軟さで裏打ちされ、それがそのまま彼の運動の法則なのであった。	只有用这种过激的手段，才能够同自己的影子、自己的死结合在一起。那个奇怪的没有影子的青年，就这样被一种力，一种柔韧性所证实，它构成了他的运动法则。
794	私の暗い感情をいちいち明るい感情に飜訳してくれた彼のやり方には、何か無類に正確なもの	///在他把我的灰色情感，会心又恰当地翻成明朗健康的情感的方式中，有着某种无与伦

	があった。その明るさは私の暗さとあまりに隅々まで照応し、あまりに詳細な対比を示していたので、時折鶴川は私の心を如実に経験したことがあるのではないかと疑われた。そうではなかった！　彼の世界の明るさは、純粋でもあり偏頗でもあって、それ自体の細緻な体系が出来上り、その精密さは悪の精密さに殆んど近づいていたのかもしれない。この若者の不撓な肉体の力が、たえずそれを支えて運動していなかったら、忽ちにしてその明るい透明な世界は瓦解していたのかもしれないのだ。	比的精确性。他的明朗和我的阴暗一一形成相互照应，恰成了详细对比，有时我不禁怀疑，鹤川是否也曾有着同我一样的经验？后来才知我自己多疑了。也许，他那世界的明朗是纯粹的也是偏颇的，它自身就具有细致的体系，其精密性几乎与恶的精密性相近似。如果没有他那不屈不挠的肉体之力来支撑起这一结构使其不停运转，那透明的世界也许早就土崩瓦解了。
796	///禅は無相を体とするといわれ、自分の心が形も相もないものだと知ることがすなわち見性だといわれるが、無相をそのまま見るほどの見性の能力は、おそらくまた、形態の魅力に対して極度に鋭敏でなければならない筈だ。形や相を無私の鋭敏さで見ることのできない者が、どうして無形や無相をそれほどありありと見、ありありと知ることができよう。	///据说禅家以无相为体，以悟得己心无相为体，以悟得己心无相为见性。凡是真能以无相观点坚持认别事物、即具有见性之功的禅家，大抵都对形态的魅力极其敏感。如果不能以无私的敏感审视形相，又怎可能既看清又认准无形无相呢？
797	///かくて鶴川のように、そこに存在するだけで光りを放っていたもの、それに目も触れ手も触れることのできたもの、いわば生のための生とも呼ぶべきものは、それが喪われた今では、その明瞭な形態が不明瞭な無形態のもっとも明確な比喩であり、その実在感が形のない虚無のもっとも実在的な模型であり、彼その人がこうした比喩にすぎなかったのではないかと思われた。たとえば、彼と五月の花々との似つかわしさ、ふさわしさは、他でもないこの五月の突然の死によって、彼の柩に投げこまれた花々との、似つかわしさ、ふさわしさなのであった。	///如此看来，那种只存在于斯便放着光彩的生命，那目可视、手可触的生命，即那种可称作为生而生的生命体，在它已丧失的现在，那明■的形态便成了不明■的无形态的最明确的比喻，那实在感便成了无形的虚无的最实在的模型，而其人则不过是这样一种比喻的化身。然而现在我想，他以一死确切地表明了，比如说他与五月的香花相吻相合性，因了他 5 月的暴死，而转化为他与灵柩里的香花相似相宜性。
800	それは前にも母にむかって口で言ったことではあるが、もう一度強い語調で書き送らなければ安心できぬような気がしたのである。その返事には、訥々とした文章で、伯父の農事の手つだいにいそしんでいる状況やら、単純な教訓がましいことが書き列ねられた末、「おまえが鹿苑寺の住職になった姿を一目見て死にたい」という文句が添えられていた。この一行を私は憎み、それから数日、この一行が私を不安にした。	我给母亲写的信，也申明自己今后是孤光自照，我说："在我没成年以前，你决不要前来看我！"这话以前说过，只有再一次言明才觉得心安。母亲在啰啰嗦嗦的回信中把帮伯父忙农活等涂满纸，话里话外教训人。最后竟说："只要见你当上鹿苑寺的住持和尚我死也瞑目了。"我憎恶这话，那以后的好几天，这一行字都叫我惶惶不安。
803	私は究竟頂の鍵を渡された。この第三階はわけても貴ばれ、・間には後小松帝の宸筆の扁額が、地上四十二尺の高さにけだかくかかっていた。	究竟顶的钥匙交给我掌管了。这第三层乃是最为尊贵的。楣间的后小松帝御笔匾额高悬着，离地面４２尺。
806	私はただ孤りおり、絶対的な金閣は私を包んでいた。私が金閣を所有しているのだと云おうか、所有されているのだと云おうか。それとも稀な均衡がそこに生じて、私が金閣であり、金閣が私であるような状態が、可能になろうとしているのであろうか。	我已形单影只，如今只有绝对观念中的金阁包拥着我。是金阁为我所有呢？还是我属于金阁？抑或出现稀有的平衡：既可说我是金阁也可说金阁是我呢？这真是难测的事了！
810	そうだ。そのとき私は美に包まれ、まさしく美の裡にいたのだが、無限に募ろうとする兇暴な風の意志に支えられずに、それほど私が十全に美に包まれていられたか疑わしい。柏木が私を	是的！到那一刹那，我纵然还在哀情的美的温馨怀抱里，不过，如果没有越来越猛的暴风的意志的支持，我能否仍旧包拥在十全十美之中，已成疑问了。就象柏木曾一再喝

	「吃れ！　吃れ！」と叱咤したように、私は風を鞭打ち、駿馬をはげます言葉を叫ぼうと試みた。	斥我口吃一般，现在我也开始试着对风叫喊起扬鞭策马的词了：
815	山々のむこうにわだかまる雲の累積が、大きな手のように空いちめんにひろがり、うごめきひしめいて近づくのは凄まじかった。雲の絶え間に当って明澄に見えていた空の半ばも、忽ちにして又、雲におおわれた。しかしごく薄い雲がよぎるときには、これを透かして、おぼろな光輪をえがいている月が眺められた。	这时盘踞在山后的云体宛如许多只巨掌，把天空遮满了。它们蠕动着拥挤着迫近，真使人慌恐。云逢中偶尔露出半边清空，忽然又被遮住，不过当有轻纱般的薄云经过时，透过薄云我仍可以望到那朦胧的冰轮，多么美的光圈啊！
821	学校の図書館が私の唯一の享楽の場所になり、そこでは禅籍は読まず、手あたり次第に飜訳の小説やら哲学やらを読んだ。その作家の名や哲学者の名をここに挙げることを私は憚る。それらは多少とも影響を及ぼし、のちに私のした行為の素因となったことは認めるが、行為そのものは私の独創であると信じたいし、何よりも私はその行為が、或る既成の哲学の影響として片付けられることを好まぬからである。	这期间学校的图书馆成了我享受的唯一乐园。有关神学的书我根本不看，只是就手边顺序读些翻译小说和哲学之类。我也承认这曾对我后来的行为有一定影响，但我更相信那行为是我的独创。因为我不喜欢以受既成哲学的影响来解释我的行为。
822	少年時代から、人に理解されぬということが唯一の矜りになっており、ものごとを理解させようとする表現の衝動に見舞われなかったのは、前にも述べたとおりだ。私は何ら斟酌なく自分を明晰たらしめようとしていたが、それが自己を理解したいという衝動から来ていたかどうか疑わしい。そういう衝動は人間の本性に従って、おのずから他人との間にかける橋ともなるからだ。金閣の美の与える酩酊が私の一部分を不透明にしており、この酩酊は他のあらゆる酩酊を私から奪っていたので、それに対抗するためには、別に私の意志によって明晰な部分を確保せねばならなかった。	如我在前面所说，我从小便以不被人理解为唯一的骄傲，想去理解事物那种表现的冲动也从未光顾过我。即或有时我也想弄清楚自己，但这是否来自试图理解自己的冲动尚值得怀疑。因为这种冲动是人的一种本能，是自然而然搭设在自己与他人之间的桥梁。金阁之美使我陶醉，使我的一部分成为不透明。它从我这里夺走了其它所有的陶醉。为了与此对抗我必须另立心志，确保我明晰的那一部分。
824	永らく見馴れたものであるのに、月に照らされた古い制札の文字を、私はふりかえってつれづれのままに読んだ。	这本是长期以来已经看熟的东西，然而这天晚上我却回头一字一句读了一遍那月光下旧告示牌上的文字。
831	私がこんな由ないことを考えていたとき、門前の広い鋪道を、こちらへ向って来る人の影があった。昼の見物人の群はのこらず消え、月に照らされた松と、かなたの電車通りをゆきかう自動車の前燈のひらめきだけが、このあたりの夜を占めていた。	当我想着这种无由之事的时候，前方出现了一个人影，正从门前宽敞的人行道上向这里走来。白天观光的人群早已消失，眼前只有明月古松和等待穿过那里的电车道的汽车前灯的光芒，占据着这附近的夜。
832	影は突然柏木だと認められた。歩き方でわかったのである。すると永い一年の、こちらから選んだ疎遠は棚に上げて、私はただ、かつて彼に癒やされたことへの感謝だけを思い起した。そうだ。はじめて会ったときから、彼はそのぶざまな内飜足で、無遠慮に傷つける言葉で、その徹底した告白で、私の不具の思いを癒やしたのだった。私はあのとき、自分がはじめて同格で話し合う喜びをさとった筈だ。坊主であり吃りであることの、確乎とした意識の底に身を沈める、悪徳を行うに似た喜びを味わった筈だ。それに反して鶴川との附合では、そのいずれの意識も拭い去られるのが常であったが。	突然，我认出来者正是柏木，从走路的步子就认出是他了。这次会面不同先前，我只想到应该感谢他为我治愈了精神创伤才对的。一年来是我自己疏远了他。往事不提吧！是的，从乍一见他起，他便以难看的内翻足、以不客套又出口伤人的彻底的告白，治愈了我精神上的缺陷。是从那时期，我才体会到以同等资格与人交谈的喜悦，第一次体会到深入自己是和尚的儿子且有严重的口吃这一切实的意识深处作恶般的快活。同鹤川的交情却正好相反。他常常使我拭去一切意识。
841	その現われ方も唐突なら、月が良いから金閣で	这次柏木来得突然，以月色好提出去金阁

	尺八を吹きたいという申出も唐突で、凡てが私の知っている柏木の像を裏切った。それにしても単調な私の生活にとっては、愕かされることはそれだけで喜びであった。私はもらった尺八を手にして、金閣へ案内した。	吹箫也出乎意料，这一切都与以前我所了解的柏木大相径庭。即便如此，对于生活单调的我来说，吃惊只是吃惊，心里还是高兴。我拿着箫，领头走向金阁。
843	彼は私の想像もしなかった別の側面を、故ら私に示すために、やって来たのかもしれなかった。美の冒涜にだけ興味を惹かれていたようなこの毒舌家は、まことに繊細な別の側面を私に見せた。彼は私よりもさらにさらに精密な理論を、美に関して抱いていた。それを言葉ではなしに、身ぶりや目や、吹き鳴らす尺八の調べや、月光の中へさしだしたその額などで語ったのである。	我想到他这次前来，也许是故意向我展示我不曾知晓的他的另一侧面吧。这位只有玷污美才能惹起兴致的毒舌家，的确向我显露了他纤细的另一侧面。但是，对于美，他有远比我更为精密的理论，但那不是用语言构成的，而是通过身态、眼神、箫音以及伸向月光中的下腭等述说的。
844	私たちは第二層の潮音洞の手摺にもたれていた。ゆるやかに反った深い軒庇のかげのその縁側は、下方から、典雅な八つの天竺様の挿肘木で支えられて、月を宿した池のおもてへ迫り出していた。	我们在二层潮音洞外的曲栏旁边站定。平缓趋深的轩檐，由八根印度式的承衡木支撑着，伸展到月影入宿的池水上。
846	疲れ果てた私は、或る瞬間には、柏木がわざわざ私の吃りをからかうために、こういう苦行を強いるのではないかと疑ったりした。しかし徐々に、出ない音を出そうと試みる肉体的な努力は、吃りをおそれて最初の言葉を円滑に出そうとする普段の精神的努力を、浄化するもののように思われてきた。まだ出ぬ音は、この月に照らされた静寂の世界のどこかに、すでに確実に存在しているように思われた。私はさまざまな努力の果てにその音に到達し、その音を目ざめさせさえすればよかったのである。	疲倦了的我，忽然间竟产生一种想法，柏木是不是为故意嘲笑我的口吃而让我尝以苦行呢？然而渐渐入深时才觉得这种为吹出声音而进行的肉体上的努力，对于口吃者总想圆满地发出头一句话这最初阶段的精神上的努力，是一种净化。我感到尚未吹出的声音，似乎已存在于这个月光之下静寂世界的某处。我应该尽最大的努力，吹准它，使它复活。
847	いかにしてその音に、柏木が吹き鳴らしたような霊妙な音に到達するか。他でもない熟練がそれを可能にするのであり、美は熟練であり、柏木がその醜い内飜足にもかかわらず澄んだ美しい音色に到達したように、私もただ熟練によってそれに到達できるのだという考えが私を勇気づけた。しかし別な認識も私に生れた。柏木の「御所車」の調べがあんなに美しく聴かれたのは、月のあたら夜の背景もさることながら、彼の醜い内飜足のためではなかったか？	怎样才能发出微妙的音，达到柏木的水平呢？我想不外乎争取熟练，美就是一种熟练嘛！柏木虽然长着难看的内翻足，却不妨吹出美而清澄的旋律。只要熟练了，我也能如意。这样一想，我便有了勇气。但同时又产生了另一种顾虑。觉得柏木把《御所车》吹得如此动人，自然是稀有的这一个月夜作为背景，同时是不是还与他丑陋的内翻足相关呢！
848	柏木を深く知るにつれてわかったことだが、彼は永保ちする美がきらいなのであった。たちまち消える音楽とか、数日のうちに枯れる活け花とか、彼の好みはそういうものに限られ、建築や文学を憎んでいた。彼が金閣へやって来たのも、月の照る間の金閣だけを索めて来たのに相違なかった。それにしても音楽の美とは何とふしぎなものだ！	对柏木的了解使我深知，他憎恶永恒的美。他所喜爱的只限于戛然而止的乐章和那只开几日旋即枯萎的瓶里插花。他憎恶文学与建筑。这次前来，他可能是单为探望一下月照清明的金阁到底是什么样子。然而音乐之美是多么地不可思议！
849	///吹奏者が成就するその短かい美は、一定の時間を純粋な持続に変え、確実に繰り返されず、蜉蝣のような短命の生物をさながら、生命そのものの完全な抽象であり、創造である。音楽ほど生命に似たものはなく、同じ美でありながら、金閣ほど生命から遠く、生を侮蔑して見える美もなかった。そして柏木が「御所車」を奏でおわった瞬	///由吹奏者创造的暂短的美，是善于把具体的时间变作纯粹的持续。确实不能回归。宛如蜉蝣般的短命的生物，是生命本身的完美的抽象与创造。没有比音乐更酷似生命的了。音乐和金阁在美质上是相同的。但决没有象金阁那样远离了生命而又苛刻地蔑视人生的美。所以柏木在他《御所车》终了的一瞬，

	間に、音楽、この架空の生命は死に、彼の醜い肉体と暗鬱な認識とは、少しも傷つけられず変改されずに、又そこに残っていたのである。	使音乐这个架空的生命死去，单把他丑陋的肉体以及灰暗的认识，毫无损伤也毫无改变地依旧留在那里。
867	この一言で、われわれは初対面のときと同じ位置に引き戻された。彼が自分の位置を取戻したのである。そこで私も、例のスペイン風の家の令嬢について、気楽にたずねることができた。	这句话把我们拉回到初交时的位置上来。是他要回到原先自己的位置来的。于是我也开心地问起那位住西班牙洋房的小姐的事。
869	言いながら彼は水にひたした杜若を一本一本とりだして丹念に眺め、鋏を水にさし入れて、水の中で茎を切った。彼の手にとられる杜若の花影は、畳の上に大きく動いた。そして又、突然言った。	柏木一边说着一边将水中浸泡的杜若，一棵棵地取出细看。把剪刀伸到水里剪茎。杜若被拿到手里时，大大的花影在榻榻米上晃动着。突然柏木问道。
876	水が清く湛えられた水盤の内部は銀いろに塗られていた。柏木は剣山の曲ったのを丹念に直した。	水盘内清澄的水已被涂抹成银白色。柏木把用弯了的固花工具精细地直好。
880	「あの公案はね、あれは人の一生に、いろんな風に形を変えて、何度もあらわれるものなんだ。あれは気味のわるい公案だよ。人生の曲り角で会うたびに、同じ公案の、姿も意味も変っているのさ。南泉和尚の斬ったあの猫が曲者だったのさ。あの猫は美しかったのだぜ、君、たとえようもなく美しかったのだ。目は金いろで、毛並はつややかで、その小さな柔らかな体に、この世のあらゆる逸楽と美が、バネのようにたわんで蔵われていた。	///“那个公案说的是人的一生，会多次呈现各种形态。那是一桩令人不愉快的公案啊。实际上人每当遇到一回坎坷，对这一公案的样式和意味都有不同感受。南泉和尚斩掉的那只猫正是可疑物。这只猫美得出奇，你知道吗，美的简直没法比喻。金黄的眼睛，光亮的毛色，它把人世间一切逸乐和美，象伸展自如的弹簧一样，都藏在小巧柔弱的腰身中。
881	///猫が美の塊まりだったということを、大ていの註釈者は言い落している、この俺を除けばね。ところでその猫は、突然、草のしげみの中から飛び出して、まるでわざとのように、やさしい狡猾な目を光らせて捕われた。それが両堂の争いのもとになった。何故って、美は誰にでも身を委せるが、誰のものでもないからだ。美というものは、そうだ、何と云ったらいいか、虫歯のようなものなんだ。それは舌にさわり、引っかかり、痛み、自分の存在を主張する。とうとう痛みにたえられなくなって、歯医者に抜いてもらう。血まみれの小さな茶いろの汚れた歯を自分の掌にのせてみて、人はこう言わないだろうか。	///猫是美的一种积块。一般的注释家都没有注意到这一点，只有我算是例外。可是这只猫突然从草丛中跳出。简直象故意要和僧门斗法一样。它使出娇柔狡黠的媚眼，因而被僧人抓住，这就是两堂之争的根源。为什么？因为美可以委身于任何人同时也不能为任何人私有。美就是这么一种东西。要我怎样说是好呢？它很象人们生的虫牙。它碍事，疼痛，以此表明自己的存在。终于在忍受不住时，请医生给拔掉。拿在掌心再看，也不过是茶褐色带血污的一个小东西嘛！这时人可能会说
882	/ もしこれがもともと俺の外部存在であったのなら、どうして、いかなる因縁によって、俺の内部に結びつき、俺の痛みの根源になりえたのか？ こいつの存在の根拠は何か？ その根拠は俺の内部にあったのか？ それともそれ自体にあったのか？ それにしても、俺から抜きとられて俺の掌の上にあるこいつは、これは絶対に別物だ。断じてあれじゃあない』	/如果说这个是我身外的一种存在，它凭什么因缘和我的口腔勾结，造成我疼痛的根源呢？它存在的依据是什么呢？它的依据是在我的体内还是在它自身呢？就算难以说清，这个已从我口腔拔掉，又拿在掌心的东西，绝对是另一种物质。断乎不再是我口中的那个了。”
887	さて、こんな話をしつつも、柏木の手は微妙に動いて、錆びた小さな剣山を水盤の中に並べ、天に当る木賊をそれに挿し並べてから、三枚組の葉組を整えた杜若をこれに配して、次第に観水活けの形を作って行った。洗い込まれた白や褐色の細かい清らかな玉砂利も、仕上げを待って水盤のかたわらに積まれていた。	我们交谈时，柏木从未把巧手停下。他把固花工具摆到水盘里，随后再把顶天安排的木贼插到固花工具上，然后又把修整过的杜若三叶一组地配对给木贼。霎眼间水盘中的盆景做完了。最后将清水洗过的白褐两色又细又净的砂粒儿铺满盘面。
888	彼の手の動きは見事という他はなかった。小さ	他的手实在太巧。主意不断生出且准确而

	な決断がつぎつぎと下され、対比や均整の効果が的確に集中してゆき、自然の植物は一定の旋律のもとに、見るもあざやかに人工の秩序の裡へ移された。あるがままの花や葉は、たちまち、あるべき花や葉に変貌し、その木賊や杜若は、同種の植物の無名の一株一株ではなくなって、木賊の本質、杜若の本質ともいうべきものの、簡潔きわまる直叙的なあらわれになった。	集中地表现了对比和匀称的效果。大自然中的植物，在一定的旋律下，令人目眩地移入人工秩序之中，原有的花和叶转眼变成了应当有的花和叶，哪一株木贼或杜若都不再是同种类没名气的普通花卉了。所谓的木贼的本质都成了极其简洁的直叙的形态。
889	しかし彼の手の動きには残酷なものがあった。植物に対して、彼は不快な暗い特権を持っているように振舞った。それかあらぬか鋏の音がして茎が切られるたびに、私は血のしたたりを見るような気がしたのである。	然而柏木的动作，使人感到残酷。他好象挥舞着植物所拥有的一种不快的阴暗特权似的。不知是否是这种缘故，每当随剪声断掉一株花茎时我好象看到花茎在滴血。
890	観水活けの盛花は出来上った。水盤の右端に、木賊の直線と杜若の葉のいさぎよい曲線がまじわり、花のひとつは花咲き、他の二つはほぐれかけた蕾であった。それが小さな床の間にほとんど一杯に置かれると、水盤の水の投影は静まり、剣山を隠した玉砂利は、いかにも明澄な水ぎわの風情を示した。	一盘盆栽式插花已经完成。紧靠水盘的右端，木贼以直线条和杜若叶片的优美曲线相交。花儿有一朵盛开、两朵绽蕾。这水盘中的盆栽摆到小小床头之后，水盘里的水出现静静的投影。埋藏起扶植花叶的工具的砂面，显示着无比澄明的水滨风情。
893	……このとき私を襲った感動は錯乱していた。南禅寺の山門の上からその人を見たとき、私のかたわらには鶴川がいたが、三年後の今日、その人は柏木の目を媒介として、私の前に現われる筈なのである。その人の悲劇はかつて明るい神秘の目で見られたが、今はまた、何も信じない暗い目で覗かれている。そして確実なことは、あの時の白い昼月のような遠い乳房には、すでに柏木の手が触れ、あの時華美な振袖に包まれていた膝には、すでに柏木の内腿足が触れたということだ。確実なのはその人がすでに、柏木によって、つまり認識によって汚されているということだ。	……这时向我袭来的感动是错乱的。在南禅寺山内看到那人时，在我的身旁有鹤川。三年后的今天，她却以柏木的视线为媒介出现在我的面前。我对她的悲剧曾感到明快和神秘。现在我则以不相信的、阴郁旁观的眼睛窥视它。勿庸置疑的是，她那如同白昼冷月般遥远的乳房，已经被柏木摸过；她那华丽衣裙下的双膝也早被柏木的内翻足碰过。她无疑已被柏木，总之是被认识污染过了。
894	この思いはいたく私を悩まし、その場に居たたまれぬ気持にさせた。しかしなお好奇心が私を引き止めていた。有為子の生れかわりとさえ思われたその人が、今、不具者の学生に捨てられた女として、姿を現わすのは待ち遠しかった。いつか私は柏木に加担して、自分の思い出をわれとわが手で汚すかのような錯覚の喜びに涵った。	想到这里我十分气恼，立刻想走。然而好奇心又把我留下。那甚至被我看成可能是有为子死而复生的女人，如今又将以一个被有缺陷的学生抛弃的女人出现在我的面前，真是万想不到。不知何时我沉浸在以柏木的庇护，且用自己的手玷污一下自己的回忆这番错觉的狂喜中来。
898	とうとう自分のみじめさに耐えられなくなった女は、柏木の心を翻えそうとする努力から、しばらく立退いていようと思ったらしい。今度は突然落着きを装い、せまい下宿の一室を見まわした。床の間に大々と置かれた盛花に、女は三十分も居て、はじめて気づいたらしかった。	她似乎再也无法忍受耻辱和凄凉，为重新唤起柏木的情意，而要暂且告退。这一回她装得很沉着，向柏木这间小小宿舍张望一番，似乎进屋３０多分钟以后刚刚发现了床头有一大盘子插花。
904	そして水が飛び散り、木賊が倒れ、花ひらいた杜若は引き裂かれ、私が盗みを犯して採った花々は、狼藉たるさまになった。私は思わず立上ったが、なすすべを知らずに、窓硝子に背を押しあてていた。柏木が女の細い手首をつかむのが見えた。それから、女の髪をつかみ、平手打ちを頬にくれるのが見えた。そういう柏木の荒々しい一聯の動作は、実に先程、活け花をしていて葉や茎	接着只见盘中水漫洒在外。木贼倒架了。开花的杜若扯碎了。我费力偷来的花被推躺在地，一片狼藉。我不由自主地站起身，把背靠向玻璃窗户。我看到柏木一把揪住女人纤细的手腕，接着又揪住她头发，一个巴掌打到脸上。柏木一连串的粗野动作，和刚才剪茎断枝时的残忍，分寸不差，恰好似那时行为的延长。

	を鋏で切っているときの、静かな残忍さと寸分ちがわず、そのままの延長のように思われた。	
908	その柏木の言葉の威力に押されたのか、それとも本心から女に同情したのか、そこのところは我ながら曖昧だったが、ともかく私の足はすぐ動きだして女を追った。下宿から二三軒さきで追いついた。	我很难说是为柏木的话锋所逼，还是出于对女人的同情，自己都说不清，反正我的双脚立刻迈出了门外，赶过两三户人家的房前时总算追上了。
911	私の耳もとで縷々と述べ立てられている柏木の非行、その悪どい卑劣な細目、それらはすべてただ「人生」という言葉を私の耳にひびかすだけだった。彼の残忍性、計画的な遣口、裏切り、冷酷、女から金をせびりとるさまざまな手、それらはただ彼の言いがたい魅力を解説しているにすぎなかった。そして私は彼の内飜足に対する彼自身の誠実さを信じていればよかったのである。	女人一件又一件述说的柏木的不人道以及卑劣的具体详情，在我的耳边都只化作“人生”一词回响着。柏木的残忍性，有预谋的作法，背叛，冷酷，用各种花招向女人讨钱，这一切不过是对柏木那难以言喻的魅力的解说。而我只要相信柏木十分忠诚于自己的内翻足就够了。
912	鶴川の急死このかた、生そのものに触れずにいた私は久々で、別個の、もっと薄命でない暗い生、その代り生きつつある限り他人を傷つけてやまない生の動きに触れて鼓舞された。彼の「殺し方が足らんさ」という簡潔な言葉は、よみがえって私の耳を搏った。そして私の心に思い起されるのは、終戦のとき不動山頂で京都市街のおびただしい灯にむかって、こめた祈願のあらまし、あの「私の心の暗黒が、無数の灯を包む夜の暗黒と等しくなりますように」という祈りの文句であった。	自从鹤川暴死后，并没有接触到什么所谓生的我。我久久地被个别并非薄命的阴暗的生以及只要活着就要不断伤害他人的生的冲动刺激着和鼓舞着。柏木说的“杀技不足”，虽然说得简单，却使我有所醒悟，觉得铮铮入耳。我想起大战结束之际，我爬上不动山巅，面对京都市万象灯火时，也曾由衷地做过祈祷。我说过的一句话是：“我请神佛保佑，让我心中的黑暗和那包围无数灯火之夜的黑暗相齐相等吧！”
919	女は崩折れて、畳の上に横坐りに坐った。部屋の電燈は多分百ワットで、電力制限のころに珍らしい明るさであり、柏木の下宿の電燈に比べると、三倍の光度であった。女の体ははじめてあかあかと照らし出された。白博多の名古屋帯が鮮明に白く、友禅の着物の藤棚霞の紫が浮き上った。	女人放松下来，侧身坐到卧铺睡席上来，房间里的灯光有一百度。在节电期间这算是难得的光明，比柏木的电灯光大三倍。女人的全身被照得明晃晃的，腰间扎的博多产名牌丝带白得刺眼，和服是最醒目的淡紫色，并印有花鸟。
920	遠い星の光りが届くときには、すでにこの地上の相貌が変っているように、女が変質してしまっていることは余儀なかった。そして南禅寺の山門の上から見たとき、私と女とが、今日を予定して結ばれていたならば、そんな変貌などは、わずかの修正で旧に復し、再びあのときの私とあのときの女とが相見ることができると考えられた。	如同远天的星斗照到眼前时，大地的相貌已为之一变，这位女人已经变质，也是情理之中的事。但我想，当我站在南禅寺山门上下看时，如果和女人曾立下今日相会的誓言，也许可以略微修正这种变化，而使旧景重现，使那时的我和那时的女人得以重逢。
926	かくて私は、目の前で帯揚げが解かれ、多くの紐が解かれ、帯が絹の叫びをあげて解かれるのを見た。女の衿は崩れた。白い胸がほのみえるところから、女の手は左の乳房を掻き出して、私の前に示した。	就这样，她在我眼前把腰带解开，把许多纽扣解开，把贴身的白绢衫撕裂开。女人的领襟全都坦露出来。她用左手从微白的胸口把乳房掏出，显示在我的面前。
927	私に或る種の眩暈がなかったと云っては嘘になろう。私は見ていた。詳さに見た。しかし私は証人となるに止まった。あの山門の楼上から、遠い神秘な白い一点に見えたものは、このような一定の質量を持った肉ではなかった。あの印象があまりに永く醗酵したために、目前の乳房は、肉そのものであり、一個の物質にしかすぎなくなった。しかもそれは何事かを愬えかけ、誘いかける肉ではなかった。存在の味気ない証拠であり、生	要说这种时刻，我毫无所动，那也许会认作谎话。我在看。而且仔细地看。但是我仅止于做为一个旁观的见证人。我从那个山门的城楼上可见到的遥远而神秘的一点微白，并非是如此具有具体质量的肉。由于往昔的那种印象过于持久地在我心中发酵，眼前的乳房，也只能是一块肥肉，一种物质罢了。然而那不是能引起我有什么回忆，挑起我的什么兴趣的肉。它是存在的无气味的证据。

	の全体から切り離されて、ただそこに露呈されてあるものであった。	它从生的整体中分离，只是一个被显示物。
928	まだ私は嘘をつこうとしている。そうだ。眩暈に見舞われたことはたしかだった。だが私の目はあまりにも詳さに見、乳房が女の乳房であることを通りすぎて、次第に無意味な断片に変貌するまでの、逐一を見てしまった。	不过我还要说几句谎话。是的！我确实曾着迷到头晕目眩，只因为我看得过于仔细，使得这乳房越过了眼前的女人的乳房，而逐渐地变成毫无意味的片断。总之我一一都看了个够。
929	……ふしぎはそれからである。何故ならこうしたいたましい経過の果てに、ようやくそれが私の目に美しく見えだしたのである。美の不毛の不感の性質がそれに賦与されて、乳房は私の目の前にありながら、徐々にそれ自体の原理の裡にとじこもった。薔薇が薔薇の原理にとじこもるように。	……不可思议的正在于此。因为在这可怕的经历之后，它在我的眼里才成为美的。美的不毛不感的性质被赋予于此，乳房虽在我的眼前，但却慢慢地被封闭回乳房本身的原理之中。正如蔷薇花被封闭于蔷薇花的原理。
932	私は初秋の宿直の、台風の夜を思い出した。たとえ月に照らされていても、夜の金閣の内部には、あの蔀の内側、板唐戸の内側、剥げた金箔捺しの天井の下には、重い豪奢な闇が澱んでいた。それは当然だった。何故なら金閣そのものが、丹念に構築され造型された虚無に他ならなかったから。そのように、目前の乳房も、おもては明るく肉の耀きを放ってこそおれ、内部はおなじ闇でつまっていた。その実質は、おなじ重い豪奢な闇なのであった。	我想起初秋时节我值宿时的台风之夜。虽然月照清空，在金阁的内部，那档雨板窗里面，那折页板窗的内侧以及金箔剥落的天棚下面，都沉淀着过度豪奢的黑暗。而这也是必然现象。因为金阁不外是专心被建筑和造型化的虚无。我眼前的乳房也是如此，虽然外表闪着肉体的光彩，内里已被同样的黑暗塞满。是同样的过度豪奢的黑暗。
933	私は決して認識に酔うていたのではない。認識はむしろ踏み躙られ、侮蔑されていた。生や欲望は無論のこと！……しかし深い恍惚感は私を去らず、しばらく痺れたように、私はその露わな乳房と対坐していた。	我决非醉倒在认识里。准确的说是认识在被践踏、被侮辱。生和欲望是天经地义！……但是我却始终没摆脱深深的恍惚，许久，我象麻木了一般和乳房对面而坐。
939	「又もや私は人生から隔てられた！」と独言した。「又してもだ。金閣はどうして私を護ろうとする？　頼みもしないのに、どうして私を人生から隔てようとする？　なるほど金閣は、私を堕地獄から救っているのかもしれない。	“又是一遭，我被推出了人生大门之外。”我私语着，“金阁！这是又一次了。你是怎么保佑我的？我并没有求助于你，为什么决计把我和人生隔断开来？
940	総門は黒く静まっていた。朝鳴鐘のときに消燈される耳門のあかりが仄かにともっていた。私は耳門の戸を押した。内側で、錘りを吊り上げる古い錆びた鉄鎖の音がして、その戸はあいた。	总门静锁在黑暗里，只有耳门里还微有灯光一点。那是长夜的明灯，直亮到黎明晨钟敲响。我推门时门里的锁链哗啦一声，门就敞开了。
941	門番はすでに寝んでいた。耳門の内側には、午後十時以後は、最後の帰山者が戸締りをする旨の内規が貼られ、まだ表へ返されていない名札が二枚あった。一枚は老師の名札であり、一枚は年老いた庭男の札であった。	按规定到晚上１０点以后，由最后回来的人上锁。看一看昏暗中的名牌，尚未回寺的有二位，一位是老师，另一位是打扫庭院的老人。
942	歩くほどに、右側の作事場に横たえられている五米にあまる数本の材木が、夜目にも明るい木の色を見せていた。近づくと、こまかい黄いろい花が散り敷いたように、大鋸屑が落ちちらばり、闇のなかにあでやかな木の香が漂っていた。作事場の外れの車井戸のわきから、庫裡へ行こうとして、私は立戻った。	走进几步就有横七竖八的木材，长五米多。夜晚也辨认得出木材的色泽。走到近处看出黄澄似花散发着香味的是锯下的锯沫。我想从木工场旁的井边去寺厨，于是掉转头来。
944	金閣が見えはじめた。木立のざわめきに囲まれて、それは夜のなかで、身じろぎもせず、しかし決して眠らずに立っていた。夜そのものの護衛のように。……そうだ、私は寝静まった寺のよ	开始看到金阁了。它被丛林的喧嚣声包围着。在深夜中它挺立一动不动。决无睡意，仿佛是夜的卫士。……是的！我从没见到金阁象夜深人静时刻的寺院一样能够安静地睡

	うに金閣が眠っているのを見たことがない。人の住まぬこの建築は、眠りを忘れることができた。そこに住んでいる闇は人間的法則を完全に免かれていたのである。	下。没人居住的建筑是能够忘记睡眠的。在那里居住的黑暗，可以完全免除人间的法则。
951	総じて私の体験には一種の暗合がはたらき、鏡の廊下のように一つの影像は無限の奥までつづいて、新たに会う事物にも過去に見た事物の影がはっきりと射し、こうした相似にみちびかれてしらずしらず廊下の奥、底知れぬ奥の間へ、踏み込んで行くような心地がしていた。運命というものに、われわれは突如としてぶつかるのではない。のちに死刑になるべき男は、日頃ゆく道筋の電柱や踏切にも、たえず刑架の幻をえがいて、その幻に親しんでいる筈だ。	总的说，在我的体验中，似乎有一种不期而然的暗和作用。好似明镜般的回廊，一个影像会依次向内无限连续地折射，甚至在刚刚遇到的景物上，也会清晰地投下已逝的影像。我觉得自己正跟随这种相似不由自主地走向廊下的深处，走向不知底奥的空间。但并非是突然碰到了命运的墙壁。一个行将被押赴法场的死囚，当他看到平时熟悉的道旁电杆和岔路口时，自然会将其幻化为绞刑架，而且产生一种亲切感。
952	従って又私の体験には、積み重ねというものがなかった。積み重ねて地層をなし、山の形を作るような厚みがなかった。金閣を除いて、あらゆる事物に親しみを持たない私は、自分の体験に対しても格別の親しみを抱いていなかった。ただそれらの体験のうちから、暗い時間の海に呑み込まれてしまわぬ部分、無意味のはてしれぬ繰り返しに陥没してしまわぬ部分、そういう小部分の連鎖から成る或る忌わしい不吉な絵が、形づくられつつあるのがわかった。	因而在我的体验中，没有什么积压物。没有因堆积过深而形成地层、形成山脉的那种厚度。除了金阁之外，与一切疏远的我，连亲身的感受也丝毫不感到亲切。我只是得了那未被阴暗的时间之海吞没的部分，从那未陷入无休无止的反复之中的部分，在这些小小的部分的连锁中形成的某种忌讳的不吉利的图画正在制作之中。
954	と云って、これら断片を、過去に嘗て形づくられていた美しい完全な形姿の、落ち崩れた破片だと考えることはできなかった。それらは無意味のうちに、法則性の完全な欠如のもとに、世にもぶざまな姿で打ち捨てられながら、おのがじし未来を夢みているように見えたからだ。破片の分際で、おそれげもなく、無気味に、沈静に、……未来を！　決して快癒や恢復ではないところの、手つかずの、まさに前代未聞の未来を！	然而我并不认为这些零七八碎的断片过去曾构成完美造型。因为这些断片虽然无意义虽然完全缺乏规律性，虽然被狼狈不堪地打破抛弃于世上，却似乎仍各自抱有对未来的空想。在破片之间镇定而又怪异地、平静地…向着未来！那是不可康复的世界之不可触摸的旷古未闻的未来。
963	///形態は徐々に稀薄になり、破られそうになり、おののき顫えている。それもその筈、菊の端正な形態は、蜜蜂の欲望をなぞって作られたものであり、その美しさ自体が、予感に向って花ひらいたものなのだから、今こそは、生の中で形態の意味がかがやく瞬間なのだ。	///形态渐渐变得稀薄，似乎要破碎了一般，颤抖着。这是理所当然！那端端正正的花瓣是蜜蜂欲望的仿作。因为那美的本身，是向着预感而绽开的花朵，现在正是生命之中形态的意义大放光辉的一瞬！唯有此才是无形地流动着生的模型。
964	私はほとんど光りと、光りの下に行われているこの営みとに眩暈を感じた。ふとして、又、蜂の目を離れて私の目に還ったとき、これを眺めている私の目が、丁度金閣の目の位置にあるのを思った。それはこうである。	看着那在光与光下进行的这一营生，我几乎有些眼晕。在我突然间又回到故我时，我感到凝视这情景的我的目光正处在金阁的位置。
965	……私は私の目に還った。蜂と夏菊とは茫漠たる物の世界に、ただいわば「配列されている」にとどまった。蜜蜂の飛翔や花の揺動は、風のそよぎと何ら変りがなかった。この静止した凍った世界ではすべてが同格であり、あれほど魅惑を放っていた形態は死に絶えた。菊はその形態によってではなく、われわれが漠然と呼んでいる「菊」という名によって、約束によって美しいにすぎなかった。私は蜂ではなかったから菊に誘われもせず、私は菊ではなかったから蜂に慕われもし	……我回归到用自己的眼睛观察。蜜蜂和夏菊，在茫茫的大千世界中，说来只是在万象中“被配列着”罢了。蜜蜂的飞舞，夏菊的摇曳与风的吹动毫无二致。在这静止而又冰冻的现实世界中，一切都同格同样。散发着迷人的光彩的形态因死亡而绝迹。菊花并非依赖形态，而是依赖我们偶然赋予它的“菊”这一名称的束缚，才有所谓的美。我不是蜜蜂，因而不为菊花所诱惑；我不是菊花，因而与蜜蜂的青睐无涉。一切形态与生的流动

	なかった。あらゆる形態と生の流動との、あのような親和は消えた。世界は相対性の中へ打ち捨てられ、時間だけが動いていたのである。	的那种亲和感已经消失。世界已被抛弃到相对性的深渊，只有时间在流动。
969	土曜の除策（それは警策を除く意味で、こう云うのである）を幸い、三番館ぐらいの安い映画館で映画を見てのかえるさ、私は久々に新京極をひとりで歩いた。その雑沓の中で、よく見知った顔に行き当ったが、それが誰だか思い出されぬうちに、顔は人波に押し流されて私の背後に紛れてしまった。	幸遇得星期六那天的除策（这是为除去警策之意的一种说法），我在票价便宜的类似三等的一家小电影院看完一场电影。归途中，我独自一人在新京极转了很久，纷杂中曾碰上个面熟的人，可是不等分辨出是谁时，那人已被挤入我身后的人流中。
973	何故犬が私の関心を惹いたのか知らない。多分この明るい繁華な町並とはまるで別の世界を、犬が頑なに裡に抱いて、さまよっているのに惹かれたのかもしれない。嗅覚だけの暗い世界を犬は歩いており、それは人間どもの町と二重になって、むしろ燈火やレコードの唄声や笑い声は、執拗な暗い匂いのために脅やかされていた。なぜなら匂いの秩序はもっと確実であり、犬の湿った足もとにまつわる尿の匂いは、人間どもの内臓や器官の放つ微かな悪臭と、確実に繋がっていたからだ。	不知为什么这条狗竟引起了我的注意。或许是因为这狗顽固地抱有与这繁华的街市迥别的世界而于此漫步。狗只在有嗅觉的昏暗世界里走动，那与人类的街市不相等同的二重世界。或者更准确地说，是灯火和唱片中的歌声和笑声使它感到一种威胁。因为嗅觉的秩序是极实在的，沾在狗的湿爪上的尿味，与众人类的内脏器官放出的微臭，有切切实实的关联。
974	大そう寒かった。闇屋風の若者たちが二三人、松の内を過ぎてまだ取り払われずにいる門松の葉をむしって通った。かれらは新らしい革手袋の掌をひろげて競い合った。一人の掌にはわずか数本の松葉が、一人の掌には小さな一枝がまるごと残っていた。闇屋たちは笑いながら行きすぎた。	天气冷得厉害。象是搞黑市营生的两三个青年，走过松下时，从尚未拆掉的松树牌楼上揪断一个松枝便走。然后他们伸开新皮手套比着手上松枝的多少。结果有一个人手里只剩下几片松针叶，另一个手里有一个小松枝。黑市商人们笑着走开了。
975	さて、私はいつのまにか犬に導かれていた。犬は見失われるかと思うと又現われた。河原町通へ抜ける道を曲った。私はこうして新京極よりもいくらか暗い電車通りの歩道へ出た。犬の姿は消えた。立止った私はと見こう見した。車道のきわまで出て、犬のゆくえを目でたずねていた。	我不知不觉地被一只狗引领着。狗一会儿不见踪影，一会儿又出现在眼前。最后穿过河原街马路拐了弯。就这样我来到了比新京极还昏暗的电车路旁的人行道。这狗不见了。停下脚来我决定要找找看，我一直走到车道的尽头，仍看不见狗的影子。
976	そのときつやつやした車体のハイヤーが目の前にとまった。ドアがあけられ、女が先に乗り込んだ。私は思わずそのほうを見た。女につづいて乗ろうとした男は、ふと私のほうに注意して、そこに立ちすくんだ。	这时忽然一辆流线型小轿车停在了我身旁。车门打开时，女人先钻了进去，我不由自主地朝那个方向扫了一眼，随后准备上车的男子突然注意到我，站住不动了。
981	そう叱咤して、忽ち老師は私を尻目に車へ乗り、ドアは音高く閉められ、ハイヤーは走り去った。先程新京極で会った折も老師はたしかに私に気づいていたということが、そのとき突然はっきりした。	他大声斥责之后，便背向我钻进车中，用力关上了车门。小车跑远了。这时我才清醒地意识到，刚才在新京极他已经注意到我了。
985	それはともあれ、老師の無言は又しても私の日々にのしかかる不安になった。老師の存在が大きな力になり、目の前をうるさく飛びまつわる蛾の影のようになった。法要へ招かれるとき老師は一人乃至二人の侍僧を伴うのが例だが、もとは副司さんが必ずそのお供をつとめたのに、このごろでは所謂民主化から、副司さん、殿司さん、私ともう二人の徒弟との五人の間の廻り持ちになっていた。いまだにそのやかましさが噂に残っている寮頭は、兵隊にとられたまま戦死したので、寮頭の役目は四十五歳の副司さんが兼ねた。鶴川	这且不多说，老师此后的沉默，使我再次背上包袱，坐卧不宁。老师的存在变成了巨大的力量。就象讨厌的飞蛾飞来飞去缠在眼前。寺中规定，遇有谁家招请主祭时老师必带上一两个侍僧陪同。原来只副司参加，如今说是要搞民主化，变成了副司殿司再加我们徒弟在内一共五人参加。过去那个不得人心的寮头当兵死于前线。他的职务交给４５岁的副司兼任。鹤川死后又补上了个新徒弟。

	の死と共に、徒弟は一人補充された。	
986	折しも同じ相国寺派に属する由緒のある寺の住持が亡くなり、新命の住持の入院の儀式に、老師が招かれていたが、そのお供が私の番に当っていた。老師はことさら私のお供をしりぞけることはしなかったので、この往復に何か釈明の機会が得られるだろうと私は心待ちにした。しかし前夜になって、お供としてもう一人の新入りの徒弟が追加され、私のその日にかけた望みはすでに半ば徒になった。	正好赶上同属相国寺派而知名度又极高的某寺任职主持逝世。老师应邀参加新主持到院接职的隆重仪式，而徒弟作陪正轮到我头上。因为老师没有找借口反对我参加，所以我心中想好在往返中相机解释误会。可是出发的前一天晚上，又补上了一个新徒弟。寄予那一天的希望，已经泡汤了一半。
989	焼香がはじまり、嗣法師への報恩の香である嗣法香が行われた。むかし禅宗が慣例にとらわれず、個人の省悟の系譜を何よりも重んじた時代には、師が弟子を決めるのではなく、むしろ弟子が師を選んだのである。弟子は最初に業を受けた師のみならず、諸方の師から印可を受けるが、その中で心から法を嗣ぐべき師の名を、嗣法香の折の法語で公けにするのであった。	第一道法事是烧香，烧嗣法香。这是专为报答嗣法师的恩情的一道香火。早年的禅宗并不拘于惯例。在那个极重个人省悟系谱的年代，不是老师决定弟子，而是弟子选择老师。弟子不仅接受最初授业的老师的教诲，而且可以接受四方师长的传道。弟子把自己心中选好的嗣法老师的名字，以烧嗣法香的曲折的法语公开出来。
991	……そのときこそ、私は早春の凜烈な大気に鼓舞されて、世にも晴れやかな裏切りでこの慣習を踏みにじるだろう。座に列なる僧は、おどろきのあまり口もきけず、怒りのために蒼ざめるだろう。私は老師の名を口にしようとしない。私は別の名を言う。……別の名を？　しかし私の本当の省悟の師は誰だろう。本当の嗣法の師は誰だろう。私は口ごもる。その別の名は、吃音に阻まれて容易に出ない。私は吃るだろう。吃りながら、その別の名を、「美」と言いかけたり、「虚無」と言いかけたりするだろう。	……只有那时我才能受到早春凛烈的寒气的鼓舞，以光明的背叛践踏那陈旧的惯例。列坐的众僧们都将为此而大吃一惊，目瞪口呆，气急败坏吧！我不会推举我的老师，我必另有所选。……但另有何人呢？我的第一位真正的启蒙老师是谁呢？真正的嗣法师是谁？我无言以答。那别一名字被口吃阻碍难以说出。我可能口吃，可能一边口吃一边把“美”、把“虚无”列为提名。
999	折ある毎に老師の顔色を伺うのが、私の情ない習慣になったが、そこには特別の感情は何一つ浮んで来なかった。その無表情は冷やかさですらなかった。もしその無表情が侮蔑を意味しているとしても、この侮蔑は私個人に向けられたものではなく、もっと普遍的なもの、たとえば人間性一般とかさまざまな抽象概念とかに向けられたものと同じであった。	一有机会，我便观察老师的脸色，这已经成了我无情的习惯。可是我怎么也瞧不出老师对我有一丁点的特殊情感。他的无表情就是一种冰冷。即使他的无表情意味着一种轻蔑，那也不是只对我个人的，而是对普遍的。比如对一般人性等各种抽象的概念而发。
1004	その写真は、店の明るすぎる電燈のおかげで、光沢紙のおもてに反射を閃めかせ、危うく見のがされそうになったのだが、私の手の中で反射が納まると、銹朱のコートの女の顔がそこに現われた。	当店里的灯光反射在有光泽的纸面上，我才发现那位穿朱红大衣的女人的脸，那照片险些从我眼前溜过。
1010	前庭の車廻しの中央に、円い生垣に囲まれた蘇鉄が旭を浴びている。その荒々しい幹の肌は、旭のために鮮明に隈取られている。左のほうに小さな菩提樹がある。帰り遅れた四五羽の鶸がこの枝にまつわって、数珠を揉み鳴らすようなひそかな鳴音を立てていた。まだ鶸がいるのに私は意外な感じがしたが、旭のさし入る枝づたいに、ごくささやかな黄いろい胸毛の移るのはたしかに鶸だった。前庭の白い砂利は静まっている。	庭前转车场中央围着圆圆的花圃的凤尾松，沐浴着朝阳，它的粗皮树干在阳光照射下显得鲜明眩目。左边又有一棵小菩提树。只见四五只可能回巢晚了的黄雀，象撸念珠一样低声地叫着。我奇怪怎么这个时候还有黄雀。可这停在透射着阳光的树枝上的胸前长着小黄毛的确实是黄雀。庭前的白砂没有一点声响。
1016	老師は突然私の部屋へ来て、私をゆるすかもしれなかった。ゆるされた私は、生れてはじめて、鶴川の日常がそうであったような、あの無垢の明	我甚至还想到老师也许突然来到我的房间，表示原谅了我。得到原谅的我也许会因此而生平第一次产生象鹤川平日里那样纯洁

	るい感情に到達するかもしれなかった。老師と私はおそらく抱き合い、お互いの理解の遅かったのを嘆くことだけが、あとに残されるに相違なかった。	明朗的情感。那时我或许和老师拥抱到一起，彼此心中只留下对互相理解得太晚的悔恨。
1019	今度は老師の荒々しい怒りを、雷のような大喝を待った。殴打され、蹴倒され、血を流す羽目になっても悔いないだろうと私は思った。	这次我只等着老师暴跳如雷了。我想即使被打、被踢，鲜血直流也不后悔。
1023	寺へかえってからも、何の変化もなかった。寺の生活の暗い黴くさい永遠性は、今日と明日との間に、どんな差異も懸隔も生れぬように仕組まれていた。月に二度の教典講義の一日が今日に当っており、寺の者は悉く老師の居間に集まって講義をきくのであったが、私はおそらくその無門関の講義に託して、老師が皆の前で私を問責するのだろうと信じた。	放学回寺以后也没有什么新情况。永恒的沉闷，发霉的寺院生活是建立在今日和明日之间不会产生任何差异和悬隔的基础上的。今天正逢每月两次教典课中的一次。大家都集中到老师客厅里听课。我相信老师肯定会假托讲义中的无门关一段故事，来当众责难我的。
1025	……暗い電燈の下に、無門関のテキストを手にして、寺の者は集まっていた。夜は寒かったが、老師のかたわらに小さな手焙りがあるだけだった。洟をすする音がきこえた。うつむいている老若の顔は影に隈取られ、いいしれぬ無気力なものがどの顔にも漂っていた。新入りの徒弟は、小学校の教師を昼間勤めている男で、彼の近眼鏡はいつも貧しい鼻梁を辷りかかった。	……在昏暗的灯光下，全寺人都手拿无门关讲义。夜里很冷，只老师身旁放有一个手炉。有人在抽鼻涕。低头听课的老少僧人们的脸象勾画出来的影像差不多。大家都困得不成样子。新进寺的徒弟白天兼任小学教师。他的近视镜总是架在寒酸的鼻梁上。
1026	私だけが身内に力を感じていた。少くとも私にはそう思われた。テキストをひらいて老師は皆を見まわしたが、私の目は老師の目を追った。決して伏目になってはいないところを見せようとしたのである。しかし老師のふくよかな皺に囲まれた目は、何の感興もあらわさずに、私を経て隣りの顔へ移って行った。	只有我感到浑身充满力量，至少我自己这样认为。打开书本时老师环视着大家。我的眼睛也追逐着他的目光。我要他知道我是全身贯注的，决不伏首闭目。不过老师被膨胀的皱纹围住的眼睛，毫无表示地经过我而转向了邻座的脸了。
1030	あしたの朝、謝まりに行こうと私は思った。朝になると、今日中に謝まりに行こうと思った。老師の表情には依然変化が見られなかった。	我想明天一早去向老师陪罪。到了早晨又想在这一天里的什么时候去都行。反正老师依旧没显露出任何变化。
1031	風のさわがしい日であった。学校からかえって、何気なしに机の抽斗をあけた私は、白い紙に包まれたものを見た。包んであったのは、例の写真である。包み紙には一字も書かれていなかった。	这是一个刮风天。放学回来随便翻抽屉时，我发现了一个白纸包，包里竟是我买下的那张照片。除照片外一个字没写。
1037	私は足もとの小石をひろった。紙に小石を包み入れ、堅固に絞った。こうして細かく刻まれ錘差りをつけられた女の顔の断片を、鏡湖池の池心へ投げ入れた。のびやかにひろがる波紋は、水際の私の足もとへやがて届いた。	我从脚下拣起一块儿小石头，用纸把它结结实实捆扎好。随后我把那女人脸的碎片用这个精制的坠子坠好，抛向了静湖池的池心。泛起的波纹忽悠悠扩散到了我的脚下。
1039	後から思うと、突然に見えるこの出奔にも永い熟慮とためらいの時期があったが、私はそれを出しぬけの衝動にかられてやった行為だと考えるほうを好む。何か私の内に根本的に衝動が欠けているので、私は衝動の模倣をとりわけ好む。たとえば、父親の墓参りに行こうとして、前の晩から計画を立てていた男が、当日になって家を出て、駅の前まで来たときに、突然思い返して呑み友達の家へ行ってしまうというような場合、彼を純粋に衝動的な男だと云えようか？	过后想来这看似突然的出走，实际上经过了长期反复考虑的阶段。但我仍偏向于把它看成是一时冲动的结果。因为我在根本上缺少冲动，所以格外喜欢模仿冲动。比如说有人决心给父亲扫一次墓。前天晚上定的计划，当日也出了家门，来到车站时却忽然变卦，竟拐到酒友家去了。或许这样的男人应该称作纯粹冲动型。
1042	と明言したその言葉に懸っていたが、宣告さ	虽说当面宣布这是第一次，但可以说我早

	れたのはこれが最初とはいえ、私はずっと前からこの宣告を予感し、覚悟していた筈である。私は寝耳に水の宣告をうけたのではない。それに今更仰天し、狼狽したわけではない。にもかかわらず、私は自分の出奔が、老師のこの言葉に触発され、衝動によって行われたと考えるほうを好む。	已有预感，早已觉悟到这一点。并非晴天霹雳，所以事到如今，我并不狼狈失措。尽管如此，我还是愿意把自己的出走看成是因老师的几句话触发的冲动所导致的结果。
1044	第一学期がおわったとき、学校から注意があり、老師は私を叱責した。成績がわるく、欠席時間の多いことも叱責の理由であったが、一学期にわずか三日間が充てられている接心を怠ったことが、老師をいたく怒らせた。学校の接心は、夏休みと冬休みと春休みの前に各・三日ずつあり、諸事専門道場と同じ型式で行われるのであった。	第一学期结束时，学校当局注意到我的情况，老师也斥责过我。成绩不好缺课又多，当然是斥责的理由。但是最使老师发怒的是我竟怠于一学期只安排三天的按禅宗规定将心中所感向老师道出的所谓“接心”。学校规定，暑假寒假春假来到之前各有三日“接心”安排，模式和专门道场同样。
1049	その煌めいているものは、ある時は工場の旗であったり、塀のつまらない汚点であったり、草間に捨てられた古下駄の片方であったりした。あらゆるものが一瞬一瞬に私の内に生起し、又死に絶えた。あらゆる形をなさない思想が、と云おうか。……重要なものが些末なものと手をつなぎ、今日新聞で読んだヨーロッパの政治的事件が、目前の古下駄と切っても切れぬつながりがあるように思われた。	///自己的内部世界同外界不规则地缓缓地相互替换。身边无聊的风光无谓地映入我的眼睛，闯入我的内部，而那没有闯入的部分在远方光芒闪烁。那些闪光的东西有时变成工场的旗子，有时变成泥土墙上的污垢，有时又成了扔到乱草里的一支旧木屐。这所有的一切在我心里忽然间产生，又忽然间死灭了。可以说这是不具任何形态的思想吧。重要的东西总是同琐碎的事拉手。我觉得今天报上登的欧洲的政治事件和眼前那支旧木屐有着割不断的联系。
1050	なぜこの草の葉の尖端が、これほど鋭い鋭角でなければならないのか。もし鈍角であったら、草の種別は失われ、自然はその一角から崩壊してしまわねばならないのか。自然の歯車の極小のものを外してみて、自然全体を転覆させることができるのではないか。	为什么草尖必定是锐角？如果是钝角便不再是草吗？整个大自然会从这小小的反常的一角崩溃吗？！拆下那大自然生生不息的齿轮中的一个零件，整个大自然便有可能倾覆吗？
1060	「そうまでして、まだ見捨てられたくないと思うか」	“你已经到了这个地步，还不该把你抛弃吗？”
1068	柏木の顔からは、いつもの逆説を述べるときの哲学的爽快さともいうべきものが拭い去られた。小さくすぼまった、煙るような目つきで私を見た。	柏木的脸此刻一扫先前搬弄邪说时那种哲学味的爽快，用迷蒙的细眼看着我说：
1074	柏木はそう言うと、忽ち踵を返して校門へ向ったので、私も引返し、歩度を緩めて彼と並んで歩いた。柏木は、例の光クラブの学生社長が闇金融容疑で検挙されたのが、九月に釈放されてから、信用がガタ落ちになって難儀しているそうだという話をした。この春ごろから光クラブ社長はひどく柏木の興味を惹いており、私たちの話題にしばしば現われたが、彼を社会的強者だと信じ切っていた柏木も私も、わずか二週間後に彼が自殺しようとは予期していなかった。	柏木说时转身朝向校内，我也跟着他，俩人并肩慢步走着。柏木又说起他新交的那位光俱乐部学生社长，因为放高利贷嫌疑被捕，９月里释放之后信用扫地的事。柏木从春天开始，就对这位社长很感兴趣。因此他成了我们经常性的话题。我们都认为他确实是社会上的强者，可谁也没想到他在被释放后两个多星期竟会自杀了。
1076	突然そう訊かれた私は、さても柏木らしからぬ質問だと思った。	这突然的一问，根本不象从前的柏木的脾气。
1091	石段の昇りぎわに、右手に義照稲荷神社のけばけばしい朱いろの社殿や、金網に入っている一対の石の狐が見えた。狐は巻物を口にくわえ、鋭く立てた耳の中も朱に塗られている。	上到石阶最高一磴，只见右手有义照稻荷神社的一所花哨刺眼的朱红社殿和圈在铁笼里的一对石头狐狸，那狐狸口叼卷轴，尖尖的两耳染得通红。

1093	社務所から拝殿寄りに白い土蔵があり、そこからはまばらな杉木立がつづいて、冷たい蛋白いろの雲が沈痛な光りを含んで乱れている空の下に、京都西郊の山々が見渡された。	从社务所去拜殿还要经过一个白泥灰墙仓库，从那里起有稀疏的杉树。在乱云飞渡的天空下，我极目眺望，京都西郊的山峦尽收眼底。
1101	私は濡縁に腰かけて待った。こうして待つうちに、あの濡れたひびわれた女の手で運命が決せられるのは、いかにも無意味に思われたが、そういう無意味に賭けるつもりで来たのだから、それもよかった。締めた障子の中で、大そうあけにくい古い小抽斗の環のぶつかる音がし、紙をめくる音がした。やがて障子が小さくあけられ、+++「へえ。どうぞ」+++　と一枚の薄紙がさし出されて、又障子は閉った。紙の一角の女の指あとは濡れていた。	我在窄廊下等候。心想，由这女人皱裂的湿手决定我的命运多没意思！然而因为我决意和这个没意思打赌，所以并不去计较。从关着的窗门里传来了开小抽屉时扣响的环吊声和卷纸声。终于窗子开了一个缝，送出一张小纸条后，又被拉上了。+++“喂！给！”+++纸条的一角沾有女人湿湿的指印。
1109	私は前庭を掃いていた。鞄一つ持たずに、ここから突然神隠しに会ったように、旅へ出てゆくのが私の目論見だった。しののめの仄白い砂利道の上に私と箒が動いている。突如として箒は倒れ、私の姿は消え、あとには薄明のなかに白い砂利道だけが残される。そういう風に出発せねばならぬと私は夢みていた。	我扫前院。心里算计着连书包也不拿，就象遇到隐身神一样，从这里突然逃出去旅行。拂晓前灰白的砂石路上，晃动着我和扫帚的影子。突然扫帚倒了，我的影子消失了。只有白白的砂石路留在曙色中。我幻想到必须象扫帚暗示的那样，立即出发。
1110	私が金閣に別れを告げなかったのもこのためだ。金閣を含む私の全環境から、私だけが突如として奪い去られる必要があったのだ。徐々に総門のほうへ向って私は掃いた。松の梢の間に暁の星が眺められた。	正是这个决策使我不能和金阁告别。有一种必要只把我一个从包括金阁在内的我的全环境中突然劫走。我望着总门不慌不忙地扫着。晨星钻过松树梢头眨眼望着我。
1115	汽車のゆくその線は、生れ故郷へ向う馴染の路線であるのに、古びて煤けた列車が、これほど新鮮なものめずらしい姿で眺められたことはなかった。駅、汽笛、朝まだきの拡声器のだみ声の反響までが、同じ一つの感情をくりかえし、それを強め、目もさめるばかりの抒情的な展望を私の前にひろげた。旭は広大なプラットフォームを区切っていた。そこを駈ける靴音、弾ける下駄の音、じっと単調に鳴りつづけるベル、駅売の籠からさし出される蜜柑の色……これらすべてが、私の身を委せた大きなものの一つ一つの暗示、一つ一つの予兆のように思われた。	火车的路线通向故乡，我很熟悉。然而那煤烟滚滚的陈旧列车，现在看来却显得分外新奇。车站、汽笛、清晨扩音器嘶哑的回声，都在重复着同一种感情，在我的面前展开了一幅不断强烈醒目的抒情画卷。朝阳把一个宽阔的月台分切成许多柔媚明朗的区段。急促的皮鞋声、轻快的木屐声以及单调的汽笛声，从筐里露出的黄澄澄的蜜桔……这一切都好似对委于我身的重大使命的一个个暗示和预兆。
1116	駅のどんな些細な断片も、別離と出発の統一的な感情へ向って、引き絞られ集められていた。私の目の下に後方へしりぞくプラットフォームは、いかにも鷹揚に、礼節正しく退いた。私は感じていた。こんなコンクリートの無表情な平面が、そこから動き、離れ、出発してゆくものによって、どんなに輝やかしくされているかを。	车站上的任何一些微细的片断，都朝着“别离”和“出发”的统一情感方向拧在一起。在我的眼下，月台骄傲而有礼地退向后方。没有表情的混凝土地面，由于我在这里起动、别离、出发，而显得无比光彩。
1119	田園はおぼろげに展き、刈田は青黴の色に見えた。畦のまばらな立木は、高低も大小も思い思いで、枝葉は高みに刈り込まれ、細い幹がいずれもこの地方で蒸籠と呼ばれる積藁で囲まれているので、それらが順繰りに霧の中から現われるさまは、木々の幽霊のようであった。又、あるときは車窓の目近に、ほとんど視野の利かぬ灰色の田畑を背にして、大そう鮮明な一本の大きな柳が、濡れそぼった葉を重たげに垂らし、かすかに	田园模糊一片，收割过的田野略呈青色。田埂上稀疏的几棵树木高高低低。高处的树叶被修剪过，细干的小树全被此地通称“蒸笼”的蒿棵围住，随着雾气流动或隐或现，活象树的幽灵一样。有时在车窗近处出现一棵大柳树，在望不到边的灰色田野陪衬下，低垂着湿透的叶子，在薄雾中轻轻地摇动。

	霧に揺られながら、現われたりした。	
1120	京都を発つときあのようにいきいきとしていた私の心は、今また死者たちの追憶へ導かれた。有為子や父や鶴川の思い出は、云うに云われぬやさしさを私の裡に呼びさまし、私は死者をしか人間として愛することができないのかと疑われた。それにしても死者たちは生者に比べて、何と愛され易い姿をしていることか！	从京都出发时还生气勃勃的我，此时却陷入了对死者的追忆当中。对有为子、父亲和鹤川的回忆，以难以名状的亲切感唤醒了我的心。我怀疑是否可以只把死人作为人来爱，可实际上，与生者相比，死者的脸就是容易使人爱啊！
1121	あまり混んでいない三等の客車にも、愛されにくい生者たちは、あわただしく煙草を吹かしたり、蜜柑の皮を剥いたりしていた。どこかの公共団体の年とった役員が隣りの座席で大声で話している。いずれも古い無恰好な背広を着ており、一人の袖口からは縞の裏地のやぶれたのが顔を出している。私は凡庸さというものが年齢を重ねても、少しも衰えぬのに改めて感心した。百姓風のそれらの日に焦けた皺の太い顔は、酒に荒されただみ声と共に、一種の凡庸の精華ともいうべきものをあらわしていた。	并不拥挤的三等客车，难以被爱的生者匆忙不定地一会儿吸烟，一会儿剥桔子皮。邻坐一位上年纪的老人，或许是某一公共团体的职员，正大声地讲话。这些人都穿一身老式西服，有的袖口处露出破里子。这使我又一次感到所谓的平庸不会随年龄的增长而衰减。那些百姓模样经风吹日晒的粗糙的脸和因贪酒无度而嘶哑的声音伴在一起，可以说是平庸之精华的集中显现。
1130	と言い、それがみんなの結論になった。拭かれぬき磨かれぬいた老人の手は、煤煙のあともなく、根附のような光沢を放っていた。実際その出来合の手は、手というよりもむしろ手袋と云ったほうがよかった。	这成了这些人的结论。那位老人两只擦了又擦蹭了又蹭的手，已经没有煤垢，好象连着的树根闪闪发光。实际上说这双手是现成的手套更合适。
1131	和尚は祇園へ通っていた。……が、私には、老役員たちのこうした理解の仕方で、私が理解されることに対する、云わん方ない嫌悪があった。「かれらの言葉」で私が理解されるのは耐えがたい。「私の言葉」はそれとは別なのである。老師が祇園の芸妓と歩いているのを見ても、私が何ら道徳的な嫌悪にとらわれなかったことを思い出してもらいたい。	大和尚是去逛祇园……，但是我对老职员以这样的理解方式来理解我，却感到难言的嫌恶。用“他们的语言”来使我得到理解，这里是难以以受的。“我的语言”是与此不同的另一种。这只需想想我看见老师和祇园妓女在一起，却根本没产生道德上的反感，就可明白。
1132	老役員たちの会話は、こうしたわけで、私の心に、凡庸さの移り香のようなもの、かすかな嫌悪だけを残して飛び去った。私は自分の思想に、社会の支援を仰ぐ気持はなかった。世間でわかりやすく理解されるための枠を、その思想に与える気持もなかった。何度も言うように、理解されないということが、私の存在理由だったのである。	为此老职员们的话：在我心里只留下平庸的移香，轻微的嫌恶，其余则飞了个一干二净。我从未仰求社会来支持我的思想，也不曾想为自己的思想寻找一个比较容易被社会理解的框架。正如多次说过的那样，不被理解正是我存在的标志。
1137	きらめく湾内に碇泊している艦隊は、秘密の勢揃をしていたのかもしれない。この艦隊にまつわることはみんな機密に属し、私たちはほとんどそういう艦隊が本当に存在するのかを疑っていたほどである。だから遠望された聯合艦隊は、名のみ知っていて写真でしか見たことのない威厳のある黒い水鳥の群が、人に見られているとは知らずに、威々しい老鳥の警戒に護られて、そこでひそかな水浴を娯しんでいるように見えたのである。	停泊在舞鹤湾内的盛装的舰队，也许是秘密集结。有关这个舰队的一切都是绝密的。我们甚至怀疑过它是否真的存在。因此远远望见的联合舰队在我眼里就象只知名字，只在照片上见过的威风的黑色水鸟群，不知道已被人察觉，在凶猛的老鸟警护下，偷偷戏水洗澡。
1138	……列車の車掌が次の駅の「西舞鶴」の名をふれまわる声に私は呼びさまされた。あわただしく荷を担げる水兵の乗客も今はなかった。降り仕度をはじめたのは、私のほかには、二三の闇屋風	……当列车员提醒大家下一站是“西舞鹤”时，我清醒过来。慌慌张张担着行李的水兵已经不在了。准备下车的人除了我还有二三个象是搞黑市生意的男子。

	の男だけであった。	
1141	初冬の曇った空の下に、冷たい微風が塩気を含んで、ひろい軍用道路を吹き通っていた。海の匂いというよりは、無機質の、錆びた鉄のような匂いがしていた。町の只中へ、深く導かれている運河のような狭隘な海、その死んだ水面、岸に繋がれたアメリカの小艦艇、……ここにはたしかに平和があったが、行き届きすぎた衛生管理が、かつての軍港の雑然とした肉体的な活力を奪って、街全体を病院のような感じに変えていた。	在初冬阴沉沉的天空下，冰冷的微风挟带着海水的腥味儿，吹到军用公路上。与其说是海水的咸腥不如说是无机质的铁锈味更恰当。深深导入街镇中心的运河般的狭窄海面、那死去的水面、系在岸边的美国小型舰艇……这里确有和平气味，但过于周到的卫生管理，夺去了昔日军港杂然自在的肉体的活力。整条街象是一座大医院。
1144	道は舞鶴市から湾の底部に沿うて西へ向い、宮津線と直角に交わり、やがて滝尻峠をこえて、由良川へ出る。大川橋を渡ったのちは、由良川の西岸ぞいに北上する。あとは川の流れる姿なりに、河口まで導かれるのである。	道路从舞鹤市沿着同舞鹤湾平行的海湾缓缓地向西延伸。与宫津线直角交接。不久翻过了泷尾岭，来到由良川。越过大川桥后，沿由良川西岸北上。最后便顺流直下来到了河口。
1150	川の広大な流域へ近づいてゆく風景のなだらかな傾斜はなくて、由良川は山のはざまの道から、突然その姿を現わした。川水は青く、川幅は広いのに、流れがどんよりとして、曇り空の下に、それは徐々に不本意に海のほうへ運ばれてゆくかのようだった。	向由良广大的流域靠近的风景，没有平缓的倾斜。在悬崖从深涧之间的夹道上由良川突然出现在我的眼前。河水碧蓝、河面宽阔，流经这里时忽然水浊岸窄。河流在阴暗的天空下却朦胧不清，似乎是在被缓缓地不情愿地运往大海。
1152	川のほうばかりを眺めていたせいである。川中に竹藪に包まれた大きな洲があった。私のゆく道には風がないのに、洲の竹藪は風にひれ伏していた。天水で耕す一二町歩の田が洲の上にあったが、農夫の姿はなくて、一人、こちらへ背を向けて釣糸を垂れている人が見えた。	因为我一心想眺望大海。路上本来没风，但洲上的细竹丛却随风舞动。沙洲上１２町步的田全靠雨水耕种。但却不见农夫。只见到一个人背对我在钓鱼。
1157	由良川は終りへ近づくほどに、いくつかのうらさびしい洲を露わにした。川水は確実に海へ近づき、潮に犯されているのだが、水の面はますます沈静に、何の兆もうかべていなかった。失神したまま死んでゆく人のように。	离由良川终点越近，越可见到一些寂寞的沙洲。河水确实在逼近大海并在泛潮。但水面却越发沉静，显不出任何入海以前的征兆，象无神死去的人一样。
1159	私が海を触知するには、野や田畑をわたってくる烈風にむかって、なおしばらく歩かなければならなかった。風が北の海を限なく描いた。こんなに厳しい風が、人の気配もない野の上に、このように浪費されているのは、海のためだった。それはいわばこの地方の冬を覆うている気体の海、命令的な支配的な見えざる海なのであった。	为了感知大海，我必须迎着穿过山野平原的狂风再走上一段路程。风清晰地勾画出北部海面的轮廓。这样强劲的风，只能浪费在旷无人迹的荒野上，都是由于大海。说来这风就是此地覆盖冬日的气体的海，是命令式的统治式的无形的海。
1160	河口のむこうに幾重にも畳まれていた波が、徐々に灰色の海面のひろがりを示した。山高帽のような形をした島が、河口の正面にうかんで来た。それは河口から八里の冠島で、天然記念物の大みずなぎ鳥の棲息地である。	在河口对面起伏重叠的海涛，慢慢地显露出海面的宽阔。在河对面浮出一个圆顶礼帽形状的小岛。那是离河 8 里远的冠岛，那里是属自然保护对象的大水■鸟的栖息地。
1162	そのとき何かの意味が私の心に閃めいた。閃めくかと思うと消え去り、意味は失われた。しばらく佇んでいたが、吹きつける冷たい風が私の思考を奪った。私は又風に逆らって歩きだした。	这时候我心里似乎闪出一种什么思想。刚一闪出就又消失了，失掉了意义。我一动不动站立了很久，刮来的冷风夺走了我的思考。我又逆风前进了。
1165	私は人の在処を探した。浜へ下りるには、低い崖づたいに下りる小径があった。そこで甚だしい浸蝕に抗して、ほそぼそと護岸工事が行われているのがわかった。白骨のようにコンクリートの柱があちこちにころがっていたが、砂の上のその新らしいコンクリートの色は妙にいきいきと	我寻找着人的住所。低崖边有一条石头小道。为了防止严重的浸蚀，那里正建设护岸工事。到处都躺卧着白骨般的钢筋混凝土柱子。沙土地上这些新混凝土构件格外显眼。

	見えた。	
1167	海は砂浜から摺鉢形に急激に陥ち込んでいた。花崗岩質の砂を踏んで、波打際へむかって歩くあいだ、私はさっき心にひらめいた一つの意味へ向って、確実に一歩々々近づいてゆくという喜びに再び襲われた。烈風は冷たく、手袋をしていない手はほとんど凍えていたが、何程のことはなかった。	海从沙岸起呈擂粉钵形急剧下陷。当脚下踩着花冈岩质的细砂走向岸边时，一种切实逼近先前曾在心中闪现的那一意义的喜悦，再一次向我袭来。寒风刺骨，不带手套的手几乎冻硬，可我并不在乎。
1170	今、私は波にむかい、荒い北風にむかっていた。うららかな春の午後も、よく刈り込まれた芝生もここにはなかった。しかしこの荒涼とした自然は、春の午さがりの芝生よりも、もっと私の心に媚び、私の存在に親密なものであった。ここで私は自足していた。私は何ものにも脅やかされていなかった。	现在，我正向着波涛，迎着强劲的北风，这里既没有小阳春的下午，也没有平剪一新的草坪。然而这荒凉的大自然，要比春天过午的草坪更合我的心，更是与我的存在相亲相近的。我在这里感到自足。再不受任何压迫。
1171	突然私にうかんで来た想念は、柏木が言うように、残虐な想念だったと云おうか？　とまれこの想念は、突如として私の裡に生れ、先程からひらめいていた意味を啓示し、あかあかと私の内部を照らし出した。まだ私はそれを深く考えてもみず、光りに搏たれたように、その想念に搏たれているにすぎなかった。しかし今までついぞ思いもしなかったこの考えは、生れると同時に、忽ち力を増し、巨きさを増した。むしろ私がそれに包まれた。その想念とは、こうであった。	我那突然间产生的念头，是否如柏木所说，是一种残虐的念头呢？不管怎么说，这种念头从我的心底突然产生，向我启示先前曾闪现过的那个意义，把我的内部照得通亮。但我还没有更深地思考过它，我只不过是象被光线一时缚住一样，被那个念头缚住了。然而这个曾经有过的想法，一经产生，便立刻力量大增，分量大增了。确切地说，是我已被它包围了。而包围了我的这个念头就是：
1186	///人間のようにモータルなものは根絶することができないのだ。そして金閣のように不滅なものは消滅させることができるのだ。どうして人はそこに気がつかぬのだろう。私の独創性は疑うべくもなかった。明治三十年代に国宝に指定された金閣を私が焼けば、それは純粋な破壊、とりかえしのつかない破滅であり、人間の作った美の総量の目方を確実に減らすことになるのである。	///人这种易灭之物是根绝不了的。金阁那样不灭的东西反倒终归要被消灭。为何人们没有注意到这一点呢？这无疑是我孤家寡人的创见了。金阁自明治３０年始定为国宝。我这后生小子铤而走险，想毁掉金阁，实属破坏！是无法挽救的破坏！确实把人类所创造的美的总量给全部消灭了。
1188	そうだ。たしかにわれわれの生存は、一定のあいだ持続した時間の凝固物に囲まれて保たれていた。たとえば、ただ家事の便に指物師が作った小抽斗も、時を経るにつれ時間がその物の形態を凌駕して、数十年数百年のちには、逆に時間が凝固してその形態をとったかのようになるのである。一定の小さな空間が、はじめは物体によって占められていたのが、凝結した時間によって占められるようになる。それは或る種の霊への化身だ。中世のお伽草子の一つ「付喪神記」の冒頭にはこう書いてある。	是的！我们的生命是在一定时间里、受凝固的物体包围而保持延续的。比如就连为家庭使用方便而请木匠做的小抽匣，随着星移斗转，时间也会凌驾于它的物之形态之上，数十年数百年之后，时间反会凝固，取得其本来形态。一定的小空间，起初由物体占有的，最后将被凝结的时间占有。它是某种灵向的化身。中世的《御伽草子》之一《付丧神记》中开宗明义地这样说道：
1193	三日にわたる由良館の逗留が打切られたのは、その間一歩も宿から出ない私の素振を怪しんで、内儀が連れてきた警官のおかげであった。	三天过后，我在由良旅馆的生活被打断了。原因是掌柜的见我整日闭门不出，行迹可疑，便唤来了警察。
1196	『金閣が焼けたら……、金閣が焼けたら、こいつらの世界は変貌し、生活の金科玉条はくつがえされ、列車時刻表は混乱し、こいつらの法律は無効になるだろう』	“要是把金阁烧掉……要是把金阁烧掉……这鬼世界就变了相。生活的金科玉律就会七颠八倒。火车时间也乱了套。这些鬼法律也就全部失效了。”
1202	午後八時十分前に京都に着いた私は、私服に送られて鹿苑寺の総門の前まで来た。肌寒い夜であった。松林の黒い幹のつらなりを出て、総門	下午７点■■分抵京都。便衣警察送我到鹿苑寺门外。寒夜凉气砭肤。我从一株株松树黑干中走到威猛的山门，忽然看见母亲正站

	の頑なな形が迫って来たとき、そこに立っている母を私は見た。	在门旁。
1203	母の髪はそれほど白くはないのに、燈火が映えてそう見えたのである。その髪に囲まれた小さな顔は動かなかった。	门灯下她那蓬乱的白发仿佛一根根倒竖起来。实际上她还不到全白的年纪，只是灯光晃的。那张小脸蜷缩在乱发中一动不动。
1209	――けたたましい、絞め殺されるような嗚咽が起った。と思う間に、その手が私の頬に伸びて、力なく搏った。	――不料她竟像遭到绞杀似地，见到我大放悲声了。突然她喊叫着把手伸到我面前，无力地抽打我。
1211	私が打擲されるのを私服は黙って見ていた。打つ指先が乱れて、指の力が喪われているので、かえって爪先が霰のように頬に当った。打ちながらも母の表情が哀願を忘れていないのを見て、私は目をそむけた。ややあって、母の語調は変った。	便衣干瞅着我被打。母亲打一阵没气力了，再打也不痛了，只有指尖像雪粒儿打在脸上。打是打，表情却是在哀求。我把脚转过去，稍许便不再打了。语气也变了：
1222	冬が来た。決心はいよいよ堅固になった。計画はのばしのばしにされたが、それを徐々に引きのばしてゆくことに飽きなかった。	冬天来到，决心更加坚定。计划虽一拖再拖，却并不感到厌倦。
1223	それから半年のあいだ、私が悩まされたのはむしろ別の事柄である。月末毎に柏木が金の返済を迫り、利子を加えた額を私に通達して、何やかと口汚なく責め立てた。しかし私はもはや金を返す気持がなかった。柏木に会わぬためには学校を休めばよかった。	后来又半年过去。我的烦恼都在别的事情上。柏木每到月底都要来逼债，通知我连本带利欠他的钱数。并且总是骂骂咧咧。说真话我已没心还债了。为了不再看见他，最好是休学出走。
1227	あんなに唐突に生れた想念であったとはいえ、金閣を焼くという考えは、仕立卸しの洋服か何ぞのように、つくづくぴったりと私の身についた。生れたときから、私はそれを志していたかのようだった。少くとも父に伴われてはじめて金閣を見た日から、この考えは私の身内に育ち、開花を待っていたかのようだった。金閣が少年の目に世の常ならず美しく見えたというそのことに、やがて私が放火者になるもろもろの理由が備わっていた。	如果说当初的想法是荒唐的，那么现在烧金阁的念头已经象一件合体的衣服一样，附着在我身上了。似乎我从生下来那天起就下了这个决心。至少可以说是从父亲伴我初见金阁的那天起，这个念头就在我的体内滋生、开花。就连少年时感到金阁那无以伦比的美，也可说是为我成为纵火犯而做的准备。
1233	何故私がその学生を、放火へむかって一歩一歩進んでゆくところだと感じたのかわからない。ただ端的に彼は放火者に見えた。放火にもっとも困難な白昼を敢て選んで、彼は自分の固く志した行為へゆっくりと歩を運んでいた。彼のゆくてには火と破壊があり、彼の背後には見捨てられた秩序があった。その制服のいくらか厳つい背中から、私はそう感じた。若い放火者の背中はそうあるべきだと、かねて私は思い描いていたのかもしれない。日の当った黒サージのその背中は、不吉な険しいものでいっぱいになっていた。	我说不出为什么，总觉得那学生正一步步走向纵火。敢于选定大白天放火，正说明他坚定的意志在驱迫他行动。我从他那僵硬的后背看出，他的目的是纵火破坏。在他的身后是被他抛弃了的秩序。在我的想象中，年轻的放火犯的脊背可能大都如此。阳光照到黑哔叽制服的脊梁上，显得又不吉利又可怕。
1234	私は歩みを緩め、学生をつけようと考えた。そうして歩くうちに、少し左肩の落ちた彼のうしろ姿が、私自身のうしろ姿であるように思われてきた。彼は私よりはるかに美しかったが、同じ孤独と、同じ不幸と、同じ美の妄念から、同じ行為へ促されたに相違なかった。いつかしら、彼をつけながら、私は私自身の行為を前以て見届けるような心地になっていた。	我放慢脚步紧跟。走着走着，我从他左肩略低的背影看，觉得非常象我的背影。虽然他长得比我漂亮得多，可是同样的孤独，同样的不幸，以及对美抱有的同样执迷，促成了我们同样的行动。不知跟踪了多远，我好象看到自己的行动已事先反映到这学生的身上了。
1236	バスはいつまでも来ず、路上の人影も絶えた。正法山妙心寺の巨大な南門が迫ってきた。左右に大きく扉をひらいた門は、あらゆる現象を呑み込	汽车还是没来。路上行人已经绝迹。眼看来到正法山妙心寺，高大的南门就在前面。左右两扇门板大开着，似乎把所有的景象都

	んでしまっているように見えた。それは、ここから見ると、その壮大な枠の中に、勅使門や山門の柱の重複するさま、仏殿の甍、多くの松、それに加えて鮮やかに切りとられた青空の一部や、ほのかな雲の幾片までも併呑していた。門に近づくにつれ、ひろい寺内を縦横に走る甃やら、多くの塔頭の塀やら、限りもないものがこれに加わった。そしてひとたび門をくぐれば、神秘な門はその門内に蒼穹の全部と、雲の悉くを収めていることがわかるのであった。大伽藍とはそういうものなのだ。	吞摄进去了。老远地站在门外，从大敞四开的门洞向里望，敕使门和山门的顶梁柱重叠在一条线上。佛殿的瓦顶，繁多的松柏以及轮廓明晰的青空，甚至连模糊的云片，此刻也被吞入门内。再向前走几步更见出奇，纵横石级、塔顶、围墙等又为其增添了无数内容。走进大门后你会惊讶地发现，原来这神秘的大门已将无边的苍穹、天下的云雾也都收了进去。所谓的大伽蓝就是指此吧。
1238	それは壮麗な山門で火に包まれるのにふさわしかった。こんなに明るい午後では、火はおそらく見えないだろう。そこでそれは夥しい煙に巻かれ、見えない焔が空を舐めるさまは、蒼空がただ歪んで揺れて見えることだけでそれと知れるだろう。	山门分外壮丽，被火包围真是再合适不过了。下午的阳光格外明亮，放把火也不易被发现。只有当浓烟四起、透明的火舌舔着云彩、苍空被上升的热气流扭曲、摇摇晃晃时，人们才会注意到起火了。
1239	学生が山門に近づいたので、私は覚られぬために山門の東側へまわって窺った。托鉢僧の帰院の時刻であった。東の径から、連鉢の三人の一隊が、草鞋がけで甃を雁行して来る。網代笠はみな手にかけている。坊へかえるまで托鉢の掟のまま、三四尺先をしか見ぬ目づかいで、お互いに私語を交わさず、ものしずかに私の前で右折して去った。	学生走近山门。为了不被他发觉，我绕到山门东侧窥视着。这时化缘僧已陆续归院。此刻就有三个人自成一队，草鞋踏着石板路，雁行而来。手中提着竹笠。按规定，和尚回坊以前便属化缘俗界，眼外只可及三四尺远的前方，不能旁视，交谈在禁。他们静静地走过眼前，又向右转去。
1241	燐寸の火は、一瞬、小さな透明なひらめきをそこに示した。火の色は学生の目にさえ見えなかったと思われるのは、折から午後の日が山門の三方を包み、私のいる側にだけ影を与えていたからだ。火は蓮池のほとりの山門の柱に身を凭せている学生の顔の間近で、ほんの一瞬、火の泡沫のようなものを浮ばせた。そして彼のはげしく打ち振る手に消されてしまった。	火柴擦燃后，一瞬间只见小小的透明火焰在闪耀着，火的颜色恐怕连学生自己也看不清楚。因为此时午后的阳光包围了山门的三面，唯独我藏身之处是一片阴影。火在莲池畔靠在山门柱上的学生眼前一闪，好似光的泡沫一般，随即便被他用力甩动着手熄灭了。
1242	燐寸が消えただけでは、学生は気がすまぬらしかった。礎石の上に捨てた燐寸を、靴の裏で念入りに揉んだ。さて、彼は煙草をたのしげに吹かしながら、残された私の失望をよそに、石橋をわたって勅使門のかたわらをすぎ、のびのびと歩いて、家並の影がやや延びた大路の見える南門を出て行った。……	那学生把火柴弄灭后好象还不放心，又将丢在础石上的火柴梗用鞋底使劲碾了几下，这才悠然地吸着烟，根本不理会我的存在，起身渡过石桥，经过敕使门边，慢吞吞地走出可以隐约见到街道房舍的南门。
1245	こんながらくたな教養のおかげで、彼の小さな火は安全に管理された。彼はおそらく自分が燐寸の管理者であり、社会に対して火の完全な遅滞なき管理者であることを得意がっていた。	幸亏有这样最底层的大众安全地管理着火。他无疑既是自己火柴的管理人，又是社会集团中以毫不失职谨防起火而自鸣得意的好管理员。
1246	洛中洛外の古い寺々が、維新以後めったに焼かれなくなったのは、こういう教養の賜物だった。たまさかの失火はあっても、火は寸断され、細分され、管理されるにいたった。それまでは決してそうではなかった。知恩院は永享三年に炎上し、その後何度となく火を蒙った。南禅寺は明徳四年に本寺の仏殿、法堂、金剛殿、大雲庵などが炎上した。延暦寺は元亀二年に灰燼に帰した。建仁寺は天文二十一年に兵火に罹った。三十三間堂は建長元年に焼亡した。本能寺は天正十年の兵	洛中海外的古刹到明治维新以后很少发生火灾。这正该归功于教育的丰硕成果。即使偶而出现险情，也会被立即切断，分割火场，妥为处理。而在以往的年代，却决非如此。永享３年，知恩寺曾遭火焚，后来也曾多次起火；明德四年，南禅寺院佛殿、法堂、金刚殿、大云庵等都曾被烧；元龙２年，延庆寺化为灰烬；天成２１年，建仁寺毁于兵燹；建长３年，３２向堂烧毁；天正１０年，本能寺毁于兵燹……

	火に焼かれた。……	
1247	そのころ火は火とお互いに親しかった。火はこのように細分され、おとしめられず、いつも火は別の火と手を結び、無数の火を糾合することができた。人間もおそらくそうであった。火はどこにいても別の火を呼ぶことができ、その声はすぐに届いた。寺々の炎上が失火や類火や兵火によるものばかりで、放火の記録が残されていないのも、たとえ私のような男が古い或る時代にいたとしても、彼はただ息をひそめ身を隠して待っていればよかったからなのだ。	那时火与火之间，关系是多么亲密呵。根本不象现在、被分管得死死的，也不象现在这样被人小觑。它们经常手拉着手。无数的火可以纠结起来。人大概也是如此。火在任何地方都可互相呼唤，招之即来。那时各寺院破毁，大都是因为火——失火，别处延烧过来的火以及兵燹。放心之事则根本不见有明文记载。如果我生于那个时代，只需隐身屏息地等待就行了。
1248	///寺々はいつの日か必ず焼けた。火は豊富で、放恣であった。待ってさえいれば、隙をうかがっていた火が必ず蜂起して、火と火は手を携え、仕遂げるべきことを仕遂げた。金閣は実に稀な偶然によって、火を免れたにすぎなかった。火は自然に起り、滅亡と否定は常態であり、建てられた伽藍は必ず焼かれ、仏教的原理と法則は厳密に地上を支配していた。たとえ放火であっても、それはあまりにも自然に火の諸力に訴えたので、歴史家は誰もそれを放火だとは思わなかったのであろう。	///各寺总有一天要化为灰烬。火是丰富的、也是放纵不羁的，只要肯等机会，火会风起云涌。火与火可以携手来，完成它们的神圣使命。火又是自发的，消灭和否定是它的常态。新建的大佛寺必有灰化的那一天。佛教的生灭原理和法则严密地统治着人世。即使有放火而隐姓埋名者也不甚了了，崇信是有天然，非人力所欲为。所以历史学家很明智，都不别搜依据整理另立放火一章。
1249	そのころ地上は不安だった。昭和二十五年の今も地上の不安はそれに劣るものではなかった。かつて寺々が不安によって焼かれたのだとしたら、どうして今金閣が焼かれないでよい筈があろうか？	当时大地上是不安定的，直到昭和２５年的今天，情形也决不亚于当年。既然各寺院都曾被不安带来的火所袭扰，那金阁又有什么理由不被付之一炬呢？
1260	私は黙っていた。世界の破局を前にして借金を返す義務があるだろうか？　私はそれをほんの少し柏木に暗示しようかという誘惑にかられたが、思い止まった。	我没言语，我的全部世界都已经面临崩溃了，哪还顾得还上你的债呀。我很想把这一点跟柏木暗示一下。话到嘴边又咽下去了。
1273	私は俄かに不安にかられた。そして昼間は小学校の教師を勤めている、この近眼鏡をかけた男が、去ろうとするのを、引止めて招じ入れた。大書院の対話をあれこれと想像しながら一人でいるのに耐えなかったからである。	听到这话，我忽然感到不安起来。正当这个白天兼任小学老师，戴着近视眼镜的师弟要走开时，我慌忙把他拉住。因为一想到柏木在正同老师在大书院说着话，我一个人实在忍受不了。
1277	老師の机には私の拇印を捺した証文がひろげられ、老師はその紙の一方をもたげて、廊下に膝を突いている私に示した。部屋へ上る許しはなかった。	老师的办公桌上，端端正正地放着我按过手印的文书。老师用手提起文书的一角，抖给跪坐在走廊的我看，却没叫我进屋。
1280	「困ったことをしてくれたな。今後こういうことがあったら、もう寺には置かれんから、そのつもりでいなさい。他にも数々……」言いかけて老師はおそらく柏木を憚って口をつぐんだ。「金は儂から返しておくから、もう退ってよろしい」	“你怎么尽给我找麻烦。往后若是再发生这类事，寺里定然不留你了。你心里也要有个底。此外还有点别的事……”+++ 说到这儿，老师忽然顿住了，没往下说，我想可能是为回避柏木不愿当他面讲。+++ “欠的钱已由我替你还了，你可以回去了……”
1282	自室にかえった私は、はげしい雨音の中で、孤独の中で俄かに解き放たれた。徒弟はすでにいなかった。	回到屋里，雨下得更大了。在孤独中，我忽然产生了一种解放感。小师弟早已走掉了。
1283	「もう寺には置かれんから」と老師は言った。私は老師の口からはじめてその言葉を聴き、いわば老師の言質をとったのである。突然事態は明瞭になった。私の放逐がすでに老師の念頭にあるのであった。決行を急がなければならぬ。	“寺里定然不留你。”我还是头一次从老师嘴里听到这种话。现在我才醒过味儿来，突然一切都明确化了，老师其实早已有赶我出寺的念头，我必须赶快行动了。

1284	もし柏木が今夜のような行動に出ていなかったら、私が老師の口からその言葉をきく機会もなく、決行はさらに引延ばされたかもしれないのだ。私に踏切る力を与えてくれたのは柏木だと思うと、奇妙な感謝が彼に対して湧いた。	这也多亏了柏木。今晚如若他不采取这种行动，我也没机会听到老师亲口说这种话。我的行动就会大大推迟。柏木使我在犹豫不决的关头变得果断起来。我心里不禁对柏木怀着一种奇妙的感谢。
1285	雨は衰えるけしきもなかった。六月というのに肌寒く、板戸に囲まれた五畳の納戸は、暗い電燈の下に荒涼としてみえた。これが私の、やがて追い出されるかもしれぬ住家である。飾りとては何もなく、変色した畳の黒い縁は破れたまま、よじれて、固い糸を露わにしたりしていた。暗い部屋に入って電燈をつけるとき、私の足の指はよくそれに引っかかったが、繕うことはしなかった。私の生活の熱意は畳などと関わりはない。	雨仍不见小，6 月里竟浑身发冷。板壁五叠房间，在昏暗的灯光下显得格外凄凉。这小屋也不再留我了，没半点装饰的铺席已变色，黑黑的席边也都破了。七扭八歪连硬条也毕露无遗了。摸黑进屋开灯时，我不知多少次被它刮破了脚趾，但却从来没想到缝补一下，我生活的热情和这破铺席根本不相关。
1291	「まあ怨むなよ。こんな手に出ざるをえなくしたのも、結局君の自業自得なんだから。それはそうと」と彼はポケットから、鹿苑寺と印刷した封筒を出して、札をかぞえた。札は今年の正月から発行されている真新らしい千円札が三枚だけだった。私が言った。	“算了吧，别再恨我。我也是迫不得已才采取了这种手段。也是你自作自受，这事咱俩就算过去！”+++ 说着他伸手掏兜，拿出一个鹿苑寺的专用信封，响亮地抖了一下钞票。我认得那正是今年正月刚发行的崭新千元大票。共计三张。我说：
1299	その言葉は私の口辺から消えぬ親愛の微笑に向けられたものだとわかったが、私の中に湧き出した感謝の意味を、彼が決して察することはあるまいという確実な予想は、私の微笑をさらに自然にひろげた。世のつねの友情の平面で、私はこんな質問をした。	我知道他这是对我挂在嘴上尚未消失的亲切微笑所做的回报。我知道此番我对他的由衷感激之情，他是决不会察觉出来的。正因为有此把握，我才笑得更自然更舒展了。我又按世故人情问他：
1304	私の机の上に四五通の手紙がほうり出された。差出人の名を見て私が愕いたとき、柏木は事もなげにこう言った。	柏木就势把四五封信扔到桌上，我赶快看一下发信人的姓名，不由大吃一惊。柏木却若无其事地说道：
1307	「まあね。俺流に親しかったのだ。しかしあいつは生前、俺の友達と見られることをひどくいやがっていた。それでいて俺にだけ、打明け話をしていたんだ。死んでもう三年たったから、人に見せてもいいだろう。特に君が親しかったから、君にだけはいつか見せるつもりだった」	“怎么说呢，反正我有我的亲近法。不过，在他生前，我不愿和他做朋友，很讨厌。可是他总是对我说知心话。他去世已经三年了。我想这些信件给人看也不要紧了。特别是你同他关系很要好。一直想有一天交给你看。”
1327	認識は生の耐えがたさがそのまま人間の武器になったものだが、それで以て耐えがたさは少しも軽減されない。それだけだ」	认识虽说可以成为难以忍耐生存的人的武器，不过，生的难以忍耐却不会因为有了认识而减轻丝毫。就是这么回事。”
1332	「そら来た。行為と来たぞ。しかし君の好きな美的なものは、認識に守られて眠りを貪っているものだと思わないかね。いつか話した『南泉斬猫』のあの猫だよ。たとえようもない美しいあの猫だ。両堂の僧が争ったのは、おのおのの認識のうちに猫を護り、育くみ、ぬくぬくと眠らせようと思ったからだ。	“又来了，又是你那套行动。可是你最衷情的那个所谓的美，难道不是在认识的庇护下的贪睡之物吗？就象我们从前曾经说过的《南泉斩猫》中的那只猫。那确是一只无以伦比的美丽的小猫，所以才引起两堂之争。僧侣们为的就是要在各自的认识中守护它、喂养它，要它暖洋洋地睡懒觉。
1333	///趙州の言おうとしたことはこうだ。やはり彼は美が認識に守られて眠るべきものだということを知っていた。しかし個々の認識、おのおのの認識というものはないのだ。認識とは人間の海でもあり、人間の野原でもあり、人間一般の存在の様態なのだ。彼はそれを言おうとしたんだと俺は思う。君は今や南泉を気取るのかね。……美的なもの、君の好きな美的なもの、それは人間精神の中で認識に委託された残りの部分、剰余の部分	///他暗示的也同样是美应当在认识的庇护下安眠在认识的怀抱中。不过，所谓的各自的认识、独特的认识云云是不存在的。认识就是人的海洋或荒野，是人的最一般的存在方式。依我看，我就是赵州的用意所在。你现在倾向的可能是南泉了？……美的事物，你所衷爱的美的事物，说起来只不过是人的精神活动中，托给认识的那些东西的剩余物，或是这些剩余物的幻影，

	の幻影なんだ。	
1344	その日私は炊事の当番であった。薬石のあと、典座で皿小鉢を濯ぎながら、すでに静かになった食堂のほうを何気なく見た。典座との境に立つ煤で黒光りのする柱には、あらかた変色したお札が貼られている。	这一天是我炊事值日。晚斋后，我在厨房一边洗刷杯盘碟碗，一边漫不经心地察看已经静悄悄的食堂。食堂与厨房之间，有一根被煤烟薰得油光湛亮的黑柱子，那上面贴着一副褪色的告示。上写：
1346	私の生きる意志がすべて火に懸っていたのであれば、肉慾もそれに向うのが自然ではなかろうか？　そして私のその欲望が、火のなよやかな姿態を形づくり、焔は黒光りのする柱を透かして、私に見られていることを意識して、やさしく身づくろいをするように思われた。その手、その肢、その胸はかよわかった。	如果说我生活的意志一切都是与火相关，那么，肉欲也随之而上升难道不是很自然的吗？而且我的那种欲望在火的纤弱媚态下已经显形，火苗已意识到，穿透黑亮的柱子，便可以给我看到它妩媚的身影。故而正在那忸怩作态。那手、那肢体、那胸都是如此柔美。
1347	六月十八日の晩、私は金を懐ろにして、寺を忍び出て、通例五番町と呼ばれる北新地へ行った。そこが安くて、寺の小僧などにも親切にしてくれるということは聞き知っていた。五番町は鹿苑寺から、歩いても三四十分の距離である。	６月１８日晚，我把钱揣在怀里，蹑手蹑脚地走出寺院，向北新地走去，这儿通常称为五号街。听说那儿的东西便宜，对寺院小和尚招待得也很热情。五号街距离鹿苑寺步行也只有三四十分钟的路程。
1350	あのたびたびの挫折、女と私の間を金閣が遮りに来たあの挫折は、今度はもう怖れなくていい。私は何も夢みてはいず、女によって人生に参与しようなどと思ってはいないからだ。私の生はその彼方に確乎と定められ、それまでの私の行為は陰惨な手続にすぎないからだ。	那一次又一次的挫折，是金阁把女人和我隔离开来。这挫折我再也不怕了。因为我已没有任何梦想，也不再要借重女人参与人生。我给生命的定向似乎定在遥远的彼方，到达彼岸以前的行为只不过是履行阴惨的手续。
1352	『商売女は客を愛して客をとるわけではない。老人でも、乞食でも、目っかちでも、美男でも、知らなければ癩者でも客にとるだろう。並の人間なら、こういう平等性に安心して、最初の女を買うだろう。しかし俺にはこの平等性が気に喰わなかった。五体の調った男とこの俺とが、同じ資格で迎えられるということが我慢がならず、それは俺にとっては怖ろしい自己冒涜に思われた』	“妓女决没有对客人挑挑拣拣的道理，无论是老头、还是乞丐，无论是独眼龙、还是美少年，只要事前不知，即使是条癞皮狗也不能推辞。而一般人又总以为平等时才开始狎妓，但我对这种平等不屑一顾。在我看来，把五体周正的男子和我这样的人同等相待，实在不能接受，这是最可怕的自甘亵渎。”
1359	寺を出るときからこの一角に、私は有為子がなお生きていて、隠れ棲んでいるという空想にとらわれていた。空想は私を力づけた。	从寺院走出直到来在这街头的一角，我心里一直没能摆脱空想的纠缠。总以为有为子还活在人世，并隐留在这里。空想使自己增加了力量。
1362	きのう掃除のあいだに、人差指が箒の籪に傷つけられたとき、こんな些細な傷さえ不安の種子になった。薔薇の棘に指先を傷つけられたのが死の因になった詩人のことが思い浮んだ。そこらの凡庸な人間はそんなことでは死なない。	昨天大扫除时食指被帚把刺破了受了点轻伤。就连这也使我过于敏感而心里不安。我想起了有位诗人因蔷薇刺伤手指而死。这些庸碌之辈不会因为刺破手指便死。
1363	五番町へ行くにつけても、私が衛生上の注意を怠らなかったのは云うまでもない。前日から、顔を知られていない遠い薬屋まで行って、私はゴム製品を買っておいた。粉っぽいその膜はいかにも無気力な不健康な色をしていた。昨夜私はそのひとつを試してみた。茜いろのクレパスで戯れに描いた仏画や、京都観光協会のカレンダーや、丁度仏頂尊勝陀羅尼のところがあけられている経文の禅林日課や、汚れた靴下や、笹くれ立った畳や、……こうしたものの只中に、私のものは、滑らかな灰いろの、目も鼻もない不吉な仏像のように立っていた。その不快な姿が、今は語り伝えにだけ残っているあの羅切という兇暴な行為を私	到五号街去当然要考虑卫生条件。从前一天起，我就去较远处不认识我的那家药店买好了胶套。这种胶膜浑身是粉，软绵绵的，一副病恹恹的颜色。昨晚我试了一下，当着茜草颜色的腊笔涂画的佛像、京都观光协会的日历、翻到尊胜陀罗尼佛顶处的经文禅林日课，以及脏袜子乱铺席等的面，我的那个黑不溜秋滑不叽叽的东西一下子挺立起来。好象一尊没鼻子没眼的佛像。那难看的样子不禁令我想到至今只在口头中留传的凶暴行为——罗切。

	に思い起させた。	
1366	百数十軒の家はことごとく同じ造作だった。ここでは総元締の親分をたよれば、お尋ね者も容易にかくまわれると云われていた。親分がベルを鳴らすと、遊廓じゅうの一軒々々にひびき渡り、お尋ね者に危険を知らせるのだそうである。	百十幢房舍清一色的建筑造型。听说来到这里，只要依靠总头目遇有盘查也很容易隐藏。只要他一按电闸，整个花柳港的每一幢房子里都会响铃，把险情通知给被查的那位爷儿们。
1368	私には快楽の観念は少しもなかった。何かの秩序から見離されて、一人だけ列を離れて、疲れた足を引きずって、荒涼とした地方を歩いて行くような気がした。欲望は私のなかで、不機嫌な背中を見せて、膝を抱いてうずくまっていた。	我说不上有什么快乐的观念，只是觉得自己好象从某种秩序里掉了队，独自一人走失了，拖着疲惫的双腿踟躇在这荒野上。这时心中的欲望也不高兴地背过脸去，抱着双膝蹲了下来。
1371	まだ出盛る時刻ではないのか、その町にはふしぎに人通りが少なかった。私の下駄の音はあらわにひびいた。遣手たちの呼びかける単調な声音が、梅雨時の低く垂れた湿った空気の中を這いずりまわるように聴かれた。私の足の指は、ゆるんだ鼻緒をしっかと挟んでいた。そしてこう思った。終戦後、不動山の頂きから眺めた夥しい灯の中には、確実にこの町の灯も在ったのだと。	也许还不到嫖客盈门的时候，这条街上来往行人奇怪的少，只有我脚下的木屐响得脆亮。鸨儿们单调地拉客声在梅雨期低湿的空气中听上去好象爬过来似的。我的脚趾使劲地夹住木屐松拖的带子，心想，战争刚结束时，我在不动山上看到的万家灯火，肯定也包括这条街的。
1372	私の足がみちびかれてゆくところに、有為子はいる筈だった。とある四つ辻の角店に、「大滝」という家があった。やみくもに私はそこの暖簾をくぐった。	我想，我的两脚走向的去处，有为子肯定也在那里。我在十字路口拐角的一家写有“大泷”字号的店铺前驻足观望。我不再选择地揭开门帘直往里走，钻进只有六个铺席的一间瓮砖镶地的小屋里来。
1373	足を掻いていた女が、呼ばれた犬のように顔をあげた。その丸い、すこし腫れたような顔は、童画風の鮮やかさで、白粉と紅に隈取られていたが、私を見上げた目つきには、奇妙な言い方だが、実に善意があった。	不断挠脚的女人象听到唤叫的狗一样仰起脸来，她那圆圆的稍有些虚肿的脸，儿童画般鲜艳，扑满了白粉；涂着口红。但是她仰头看我的神情，说也真奇怪，实在充满着善意。
1387	遣手は笑い声のするほうへ頑なに四角い背を向けていた。私の通されたその小座敷は、殺風景な三畳の間で、水屋のようなところを床の間代りに、布袋と招き猫が散漫に置いてある。壁には細かい箇条書を貼り、カレンダーが掛けてある。三、四十燭の暗い灯が下っている。	鸨儿把她那冥顽的四方背冲向歌声飘来的方向。我被带入的小房间真够煞风景。只有三个铺席的回转天地，在厨房一般杂乱的壁龛处散乱地堆放着布袋和迎宾猫，墙上贴有明细的住局须知，挂着挂历。只有一个三四十烛光的暗灯悬吊着。
1390	私が生れてはじめての登楼に、そんなに仔細な観察を働らかしたのを訝ってはならない。自分の見える限りのものから、私は快楽の証拠を探し出そうとしていた。すべてが銅版画のように精密に眺められ、しかも精密なまま、それらは私から一定の距離のところに平らに貼りついていた。	我有生以来第一次上青楼，所以对女人看得过于细，也请别见怪。我是想从自己能够见到的东西寻找快乐的依据，一切都象铜版画一样，一丝不苟、精密地在距我不远处平平地贴在那里。
1397	そう言われてから、私は猪口をもつ自分の手が慄えているのに気づいた。	经她这一说，我发觉自己捏着小酒壶的手确实在微微颤抖着。
1407	私は全く普遍的な単位の、一人の男として扱われていた。誰も私をそんな風に扱えるとは想像していなかった。私からは吃りが脱ぎ去られ、醜さや貧しさが脱ぎ去られ、かくて脱衣のあとにも、数限りない脱衣が重ねられた。私はたしかに快感に到達していたが、その快感を味わっているのが私だとは信じられなかった。遠いところで、私を疎外している感覚が湧き立ち、やがて崩折れた。……私は忽ち身を離して、額を枕にあてがい、冷えて痺れた頭の一部を、拳で軽く叩いた。それから、あらゆるものから置き去りにさ	///我必定享受到完全是被作为普遍的单位，作为一个男人受到接待。谁都想不到我能得到这样的待遇。在这里，口吃从我身上脱去。丑陋与贫穷从我身上脱去。脱去一身衣服之后引起我精神上的无数次脱衣。我确实体验到了快感，但是我却不能相信领略这份快感的是我。只觉得在很远很远的地方，我已身不由己，恍恍惚惚，不久便从高处跌落下来……我猛然滑开身体把头贴在枕上，用拳头轻轻地敲打自己冰凉麻木的脑袋。虽然我感到一切都从身边消逝，但还不致于落泪。

	れたような感じに襲われたが、それも涙の出るほどではなかった。	
1412	まり子はそう言って身をもたげ、小動物をあやすように、自分の乳房をじっと見て軽く揺った。私はその肉のたゆたいから、舞鶴湾の夕日を思い出した。夕日のうつろいやすさと肉のうつろいやすさが、私の心の中で結合したのだと思われる。そしてこの目前の肉も夕日のように、やがて幾重の夕雲に包まれ、夜の墓穴深く横たわるという想像が、私に安堵を与えた。	她将半个身子抬起，象哄小动物似地瞪着眼瞅自己的乳房，并且轻轻地摆动着。这使我想起了舞鹤湾的夕阳了。此时此刻我想正是我摇摇欲坠的夕阳和乳房颤动的美肉，在我心中幽会了。而且眼前的肉体也和夕阳一样，不久的便将会被满天晚霞包围着，躺到夜暮的深穴中，这样想时我才安心。
1414	人生でいずれ私が味わうことになるあらゆる体験は、もっとも輝やかしい形で、あらかじめ体験されているという感じを、私は拭うことができない。こうした肉の行為にしても、私は思い出せぬ時と場所で、（多分有為子と）、もっと烈しい、もっと身のしびれる官能の悦びをすでに味わっているような気がする。それがあらゆる快さの泉をなしていて、現実の快さは、そこから一掬の水を頒けてもらうにすぎないのである。	我在现实生活中的行为与人不同，我有一种非忠实地模仿自己想象不可的倾向。说想象还不贴切，换句话应当说我一切行动都源于记忆。我总想以最辉煌的形式重复先前我们所有的体验，这次鱼水之欢也不例外。只可说记不起具体哪一次和在什么地方（多半是和有为子）我觉得我曾体验过比这次更强烈的、简直使我瘫软的快感。它形成了我一切快感的源泉。现实的快感只不过是源泉中分下的一杯水罢了。
1420	遣手がそう言うと、+++「でも、毎日来て、和尚さんに叱られない？」とまり子は言い、見破られた私のおどろいた顔つきを見てこう言った。「そりゃあわかるわ。今はリーゼントばかりで、五分刈やったら、お寺さんに決ってるもの。家なんか、今は偉い坊さんになってる方が、若いときは大抵見えてるんだって。……さあさ、歌でもうたいましょう」	不等鸨儿说完鞠子便问到：+++“你天天来，老方丈就不说你吗？”+++ 她仿佛看出我的神色有些不安，又说：+++“你要知道，现在一般都梳背头，人家一看你这秃脑瓜，就知道准是个和尚。你们那儿一些现在很有名气的和尚，年轻时也经常上这儿来。……哎，我们唱支歌吧。”
1430	言い了ると、私は激しく動悸していた。しかしまり子は笑い出した。乳房をゆすって笑い、私をちらちら見ながら、袂を噛んで笑いをこらえるが、又新たな笑いに小突きまわされて、体じゅうが慄えた。何がそんなに可笑しいのか、まり子にも説明できなかったにちがいない。それに気がついて、女は笑い止んだ。	说完这话我心房颤动不已，鞠子却笑出了声，她摇晃着乳房笑着。她不时冷眼看我，咬着袖口想忍住笑，但终于还是笑出声来，笑得浑身乱颤。究竟有什么好笑的，也许连她自己也说不清楚。当发现我在注视她时，她才勉强忍住不笑了。
1434	「もう止して。ああ、おかしい。笑い殺されちゃう。嘘ばっかり言ってさ、まじめな顔をして」	“好了，好了，不说了，哎呀，可笑！笑死人呢！看你那副老实相，没想到竟这么能吹牛……”
1439	と言うだけで、追うでもなかった。乳房にとまるとき、蠅はいかにも乳房に密着していた。おどろかされたことには、まり子にはこの愛撫が満更でもないらしかった。	她只是说说并不哄赶。苍蝇停在乳房上，好象同乳房粘在一起。吃惊的是鞠子对这种爱抚好象还挺喜欢。
1440	軒庇に雨音がした。それはそこだけに降っているような雨音だった。雨がひろがりを失って、この町の一隅に迷い込んで、立ちすくんでいると云った風である。その音は、私の居る場所のように、広大な夜から切り離された、枕行燈の仄明りの下だけのような、局限された世界の雨音であった。	屋檐下有雨水滴落声。好象只在屋檐下有雨，雨也不由自主地失去了广度，孤困在这街头的一角，并慌得不敢下大了。雨声也正象我住进的这所小楼，已经脱离了外界广大的夜晚。成了枕边座灯下那有限的微明一般，被锁在小天地里了。
1441	蠅は腐敗を好むなら、まり子には腐敗がはじまっているのか？　何も信じないということは腐敗なのか？　まり子が自分だけの絶対の世界に住んでいるということは、蠅に見舞われることなのか？　私にはそれがわからなかった。	如果说苍蝇嗜腐，那鞠子已经腐烂了么？什么都不相信，就是腐败么？苍蝇是因鞠子总是封闭在只有自己的世界中，才来光顾的么？我委实不懂。

1442	しかし突然、死のような仮睡に落ちた女の、枕もとの明りに丸く照らされた乳房の明るみの上では、蠅も亦、急に眠りに落ちたかのように動かなかった。	但是突然苍蝇也象打盹打得很香的鞠子一样，落在一盏清灯孤光圆照的鞠子乳房上，一动不动，好象睡着了。
1451	私は箒を携えて金閣寺垣に囲まれた石段をのぼり、夕佳亭のかたわらに出た。木々は昨夜までの雨に濡れていた。灌木の葉末のおびただしい露には、朝焼けの名残が映って、時ならぬ淡紅の実が生ったかのようである。露をつないだ蜘蛛の巣もほのかに紅みがさしてわなないている。	我肩扛扫帚从金阁寺墙外拾级而上。到夕佳亭边之后才看到一场夜雨把树木的叶片打湿得水葱似的，朝霞映到灌木叶片的露珠上，处处红点点，就象红的果实，连蜘蛛巢网上的露珠也微微透出红润的光泽。
1458	はじめ私の思ったのは、老師が何か急激な病気に襲われ、発作に耐えているのだろうということであった。私はすぐ立寄って介抱に当ればよかった。	起初我以为他是生了急病，又正是发作时刻只好忍耐，既然首先发现，我上前扶一把就好了。
1459	しかし私を引止める別の力があった。どんな意味ででも私は老師を愛していず、明日にも放火の決心を固めているのだから、そんな介抱は偽善であり、又もし介抱して、その結果和尚に感謝や情愛を示されたら、それが私の心弱りになるという危惧があった。	但是迫于种种压力的驱使，我没有上前护理。因为无论从哪方面讲我都不爱老师。明天便该放火，现在去献殷勤，岂不是伪善。如果勉强前去扶一把，和尚对我感恩戴德起来，反倒让我作难，我怕我的心会因此而变软了。
1462	耳が馴れるにしたがって、老師がごく低く呟いている経文らしいものが聴かれたが、何の経文かわからない。私たちの知らぬ暗い精神生活が老師にはあって、それと比べたら、私が懸命に試みて来た小さな悪や罪や怠慢は、とるに足らぬものだという考えが、突然私の矜りを傷つけるために現われた。	再一细听，老师似乎在低声念着经文。念的什么经听不真切。老师具有我们所没有的阴暗的精神生活，与此相比，我拼命试行的一些小恶与怠慢无礼又算得了什么呢？我突然感到自尊心被严重地刺伤。
1463	そうだ。そのとき私は気づいたのだが、老師のそのうずくまった姿は、僧堂入衆の歎願を拒まれた行脚僧が、玄関先で終日自分の荷物の上に頭を垂れて過ごすあの庭詰の姿勢に似ていた。もし老師ほどの高僧が、新来の旅僧のこのような修行の形を真似ているなら、その謙虚さはおどろくべきものがあった	是的，此时我感到，老师蹲在那里的姿势与那些被拒之僧堂外的、终日睡在大门外自己的行囊之上的游方僧相比是何等的相似。象老师这样的高僧，如果也去模仿新来的旅僧那般修行模样，其谦虚程度可能令人惊讶。
1465	何やかと心迷いながら、その老師の姿を見ているうちに、危うく私が感動に襲われかけていたのは事実だった。力の限り否定しながら、私が老師をまさに愛慕しようとしているその境目のところにいたことは疑いがない。	我心乱如麻地望着老师。我几乎感动得要哭了。我无疑正处于在尽力否定老师的同时又非常想爱他的分界线上。
1466	放火の決行に、老師の放逐などをあてにすまいと、私が思い定めたのはこの時である。老師と私は、もうお互いに影響されることのない別の世界の住人になった。私は無礙であった。もはや外の力に期待せずに、自分の思うまま、自分の思うときに決行すればよかった。	我下决心不等老师驱逐立即放火也正是这个时候。老师和我是两个世界里的陌生人。他既构不成威胁，我也就完全可以通行无阻了。不必再期待什么外力协助，我就是自己的主人，想什么时候行动就什么时候行动。
1479	金閣には戦後、最新式の火災自動警報器が取付けられていた。金閣の内部が一定の温度に達すると、警報が鹿苑寺事務室の廊下のところで鳴りひびく仕掛になっている。六月二十九日の晩、この警報器が故障を起した。故障を発見したのは、案内人の老人である。老人が執事寮でその報告をするのを、たまたま庫裏にいて私は聴いた。私は天の励ましの声を聴いたと思った。	金阁早在战后初期即已安装了全新式的火灾自动报警器。只要阁内的温度达一定限度，鸣声便会响彻鹿苑寺办公室整个走廊。６月２９日晚上。导游老人发现报警器出了故障，老人向执事寮汇报时我正在香积厨。偶然有这么个消息，我心想这是老天爷在鼓励我了。
1487	私の内臓は、私のみすぼらしい、しかし決して	我的内脏就象我的一条丑陋却不驯顺的狗。

	馴れない飼犬のように感じられた。私は知っていた。心がどんなに目ざめていようと、胃や腸や、これら鈍感な臓器は、勝手になまぬるい日常性を夢みだすことを。	我简直太熟悉它了。不管我的心灵怎样挣扎，想从酣睡中脱出，这些迟钝的胃肠们都照旧任性地赖在温暖的被窝里继续做自己的梦。
1491	その日の金閣拝観者は百名ほどであったが、六時半には閉鎖されるので、すでに人波は引きぎわであった。老人は電話をかけおわると、案内の仕事はもう終っていたから、庫裏の東側の土間から小さな畑を眺めてぼんやり立っていた。	这一天的游客也只有百十来人。老人每日下午 6 点半准时净园上锁。现在已到人流走尽时候。老人挂完电话以后，导游的任务就算完成了。他站在香积厨东侧的房间里，呆呆地眺望一小块田园。
1493	毎日同じ案内の口上を述べているが、日ましに聴きとりにくくなるようなのは入歯のせいである。が、人にすすめられても、直そうとするでもない。畑を見つめて、何か呟いている。呟いては、又歯を鳴らし、鳴らすのを止めては又呟く。多分警報器の修繕が捗らないのをこぼしているのである。	每天导游时，都要重复一通那些讲过上百遍的话。耳朵发背听不清，也许就跟他讲话太多、假牙响得太频有关。劝他不要上下嗑牙，他从来不听。现在他望着瓜地，又嘟囔上了。一嘟囔牙就打架。牙不打了，嘟囔声又响起来了。多半是在发牢骚，因为报警器修复的进度太慢了。
1497	老師の出先へ電話がかけられた。一時間ほどして老師が帰るだろうと告げられた。禅海和尚は鹿苑寺に一二泊するつもりで上洛したのである。	老师外出，已给他打过电话，他说再过一小时回寺。禅海大和尚此番准备在鹿苑寺住上一两个晚上，然后去京都。
1501	が、禅海和尚は何ものにも囚われない。初対面の私を見るなり、父によく似ている。よく成人した。お父さんが亡くなったのはまことに惜しい。などと、つづけざまに朗らかに言ったのである。	不过，法师到底是沉着老练。他先说我长得如何如何象父亲，接着又说我很有出息，还说我父亲死得实在可惜。朗朗道来，入情入理。
1502	和尚には老師の持たぬ素朴さがあり、父の持たぬ力があった。その顔は日に灼けて、鼻は大々とひらき、濃い眉の肉が隆起して迫っているさまは、大・見の面に象って作られたかのようであった。整った顔立ちではない。内部の力が余って、その力が思うままに発露して、整いを壊してしまっている。突き出た顴骨までが、南画の岩山のように奇峭である。	禅海和尚的素朴风仪为老师所不及，而其刚正不阿的品性则又为家父所不及。他的脸被太阳晒得黑里透红，鼻孔张大，浓眉耸簇，样子酷似“能乐”剧中的花脸。这副相貌算不上端庄，但力感充沛。这种力毫不掩饰地发露出来，便破坏了脸的端庄。就连突出的颧骨都象画中所见的岩崖一般奇峭。
1504	二合ちかく入る大きな白磁の銚子が空になったので、私は一礼して典座へ代りをとりに行った。熱い銚子を捧げて帰って来るとき、私に嘗て知らなかった感情が生れた。一度も人に理解されたいという衝動にはかられなかったのに、この期に及んで、禅海和尚にだけは理解されたいと望んだのである。再び来て酒をすすめる私の目が、先程とちがって、いかにも真率にかがやくのに和尚は気づいた筈だ。	能盛将近两合酒的长把白磁壶已空空如也。我行个礼转身去厨房取另一壶。当我手捧着烫好的酒向座席走时，内心突然萌生出一种从未有过的情感。虽说我并没有冲动到让所有人都知道我内心想法的程度，然而此时，确实希望至少能向法师一人表明心迹。所以再次敬酒时，但觉目光已不似方才。法师可能注意到了我炯炯目光中流露的坦率。
1510	禅海和尚には虚栄心がなかった。高位の僧の陥りがちな弊であるが、人物から書画骨董にいたるまでの万般の鑑識眼を恃まれるので、あとで鑑識の誤まりを嗤われぬように、断定的なことを言うまいとする人がある。もちろん禅僧風の独断を即座に下してみせるが、どちらにも意味のとれるような余地を残しておくのである。禅海和尚はそうではなかった。	禅海大和尚不慕虚荣，虽然在声誉高的方丈身上这是极易出现的通病。一般人总是从交友到鉴赏书画古董，万般皆凭所谓的鉴识眼；所以生怕贻笑大方，从来不肯说句肯定的话。纵然有时也带有禅僧的独断与顿悟，总还是要留有灵活解脱的余地来。
1511	///そして和尚が何より私に偉大に感じられたのは、ものを見、たとえば私を見るのに、和尚の目だけが見る特別のものに頼って異を樹てようとはせず、他人が見るであろうとおりに見ている	///并且，他最令我佩服的不凡之处就是看待事物（比如说看我这个人），决不想标新立异，令人觉得只有他才独具慧眼；而是考虑到象别人通常所见那样去看。对于法师来说，

	ことであった。和尚にとっては単なる主観的世界は意味がなかった。私は和尚の言わんとするところがわかり、徐々に安らぎを覚えた。私が他人に平凡に見える限りにおいて、私は平凡なのであり、どんな異常な行為を敢てしようと、私の平凡さは、箕に漉された米のように残っているのだった。	纯主观的世界毫无意义。我懂得法师想要说的是什么了，别人认为你平庸，那你就是平庸了，即使你干出了惊天动地的大事业，仍不过是庸夫一个。人眼就象筛子，什么都给漏掉了，剩下的只有米。
1513	「人に見られるとおりに生きていればよろしいのでしょうか」	“别人怎么看我，我便怎么做就行了吗？”
1520	和尚はそう言った。私は完全に、残る隈なく理解されたと感じた。私ははじめて空白になった。その空白をめがけて滲み入る水のように、行為の勇気が新鮮に湧き立った。	经他如此一说，我感到自己已真正得到他充分理解了。我开始成了一片空白，新的行动勇气就象空白中渗入水一般从心底涌了出来。
1527	私は幸福に充たされて、一時間も闇の中に坐っていた。生れてから、この時ほど幸福だったことはなかったような気がする。……突然私は闇から立上った。	我充满了幸福感。在暗夜中坐了足有一个小时，自打出生以来我还从没有象今晚这样感到过幸福。……我突然摸黑站了起来。
1528	大書院の裏手へ忍び足で出て、かねて用意していた藁草履をはいて、霧雨のなかを鹿苑寺の裏側の溝ぞいに歩いて、作事場へ向った。作事場には材木はなく、ちらばっている大鋸屑の雨に湿った匂いが立ち迷っていた。そこに藁が買い貯めてある。一時に四十束も買うのである。しかし今夜はすでにあらかた使われたあとの三束が積まれているだけである。	我蹑手蹑脚地向大书院走去，脚上穿的是早已准备好的草鞋。我冒着蒙蒙细雨，沿鹿苑寺后院的沟畔走向行动地点。那里没有木材，只有木屑散堆在地，经雨淋过，发出一股浓郁的木材味。囤积的蒿草也在这里，我曾一下子买了４０多捆，可是今晚上已经只有用剩下的三捆，不能再不动手了。
1530	厠で咳払いがきこえた。副司さんらしかった。やがて尿の放たれる音がしたが、それが際限もなく長い。	厕所里传来吐痰声，听去象是副司务在那里，随后听到放尿声，时间长得没完没了。
1533	運ぶ途中音を立てやすいもの、たとえば蚊帳の吊手とか、焼けないで証拠を残すもの、たとえば、灰皿、コップ、インキ瓶のたぐいは、座蒲団にくるみ、風呂敷に包んで、別にしてあった。右に加えて、敷蒲団一枚と掛蒲団二枚が、焼かれなければならなかった。そしてこれらの大きな荷物を、大書院の裏の出口のところへ、少しずつ運んで重ねた。その上で、金閣の例の北側の板戸を外しに行った。	凡是搬运途中容易发出响动的（象蚊帐、吊环之类）以及烧不掉易留下证据的（诸如烟灰缸、口杯，钢笔大瓶等）都被我夹到座垫里，用包皮裹成一卷，另行处理。两条被子、一条褥子是非烧不可的。当我把这些大家伙一点点运到大书院后门外并一件件码好堆齐后，这才赶到金阁寺北侧去摘那扇门板。
1534	思ったほどの重さではなかった。私は外した板戸をかたわらの土に横たえた。のぞかれる金閣の内部には闇が張りつめていた。	份量也不是想的那么沉重。我把摘下的门板横放在地以后再抬头看金阁，它的内部已被夜色完全吞没了。
1536	そうしている場合ではなかったが、私はケースのなかの金閣にしみじみと見入った。この小さな金閣は、燐寸の月に照らされて、影がゆらめいて、その繊細な木組を不安でいっぱいにして蹲踞うていた。それは忽ち闇に呑まれた。燐寸の火が尽きたのだ。	我向罩里的金阁仔细瞧着，尽管眼下并不是闲观模型的时候。在火柴的“月光”映照下，小金阁的影子摇摇晃晃，飘忽不定。那纤细的木结构中深蕴我一种不安，火柴燃尽后它也旋即被黑暗吞没了。
1539	『義満の目、義満のあの目』と、その扉から戸外へ身を躍らして、大書院裏へ駈け戻るあいだ私は考えつづけた。『すべてはあの目の前で行われる。何も見ることのできない、死んだ証人のあの目の前で……』	“就在义满像前，当着他的面干吧！就当着他的面。”我走出西门纵身向大书院后跑去，心里不住地想。“一切都在他的眼前进行。就在这个已死的什么也看不到的证人面前干吧！……”
1547	このときの私が突然食欲に襲われたのは、あまりにも予想に叶っていて、却って私は裏切られたような感じに襲われた。きのう喰べ残した	这时候，我突然感到饥肠辘辘。正因为早就料想到了，反倒觉得自己受了骗一般。昨天吃剩的面包和点心就在衣袋里，我把湿手

	菓子パンと最中はポケットにあった。私は濡れた手をジャンパーの裾で拭き、貪るように喰べた。味はわからない。	用大衣襟擦了擦，狼吞虎咽地吃起来。食而不知其味。
1554	法水院と潮音洞の同じ広さの二層は、微妙な相違を示しながらも、一つの深い軒庇のかげに守られて、いわば一双のよく似た夢、一対のよく似た快楽の記念のように重なっていた。	虽说一二层的法水院和潮音洞广度相等，但却大同中又有微妙的差异。这两处都深藏在同一个大屋檐的荫庇之下，真个是梦境成双、永志快乐的一对。
1555	///その一つだけでは忘却に紛れそうになるものを、上下からやさしくたしかめ合い、そのために夢は現実になり、快楽は建築になったのだった。しかしそれも、第三層の究竟頂の俄かにすぼまった形が戴かれていることで、一度確かめられた現実は崩壊して、あの暗いきらびやかな時代の、高邁な哲学に統括され、それに服するにいたるのである。そして柿葺の屋根の頂き高く、金銅の鳳凰が無明の長夜に接している。	///仿佛是只有其一，便会为人遗忘似的，所以又从上下找到亲切的照应，由此美的梦境变为现实，快乐变成了具体的建筑。然而毕竟也有局限。到三层究竟顶时，突然以缩影戴冠，使一度准确无误的现实崩颓了。受制于黑暗盛极一时的时代的高迈的哲学的统御，只有屈服于它的灿烂光辉的容光之下。并在齐云的鱼鳞屋顶上竖起一尊金铜凤凰来与无明的长夜作伴了。
1556	漱清はこの建築において、形而上学に反抗している。それは決して池へ長々とさしのべられているのではないのに、金閣の中心からどこまでも遁走してゆくようにみえるのである。漱清はこの建築から飛び翔った鳥のように、今し翼をひろげて、池のおもてへ、あらゆる現世的なものへむかって遁れていた。	他为了打破均衡匀称，似乎赌上了美学上的一切心力。漱清亭在建筑学上可以说是对形而上学的一种反叛。它没有引领远伸池边的姿形，看去倒象是对金阁整体的遁逃。漱清亭酷似建筑上的起飞的鸟。它现在正展开羽翼，向着池水。向今生的一切，显出逃遁的意趣。
1557	///そうだ。金閣の精霊は半ば絶たれた橋にも似たこの漱清からはじまって、三層の楼閣を成して、又再び、この橋からのがれてゆくのである。何故なら、池のおもてにたゆたう莫大な官能の力が、金閣を築く隠れた力の源泉であったのだが、その力が完全に秩序立てられ、美しい三層を成したあとでは、もうそこに住むことに耐えられなくなって、漱清をつたわってふたたび池の上へ、無限の官能のたゆたいの中へ、その故郷へと、遁れ去ってゆくほかはなかったのだ。	///是的！金阁的精灵正从这座好似半断的桥梁的漱清亭开始动其冥冥的化工，建成三层楼阁以后，又经过这座架桥遁影潜踪了，为什么这么说？因为那池水水面摇动着的莫大的官能魅力，正是建造金阁的潜在力量的源泉。这种力量在建成具有完美秩序的三大楼阁之后，再也不堪居于其地了，于是它便沿着漱清亭逃遁，再次投向烟波浩渺的水面，投向无限的官能的摇动，投向温馨的家园故里去了。
1558	そして美は、これら各部の争いや矛盾、あらゆる破調を統括して、なおその上に君臨していた！それは濃紺地の紙本に一字一字を的確に金泥で書きしるした納経のように、無明の長夜に金泥で築かれた建築であったが、美が金閣そのものであるのか、それとも美は金閣を包むこの虚無の夜と等質なものなのかわからなかった。おそらく美はそのどちらでもあった。	而美则把这些局部之间的争斗、矛盾以及一切的不和协都统括了起来并又君临其上。虽说金阁就象写在藏青色纸本上的纳经，是无尽长夜用金泥筑成的，然而，美究竟是什么？它就是金阁本身？还是和涵蕴了金阁的虚无的夜同质？我不得而知。很可能是二者兼具。
1559	///細部でもあり全体でもあり、金閣でもあり金閣を包む夜でもあった。そう思うことで、かつて私を悩ませた金閣の美の不可解は、半ば解けるような気がした。何故ならその細部の美、その柱、その勾欄、その蔀戸、その板唐戸、その華頭窓、その宝形造の屋蓋、……その法水院、その潮音洞、その究竟頂、その漱清、……その池の投影、その小さな島々、その松、その舟泊りにいたるまでの細部の美を点検すれば、美は細部で終り細部で完結することは決してなく、どの一部にも次の美の予兆が含まれていたからだ。	///美既在细部又在整体，它既是金阁又是包围金阁的黑夜。我这样想时，过去使我苦恼不已的金阁美之谜大半都解开了。因为其细部的美，它的华柱、它的曲栏、防雨套窗、折页板窗、华头窗、宝形屋顶，……法水院、潮音洞、究竟顶、漱清亭，……池中投影、小岛、松树、舟泊处等等，若果从细加以检点，可知美决非终止于每一细部，完结于每一细部，而是一种连环关系。这一环必含有下一环的预示。
1560	///細部の美はそれ自体不安に充たされていた。それは完全を夢みながら完結を知らず、次の美、	///细部的美本身极不安定。它虽梦想完美却无从知其底蕴，总是要对下一乘的美、未知

	未知の美へとそそのかされていた。そして予兆は予兆につながり、一つ一つのここには存在しない美の予兆が、いわば金閣の主題をなした。そうした予兆は、虚無の兆だったのである。虚無がこの美の構造だったのだ。そこで美のこれらの細部の未完には、おのずと虚無の予兆が含まれることになり、木割の細い繊細なこの建築は瓔珞が風にふるえるように、虚無の予感に慄えていた。	的美有所示意。因而预示和预示相接，一个个并不在此的美的预示才是金阁的主题。而这些预示也正是虚无的预示。虚无才是这美的结构。从而未竟的美的这些细部，也自不必含有虚无的预示，这一纤细的木制建筑犹如临风的瓔珞珠在虚无的预感中颤栗。
1563	——私は激甚の疲労に襲われた。	——我已过度疲倦了。
1564	幻の金閣は闇の金閣の上にまだありありと見えていた。それは燦めきを納めなかった。水ぎわの法水院の勾欄はいかにも謙虚に退き、その軒には天竺様の挿肘木に支えられた潮音洞の勾欄が、池へむかって夢みがちにその胸をさし出していた。庇は池の反映に明るみ、水のゆらめきはそこに定めなく映って動いた。夕日に映え、月に照らされるときの金閣を、何かふしぎに流動するもの、羽搏くものに見せていたのは、この水の光りであった。たゆたう水の反映によって堅固な形態の縛めを解かれ、かかるときの金閣は、永久に揺れうごいている風や水や焔のような材料で築かれたものかと見えた。	在黑暗的金阁之上，幻觉中的金阁看上去还是那样清晰，丝毫未收敛其灿烂的光洁。濒临池水的法水院曲栏是那么谦逊地向后退闪。它的顶檐上边由天竺式衡木支撑的潮音洞的曲栏，如痴如梦般地向上探出身躯。廊檐在池水反照下极其明亮，摇动不定的波影也映入檐端。每当夕阳斜射、月光直泻时分，金阁望去都象在奇妙地流动、振翼，这乃是借助了水光呼应的缘故。正由于摇动的水影的反映，它才从牢固束缚的形态中解放出来。这时候的金阁就好象是由永无定迹的风、水、火焰等材料铸成的。
1566	『私は行為の一歩手前まで準備したんだ』と私は呟いた。『行為そのものは完全に夢みられ、私がその夢を完全に生きた以上、この上行為する必要があるだろうか。もはやそれは無駄事ではあるまいか。	“我此番行动已准备了那么久了。”我嘟囔着：+++“行动本身的所有细节我已经全部想过，既然已全都想过了，还有再做一遍的必要吗？这恐怕是徒劳无益的事。
1573	私の身は痺れたようになり、しきりに涙が流れた。朝までこのままでいて、人に発見されてもよかった。私は一言も、弁疏の言葉を述べないだろう。	我好象通身麻木，泪水象断了线的珠子一个劲儿地向外涌，就在这里呆到明朝，被人发现了也好嘛！我不会说一句话为自己辩解。
1581	傍らの座蒲団と風呂敷を丸めて小脇に抱えて、私は立上った。金閣のほうを見た。きらめく幻の金閣は薄れかけていた。勾欄は徐々に闇に呑まれ、林立する柱は分明でなくなった。水の光りは消え、軒庇の裏の反映も消え去った。……	我把身旁的座垫和包皮卷在一块夹到腋下，站起身来。我向金阁望去，幻觉中闪光的金阁这时已淡薄起来。曲栏已为漫漫黑夜吞掉，林立的细栏也不再分明。水光消失，映入檐下的波光也暗灭下来。
1588	法水院の内部には、大きなゆらめく影が起った。中央の弥陀、観音、勢至の三尊像はあかあかと照らし出された。義満像は目をかがやかせていた。その木像の影も背後にはためいた。	法水院里大火熊熊，把中堂前的弥陀、观音、甚至三尊佛像照得火红。义满的眼睛闪闪发亮，木雕的影子在墙上摇来晃去。
1590	私はカルモチンや短刀を忘れていた。この火に包まれて究竟頂で死のうという考えが突然生じた。そして火から遁れて、窄い階段を駈け上った。潮音洞へ昇る扉がどうして開いたのかという疑いは起らない。	我忘记镇静剂和短刀放在哪里了。这时忽然想到自己也在火堆里死在究竟顶上最好。于是我逃离火堆跑上窄窄的楼梯，登到潮音洞。这里的门敞开着，我没起半点疑心。
1591	煙は私の背に迫っていた。咳きながら、恵心の作と謂われる観音像や、天人奏楽の天井画を見た。潮音洞にただよう煙は次第に充ちた。私は更に階を上って、究竟頂の扉をあけようとした。	烟从背后传来，我边咳嗽边看那尊据说是惠心之作的观音像和天棚上人奏乐的彩绘。潮音洞里烟雾弥漫。我再登上一层，想打开究竟顶的门扉。
1594	そのとき私が究竟頂に夢みていたのは、確かに自分の死場所であったが、煙はすでに迫っていたから、あたかも救済を求めるように、性急にその戸を叩いていたものと思われる。戸の彼方にはわずか三間四尺七寸四方の小部屋しかない筈だ	当时我在究竟顶上所幻想的就是这里确是自己一死的最佳场所。只是因为烟气迫面，所以才性急地敲起门来，仿佛求救似的。隔门只有三间四尺七寸见方的小屋，这里最使我动心的该是室内那四面贴满的、已起皮剥

	った。そして私はこのとき痛切に夢みたのだが、今はあらかた剥落してこそおれ、その小部屋には隈なく金箔が貼りつめられている筈だった。戸を叩きながら、私がどんなにその眩ゆい小部屋に憧れていたかは、説明することができない。ともかくそこに達すればいいのだ、と私は思っていた。その金色の小部屋にさえ達すればいい……。	落的金箔面了。我敲着门，对那金光耀目的小屋怀着难以言传的无限憧憬：无论如何也要进去，只要能进到这金色小屋，我就死而无憾了。
1596	潮音洞はすでに煙に充たされていた。足下には火の爆ぜる音がひびいていた。私は煙に噎せ、ほとんど気を失いそうになった。咳き込みながら、なおも戸を叩いた。扉は開かない。	潮音洞已成烟海，脚下传来一连串哔剥的火爆声，烟呛得我几乎喘不过气。我边连声干咳边敲门。门仍不开。
1597	ある瞬間、拒まれているという確実な意識が私に生れたとき、私はためらわなかった。身を飜えして階を駈け下りた。	一瞬间，我忽然感到一种明晰的被拒绝的意识，我毫不犹豫地转身便向楼下跑去。在烟气火海中一直下到法水院，我也许是从火海中钻过来的。

行番	雪国（原文）	雪国 (訳文)
10	もうそんな寒さかと島村は外を眺めると、鉄道の官舎らしいバラックが山裾に寒々と散らばっているだけで、雪の色はそこまで行かぬうちに闇に呑まれていた。	岛村心想：已经这么冷了吗？他向窗外望去，只见铁路人员当作临时宿舍的木板房，星星点点地散落在山脚下，给人一种冷寂的感觉。那边的白雪，早已被黑暗吞噬了。
45	遥かの山の空はまだ夕焼の名残の色がほのかだったから、窓ガラス越しに見る風景は遠くの方までものの形が消えてはいなかった。しかし色はもう失われてしまっていて、どこまで行っても平凡な野山の姿が尚更平凡に見え、なにものも際立って注意を惹きようがないゆえに、反ってなにかぼうっと大きい感情の流れであった。	在遥远的山巅上空，还淡淡地残留着晚霞的余晖。透过车窗玻璃看见的景物轮廓，退到远方，却没有消逝，但已经黯然失色了。尽管火车继续往前奔驰，在他看来，山野那平凡的姿态越是显得更加平凡了。由于什么东西都不十分惹他注目，他内心反而好像隐隐地存在着一股巨大的感情激流。
46	しかしほんとうに透明かどうかは、顔の裏を流れてやまぬ夕景色が顔の表を通るかのように錯覚されて、見極める時がつかめないのだった。	是不是真的透明呢？这是一种错觉。因为从姑娘面影后面不停地掠过的暮景，仿佛是从她脸的前面流过。定睛一看，却又扑朔迷离。
49	こんな風に見られていることを、葉子は気づくはずがなかった。彼女はただ病人に心を奪われていたが、たとえ島村の方へ振り向いたところで、窓ガラスに写る自分の姿は見えず、窓の外を眺める男など目にも止まらなかっただろう。	叶子自然没留意别人这样观察她，她的心全用在病人身上，就是把脸转向岛村那边，她也不会看见自己映在窗玻璃上的身影，更不会去注意那个眺望着窗外的男人。
50	島村が葉子を長い間盗見しながら彼女に悪いということを忘れていたのは、夕景色の鏡の非現実な力にとらえられていたからだったろう。	岛村长时间地偷看叶子，却没有想到这样做会对她有什么不礼貌，他大概是被镜中暮景那种虚幻的力量吸引住了。
52	その信号所を通るころは、もう窓はただ闇であった。向うに風景の流れが消えると鏡の魅力も失われてしまった。葉子の美しい顔はやはり写っていたけれども、その温かいしぐさにかかわらず、島村は彼女のうちになにか澄んだ冷たさを新しく見つけて、鏡の曇って来るのを拭おうともしなかった。	火车通过信号所时，窗外已经黑沉沉的了。在窗玻璃上流动的景色一消失，镜子也就完全失去了吸引力，尽管叶子那张美丽的脸依然映在窗上，而且表情还是那么温柔，但岛村在她身上却发现她对别人似乎特别冷漠，他也就不想去揩拭那面变得模糊不清的镜子了。
58	島村は汽車のなかのぬくみがさめなくて、そとのほんとうの寒さをまだ感じなかったけれども、雪国の冬は初めてだから、土地の人のいでたちに先ずお	由于车上带下来的暖气尚未完全从岛村身上消散，岛村还没有感受到外面的真正寒冷。他是第一次遇上这雪国的冬

	びやかされた。	天，一上来就被当地人的打扮吓住了。
71	島村はしつっこい風邪心地でつまっていた鼻が、頭のしんまですっといちどきに通って、よごれものが洗い落されるように、水洟がしきりと落ちて来た。	岛村感冒总不见好，这会儿让冷空气从不通气的鼻孔一下子冲到了脑门心，清鼻涕地流个不停，好像把脏东西都给冲了出来。
78	夕景色の鏡のなかで葉子にいたわられていた病人は、島村が会いに来た女の家の息子だったのだ。	在暮景镜中看到叶子照拂的个病人，原来就是岛村来会晤的这个女子的师傅的儿子。
83	あんなことがあったのに、手紙も出さず、会いにも来ず、踊の型の本など送るという約束も果さず、女からすれば笑って忘れられたとしか思えないだろうから、先ず島村の方から詫びかいいわけを言わねばならない順序だったが、顔を見ないで歩いているうちにも、彼女は彼を責めるどころか、体いっぱいになつかしさを感じていることが知れるので、彼は尚更、どんなことを言ったにしても、その言葉は自分の方が不真面目だという響きしか持たぬだろうと思って、なにか彼女に気押される甘い喜びにつつまれていたが、階段の下まで来ると、	虽然发生过那种事情，但他没有来信，也没有约会，更没有信守诺言送来舞蹈造型的书。在女子看来，准以为是他一笑了之，把自己忘了。按理说，岛村是应该首先向她赔礼道歉或解释一番的，但岛村连瞧也没瞧她，一直往前走。他觉察到她不仅没有责备自己的意思，反而在一心倾慕自己，这就使他越发觉得此时自己无论说什么，都只会被认为是不真挚的。他被她慑服了，沉浸在美妙的喜悦之中，一直到了楼梯口，他才突然把左拳伸到女子的眼前，竖起食指说：
97	///島村が聞き返すと、三味線と踊の師匠の家にいる娘は芸者というわけではないが、大きい宴会などには時たま頼まれて行くこともある、半玉がなく、立って踊りたがらない年増が多いから、娘は重宝がられている、宿屋の客の座敷へなど滅多に一人で出ないけれども、全くの素人とも言えない、ざっとこんな風な女中の説明だった。	///岛村再仔细地问了问，女佣作了这样简短的说明：三弦琴、舞蹈师傅家里的那位姑娘虽不是艺妓，可有时也应召参加一些大型宴会什么的。这里没有年轻的，中年的倒很多，却不愿跳舞。这么一来，姑娘就更显得可贵了。虽然她不常一个人去客栈旅客的房间，但也不能说是个无瑕的良家闺秀了。
98	怪しい話だとたかをくくっていたが、一時間ほどして女が女中に連れられて来ると、島村はおやと居住いを直した。直ぐ立ち上って行こうとする女中の袖を女がとらえて、またそこに坐らせた。	岛村认为这话不可靠，根本没有把它放在心上。约莫过了一个钟头，女佣把女子领来，岛村不禁一愣，正了正坐姿。女子拉住站起来就要走的女佣的袖子，让她依旧坐下。
101	山の話などはじめたのをしおに、女中が立って行ったけれども、女はこの村から眺められる山々の名もろくに知らず、島村は酒を飲む気にもなれないでいると、女はやはり生れはこの雪国、東京でお酌をしているうちに受け出され、ゆくすえ日本踊の師匠として身を立てさせてもらうつもりでいたところ、一年半ばかりで旦那が死んだと、思いの外素直に話した。	女佣趁他们俩谈起山里的事，站起来就走了。然而就连从这个村子也可以望见的几座山的名字，那女子也说不齐全。岛村提不起酒兴，女子却意外坦率地谈起自己也是生长在这个雪国，在东京的酒馆当女侍时被人赎身出来，本打算将来做个日本舞蹈师傅用以维持生计，可是刚刚过了一年半，她的恩主就与世长辞了。
107	「いやあねえ。私そんなこと頼まれるとは夢にも思って来ませんでしたわ。」と、女はぷいと窓へ立って行って国境の山々を眺めたが、そのうちに頬を染めて、	“真讨厌！我做梦也没想到你会托我干这种事！”+++她愤然地站在窗前，眺望着县界上的重山叠峦，不觉脸颊绯红了。
115	「それがお友達ってものなの？」と、女はつい誘われて子供っぽく言ったが、後はまた吐き出すように、	“这就叫做朋友？”女子终于被出这句带稚气的话来。接着又冒了一句：
142	///そうして日本踊の伝統の眠りにも新しい試みのひとりよがりにも、当然なまなましい不満を覚えて、もうこの上は自分が実際運動のなかへ身を投じて行くほかないという気持に狩り立てられ、日本踊の若手からも誘いかけられた時に、彼はふいと西洋舞踊に鞍替えしてしまった。日本踊は全く見ぬようになった。その代りに西洋舞踊の書物と写真を集め、ポ	///而且对传统日本舞蹈的停滞状态，以及对自以为是的新尝试，自然也感到强烈的不满。一种急切的心情促使他思考：事态已经如此，自己除了投身到实际运动中去，别无他途。当受到年轻的日本舞蹈家的吸引时，他突然改行搞西方舞蹈，根本不去看日本舞蹈了。相反地，他收集有关

	スタアやプログラムの類まで苦労して外国から手に入れた。	西方舞蹈的书籍和图片，甚至煞费苦心地从外国搞来海报和节目单之类的东西。
144	しかも、時々西洋舞踊の紹介など書くので文筆家の端くれに数えられ、それを自ら冷笑しながら職業のない彼の心休めとなることもあるのだった。	因为他不时写些介绍西方舞蹈的文章，也勉强算是个文人墨客。他虽以此自嘲，但对没有职业的他来说，有时也会得到一种心灵上的籍慰。
170	しかし、島村は宿の玄関で若葉の匂いの強い裏山を見上げると、それに誘われるように荒っぽく登って行った。	然而，岛村来到客栈门口，抬眼一望散发出浓烈嫩叶气息的后山，就被吸引住了，随即冒冒失失地只顾自己登山去了。
203	そしてその夜の十時頃だったろうか。女が廊下から大声に島村の名を呼んで、ばたりと投げ込まれたように彼の部屋へ入って来た。いきなり机に倒れかかると、その上のものを酔った手つきでつかみ散らして、ごくごく水を飲んだ。	当天夜里十点光景，女子从走廊上大声呼喊着岛村的名字，吧哒一声栽进他的房间里。她猛然趴到桌面上，醉醺醺地用手乱抓上面的东西，然后咕嘟咕嘟地喝起水来。
204	この冬スキイ場でなじみになった男達が夕方山を越えて来たのに出会い、誘われるまま宿屋に寄ると、芸者を呼んで大騒ぎとなって、飲まされてしまったとのことだった。	据她说：今冬在滑雪场上，结识了一帮子男人，他们傍晚翻山越岭来到这里，彼此相遇，他们邀她上了客栈，还叫来艺妓，狂欢一场，被他们灌醉了。
216	彼がもとめる言葉には答えないで、女は両腕を閂のように組んでもとめられたものの上をおさえたが、酔いしびれて力が入らないのか、+++「なんだ、こんなもの。畜生。畜生。だるいよ。こんなもの。」と、いきなり自分の肘にかぶりついた。	女子没有答应他的要求，两臂交叉压在他所要求的东西上，像上了门闩似的。也许因为酩酊大醉，她已经使不上劲儿了。+++“这是什么玩意儿！他妈的，妈的！我累极了，这是什么玩意儿！”她说着突然咬住了自己的胳膊肘儿。
242	島村はその真剣な響きに打たれ、額に皺立て顔をしかめて懸命に自分を抑えている意志の強さには、味気なく白けるほどで、女との約束を守ろうかとも思った。	岛村被她那真挚的声音打动了。他锁紧双眉，哭丧着脸，强压住自己那股子强烈的冲动，已经感到索然无味了。他甚至在想是否还要遵守向她许过的诺言。
256	女がふっと顔を上げると、島村の掌に押しあてていた瞼から鼻の両側へかけて赤らんでいるのが、濃い白粉を透して見えた。それはこの雪国の夜の冷たさを思わせながら、髪の色の黒が強いために、温かいものに感じられた。	女子陡地抬起头来。她那贴在岛村掌心上的眼睑和颧骨上飞起的红潮透过了浓浓的白粉。这固然令人想到雪国之夜的寒峭，但是她那浓密的黑发却给人带来一股暖流。
273	日記の話よりも尚島村が意外の感に打たれたのは、彼女は十五六の頃から、読んだ小説を一々書き留めておき、そのための雑記帳がもう十冊にもなったということであった。	比起日记来，岛村格外感动的是：她从十六岁起就把读过的小说一一做了笔记，因此杂记本已经有十册之多。
280	全く徒労であると、島村はなぜかもう一度声を強めようとした途端に、雪の鳴るような静けさが身にしみて、それは女に惹きつけられたのであった。彼女にとってはそれが徒労であろうはずがないとは彼も知りながら、頭から徒労だと叩きつけると、なにか反って彼女の存在が純粋に感じられるのであった。	岛村不知为什么，很想再强调一声“完全是一种徒劳嘛”，就在此时，雪夜的宁静沁人肺腑，那是因为被女子吸引住了。+++他明知对于这女子来说不会是徒劳的，却劈头给她一句“徒劳”。这样说过之后，反而觉得她的存在变得更加纯真了。
281	この女の小説の話は、日常使われる文学という言葉とは縁がないもののように聞えた。婦人雑誌を交換して読むくらいしか、この村の人との間にそういう友情はなく、後は全く孤立して読んでいるらしかった。	这个女子谈到小说的事，听起来仿佛同日常所用的“文学”两字毫不相关。看来这村庄人们之间的情谊，也只是交换着看看妇女杂志而已，除此之外，就完全是孤孤单单地各看各的书了。
283	しかし、そういう都会的なものへのあこがれも、今はもう素直なあきらめにつつまれて無心な夢のようであったから、都の落人じみた高慢な不平よりも、単純な徒労の感が強かった。彼女自らはそれを寂しがる様子もないが、島村の眼には不思議な哀れとも	但是，看上去她那种对城市事物的憧憬，现在已隐藏在纯朴的绝望之中，变成一种天真的梦想。他强烈地感到：她这种情感与其说带有城市败北者的那种傲慢的不满，不如说是一种单纯的徒劳。她自

	見えた。その思いに溺れたなら、島村自らが生きていることも徒労であるという、遠い感傷に落されて行くのであろう。けれども目の前の彼女は山気に染まって生き生きした血色だった。	己没有显露出落寞的样子，然而在岛村的眼里，却成了难以想象的哀愁。如果一味沉溺在这种思绪里，连岛村自己恐怕也要陷入缥缈的感伤之中，以为生存本身就是一种徒劳。但是，山中的冷空气，把眼前这个女子脸上的红晕浸染得更加艳丽了。
290	一面の雪の凍りつく音が地の底深く鳴っているような、厳しい夜景であった。月はなかった。嘘のように多い星は、見上げていると、虚しい速さで落ちつつあると思われるほど、あざやかに浮き出ていた。星の群が目へ近づいて来るにつれて、空はいよいよ遠く夜の色を深めた。	这是一幅严寒的夜景，仿佛可以听到整个冰封雪冻的地壳深处响起冰裂声。没有月亮。抬头仰望，满天星斗，多得令人难以置信。星辰闪闪竞耀，好像以虚幻的速度慢慢坠落下来似的。繁星移近眼前，把夜空越推越远，夜色也越来越深沉了。
292	しかし、山々の色は黒いにかかわらず、どうしたはずみかそれがまざまざと白雪の色に見えた。そうすると山々が透明で寂しいものであるかのように感じられて来た。空と山とは調和などしていない。	然而，尽管山峦是黑压压的，但不知为什么看上去却像茫茫的白色。这样一来，令人感到山峦仿佛是透明而冰凉的。天空和山峦的色调并不协调。
336	それらの円い石は日のあたる半面だけ雪のなかに黒い肌を見せているが、その色は湿ったというよりも永の風雪にさらされた黒ずみのようである。そして家々はまたその石の感じに似た姿で、低い屋並みが北国らしくじっと地に伏したようであった。	那些圆圆的石子，只有阳光照到的一面，在雪中露出黑糊糊的表层。那不是潮湿的颜色，而是久经风雪剥蚀，像墨一般黑，一排排低矮的房子静静地伏卧在大地上，给人这样的感觉：家家户户好像那些石子一样。真是一派北国的风光。
338	傍の粗朶の束に乗せられて、三歳ばかりの女の子が無心に毛糸の玉を持っていた。小さい女の子から大きい女の子へ引っぱられる一筋の灰色の古毛糸も暖かく光っていた。	坐在旁边柴堆上的一个约莫三岁的小女孩，心不在焉地拿着毛线团。从小女孩这边牵到大女那边的一根灰色旧毛线，发出了柔和的光。
342	「困るって、こっちこそ困るよ。あんなに勢揃いしてられると、恐ろしくて通れんね。いつもああかい。」	“要说难为情，我才难为情呢！你们那么一大堆人，吓得我不敢过去。你们经常是这样吗？”
358	島村は女のこういう鋭さを好まなかった。けれども女をこんな風に鋭くするわけは、島村にも駒子にもないはずだと思われるので、それでは駒子の性格の現われかとも見られたが、とにかく繰り返して突っ込まれると、彼は急所にさわられたような気はして来るのであった。今朝山の雪を写した鏡のなかに駒子を見た時も、無論島村は夕暮の汽車の窓ガラスに写っていた娘を思い出したのだったのに、なぜそれを駒子に話さなかったのだろうか。	岛村不喜欢女人家这样厉害。但是使她这么厉害的，倒不是岛村或驹子本人有什么道理，这也许可以看作是驹子性格的一种表现吧。总之，在她这样反复追问之下，他觉得被击中要害似的。今晨看见映着山上积雪的镜中的驹子时，岛村自然想起映在暮霭中的火车玻璃窗上的姑娘，但他为什么没把这件事告诉驹子呢？
365	島村は不思議な部屋のありさまを見廻した。低い明り窓が南に一つあるきりだけれども、桟の目の細かい障子は新しく貼り替えられ、それに日射しが明るかった。壁にも丹念に半紙が貼ってあるので、古い紙箱に入った心地だが、頭の上は屋根裏がまる出しで、窓の方へ低まって来ているものだから、黒い寂しさがかぶさったようであった。	岛村把这间奇特的房子扫视了一圈。只有南面开了一个低矮的窗，但细格的纸门却是新糊的，光线很充足。墙壁也精心地贴上了毛边纸，使人觉得恍如钻进了一个旧纸箱。不过头上的屋顶全露出来，连接着窗子，房子显得很矮，黑压压的，笼罩着一种冷冷清清的气氛。
373	しかしそれだけでも、宙に吊るされたようなこの部屋の工合では、駒子の声が八方へ洩れそうで、島村は落ちついていられなかった。	///在像是悬在半空中的这间房子里，驹子即使只说了这些，她的声音也会在每个角落里旋荡。岛村有点不安了。
435	島村は虚しい切なさに曝されているところへ、温い明りのついたように駒子が入って来た。	岛村正陷在虚无缥缈之中，驹子走了进来，就像带来了热和光。
436	スキイ客を迎える準備の相談会がこの宿にある。その後の宴会に呼ばれたと言った。火燵に入ると、いきなり島村の頬を撫で廻しながら、	据驹子说，迎接滑雪客人的筹备会将在这家客栈里举行，她是应召在会后举行的宴会上陪客的。她把脚伸进了被炉，冷不防地来回抚摸岛村的脸颊。

449	駒子はうなずいた。浜松の男に結婚してくれと追い廻されたが、どうしても男が好きになれないで、ずいぶん迷ったと言った。	驹子点点头。她说，滨松那个男人死皮赖脸地缠住要她同他结婚，可她怎么也不喜欢他，真为难啊。
472	「君が家を持ったら、亭主は叱られ通しだね。」	“你要是成了家，你丈夫准会老挨你骂。”
473	「なにも叱りゃしないじゃないの。洗濯するものまで、きちんと畳んでおくって、よく笑われるけれど、性分ね。」	“有什么好骂的。人家常常取笑我，说我连要洗的衣服也叠得整整齐齐的，大概是天性吧。”
478	遠い山々は雪が煙ると見えるような柔かい乳色につつまれていた。	远处的重山叠峦迷迷蒙蒙地罩上了一层柔和的乳白色。
498	「ええ、でも、別れ別れに暮して来たのよ。東京へ売られて行く時、あの人がたった一人見送ってくれた。一番古い日記の一番初めに、そのことが書いてあるわ。」	“嗯。不过，我们是分开生活的呀，我被卖到东京时，只有他一个人来给我送行。我最早的一本日记开头就记着这件事。”
525	島村ははっと気押された。	岛村突然被她的气势压倒了。
530	忽ち島村は頬から鳥肌立ちそうに涼しくなって、腹まで澄み通って来た。たわいなく空にされた頭のなかいっぱいに、三味線の音が鳴り渡った。全く彼は驚いてしまったと言うよりも叩きのめされてしまったのである。敬虔の念に打たれた、悔恨の思いに洗われた。自分はただもう無力であって、駒子の力に思いのまま押し流されるのを快いと身を捨てて浮ぶよりしかたがなかった。	突然间，岛村脸颊起了鸡皮疙瘩，一股冷意直透肺腑。在他那空空如也的脑子里充满了三弦琴的音响。与其说他是全然感到意外，不如说是完全被征服了。他被虔诚的心所打动，被悔恨的思绪所洗刷了。他感到自己已经没有力气，只好任凭驹子的力量随意推动，愉快地让身体飘飘然浮起来。
535	島村には虚しい徒労とも思われる、遠い憧憬とも哀れまれる、駒子の生き方が、彼女自身への価値で、凛と撥の音に溢れ出るのであろう。	在岛村看来，驹子这种生活可以说是徒劳无益的，也可以说是对未来憧憬的悲叹。不过这种生活也许对她本身是有价值的，所以她才能弹出铿锵有力的琴声。
560	「スキイ場で芸者に挨拶されると、おや、君かいって、お客さんは驚くんですって。真黒に雪焼けしてるから分らないの。夜はお化粧してるでしょう。」	///“据说艺妓要是在滑雪场上向客人打招呼，客人就会吃惊地说：‘哦，是你呀！’因为滑雪把皮肤晒黑了，都认不出来了。而晚上又总是经过化妆的。”
634	島村は駅前の自動車を指そうとすると、葉子に力いっぱい掴まれていた手先が痺れたけれども、	岛村正想举手指指站前那辆汽车，可是被叶子用力抓过的手指，有点麻木了。
644	「君が東京へ売られて行く時、ただ一人見送ってくれた人じゃないか。一番古い日記の、一番初めに書いてある、その人の最後を見送らんという法があるか。その人の命の一番終りの頁に、君を書きに行くんだ。」	“你给卖到东京去的时候，不是只有他一个人给你送行吗？你最早的日记本开头不就是记他的吗？难道有什么理由不去给他送终？去把你记在他那生命的最后一页上吧。”
647	「日記なんかもうつけられない。焼いてしまう。」と、駒子は呟くうちになぜか頬が染まって来て、	“什么日记，我已经不记了。我要把它全烧掉。”驹子喃喃自语，无缘无由地脸红起来了。
649	島村はわけ分らぬ感動に打たれて、そうだ、自分ほど素直な人間はないのだという気がして来ると、もう駒子に強いて帰れとは言わなかった。駒子も黙ってしまった。	岛村不由得深受感动，觉得确实是这样，再没有人像自己这样老实的了。于是，他不再勉强驹子回去，驹子也缄口不言了。
652	「フォウムへは入らないわ。さよなら。」と、駒子は待合室の窓のなかに立っていた。窓のガラス戸はしまっていた。それは汽車のなかから眺めると、うらぶれた寒村の果物屋の煤けたガラス箱に、不思議な果物がただ一つ置き忘れられたようであった。	“我不进站台了。再见。”驹子站在候车室的窗边。玻璃窗紧闭着。从火车上望去，她好像一个在荒村的水果店里的奇怪的水果，独自被遗弃在煤烟熏黑了的玻璃箱内似的。
654	国境の山を北から登って、長いトンネルを通り抜けてみると、冬の午後の薄光りはその地中の闇へ吸い取られてしまったかのように、また古ぼけた汽車は明るい殻をトンネルに脱ぎ落して来たかのよう	火车从北面爬上县界的山，穿过长长的隧道，只见冬日下午淡淡的阳光像被地底下的黑暗所吞噬，又像那陈旧的火车把明亮的外壳脱落在隧道里，在重重叠叠的

	に、もう峰と峰との重なりの間から暮色の立ちはじめる山峡を下って行くのだった。こちら側にはまだ雪がなかった。	山峦之间，向暮色苍茫的峡谷驶去。山的这一侧还没有下雪。
657	島村はなにか非現実的なものに乗って、時間や距離の思いも消え、虚しく体を運ばれて行くような放心状態に落ちると、単調な車輪の響きが、女の言葉に聞えはじめて来た。	岛村仿佛坐上了某种非现实的东西，失去了时间和距离的概念，陷入了迷离恍惚之中，徒然地让它载着自己的身躯奔驰。单调的车轮声，开始听的时候像是女子的絮絮话语。
678	いっしょに見送っていたおかみさんに誘われて、島村も帳場へ行くと、炉端に大柄の女が後向きに坐っていた。女は裾を取って立ち上った。黒紋附を着ていた。	在一同目送俄国女人的内掌柜的邀请之下，岛村走到了账房，看见一个身材高大的女子背向他坐在炉边。女子撩起衣服下摆站了起来。她穿着一身带家微的黑礼服。
694	急斜面の山腹の頂上近く、一面に咲き乱れて銀色に光っている。それは山に降りそそぐ秋の日光そのもののようで、ああと彼は感情を染められたのだった。それを白萩と思ったのだった。	从陡削的山腰到山顶一带，遍地盛开着这种花，白花花地一片银色，好像倾泻在山上的秋阳一般。啊！岛村不由得动了感情，把漫山的白花当作是白胡枝子了。
734	「菊勇ねえさんがいなくなると、私は寂しいんです。なんでもあの人が中心だったから。売れることも一番で六百本を欠かすことはないから、うちでも大事にされてたんだけれど。」	“菊勇姐不在，我就寂寞了。因为过去什么事都是由她拿主意的。她最叫座，没少过六百枝的。她在我们这儿最受器重啦。”
739	「好きな人が出来て、その人と結婚するつもりだったんだけれど、騙されてたのね。夢中になると、あんなかしらね。その相手に逃げられたからって、今更元の鞘におさまって、店を貰いますというわけにもいかないし、みっともなくてこの土地にはいられないし、またよそで稼ぎ直すんですわ。考えると可哀想なんだわ。」	“因为她另有所爱，并打算同那人结婚呢。可是，她受骗了。一个人一着了迷，就会弄成那个样子吗？据说，对方已经逃跑，如今她又不能破镜重圆，把那间店铺要回来，也不好意思再呆在那里，所以只好到别的地方另起炉灶了。想起来也真可怜啊。”
772	「いやよ。そんなみじめな、いやよ。奥さんに見られてもいいような手紙なんか書かないわ。みじめだわ。気兼ねして嘘つくことないわ。」	“才不呢。我才不干这种可怜巴巴的事。那种给你太太看见也无所谓的信，我才不写呢。那样做多可怜啊！我用不着顾忌谁而撒谎呀！”
826	ここで初めての検査の時に、半玉の頃と同じだと思って、胸だけ脱ぐと笑われたこと、それから泣き出してしまったこと、そんなことまで言った。島村に問われるままに、	她甚至谈了这样一件事情：在这里接受第一次检查的时候，她以为跟雏妓时一样，只把胸部敞开，所以被人家取笑，后来她竟哭了起来。她还如实地回答了岛村的询问。
830	温まるので名高い温泉に毎日入っているし、旧温泉と新温泉との間をお座敷通いすれば一里も歩くわけになるし、夜更しも少ない山暮しだから、健康な固太りだけれども、芸者などにありがちの少うし腰窄まりだった。横に狭くて縦に厚い。そのくせ島村が遠く惹かれて来るような女であることなのは、哀れ深いものがあった。	每天到出名的温泉洗澡可以暖暖身子，而且为了赴宴往返旧温泉和新温泉之间还得走一里地，在山沟里又很少熬夜，所以身体健壮，不过还是长着一副艺妓觉的窄骨盆，骨架横里窄、纵里厚。尽管如此，她之所以能把岛村从老远吸引到这儿来，乃是因为她身上蕴藏着令人深深同情的东西。
862	しかし目の前の蜻蛉の群は、なにか追いつめられたもののように見える。暮れるに先立って黒ずむ杉林の色にその姿を消されまいとあせっているもののように見える。	但是，眼前的一群蜻蜓，像被什么东西追逐着似的。仿佛急于抢在夜色降临、杉林的幽黑　　吞没它的身影之前飞走。
867	山の案内書には、登路、日程、宿泊所、費用などが、簡単に書いてあるだけで、反って空想を自由にしたし、島村が初めて駒子を知ったのも、残雪の肌に新緑の萌える山を歩いて、この温泉村へ下りて来た時のことだったし、自分の足跡も残っている山を、	登山指南书上仅仅简单地记载着登山的路线、日程、客栈、费用等项目，反而使空想自由驰骋了。岛村头一次认识驹子，是从积满残雪、抽出嫩芽的山上，走到这个温泉村来的时候。现在又逢秋天登

	こうして眺めていると、今は秋の登山の季節であるから、山に心が誘われて行くのだった。無為徒食の彼には、用もないのに難儀して山を歩くなど徒労の見本のように思われるのだったが、それゆえにまた非現実的な魅力もあった。	山季节，在这里远望着留下自己足迹的山峦，心儿不由得被整个山色所吸引。+++他游手好闲，无所事事，不辞劳苦地登上山来，可以认为这是一种典型的徒劳。正因为如此，这里边还有一种虚幻的魅力。
868	遠く離れていると、駒子のことがしきりに思われるにかかわらず、さて近くに来てみると、なにか安心してしまうのか、今はもう彼女の肉体も親し過ぎるのか、人肌がなつかしい思いと、山に誘われる思いとは、同じ夢のように感じられるのだった。昨夜駒子が泊って行ったばかりだからでもあろう。しかし静かななかに一人坐っていては、呼ばなくても駒子も来そうなものだと、心待ちするよりしかたがなかったが、ハイキングの女学生達の若々しく騒ぐ声が聞えているうちに眠ろうと思って、島村は早くから寝た。	尽管远离了驹子，岛村还不时惦念着她，可一旦来到她身边，也许是完全放下了心，或是与她的肉体过份亲近的缘故，总是觉得对肌肤的依恋和对山峦的憧憬这种相思之情，如同一个梦境。这大概也是由于昨晚驹子在这里过夜刚刚的缘故吧。但是，在寂静中独自呆坐，只好期待着驹子会不自来，此外别无他法。听着徒步旅行的女学生天真活泼的嬉戏打闹声，岛村不知不觉间感到昏昏欲睡，于是便早早入眠了。
932	「だけど、二人は別になんでもなかった。別れ別れに暮して来たのよ。東京へ売られて行く時、あの人がたった一人見送ってくれた。」	“然而，我们两人并没有别的什么。从来都是各自生活的。我被卖到东京的时候，只有他一个人给我送行。”
937	栗をぶっつけられても、腹を立てる風がないので、駒子は束の間訝しそうであったが、ふいと折れ崩れるように縋って来て、	岛村虽然挨了一把栗子，可也没有生气要样子。驹子顿时觉得有点奇怪，一下子软瘫瘫地靠在岛村身上：
951	「葉子さん早いのね。髪結いさんへ私……。」と、駒子が言いかかった時だった。どっと真黒な突風に吹き飛ばされたように、彼女も島村も身を竦めた。	“叶子，你早啊。我去找洗头师……”驹子说了半句，突然吹来一阵旋风，像是要把他们俩刮跑似的，她和岛村都缩成一团。
969	山袴の腰をひょいと捻って、娘が稲の束を投げ上げると、高くのぼった男が器用に受け取って、扱くように振り分けては、竿に懸けていった。物慣れて無心の動きが調子よく繰り返されていた。	姑娘轻轻地扭动了一下着雪裤的腰身，把一束稻子抛了上去高高攀在晾晒架上的男子，灵巧地接住，连捋带理地把它分开，挂在晒竿上，专心地重复着熟练而麻利的动作。
989	「知らん。もう知らん。」と、駒子はうんと仰反って転がるものだから、島村は重苦しくなって起き上ろうとしたが、不意に起されたことゆえふらついて、また倒れると、頭が熱いものに載って驚いた。	“管它呢，哪管得了这许多！”驹子“嗯”地一声，猛然把身子仰了过来滚动着，岛村被压得难受，想爬起来，可因为是突然被惊醒的，摇晃两下，又倒了下去，头枕在热乎乎的东西上，他不禁吃了一惊。
1027	おかみさんが銅壺で燗の番をしている。葉子はそれと向い合って、なにか言われる度にはっきりうなずいていた。山袴も羽織もなしに、洗い張りしたばかりのような銘仙を着ていた。	内掌柜正守着铜壶温酒。叶子同他个对而坐，每次被问到什么，她都痛痛快快的点头。她既没有穿雪裤，也没有穿短和服，穿的是一身像刚刚浆洗过的绸子和服。
1033	しかし葉子がこの家にいるのだと思うと、島村は駒子を呼ぶことにもなぜかこだわりを感じた。駒子の愛情は彼に向けられたものであるにもかかわらず、それを美しい徒労であるかのように思う彼自身の虚しさがあって、けれども反ってそれにつれて、駒子の生きようとしている命が裸の肌のように触れて来もするのだった。彼は駒子を哀れみながら、自らを哀れんだ。そのようなありさまを無心に刺し透す光に似た目が、葉子にありそうな気がして、島村はこの女にも惹かれるのだった。	然而，一想起叶子在一家客栈里，不知为什么，岛村对找驹子也就有点拘束了。尽管驹子是爱他的，但他自己有一些空虚感，总把她的爱情看作是一种美的徒劳。即使那样，驹子对生存的渴望反而像赤裸的肌肤一样，触到了他的身上。他可怜驹子，也可怜自己。他似乎觉得叶子的慧眼放射出一种像是看透这种情况的光芒。他也被这个女子所吸引了。
1035	渓流の奥の紅葉を見に行くので、彼は駒子の家の前を通ったことがあったが、その時彼女は車の音を	他去溪流尽头观赏红叶，曾打驹子家门前走过，那时候，她听见车声，断定又

	聞きつけて、今のは島村にちがいないと表へ飛び出てみたのに、彼はうしろを振り返りもしなかったのは薄情者だと言ったほどだから、彼女は宿へ呼ばれさえすれば、島村の部屋へ寄らぬことはなかった。湯に行くにも道寄りした。宴会があると一時間も早く来て、女中が呼ぶまで彼のところで遊んでいた。座敷をよく抜け出して来ては、鏡台で顔を直して、	是岛村，便跑到外面来看。岛村却连头也不回。她就说他是个薄情郎。她只要被唤到客栈，没有不去岛村的房间的。去浴室的时候，也顺便走来了。若有宴会，就提前一个钟头来，一直在他那里玩到女佣来叫她。她还常常从宴会上偷偷溜出来，对着梳妆镜修整面容。
1064	季節の移るように自然と亡びてゆく、静かな死であったけれども、近づいて見ると脚や触角を顫わせて悶えているのだった。それらの小さい死の場所として、八畳の畳はたいへん広いもののように眺められた。	由于季节转换而自然死亡，乍看好像是静静地死去，可是走近一看，只见它们抽搐着腿脚和触角，痛苦地拚命挣扎。这八铺席作为它们死亡的地方，未免显得太宽广了。
1067	その虫除けの金網も取りはずされた。虫の声がめっきり寂れた。	防虫的纱窗已经取了下来，虫声明显地变得稀落了。
1078	「ふう、いい気持。お酒を註文しに行く、そう言って、そうっと抜けて来た。番頭さんに見つかって叱られた。お酒はいい、叱られても、足音が気にならん。ああ、いやだわ。ここへ来ると、急に酔いが出る。これから働きに行くの。」	///“唔，真痛快。我说去叫酒，就偷偷地溜出来了，被掌柜发现，挨了一顿骂。酒真好哩，即使挨骂，我也不在乎。啊，真讨厌，一来到这里就醉了。我还得去啊。”
1082	「殺されちゃいますよ。」	“要烧死人的。”
1087	やがて宴会も終ったらしく、急にひっそりして、瀬戸物の音が遠く聞えたりするので、駒子も客に連れられて別の宿の二次会へ廻ったのかと思っていると、葉子がまた駒子の結び文を持って来た。	过了一会儿，喧闹声骤然沉寂下来，大概是宴席散了吧。间或听到远处传来了杯盘的碰撞声。岛村心想：驹子也许被客人带到别的客栈，参加第二场宴会去了吧？这时，叶子又送来了驹子的折叠字条。
1166	葉子が絶え間なく子供にしゃべり立てて上ってからも、その声が笛の音のようにまだそこらに残っていそうで、黒光りに古びた玄関の板敷きに片寄せてある、桐の三味線箱の秋の夜更らしい静まりにも、島村はなんとなく心惹かれて、持主の芸者の名を読んでいると、食器を洗う音の方から駒子が来た。	叶子不停地跟孩子说话。她站起身来，离开浴池以后，那声音就像笛声一样，依然在那儿旋荡。在乌亮、破旧的大门地板上，放着一个三弦琴桐木盒。这时夜阑人静，不由地拨动了岛村的心弦。他正念着琴盒所属的那个艺妓的名字，驹子从响起洗餐具声的那边走了过来。
1177	「君が言ったんじゃないか、気ちがいになりそうだって、君に言われたのを思い出すと、くやしくて泣き出したらしかったよ。」	“不是你说她快要发疯的吗？她可能是一想起你这话儿，不服气，才哭起来的吧？”
1189	「酔って管を巻いてると思ってらっしゃるわ？　あの子があんたの傍で可愛がられてると思って、私はこの山のなかで身を持ち崩すの。しいんといい気持。」	“你以为我撒酒疯儿？每当想到她在你身边会受到你疼爱，我在山沟里过放荡生活这才痛快呢。”
1203	島村は寝息の温みに押し返されるように、思わず表へ出ようとしたけれども、駒子がうしろの戸をがたぴししめて、足音の遠慮もなく板の間を踏んで行くので、島村も子供の枕もとを忍ぶように通り抜けると、怪しい快感で胸が顫えた。	岛村像是被一股温暖的鼾声推了回来，不由得要退到外面，驹子砰地一声把后门关上，无所顾忌地踏着重重的脚步，走过木板间。岛村只好从孩子们的枕边轻轻地擦身而过。一种无以名状的快感在他的心头激荡。
1239	突きつけられたコップの冷酒を島村は無造作に飲んだ。	岛村漫不经心地把驹子递过来的冷酒一饮而尽。
1269	島村は後を追うことが出来なかった。駒子に言われてみれば、十分に心疚しいものがあった。	岛村无法追赶上去。让驹子这么一说，有许多事情他是问心有愧的。
1274	廊下に隠れて立ったまま、部屋へ入って来そうもないので、島村が手拭を持って出て行くと、駒子は目を合わせるのを避けて、少しうつ向きながら先きに立った。罪をあばかれて曳かれて行く人に似た姿	她就那么站着躲在走廊上，并没有要进屋的意思。岛村手拿毛巾走了出来。驹子避开他的目光，低下头走在前面，简直像给人揭发了罪行后被逮走的样子。可

	であったが、湯で体が温まる頃から変にいたいたしいほどはしゃぎ出して、眠るどころでなかった。	是，在浴池里把身子暖和过来以后，她又怪可怜地闹腾起来，这时她毫无睡意了。
1277	「梅の間のお客さま。昨夜宴会の後で呼ばれたでしょう。」	“那是住梅花厅的客人唱的。昨晚宴会散后，他们就把我找去了。”
1283	窓で区切られた灰色の空から大きい牡丹雪がほうっとこちらへ浮び流れて来る。なんだか静かな嘘のようだった。島村は寝足りぬ虚しさで眺めていた。	从嵌在窗框里的灰色天空中，飘进来纷纷扬扬的大雪花。不知为什么，寂静得使人难以置信。岛村睡眠不足，茫然地望着虚空。
1293	///子供のうちに織り習って、そうして十五六から二十四五までの女の若さでなければ、品のいい縮は出来なかった。年を取っては機面のつやが失われた。娘達は指折りの織子の数に入ろうとしてわざを磨いただろうし、旧暦の十月から糸を績み始めて明る年の二月半ばに晒し終るという風に、ほかにすることもない雪ごもりの月日の手仕事だから念を入れ、製品には愛着もこもっただろう。	///要不是从小开始学纺织，就是到了十五六岁乃至二十四、五岁也是织不出优质绉纱的。人一上岁数，织出来的布面也失去了光泽。也许姑娘们为了挤进第一流纺织女工的行列而努力锻炼技能的缘故吧，她们从旧历十月开始缫丝，到翌年二月中旬晾晒完毕，在这段冰封雪冻的日子里，别无他事可做，所以手工特别精细，把挚爱之情全部倾注在产品上。
1295	深い雪の上に晒した白麻に朝日が照って、雪か布かが紅に染まるありさまを考えるだけでも、夏のよごれが取れそうだし、わが身をさらされるように気持よかった。もっとも東京の古着屋が扱ってくれるので、昔通りの晒し方が今に伝わっているのかどうか、島村は知らない。	晨曦泼洒在曝晒于厚雪上的白麻绉纱上面，不知是雪还是绉纱，染上了绮丽的红色。一想起这幅图景，就觉得好像夏日的污秽都被一扫而光，自己也经过是曝晒似的，身心变得舒畅了。不过，因为是交由东京的旧衣铺去办，古老的曝晒法是否会流传至今，岛村就不得而知了。
1298	縮の産地はこの温泉場に近い。山峡の少しずつひらけてゆく川下の野がそれで、島村の部屋からも見えていそうだった。昔縮の市が立ったという町にはみな汽車の駅が出来て、今も機業地として知られている。	绉产地离这个温泉浴场很近。它就在山峡渐渐开阔的河流下游的原野上。因此从岛村的文章也可以望见。昔日建有绉纱市场的镇子，如今却修了火车站，成为闻名于世的纺织工业区。
1302	けれどもこんな愛着は一枚の縮ほどの確かな形を残しもしないだろう。着る布は工芸品のうちで寿命の短い方にしても、大切にあつかえば五十年からもっと前の縮が色も褪せないで着られるが、こうした人間の身の添い馴れは縮ほどの寿命もないなどとぼんやり考えていると、ほかの男の子供を産んで母親になった駒子の姿が不意に浮んで来たりして、島村ははっとあたりを見まわした。	但是，这种挚爱之情，不像一件绉纱那样能留下实在的痕迹。纵然穿衣用的绉纱在工艺品中算是寿命最短的，但只要保管得当，五十年或更早的绉纱，照样穿在身上也不褪色。而人的这种依依之情，却没有绉纱寿命长。岛村茫然地这么想着，突然又浮现出为别的男人生了孩子、当了母亲的驹子的形象。他心中一惊，扫视了一下周围。
1305	銀の花鳥が器用にちりばめてあった。松風の音は二つ重なって、近くのと遠くのとに聞きわけられたが、その遠くの松風のまた少し向うに小さい鈴がかすかに鳴りつづけているようだった。	铁壶上面精巧地镶嵌着银丝花鸟。水沸声有二重音，听起来一近一远。而比远处水沸声还稍远些的地方，仿佛不断响起微弱的小铃声。
1312	雪の底で手仕事に根をつめた織子達の暮しは、その製作品の縮のように爽かで明るいものではなかった。そう思われるに十分な古町の印象だった。縮のことを書いた昔の本にも唐の秦韜玉の詩などが引かれているが、機織女を抱えてまで織らせる家がなかったのは、一反の縮を織るのにずいぶん手間がかかって、銭勘定では合わないからだという。	在雪里把精力倾注在手工活上的纺织女工，她们的生活可不像织出来的绉纱那样爽快。这个镇子自然而然地给人一个相当古老的印象。在记载绉纱的古书里，也引用了唐代秦韬玉的诗。但据说纺织商之所以不愿雇用纺织女工，是因为织一匹绉纱相当费工，在经济上划不来。
1333	飛びかかって吸いついたような勢いでありながら、島村はふわりと温いものに寄り添われたようで、駒子のしていることに不自然も危険も感じなかった。駒子は窓を抱くように片腕をあげた。袖口が辷って長襦袢の色が厚いガラス越しにこぼれ、寒さで	驹子就像被吸引住似地猛扑了上来，岛村觉得仿佛有一种温暖的东西轻轻的贴近过来，因而他对驹子的这种举动并没有感到不自然或者危险。驹子像要抱住车窗，举起了一只胳膊。袖口滑落下来，露

	こわばった島村の瞼にしみた。	出了长衬衣的颜色。那色彩透过厚厚的窗玻璃，沁入岛村冻僵了的眼睑。
1387	「まあ。どうしよう。」と、駒子は番頭を追うように石段を下りた。後から下りて来る人々が駈け抜けて行った。駒子も誘われて走り出していた。島村も追っかけた。	“唉，这可怎么得了。”+++驹子追赶着伙计似地走下石磴。后来下楼的人都跑到她的前头去了。她不由自主地跟着跑了起来。岛村也随后跟上。
1391	言われてみればそうだった。島村は拍子抜けがすると足もとに線路が見えた。踏切の前まで来ていた。	她这么说，倒也是的。岛村感到失望。这时才发现脚底下就是铁轨，他们已经来到铁路岔口跟前了。
1406	「私が笑われるから、帰って頂戴。」	///“人家会取笑我的，你快回去吧！”
1419	「泣いたわ。うちへ帰ってからも泣いたわ。あんたと離れるのこわいわ。だけどもう早く行っちゃいなさい。言われて泣いたこと、私忘れないから。」	“我哭了。回家以后还哭了一场。就害怕离开你。不过，你还是早点走吧。你把我说哭了，我是不会忘记这件事的。”
1420	駒子の聞きちがえで、かえって女の体の底まで食い入った言葉を思うと、島村は未練に絞めつけられるようだったが、俄かに火事場の人声が聞えて来た。新しい火の手が火の子を噴き上げた。	岛村一想起那句虽然引起驹子的误会、然而却深深印在她的心坎上的话，就油然生起一股依恋之情。瞬时间，传来了火场那边杂沓的人声。新的火舌又喷出了火星。
1422	二人はほっと救われたように走り出した。	两人得救似地松了一口气，又跑了起来。
1428	天の河は二人が走って来たうしろから前へ流れおりて、駒子の顔は天の河のなかで照らされるように見えた。	他们两人跑过来了。银河好像从他们的后面倾泻到前面。驹子的脸仿佛映在银河上。
1436	駒子はちょっと左手を上げてから走った。後姿が暗い山の底に吸われて行くようだった。天の河はその山波の線で切れるところに裾をひらき、また逆にそこから花やかな大きさで天へひろがってゆくようだったから、山はなお暗く沈んでいた。	驹子扬了扬左手就走了。她的背影好像被黑暗的山坳吞噬了。银河向那山脉尽头伸张，再返过来从那儿迅速地向太空远处扩展开去。山峦更加深沉了。
1441	そのポンプの来るのを、駒子も道端によけていた。島村をみつけていっしょに走った。ポンプをよけて道端に立った人々が、ポンプに吸い寄せられてゆくように後を追った。今は二人も火事場へ駈けつける人の群に過ぎなかった。	驹子也躲闪一旁，让这些水泵过去。她找到岛村，两人又一块走起来。站在路旁躲闪水泵的人，仿佛被水泵所吸引，跟在后面追赶着。如今，他们两人也不过是奔向火场的人群当中的成员罢了。
1453	その火の子は天の河のなかにひろがり散って、島村はまた天の河へ掬い上げられてゆくようだった。煙が天の河を流れるのと逆に天の河がさあっと流れ下りて来た。屋根を外れたポンプの水先が揺れて、水煙となって薄白いのも、天の河の光が映るかのようだった。	这些火星子迸发到银河中，然后扩展开去，岛村觉得自己仿佛又被托起漂到银河中去。黑烟冲上银河，相反地，银河倏然倾泻下来。喷射在屋顶以外的水柱，摇摇曳曳，变成了朦朦的水雾，也映着银河的亮光。
1458	女の体は空中で水平だった。島村はどきっとしたけれども、とっさに危険も恐怖も感じなかった。非現実的な世界の幻影のようだった。硬直していた体が空中に放り落されて柔軟になり、しかし、人形じみた無抵抗さ、命の通っていない自由さで、生も死も休止したような姿だった。	女人的身体，在空中挺成水平的姿势。岛村心头猛然一震，他似乎没有立刻感到危险和恐惧，就好像那是非现实世界的幻影一般。僵直了的身体在半空中落下了，变得柔软了。然而，她那副样子却像玩偶似地毫无反抗，由于失去生命而显得自由了。在这瞬间，生与死仿佛都停歇了。
1463	駒子の叫びは島村の身うちを貫いた。葉子の腓が痙攣するのといっしょに、島村の足先まで冷たい痙攣が走った。なにかせつない苦痛と悲哀とに打たれて、動悸が激しかった。	驹子的惊叫声传遍了岛村全身。叶子的腿肚子在抽搐。与此同时，岛村的脚尖也冰凉得痉挛起来。一种无以名状的痛苦和悲向他袭来，使得他的心房激烈地跳动着。
1467	幾年か前、島村がこの温泉場へ駒子に会いに来る汽車のなかで、葉子の顔のただなかに野山のともし火がともった時のさまをはっと思い出して、島村は	岛村忽然想起了几年前自己到这个温泉浴场同驹子相会、在火车上山野的灯火映在叶子脸上时的情景，心房又扑扑地

	また胸が顫えた。一瞬に駒子との年月が照し出されたようだった。なにかせつない苦痛と悲哀もここにあった。	跳动起来。仿佛在这一瞬间，火光也照亮了他同驹子共同度过的岁月。这当中也充满一种说不出的苦痛和悲哀。
1474	そう言う声が物狂わしい駒子に島村は近づこうとして、葉子を駒子から抱き取ろうとする男達に押されてよろめいた。踏みこたえて目を上げた途端、さあと音を立てて天の河が島村のなかへ流れ落ちるようであった。	驹子发出疯狂的叫喊，岛村企图靠近她，不料被一群汉子连推带搡地撞到一边去。这些汉子是想从驹子手里接过叶子抱走。待岛村站稳了脚跟，抬头望去，银河好像哗啦一声，向他的心坎上倾泻了下来。

行番	こころ（原文）	心(訳文)
11	///友達はかねてから国元にいる親達に勧まない結婚を強いられていた。彼は現代の習慣からいうと結婚するにはあまり年が若過ぎた。それに肝心の当人が気に入らなかった。それで夏休みに当然帰るべきところを、わざと避けて東京の近くで遊んでいたのである。彼は電報を私に見せてどうしようと相談をした。私にはどうして可いか分らなかった。けれども実際彼の母が病気であるとすれば彼は固より帰るべき筈であった。それで彼はとうとう帰る事になった。折角来た私は一人取り残された。	///因为住在乡下的他的父母亲，老早就在强迫他结婚，这门婚事是他所不乐意接受的。照现代的习惯讲，象他那样的年纪，结婚实在还嫌太早。再加上最要紧的那个“对象”，他又并不合意。所以在暑假期间，依照常情当然是应该回家的，他却故意避不回家，在东京附近玩着。他把电报拿给我看，跟我商量怎么办才好。我也不知道怎么办才好。如果他母亲真的患了病，那不用说他是必须回去的。由于这一点理由，最后他还是回去了。特地来到镰仓的我，就给孤零零地撇下了。
13	宿は鎌倉でも辺鄙な方角にあった。玉突だのアイスクリームだのというハイカラなものには長い畷を一つ越さなければ手が届かなかった。車で行っても二十銭は取られた。けれども個人の別荘は其所此所にいくつでも建てられていた。それに海へは極近いので海水浴を遣るには至極便利な地位を占めていた。	虽说是在镰仓，那旅馆却位于偏僻地区。例如台球啊，冰淇淋啊，这些时兴的东西，得走完一条长长的田塍，才能玩到、吃到。坐车去嘛，也得花上两毛钱的车钱。不过在那一带，私人别墅却散散落落地建有好多所。而且那儿离海滨很近，要洗海水浴的话，那旅馆所占的位置倒是非常便利的。
14	私は毎日海へ這入りに出掛けた。古い燻ぶり返った藁葺の間を通り抜けて磯へ下りると、この辺にこれ程の都会人種が住んでいるかと思う程、避暑に来た男や女で砂の上が動いていた。ある時は海の中が銭湯の様に黒い頭でごちゃごちゃしている事もあった。その中に知った人を一人も有たない私も、こういう賑やかな景色の中に裹まれて、砂の上に寐そべって見たり、膝頭を波に打たして其所いらを跳ね廻るのは愉快であった。	我每天出去洗海水浴。一座座古旧的、用稻草盖的房屋，屋顶已经给煤烟熏得乌黑了。我从这些房屋中间走过，往海岸走去。一走下海岸，会使你惊异附近一带竟住着这么多都市中出生的人，由于来避暑的男男女女，沙滩几乎在动。有时候，黑色的脑袋在海面上“万头攒动”，又仿佛在浴池里看到的情景。我在这许多人中没有一个熟人，但是我处身在这么热闹的场面里，要么在沙滩上随便躺躺，要么东蹦西跳地让海浪拍击着膝盖，倒也觉得很愉快。
15	彼等は此所で茶を飲み、此所で休息する外に、此所で海水着を洗濯させたり、此所で鹹はゆい身体を清めたり、此所へ帽子や傘を預けたりするのである。海水着を持たない私にも持物を盗まれる恐れはあったので、私は海へ這入る度にその茶屋へ一切を脱ぎ棄てる事にしていた。	他们除了在这儿喝茶、休息以外，可以把洗海水浴穿的游泳衣交给这儿代洗，还可以在这儿把身上的盐分冲洗干净，或是把帽子、阳伞等暂时寄存一下。我虽然没有游泳衣，可是担心带的东西被人偷掉，所以在每次下海以前，总是把一切都留下来寄在那家茶馆里。
33	しばらくして海の中で起き上がる様に姿勢を改めた先生は、「もう帰りませんか」と云って私を促がした。比較的強い体質を有った私は、もっと海の中で遊んでいたかった。然し先生から誘われた時、私はすぐ「ええ帰りましょ	不一会儿，先生改换了一个象在海里站起身来的姿势，催促我说：“好回去了吧。”我的体格比他好，我想在海里再多玩一会儿。可是当先生招呼我回去的时候，我立刻高兴地答应：“好，回去吧！”于是，两人又从原路游回

	う」と快よく答えた。そうして二人で又元の路を浜辺へ引き返した。	海边。
42	私はこういう事でよく先生から失望させられた。先生はそれに気が付いている様でもあり、又全く気が付かない様でもあった。私は又軽微な失望を繰り返しながら、それがために先生から離れて行く気にはなれなかった。寧ろそれとは反対で、不安に揺かされる度に、もっと前へ進みたくなった。もっと前へ進めば、私の予期するあるものが、何時か眼の前に満足に現われて来るだろうと思った。私は若かった。	先生往往在这样的情况下，使我感到失望。先生对这一点好象也觉察到，可又好象完全没有觉察到。我呢，虽然再三再四遭到这种轻微的失望，却并不因此就想跟先生疏远。恰恰相反，倒是每逢有所动摇的时候，我愈想前进一步。我以为如果更进一步，我所预期的某种东西，迟早会使我心满意足地出现在我眼前。我还年轻。
44	然し帰って二日三日と経つうちに、鎌倉に居た時の気分が段々薄くなって来た。そうしてその上に彩られる大都会の空気が、記憶の復活に伴う強い刺戟と共に、濃く私の心を染め付けた。私は往来で学生の顔を見るたびに新らしい学年に対する希望と緊張とを感じた。私はしばらく先生の事を忘れた。	可是回来以后过了两三天，我在镰仓时的那种心情却逐渐地淡漠下来。而且在这上面被抹上了五彩缤纷的大都市的气氛，连同记忆复苏所带来的强烈的刺激，又一起浓重地渲染着我的心。我每次在马路上看到学生们的脸，就会感到新学年带来的希望和紧张。我暂时把先生忘掉了。
47	私はその人から鄭寧に先生の出先を教えられた。先生は例月その日になると雑司ケ谷の墓地にある或仏へ花を手向けに行く習慣なのだそうである。「たった今出たばかりで、十分になるか、ならないかで御座います」と奥さんは気の毒そうに云ってくれた。	她殷勤地把先生的去处告诉我。据她说，先生有个习惯，每月逢到这一天，总要到杂司谷的公墓去，向某一位亡灵供奉鲜花。“刚刚出门，不过十分钟吧，也许还不到十分钟呢。”——太太很抱歉似地对我这么说。
53	先生は同じ言葉を二遍繰り返した。その言葉は森閑とした昼の中に異様な調子をもって繰り返された。私は急に何とも応えられなくなった。	先生把同样的话说了两遍。他的话在静悄悄的白昼带着一种异样的声调反复着，使我一下子什么都答不上来了。
83	///然しその私だけにはこの直感が後になって事実の上に証拠立てられたのだから、私は若々しいと云われても、馬鹿気ていると笑われても、それを見越した自分の直覚をとにかく頼もしく又嬉しく思っている。	///而且也只有我这么一个人，因为后来这个直觉在事实上得到了证明，所以不管会被人家说成稚气也好，会被人家当傻瓜耻笑也好，我觉得能够预见到这点的我的直觉，总之是既可靠、又可喜的。
100	///若い私は全く自分の態度を自覚していなかった。それだから尊いのかも知れないが、もし間違えて裏へ出たとしたら、どんな結果が二人の仲に落ちて来たろう。私は想像してもぞっとする。先生はそれでなくても、冷たい眼で研究されるのを絶えず恐れていたのである。	///年轻的我，对自己的态度，完全是不自觉的。说不定就是因为这样，这种态度才值得尊敬。如果我错误地采取了和这相反的态度，那才不知道会有怎样的后果落在我们两人之间。这是只要想象一下，也会吓得使我打一寒噤的。因为尽管人家不是这样，先生也是不断地在担心着人家会用冷静的眼光去研究他的。
112	私は外の人からこう云われたらきっと癪に触ったろうと思う。然し先生にこう云われた時は、まるで反対であった。癪に触らないばかりでなく却って愉快だった。	如果别的人对我这么说，我想，我一定会生气的。可是听先生这么说，却完全相反，我不但不生气，反而感到愉快。
116	此所でもこの間の言葉が又先生の口から繰り返された。	在这里，先生又重复着前一回说过的话。
122	幸にして先生の予言は実現されずに済んだ。経験のない当時の私は、この予言の中に含まれている明白な意義さえ了解し得なかった。私は依然として先生に会いに行った。	幸而先生的预言终于没有实现。当时我还是个没有经验的人，连这句预言所含有的很明白的意义，也不能了解。我还是跟往日一样地去看先生。
125	ある時私は先生の宅で酒を飲まされた。その時奥さんが出て来て傍で酌をしてくれた。先生はいつもより愉快そうに見えた。	有一回在先生家里，先生请我喝酒。那时，太太也出来坐在旁边替我们斟酒。先生显得比平时愉快些。
145	ときたま御馳走になって、奥さんが席へ現わ	有时招待我吃饭，太太出来作陪，在这种场

	れる場合などには、この関係が一層明らかに二人の間に描き出される様であった。	合，他们两人的这种关系，就更明显了。
175	けれどもその疑いは一時限り何処かへ葬むられてしまった。	可是这种怀疑，只是在那时怀疑了一阵，过后也就消失得无影无踪了。
182	先生はまるで世間に名前を知られていない人であった。だから先生の学問や思想に就ては、先生と密切の関係を有っている私より外に敬意を払うもののあるべき筈がなかった。それを私は常に惜い事だと云った。	在社会上，先生压根儿是个不知名的人。所以除了和先生有密切关系的我以外，当然不会有人对先生的学问、思想表示敬意的。我常常提到这一点，认为很可惜。
183	先生の顔には深い一種の表情がありありと刻まれた。私にはそれが失望だか、不平だか、悲哀だか、解らなかったけれども、何しろ二の句の継げない程に強いものだったので、私はそれぎり何もいう勇気が出なかった。	这个时候，先生语调很沉着地说："无论如何我是个没有资格到社会上去活动的人，所以没有办法。"在先生的脸上，很明显地刻划出了一种深沉的表情。这种表情究竟算是失望呢，不平呢，还是悲哀呢，我就不明白了。不过，不管算什么，总之是非常有力的——有力到使人说不出第二句话来。因此我也没有勇气再说任何别的话，就这么算了。
219	私は急に驚ろかされた。何とも返事をしなかった。	我突然吃了一惊，什么话也没有回答。
240	「然し気を付けないと不可ない。恋は罪悪なんだから。私の所では満足が得られない代りに危険もないが、――君、黒い長い髪で縛られた時の心持を知っていますか」	"可是，不能不注意。因为恋爱是罪恶啊！在我这儿，你不能得到满足，但也没有什么危险。你可知道，一个人在被又黑又长的头发缚住以后，他的心情是怎样的呢？"
255	「あなたは熱に浮かされているのです。熱がさめると厭になります。私は今のあなたからそれ程に思われるのを、苦しく感じています。然しこれから先の貴方に起るべき変化を予想して見ると、猶苦しくなります」	"你是入迷了。如果冷静一下，就会讨厌我的。现在，你把我看重到这个程度，使我觉得苦痛。如果设想一下今后你将对我发生什么变化，我更觉得苦痛了。"
258	「気の毒だが信用されないと仰しゃるんですか」	"您是说抱歉尽管抱歉，可我这个人总归是不可信任的吗？"
268	「とにかくあまり私を信用しては不可ませんよ。今に後悔するから。そうして自分が欺むかれた返報に、残酷な復讐をするようになるものだから」	"总之，你不可以过分信任我。因为你不久就要后悔。并且你会为自己受了欺骗，作出残酷的复仇来回报我的。"
277	私の眼に映ずる先生はたしかに思想家であった。けれどもその思想家の纏め上げた主義の裏には、強い事実が織り込まれているらしかった。自分と切り離された他人の事実でなくって、自分自身が痛切に味わった事実、血が熱くなったり脉が止まったりする程の事実が、畳み込まれているらしかった。	在我看来，先生确是个思想家。可是在这个思想家所总结出来的主张里面，似乎还组入了一种强有力的事实。似乎还蕴藏着一种不是和自己毫不相关的别人的事实，而是自己本身所深切体会到的事实；一种足以使热血沸腾，也足以使脉搏停顿的事实。
279	すると二人の恋からこんな厭世に近い覚悟が出よう筈がなかった。「かつてはその人の前に跪ずいたという記憶が、今度はその人の頭の上に足を載せさせようとする」と云った先生の言葉は、現代一般の誰彼に就いて用いられるべきで、先生と奥さんの間には当てはまらないもののようでもあった。	既然这样，那么在两人的恋爱中间，就不会产生这种近乎厌世的觉悟。"你记得从前曾跪在那人面前，这一回，你就要把脚搁到他的头上去。"——先生说过的这句话，应该是对现代的一般人说的，在先生和太太之间好象不适用。
281	そうこうしているうちに、私は又奥さんと差向いで話しをしなければならない時機が来た。その頃は日の詰って行くせわしない秋に、誰も注意を惹かれる肌寒の季節であった。先生の附近で盗難に罹ったものが三四日続いて出た。盗難はいずれも宵の口であった。大したものを持	不知不觉间，我和太太面对面坐着谈话的机会又到来了。那是在日子一天比一天短下去的繁忙的秋天，是个谁都提心吊胆的身上感到冷簌簌的季节。三四天来，先生家附近地段接连有人家遭到盗窃。每次盗窃都是在天刚黑的时候发生的。虽然失掉贵重东西的人家几乎一

	って行かれた家は殆んどなかったけれども、這入られた所では必ず何か取られた。奥さんは気味をわるくした。そこへ先生がある晩家を空けなければならない事情が出来てきた。先生と同郷の友人で地方の病院に奉職しているものが上京したため、先生は外の二三名と共に、ある所でその友人に飯を食わせなければならなくなった。	家都没有，但是盗贼进来以后，却一定会拿走一些什么。太太有些害怕。凑巧有天晚上先生因事必须出去。先生有个同乡，在当地的医院里任职，这次到东京来了。先生和另外两三个人必须在某处请那朋友吃饭。
286	書斎には洋机と椅子の外に、沢山の書物が美くしい脊皮を並べて、硝子越に電燈の光で照らされていた。奥さんは火鉢の前に敷いた座蒲団の上へ私を坐らせて、「ちっと其所いらにある本でも読んでいて下さい」と断って出て行った。私は丁度主人の帰りを待ち受ける客のような気がして済まなかった。私は畏こまったまま烟草を飲んでいた。	书房里除了桌子和椅子以外，还有许多皮脊精装的书。电灯光穿过了玻璃，照在这些排摆着的漂亮的书脊上。太太让我坐到铺在火盆前面的垫子上，说声“那边有书，你看着消遣、消遣吧”，就辞退出去了。我觉得自己好象一个等主人回家的客人似的，心里很不自在。我毕恭毕敬地坐在那儿吸着纸烟。
300	「いいえ私も嫌われている一人なんです」	"不，我也是他所讨厌的一个人。”
304	「あなたは学問をする方だけあって、中々御上手ね。空っぽな理窟を使いこなす事が。世の中が嫌になったから、私までも嫌になったんだとも云われるじゃありませんか。それと同なじ理窟で」	"你真不愧是个研究学问的人，高明极了，能够把空洞的理论运用自如。不过，不是也可以说，由于讨厌了世界上所有的人，才连我都讨厌起来的吗？这和你所说的是同样的道理啊！”
311	私はまだその後にいうべき事を有っていた。けれども奥さんから徒らに議論を仕掛ける男のように取られては困ると思って遠慮した。奥さんは飲み干した紅茶茶碗の底を覗いて黙っている私を外らさないように、「もう一杯上げましょうか」と聞いた。私はすぐ茶碗を奥さんの手に渡した。	我还有可以接下去说的话。但是想到被太太当作跟她高谈阔论的人，那可不妙，因此有所顾虑。我朝已经喝干了红茶的茶碗底里瞧着，一句话也不说。太太好象不愿意冷淡我似地问我：“再喝一碗吗？”我立刻把茶碗递到太太手里。
316	「何かいうと又議論を仕掛けるなんて、叱り付けられそうですから」と私は答えた。	"怕说了什么话，又要受你指责，说是跟你高谈阔论呀！”我回答说。
333	「やっぱり先生から嫌われていると仰ゃるんですか」	"就是说，先生仍然讨厌你吗？”
334	「私は嫌われてるとは思いません。嫌われる訳がないんですもの。然し先生は世間が嫌なんでしょう。世間というより近頃では人間が嫌になっているんでしょう。だからその人間の一人として、私も好かれる筈がないじゃありませんか」	"我并不以为他讨厌我。因为他没有讨厌我的理由。然而，先生不是讨厌人世吗？而且到了最近，不但讨厌人世，竟是讨厌人类了。既然这样，那么作为人类一份子的我，不是也没有理由受到欢迎吗？”
335	奥さんの嫌われているという意味がやっと私に呑み込めた。	我对太太所谓受到讨厌的意义，好容易才能领会。
341	///私は自分の前に現われた女のために引き付けられる代りに、その場に臨んで却って変な反撥力を感じた。奥さんに対した私にはそんな気がまるで出なかった。普通男女の間に横わる思想の不平均という考も殆んど起らなかった。私は奥さんの女であるという事を忘れた。	///我不但没有被出现在自己面前的女人吸引过去，事到临头却会感到一种奇妙的、把女人弹回去的力量。而面对着太太的我，那种心情简直是完全没有的。普通那种横亘在男女之间的所谓思想不平衡的想法，也是几乎没有发生。我忘记太太是个女人。
351	「それだから困るのよ。あなたからそう云われると実に辛いんですが、私にはどう考えても、考えようがないんですもの。私は今まで何遍あの人に、どうぞ打ち明けて下さいって頼んで見たか分りゃしません」	"这才叫我为难啦！你这么说，叫我听了多难受！可是我千思万想，总是想不通。我请求他明白告诉我，到今天不知求过多少回了。”
357	「どうぞ隠さずに云って下さい。そう思われるのは身を切られるより辛いんだから」と奥さん	"别隐瞒，告诉我吧。如果说我有责任，就比刀剐还难受。”太太又说，“不过，我还是打定

	が又云った。「これでも私は先生のために出来るだけの事はしている積りなんです」	主意要尽可能为先生做些事。”
360	「私はとうとう辛防し切れなくなって、先生に聞きました。私に悪いところがあるなら遠慮なく云って下さい、改められる欠点なら改めるからって、すると先生は、御前に欠点なんかありゃしない、欠点はおれの方にあるだけだと云うんです。そう云われると、私悲しくなって仕様がないんです、涙が出て猶の事自分の悪いところが聞きたくなるんです」	"最后我还是耐不住问先生了：‘如果我有什么不好，请你说吧，不要顾虑。要是能够改正的缺点，我改正。’那时先生就回答我：‘你绝对没有什么缺点，缺点只是在我这边。’叫他这么一说，我什么办法都没有，不觉悲伤起来。我噙着泪，还是想知道自己究竟不好在哪里。”
366	奥さんは最初世の中を見る先生の眼が厭世的だから、その結果として自分も嫌われているのだと断言した。そう断言して置きながら、ちっとも其所に落ち付いていられなかった。底を割ると、却ってその逆を考えていた。先生は自分を嫌う結果、とうとう世の中まで厭になったのだろうと推測していた。	太太判断先生，说他最初用来观察人世的眼光就是厌世的，所以结果连得太太也被讨厌在内了。她这样断言，却并没有能够就此安定下来。揭穿了说，她所想的，正巧相反：太太猜测先生也许因为讨厌了太太，才对整个人世都生厌的。
380	「みんなは云えないのよ。みんな云うと叱られるから。叱られないところだけよ」	"我可不能全部告诉你呢！全说了要受责备，只能说些不会受责备的。”
391	私は私のつらまえた事実の許す限り、奥さんを慰めようとした。奥さんもまた出来るだけ私によって慰さめられたそうに見えた。それで二人は同じ問題をいつまでも話し合った。けれども私はもともと事の大根を攫んでいなかった。奥さんの不安も実は其所に漂よう薄い雲に似た疑惑から出て来ていた。事件の真相になると、奥さん自身にも多くは知れていなかった。知れているところでもすっかりは私に話す事が出来なかった。従って慰さめる私も、慰さめられる奥さんも、共に波に浮いて、ゆらゆらしていた。ゆらゆらしながら、奥さんは何処までも手を出して、覚束ない私の判断に縋り付こうとした。	我在我已经掌握的事实所许可的范围内，极力安慰太太。太太也好象尽可能接受了我的安慰似的。我们两人就这样环绕同一问题一直谈下去。但是我根本没有抓住事情的主要原因。太太心中的不安，实在也是从漂荡在这上面的浮云似的疑惑中产生的。至于事件的真相，连太太自己也有许多地方不知道。她知道了的，也不能全部告诉我。所以在安慰别人的我，和在受我安慰的太太，同样是在波浪上漂浮似地颠簸不定的。然而同样是在颠簸，太太却始终伸着手，还是想求援于并不可靠的我的判断。
392	十時頃になって先生の靴の音が玄関に聞こえた時、奥さんは急に今までの凡てを忘れたように、前に坐っている私を其方退けにして立ち上った。そうして格子を開ける先生を殆んど出合頭に迎えた。私は取り残されながら、後から奥さんに尾いて行った。下女だけは仮寐でもしていたと見えて、ついに出て来なかった。	到了十点钟光景，听到门外有先生的皮鞋声音。这时候，太太突然象忘记了以前的一切似的，丢开坐在她面前的我，站起身来，急急忙忙地迎出去。赶到门口，和刚刚拉开格子门的先生几乎撞个满怀。我虽然被她丢下了，随后也跟着走出来。只有那个女佣，大概是在打瞌睡吧，竟没有出来。
393	先生は寧ろ機嫌がよかった。然し奥さんの調子は更によかった。今しがた奥さんの美くしい眼のうちに溜った涙の光と、それから黒い眉毛の根に寄せられた八の字を記憶していた私は、その変化を異常なものとして注意深く眺めた。もしそれが詐りでなかったならば、（実際それは詐りとは思えなかったが）、今までの奥さんの訴えは感傷を玩ぶためにとくに私を相手に拵えた、徒らな女性の遊戯と取れない事もなかった。尤もその時の私には奥さんをそれ程批評的に見る気は起らなかった。	先生倒很高兴，可是太太显得更高兴。太太那美丽的眼眶中，刚才还噙着泪珠，闪着光芒；太太那黑黑的眉尖，刚才还皱得象个“八”字。记得那些情况的我，把这个变化当作一件不平常的事，用心瞧着。如果这种高兴不是虚伪的（实际上也不能设想为虚伪），那么刚才太太的诉苦，说是一种游戏——淘气的女性为了玩弄感伤、特地把我作为对象而造作出来的游戏，也未始不可。不过当时的我，没有想到要用这么深刻的、批评的眼光来看待太太。
440	先生の返事が来た時、私は一寸驚ろかされた。ことにその内容が特別の用件を含んでいなかった時、驚ろかされた。先生はただ親切ずく	接到先生回信的时候，我稍微有些惊异。尤其因为信里没有写着什么特别的事情而使我惊异。我想，先生只是为了表示亲切才给我

	で、返事を書いてくれたんだと私は思った。そう思うと、その簡単な一本の手紙が私には大層な喜びになった。尤もこれは私が先生から受取った第一の手紙には相違なかったが。	写回信的吧。这么一想，那封简短的信对我又变成了莫大的喜悦。不过，这是我从先生那里收到的第一封信，那决没有错。
449	私は東京の事を考えた。そうして漲る心臓の血潮の奥に、活動々々と打ちつづける鼓動を聞いた。不思議にもその鼓動の音が、ある微妙な意識状態から、先生の力で強められているように感じた。	我思量着东京的事情。还听到在我心脏中高涨起来的血潮深处，有一种连续不断的“活动啊！活动啊！”的鼓煽的声音。不可思议地，通过某种微妙的意识状态，又使我感到好象还有先生的力量在加一把劲。
450	私は心のうちで、父と先生とを比較して見た。両方とも世間から見れば、生きているか死んでいるか分らない程大人しい男であった。他に認められるという点からいえば何方も零であった。それでいて、この将碁を差したがる父は、単なる娯楽の相手としても私には物足りなかった。かつて遊興のために往来をした覚のない先生は、歓楽の交際から出る親しみ以上に、何時か私の頭に影響を与えていた。	我在心里把父亲和先生作了个对比。叫外头人看起来，他们俩都是老实到极点，几乎使人分不清是死的还是活的。在受不受到别人重视这一点上，他们俩又都是得的零分。然而对我说起来，这个喜欢下将棋的父亲，仅仅作为娱乐的对手，也还不能使我满意。而那个先生呢，虽然在我记忆中从来没有和他为玩乐而往来的事，但已在不知不觉间，比欢娱的交际所带来的亲密更深刻地影响着我的头脑。
451	///ただ頭というのはあまりに冷か過ぎるから、私は胸と云い直したい。肉のなかに先生の力が喰い込んでいると云っても、血のなかに先生の命が流れていると云っても、その時の私には少しも誇張でないように思われた。私は父が私の本当の父であり、先生は又いうまでもなく、あかの他人であるという明白な事実を、ことさらに眼の前に並べて見て、始めて大きな真理でも発見したかの如くに驚ろいた。	///我只是说“头脑”，未免太轻描淡写了。我得改说做“内心”才对。即使说在我的肌肉中渗透了先生的力量，在我的血液中奔流着先生的生命，对于那时的我，好象也一点都不夸张。父亲是我的骨肉至亲，先生对我来说是个彻头彻尾的外人。我特地把这个事实放在眼前看了看，才象发现了什么伟大的真理似地吃了一惊。
452	私がのっそつし出すと前後して、父や母の眼にも今まで珍らしかった私が段々陳腐になって来た。これは夏休みなどに国へ帰る誰でもが一様に経験する心持だろうと思うが、当座の一週間位は下にも置かないように、ちやほや歓待されるのに、その峠を定規通り通り越すと、あとはそろそろ家族の熱が冷めて来て、仕舞には有っても無くっても構わないもののように粗末に取扱かわれ勝になるものである。	我开始想离开家里，一时却又下不了决心。起初我在父母眼里是很新奇宝贵的，就在和这差不多的时候，也渐渐地变得陈旧起来了。我想，这种心情大概是在暑假期内或是其他什么时候回乡去的人都体验过的吧。在刚刚回家的一星期左右，受到了非常周到的体贴和奉承，而在过了这个高峰以后，家里人的热情就会依照一定的规律慢慢地冷下来。到末了往往简慢得好象把你当作一个在也好、不在也好的人。
454	父の病気は幸い現状維持のままで、少しも悪い方へ進む模様は見えなかった。念のためにわざわざ遠くから相当の医者を招いたりして、慎重に診察して貰ってもやはり私の知っている以外に異状は認められなかった。私は冬休みの尽きる少し前に国を立つ事にした。立つと云い出すと、人情は妙なもので、父も母も反対した。	幸而父亲的病老是维持着原状，丝毫没有向坏的方面进展的现象。为了小心起见，我特地从远方请来一位本领相当好的医生，可是经他慎重地诊察以后，除了我所已经知道的以外，也诊察不出什么变化。我决定不等寒假期满，早些离开故乡。然而人情真是奇妙的东西，当我一开口说要动身离家，父亲也反对，母亲也反对。
461	東京へ帰って見ると、松飾はいつか取払われていた。町は寒い風の吹くに任せて、何処を見てもこれという程の正月めいた景気はなかった。	回到东京一看，人家门口的松饰不知在什么时候已经撤除。街上尽刮着凛冽的寒风。走到哪儿也瞧不到什么象个新年的景象。
462	椎茸は新らしい菓子折に入れてあった。鄭寧に礼を述べた奥さんは、次の間へ立つ時、その折を持って見て、軽いのに驚ろかされたのか、「こりゃ何の御菓子」と聞いた。奥さんは懇意になると、こんなところに極めて淡泊な小供らしい心を見せた。	香菇装在一个新的点心盒子里。太太一再道谢，正要到隔壁房间去的时候，她拿起盒子看了看，也许由于轻得使她吃惊吧，问我说：“这是什么点心呀？”太太这个人，她跟你熟了以后，会在这些地方流露出极其天真的孩子似的心情。
466	「自分で病気に罹っていながら、気が付かない	"得了这个病的人，自身不知不觉，满不在

	で平気でいるのがあの病の特色です。私の知ったある士官は、とうとうそれで遣られたが、全く嘘のような死に方をしたんですよ。何しろ傍に寐ていた細君が看病をする暇もなんにもない位なんですからね。」	乎地一天天过去，这就是这个病的特点。我认识一个军官，他后来竟把性命断送在这个病上。他的死法，人家听了真是不能相信。说是睡在他身旁的太太连得看护他都来不及。”
480	「すると殺されるのも、やはり不自然な暴力の御蔭ですね」	"这么说，被杀的人，也是沾了非自然暴力的光啦。”
481	「殺される方はちっとも考えていなかった。成程そういえばそうだ」	"被杀的人是什么都没有想到的。的确，你要这样说，也没有不对。”
494	「まだあるという程の理由でもないが、以前はね、人の前へ出たり、人に聞かれたりして知らないと耻のように極が悪かったものだが、近頃は知らないという事が、それ程の耻でないように見え出したものだから、つい無理にも本を読んで見ようという元気が出なくなったのでしょう。まあ早く云えば老い込んだのです」	"也没有什么值得再特别一提的理由，只是以前到别人面前去，如果问到我什么事我不知道，就以为可耻似地感到拉不下脸，近来发觉不知道也不怎么可耻。这就使我变得鼓不起劲头去硬下苦功读书了吧。说得直截了当些，我是在衰老了。”
496	それからの私は殆んど論文に祟られた精神病者の様に眼を赤くして苦しんだ。私は一年前に卒業した友達に就いて、色々様子を聞いて見たりした。そのうちの一人は締切の日に車で事務所へ馳けつけて漸く間に合わせたと云った。他の一人は五時を十五分程後らして持って行ったため、危うく跳ね付けられようとしたところを、主任教授の好意でやっと受理して貰ったと云った。私は不安を感ずると共に度胸を据えた。毎日机の前で精根のつづく限り働らいた。	从此以后，我就象个受了论文的鬼祟而害着神经病的人，红着眼睛受苦。有时我去访问一年前毕业的朋友，打听各种情况。其中有一个，说是在截止的那天，雇车疾驰到办公室，才算赶上了时间。还有一个，刚过五点拿去，只迟了大约十五分钟，正在千钧一发眼看要被拒绝时，得到系主任帮忙，才算承蒙收下。我感到忐忑　不安，同时又壮壮胆子。我每天朝着书桌，尽自己的精力继续工作。
497	梅が咲くにつけて寒い風は段々向を南へ更えて行った。それが一仕切経つと、桜の噂がちらほら私の耳に聞こえ出した。それでも私は馬車馬のように正面ばかり見て、論文に鞭たれた。私はついに四月の下旬が来て、やっと予定通りのものを書き上げるまで、先生の敷居を跨がなかった。	随着梅花的绽放，寒风也渐渐地改向南吹了。过了这一段时期，关于樱花的消息又断断续续地传入我的耳鼓。可我还象匹驾着车的马，被论文鞭策着一往直前。到了四月下旬，总算依照预定，好容易脱了稿。在这之前，我没去先生家。
508	やがて若葉に鎖ざされたように蓊鬱した小高い一構の下に細い路が開けた。門の柱に打ち付けた標札に何々園とあるので、その個人の邸宅でない事がすぐ知れた。先生はだらだら上りになっている入口を眺めて、「這入って見ようか」と云った。私はすぐ「植木屋ですね」と答えた。	不多一会，有条小路展开在我们面前。那小路是在一所仿佛被新叶所包围的阴暗而略高的房屋下边。大门旁的柱子上钉着一块牌子，写着“某某园”。我们立刻知道这不是私人的宅第。进门是条不很陡的长坡道，先生在门口张望了一下说：“进去瞧瞧吗？”我立刻应声说：“是家卖花的花圃吧。”
513	芍薬も十坪あまり一面に植付けられていたが、まだ季節が来ないので花を着けているのは一本もなかった。この芍薬畠の傍にある古びた縁台のようなものの上に先生は大の字なりに寐た。私はその余った端の方に腰を卸して烟草を吹かした。先生は蒼い透き徹るような空を見ていた。私は私を包む若葉の色に心を奪われていた。その若葉の色をよくよく眺めると、一々違っていた。同じ楓の樹でも同じ色を枝に着けているものは一つもなかった。細い杉苗の頂に投げ被せてあった先生の帽子が風に吹かれて落ちた。	一块十坪多一点儿的地上，种满了芍药。但是没到开花的季节，没见着了花的茎。在这畦芍药旁边，放着一条旧的长凳样的东西。先生就在这上面躺下，躺得象个“大”字。我也坐在长凳空着的一端，抽起烟来。先生注视着蔚蓝清澈的天空，我也被周围新叶的颜色吸引住了。这种新叶的颜色，仔细一看，是各不相同的。同是枫树，枝头的叶色却没有一株相同。先生的帽子，扔在一株并不粗壮的杉树苗顶上，被风一吹，掉了下来。
547	私は先生の言葉に大した注意を払わなかった。私の家庭でそんな心配をしているものは、	我不大注意先生的话。我相信，在我家庭里，不单是我，父亲也好，母亲也好，没有一

	私に限らず、父にしろ母にしろ、一人もないと私は信じていた。その上先生のいう事の、先生として、あまりに実際的なのに私は少し驚ろかされた。然し其所は年長者に対する平生の敬意が私を無口にした。	个人担心这种问题。而且先生的话，就先生说也是太偏重实际了，使我未免有些惊奇。可是那时由于我对年长的人向来怀着的敬意，又使我没有开口。
575	犬と小供が去ったあと、広い若葉の園は再び故の静かさに帰った。そうして我々は沈黙に鎖ざされた人の様にしばらく動かずにいた。うるわしい空の色がその時次第に光を失なって来た。眼の前にある樹は大概楓であったが、その枝に滴るように吹いた軽い緑の若葉が、段段暗くなって行く様に思われた。	狗和小孩走了以后，那所宽广的满目新叶的花园又回复了原来的静寂。我们好比是被锁闭在沉默中间的人，暂时都没有动静。那时，艳丽的天色逐渐消失了光彩。眼前的树木大都是枫树，树枝上苍翠欲滴地萌生着新叶，它那一片嫩绿的颜色也仿佛在逐渐暗淡下去。
580	「この羽織はつい此間拵らえたばかりなんだよ。だから無暗に汚して帰ると、妻に叱られるからね。有難う」	"这件褂子是最近才做的。倘若随随便便给弄脏了，回去我太太会责怪的。谢谢你”
602	それでも所々宅地の隅などに、豌豆の蔓を竹にからませたり、金網で鶏を囲い飼いにしたりするのが閑静に眺められた。市中から帰る駄馬が仕切りなく擦れ違って行った。こんなものに始終気を奪られがちな私は、さっきまで胸の中にあった問題を何処かへ振り落してしまった。先生が突然其処へ後戻りをした時、私は実際それを忘れていた。	不过有些地方在宅地的边上、角上，还能悠然地看到缠绕在竹竿上的豌豆蔓和圈养在铁丝网里的鸡之类。从都市里回来的驮东西的马，常常和我们相错而过。我的注意力也不断地被这些东西吸引去，刚才我胸中存在着的那个问题，这时不知道丢到哪儿去了。在先生突然又把话扯回去的时候，说实在的，我倒已经忘了这个问题。
607	「私は他に欺むかれたのです。しかも血のつづいた親戚のものから欺むかれたのです。私は決してそれを忘れないのです。私の父の前には善人であったらしい彼等は、父の死ぬや否や許しがたい不徳義漢に変ったのです。私は彼等から受けた屈辱と損害を小供の時から今日まで脊負わされている。恐らく死ぬまで脊負わされ通しでしょう。私は死ぬまでそれを忘れる事が出来ないんだから。」	"我是受了旁人欺骗。而且是受了骨肉至亲的欺骗。我决不会忘记这件事。他们在我父亲面前，象是好人，可是当我父亲一死，就变成无可饶恕的忘恩负义的坏人了。他们使我从小时候直到现在，背负着他们加给我的屈辱和损害。也许要我一直背到死吧。因为我到死也不会忘记这件事啊！”
620	「別問題とは思われません。先生の過去が生み出した思想だから、私は重きを置くのです。二つのものを切り離したら、私には殆んど価値のないものになります。私は魂の吹き込まれていない人形を与えられただけで、満足は出来ないのです」	"我觉得不是另外的问题。先生的思想，是先生的过去生成的，所以我倒是把重点放在这上面。如果把两样东西分割开了，对我就几乎毫无价值。如果仅仅给我一个没有附上灵魂的泥人，那是不能使我满足的。”
634	卒業式の日、私は黴臭くなった古い冬服を行李の中から出して着た。式場にならぶと、どれもこれもみな暑そうな顔ばかりであった。私は風の通らない厚羅紗の下に密封された自分の身体を持て余した。しばらく立っているうちに手に持ったハンケチがぐしょぐしょになった。	在举行毕业典礼那天，我从衣箱里取出霉臭的旧冬服穿上。一到礼堂和同学们并肩站好，只看见每个人面上都现出热不可耐的神情。我对自己被封闭在密不通风的厚呢里的身体，也真是爱莫能助。站在那儿没有多久，我手里拿的手绢儿已经湿漉漉了。
636	私はその晩先生の家へ御馳走に招かれて行った。これはもし卒業したらその日の晩餐は余所で喰わずに、先生の食卓で済ますという前からの約束であった。	那天晚上，先生邀我到他家里去吃饭。这是老早就约好的，说是如果毕业了，毕业那天的晚饭不要到别处而要到先生家的饭桌上去吃。
636	私はその晩先生の家へ御馳走に招かれて行った。これはもし卒業したらその日の晩餐は余所で喰わずに、先生の食卓で済ますという前からの約束であった。	那天晚上，先生邀我到他家里去吃饭。这是老早就约好的，说是如果毕业了，毕业那天的晚饭不要到别处而要到先生家的饭桌上去吃。
637	食卓は約束通り座敷の縁近くに据えられてあった。模様の織り出された厚い糊の硬い卓布	那张饭桌，照约好的那样，放在会客室里靠近走廊的一边。用重浆浆洗得硬　邦邦的织花

	が美くしくかつ清らかに電燈の光を射返していた。先生のうちで飯を食うと、きっとこの西洋料理店に見るような白いリンネルの上に、箸や茶碗が置かれた。そうしてそれが必ず洗濯したての真白なものに限られていた。	台布，又漂亮又洁净地反射着电灯的光芒。在先生家里吃饭，碗筷总是放在这么一张跟西菜馆里一样的白麻布上。而且这又一定是张刚洗过的雪白的台布。
639	こう云われて見ると、成程先生は潔癖であった。書斎なども実に整然と片付いていた。無頓着な私には、先生のそういう特色が折々著るしく眼に留まった。	听到这么一说，我才想起先生有洁癖。例如在书房里，确实是收拾得整整齐齐。我是马虎惯的，先生的这个特色，常常明显地落在我眼里。
653	奥さんの方でも思い切って遠慮のない事を云うことがあった。然しその日は、時候が時候なので、そんなに調戯われる程食慾が進まなかった。	太太有时候也毅然决然地说些不客气的话。可是那一天呢，季节也有关系，我的食欲不象她打趣的那么旺盛。
660	私にはただ卒業したという自覚があるだけで、これから何をしようという目的もなかった。返事にためらっている私を見た時、奥さんは「教師？」と聞いた。それにも答えずにいると、今度は、「じゃ御役人？」と又聞かれた。私も先生も笑い出した。	我只知道自己已经毕业，至于以后将要做些什么，那可没有一个目标。这时太太见我迟疑着答不上来，就问我："是当教师吗？"我还是没有回答。又改口问我："那么做官？"我和先生都笑起来了。
738	先生はいくらとも云わなかった。けれども先生の話は、容易に自分の死という遠い問題を離れなかった。そうしてその死は必ず奥さんの前に起るものと仮定されていた。奥さんも最初のうちは、わざとたわいのない受け答えをしているらしく見えた。それが何時の間にか、感傷的な女の心を重苦しくした。	先生没有说出能值几个钱。但是先生的话也没有轻易离开自己的死这一遥远的问题。而且还假定他一定会死在太太前头。太太起初好象是故意胡说八道地应付着，而在不知不觉间，那颗容易伤感的女人的心，却变得抑郁起来。
743	私は挨拶をして格子の外へ足を踏み出した。玄関と門の間にあるこんもりした木犀の一株が、私の行手を塞ぐように、夜陰のうちに枝を張っていた。私は二三歩動き出しながら、黒ずんだ葉に被われているその梢を見て、来るべき秋の花と香を想い浮べた。私は先生の宅とこの木犀とを、以前から心のうちで、離す事の出来ないもののように、一所に記憶していた。	我也客套几句，跨出门外。正门和外边大门之间，有棵繁茂的桂树，在黑夜里伸开了树枝，象要拦阻我的去路。我走了两三步，边走边看看那棵树的树顶覆盖着绿得发黑的叶子，不由地想起到秋天时的花朵和香味。我一向把先生的家和这棵桂树当作两样不可分离的东西，一起记在心里。
744	彼は私を無理やりにある酒場へ連れ込んだ。私は其所で麦酒の泡のような彼の気粉を聞かされた。私の下宿へ帰ったのは十二時過であった。	他硬把我拉进一家酒店。我在那里领教了他那种象啤酒的泡沫一样气势惊人的议论。当我回到寓所时，已经过了十二点了。
754	私はそうした矛盾を汽車の中で考えた。考えているうちに自分が自分に気の変りやすい軽薄もののように思われて来た。私は不愉快になった。私は又先生夫婦の事を想い浮べた。ことに二三日前晩食に呼ばれた時の会話を憶い出した。	我在车厢里回忆着这种矛盾的心情。在回忆的时候，我逐渐觉得自己仿佛是个变化无常的虚伪的人。我不愉快了。我又想起先生夫妇，特别是想到两三天前招待我吃晚饭时的谈话。
768	父はこの言葉を何遍も繰り返した。私は心のうちでこの父の喜びと、卒業式のあった晩先生の家の食卓で、「御目出とう」と云われた時の先生の顔付とを比較した。私には口で祝ってくれながら、腹の底でけなしている先生の方が、それ程にもないものを珍らしそうに嬉しがる父よりも、却って高尚に見えた。私は仕舞に父の無知から出る田舎臭いところに不快を感じ出した。	父亲把这句话重复了好几遍。我心里暗自把父亲的高兴，和举行毕业典礼那天在先生家的晚餐席上对我说："恭喜恭喜"时先生的表情对比了一下。我觉得那个嘴里在祝贺我、肚子里在讥诮我的先生，比这个对并没有什么了不起的事很希罕地高兴得不得了的父亲，倒是要显得高尚些。最后，我对父亲这种出于愚昧无知的乡下派头，开始感到不愉快了。
774	///大きな考を有っている御前から見たら、高	///你是个抱着远大理想的人，从你眼里看起

	が大学を卒業した位で、結構だ結構だと云われるのは余り面白くもないだろう。然しおれの方から見て御覧、立場が少し違っているよ。つまり卒業は御前に取ってより、このおれに取って結構なんだ。解ったかい」	来，最多不过是大学毕业，听我‘好哇好哇’一说，就觉得不大对劲吧。但是你且替我想一想看，立场可有些不同呢！就是说，毕业对于你还不如对于我好啊！你懂得吗？”
775	私は鞄の中から卒業証書を取り出して、それを大事そうに父と母に見せた。証書は何かに圧し潰されて、元の形を失っていた。父はそれを鄭寧に伸した。	我从皮包中取出毕业证书，郑重其事地把它拿给父亲和母亲看。证书被什么东西压皱，已经不是原来的样子了。父亲小心地把它展开。
778	適当な位置に置かれるや否や、すぐ己れに自然な勢を得て倒れようとした。	刚刚放到适当的位置，立刻又借着它本身的自然之势，要向下倒。
794	私は急に父が居なくなって母一人が取り残された時の、古い広い田舎家を想像して見た。この家から父一人を引き去った後は、そのままで立ち行くだろうか。兄はどうするだろうか。母は何というだろうか。そう考える私は又此所の土を離れて、東京で気楽に暮らして行けるだろうか。私は母を眼の前に置いて、先生の注意——父の丈夫でいるうちに、分けて貰うものは、分けて貰って置けという注意を、偶然思い出した。	我想象着父亲突然去世，剩下母亲一个人时，这所古旧而宽敞的带有农家风味的房屋将是怎么个情况。在这所房屋里减去父亲以后，还能照旧维持下去吗？哥哥会怎么办呢？母亲会说些什么呢？这么想着，我还能够离开这块土地，在东京逍遥自在地生活下去吗？我在母亲面前，忽然想起了先生嘱咐我的话：趁父亲健在的时候，把可以分得的财产趁早分到手。
811	「つまり私のためなら、止して下さいと云うだけなんです。陰で何か云われるのが厭だからという御主意なら、そりゃ又別です。あなたがたに不利益な事を私が強いて主張したって仕方がありません」	″我只是说：如果这是为了我，那就可以不必。如果您老人家认为被他们在背后说长道短讨厌，这又当别论。对你们不利的事，纵然我硬作主张，那也没有办法。”
812	「そう理窟を云われると困る」	″你这样跟我讲道理，我可为难啦。”
834	こういう父の顔には深い掛念の曇がかかっていた。こう云われる私の胸には又父が何時斃れるか分らないという心配がひらめいた。	父亲在这么说的时候，脸上笼罩着忧心忡忡的阴云。我听父亲这么说，胸中也掠过了一阵不安，担忧父亲会在什么时候去世。
844	父の元気は次第に衰ろえて行った。私を驚ろかせたハンケチ付の古い麦藁帽子が自然と閑却されるようになった。私は黒い煤けた棚の上に載っているその帽子を眺めるたびに、父に対して気の毒な思をした。	父亲的精神一天比一天不行。曾经使我吃了一惊的那顶系着手巾的旧草帽，自然也就丢在一边了。我每逢看到那顶帽子搁在被煤烟熏黑的架子上，就会觉得父亲可怜。
849	時間に束縛を許さない悠長な田舎に帰った私は、御蔭で好もしくない社交上の苦痛から救われたも同じ事であったが、私を理解しない母は少しも其所に気が付いていないらしかった。	在悠闲的乡村里，是不受时间约束的。我回来以后就是叨了这一点光，才避免了我所讨厌的那种社交上的苦痛。然而母亲不了解我，她好象丝毫也没有注意到这一点。
850	崩御の報知が伝えられた時、父はその新聞を手にして、「ああ、ああ」と云った。	皇上驾崩的消息传到的时候，父亲把那张报纸拿在手里，
852	旗も黒いひらひらも、風のない空気のなかにだらりと下った。私の宅の古い門の屋根は藁で葺いてあった。雨や風に打たれたり又吹かれたりしたその藁の色はとくに変色して、薄く灰色を帯びた上に、所々の凸凹さえ眼に着いた。	在无风的空气中，那面旗子和黑色的飘带都一动不动地耷拉着。我家古旧的大门，门楼的顶是用稻草盖的。经过风吹雨打，稻草的颜色早就变了，不但带着点淡灰色，还凹凹凸凸的很显眼。
853	私の郷里の方とは大分趣が違っていますかね」と聞かれた事を思い出した。私は自分の生れたこの古い家を、先生に見せたくもあった。又先生に見せるのが耻ずかしくもあった。	我想起先生曾经问过我：“你家房屋的结构是什么式样的呢？跟我家乡的那种式样意趣大不相同吧。”我想请先生看看这所诞生我的古老的房屋，但又觉得让先生看到了使我害羞。
854	私は又一人家のなかへ這入った。自分の机の置いてある所へ来て、新聞を読みながら、遠い東京の有様を想像した。私の想像は日本一の大きな都が、どんなに暗いなかでどんなに動いて	我又单身走进屋内，来到了安放自己书桌的地方。我一边看报，一边想象着遥远的东京的情况。我的想象集中在这个日本第一大都市在怎样的黑暗中怎样活动的画面上。我在那个

	いるだろうかの画面に集められた。私はその黒いなりに動かなければ仕末のつかなくなった都会の、不安でざわざわしているなかに、一点の燈火の如くに先生の家を見た。私はその時この燈火が音のしない渦の中に、自然と捲き込まれている事に気が付かなかった。しばらくすれば、その灯もまたふっと消えてしまうべき運命を、眼の前に控えているのだとは固より気が付かなかった。	黑沉沉的情景中，在不活动就不可收拾的都市的不安和吵嚷中，象一盏灯火似地发现了先生的家。我在那时没有注意到这盏灯火正在自然而然地被卷进一个无声的漩涡。当然更没有注意到这盏灯火面临的命运，竟是不久就要噗地一下子熄灭。
864	「然し卒業した以上は、少くとも独立して遣って行ってくれなくっちゃ此方も困る。人からあなたのところの御二男は、大学を卒業なすって何をして御出ですかと聞かれた時に返事が出来ない様じゃ、おれも肩身が狭いから」	″不过你既然已经毕业，就至少应该独立生活，要不然我们也为难。如果人家问起‘你家二少爷大学毕业后有什么高就’，我哑口无言，也是丢脸的事啊！”
865	父は渋面をつくった。父の考えは古く住み慣れた郷里から外へ出る事を知らなかった。その郷里の誰彼から、大学を卒業すればいくら位月給が取れるものだろうと聞かれたり、まあ百円位なものだろうかと云われたりした父は、こういう人々に対して、外聞の悪くないように、卒業したての私を片付けたかったのである。	父亲沉着脸，显得很不满意。父亲的想法不能够越出他向来住惯了的家乡。而家乡的亲友们，有人问他“大学毕业后能赚多少钱一月”，有人在猜测“大概能赚百来块钱吧”，对于这批人，父亲只有希望刚毕业的我有个着落，不要把名誉给弄坏了。
886	学問をした結果兄は今遠国にいた。教育を受けた因果で、私は又東京に住む覚悟を固くした。こういう子を育てた父の愚痴はもとより不合理ではなかった。永年住み古した田舎家の中に、たった一人取り残されそうな母を描き出す父の想像はもとより淋しいに違いなかった。	哥哥研究学问的结果，现在留居远地，我因为受了教育，也下定决心要住在东京。父亲养大的都是这样的孩子，他的牢骚当然不是不合理的。父亲在想象中描绘出一个孤零零的母亲，将被遗留在那所住了多年的农家房屋里，他的想象当然是够凄凉的。
910	父はこの外にもまだ色々の小言を云った。その中には、「昔の親は子に食わせて貰ったのに、今の親は子に食われるだけだ」などという言葉があった。それ等を私はただ黙って聞いていた。	除此以外，父亲还说了各种怨言。说什么“从前的父母是受儿子供养的，现在的父母却老是供养儿子”之类的话。我对这些话只好静听着不作声。
918	私は殆んど父の凡ても知り尽していた。もし父を離れるとすれば、情合の上に親子の心残りがあるだけであった。先生の多くはまだ私に解っていなかった。話すと約束されたその人の過去もまだ聞く機会を得ずにいた。要するに先生は私にとって薄暗かった。	父亲的一切，我几乎全都知道。如果我离开了父亲，我只是在人情上有一种父子之间的牵挂。先生的大部分，我还没有了解。约好要把他的过去说给我听，还没有听的机会。总之，我感到先生这个人是暧昧的。
922	父は風呂へ入ったところであった。父の脊中を流しに行った母が大きな声を出して私を呼んだ。私は裸体のまま母に後から抱かれている父を見た。それでも座敷へ伴れて戻った時、父はもう大丈夫だと云った。	我看到父亲赤条条的让母亲从背后扶住了他。但是把他搀回房间里的时候，父亲说：“已经不要紧了。”
934	私は自分の部屋に這入って、其所に放り出された行李を眺めた。行李は何時持ち出しても差支ないように、堅く括られたままであった。私はぼんやりその前に立って、又縄を解こうかと考えた。	我走进自己的房间，望着扔在一旁的行李。行李还是捆得结结实实的，任何时候都可以搬走。我呆呆地站在行李前面，考虑着是否重新把绳子解开。
946	兄は忙がしい職にいた。妹は妊娠中であった。だから父の危険が眼の前に逼らないうちに呼び寄せる自由は利かなかった。と云って、折角都合して来たには来たが、間に合わなかったと云われるのも辛かった。私は電報を掛ける時機について、人の知らない責任を感じた。	哥哥担任着一个忙碌的职务。妹妹正巧怀着身孕。因此，在父亲的病还没有到千钧一发的时候，我不能随随便便把他们叫来。但是，如果他们特地把一切事情安排好了赶来，却没有赶上时间，这被他们责怪起来，又是吃不消的。究竟在什么时候打电报，我感到了别人不

		能体会到的责任。
962	こうした落付のない間にも、私はまだ静かに坐る余裕を有っていた。偶には書物を開けて十頁もつづけざまに読む時間さえ出て来た。一旦堅く括られた私の行李は、何時の間にか解かれてしまった。私は要るに任せて、その中から色々なものを取り出した。私は東京を立つ時、心のうちで極めた、この夏中の日課を顧みた。私の遣った事はこの日課の三ガ一にも足らなかった。私は今までもこういう不愉快を何度となく重ねて来た。然しこの夏程思った通り仕事の運ばない例も少なかった。これが人の世の常だろうと思いながらも私は厭な気持に抑え付けられた。	在这种心神不宁的时候，我却仍然有余暇静静地坐一会儿，甚至偶尔还能偷闲打开书来一口气看它个十来页。一度被捆得结结实实的我的行李，不记得在什么时候已经打开了。我随着需要，从行李中取出了种种东西。我回顾了一下离开东京时心里盘算好的今年整个夏季每天要做的功课。我已经做的，还不到这个日课计划的三分之一。以前我也曾不止一次地经验过这种不愉快，可是象今年夏天这样不能依照预定进行工作的前例，倒也少有。尽管我也想到："恐怕这才是人世间的常态吧。"但我还是被一种不开心的情绪压倒了。
973	役に立たない手紙を何通書こうと、それが母の慰安になるなら、手数を厭うような私ではなかった。けれどもこういう用件で先生にせまるのは私の苦痛であった。私は父に叱られたり、母の機嫌を損じたりするよりも、先生から見下げられるのを遙かに恐れていた。あの依頼に対して今まで返事の貰えないのも、或はそうした訳からじゃないかしらという邪推もあった。	尽管是没有效果的信，如果它对母亲是个安慰的话，那么任凭要写多少封，我也不是一个嫌麻烦的人。不过拿这种事情去强求先生，那是我的苦楚。被先生瞧不起，远比受父亲责骂和使母亲难过要可怕得多。有时我还猜疑我所请托的事到现在还没有得到回信，也许就因为这个缘故。
992	兄と前後して着いた妹の夫の意見は、我々よりもよほど楽観的であった。父は彼に向って妹の事をあれこれと尋ねていた。「身体が身体だから無暗に汽車になんぞ乗って揺れない方が好い。無理をして見舞に来られたりすると、却って此方が心配だから」と云っていた。「なに今に治ったら赤ん坊の顔でも見に、久し振に此方から出掛るから差支ない」とも云っていた。	和哥哥前后脚儿来到的妹夫，他的意见比我们更要乐观得多。父亲向他问长问短地问着妹妹的情况。父亲说："身体到底是身体，还是不要不顾前后地坐着火车颠颠簸簸的好，如果叫她勉强来探望我，反而使我操心。"又说："有什么关系呢，我也好久不出门了，过几天病好了，我到你们那里去，看看小毛头相貌长得怎样也好。"
995	何事も知らない私達はこの突然な言葉に驚ろかされた。	我们什么也不知道，给这句突如其来的话吓了一跳。
997	その頃の新聞は実際田舎ものには日毎に待ち受けられるような記事ばかりあった。私は父の枕元に坐って鄭寧にそれを読んだ。読む時間のない時は、そっと自分の室へ持って来て、残らず眼を通した。	那时报纸上所登载的，对乡下人说起来，实在都是每天等待着的新闻。我坐在父亲枕边，郑重地读着这些新闻。有时没有读的时间，就偷偷地拿到自己的房间里，一字不漏地看它一遍。
1012	父は医者から安臥を命ぜられて以来、両便とも寐たまま他の手で始末して貰っていた。	父亲的大、小便，自从医生叫他静卧以来，都是躺着靠别人替他照料的。
1013	好な新聞も手に取る気力がなくなった。枕の傍にある老眼鏡は、何時までも黒い鞘に納められたままであった。	/他所喜欢看的报纸，也没有力气拿在手里了。枕边的那副老光眼镜，也老是装在黑色的眼镜套里。
1015	「そんな事はないよ。御前なんか子供は二人とも大学を卒業するし、少し位病気になったって、申し分はないんだ。おれを御覧よ。かかあには死なれるしさ、子供はなしさ。ただこうして生きているだけの事だよ。達者だって何の楽しみもないじゃないか」	"哪有这种话！象你这样，两个儿子都已经大学毕业，虽然得点儿小病，也没有什么不称心啊！瞧我，老婆死了，又没有孩子，就是这么活着罢了，尽管身体健康，还有什么乐趣呢？"
1016	少し自分の寿命に対する度胸が出来たという風に機嫌が直った。傍にいる母は、それに釣り込まれたのか、病人に気力を付けるためか、先生から電報のきた事を、あたかも私の位置が父の希望する通り東京にあったように話した。	好象对自己的寿命有了信心，心情已经因此转好。母亲在旁边不知是被这种情况迷惑了呢还是为了要替病人鼓鼓气，竟把先生来过电报的事告诉了他，说得活象我的职位完全符合父亲的希望，已经在东京找到一样。
1024	然しその母は父の横に肱を曲げて枕とした	可是母亲却在父亲旁边弯着胳臂当枕头，就

	なり寐入っていた。父も深い眠りの裏にそっと置かれた人のように静にしていた。私は忍び足で又自分の寐床へ帰った。	那么睡着了。父亲也象被藏在睡梦深处似地静静地没有声音。我蹑手蹑足重新回到自己的铺上。
1026	「関さんも気の毒だね。ああ幾日も引っ張られて帰れなくっちあ」	″对阿关也真是过意不去。这么多日子被拖住了不能回家。”
1033	「御前の卒業祝いは已めになって結構だ。おれの時には弱ったからね」と兄は私の記憶を突ッついた。私はアルコールに煽られたその時の乱雑な有様を想い出して苦笑した。飲むものや食うものを強いて廻る父の態度も、にがにがしく私の眼に映った。	″你的毕业庆祝宴吹了也好，到时我可吃不消呢！”哥哥的话勾起了我的回想。想到那种为酒精所鼓煽起来的乱七八糟的光景，我苦笑了。连父亲周旋在客人中间，强劝着客人吃呀喝呀的姿态，也怪讨厌地浮现在我的眼帘里。
1051	兄は後からこんな事を云った。先生から明瞭な手紙の来ない以上、私はそう信ずる事も出来ず、またそう口に出す勇気もなかった。それを母の早呑込でみんなにそう吹聴してしまった今となって見ると、私は急にそれを打ち消す訳に行かなくなった。私は母に催促されるまでもなく、先生の手紙を待ち受けた。	哥哥随后又讲了这样的话。除非从先生那边来封写得明明白白的信，否则我不能相信会有这样的事，也没有勇气这样说出口来。由于母亲没有了解清楚就急于向大家宣扬出去，事到如今，我已经不可能忽然又把它否定。母亲不来催问我，我也在等待先生的回信。
1052	父が変な黄色いものを嘔いた時、私はかつて先生と奥さんから聞かされた危険を思い出した。「ああして長く寐ているんだから胃も悪くなる筈だね」と云った母の顔を見て、何も知らないその人の前に涙ぐんだ。	当父亲呕吐一种希见的黄颜色的东西的时候，我想起了先生和太太曾经告诉过我的危险。+++ ″那样长时期躺着，当然胃也要不好了。”母亲在这么说。看着她的脸，知道她一无所知，我的眼泪快要涌出来了。
1070	母は父のために箒で脊中をどやされた時の事などを話した。今まで何遍もそれを聞かされた私と兄は、何時もとはまるで違った気分で、母の言葉を父の記念のように耳へ受け入れた。	母亲谈着她被父亲用扫帚打在背上时的情景。这件事我和哥哥已经听过不知多少遍，这时又用一种和往常完全不同的心情，把母亲的话当作对父亲的纪念品似地接纳到耳朵里。
1076	父は時々眼を開けて、誰はどうしたなどと突然聞いた。その誰はつい先刻までそこに坐っていた人の名に限られていた。父の意識には暗い所と明るい所と出来て、その明るい所だけが、闇を縫う白い糸のように、ある距離を置いて連続するように見えた。母が昏睡状態を普通の眠と取り違えたのも無理はなかった。	父亲不时地睁开眼睛，突然提出“某人怎么样了”之类的问题。这个“某人”，一定是前一会儿还坐在这里的人的名字。父亲的意识，分成了昏迷部分和清醒部分。就是这种清醒部分，象忽隐忽现地穿过黑暗中的一根白线似的，每隔一定距离连续着。母亲把昏睡状态错当作普通的睡眠，也不是没有道理的。
1080	私は看護婦を相手に、父の水枕を取り更えて、それから新らしい氷を入れた氷嚢を頭の上へ載せた。がさがさに割られて尖り切った氷の破片が、嚢の中で落ちつく間、私は父の禿げ上った額の外でそれを柔らかに抑えていた。その時兄が廊下伝這入て来て、一通の郵便を無言のまま私の手に渡した。空いた方の左手を出して、その郵便を受け取った私はすぐ不審を起した。	我和护士一起替父亲换好装冷水的橡皮枕头，又把装好新冰块的冰囊搁在他的头上。打碎了的尖尖的冰块，在冰囊里喀嚓喀嚓地还没有稳定下来，我就在父亲秃了头发的前额边上轻轻地按着冰囊。这时，哥哥沿着走廊进来，他默无一言地递给我一封信。我伸出空着的左手接过那封信，立刻觉得有些蹊跷。
1089	父はこういった。そうして又昏睡状態に陥った。枕辺を取り巻いている人は無言のまましばらく病人の様子を見詰めていた。やがてその中の一人が立って次の間へ出た。すると又一人立った。私も三人目にとうとう席を外して、自分の室へ来た。私には先刻懐へ入れた郵便物の中を開けて見ようという目的があった。それは病人の枕元でも容易に出来る所作には違なかった。然し書かれたものの分量があまりに多過ぎるので、一息にそこで読み通す訳には行かなかった。私は特別の時間を偸んでそれに充てた。	父亲这么说了。接着又陷入昏睡状态。环侍在枕边的人默默无言地暂时注视着病人的情况。过不多久，其中一个站起身来到隔壁房间里去了。接着，另外一个也站起来走了。我也终于第三个离开了座位，来到自己的房间里。我有一个目的，就是想把刚才塞在怀里的邮件，拆开来看看它的内容。这件事情在病人枕边当然也容易做到，但是因为所写的东西分量实在太多，决不可能在那里一口气看完。我要特别抽出些时间来。

1090	私は繊維の強い包み紙を引き掻くように裂き破った。中から出たものは、縦横に引いた罫の中へ行儀よく書いた原稿様のものであった。そうして封じる便宜のために、四つ折に畳まれてあった。私は癖のついた西洋紙を、逆に折り返して読み易いように平たくした。	我把纤维很韧的包皮纸使劲一扯，撕开了。从里面露出来的，象是什么原稿，纵横打好了格子，字都规规矩矩地写在方格里。为包封方便起见，还折叠成四层。我把这些折死了的西洋纸依着折痕朝相反的一面折了一下，把它弄平了，看起来好方便些。
1091	私がこのかきものを読み始めて、読み終らない前に、父はきっとどうかなる、少なくとも、私は兄からか母からか、それでなければ伯父からか、呼ばれるに極っているという予覚があった。私は落ち付いて先生の書いたものを読む気になれなかった。私はそわそわしながらただ最初の一頁を読んだ。その頁は下のように綴られていた。	我抱着一种预感，觉得在我开始看这个信件、还没有看完以前，父亲一定会发生什么变化。至少是哥哥或母亲、要不就是叔父一定又要把我唤去。我不可能定下心来看先生写的这份东西。我慌慌忙忙地只是把面上的一页看了一下。那一页上是这样写的：
1092	「あなたから過去を問いただされた時、答える事の出来なかった勇気のない私は、今あなたの前に、それを明白に物語る自由を得たと信じます。然しその自由はあなたの上京を待っているうちには又失われてしまう世間的の自由に過ぎないのであります。従って、それを利用出来る時に利用しなければ、私の過去をあなたの頭に間接の経験として教えて上げる機会を永久に逸するようになります。」	″从前你曾经问过我的过去，那时我没有能够回答你的勇气，现在我相信，我已经得到在你面前把这些事情明白地谈一谈的自由了。可是这个自由，不过是在等待你到东京来时可能又会失去的人世间的自由。因此，要不是在能够利用它的时候利用一下，就将永远失去机会，不能把我的过去作为一种间接的经验，传授到你的脑袋里去了。”
1093	私は其所まで読んで、始めてこの長いものが何のために書かれたのか、その理由を明らかに知る事が出来た。私の衣食の口、そんなものに就いて先生が手紙を寄こす気遣はないと、私は初手から信じていた。然し筆を執ることの嫌な先生が、どうしてあの事件をこう長く書いて、私に見せる気になったのだろう。	我看到这里，才明白为什么要写这么一封长信的理由。我在当初早就相信先生不会因关心我的衣食饭碗这类事情而寄信来的。但是先生是个懒于执笔的人，为什么他又愿意把那件事写得这样长，有意要让我看一看呢？
1094	「自由が来たから話す。然しその自由はまた永久に失われなければならない」	″因为自由已经来到，这才谈的。但是这个自由却又非永远失去不可。”
1095	私は心のうちでこう繰り返しながら、その意味を知るに苦しんだ。私は突然不安に襲われた。私はつづいて後を読もうとした。その時病室の方から、私を呼ぶ大きな兄の声が聞こえた。私は又驚ろいて立ち上った。	我心里这样反复地琢磨着，苦于不能了解它的意义。我突然感到不安起来。我正想继续读下去。这时从病人的房间那边，传来了哥哥大声唤我的声音。我又慌慌张张地站起来。
1101	然し私はすこしも寛くりした気分になれなかった。机の前に坐るや否や、又兄から大きな声で呼ばれそうでならなかった。そうして今度呼ばれれば、それが最後だという畏怖が私の手を顫わした。私は先生の手紙をただ無意味に頁だけ剥繰って行った。私の眼は几帳面に枠の中に嵌められた字画を見た。けれどもそれを読む余裕はなかった。	可是我的情绪却一点也不能宽缓下来。好象在书桌前一坐，坐还没有坐定哥哥又会大声呼唤起来，而且这回叫唤起来，一定是最后关头。这种恐怖感使我的手也发抖了。我只是无意识地把先生的信一页一页翻下去。我的眼睛看到了端端正正地填在方格中的字，但是没有空余时间来读它们。
1113	実をいうと、私はこの自分をどうすれば好いのかと思い煩らっていたところなのです。このまま人間の中に取り残されたミイラの様に存在して行こうか、それとも……その時分の私は『それとも』という言葉を心のうちで繰り返すたびにぞっとしました。馳足で絶壁の端まで来て、急に底の見えない谷を覗き込んだ人のように。私は卑怯でした。	说实话，那时我正在烦闷，不知应该把自己怎么办才好。就这样象一个被遗留在世界上的木乃伊那样存在下去吗？还是……那时的我，每次反复想到‘还是……’，心里就会凛然一惊。正象一个奔跑到悬崖绝壁边上的人，突然窥伺一下深不见底的山谷一样。我是胆怯的。
1125	私の暗いというのは、固より倫理的に暗いの	我所谓黑暗，当然是伦理上的黑暗。我是在

	です。私は倫理的に生れた男です。又倫理的に育てられた男です。その倫理上の考は、今の若い人と大分違ったところがあるかも知れません。然しどう間違っても、私自身のものです。	伦理中出生的，又是在伦理中长大的。我那种伦理上的思想，说不定跟今天的年轻人有很大的不同。可是不管怎样不同，这是我自身的东西，并不是临时要穿，花钱借来的出租衣服。
1132	私は二人の間に出来たたった一人の男の子でした。宅には相当の財産があったので、寧ろ鷹揚に育てられました。私は自分の過去を顧みて、あの時両親が死なずにいてくれたなら、少なくとも父か母か何方か、片方で好いから生きていてくれたなら、私はあの鷹揚な気分を今まで持ち続ける事が出来たろうにと思います。	我是他俩的独生男孩，家里有相当多的财产，所以是在娇纵中养大的。我回顾自己的过去，觉得那时双亲如果不死，至少是父亲或母亲——哪一个都好——能够有一个活着的话，恐怕我那种娇纵的气质，可以一直保持到今天。
1133	私は二人の後に茫然として取り残されました。私には知識もなく、経験もなく、また分別もありませんでした。父の死ぬ時、母は傍に居る事が出来ませんでした。	我被他俩茫茫然地遗留下来了。我既没有知识，又没有经验，而且不能分别好坏。父亲死的时候，母亲不能待在他的旁边。
1137	話が本筋をはずれると、分り悪くなりますからまたあとへ引き返しましょう。これでも私はこの長い手紙を書くのに、私と同じ地位に置かれた他の人と比べたら、或は多少落ち付いていやしないかと思っているのです。世の中が眠ると聞こえだすあの電車の響ももう途絶えました。	话一离开主题，就不容易明白了，还是拉回来吧——虽然这样，我在写这封长信的时候，觉得如果和处于同样地位的别人相比，自己不是还算安静吗？在人们静睡后才听得到的电车声音，现在已经中断了。
1142	「とにかくたった一人取り残された私は、母の云い付け通り、この叔父を頼るより外に途はなかったのです。叔父は又一切を引き受けて凡ての世話をしてくれました。そうして私を私の希望する東京へ出られるように取り計ってくれました。	总之，孤零零地遗留下来的我，除了象母亲嘱咐的那样，完全依靠这个叔父以外，没有别的路了。叔父又是把一切都承担起来地照顾我，还替我想办法，让我能够到我向往的东京去。
1143	それが酒を飲んだ揚句の事なので、夢中に擲り合をしている間に、学校の制帽をとうとう向うのものに取られてしまったのです。ところがその帽子の裏には当人の名前がちゃんと、菱形の白いきれの上に書いてあったのです。	这件事是喝了酒才发生的，所以在拳打脚踢、一不留神的时候，学校的制帽终于被对方抢了去。而在那帽子里面一小方菱形的白布上，清清楚楚地写有那人的名字。
1144	///それで事が面倒になって、その男はもう少しで警察から学校へ照会されるところでした。然し友達が色々と骨を折って、ついに表沙汰にせずに済むようにして遣りました。こんな乱暴な行為を、上品な今の空気のなかに育ったあなた方に聞かせたら、定めて馬鹿々々しい感じを起すでしょう。	///这就使事情变得很麻烦，那人差一点就要被警察报告校方。但是经朋友们费心九牛二虎之力，结果总算没有打官司，就这么不了了之。把这种粗野的行为，说给你们这些在文雅的、现今的空气中成长的人听，一定会产生鄙薄的感觉吧。实际上，我也觉得可鄙。
1145	///それでいて私は少しの不足も感じませんでした。のみならず数ある同級生のうちで、経済の点にかけては、決して人を羨ましがる憐れな境遇にいた訳ではないのです。今から回顧すると、寧ろ人に羨やましがられる方だったのでしょう。と云うのは、私は月々極った送金の外に、書籍費、（私はその時分から書物を買う事が好でした）、及び臨時の費用を、よく叔父から請求して、ずんずんそれを自分の思う様に消費する事が出来たのですから。	///虽然少，可我一点不感到不够花。不但不感到，而且在许多同级生中谈到经济这一点，我决不处于羡慕人家的、可怜的地位。现在回想起来，觉得反而要被人家羡慕的。我这么说，那是因为每月除了规定的汇款数目以外，还常常向叔父要买书的钱（我从那时起就喜欢买书）和零用钱，能舒服、称心地花费。
1146	父の実の弟ですけれども、そういう点で、性格からいうと父とはまるで違った方へ向いて発達した様にも見えます。父は先祖から譲られた遺産を大事に守って行く篤実一方の男でし	虽然是我父亲的同胞兄弟，可是从性格方面说起来，在这一点上好象是朝着和父亲完全不同的方向发展的。父亲兢兢业业地守着祖上留下来的遗产，纯粹是个忠厚笃实的人。他的嗜

	た。楽みには、茶だの花だのを遣りました。	好，是品茗，研究插花艺术，
1148	///だから気性からいうと、濶達な叔父とは余程の懸隔がありました。それでいて二人は又妙に仲が好かったのです。父はよく叔父を評して、自分よりも遙かに働きのある頼もしい人のように云っていました。自分のように、親から財産を譲られたものは、どうしても固有の材幹が鈍る、つまり世の中と闘う必要がないから不可いのだとも云っていました。	///所以从性格方面说，和豁达的叔父有着相当大的距离，可是两人却又不可思议地要好得很。父亲往往评论叔父，说叔父是个远比他自己有才干、有出息的人。又说，象自己那样继承了上代的遗产，这必然使本来具有的才干迟钝下去。就是说，因为没有在社会上奋斗的必要，所以才不行的。
1149	///『御前もよく覚えているが好い』と父はその時わざわざ私の顔を見たのです。だから私はまだそれを忘れずにいます。この位私の父から信用されたり、褒められたりしていた叔父を、私がどうして疑がう事が出来るでしょう。私にはただでさえ誇になるべき叔父でした。	///’你也得牢牢记住才好。’——父亲那时特地看了看我的脸。所以我还没有把这句话忘掉。既然叔父受到我父亲这样的信任、这样的夸奖，我怎么能够对叔父产生怀疑呢？对我来说，他本是个值得夸耀的叔父。
1153	「私が夏休みを利用して始めて国へ帰った時、両親の死に断えた私の住居には、新らしい主人として、叔父夫婦が入れ代って住んでいました。これは私が東京へ出る前からの約束でした。たった一人取り残された私が家にいない以上、そうでもするより外に仕方がなかったのです。	″我利用暑假，第一次回到故乡的时候，因双亲亡故而无人住的房子，已由叔父夫妇作为新的主人住进去了。这是我去东京以前就约好的。我家里只剩我一个人，我不在家，那么除了这样办以外，没有别的办法了。
1154	私の家は旧い歴史を有っているので、少しはその界隈で人に知られていました。あなたの郷里でも同じ事だろうと思いますが、田舎では由緒のある家を、相続人があるのに壊したり売ったりするのは大事件です。今の私ならその位の事は何とも思いませんが、その頃はまだ子供でしたから、東京へは出たし、家はそのままにして置かなければならず、甚だ処置に苦しんだのです。	我家的宅第具有悠久的历史，在那一带地方，是有点小名气的。我想你们乡下也一样吧。在乡下，如果一所有来由的房屋，有继承人在，而毁坏了或是卖掉了，这是一件大事情。倘若是现在的我，那是不把这点儿事放在心上的，可是那时候我还是个孩子，既要到东京去，又非把家宅就这么放手不可，所以对于怎样处置，感到非常为难。
1157	学校へ出る子供などは平生恐らく市の方にいたのでしょうが、これも休暇のために田舎へ遊び半分といった格で引き取られていました。	上学的孩子平时大概住在镇上的吧，多半是因为放假而到乡下来玩了。
1159	ただ一つその夏の出来事として、私の心にむしろ薄暗い影を投げたのは、叔父夫婦が口を揃えて、まだ高等学校へ入ったばかりの私に結婚を勧める事でした。それは前後で丁度三四回も繰り返されたでしょう。私も始めはただその突然なのに驚ろいただけでした。	只是那年夏天发生一件事情，在我心头投下了一个阴影，那就是我刚刚进入高等学校学习，叔父、叔母却异口同声地劝我讨个老婆。这样的劝说，大概先后重复了三四遍吧。最先，我只是因为它来得突然，感到惊异。
1164	「こういう気楽な人の中にも、裏面に這入り込んだら、或は家庭の事情に余儀なくされて、既に妻を迎えていたものがあったかも知れませんが、子供らしい私は其所に気が付きませんでした。それからそういう特別の境遇に置かれた人の方でも、四辺に気兼をして、なるべくは書生に縁の遠いそんな内輪の話は為ないように慎しんでいたのでしょう。後から考えると、私自身が既にその組だったのですが、私はそれさえ分らずに、ただ子供らしく愉快に修学の道を歩いて行きました。	″在这批快乐的人中间，如果你深入了解一下的话，说不定也有为家庭情况所逼，没有办法已经娶了老婆的，但孩子似的我，对这种地方没有注意到。而且遭到这种特别境遇的人，也对周围的人小心谨慎，尽可能不提这种跟学生没有什么关系的家庭内部事务吧。后来回想，那时我自己已经就是这一类人了，可是我连这一点都不知道，只是孩子似地在求学的道路上愉快地前进。
1166	然しこの自分を育て上たと同じ様な匂の中で、私は又突然結婚問題を叔父から鼻の先へ突き付けられました。叔父の云うところは、去年	但是在这利培养我长大的气息中间，叔父又突然把结婚问题搁在我的眼前。叔父所说的话，只是把去年的劝诱再重复一遍。理由也和

	の勧誘を再び繰り返したのみです。理由も去年と同じでした。ただこの前勧められた時には、何等の目的物がなかったのに、今度はちゃんと肝心の当人を捕まえていたので、私は猶困らせられたのです。その当人というのは叔父の娘即ち私の従妹に当る女でした。その女を貰ってくれれば、御互のために便宜である、父も存生中そんな事を話していた、と叔父が云うのです。	去年相同。不过去年劝诱我的时候，还没有任何目的物，这一回却老早已经抓好一个要紧的对象了，这就尤其使我为难。那个对象就是叔父的女儿，是我的堂妹。叔父说，如果我娶了那个姑娘，双方彼此有利，父亲在世的时候也曾说过这话。
1167	///私もそうすれば便宜だとは思いました。父が叔父にそういう風な話をしたというのも有り得べき事と考えました。然しそれは私が叔父に云われて、始めて気が付いたので、云われない前から、覚っていた事柄ではないのです。だから私は驚ろきました。	///我也想，这样做是有利的。父亲对叔父说过这个意思的话，我想是可能有的。不过这是叔父对我提起以后我才注意到的，并不是在没有提起以前记得的事情。
1168	///私は小供のうちから市にいる叔父の家へ始終遊びに行きました。ただ行くばかりでなく、能く其所に泊りました。そうしてこの従妹とはその時分から親しかったのです。あなたも御承知でしょう、兄妹の間に恋の成立した例のないのを。私はこの公認された事実を勝手に布衍しているかも知れないが、始終接触して親しくなり過ぎた男女の間には、恋に必要な刺戟の起る清新な感じが失なわれてしまうように考えています。	///我从小就常到镇上的叔父家去玩。不单是去去，还常留宿在那边。所以我和这个堂妹从那时起就很亲近。你也知道吧，兄妹之间发生恋爱的事例是没有的。说不定我在把这个公认的事实随便推论，我说经常接触的、过分亲近的男女之间，产生恋爱所必需的那种刺激——一种清新的感觉，已经完全丧失。
1178	尤もその頃でも私は決して理に暗い質ではありませんでした。然し先祖から譲られた迷信の塊も、強い力で私の血の中に潜んでいたのです。今でも潜んでいるでしょう。	虽然那时候我的资质决不是不明事理的。但是祖先遗传下来的迷信的疙瘩强有力地潜存在我的血液中间，现在也还潜存着吧。
1179	私はたった一人山へ行って、父母の墓の前に跪ずきました。半は哀悼の意味、半は感謝の心持で跪いたのです。そうして私の未来の幸福が、この冷たい石の下に横わる彼等の手にまだ握られてでもいるような気分で、私の運命を守るべく彼等に祈りました。貴方は笑うかも知れない。私も笑われても仕方がないと思います。然し私はそうした人間だったのです。	我单身走到山上，跪在父母坟前。半是哀悼，半是带了感谢的心情。我怀着躺在这些冷冰冰的石块下面的他们两人手里还掌握着我未来的幸福似的心情，向他们祈祷，保佑我的命运。你会笑我吧。我觉得给你笑也没有办法。不过我就是这么一个平常人。
1194	「一口でいうと、叔父は私の財産を胡魔化したのです。事は私が東京へ出ている三年間の間に容易く行なわれたのです。凡てを叔父任せにして平気でいた私は、世間的に云えば本当の馬鹿でした。世間的以上の見地から評すれば、或は純なる尊い男とでも云えましょうか。	″一句话，叔父侵占了我的财产。在我到东京去的三年里是很容易进行的。一切听任叔父处理而心安理得的我，依照世俗的说法，真正是个糊涂虫。用超世俗的观点评价起来，那或许可以称作什么纯真而崇高的人吧。
1195	若し私が叔父の希望通り叔父の娘と結婚したならば、その結果は物質的に私に取って有利なものでしたろうか。これは考えるまでもない事と思います。叔父は策略で娘を私に押し付けようとしたのです。好意的に両家の便宜を計るというよりも、ずっと下卑た利害心に駆られて、結婚問題を私に向けたのです。私は従妹を愛していないだけで、嫌ってはいなかったのですが、後から考えて見ると、それを断ったのが私には多少の愉快になると思います。胡魔化されるのは何方にしても同じでしょうけれども、載せられ方からいえば、従妹を貰わない方が、	如果我遵从叔父的希望，和叔父的女儿结了婚的话，结果在物质上真是对我有利的吗？我觉得这是想也不用想的事。叔父打算把女儿强配给我，是一种策略。说是好意谋两家方便，不如说是为极卑鄙的利害心所驱使，才拿结婚问题强制我的。我不过对堂妹不爱罢了，还不是讨厌她。不过后来想想，觉得拒绝了这件事对我也多少有些愉快，因为受欺骗固然是一样的，但是从上当的人说，不娶堂妹可以使对方的意图不能实现，这至少是贯彻了一点我的‘己见’。不过这是几乎不足以作为问题的小事。尤其在没有关系的你，想必会觉得这是我

	向うの思い通りにならないという点から見て、少しは私の我が通った事になるのですから。然しそれは殆んど問題とするに足りない些細な事柄です。ことに関係のない貴方に云わせたら、さぞ馬鹿気た意地に見えるでしょう。	的一种傻脾气吧。
1197	私は修業中のからだですから、学生として大切な時間を奪われるのは非常の苦痛だとも考えました。私は思案の結果、市に居る中学の旧友に頼んで、私の受け取ったものを、凡て金の形に変えようとしました。	我担心一打官司，等输赢就要穷年累月。我也考虑到我还在求学，被占去宝贵的时间，在一个学生是非常痛苦的。盘算的结果，我拜托一个住在镇上的中学时代的老朋友，把我所接收下来的东西全都变卖掉。
1199	私の旧友は私の言葉通りに取計らってくれました。尤もそれは私が東京へ着いてから余程経った後の事です。田舎で畠地などを売ろうとしたって容易には売れませんし、いざとなると足元を見て踏み倒される恐れがあるので、私の受け取った金額は、時価に比べると余程少ないものでした。自白すると、私の財産は自分が懐にして家を出た若干の公債と、後からこの友人に送って貰った金だけなのです。	我的老朋友照我说的那样替我办了。这当然是我到达东京以后很久的事。因为在乡下，想变卖田地也不是容易卖得掉的，而且一不留神，给人家看出了弱点，还有吃倒帐的危险，所以我收到的金额，要比时价少得多。坦白地说，我的财产就只有自己离家时身边带的若干公债票，以及后来这个朋友汇给我的钱。
1207	一年ばかり前までは、市ケ谷の士官学校の傍とかに住んでいたのだが、廐などがあって、邸が広過ぎるので、其所を売り払って、此所へ引っ越して来たけれども、無人で淋しくって困るから相当の人があったら世話をしてくれと頼まれていたのだそうです。	据说，直到一年多以前还住在市谷的士官学校附近，因为那边有马棚，而且宅子也宽大，就把那边卖了，搬到这里来的。但是家里人口少，感到寂寞，所以曾托咐过她，有适当的人给介绍介绍。
1208	けれどもそんな家族のうちに、私のようなものが、突然行った処で、素性の知れない書生さんという名称のもとに、すぐ拒絶されはしまいかという掛念もありました。私は止そうかとも考えました。然し私は書生としてそんなに見苦しい服装はしていませんでした。	我心里想，这么清静，再好没有了吧。可是我又疑虑，象我这样的人，突然跑到那样的人家去，不会因为是来历不明的学生而立刻遭到拒绝吗？我又想，不如别去了吧。然而作为一个学生，我的服装却不是怎么不体面的，
1214	「私は早速その家へ引き移りました。私は最初来た時に未亡人と話をした座敷を借りたのです。其所は宅中で一番好い室でした。本郷辺に高等下宿といった風の家がぽつぽつ建てられた時分の事ですから、私は書生として占領し得る最も好い間の様子を心得ていました。私の新らしく主人となった室は、それ等よりもずっと立派でした。移った当座は、学生としての私には過ぎる位に思われたのです。	″我赶紧搬到那家人家。我租的房间，就是最初来的时候和寡妇谈话的那间会客室。那间房间在全宅算最好的。那时，‘高等公寓’一类的房屋，正在本乡一带一所一所地造起来。所以学生能够占领的最好的房间是怎么个样子，我是很清楚的。我的那间房间，远比这一类的好。刚搬来时，我还觉得这对作为学生的我，未免有些过分。
1216	私は移った日に、その室の床に活けられた花と、その横に立て懸けられた琴を見ました。何方も私の気に入りませんでした、私は詩や書や煎茶を嗜なむ父の傍で育ったので、唐めいた趣味を小供のうちから有っていました。その為でもありましょうか、こういう艶めかしい装飾を何時の間にか軽蔑する癖が付いていたのです。	我在搬来的那天，看见房间里摆设台上供着鲜花，旁边挂着古琴。两样东西哪一样都不中我的意。我是在嗜好诗、书、品茗的父亲身边长大的，所以从小就具有古代中国人那样的情趣。由于这个原因，我对这种艳丽的装饰不知从什么时候起就养成了轻视的习气。
1217	私の父が存生中にあつめた道具類は、例の叔父のために滅茶々々にされてしまったのですが、それでも多少は残っていました。私は国を立つ時それを中学の旧友に預かって貰いました。それからその中で面白そうなものを四五幅裸にして行李の底へ入れて来ました。私は移るや否や、それを取り出して床へ懸けて楽しむ積	我父亲在世时搜集的茶具之类，虽然给那个叔父糟蹋得不成样子，可多少还剩一点。我离开故乡时把这些东西寄在中学时代的老朋友那儿，而把其中饶有趣味的四五幅字画，光着轴子塞在箱底带来了。我打算搬家后就把它拿出来挂在摆设台旁边欣赏欣赏的，可是一看到刚才说的古琴和瓶花，突然消失了勇气。后

	りでいたのです。ところが今いった琴と活花を見たので、急に勇気がなくなってしまいました。後から聞いて始めてこの花が私に対する御馳走に活けられたのだという事を知った時、私は心のうちで苦笑しました。	来一问，才知道这花是为款待我而供的，这时我心里苦笑了。
1219	ところがその推測が、御嬢さんの顔を見た瞬間に、悉く打ち消されました。そうして私の頭の中へ今まで想像も及ばなかった異性の匂が新らしく入って来ました。私はそれから床の正面に活けてある花が厭でなくなりました。同じ床に立て懸けてある琴も邪魔にならなくなりました。	哪知道当我看到小姐面貌的一瞬间，这些推测被无遗地打消了。而且还有一种以前想象不出的异性的香味，新鲜地进入我的脑袋里来。从此以后，我不再讨厌摆设台正面供着的鲜花了，也不觉得摆设台旁挂着的古琴碍事了。
1220	その花は又規則正しく凋れる頃になると活け更えられるのです。琴も度々鍵の手に折れ曲がった筋違の室に運び去られるのです。私は自分の居間で机の上に頬杖を突きながら、その琴の音を聞いていました。私にはその琴が上手なのか下手なのか能く解らないのです。	那花，很有规律地，到了凋谢的时候又给换上新鲜的。那琴，也不时给拿到斜对面的那间房间里去。我在自己的房间里，靠着书桌，手支面颊，听那琴声。那琴弹得高明不高明，我不太懂，不过从不大用到繁复错杂的手法这点看，我估量不见得是弹得很高明的。
1221	ぽつんぽつん糸を鳴らすだけで、一向肉声を聞かせないのです。唄わないのではありませんが、まるで内所話でもするように小さな声しか出さないのです。しかも叱られると全く出なくなるのです。	至于提到音乐方面，那比插花更蹊跷了。乒、乒、乒地尽是琴弦声，没有听到任何嗓音。她并不是不唱，而是只用极低极低、简直象在讲私房话一样的声音，并且一受责，声音就完全没有了。
1226	「私の気分は国を立つ時既に厭世的になっていました。他は頼りにならないものだという観念が、その時骨の中まで染み込んでしまったように思われたのです。私は私の敵視する叔父だの叔母だの、その他の親戚だのを、あたかも人類の代表者の如く考え出しました。汽車へ乗ってさえ隣のものの様子を、それとなく注意し始めました。たまに向から話し掛けられでもすると、猶の事警戒を加えたくなりました。私の心は沈鬱でした。鉛を呑んだように重苦しくなる事が時々ありました。それでいて私の神経は、今云った如くに鋭どく尖ってしまったのです。	″我的心情，在离开故乡时已变成厌世的了。‘别人都靠不住’这么一个观念，那时好象已经浸透到我的骨子里。我觉得我所敌视的叔父、叔母、其他的亲戚等，好象就是人类的代表。连坐上火车，也会不知不觉地注意起邻座乘客的态度来。有时对方偶尔主动和我攀谈，我特别加以警惕。我的心是沉闷抑郁的，常常象吞了铅一样地深重难过。另一方面，正如刚才说的那样，我的神经却变得尖锐了。
1229	貴方は定めて変に思うでしょう。その私が其所の御嬢さんをどうして好く余裕を有っているか。その御嬢さんの下手な活花を、どうして嬉しがって眺める余裕があるか。同じく下手なその人の琴をどうして喜こんで聞く余裕があるか。そう質問された時、私はただ両方とも事実であったのだから、事実として貴方に教えて上げるというより外に仕方がないのです。	你一定会觉得奇怪吧。那样的一个我，对那里的小姐，怎么会有余裕喜欢她呢？对那小姐插得并不高明的瓶花，怎么会有余裕高兴瞧呢？同样地对她弹得并不高明的琴，又怎么会有余裕高兴听呢？给你这样质问的时候，我只好说，这都是事实，我是把它作为事实告诉你的，除此以外别无他法。
1238	奥さんは心得のある人でしたから、わざと私をそんな風に取り扱ってくれたものとも思われますし、又自分で公言する如く、実際私を鷹揚だと観察していたのかも知れません。私のこせつき方は頭の中の現象で、それ程外へ出なかったようにも考えられますから、或は奥さんの方で胡魔化されていたのかも解りません。	我觉得太太是个知趣的人，所以特为这样对待我，或者说不定象她自己公开说的那样，事实上把我看做个大方的人。我的鬼鬼祟祟，只是头脑中的现象，表面上并不怎样显露，所以太太也许是被我瞒过了。
1239	私の心が静まると共に、私は段々家族のものと接近して来ました。奥さんとも御嬢さんとも笑談を云うようになりました。茶を入れたからと云って向うの室へ呼ばれる日もありました。	随着心的安静，渐渐地我和这家人接近起来。我和太太，和小姐，有时也说说笑话了。有的时候，她们说已经沏好了茶，把我招呼到对面房间去。有的晚上，由我买了点心，把她

	また私の方で菓子を買って来て、二人を此方へ招いたりする晩もありました。私は急に交際の区域が殖えたように感じました。それがために大切な勉強の時間を潰される事も何度となくありました。	俩请到我这边来。我感到交际范围突然扩大了似的。由于这个原因，不知多少次把宝贵的学习时间给白白浪费掉。
1244	時たま御嬢さん一人で、用があって私の室へ這入った序に、其所に坐って話し込むような場合もその内に出て来ました。そういう時には、私の心が妙に不安に冒されて来るのです。そうして若い女とただ差向いで坐っているのが不安なのだとばかりは思えませんでした。私は何だかそわそわし出すのです。自分で自分を裏切るような不自然な態度が私を苦しめるのです。然し相手の方は却って平気でした。	偶尔小姐独自有事到我房间里来，顺便坐着谈得入了神，这样的情况不久也出现了。在这种时候，我的心很奇妙地会感到不安起来。可又不可以说单是为了和年轻女性面对面地坐着才不安的。不知怎的，我会忐忑忑忑地心神不宁。仿佛自己在违背自己似的那种不自然的态度，使我很难受。然而对方却坦然无事。
1245	///これが琴を浚うのに声さえ碌に出せなかったあの女かしらと疑がわれる位、耻ずかしがらないのです。あまり長くなるので、茶の間から母に呼ばれても、『はい』と返事をするだけで、容易に腰を上げない事さえありました。それでいて御嬢さんは決して子供ではなかったのです。私の眼には能くそれが解っていました。能く解るように振舞って見せる痕迹さえ明らかでした。	///这难道就是练琴时候连弹都弹不大响的那个姑娘吗？她竟不怕难为情到了被人这么怀疑的程度。待得过分久了，母亲在起坐间里唤她，她也只应一声‘唉’，轻易不肯站起身来。小姐这么坐着，可决不是个小孩。我的眼里是挺明白这一点的，连向对方卖弄自己明白这一点的痕迹，也是很清楚的。
1251	私は奥さんの態度を何方かに片付て貰いたかったのです。頭の働きから云えば、それが明らかな矛盾に違いなかったからです。然し叔父に欺むかれた記憶のまだ新らしい私は、もう一歩踏み込んだ疑いを挾さまずにはいられませんでした。私は奥さんのこの態度の何方かが本当で、何方かが偽だろうと推定しました。そうして判断に迷いました。	我希望太太的态度有个归结。因为从头脑的活动情况说，这准定是个很明显的矛盾。而且受过叔父欺骗的我，记忆犹新，非得把这个深入一步的疑虑解除不可。我揣摩太太的态度，哪一方面是真的，哪一方面是假的，而在判断的时候，我迷惑了，不但不知怎样判断才好，而且为什么要做这种奇妙的事，它的意义也是我所不能理解的。
1260	私は奥さんの態度を色々綜合して見て、私が此所の家で充分信用されている事を確めました。しかもその信用は初対面の時からあったのだという証拠さえ発見しました。他を疑ぐり始めた私の胸には、この発見が少し奇異な位に響いたのです。私は男に比べると女の方がそれだけ直覚に富んでいるのだろうと思いました。同時に、女が男のために、欺まされるのも此所にあるのではなかろうかと思いました。奥さんをそう観察する私が、御嬢さんに対して同じような直覚を強く働らかせていたのだから、今考えると可笑しいのです。	″我把太太的态度从种种方面综合起来看，肯定我在这个家庭里已得到充分的信任。而且我还发现了证据，可以证明这种信任从初次见面的时候起就已经树立了。在开始怀疑别人的我的胸中，这个发现有些奇妙的影响。我想，就是这一点，女人比男人更富于直觉吧。同时我又想，女人往往要受男人欺骗，原因不是也在这儿吗？我对太太抱着这样的看法，而对小姐也使同样的直觉强烈地发生作用，所以现在想起来，是可笑的。
1274	そうして事が済んだ後で、いつまでも、馬鹿にされたのだ、馬鹿にされたんじゃなかろうかと、何遍も心のうちで繰り返すのです。	而在事情过去以后，心里总是一遍又一遍地想着：我受愚弄了，这不是受到愚弄了吗？
1275	けれどもその度毎に私は躊躇して、口へはとうとう出さずにしまったのです。断られるのが恐ろしいからではありません。	但是每次总是踌躇不决，到最后还是没有说出口来。那倒不是怕受到拒绝。
1276	///もし断られたら、私の運命がどう変化するか分りませんけれども、その代り今までとは方角の違った場所に立って、新らしい世の中を見渡す便宜も生じて来るのですから、その位の勇気は出せば出せたのです。然し私は誘き寄せら	///因为受到拒绝，虽然我的命运不知将发生怎样的变化，但是也会产生一种便利——使我站到一个和以前的方向不同的场所，望见一个新的人世。所以这一点儿勇气，要鼓是鼓得起来的。然而我被人家引诱过去，是嫌忌的。上

	れるのが厭でした。他の手に乗るのは何よりも業腹でした。叔父に欺まされた私は、これから先どんな事があっても、人には欺まされまいと決心したのです。	别人的当，比什么都可恼。受过叔父欺骗的我，决心从此以后无论遇到什么事不再受别人的欺骗了。
1284	奥さんは自分一人で行くとは云いません。私にも一所に来いと命令するのです。御嬢さんも行かなくてはいけないと云うのです。今と違った空気の中に育てられた私共は、学生の身分として、あまり若い女などと一所に歩き廻る習慣を有っていなかったものです。その頃の私は今よりもまだ習慣の奴隷でしたから、多少躊躇しましたが、思い切って出掛けました。	太太不说由她一个人去，命我一起去。并且说，小姐也非去不可。我们这辈人是在和现今不同的空气中长大的，凭学生的身分而和妙龄女郎一起跑来跑去，这种习惯是不大有的。那时的我，比起现在来，还远是个习惯的奴隶，所以是多少踌躇了一下的，但我还是下定决心去了。
1288	我々は夜に入って家へ帰りました。その翌日は日曜でしたから、私は終日室の中に閉じ籠っていました。月曜になって、学校へ出ると、私は朝っぱらそうそう級友の一人から調戯われました。何時妻を迎えたのかと云ってわざとらしく聞かれるのです。それから私の細君は非常に美人だといって賞めるのです。私は三人連で日本橋へ出掛けたところを、その男に何処かで見られたものと見えます。	我们在天黑了以后才回到家里。第二天是星期日，我从早到晚闭居在自己房间里。星期一到了学校，一清早就给一个同级的朋友开玩笑。他故意很象样地问我：‘你是几时结婚的啊？’又夸奖着说我的太太真是个美人，漂亮得很。显然，我们三人一起出门到日本桥去时，给那家伙在什么地方看到了。
1292	「私は宅へ帰って奥さんと御嬢さんにその話をしました。奥さんは笑いました。然し定めて迷惑だろうと言って私の顔を見ました。私はその時腹のなかで、男はこんな風にして、女から気を引いて見られるのかと思いました。奥さんの眼は充分私にそう思わせるだけの意味を有っていたのです。	″我回到家里，把这件事讲给太太和小姐听。太太笑了起来。‘那一定给你添麻烦了。’她边说边看着我的脸。那时我心里在想，难道男人就会这样给女人探心思的吗？太太的眼光里具有充分的意味，会使我这么想的。如果我在那时照自己想的直截爽快地说个明白，那就好了。
1297	もしその男が私の生活の行路を横切らなかったならば、恐らくこういう長いものを貴方に書き残す必要も起らなかったでしょう。私は手もなく、魔の通る前に立って、その瞬間の影に一生を薄暗くされて気が付かずにいたのと同じ事です。	如果没有那个男人穿过我的生活道路，恐怕我也不会有必要写这么长的信留给你了。我简直跟毫无抵抗似地站在魔鬼经过的地方，被那一瞬间的阴影把毕生弄得黯淡无光，而自己却没有注意到一样。
1302	「Ｋは真宗の坊さんの子でした。尤も長男ではありません、次男でした。それである医者の所へ養子に遣られたのです。私の生れた地方は大変本願寺派の勢力の強い所でしたから、真宗の坊さんは他のものに比べると、物質的に割が好かったようです。	″Ｋ是一个真宗和尚的儿子。但不是长子而是次子，因此送给一个医生做了养子。我的故乡，本愿寺派势力非常雄厚，所以真宗和尚似乎在物质方面比别人好一些。
1304	Ｋと私も二人で同じ間にいました。山で生捕られた動物が、檻の中で抱き合いながら、外を睨めるようなものでしたろう。	Ｋ和我就是两人同居一室的。正象从山野里活捉来的动物，在笼子里紧挨一起怒视着外边一样吧，两人害怕东京和东京人。
1305	然し我々は真面目でした。我々は実際偉くなる積りでいたのです。ことにＫは強かったのです。寺に生れた彼は、常に精進という言葉を使いました。そうして彼の行為動作は悉くこの精進の一語で形容されるように、私には見えたのです。私は心のうちで常にＫを畏敬していました。	然而我们是认真踏实的，我们确实想成为伟大的人物。尤其是Ｋ，坚毅有力。他出身寺院，常常使用‘精进’这个词。而且在我看来，他的行为动作似乎也全部可以用‘精进’这个词来形容。我心里常常畏敬着Ｋ。
1306	ともかくも彼は普通の坊さんよりは遙かに坊さんらしい性格を有っていたように見受けられます。元来Ｋの養家では彼を医者にする積りで東京へ出したのです。然るに頑固な彼は医	总之，一见就能判别他远比普通和尚更具有一个和尚的性格。Ｋ的养父家，本来打算把他培养成医生，才让他上东京来的。可是他顽固地抱着个绝对不做医生的决心，来到东京。

	者にはならない決心をもって、東京へ出て来たのです。	
1307	私は無論解ったとは云えません。然し年の若い私達には、この漠然とした言葉が尊とく響いたのです。よし解らないにしても気高い心持に支配されて、そちらの方へ動いて行こうとする意気組に卑しいところの見える筈はありません。私はKの説に賛成しました。	我是当然不能说理解，但是这个含混的词，在我们年轻人听起来有一种崇高的音响。纵然不理解，也被高尚的心情所支配，‘就朝那个方向行动吧。’——在这种热情振奋之下，当然不会见到什么卑鄙不好的地方。我赞成了K的说法。
1308	///私の同意がKに取ってどの位有力であったか、それは私も知りません。一図な彼は、たとい私がいくら反対しようとも、やはり自分の思い通りを貫ぬいたに違なかろうとは察せられます。然し万一の場合、賛成の声援を与えた私に、多少の責任が出来てくる位の事は、子供ながら私はよく承知していた積りです。よしその時にそれだけの覚悟がないにしても、成人した眼で、過去を振り返る必要が起った場合には、私に割り当てられただけの責任は、私の方で帯びるのが至当になる位な語気で私は賛成したのです。	///我的同意，对K有力到什么程度，那我也不知道了。他是自以为是的，尽管我极力反对，也知道他一定会照自己想的贯彻下去的。然而我既然表示赞成，给予声援，那么在万一有事的场合，我也多少要负些责任。这一点我虽还是个孩子，总能清楚知道的。纵然当时还没有这点觉悟，但是有必要用成人的眼光回顾一下过去的场合，分配给我的那部分责任由我来负担是再应该也没有了——我是用这样的口气来表示赞成的。
1315	私は又彼の室に聖書を見ました。私はそれまでに御経の名を度々彼の口から聞いた覚がありますが、基督教に就いては、問われた事も答えられた例もなかったのですから、一寸驚ろきました。私はその理由を訊ねずにはいられませんでした。	我又在他的房间里看到了《圣经》。记得以前曾经从他嘴里屡次听到《圣经》，但是关于基督教，既没有被他问过，也没有听他答过，这倒使我有些惊异。我不禁要问问这个理由了。
1326	同時に彼と養家との関係は、段々こん絡がって来ました。時間に余裕のなくなった彼は、前のように私と話す機会を奪われたので、私はついにその顛末を詳しく聞かずにしまいましたが、解決の益困難になって行く事だけは承知していました。	同时他和养家的关系，也逐渐复杂起来了。他在时间上已没有闲暇，被剥夺了从前那样和我谈话的机会，因此我也就没有听到详细的经过情形，只知道解决是越发困难了。还知道有人想居间调停。
1327	///そこが事態を益険悪にした様にも見えました。彼は養家の感情を害すると共に、実家の怒も買うようになりました。私が心配して双方を融和するために手紙を書いた時は、もう何の効果もありませんでした。私の手紙は一言の返事さえ受けずに葬られてしまったのです。私も腹が立ちました。今までも行掛り上、Kに同情していた私は、それ以後は理否を度外に置いてもKの味方をする気になりました。	///好象这就使事态一天比一天险恶起来了。他既伤害了养家的感情，同时又招致了本家的愤怒。当我忧虑地为了使双方融洽而写信去时，已经什么效果也没有了。我的信连一句回答的话都没有收到，就好比石沉大海。我也生气了。事到如今，一向同情K的我，从此以后更是不管谁在理、谁不在理，存心要袒护K了。
1328	彼の父は云うまでもなく僧侶でした。けれども義理堅い点に於て、寧ろ武士に似たところがありはしないかと疑われます。	他的父亲，不用说是个和尚。但是在重情义这一点上，会使人怀疑有些地方倒象个武士。
1335	私はKと同じような返事を彼の義兄宛で出しました。その中に、万一の場合には私がどうでもするから、安心するようにという意味を強い言葉で書き現わしました。これは固より私の一存でした。Kの行先を心配するこの姉に安心を与えようという好意は無論含まれていましたが、私を軽蔑したとより外に取りようのない彼の実家や養家に対する意地もあったのです。	我写了封和K同样的回信，给他的姐夫。信里我把‘在万一的场合，我一定尽力帮忙，务请安心’这层意思，用坚决的措词表达了出来。这当然是我自己的意见。不用说含有一种好意，要使这个担心K前途的姐姐能够放心。但是对于除了瞧不起我以外没有别的解释的他的本家和养家，也有我的负气在内。
1340	///（尤もこれは私に取ってまんざら空虚な言葉でもなかったのです。Kの説を聞いている	///（但这在我也不一定是空虚的辞令。因为K是有力的，我在听他谈论的时候，渐渐地在

	と、段々そういうところに釣り込まれて来る位、彼には力があったのですから）。最後に私はKと一所に住んで、一所に向上の路を辿って行きたいと発議しました。	这个地方给迷惑了）。最后我提议要和K住在一起，一起在向上的道路上摸索前进。
1349	それを左程に思う気色を見せないのは、一つは彼の強情から来ているのですが、一つは彼の主張からも出ているのです。仏教の教義で養われた彼は、衣食住についてとかくの贅沢をいうのをあたかも不道徳のように考えていました。	他对这点并没露出觉得怎么样的神色，这一则是由于他的秉性倔强，二则是从他的主张来的。受了佛教教义的培养，他以为种种对衣食住的讲求精美，正和不道德的事一样。
1354	「私は奥さんからそう云う風に取扱かわれた結果、段々快活になって来たのです。それを自覚していたから、同じものを今度はKの上に応用しようと試みたのです。	″我受太太这么样看待，结果才渐渐地快活起来。因为自己感觉到这点，所以现在试图把同样的东西，应用在K的身上。
1356	///これはとくに貴方のために付け足して置きたいのですから聞いて下さい。肉体なり精神なり凡て我々の能力は、外部の刺戟で、発達もするし、破壊されもするでしょうが、何方にしても刺戟を段々に強くする必要のあるのは無論ですから、能く考えないと、非常に険悪な方向へむいて進んで行きながら、自分は勿論傍のものも気が付かずにいる恐れが生じてきます。医者の説明を聞くと、人間の胃袋程横着なものはないそうです。	///这一点我要特地为你补充说明一下，请你听着：肉体也好，精神也好，凡是我们的能力，都可用外部的刺激使它发达或使它受到破坏，但是又都需要把刺激逐渐增强，所以如果不仔细想想，就会产生一种担心，就是一边朝着非常险恶的方向前进，一边呢，别说自己，连旁人都没觉察到。听医生说，再没有象人的胃囊那样调皮的东西了。
1358	私はKを説くときに、是非其所を明らかにして遣りたかったのです。然し云えばきっと反抗されるに極っていました。また昔の人の例などを、引合に持って来るに違ないと思いました。そうなれば私だって、その人達とKと違っている点を明白に述べなければならなくなります。	我劝说K时，本想一定要把这点跟他辩个清楚。但如果说出来，一定会遭到反抗。我想他一定又要引用古人的例证了吧。假如这样，我这一方面也非得把那些人们和K不同的地方明白指出来不可。
1365	尤もそれは春の事ですから、強いて火にあたる必要もなかったのですが、これでは取り付き把がないと云われるのも無理はないと思いました。	虽然那时已是春天，没有强叫他烤火的必要，但照这情形，被说做‘没法子接近’，觉得也不是没有道理的。
1378	下宿した当座は万事客扱いだったので、食事のたびに下女が膳を運んで来てくれたのですが、それが何時の間にか崩れて、飯時には向うへ呼ばれて行く習慣になっていたのです。Kが新らしく引き移った時も、私が主張して彼を私と同じように取扱わせる事に極めました。	刚寓居的时候，一切都当房客看待，每顿饭由女佣把食盘端进来。但这个规矩已在不知不觉间被破坏，吃饭时我被唤到那边去，这已经成了习惯。在K新搬来时，由于我的提议，决定对他也如此。另外，由我送给太太一张薄板做的、可以折脚的别致饭桌，作为酬谢。
1379	私はその卓上で奥さんからその日何時もの時刻に肴屋が来なかったので、私達に食わせるものを買いに町へ行かなければならなかったのだという説明を聞かされました。成程客を置いている以上、それも尤もな事だと私が考えた時、御嬢さんは私の顔を見て又笑い出しました。然し今度は奥さんに叱られてすぐ已めました。	我在那张饭桌上听到了太太的说明。太太说，那天因为卖菜的人在平常来惯的时刻没有来，为了买些给我们吃的东西，不得不到街上走一趟。‘说得不错，既然招留了房客，那也是理所当然的事。’我正在思索时，小姐看着我的脸又笑起来了。然而这回被太太叱责一下就止住了笑。
1387	我々が首尾よく試験を済ましました時、二人とももう後一年だと云って奥さんは喜こんでくれました。そう云う奥さんの唯一の誇とも見られる御嬢さんの卒業も、間もなく来る順になっていたのです。Kは私に向って、女というものは何にも知らないで学校を出るのだと云いました。	当我们顺顺当当地结束考试，太太说，两人以后都只有一年了，她替我们高兴。而太太唯一值得夸耀的事——小姐的毕业，不久就要轮到了。K对我说：‘女人是一无所知地毕业的。’

1390	私が最初希望した通りになるのが、何で私の心持を悪くするのかと云われればそれまでです。私は馬鹿に違ないのです。果しのつかない二人の議論を見るに見かねて奥さんが仲へ入りました。二人はとうとう一所に房州へ行く事になりました。	如果有人问我，这正是我最初的希望实现了啊，为什么又使我心里难过呢。这我就没有话说了。我一定是个大混蛋。太太看见我们两人争论得没完没了，看不过去，挨进来调停。最后，两人决定一同到房州去。
1393	「今ではどんなに変っているか知りませんが、その頃は非道い漁村でした。第一何処も彼処も腥さいのです。それから海へ入ると、波に押し倒されて、すぐ手だの足だのを擦り剥くのです。拳のような大きな石が打ち寄せる波に揉まれて、始終ごろごろしているのです。	″现在不知道变得怎么样了，那时十足是个渔村。第一，到处都闻得到鱼腥气。其次，下海给波浪冲倒了，手上脚上立刻就会擦伤。打过来的浪头里杂着拳头那么大的石块，骨碌骨碌滚个不停。
1394	岩の上から見下す水は、又特別に綺麗なものでした。赤い色だの藍の色だの、普通市場に上らないような色をした小魚が、透き通る波の中をあちらこちらと泳いでいるのが鮮やかに指さされました。	从岩石上看下去的海水，又是特别的好看。红色的、蓝色的、平常不上市场的有色小鱼，在透明的波浪中到处浮游，鲜艳得可以指点出来。
1404	貴方がたから見て笑止千万な事もその時の私には実際大困難だったのです。私は旅先でも宅にいた時と同じように卑怯でした。私は始終機会を捕える気でKを観察していながら、変に高踏的な彼の態度をどうする事も出来なかったのです。私に云わせると、彼の心臓の周囲は黒い漆で重く塗り固められたのも同然でした。私の注ぎ懸けようとする血潮は、一滴もその心臓の中へは入らないで、悉く弾き返されてしまうのです。	你们看起来是非常可笑的事，在那时的我，实际上是个天大的困难。我在旅途中跟在家里时同样的没有胆量。虽然我始终观察着K，想抓个机会，但是我对他那高超的态度，奇怪地竟一点办法也没有。他的心脏周围，仿佛厚厚地涂了黑漆，很坚固，我想给他灌注进去的血流，一滴也不能进入他的心脏中去，全都迸回来了。
1405	詫びながら自分が非常に下等な人間のように見えて、急に厭な心持になるのです。然し少時すると、以前の疑が又逆戻りをして、強く打ち返して来ます。凡てが疑いから割り出されるのですから、凡てが私には不利益でした。容貌もKの方が女に好かれるように見えました。性質も私のようにこせこせしていないところが、異性には気に入るだろうと思われました。何処か間が抜けていて、それで何処かに確かりした男らしいところのある点も、私よりは優勢に見えました。学力になれば専門こそ違いますが、私は無論Kの敵でないと自覚していました。	我在肚子里后悔自己的错误，肚子里对K道歉，边道歉边觉得自己好象是个非常卑鄙的人，会陡然产生一种厌恨的心情。然而不一会儿，先前的疑虑又强有力地逆袭过来，一切都是从疑心出发推测出来的，所以一切都对我不利。容貌也好象是K比较受女人喜欢，脾气又不似我那样拘束小气，这也好象是异性所较合意的吧。有些粗心大意，可又有一种坚定的象个男子汉的地方，这也似乎比我占优势。至于学力，专修的学科虽然不同，我自己也清楚当然不是K的敌手。
1406	Kは落ち付かない私の様子を見て、厭なら一先東京へ帰っても可いと云ったのですが、そう云われると、私は急に帰りたくなくなりました。実はKを東京へ帰したくなかったのかも知れません。二人は房州の鼻を廻って向う側へ出ました。我々は暑い日に射られながら、苦しい思いをして、上総の其所一里に騙されながら、うんうん歩きました。私にはそうして歩いている意味がまるで解らなかった位です。私は冗談半分Kにそう云いました。するとKは足があるから歩くのだと答えました。そうして暑くなると、海に入って行こうと云って、何処でも構わず潮へ漬りました。その後を又強い日で照り付けられるのですから、身体が倦怠くてぐたぐたになりました。	K看到我不安定的神情，说，如果厌倦的话，暂先回东京一次也好。给他这么一说，我倒又突然不想回去了。说实话，这也许是因为不愿意让K回东京去的缘故。两人绕过了房州岬的顶端，到了那一边。我们顶着火热的太阳，热得难受，一边被上总地区‘就到了’所诓骗，一边努力地走着。‘这么走着有什么意义，我简直不明白。’我半开玩笑地对K这么说。于是，K回答：‘因为生着脚，所以要走啊！’这样，到了热不可耐时，说声‘下海去吧’，就不管什么地方，浸到潮水里去。这以后，又受到强烈的阳光照射，身体倦怠得软弱无力了。

1411	もう年数も余程経っていますし、それに私にはそれ程興味のない事ですから、判然とは覚えていませんが、何でも其所は日蓮の生れた村だとか云う話でした。日蓮の生れた日に、鯛が二尾磯に打ち上げられていたとかいう言伝えになっているのです。それ以来村の漁師が鯛をとる事を遠慮して今に至ったのだから、浦には鯛が沢山いるのです。	这件事已隔不少年数，再加我并不感到多大兴味，所以已不能记得清清楚楚，总之，据说那地方是日莲诞生的一个村庄。相传在日莲诞生那天，有两尾鲷鱼打上了海岸。从此以后，村里的渔夫们就禁捕鲷鱼，直到今天，因此海湾里鲷鱼很多。
1413	///実をいうと、我々は随分変な服装をしていたのです。ことにKは風のために帽子を海に吹き飛ばされた結果、菅笠を買って被っていました。着物は固より双方とも垢じみた上に汗で臭くなっていました。私は坊さんなどに会うのは止そうと云いました。Kは強情だから聞きません。厭なら私だけ外に待っていろというのです。私は仕方がないから一所に玄関にかかりましたが、心のうちではきっと断られるに違ないと思っていました。	///说实话，我们那时的服装打扮，难看极了，尤其是K，帽子被风吹下了海后，买了一顶莎笠戴着。衣服当然不用说了，两人都已肮脏透顶，外加因出汗而发臭。我说，跟和尚见面，那就算了吧。K很倔强，不肯听。他说，如果不愿意去，就让我一个人在外边等吧。我没有办法，只好一起走到门口，但心里还在想，那一定会被拒绝的。
1414	日蓮は草日蓮と云われる位で、草書が大変上手であったと坊さんが云った時、字の拙いKは、何だ下らないという顔をしたのを私はまだ覚えています。	我还记得，当和尚告诉他，日莲写得一手好草书，几乎被人称做‘草日莲’时，书法很不高明的K的脸上，现出了一副‘什么？无聊！’的表情。
1422	Kと私はそれぎり寐てしまいました。そうしてその翌る日から又普通の行商の態度に返って、うんうん汗を流しながら歩き出したのです。然し私は路々その晩の事をひょいひょいと思い出しました。私にはこの上もない好い機会が与えられたのに、知らない振をして何故それを遣り過ごしたのだろうという悔恨の念が燃えたのです。	K和我谈到这里就去睡了。而在下一天，又回复到普通客商的那个样子，淌着汗开始赶路。但是路上我偶尔要想起那天晚上的事。既然把再好也没的机会提供给我，我为什么装作不知道而错过的呢？我怀着悔恨的意念，胸中焦躁得象在燃烧。
1429	「それのみならず私は御嬢さんの態度の少し前と変っているのに気が付きました。久し振で旅から帰った私達が平生の通り落付くまでには、万事に就いて女の手が必要だったのですが、その世話をしてくれる奥さんはとにかく、御嬢さんが凡て私の方を先にして、Kを後廻しにするように見えたのです。それを露骨に遣られては、私も迷惑したかも知れません。場合によっては却って不快の念さえ起しかねなかったろうと思うのですが、御嬢さんの所作はその点で甚だ要領を得ていたから、私は嬉しかったのです。	″不仅这样，我还注意到了小姐的态度和以前稍为有些不同。隔开相当长的时期，刚从旅途中回到家里的我们，要象平常一样地安定下来，千事万事都少不了女人的帮忙。太太这么照料不去说，小姐却好象一切先照顾到我，而把K放在后面。如果露骨地这样做，说不定我也会感到麻烦，有的场合，甚至反而容易产生不愉快吧。但是小姐的做法，在这一点上非常得体，我很欣慰。
1433	無論郵便を持って来る事もあるし、洗濯物を置いて行く事もあるのですから、その位の交通は同じ宅にいる二人の関係上、当然と見なければならないのでしょうが、是非御嬢さんを専有したいという強烈な一念に動かされている私には、どうしてもそれが当然以上に見えたのです。ある時は御嬢さんがわざわざ私の室へ来るのを回避して、Kの方ばかりへ行くように思われる事さえあった位です。それなら何故Kに宅を出て貰わないのかと貴方は聞くでしょう。	不用说，有时是拿邮件来，有时是把洗好的衣服放下以后就走的，这一点儿来往，在同住一家的两人的关系上，应该看作‘当然’的事。但是定要独占小姐的强烈意念支配着的我，无论如何觉得那是超过‘当然’的。有时，甚至觉得小姐好象特意在回避我，不到我房间里来，只是到K那边去。你要问了吧：‘既然这样，为什么不叫K搬走呢？’
1440	足駄でも長靴でも無暗に歩く訳には行きません。誰でも路の真中に自然と細長く泥が掻き分	尽管你穿着高齿木屐或是长统靴，也不是能够随便乱走的。路的正中自然而然地走成了一条

	けられた所を、後生大事に辿って行かなければならないのです。その幅は僅か一二尺しかないのですから、手もなく往来に敷いてある帯の上を踏んで向へ越すのと同じ事です。	狭长的路线，烂泥被分开在两边，谁都必须在这条狭长的路线上小心翼翼地稳步前进。那路线只有一、二心尺宽，所以简直是踏着铺在大路上的一条带子渡越到前边去一样。
1441	///行く人はみんな一列になってそろそろ通り抜けます。私はこの細帯の上で、はたりとKに出合いました。足の方にばかり気を取られていた私は、彼と向き合うまで、彼の存在にまるで気が付かずにいたのです。	///走路的人，大家排成一长列，慢慢地通过。我在这条狭带子上，意外地碰到了K。我一心注意着脚下，所以在和他照面以前，完全没有觉察到他的存在。我面前突然给挡住了，不由得抬眼一看，那时才看清楚站在面前的就是K。
1448	///その頃の私はまだ癇癪持でしたから、そう不真面目に若い女から取り扱われると腹が立ちました。ところが其所に気の付くのは、同じ食卓に着いているもののうちで奥さん一人だったのです。	///我在那个年纪，脾气还很暴躁。给一个年轻女人这样不郑重地对待，不由得使我愤怒。而在围着同一餐桌的人中，注意到那点的，只有太太一人。
1453	肝心の御嬢さんに、直接この私というものを打ち明ける機会も、長く一所にいるうちには時々出て来たのですが、私はわざとそれを避けました。日本の習慣として、そういう事は許されていないのだという自覚が、その頃の私には強くありました。	在同居一家的长时期内，向那位极端重要的小姐直接表露衷情的机会，我是常常遇到的。但我有意避过了这种机会。那时的我，强烈地自觉到，依照日本习惯，这样的事是不许可的。
1459	///奥さんはそれじゃ私の知ったものでも呼んで来たらどうかと云い直しましたが、私も生憎そんな陽気な遊びをする心持になれないので、好い加減な生返事をしたなり、打ち遣って置きました。ところが晩になってKと私はとうとう御嬢さんに引っ張り出されてしまいました。客も誰も来ないのに、内々の小人数だけで取ろうという歌留多ですから頗る静なものでした。その上こういう遊技を遣り付けないKは、まるで懐手をしている人と同様でした。	///于是太太改口说，那么由我去约我认识的朋友来，怎么样呢？凑巧我也没有兴趣玩这种吵吵闹闹的游戏，就含含糊糊回答了她，暂时把这件事搁下了。不料到了晚上，K和我终于被小姐拉了出去。幸而客人谁也没来，家里很少几个人，所以玩得很安静。再加K没玩惯这种游戏，简直和袖手旁观一样。
1467	「Kは中々奥さんと御嬢さんの話を已めませんでした。仕舞には私も答えられないような立ち入った事まで聞くのです。私は面倒よりも不思議の感に打たれました。以前私の方から二人を問題にして話しかけた時の彼を思い出すと、私はどうしても彼の調子の変っているところに気が付かずにはいられないのです。	″K谈着太太和小姐，尽是谈个不停。最后竟寻根究底地问起连我也不能回答的事来了。我觉得讨厌，可是我更觉得奇怪，想起以前我把她们两人作为话题而和他谈话的时候，我不能不觉得他的情况怎么也和往常不同。
1468	彼の口元を一寸眺めた時、私はまた何か出て来るなとすぐ疳付いたのですが、それが果して何の準備なのか、私の予覚はまるでなかったのです。だから驚ろいたのです。彼の重々しい口から、彼の御嬢さんに対する切ない恋を打ち明けられた時の私を想像して見て下さい。私は彼の魔法棒のために一度に化石されたようなものです。口をもぐもぐさせる働さえ、私にはなくなってしまったのです。	我朝他嘴边望了一下，立刻知道又要说出什么来了，但这个颤动究竟在准备些什么话，我一点预感都没有，所以我很吃惊啊！请你想象一下看，当他那张轻易不开的口，公开道出了他对小姐苦恋着的时候，我是怎么样的啊！我简直成了给他用魔术棒一下子点化成的化石了，我连颤动嘴唇的力量都完全没有了。
1469	その時の私は恐ろしさの塊りと云いましょうか、又は苦しさの塊りと云いましょうか、何しろ一つの塊りでした。石か鉄のように頭から足の先までが急に固くなったのです。呼吸をする弾力性さえ失われた位に堅くなったのです。幸いな事にその状態は長く続きませんでした。私は一瞬間の後に、また人間らしい気分を取り	那时的我，可说是个恐怖的结块吧，也可说是个苦痛的结块吧，总之是一个结块，象石头或铁那样从头顶到脚尖很快地凝固了，凝固得连呼吸时的那种弹性都几乎失去了。幸而那种状态没有继续多久，我在一瞬间后又恢复了一个人的心情，而且立刻觉得我是失策了，是被他抢先了。

	戻しました。そうして、すぐ失策ったと思いました。先を越されたなと思いました。	
1470	私は苦しくって堪りませんでした。恐らくその苦しさは、大きな広告のように、私の顔の上に判然りした字で貼り付けられてあったろうと私は思うのです。いくらKでも其所に気の付かない筈はないのですが、彼は又彼で、自分の事に一切を集中しているから、私の表情などに注意する暇がなかったのでしょう。	那时，K郑重地开了口以后，象往常一样，一点一点地把自己的心表白出来。我苦痛得忍受不了，这种苦痛，就象巨幅广告似地用判然分明的字张贴在我脸上一样。尽管是K那样的人，照理也不会不注意到这一点，但是他又有他的缘故，他把一切都集中在自己的事上，大概也是没有余暇注意到我的表情吧。
1471	私の心は半分その自白を聞いていながら、半分どうしようどうしようという念に絶えず掻き乱されていましたから、細かい点になると殆んど耳へ入らないと同様でしたが、それでも彼の口に出す言葉の調子だけは強く胸に響きました。	我的心，一半在听他的自白，一半被‘怎么办啊、怎么办啊’这种念头不停地骚扰着，所以细节几乎没有听进去，但是他嘴里发出的言语的声调，却强有力地在我胸中回响。
1478	Kの自白に一段落が付いた今となって、此方から又同じ事を切り出すのは、どう思案しても変でした。私はこの不自然に打ち勝つ方法を知らなかったのです。私の頭は悔恨に揺られてぐらぐらしました。	现在K的自白已经告一段落，我又重新把同一件事情提出来，怎么想都是不合情理的。我不知道用什么方法来克服这个不自然，我悔恨得头脑里六神无主。
1480	その内私の頭は段々この静かさに掻き乱されるようになって来ました。Kは今襖の向で何を考えているだろうと思うと、それが気になって堪らないのです。不断もこんな風に御互が仕切一枚を間に置いて黙り合っている場合は始終あったのですが、私はKが静であればある程、彼の存在を忘れるのが普通の状態だったのですから、その時の私は余程調子が狂っていたものと見なければなりません。それでいて私は此方から進んで襖を開ける事が出来なかったのです。一旦云いそびれた私は、また向うから働らき掛けられる時機を待つより外に仕方がなかったのです。	过些时候，我的头脑渐渐被这种寂静扰乱起来。我一想到，K现在在隔扇那边想些什么呢？这就使我担心得不能忍受了。平常也往往这样：中间隔着一道隔扇，彼此都沉默无声，但在普通情况下，K越静就越能使我忘记他的存在，所以那时的我，已经不能不说是大为失常了。虽然如此，我又不能自己主动地去把隔扇拉开。一旦错过了说话机会，除了等待对方搭讪上来的时机以外，没有别的办法了。
1482	私には第一に彼が解しがたい男のように見えました。どうしてあんな事を突然私に打ち明けたのか、又どうして打ち明けなければいられない程に、彼の恋が募って来たのか、そうして平生の彼は何処に吹き飛ばされてしまったのか、凡て私には解しにくい問題でした。私は彼の強い事を知っていました。又彼の真面目な事を知っていました。私はこれから私の取るべき態度を決する前に、彼について聞かなければならない多くを有っていると信じました。同時にこれからさき彼を相手にするのが変に気味が悪かったのです。私は夢中に町の中を歩きながら、自分の室に凝と坐っている彼の容貌を始終眼の前に描き出しました。しかもいくら私が歩いても彼を動かす事は到底出来ないのだという声が何処かで聞こえるのです。つまり私には彼が一種の魔物のように思えたからでしょう。私は永久彼に祟られたのではなかろうかという気さえしました。	我首先觉得他是个莫名其妙的人，为什么要把那样的事突然对我公开说明呢？他的恋情又为什么热烈到了非对我表白不可的程度呢？而往常那样的他，又被什么风吹到哪儿去了呢？这一切，都是我难以解答的问题。我知道他是坚强的，我又知道他是认真的，我相信在决定我今后应该采取的态度以前，还有许多关于他的事不能不问问他，又觉得从今以后再和他做对手真不是味道。我不顾一切地在街道上走着，但眼睛里始终是他在自己房间里呆呆地坐着的面貌，而且不知从哪儿传来了一种声音，好象说，不管我怎样奔走，到底还是不能动摇他的。总之，我觉得他对我似乎是一种魔怪，我甚至觉得他不要永远对我作祟下去吧。
1488	私が夕飯に呼び出されたのは、それから三十分ばかり経った後の事でしたが、まだ奥さんと	大约过了半小时左右，我被招呼出去吃晚饭。太太和小姐出外穿的漂亮衣服，脱下后还

	御嬢さんの晴着が脱ぎ棄てられたまま、次の室を乱雑に彩どっていました。二人は遅くなると私達に済まないというので、飯の支度に間に合うように、急いで帰って来たのだそうです。然し奥さんの親切はKと私とに取って殆んど無効も同じ事でした。	那么丢着，隔壁房间里杂乱无章地弄得色彩缤纷。据说，两人要紧回来赶上替我们准备晚饭，迟了怕对不起我们。然而太太的这种殷勤，对于K和我差不多一点效果都没有。
1492	私は無論襖越にそんな談話を交換する気はなかったのですが、Kの返答だけは即坐に得られる事と考えたのです。ところがKは先刻から二度おいと呼ばれて、二度おいと答えたような素直な調子で、今度は応じません。そうだなあと低い声で渋っています。私は又はっと思わせられました。	我当然不是想隔着隔扇作这样的交谈，但是我满以为立刻能得到K的答复。哪知道这一回K不象刚才那样两次招呼‘喂’、两次回答‘哎’地用驯顺的口气答应我了。他低声支吾着说：‘是啊。’我又意外地受到了一惊。
1497	同時に私は黙って家のものの様子を観察して見ました。然し奥さんの態度にも御嬢さんの素振にも、別に平生と変った点はありませんでした。Kの自白以前と自白以後とで、彼等の挙動にこれという差違が生じないならば、彼の自白は単に私だけに限られた自白で、肝心の本人にも、又その監督者たる奥さんにも、まだ通じていないのは慥でした。そう考えた時私は少し安心しました。	同时，我还暗自观察一下家里人的情况。然而太太的态度，小姐的举动，都没有和平常不同的地方。在K自白以前和自白以后，如果她们的举动没有发生什么显著的差异，那可断定K的自白只是限于对我个人的自白，对那个紧要的本人和她的监护人太太，都确实还没有告知。这么一想，我就稍为安心了一点。
1498	奥さんと御嬢さんの言語動作を観察して、二人の心が果して其所に現われている通なのだろうかと疑っても見ました。そうして人間の胸の中に装置された複雑な器械が、時計の針のように、明瞭に偽りなく、盤上の数字を指し得るものだろうかと考えました。要するに私は同じ事をこうも取り、ああも取りした揚句、漸く此処に落ち付いたものと思って下さい。更にむずかしく云えば、落ち付くなどという言葉は、この際決して使われた義理でなかったのかも知れません。	我观察了太太和小姐的言语举动，又怀疑两人的心果真是所表现的那样吗？我又想，安装在人们胸中的那个复杂的机器，真能象钟表的指针那样，明了而没有虚伪地指出盘面上的数字来吗？总之，你得知道，我是把同一事态，这样解释、那样解释，结果才好容易在这个地方安定下来的。倘若再说得艰深一点的话，那么象‘安定’这类词语，说不定这个时候在字义上是决不能使用的。
1499	ある日私は突然往来でKに肉薄しました。私が第一に聞いたのは、この間の自白が私だけに限られているか、又は奥さんや御嬢さんにも通じているかの点にあったのです。私のこれから取るべき態度は、この問に対する彼の答次第で極めなければならないと、私は思ったのです。	有一天，我突然在大路上和K直截了当地开谈了。我第一要问的，是他最近那次自白，限于我个人呢还是对太太和小姐也都说过了。我想，我今后应该采取什么态度，要根据他这个回答来决定。
1500	学資の事で養家を三年も欺むいていた彼ですけれども、彼の信用は私に対して少しも損われていなかったのです。私はそれがために却って彼を信じ出した位です。	他曾为了学费的事，欺瞒养家达三年之久。可我对他的信用，却一点也没有受到损伤，反而为了这件事，我几乎对他开始相信起来了。
1505	「私は担任教師から専攻の学科に関して、次の週までにある事項を調べて来いと命ぜられたのです。然し私に必要な事柄が中々見付からないので、私は二度も三度も雑誌を借り替えなければなりませんでした。最後に私はやっと自分に必要な論文を探し出して、一心にそれを読み出しました。	″辅导我的教授要我在下星期以前查到和我专攻学科有关的某一事项。但是适合我必需的事项，却找来找去找不到，我不得不再而三地换借着杂志。最后，好容易才查到了自己所必要的论文，专心把它读下去。
1507	すると私は気が散って急に雑誌が読めなくなりました。何だかKの胸に一物があって、談判でもしに来られたように思われて仕方がないのです。私は已を得ず読みかけた雑誌を伏せ	这么一来，我的心散了，杂志也忽然看不下去了。不知何故，似乎觉得K胸中有了件什么事要跟我谈判，使我放心不下。我只得把开始在看的杂志合在桌上，想站起身来。K却非常

	て、立ち上がろうとしました。Kは落付き払ってもう済んだのかと聞きます。	沉静地问我：‘已经完事了吗？’
1509	こうと信じたら一人でどんどん進んで行くだけの度胸もあり勇気もある男なのです。養家事件でその特色を強く胸の裏に彫り付けられた私が、これは様子が違うと明らかに意識したのは当然の結果なのです。	相信应该这样做，他就有足够的胆量和勇气，不顾一切地自个儿进行下去的。通过他和养家的事，这个特点已经深深地铭刻在我心里，所以我明白意识到这次情形有些不同，那是当然的结果。
1517	Kは昔しから精進という言葉が好でした。私はその言葉の中に、禁慾という意味も籠っているのだろうと解釈していました。然し後で実際を聞いて見ると、それよりもまだ厳重な意味が含まれているので、私は驚ろきました。	K在从前就喜欢说‘精进’，我起初以为在这话中大概也包含着禁欲的意义吧，可是后来问了一下，才知道实际上含有比这更严重的意义，因此我吓了一跳。
1518	///道のためには凡てを犠牲にすべきものだと云うのが彼の第一信条なのですから、摂慾や禁慾は無論、たとい慾を離れた恋そのものでも道の妨害になるのです。Kが自活生活をしている時分に、私はよく彼から彼の主張を聞かされたのでした。その頃から御嬢さんを思っていた私は、勢いどうしても彼に反対しなければならなかったのです。	///’为了道，一切都应该牺牲。’这就是他的第一信条。所以节欲、禁欲当然不用说，即使是超脱肉欲的恋爱，也成为妨害‘道’的东西。K在过着自己靠自己的生活时，我常从他那里听到他的主张。从那时起思恋着小姐的我，势必怎么也非反对他不可。
1530	私がこう云った時、脊の高い彼は自然と私の前に萎縮して小さくなるような感じがしました。彼はいつも話す通り頗る強情な男でしたけれども、一方では又人一倍の正直者でしたから、自分の矛盾などをひどく非難される場合には、決して平気でいられない質だったのです。私は彼の様子を見て漸く安心しました。	我这样说的时候，自然会感到高个子的他，在我面前好象在萎缩下去，变得矮小了。正如常常提到的那样，他是一个很倔强的人，但另一方面，又是比平常人加倍老实的人，所以照他的本质说，在自己的矛盾受到严厉指责时，决不可能坦然无事。我看到他这个样子，好容易才放下了心。
1531	二人はそれぎり話を切り上げて、小石川の宿の方に足を向けました。割合に風のない暖たかな日でしたけれども、何しろ冬の事ですから、公園のなかは淋しいものでした。ことに霜に打たれて蒼味を失った杉の木立の茶褐色が、薄黒い空の中に、梢を並べて聳えているのを振り返って見た時は、寒さが脊中へ噛り付いたような心持がしました。	到这里两人结束了谈话，朝小石川的寓所走去。虽然那天还算是没有风，比较暖和，但终究已经是冬天，公园里冷冷落落的。尤其是霜打后失去了翠意的茶褐色的杉树林，树梢并排高耸在阴沉的天空中，使人回头一看，似乎会觉得寒气直迫脊背。
1532	///急いだためでもありましょうが、我々は帰り路には殆んど口を聞きませんでした。宅へ帰って食卓に向った時、奥さんはどうして遅くなったのかと尋ねました。私はKに誘われて上野へ行ったと答えました。奥さんはこの寒いのにと云って驚ろいた様子を見せました。	也许因为要紧赶路的缘故吧，我们在归途上几乎没有开口。回到家里坐向餐桌时，太太问为什么回来迟了，我回答说，被K邀到上野去了。太太现出惊奇的神色说：‘这么冷的天气！’
1546	悲しい事に私は片眼でした。私はただKが御嬢さんに対して進んで行くという意味にその言葉を解釈しました。果断に富んだ彼の性格が、恋の方面に発揮されるのが即ち彼の覚悟だろうと一図に思い込んでしまったのです。	可悲的，我是个独眼偏盲的人。我只是把他的话解释做K对小姐要进行下去的意思。我一心以为他那富于果断的性格，发挥在恋爱方面的，就是他的‘决心’。
1554	「Kから聞かされた打ち明け話を、奥さんに伝える気のなかった私は、『いいえ』といってしまった後で、すぐ自分の嘘を快からず感じました。仕方がないから、別段何も頼まれた覚はないのだから、Kに関する用件ではないのだと云い直しました。奥さんは『そうですか』と云って、後を待っています。私はどうしても切り出さなければならなくなりました。	″我不愿把K说给我的心里话传达给太太，回答了一声‘不’以后，立刻对自己的谎言感到不舒服。没有办法，只好改口说：‘他没有托过我什么事，所以不是关于K的事情。’太太应了声‘是吗’，等着我后面的话。我怎么也不能不开口了。

1555	///一度云い出した私は、いくら顔を見られても、それに頓着などはしていられません。『下さい、是非下さい』と云いました。	///我在一度说出口以后，尽管面孔给死死盯着，也不能理会她了。我说：‘给我吧！一定请给我！’
1558	///自分の室へ帰った私は、事のあまりに訳もなく進行したのを考えて、却って変な気持になりました。果して大丈夫なのだろうかという疑念さえ、どこからか頭の底に這い込んで来た位です。けれども大体の上に於て、私の未来の運命は、これで定められたのだという観念が私の凡てを新たにしました。	我回到自己的房间里，想想这事进行得过于顺利，反而有一种异样的心情。‘果真靠得住吗？’——好象连这种疑虑也不知从哪儿爬进脑袋底里来了。但是大体上我未来的命运就这样决定，这种想法刷新了我的一切。
1565	私はとうとう万世橋を渡って、明神の坂を上って、本郷台へ来て、それから又菊坂を下りて、仕舞に小石川の谷へ下りたのです。私の歩いた距離はこの三区に跨がって、いびつな円を描いたとも云われるでしょうが、私はこの長い散歩の間殆んどKの事を考えなかったのです。	我终于过万世桥，上明神坂，来到本乡台，这以后又走下菊坂，最后走下了小石川的谷地。我步行经过的距离，跨这三个区，也可说是画了一个歪七扭八的圆圈吧。我在这次长程散步中，几乎没有想到Ｋ。
1566	然し奥には人がいます。私の自然はすぐ其所で食い留められてしまったのです。そうして悲しい事に永久に復活しなかったのです。	但是其中还有人。我的‘自然’立刻被阻止在这个地步，而可悲的事是从此不复活了。
1568	私は食卓に着いた初から、奥さんの顔付で、事の成行を略推察していました。然しKに説明を与えるために、私のいる前で、それを悉く話されては堪らないと考えました。奥さんはまたその位の事を平気でする女なのですから、私はひやひやしたのです。	我在刚到饭桌旁边时，根据太太脸上的表情，就已经对事情的发展情况推测出一个大概来了。但如果太太为了要向Ｋ说明，当着我的面把这一切都说出来，我想那是我所不堪忍受的。太太又是个做这点儿事满不放在心上的女人，那就使我担心得七上八下了。
1573	私は仕方がないから、奥さんに頼んでKに改めてそう云って貰おうかと考えました。無論私のいない時にです。然しありのままを告げられては、直接と間接の区別があるだけで、面目のないのに変りはありません。と云って、拵え事を話して貰おうとすれば、奥さんからその理由を詰問されるに極っています。もし奥さんに総ての事情を打ち明けて頼むとすれば、私は好んで自分の弱点を自分の愛人とその母親の前に曝け出さなければなりません。	///我没有办法，想拜托太太，要她改日替我就这样告诉Ｋ吧。当然，那是要趁我不在的时候。如果她据实告诉Ｋ的话，那和我自己告诉只是直接和间接的不同，使我抬不起头来是一样的。那么编一套话来请她去说吧，太太又一定要诘问那是什么理由。如果我把一切情形都说清楚，并拜托太太的话，那我就非得把自己的弱点，自动地暴露在自己的爱人和她母亲面前不可。
1583	洋燈が暗く点っているのです。それで床も敷いてあるのです。然し掛蒲団は跳返されたように裾の方に重なり合っているのです。そうしてK自身は向うむきに突ッ伏しているのです。	煤油灯半明不灭地亮着，被褥也铺着，但被子好象掀翻了似地重叠在后边，Ｋ却脸朝那边伏着。
1585	その時私の受けた第一の感じは、Kから突然恋の自白を聞かされた時のそれと略同じでした。私の眼は彼の室の中を一目見るや否や、あたかも硝子で作った義眼のように、動く能力を失いました。	那时我的第一个感觉，和突然听Ｋ作恋爱的自白时那个感觉差不多是相同的。我的眼睛在他房间里才看一眼，就象玻璃做的假眼一样失去活动能力，木然呆立着不能动了。
1586	そうして、もしそれが奥さんや御嬢さんの眼に触れたら、どんなに軽蔑されるかも知れないという恐怖があったのです。私は一寸眼を通しただけで、まず助かったと思いました。（固より世間体の上だけで助かったのですが、その世間体がこの場合、私にとっては非常な重大事件に見えたのです。）	而且我还有一种恐怖：如果那信落到太太或小姐眼里，不知她们将怎样瞧不起我了。我只是粗粗看一下，先就觉得这可得救了。（当然仅是在人世间的体面上救了我，但在这个场合，那种人世间的体面对我好象是非常重大的事件。）
1592	「慄としたばかりではないのです。彼の頭が非常に重たく感ぜられたのです。私は上から今触った冷たい耳と、平生に変らない五分刈の濃い	″这不单是使我打了个寒战，还感到他的脑袋异常沉重。我从上面看了一会儿刚才接触过的冰冷的耳朵和跟平常一样剪短的黑而密

	髪の毛を少時眺めていました。私は少しも泣く気にはなれませんでした。私はただ恐ろしかったのです。そうしてその恐ろしさは、眼の前の光景が官能を刺戟して起る単調な恐ろしさばかりではありません。私は忽然と冷たくなったこの友達によって暗示された運命の恐ろしさを深く感じたのです。	的头发，我一点也想不到哭，我只是恐怖，而且那种恐怖，不仅是眼前的光景刺激五官后所产生的单调的恐怖。
1593	座敷の中をぐるぐる廻らなければいられなくなったのです。檻の中へ入れられた熊の様な態度で。	我耐不住在房间里绕着圈儿走个不停，有如关在笼子里的狗熊一样。
1595	ぐるぐる廻りながら、その夜明を待ち焦れた私は、永久に暗い夜が続くのではなかろうかという思いに悩まされました。	一面绕着圈儿走。一面焦急地等待天亮的我，被一种‘难道暗夜要永久存续下去吗’的情绪苦恼着。
1599	///つまり私の自然が平生の私を出し抜いてふらふらと懺悔の口を開かしたのです。奥さんがそんな深い意味に、私の言葉を解釈しなかったのは私にとって幸でした。蒼い顔をしながら、『不慮の出来事なら仕方がないじゃありませんか』と慰さめるように云ってくれました。然しその顔には驚ろきと怖れとが、彫り付けられたように、硬く筋肉を攫んでいました。	///就是说，我的‘自然’突然压倒平素的我，使我晕晕糊糊地说出了忏悔的话。太太没有把我的话解释做含有那么深奥的意义，那是我的幸运。脸色苍白的太太，她一边安慰似地对我说：‘既然是意外发生的事，那不是没有办法的吗？’然而在她脸上，惊愕和恐怖，好象给雕刻上了似地牢牢地抓住了筋肉。
1604	それから後の奥さんの態度は、さすがに軍人の未亡人だけあって要領を得ていました。私は医者の所へも行きました。又警察へも行きました。然しみんな奥さんに命令されて行ったのです。奥さんはそうした手続の済むまで、誰もKの部屋へは入れませんでした。	这以后，太太的态度确实不愧为军人的未亡人，是很得要领的。我到医生那里去，又到警察所去，但都是太太命令我以后才去的。直到这些手续办完，太太不让任何人进入K的房间。
1606	奥さんと私は出来るだけの手際と工夫を用いて、Kの室を掃除しました。彼の血潮の大部分は、幸い彼の蒲団に吸収されてしまったので、畳はそれ程汚れないで済みましたから、後始末はまだ楽でした。二人は彼の死骸を私の室に入れて、不断の通り寐ている体に横にしました。私はそれから彼の実家へ電報を打ちに出たのです。	太太和我，尽可能用各种手段和方法把K的房间打扫干净。幸而他的血液大部分都给他的棉被吸收掉了，席垫上并没怎么脏，收拾干净还不太费事。两人把他的尸体移到我的房间里，象平常睡着一样平放着。然后我出门去打电报给他本家。
1607	私が帰った時は、Kの枕元にもう線香が立てられていました。室へ這入るとすぐ仏臭い烟で鼻を撲たれた私は、その烟の中に坐っている女二人を認めました。私が御嬢さんの顔を見たのは、昨夜来この時が始めてでした。御嬢さんは泣いていました。奥さんも眼を赤くしていました。事件が起ってからそれまで泣く事を忘れていた私は、その時漸やく悲しい気分に誘われる事が出来たのです。私の胸はその悲しさのために、どの位寛ろいだか知れません。苦痛と恐怖でぐいと握り締められた私の心に、一滴の潤を与えてくれたものは、その時の悲しさでした。	我回来时，K枕边已插着线香了。我一进房间，做法事似的烟气直扑我鼻管，我看清楚在那烟气中坐着两个女人。我见到小姐的脸，昨夜以来还是第一次。小姐在哭，太太眼圈儿也红红的。事情发生后一直忘记了哭的我，那时好容易才被诱发了悲伤的感情。由于那种悲伤，我的胸中不知舒畅了多少。在突然被痛苦和恐怖一把捏紧的我的心上洒下了一滴甘露的，就是那时的悲伤。
1608	私はそれでも昨夜の物凄い有様を見せずに済んでまだ可かったと心のうちで思いました。若い美くしい人に恐ろしいものを見せると、折角の美くしさが、その為に破壊されてしまいそうで私は怖かったのです。私の恐ろしさが私の髪の毛の末端まで来た時ですら、私はその考を度外に置いて行動する事は出来ませんでした。	但我心里想，没有让她看到昨天夜里那种可怕的情景，还算是好的了。让一个年轻美人见到可怕的事物，我害怕她那难得的美因此将会被破坏掉。即使在我恐怖到极度时，我也不能把这种想法置之度外而随便行动。对我说，这中间包含着一种对美丽的花朵无罪而乱施鞭笞一样的不快。

	私には綺麗な花を罪もないのに妄りに鞭うつと同じような不快がそのうちに籠っていたのです。	
1613	「Kの葬式の帰り路に、私はその友人の一人から、Kがどうして自殺したのだろうという質問を受けました。事件があって以来私はもう何度となくこの質問で苦しめられていたのです。奥さんも御嬢さんも、国から出て来たKの父兄も、通知を出した知り合いも、彼とは何の縁故もない新聞記者までも、必ず同様の質問を私に掛けない事はなかったのです。私の良心はその度にちくちく刺されるように痛みました。そうして私はこの質問の裏に、早く御前が殺したと白状してしまえという声を聞いたのです。	″在殡葬了K的归途上，他的一个朋友问我：‘K怎么会自杀的呢？’自从事情发生以来，我已经不知多少次地被这个问题逼得走投无路了。太太呀，小姐呀，乡下出来的K的父兄呀，发给了讣闻的K的熟人呀，连跟他毫无关系的新闻记者，都向我提了同样的问题。每次受到提问时，我的良心仿佛受到针扎似地一阵一阵发痛，我还听到在这质问的背后，有一种声音在说：‘快些坦白了吧，是你杀死的！’
1614	私の答は誰に対しても同じでした。私は唯彼の私宛で書き残した手紙を繰り返すだけで、外に一口も附加える事はしませんでした。葬式の帰りに同じ問を掛けて、同じ答を得たKの友人は、懐から一枚の新聞を出して私に見せました。私は歩きながらその友人によって指し示された箇所を読みました。それにはKが父兄から勘当された結果厭世的な考を起して自殺したと書いてあるのです。私は何にも云わずに、その新聞を畳んで友人の手に帰しました。友人はこの外にもKが気が狂って自殺したと書いた新聞があると云って教えてくれました。	我的回答，无论对谁都相同。我只是把他写给我的遗书重复一遍，另外一句话也不添加。在殡葬归途上提出同样问题、得到同样答复的K的朋友，从怀中拿出一张报纸给我看。我一边走一边念着那朋友指给我的一个地方，那儿说，K被父兄赶出家门以后，产生了厌世思想，就自杀了。我什么话也不说，把报纸折好还到那朋友手里。那朋友又告诉我，还有别的报纸登载着K是发了狂自杀的。
1618	妻は二人揃って御参りをしたら、Kがさぞ喜こぶだろうと云うのです。私は何事も知らない妻の顔をしけじけ眺めていましたが、妻から何故そんな顔をするのかと問われて始めて気が付きました。	她说：‘两人联袂去上坟，K一定很高兴吧。’我出神地注视着什么也不知道的妻的脸，妻问我：‘你的脸色为什么这样呢？’我才醒了过来。
1620	私はその新らしい墓と、新らしい私の妻と、それから地面の下に埋められたKの新らしい白骨とを思い比べて、運命の冷罵を感ぜずにはいられなかったのです。私はそれ以後決して妻と一所にKの墓参りをしない事にしました。	我把那个新坟和我的新妻以及埋在地底下K的新的白骨联系起来比比，不能不感到命运的嘲弄。从此以后，我决不再和妻一起去上K的坟了。
1624	「ところが愈夫として朝夕妻と顔を合せて見ると、私のはかない希望は手厳しい現実のために脆くも破壊されてしまいました。私は妻と顔を合せているうちに、卒然Kに脅かされるのです。つまり妻が中間に立って、Kと私を何処までも結び付けて離さないようにするのです。	″但到了我作为丈夫而朝夕与妻面面相对后，我的脆弱渺茫的希望，被严酷的现实一下子破坏掉了。我和妻面对面地在一起时，会突然被K威胁。就是说，妻站在中间，而把K和我永远连结在一起，不给分离。
1627	けれども無理に目的を拵えて、無理にその目的の達せられる日を待つのは嘘ですから不愉快です。	可是勉强造出一个目的，又勉强期待着达到这个目的的日子，那是骗人，所以是不愉快的。
1628	私も幾分かスポイルされた気味がありましょう。然し私の動かなくなった原因の主なものは、全く其所にはなかったのです。叔父に欺むかれた当時の私は、他の頼みにならない事をつくづく感じたには相違ありませんが、他を悪く取るだけあって、自分はまだ確な気がしていました。世間はどうあろうともこの己は立派な人間だという信念が何処かにあったのです。それがKのために美事に破壊されてしまって、自分	我也多少有些被腐化了似的倾向吧。然而我之所以动弹不得，主要原因却完全不在这里。我在受叔父欺骗的当时，深切体会到旁人都不可靠，这一点没有疑问。但那时我只认为别人不好，至于自己，还是站得住的。不管人世间怎么样，我这个人总是一个完善的人，这个信念是在哪儿都存在着的。而那么一个信念却被K彻底破坏掉了。当我认识到自己也是跟那叔父同样的人时，我突然摇摇晃晃地站不稳了。

	もあの叔父と同じ人間だと意識した時、私は急にふらふらしました。他に愛想を尽かした私は、自分にも愛想を尽かして動けなくなったのです。	厌弃了别人的我，还厌弃了自己，我就这样变得不能动弹了。
1633	妻の母は時々気拙い事を妻に云うようでした。それを妻は私に隠していました。然し自分は自分で、単独に私を責めなければ気が済まなかったらしいのです。責めると云っても、決して強い言葉ではありません。妻から何か云われた為に、私が激した例は殆んどなかった位ですから。妻は度々何処が気に入らないのか遠慮なく云ってくれと頼みました。	妻的母亲似乎常在对妻说些听了不愉快的话。妻把这些话瞒着我，然而，她不单独责备我一番，好象不满足似的。虽说责备，可决不是用什么严厉的话，因为我被妻说了什么而激怒的例子是几乎没有的。妻屡次求我：‘有什么不满意的事，别顾虑，请你说吧！’
1635	理解させる手段があるのに、理解させる勇気が出せないのだと思うと益悲しかったのです。私は寂寞でした。何処からも切り離されて世の中にたった一人住んでいるような気のした事も能くありました。	想到我是有使她理解的办法的，但是我鼓不起使她理解的勇气，我越发悲哀了。我是孤寂的，我常常感到好象跟任何方面的联系都被切断了，在这世界上只有我一个人住着似的。
1636	同時に私はKの死因を繰り返し繰り返し考えたのです。その当座は頭がただ恋の一字で支配されていた所為でもありましょうが、私の観察は寧ろ簡単でしかも直線的でした。	同时我翻来复去地思考K的死因。由于头脑中被一个‘恋’字支配着的缘故吧，当场我的观察倒是简单而又一直线的。
1640	「私はそれまでにも何かしたくって堪らなかったのだけれども、何もする事が出来ないので已を得ず懐手をしていたに違ありません。世間と切り離された私が、始めて自分から手を出して、幾分でも善い事をしたという自覚を得たのはこの時でした。私は罪滅しとでも名づけなければならない、一種の気分に支配されていたのです。	″我在那时以前，也很想做些事，但什么事都不做，那一定是不得已才袖着手的。我和人世间已切断联系，觉悟到自己要伸出手去，多少做一点好事，就是在这个时候。我是被一种不得不称为‘赎罪’的心情支配着的。
1642	妻は満足らしく見えました。けれどもその満足のうちには、私を理解し得ないために起るぼんやりした稀薄な点が何処かに含まれているようでした。然し妻が私を理解し得たにしたところで、この物足りなさは増すとも減る気遣はなかったのです。女には大きな人道の立場から来る愛情よりも、多少義理をはずれても自分だけに集注される親切を嬉しがる性質が、男よりも強いように思われますから。	妻显得很满意，但在这满意中，不晓得哪儿好象还包含着一种由于不能理解我而产生的模糊、淡薄的地方。即使妻能理解我，这个缺憾也是有增无减的，因为我觉得女人具有一种比男人强烈的天性，女人对仅仅集注在自身的亲切，尽管他多少有些不合情理，比起来自伟大的人道立场的爱情，好象更加喜欢。
1645	そうしてその感じが妻に優しくして遣れと私に命じます。私はその感じのために、知らない路傍の人から鞭たれたいとまで思った事もあります。こうした階段を段々経過して行くうちに、人に鞭たれるよりも、自分で自分を鞭つ可きだという気になります。	我为了那种感觉，甚至还愿意受不认识的路人鞭笞。这样一个阶段、一个阶段进展下去，又觉得与其受别人鞭笞，更应该由自己来鞭笞自己；而从与其由自己来鞭笞自己，又产生了应该自己杀死自己的念头。
1650	「しばらくして又立ち上がろうとすると、又締め付けられます。私は歯を食いしばって、何で他の邪魔をするのかと怒鳴り付けます。不可思議な力は冷かな声で笑います。自分で能く知っている癖にと云います。私は又ぐたりとなります。	″过了一会儿，又打算站起来时，又被紧紧捆住。我咬牙切齿对它怒喝：‘你为什么要妨碍别人呢？’不可思议的力量用阴森森的声音笑着说：‘你自己知道得很清楚，还要问吗？’我又萎靡不振了。
1654	同時に私だけが居なくなった後の妻を想像して見ると如何にも不憫でした。母の死んだ時、これから世の中で頼りにするものは私より外になくなったと云った彼女の述懐を、私は腸	同时，只要我想象一下当我这个人不在以后妻的情况，我又觉得她非常可怜。岳母死的时候，她曾说过心里话，今后在世界上可以依靠的，除我以外没有别的人了。这种心情，还

	に沁み込むように記憶させられていたのです。私はいつも躊躇しました。妻の顔を見て、止して可かったと思う事もありました。そうして又凝と竦んでしまいます。そうして妻から時々物足りなそうな眼で眺められるのです。	渗透了我的肝肠似地留在我的记忆里。我总是犹豫不决，看到妻的脸，我也有过觉得幸而没有自杀，但最后又呆呆地缩在一边。而这样又往往被妻用不满的眼光望着。
1662	私は新聞で乃木大将の死ぬ前に書き残して行ったものを読みました。西南戦争の時敵に旗を奪られて以来、申し訳のために死のう死のうと思って、つい今日まで生きていたという意味の句を見た時、私は思わず指を折って、乃木さんが死ぬ覚悟をしながら生きながらえて来た年月を勘定して見ました。	我在报上看到乃木大将生前写下的东西，当看到‘西南战争时被敌人夺去军旗以来，为了谢罪，曾不止一次地想死，终于活到今天’那种意思的几句话时，我不禁搬着指头计算一下乃木先生下了死的决心后继续活下来的年月。
1665	私が死のうと決心してから、もう十日以上になりますが、その大部分は貴方にこの長い自叙伝の一節を書き残すために使用されたものと思って下さい。始めは貴方に会って話をする気でいたのですが、書いて見ると、却ってその方が自分を判然描き出す事が出来たような心持がして嬉しいのです。	自从我下了死的决心以后，已经十多天了。请你知道，其中大部分时间是用在写这个留给你的长篇自叙传的一节。起初我想和你面谈，但写了一看，觉得写好象反而能把自己清楚地描绘出来，这种心情使我很高兴。
1666	他から見たら余計な事のようにも解釈できましょうが、当人にはまた当人相応の要求が心の中にあるのだから已むを得ないとも云われるでしょう。私の努力も単に貴方に対する約束を果すためばかりではありません。半ば以上は自分自身の要求に動かされた結果なのです。	从别人看来，可能解释为多余的事，但在本人心中，又有和本人相适应的要求，所以也可说是不得已的吧。我的努力，也不单是为了履行对你的约言，一半以上是被自身要求所推动的结果。

行番	あした来る人（原文）	情系明天(訳文)
20	壜詰一本で決して自分が満足しないことを彼はよく知っている。酒が運ばれて来ると、トンカツを頼んだ。脂っこいものが好きである。曾根は何年か振りで見る東海道の風景と、前に坐っている麗人を観賞しながら酒を飲もうと思った。	曾根了解自己，一瓶是解不了酒瘾的。酒拿来后，便吩咐上炸猪排。他喜欢油腻食物。曾根打算一边喝酒，一边观赏窗外久违的东海道景致和眼前端坐的佳丽。
57	と言った。到底釈放されそうもなかったので、ありのままに言ってしまおうといった面持ちだった。	///她察觉对方不会轻易放过自己，索性如实说了。
84	富士の山頂の一部が雲の間から見えている。ほんの少し見える青い空を背景に、雪におおわれた山頂の一部が眼にしみるようにくっきりと浮かび出している。隣の麗人より富士山のほうがずっと美しい。	云层之中，已经现出富士顶峰的一角。那白雪覆盖的部分山顶在隐约可见的蓝色天幕衬托下，如现眼前。较之对面的佳丽，还是富士山好看得多。
85	列車は六時二十五分に東京駅に着いた。曾根二郎は三十時間の乗り物の旅から解放されて東京駅のプラットホームに降り立った。	六点二十五分，列车进入东京站。曾根二郎终于从长达三十小时之久的火车中解放出来，站到了东京站的月台上。
87	曾根はホームをつっ切り、階段を降り、降車口から駅前の広場へ出る。ここも人である。人のほかにおびただしく自動車が密集している。曾根は、しかし、五年ぶりの東京の玄関口の雑踏に押されたわけでない。気おくれする何ものもありはしない。蟻のようにしか見えない人間というものが、東京というところでは、少し哀れに思えただけのことである。	曾根穿过月台，走下阶梯，从出站口步入广场。这里同样水泄不通。除了人，还有川流不息的车辆。但是，曾根并未在阔别五载的这东京门户的纷纭景象面前自惭形秽。全然不存在足以使他们自卑的东西。在东京这等地方，人居然形同蚂蚁。对此他不由生出几分悲哀，仅此而已。
90	急に横合から昔のよび名で呼ばれた。	///突然有人用过去的称呼喊他。
133	曾根二郎は、昔の友達が自分を敬遠したことに感づいていた。しかし、敬遠されたことを憤慨しては	曾根看得出，往日的朋友在对自己敬而远之。这也是埋怨不得的。不管怎样，

	ならぬと思った。とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな！これもやはり友達の有難さというものだ。	是他给自己找的这个“窝”！毕竟是有朋友的好处啊！
137	横文字の書物が五六冊と、パンフレットが一束。それから変てこな形をした大小の魚の写真や図版が、これも幾束にも束ねられてある、あとは堅いボール箱が五個。これにはぎっしりと顕微鏡のプレパラートが詰っている。	还有一包多达五六册的英文书，几包奇形怪状、大小不一的鱼的照片和图片。此外便是五个硬纸箱，里面紧紧地塞着供显微镜用的标本。
140	曾根の訪ねて行った先は、虎ノ門の近くの小さいビルに編集室を持っている特殊な学術出版で知られている東洋出版社である。	他要访问的，是编辑部设在虎门附近一座小楼里的东洋出版社。这家出版社以出版特殊学术性著作知名。
150	曾根二郎がリュックの紐を解きかかると、神谷は、それを拡げられては大変と思ったのか、「いや、結構です。いいんです」	曾根二郎刚动手解背囊带，神谷似乎见势不妙，赶紧制止：
164	出版社の顧問である生物学者言った。専攻が違うので、正当な理解は期待していなかったが、相手に最初からこの研究に熱意のないことが、曾根にも感じられた。	/// 这位身任出版社顾问的生物学家说道。由于专业不同，曾根并未指望神谷给予应有的理解。但对方对此项研究压根儿就没兴致这点，他还是感觉到了。
168	神谷高彦は顔を上げて、ちょっと曾根の方を見た。自分のことでも言われたと思ったのかも知れない。	神谷抬头扫了曾根一眼。说不定以为是影射自己。
174	神谷は言ったが、こっちはもっと悪い。研究所に籍をおいて、そこから月給はもらっているが、すこぶる月給どろぼうの感が強い。五年間も大村湾に駐在して、勝手にカジカの研究に没頭させてもらっている。私立研究所にしても、わがままの許される限度というものがあるが、曾根の場合は、どうやらその限界をこえているらしい。	说起来，自己更是糟糕。虽然籍在研究所，每月照拿工资，却颇有“工资贼”之感。五年时间里，他始终在大村湾安营扎寨，随心所欲地一头扎在杜父鱼研究上。就私立研究所来说，其容忍程度是有限的，而曾根似乎已经超过了这一限度。
193	と、暗しそうに言う。人間生活と無縁ではない。このカジカ科の何種かは、北海道の漁民にとっては、雪にとじこめられ、鮭も鱒もなくなった時期、必要欠くべからざる食糧となる。だが、一般に北海道以外の土地では食べないので、何となく人間生活と無関係なものと思うらしいのである。	其实也并非同人们生活无缘。对北海道渔民来说，在大雪封地、既无鲑鱼又无鳟鱼的日子里，有几种杜父鱼便成了他们必不可少的食粮。只是，北海道以外的地方一般无人问津，因而人们便总以为它们对人的生活毫无作用。
194	曾根は、しかし、上京してだれからも相手にされなくても、たいしてへこたれなかった。出版さがの交渉は一応打ち切って、金を出す人を探そうと思う。これだけ東京に人がうようよ居るのだから、一人ぐらい、百万円の出版資金を出してくれる奇特な人物がいても不思議はないではないか。	尽管这次来京屡遭冷薄，但曾根二郎并不曾气馁。他打算先把联系出版的事放一放，而先物色肯出钱的人。东京城如此人如潮涌，其间有一两个肯赞助一百万出版经费的出众人物，又有什么奇怪的呢！
207	曾根二郎は旧友三村明に連れられて、新橋の小さい料亭の二階で、夕食をごちそうになった。そしてそこを出てから、二人は新橋から銀座へかけて、何軒かの飲屋を回った。	曾根二郎跟随三村走进新桥一家小吃店，上二楼吃了晚饭。+++ 离开这里后，两人又从新桥跑到银座，左一家右一家地大喝起来。
211	そう言って、また連れて行かれたが、こんどは本格的な酒場だった。その入口に立った時、青い照明が、リュックを右肩にひっかけている曾根二郎を、月世界にでも降り立った旅行者の気持にさせた。	说罢，又领去一处。这回是地地道道的酒巴。刚跨进门槛，一道清白的灯光迎面泻下，使得肩挎背囊的曾根二郎恍若置身月球一般。
218	こんどは洋酒が選ばれた。酒場へはいると、三村明は急に酔い出した。	这次要的是洋酒。一进酒巴，三村突然醉上头来。
294	「別段難しい人間でもないらしい。はねられておいて、自分でのこのこと向うへ歩いて行きかけたんだからね。こっちで心配して呼びとめなければ、そのまま行ってしまったかも知れない。普通ならう	“倒也不是胡搅蛮缠的人，碰了以后，自己还一步步往前走来着。要不是我不放心，把他叫住，也许就那样走掉了，若是一般人，断不会轻易罢休的。”

	るさいことを言って来るところだがね」	
316	梶大助はボーイから渡された二枚の名刺に目を当てていたが、+++「一緒かい?」+++ときいた。	梶大助从其手里接过两张名片，问：+++“一同来的？”
345	自分の婿の場合ばかりではない。梶大助は絶対に人の悪口を言わない。いくら誘いかけられても、悪口の歩調を合せることがない。絶対に人のことを悪く言口わないということで、あるいは、彼は今日の地位を得ているのかも知れなかった。	不仅对自己的女婿，梶大助对任何人都绝对不说长道短。不论别人如何套话，也从不随声附和。或许正是这一点使他获得了今天的地位。
365	柳川商事株式会社渉外課というのが、夫の大貫克平の職場である。柳川庄司というのは本社を神戸に持つ戦前から名前を知られた貿易会社で、戦争のおかげで一時は崩壊同然の憂目を見たが、また三四年前から盛り返して、その存在を現わしてきている。	丈夫大贯克平在柳川商事股份有限公司涉外科工作。这家公司总部设在神户，战前就很有名。战争期间曾一度濒于破产，但三四年前已开始东山再起，重振雄风。
375	八千代は受付嬢に聞きとられぬように、低い声で言った。	///八千代压低嗓门，以不使传达处的少女听见。
380	「あてましょうか。いまシャボンこすりつけられているんでしょう。仰向けにされて―」	“我猜猜好么，您脸上满是肥皂沫吧？仰脸躺着……”
414	まん中に部屋である。ノックして、とびらを開けると、四畳半程の部屋に一つ置かれてあり、入院者は、そのベッドの上に仰向けになって、書物を読んでいた。	走到正中的房间前，她敲开了门。只见四张半垫席大的房间里放着一张床。住院者正仰面躺着看书。
416	八千代が声をかけると、相手はむつくりと起きあがった。そして八千代の方に視線をあてたが、そのまま声は出さないで、あっ気に取られた表情を取った。	///八千代招呼道。+++　对方应声而起，眼睛盯着八千代，却迟迟不开口，一副愕然的神情。
417	八千代の方も、すぐ見憶えのある人物だと思った。しかし、とっさにはたれか思い出せなかった。ベッドのすぐに、半開きのままに置かれてあるリュックを目にすると、ああ、あの列車の中の人物だと思った。	八千代也觉得此人面熟。等到看见床头那半开的旅行背囊，才猛然想起：原来是火车上的那个人。
443	「好きな方でしょうな。そう沢山は飲まないが。―自動車とぶつかった時は、確かに酔っ払っていました。大学の教授をしている友達に銀座を引っぱり回されたんです」	“算是吧。倒也喝不太多。不过撞到汽车上时，确实喝得酩酊大醉了。一位在大学当教授的朋友拉我在银座挨门逐户喝个不休。”
452	「ほんとも嘘もないんですよ。貴女のお父さんに強引に連込まれたんですからね」	“一点不说谎。是您父亲硬把我拖进来的嘛。”
456	八千代はそう言って、その自分の言葉に刺激された形で笑った。慎重居士の父と、いま眼の前に居る素朴な感じの人物の、二人のその場の応酬が眼に見えるようであった。	///说罢，八千代自己也被这句话逗得笑了起来。隐士一般慎重的父亲；眼前这位质朴无华的男子――两人当时应酬地场面历历如在眼前。
480	そこへ八千代の注文したソーダ水が運ばれて来た。	这当儿，八千代要的汽水送上桌来。
484	断られた男の顔ではなかった。屈託なく、むしろさばさばした感じである。	但那张脸却不象是吃闭门羹的样子。并不消沉气馁，甚至给人以乐观之感。
491	八千代は、その曾根の言葉で自分自身が非難された気持だった。余裕が少しでもあると、つい自動車に乗る方である。	///八千代觉得曾根的话好似针对自己说的。手头有一点余钱，就禁不住要以车代步。
492	八千代は西銀座のフランス料理屋へ曾根を案内した。地下室ではあるが、地下室特有の落ち着きがあり、卓の配置もゆっとりしていて、ソファーも上等である。八千代は二回ここに父に連れられて来たことがある。	八千代把曾根领到西银座一家法国风味饭店。虽是地下室，但有着地下室特有的气氛。桌子的排列很宽松，沙发也属高档。她曾两次跟父亲来过这里。
518	坂を上って行くに従って、人であたりは埋まって	越往坡上人越多，远远望去，真是万头

	いた。気がつくと、いつか頭上には、満開のさくらが枝を拡げていた。外灯の光りに照らされて薄紅色の花が、目がさめるようにあざやかに浮き出している。	攒动。花团锦簇的树枝给夜空构成了一副绚丽的框架。在街灯的辉映下，浅红色的樱花如同初醒的明眸一般闪闪烁烁。
534	第三ホテルの一室で、梶大助は七時に電話のベルで起された。今朝に限ったことではない。大抵毎朝、大阪の本社からの電話で起される。	第三饭店一个房间里。七点钟时，梶大助被电话铃声叫起床来。不止今天早上，每个早上都几乎是被大阪总公司打来的电话叫醒的。
604	そんな風に彼は言った。呼び出されたのは社長とか専務とかいう種類の人間らしかった。梶が話している間、曾根は電話を聞いては失礼かと思って、椅子から立ちあがって、窓から外を見ていた。	///梶大助说道，接电话的好象不是经理就是专务。 +++梶说话时，曾根觉得听人打电话不礼貌，便欠身离开椅子，眼望窗外。
682	「行くだろうと思っているかね。—自動車事件の直接の被害は、八千代に小遣いを取り上げられたことだよ」	“或许。——汽车事故给我造成的直接损失，是零用钱给八千代索去了。”
835	九段から上野へ回った。さくらは、九段も上野も完全に散っていた。地面に散っている花びらを、四月のなまぐさい風が吹き上げ、その中を、それでも多勢の男女が風にあおられながら歩いていた。	车从九段拐到上野。两处的樱花都已彻底落尽。四月里带有腥味的海风把散在地面的花瓣吹上空中。但路边仍有众多男女熙熙攘攘。
955	子犬は克平の蒲団の中へ入れられると、その瞬間からおとなしくなった。うんともすんとも言わないと思っていると、そのうちに克平の寝息が聞えて来た。	小狗被放进被窝后，当即老实下来，安安稳稳地一声不响了。不一会儿又传来克平入睡的呼吸声。
1012	その日、克平は会社を退けると、珍しく早く家へ帰って来た。といって、朝八千代と口論したので、彼女に気がねして早く帰ったわけではない。ある雑誌社から頼まれている登山の随筆の締切りが迫っていたので、それを片づけたかったのである。	这天，克平一下班就早早地赶回家来。这在他是很少见的。但并不是因为早上同八千代吵过架而心怀歉意。而是想把一家杂志社所约的登山随笔写完，因为马上就到交稿期限了。
1115	そして、その銀座の裏通りがかなり新橋に近くなると、克平は両側の店の一軒一軒に視線を投げて行った。中華料理店、洋品店、酒場、菓子屋、洋服星、靴屋、—そうした店ばかりが交互に配置されてある感じである。克平は、やがて、一軒の店の前で立ち停まった。中華料理店の朱色の建物と、こぎれいな洋菓子屋の間にはさまれた小さい店である。	当克平沿着银座后街快要走到新桥时，他放眼向两侧鳞次栉比的店铺看去。中国风味饭店、洋货店、酒巴、糕点铺、西服店、鞋店……交替出现，目不遐接。不久，克平在一家店前站住。这是一家夹在中国风味饭店那红色建筑与井井有条的西式糕点店之间的小店。
1116	間口は一間半程の店で、奥行きが畏く、店内の片側は飾窓、反対側は洋服生地の棚になっている。飾窓には三個のボディが三着の派手な洋服をかぶせられて立っていた。克平は店の内部へはいりかけたが、もう一度舗道へ出て、店の看枚を見上げた。洋裁店「ヤマナ」と書かれてある。	门面宽不足五尺，却很有纵深感。店内一侧是陈列窗。另一侧是西服布料架。陈列窗里立着三个身穿漂亮西服的模特儿。克平一步跨入店内，又马上退回人行道，抬头看了眼招牌，上书：“雅玛娜西服店。”
1126	店員は女客の方に会釈すると、横手のカーテンのところに行き、内部へ声をかけてから、そのカーテンを少し引いた。カーテンがめくられた時、大きな三面鏡が見え、仮縫いでもしているらしい女の身体の一部がその三面鏡に映っているのが見えた。	店员向女顾客点点头，走近旁边门帘，向里边打声招呼，把门帘稍稍掀开。门帘被撩起时，闪出很大的三梭镜，映出一个似乎正在裁衣服的女子身影。
1147	見ると、なるほど、窓際の小さい卓の上に、果物の空かごに赤いリボンで縛られた子犬が坐っていた。三畳ほどの部屋だが、正面に大きく窓が取ってあり、開け放っている窓の向うには、どうせ狭いに違いないが、幾らかの空地はあるらしく、夕やみの中に、はちすか何かの枝が、若葉を窓わくのところまで伸ばしている。	一看，果然窗口边小桌上的空果篓里，蹲着那条拴着红线绳的小狗。房间仅有三张垫席大小。正面开一个大大的窗口，窗户敞开着。窗外虽然不大宽敞，但仍象有一点空地。暮色之中，几枝似乎是莲花之类的长柄把嫩叶一直举到窗边。
1159	「わたくしは、この犬、川辺さんの奥さまに頼まれ	“这狗，是川边太太拜托我，寄养在这里

	まして、お預りしてあるんですが」	的……”
1163	犬はやがて杏子の膝の上に乗せられた。首には猫につけるような鈴がついている。	狗很快被抱到杏子膝盖上。脖项上还带有一个给猫系的那种小铃。
1181	抜き出した二通のうち、一つは女学校時代の級友である坂上時子からの手紙であった。級友の一人が近く結婚することと、一人が母親になったことを告げて来てあった。そして彼女自身も、秋までには身を固めなければならぬということが、それとなくよろこびをかくして認められてあった。	抽出的两封信中，一封是女校时代同学坂上时子写来的。告诉说有个同学最近结婚，还有个同学已经当了母亲，并说她自己也准备在秋天前完婚。字里行间不无欣喜之情。
1188	友達の手紙を読むと、やはりそこに一抹のさびしさを感じる。しかし、そのために自分の考えを翻そうという気持にはならない。杏子は、台所の用事と、子供を育てることと、生計のやりくりに追い回されて徒らに老いてしまった母を否定はしないが、同じ道を歩もうとは思わない。	然而看了同学的信后，仍不免生出一缕寂莫之感——当然还不至于使自己因而改弦易辙。对于在烧菜做饭、生儿育女人情往来的忙碌当中陡然衰老的母亲，杏子并不抱否定态度，只是不想步其后尘。
1189	それからまた比較的裕福な商家へ嫁いだ姉の場合も、経済的な苦労こそないが、いまは彼女もまた母と同じ立場に追いこまれようとしている。絵の天才だといわれて、一生絵を描くと言っていたが、嫁いでからは、ただの一度も絵筆を持ったことはない。	就拿嫁到较为富裕的商人之家的姐姐来说，经济困难固然没有，但眼下同样陷入与母亲毫无二致的境地。据说她有绘画天赋，其本人也声称要画一辈子画。然而自出嫁以后，却一次都没有拿起过画笔。
1196	杏子はこの時の梶大助にひかれた程、他の男性にひかれたことはないように思う。この六十歳の紳士にくらべると、他の彼女の周囲の男性はどこか物足りなく思われた。しかし、大貫克平の印象だけが、今朝の杏子には例外だった。	杏子似乎觉得男性都未曾象此时的梶大助那样吸引过自己。同这位六十岁老绅士相比，自己周围的所有男性都显得不够份量。然而只有大贯克平给人的印象在今天的杏子眼里是个例外。
1199	それだけ認められてあった。あて名である杏子の名前も書いでなければ、自分自身の名前も書いてなかった。ただ用件だけを走り書きしたものである。	这就是全部内容。既没写收信人杏子的姓名，又没有其本身的落款。只是潦潦草草地就事写事。
1209	ボーイにささやかれて、克平はすぐ杏子の方を振り向いたが、	男侍耳语之后，克平当即回头看了杏子一眼：
1245	それから克平は、ビファア・モンスーン（季節風前）は、日が長いこと、暖がいこと、雪が深くて氷河の割目が覆われていること、等々の利点があり、大抵ヒマラヤを目指す連中はこの時期を選ぶと言った。	接着，克平列举了季风来临前的种种优点，如日照时间长、气温暖和、雪深足以覆盖冰河裂缝等等，说想要登喜马拉雅山的人基本都选择这一时间。
1287	克平は運ばれて来たジョッキを口に運んでから、	///克平把送来的啤酒杯端起，
1290	「三日程下山できないで、新聞に書かれたことがあります。その時は母親はよほど心配したらしくて、いまでもよくその時の話をしますよ。登山というものは親不孝なものです」・克平の口調にはほとんど抑揚というものがなかった。他人の事でも話しているような、一種独特な冷静な調子があった。	“有一次三天没回来，被报纸报道了，可把母亲吓坏了，现在还动不动就提起这事哩。登山是一种不孝顺的运动。”克平的声调几乎没有起伏，而带有一种特别的沉静，好象是谈论别人的事情。
1352	「それに大体、いやと言わんたちでしてね。どんなことを頼まれても、必ず引き受けます。引き受けて、誠意をもって、先方に口をきいてくれます。しかし、まあ、それだけですね」	“而且，他从来不说一个不字。无论求他什么，都肯定接受无疑。随后也真心实意地开口托人。不过，也仅是如此而已。”
1381	思わず一緒に二人は笑った。曾根の方は本心からおかしそうな顔だった。克平の方は、そんな曾根につられて、ついむしょうにおかしくなったという表情だった。	俩人同时笑起来。看样子，曾根是打心眼里感到好笑；而克平却是在曾根的感染下也不由地觉得滑稽起来。
1419	そう言われてみれば、なるほど妻帯するまでの手続きや交渉は、この男には面倒臭いかも知れない	如此说来，成婚前的手续和交往对男人或许是够罗索的。酒后在银座街头边走边

	と思われた。克平は酒を飲んで、銀座の舗道を細君の話をしながら歩くのは初めてだった。	谈老婆，这对克平来说还是头一遭。
1423	「こんどは大丈夫です。リュックを持っていないから―。それに、上京する度にひかれていてはやりきれんです」	“不要紧，这回没带那个背囊。再说，每次进京挨车撞，那还得了！”
1442	と学生に阪神ビルを教えられ、その通り歩き出したのであるが、地下道をくぐったら、どういうものか変なところへ出てしまい、もう一度地下道へはいったら、こんどは阪急電車の乗り場に持って行かれてしまったのである。	///他便按对方说的走了过去。不料走出地道一看，总觉得有些不对头。于是重新钻回地道，结果这回被带到了阪神电车站。
1444	阪神電車の香櫨園で降りると、酒場で電話をかけた時、八千代から言われたように、海の方へ向って歩いて行った。そして海へ突き当る少し手前で、いい加減見当をつけて、右手の低地へ降りて行った。そして最初の家で、梶大助の家をたずねた。	在香栌园下了电车，先到酒巴打了个电话。他按八千代说的往海滨方向走去。快到海边时，他大致估计了一下，走下了右侧洼池。在头一座住宅前，他向人打听梶大助的住处。
1488	彼女は梶を応接間へは入れないで、廊下の方へ押し返した。いったんとびらの外へ押し出されたらしい梶は、	+++她没让梶进客厅，硬将他推回走廊。只听被退到门外的梶说：
1528	曾根二郎は言われるままに風呂をもらってはいることにした。八千代に家の奥の方にある浴室へ案内された。三畳ほどの脱衣場がある。そこへはいって行くと、ガラス戸で仕切られた隣りの浴室がすいて見える。ここも普通の家の浴室としては、ばかばかしく思われるほど、場所をひろく取ってある。	曾根于是按主人的吩咐，决定洗个澡。八千代把他领到房子尽头的一间浴室。更衣室有三张垫席大。进去后可以看见隔壁用玻璃隔开的浴室。这里也很宽敞，就一般家庭来说，简直宽敞得有些过分。
1847	克平がその男を紹介した。三沢が先きに立って歩き、そのあとからアルさんと克平の間にはさまれて、杏子は歩き出した。	///克平介绍说。三泽走在前头，乙醇随后，杏子挟在乙醇和克平中间。
1854	アルさん、三沢、杏子の順で、ソファに並んで腰かけた。そしてその三人の前に、むかい合うようにして二人の女給が腰を降ろした。男たちには生のウィスキー、杏子にはハイボールが運ばれた。	乙醇、三泽和杏子依序并排坐在沙发上。两名女侍在三人对面坐下。男子面前摆上威士忌，给杏子端来是掺有威士忌的冰镇汽水。
1857	「ほっとけ、マダムに恨まれるぞ」	“让他跳好了，别惹老板娘不高兴!”
1865	「いいや、違うんです。去年ヒマラヤで、彼は腰にぶらさげている昆虫を入れる壜のアルコールを飲んだんです。これは登山家の仲間では有名な事件で、それでアルさんの尊称を奉られているんです」	“啊，这跟酒量无关。去年在喜马拉雅山，他喝过用来装昆虫的瓶子里的酒精。这是个很有名的故事，登山的同行没有一个不知道。因此奉送给他一个乙醇的雅号。”
1892	「これはアメリカの新聞にも載った話ですが、揚子江の上流には未測量の、エベレストより高い山がある。これは少し話が大きいとしても、まあ、七千メートルから八千メートルぐらいはある山はあるだろうといわれていますよ」	“美国一家报纸上也说，长江上游有比珠穆朗玛峰还高的未经测量的山。即使这种说法有些夸张，但七、八千公尺高的山也还是可能有的。”
1893	杏子は、克平がマダムに誘われるままに立ち上がって行ったのを、顔はその方に向けないで、見ていた。	因女店主刚才来叫过，克平又起身离开了。杏子转脸看了下克平。
1904	三沢は三沢らしく傍から心配して言った。結局、杏子の前には、ハイボールが運ばれて来た。	///三泽毕竟是三泽，有点担心起来。+++杏子面前还是摆上了一杯新的冰镇威士忌汽水。
1964	「アルさんにすすめられたんでしょう」	“给乙醇君劝的吧？”
2017	「そうそう、思い出したよ。この間、若い者に連れられて、競馬というものをやったがね。あれをひとつやってみるといい。酒と同じで、はめをはずすど害があるが、あれはあれで、やはり知っておいていいものだろう。」	“对了对了，想起来了。前几天，跟一个年轻人去赛马来着。那敢情儿也还是领教一下好。就跟酒一样，过分了是有害，但知道一下也还是要得的。”
2023	と、梶は、金のことでも相談かけられた時のような	///就象找他商量捐款时似的，

	返事をして、	
2066	「なかなか、うまいな」+++と言った。他人から提供される食物に対しては、それがいかなるものでも、梶は必ず「うまい」という言葉を口にする。決して他人の好意に対して感謝の意を表現することを忘れない。	“好味道！”对别人招待的食物，不管什么东西，梶总是要说一句“好味道”。他绝对不会忘记对别人的好意表示谢意。
2148	一でも、いざ山に登り始め、わたしのことなんか、これっぽちも考えないというのなら、わたしつまんないと思うわ。ばからしくなっちゃう。棄てられるんですもの。夫から自分が追い出されちゃうために、協力する女があるかしら」	///只是我不喜欢一旦登起山来，你就把我忘得一干二净。这我受不了。简直是受到愚弄，是被抛弃。丈夫把自己丢开不管，却要给什么支持，难道有这样的女人不成？”
2248	そう言いながら、八千代は若い女店主の、もぎたての果物のような、身体いっぱいにあふれている自由なみずみずしいものに気押される気持だった。	///说着，八千代不由得在女店主那如同新摘佳果一般浑身洋溢着的奔放的青春气息面前有些自渐形秽。
2268	杏子は、生地を運んで来た。八千代は、卓の上に置かれた生地の方へ眼を遣ったが、気持は犬にこだわっていた。あんなに大騒きをして、川辺夫人から取り上げておいて、克平が改めてこの若い美しいデザイナアに提供したと思うと、八千代の心には少し平らかならざるものがあった。	杏子把面料拿来，放在桌上。八千代眼睛看着布料，心却在小狗身上。克平曾大动干戈地从川边夫人那里要回来，却转手又提供给了这位年轻貌美的女服装设计师。想到这里，八千代的心不由一阵骚然。
2292	八千代は言われるままに、所番地と電話番号を書いて、杏子に返した。	八千代于是写下地址和电话号码。
2300	杏子は言って、手渡されたメモに眼を当てていたが、やがてはっとして、八千代の顔を見た。カステラのように、触れればぼろぼろに崩れそうな大貫八千代の、顔の線のもろい美しさが、急に杏子の眼には全く違ったものに映って来た。	说着，杏子目光落在对方递过来的纸上。少顷，心里一震，抬头注视着八千代的脸。大贯八千代脸上那宛似一触即溃的蛋糕一般嫩弱的美丽线条，在杏子眼里完全有了另一层含义。
2302	そう言って、ちらっと自分の方を見た客の視線が、杏子にはカミソリの刃のように感じられた。杏子は、確かにいまどこかを烈しい鋭さで切られたと思った。	这时，杏子感到客人注视着自己的视线，竟象刮脸刀一样锋利。实际上她也觉得身上被刀刃刺痛了一下。
2307	午後になって雨が上がって、急に夏らしい陽が舗道に照りつけ始めた日、杏子は、八千代の洋服生地を探すつもりで店を出た。外国生地を専門に売っている店が日比谷のＨビルの二階にあるので、そこへ出かけるつもりだったが、日本劇場の前まで行った時、杏子はふいに声をかけられた。「山名さん」ひどく大きい声である。	这天下午，雨过天晴，夏日特有的阳光倏然铺满街头。杏子走出店，准备去物色八千代的衣料。日比谷Ｈ大厦二楼有一家专门出售外国布料的商店，准备到那里看看。走到日本剧场门前，忽听有人扯着大嗓门叫道：+++“山名小姐！”
2341	三沢は言われるままに、杏子の隣りの空いている席に鞄を置いた。	///三泽顺从地将皮包放在杏子身旁的空位上。
2342	杏子はくすくす笑った。三沢のそんな、いつもアルさんにリードされている様子がおかしがった。	杏子“噗哧”一笑。她感到有些滑稽，三泽老是一副对乙醇唯命是从的样子。
2444	克平と八千代がうまく行っていないようなアルさんと三沢との会話が思い出されると、杏子は、なんとなく、大貫八千代の洋服生地を探す仕事は明日のことにして、銀座の店の方へ帰って行った。	路上想起乙醇和三泽俩人提起的克平与八千代不甚融洽的话，杏子决定明天再去为大贯八千代物色西服面料。当下径直返回银座店里。
2486	『大貫克平氏遭難か』という見出しで、二十行程の記事が載っている。記事の頭には「松本発」と書かれてある。	报道以“大贯克平遇难？”为题，大约有二十行字。开头注有“松本电”三字。
2488	『登山家として有名な大貫克平氏（柳川商事株式会社社員）は去る五目正午、鹿島槍登攀のために長野県北安出雲郡平村字鹿島大根治五郎氏宅を出発、大川沢（オオゴザワ）方面に向ったが、翌六日夜、営林署巡回員に依って同氏の遭難の報がもた	“以登山闻名的大贯克平氏（柳川商事股份有限公司职员），五日中午为攀登鹿岛枪而从长野县北安昙郡平村字鹿岛大根治五郎氏住宅出发，前往大川泽方向。次日（六日）夜，营村署巡山员报告该氏遇难。

	らされた。北槍には、四五日前関西の会社員らしい登山者の一団が登り山頂付近にテントを張っているはずで、大貫氏はそれを目当てにして登って行ったものだが、氏の遭難は、その先発登山者のうちの一人に依って営林署巡回員に伝えられたものである。	四、五天前，一伙似乎是关西地区某公司职员的登山队员曾登临此山，在山顶附近拉起帐篷。大贯氏以此为目标往上攀去。其遇难消息是一名先行登山者告诉营林署巡山员的。
2498	///「大丈夫でしょうか」+++こっちならおこられることはあるまいと思って、杏子は三沢に声をかけた。	“不要紧吧？”杏子问三泽。她估计由自己开口对方是不至于生气的。
2508	「とにかく夫人のところへ電話してみよう。夫人がどうしても行くというのなら、しかし、やはり付いて行かなければなるまい。だが、大町くんだりまではるばる出掛けて行っても、まず、克平に笑われるのが落ちだろうな」	“不管怎样，给他夫人打个电话吧。如果夫人横竖要去，我们也只能陪伴。不过，大老远跑到大町去，肯定要给克平笑话的。”
2523	「去年や一昨年からの山登りじゃあないんだからな。自動車にひかれたというんなら、これは信用しないでもないが、克平が日本の山で—、というのはね」	“克平又不是去年前年才开始登山的。如果说他给汽车压了，那是不能不信。但若说他在日本国内的山上……”
2527	三人は二階の仕事部屋に上がって行った。大きな裁断台が部屋のまん中に置かれてあり、窓際にミシンが二台配され、その一台を二十歳前後の娘が踏んでいる。	三个人上到二楼的工作间。宽大的裁衣台安在屋子正中，窗前有两架缝纫机，其中一架正由一个二十岁左右的姑娘用着。
2538	自分は大貫克平を愛している。おそらく愛しているということはこういうことなのであろう。克平の危難を耳にしてから、自分は居ても立っても居られないのだ。でも、克平に対して、こういう心配はしてはいけないというのか。自分のこういう心の持ち方は許されないというのか。	自己爱着大贯克平。或许爱就是这么一种东西。一听到克平遇难，自己便坐立不安。然而，自己是不能如此挂念克平的，这种心情是不能原谅的——是不是呢？
2550	既にホームには電車がついていたので、杏子はすぐそれに乗り込んだ。一番電車だったので、数名の乗客があるだけで、車内はがらんとしていた。車窓からは遠くに後立山連峰の山々が、早暁の青くすんだ空の中にくっきりと浮び上がってながめられた。どの山も、山頂近いひだひだに幾条かの白い雪を持っている。	列车已进入月台，杏子马上跨进了车厢。由于是头班车，车内空荡荡的，乘客寥寥无几。从车窗望去，只见远处的山脉清晰地显示在清晨澄碧的天宇中。每一座山头上都镶嵌着几道莹白的积雪。
2564	内儀さんは言った。その内儀さんの「どうしたんでしょう」という言葉が、杏子には何か不吉なものに感じられた。昨夜列車に乗り込んでから幾らが薄らいでいた不安が、またこの時になって、彼女の心をざわざわと騒がし始めた。	///老板娘说。+++“怎么回事呢”——这句话使杏子产生了不祥之感。昨晚上车后多少减缓的　现在又开始在心里沸腾起来。
2569	杏子は言われるままに、店から戸外へ出て、家の横手の路地を通って、背戸の方へ回った。先刻電車の車窓から見えた山頂に雪の線条を持つ山脈が、幾つかの峰を天に突き立てて、大きいボリュームでそびえ立っていた。	杏子走出店门，顺着房侧胡同绕到房后。果然，刚才从列车窗口看到的山顶带有道道积雪的山脉巍然矗着，它的峰顶直指云天。
2574	杏子は教えられた北槍のとがった峰に暫く眼を当てていたが、+++「ありがとう」+++と少年に礼を言って、店へと引き返した。	杏子向少年指给的北枪那高耸的山峰凝视了好一阵，然后谢过少年，折回店内。
2575	こんどは駅前に自動車が見られた。杏子はすぐ勘定をすませると、自動車のところへ行った。鹿島までの賃金を交渉して、それに乗り込んだ。	这回站前已有汽车出现，杏子付了款，向汽车走去。
2592	「鹿島という部落は平家の落人の子孫だという家が十二軒あるだけです。昔から長男が家をつぎ、あとは村を出るしきたりで、村の戸数は十二戸以上	“鹿岛那个村子只有十二户人家，据说都是平家的落难后代。按以往的习惯，只由长子继承家业，其余人都离村外出，因此

	に増えないんです。でも、この七月一日からは、大町に市制が布かれるので、鹿島も市の中へはいります」	户数一直超不过十二户。不过，从七月一日开始，大町实行市制，鹿岛也被划进了里边。”
2594	いつか道は上りになって、車の右手には落葉松の林が続いていた。落葉松の林が切れると、夏草の生い茂っている原野が続き、名を知らぬ桔梗のような青い花が点々とばらまかれている。	不觉之间，汽车驶上坡路。右侧，落叶松林片片相连。它消失后不久，便是一望无边的夏草葳蕤的原野，其间点缀着类似桔梗那样不知名的蓝色野花。
2615	二人の話によると、遭難の報が営林署の巡回員に依って走らされたのは、六日夜、つまり一昨夜の九時ごろであった。巡回員は大川沢で二十五、六の青年に会い、村からの救援を頼まれたということであった。青年は村へ連絡するつもりで下山して来たのだが、巡回員に合ったので彼はまたそこから現場へ引き返して行ったという。	按俩人的说法，遇难的消息是营林的巡山员带来的。那是六日晚上，也前天晚间九点左右。巡山员在大川泽遇见一个二十五、六岁的小伙子，叫他回去让村里人马上救援。小伙子本来是下山找人的，因为遇到了巡山员，便直接赶往现场去了。
2619	「そうです。そして昨日の朝、警察の依頼でガイドが二人山へ登った。この方より村から出た方が早かったです。そして、遭難者が運ばれて来たのは、そうさな、昨夜の六時ごろだったか」	“不是。昨天早上警察又托两名向导上山。最先回来的是村里的人。遇难者运回的时间，对了，怕是昨晚六点多钟。”
2625	「いや、怪我したんです。ピトンが抜けて落っこちたらしいが、幸い骨折ですんだらしい。ここからすぐ大町の病院へ運ばれましてな」	“不，受伤。是因钢锥拔出摔下山的。幸好只是骨折，从这里马上就送到大町医院去了。”
2631	「そうです」+++こんどは内儀さんが答えた。お茶と、つけ物のはいったドンブリが杏子の前に出された。	“是的。”这回老太婆回答。+++一杯茶和一大碗放有咸菜的米饭摆在杏子面前。
2641	杏子は道路に待たせてある自動車を返すと、奥の座敷へ案内してもらって、そこに鞄を置いた。奥の座敷といっても、上がり口の板敷の部屋から一部屋隔てた部屋である。床がついていて座敷の形はしているが、雨戸がしめられたままで暗かった。	杏子把等在路上的汽车打发回去。然后跟老太婆进入里边的内客厅，放下皮包。这里说是内客厅，其实不过是用木板把大的地板房间隔开的一块空间。里边有壁龛，样子倒也象个客厅。但很暗，套窗关得紧紧的。
2642	木綿の夜具が三組程、畳の上に積み重ねられてある。遭難者の一行でも昨夜ここに泊ったのかも知れなかった。	床垫上叠放着三床棉被。说不定遇难者一行昨晚就住在这里。
2663	他の連中は下級生なのか、土間へははいらず、家の表で、リュックサックを肩から降ろした。+++「みんなリュックの点検をしろよ」+++土間の中の他の一人が大声で言った。戸外に居る者は、言われるままにリュックの紐を解き始めた。三人だけが、靴を脱いで、囲炉裏の傍に坐った。	“每人检查一下背囊！”进入外间的一人大声说道。于是门外的人动手解背囊带。只有门内的三个人脱鞋坐在地炉旁边。
2667	学生たちの持っている統制のとれた規律の正しい雰囲気が、杏子には美しく感じられた。	学生们中间那谐调而统一的气氛使得杏子感到很新鲜。
2704	「それ、それ。それがそうだ。お嬢さん、それは大貫さんの書いたものですよ」+++治五郎氏は顎で、内儀さんの手にしている帳面の方をさし示した。杏子がのぞくと、そこには、+++「昭和十三年六月十五日、克平」とサインして、その隣りに一行の文句が書きつけられてある。「二日間北壁に挑む。風強し」ただそれだけだった。	“对对，是它！小姐，这就是大贯君写的。”治五郎朝老太婆手中的笔记本努努下颏。杏子看去，上面写道“一九三八年六月十五日　克平”，旁边只一行字：+++“两日间向北壁挑战。风猛。”
2733	///克平は杏子を見ると、驚いた表情で、+++「やあ」+++と、とんきょうな声を出した。杏子は悪戯をした子供がしかられない前に、予防線を張るように、	“哦！”见到杏子，克平惊讶地失声叫着。杏子象个怕挨训斥的淘气孩子似地赶紧拉开防线：
2779	杏子は車窓から曇天のもとに拡がっている信濃の風景を見ていた。田植の終った田圃に、灰のようなものをまき歩いている自分と同じ年ごろの女たち	杏子从窗口望着阴云笼罩下的信浓风光。沿线插完秧的稻田里，不时三三两两地闪过同自己一般年纪的年轻姑娘，她们

	の姿が、沿線のあちこちに見られた。	边走边往田里挥撒灰一样的东西。
2814	列車が新宿へ着くと、克平と杏子は同じ二等車の別々の降り口から降りた。だれか迎えに来ていないものでもなかったので、二人が一緒だったところを見られるのを避けたわけであった。	列车抵达新宿站。克平和杏子分别从同一二等车厢的两边车门走下来。或许有人接站，俩人想避免被人看见同在一起的情景。
2857	背後でりかの声が聞えた。ブドウ酒、変なものを買うなと思ったが、もしかすると、八千代は自分の無事の帰宅を祝うつもりで、そんなものを買っているのかも知れないと思った。どんな小さなことでも、すぐおおげさに祝いたがる八千代のことを思うと、どうも自分のために、料理のいっぱい並んだ食卓でも用意されてありそうな気がする。	///理嘉从背后回答。+++葡萄酒？怎么买这怪玩艺儿！他想，也许是八千代为庆贺自己平安归来买的。八千代这人，哪怕一点点小事也要马上大操大办地庆贺一番。想到这里，克平估计八千代已经为自己准备好了一桌丰盛的菜肴。
2870	家にあがると、ともかく曾根が帰るのを延ばして、自分の帰宅を待っていたというので、克平は大急ぎで着替えをして、座敷へはいって行った。食卓には料理がいっぱい並べられ、ビールの空壜が二三本並んでいる。	无论如何，曾根是为等自己而推迟回去，于是克平走进房间后，赶紧换上衣服，步入客厅。 +++桌上满满摆着菜肴，还有两三只空啤酒瓶。
2886	「そういうわけには行きませんよ。もう充分いただいています。—山は大変でしたでしょう。遭難者に間違えられたんですってね。僕はうっかりしてその記事を読み落したんですが、先刻奥さんから伺ってびっくりしたんです」	“那怎么成！已经吃好多了。——山上够受的吧？误以为您出意外了。我这人马马虎虎，没看到报道，才听太太说的，吓我一跳。”
2900	たちまちにして克平は逆襲された。	转眼间克平反遭抢白。
2914	カジカと言われると、曾根は、	///提起杜父鱼，曾根马上换了一副面孔，语无伦次地说：
2951	「カマキリは海岸二、三メートルのところに産卵し、それが孵化して川にはいります。ところが面白いことに、鹹水に居る時は鱗が発達しますが、成長して、体長一、ニセンチになるころから鱗は消え始め、淡水にはいった時はもう完全に消えています。一見すると二種類の魚に見られがちなんです。しかし、これは完全に一種類の魚なんです。まあ、一例を上げてみると、こんなことが僕のいまやっている研究で判って来るというわけです」	///“螳螂杜父鱼在距海岸两三米远的地方产卵，孵化后进入河流。有趣的是，它在戏水的时候鳞很发达，而到一两分米长时鳞便开始褪化。等进入淡水时，已经一片鳞也没有了。乍看上去很容易以为是两个品种，其实完全是同一品种——这点是我在研究过程中才发现的，也是这方面的一个例子。”
2955	ときいてみた。大変な歳月と労力をかけて、カジカの研究をするということは、一体いかなる学問的意味をもつか、克平には肝心のところが理解されなかった。	投入如此惊人的时间和精力来研究杜父鱼，学术上又有何意义呢？对这关键之点克平却是无法理解。
2985	克平は眠るまでに数分を要した。今朝、大川沢で見た岩カガミの花、いかにも山の町といった感じの静かな大町の通り、それから大根老夫婦の顔—そんなものが交互に彼のまぶたに浮かんだ。それからまた、曽根二郎がカジカの名と採集場所を口から発射している時の、どこかにさびしさのある顔が浮かんだ。あの男はなぜあんな顔をするのか。自分の研究価値を正当に評価されないからか。だれからも自分のやっている仕事が理解されないからか！	克平要几分钟才能入睡。今早在大川泽看见的岩镜草花；大町那确乎给人以山镇之感的幽静街道；大根夫妇的面庞，交替浮上的眼帘。曾根二郎那连珠泡般道出的杜父鱼名称及其那隐约透出凄寂神情的脸也浮现出来。他为什么有那种神情呢？是因为自己的研究不值得给予正当评价吗？是因为没有任何人能理解自己所从事的工作吗？
2986	最後に若い山名杏子の顔が眼に浮かぶと、克平は眼をつむった。曾根二郎よりおれの方がまだ幸せかもしれない。杏子の白い手が額に置かれたような気がすると、それと同時に、克平は今朝鹿島槍を下った二本の足を床の上で真っ直ぐに伸ばした。そして間もなく彼は眠りの中へ静かに落ち込	最后，当年轻的山名杏子在眼前出现时，克平闭起眼睛。同曾根二郎相比，也许自己还算是幸福的。他恍惚觉得，杏子那雪白的手正抚摸着自己的额头，旋即他把今早登过鹿岛枪的双腿直挺挺地在褥子伸展开来。不一会儿，便静静地进入了梦乡。

	んでいった。	
2987	八千代の方は眠れなかった。今日ほど夫をきらいだと思ったことはない。自分が遭難者に間違えられたことで、まるで自分がだれからも心配されて然るべき権利を持ってでもいるような言い方をした。あんなエゴイズムはたまらないと思う。偉大な仕事というものは、常に曾根二郎のような素朴な人間によって、だれにも知られぬ片すみで、ひそやかに行われているものであろう。決して新聞になぞ出はしないのだ。	八千代未能成寐。丈夫再没有比今天更使人讨厌了。瞧他那口气，就好象他被误传为遇难者，因此就拥有任何人都必须为自己担忧的权利似的。如此自私自利是无法令人忍受的。所谓伟大的工作，想必往往是由曾根二郎寻样质朴无华的人在鲜为人知的角落里默默无闻地干出来的，决不至于动辄上什么报纸。
2988	北海道の海の色なら大抵知っていますよ—曾根二郎の言葉が思い出されると、八千代は暗い中で眼を大きく見開いた。克平はいつか自分は日本の三角点なら大抵踏んでいると自慢したことがあったが、それとこれとは大違いだ。土地の高いところなど踏んだからって、それが何だと言うのだろう。	北海道海水的颜色基本都知道——想起曾根二郎这句话时，八千代在黑暗中大大地睁开了双眼。克平以前曾吹嘘自己几乎登过整个日本的三角点。相比之下，两者截然不同。纵令踏遍地面上高出的地方，又何足为奇！
3012	何が具合が悪いのか知らないが、八千代は言われるままにペンで訂正した。	八千代虽不明所以，但还是遵命用钢笔把名字调了过来。
3021	「可哀そうに、メインテーブルから外されて」	“可怜，被从主宾席上拉下来了。”
3067	梶大助は、いくら娘に誘いをかけられても、こんな場合、決して自分の婿である人物の名は口から出さなかった。用心深かった。	这种场合，不管女儿如何套话，梶大助也不说出自己女婿的名字。他很小心。
3068	八千代は父から何枚かの紙幣を渡された。それをハンドバッグに収めると、	八千代从父亲手里接过几张钞票，放进挎包。
3083	八千代はそう一人で決めて言った。とびらがノックされた。はいって来たのは曾根二郎だった。	///八千代自我决定下来。+++有人敲门。进来的是曾根二郎。
3121	「戦争中、政府の役人に奥さんほど判った人が居たら、苦労はしませんでしたよ。食糧増産に関する研究でないと研究とは見なされませんでしたからね。上からは食糧費源としての鮫をやれと言われたんです。それもいいが研究費が年額三千五百円です。どうにもなりませんでしたよ、それでは」	“战争期间，如果政论官员中有太太这样的开明人士，事情可就好办多了。那时候，只要研究课题不同增产粮食有关，就一律不被视为科研。上头叫研究鲨鱼，以便作为粮食资源。那倒并无不可，只是研究经费一年才三千五百元，根本无济于事。这么着……”
3143	決して有名になどはならんといったような強い断完の仕方だった。しかし、口調は強かったが、こうした場合にありがちな反感といったものはみじんもその口調からは感じられなかった。	曾根断然否定。强调自己绝无成名之望。语气尽管坚决，但丝毫没有使人感受到在这种情况下难免产生的反感。
3154	三門けい子は先きに立って歩き出した。曾根はそれに続いた。すうっと、麻酔薬でもかがされて連れられて行くような、そんな曾根の歩き出し方だった。あっという間にカジカの研究家は八千代の手許から拉し去られた。八千代は、ずいぶん失礼だと思った。よほど曾根と一緒に歩いて行こうかと思ったが、それをやめた。	///说着，三门敬子领头走去。+++曾根跟在后面，那步子，就象“倏——”地闻了一下麻醉药之后而机械地尾随其后似的。转眼间，杜父鱼研究专家便被人从自己手中夺走了。八千代觉得对方未免太不客气。很想同曾根一起过去，但到底还是作罢了。
3179	「藤川さんですか。実は、断られたんですよ」	“藤川先生吗？其实他已回绝了。”
3205	「僕は一切判らんですよ。こういうことになると、至るところで、だまされているようなものです。だれか相談する人が要るんです」	“我一切都捉摸不透。在这种事上，好象到处受骗上当似的，要有个人商量才好。”
3242	杏子は、克平と共通の一つの秘密を持っているということが、時には娯しく思い出され、時にはそれが反対に妙に息苦しいものに感じられた。杏子は、今まで一度も真剣に愛情というものにつついて考えたことはなかった。こんど初めて、杏子はそうした問題に取り憑かれた。妻を持っている男性に愛	对于自己同克平怀有共同秘密这点，杏子想起来有时觉得欣慰，有时又反而感到窒息般的难受。在此以前，杏子从没有认真考虑过爱情为何物，而现在却第一次为这个问题弄得神思恍惚。世上爱上有妇之夫的女子想必不是少数，而他们到底是如

	情を持つ女は、この世に沢山あるはずである。一体、そうした人たちはみなどのような人生の道を歩んで行くのだろうか。杏子は一日に何回となくそうしたことを考えた。	何在人生之途上行走的呢？杏子每天都要一遍遍地考虑这个问题。
3243	自分が大貫克平に愛情を抱くことは、いけないことかも知れない。しかし、それがいつ自分の体に飛び込んで来たか、彼女は知らなかった。気付いた時、自分は克平を愛していたと思う。愛情を持ったということは、自分には責任がないような気がする。もし非難されるなら、それはそうした愛情を持った人間でなく、神が人間にそうした愛情を持たせたことではないか。	自己对大贯克平怀有爱情或许是欠妥当的。但她并不知这爱情是何时闯进自己心头的。等觉察之时，早已爱上了克平。怀有爱情本身似乎并无责任，如果受谴责的话，难道应该是使人怀有这种爱情的爱神吗？
3245	杏子は、その夜、梶から言われたように、十時に、八重洲口の駅の改札口のところへ出掛けて行った。	晚间，杏子按梶说的，十点钟来到八重洲口站检票口。
3267	それからアイスクリームが運ばれて来るまで黙っていたが、アイスクリームの器が前に来ると、スプーンを取り上げて、	冰淇淋端上之前，梶一直保持沉默；而待端来之后，他拿起小茶匙说：
3298	「あきらめられるなら、あきらめたがいい。どうも、その方がよさそうだ。恋愛というようなものは、だまし合いみたいなところがあるからな。現在の立場では、君の方が、結局だまされる方に回るだろう」	“能死心的话，还是死了心好。无论如何这都是上策。因为恋爱这种东西，有一种互相欺骗的成份。就眼下情况看，你怕是要成为受骗一方。”
3300	「だまされるなんて」	“怎么谈得上受骗呢！”
3302	「だまされると言っていけないなら、取引きというかな。どっちも損得なしに行くと結構なんだが、この取引きはなかなか複雑でね。やはり君の方が損を一手に引き受けることになるだろう」	“如果不好说是受骗的话，那恐怕就是一种交易。任何一方都不吃亏当然再好不过，但这类交易复杂得很，估计吃亏的只是你一个人。”
3324	杏子は呼びとめられて振り返った。梶大助は言い忘れたことでもあるように杏子の傍に近寄ってくると、	听梶叫自己，杏子回过头。梶大助象有句话忘说了似地走到杏子身旁：
3332	山手線に乗って、新橋駅で降りると、銀座の店へ向った。どこももう大抵の店が戸閉まりしていた。自分の店も表戸は閉まっていたが、二階の窓は開け放され、電灯の光があかあかと灯っていた。まだ克平たちは仕事をしているのかも知れない。	乘上山手线电车，在新桥站下来，向位于银座的店走去。各处的店铺几乎都已关门闭户，自己的店也门扇紧闭。只有二楼窗口开着，明晃晃地透出灯光。克平他们也许还在劳作。
3339	「僕はくじ引で留守番役に回されたんですよ」	///“抽签来着，我抽的是看家的签。”
3351	杏子は言った。本当に帰ろうと思った。克平と二人だけでいるところを三沢やアルさんに見られるのは、何となく避けたい気持だった。	杏子也真想回去。她总还是不想让三泽和乙醇看见自己单独和克平在一起。
3353	克平も言って立ち上がった。そんな言い方が、杏子にはやはり針でも突き刺されたように痛く感じられた。	克平说着站起身。这话在杏子听来竟象针刺一般地痛。
3357	そんな克平の声が背後で聞えた。杏子は返事をしないで立っていた。克平の足音がすぐ背後で停まった時、杏子はくるりと振り向いた。そして、+++「奥さんに洋服の生地を頼まれていますの」++++++と言った。	///克平在后面说。+++杏子没有回答，只是站着。当克平的脚步紧挨背后止住时，杏子猛地回过身，并且说：+++ “您太太托我物色西服面料。”
3383	別にこれまで、他人に聞かれては困るような話を一度でも克平と交わしたわけでもなかった。それなのに、このように、他人の眼を怖れる自分がいぶかしかった。克平にひそかに愛情を持っているというだけのことが、このように自分を卑屈にするものであろうか!	这以前，同克平之间一次也没有谈过怕别人听到的话，而自己却如此怯于见人，真是莫名其妙！其实不过是对克平隐约怀有爱慕之心而已，何苦弄得自己这般草木皆兵呢！
3386	杏子は、いつか電車のつり革にぶら下がっていた。	不觉之间，杏子已跻身于电车之上。车

	車体は大きく揺れながら、都会の灯の海の中を、轟音をとどろかせて走っている。杏子は二三人向うのつり革を握っている女を見て、思わずはっとした。大貫八千代に見えたからである。よく見ると、似ても似つかない人物であった。大貫八千代を不幸にしないならば、自分の愛情は許されていいのではないか。しかし、八千代を不幸にしないような愛情のあり方というものがあるだろうか。	身剧烈摇晃着，轰隆隆地驶过市区的灯海。当杏子目光落在两三个人前面一位同样手抓吊环的女士时，心里猛地一惊：象是大贯八千代。定眼细看，方知是长相酷似的人。如果自己的爱情不至于使八千代不幸的话，那么未偿不可试试呢？然而难道真有使八千代免遭不幸的那样的爱情模式吗？
3403	杏子はすすめられるままに、縁側に出て、藤椅子に腰を降ろした。	杏子于是移步走廊，坐在藤椅上。
3404	八畳の座敷には、床に軸が一本かかっているだけで、何の装飾品も置かれてないが、なんとなくゆたかな感じが漂っている。おそらくそれは八千代というぜいたく好きの女性が身から発散しているものであろうかと杏子は思った。	里面的客厅有八张垫席大，壁龛里只有一幅挂轴，除此之外没有任何装饰。然而这儿仍给人一种富有之感，想必是从八千代这位喜欢奢华的女性身上释放出来的。
3424	「いいえ。三沢さんとアルー」+++と言いかけて、杏子は、+++「三沢さんと飯倉さんがいらしたんです」+++と言い直した。+++「大貫さんは、確か、鹿島槍へ行っていらつしゃってお留守だったと思います。飯倉さんと三沢さんに街でお会いしたら、お二人からその話を持ち出されましたの」	“不，是三泽君和乙醇君，”说到这里，杏子改口说，“是三泽君和饭仓君去的。那时候大贯君好象去鹿岛枪没在。我在街上碰见饭仓君和三泽君，他们提起了借房子的事。”
3436	まるで、いつか自分が尋問されている立場に立っているのを、杏子は感じていた。八千代はいったん座を立って行って、オレンジジュースを入れたコップを二つ持って来ると、それを、杏子と自分の前へ置いた。	杏子感到自己简直是在受审。八千代起身离座，端来两杯桔汁汽水，分别放在杏子和自己面前。
3443	杏子は無抵抗に、あちこちからきり込まれている格好だった。	///杏子好象腹背受敌，唯待束手就擒。
3449	オレンジジュースをすすめられたが、杏子はそれを口にする気にはなれなかった。一刻も早く放免してもらいたかった。	///八千代劝喝汽水。+++杏子心烦意乱恨不得马上离开这里。
3458	杏子は言うと、八千代が卓の上に置いた生地見本を再びケースの中へしまい込んだ。早く退散したかった。しがし、いかにも逃げるように取られてはと思って、そのまま椅子に腰を降ろしていた。	///说着，杏子把桌上的面料样品收进手提箱。她很想立刻离去。但又不愿意被对方看出自己是临阵逃脱，只好耐着性子坐在椅上不动。
3471	杏子は大貫家の玄関を出ると、とたんにほっとして、魚が水の中へ放たれたように身が軽くなるのを感じた。	出得大贯家门，杏子顿时舒了口气。浑身一阵轻松，就象鱼被放回水里一样。
3534	アルさんは三沢に言った。三沢はいつかアルさんから幹事にされていた。しかし、幹事に任命されなくても、三沢は自然に幹事役を引き受けずにはいられぬ男らしかった。	乙醇吩咐三泽。不知何时起，三泽被乙醇委以干事之职。不过，即使不被封为干事，三泽恐怕也要自动自觉地充当这一角色。
3547	アルさんは先きに立って、どんどん改札口を出た。一同も多少のためらいはあったが、引張られるように、それについて行った。	说着，乙醇大步率先穿过检票口。众人略一踌躇，到底象被牵引似的尾随而去。
3548	二台電車をやり過し、三台目に乗った。克平は背をアルさんに押されて、むりやりに詰め込まれた格好だった。	让过两辆后，他们挤上第三辆电车。克平被乙醇推着脊梁，好不容易挤了上去。
3549	杏子は三沢とアルさんの間にはさまれていた。女店員二人と克平はそれぞれ隔てられて離れた場所に立っていた。	杏子挟在三泽和乙醇中间，两名女店员和克平分别被人群隔开。
3556	///「そうかな。そう言われると、そうかも知れんという気持になって来るな」	“怕也是。给你这么一说，我也心里没底了。”
3561	アルさんは言って、三沢から克平のいるところを	三泽于是把克平站的位置指给乙醇。乙

	教えられると、その方を振り向き、	醇扭过头去。
3565	駅前の道を一二町行くと長い橋に出るが、花火を見る場所としては、その橋の上か、あるいは橋を渡った向う岸が一番いい。川のこちらの、駅側の方は、川岸に人家がたて込んでいて、それに妨げられて見ることができない。従って、駅から吐き出された人たちは、いずれも橋の方へと移動して行く。道の両側には、飲食店や氷屋が並んでいる。どこも客がいっぱいである。	沿站前路走两百米远，是一座长桥。作为观看烟花的位置，桥上或对岸最为理想。而河这边的车站一侧，沿岸人家鳞次栉比，挡住了视线。因此涌出的人们只好向另一侧移动。道路两边，饮食店和冰室一家挨一家，哪一家都人满为患。
3567	///克平も三沢も女たちも、離れないように一カ所に固まったまま人に押されて歩いて行った。立ちどまることが出来なかった。	无论克平、三泽、还是三个女人，都被挤成一团，随波逐流，无法站稳脚跟。
3593	一同はそこを横切り、三沢に連れられて神社の建物の横手に回った。あたりは暗かった。	众人跟住三泽，拐往神社一侧，四周一片黑暗。
3597	暗い中で三沢がだれかと話す声が聞えていたが、やがて、一同は神社の裏手へ案内された。少し傾斜をなしている狭い区域になわ張りがして、むしろが敷いてあり、一同はその一つに招じ入れられた。	黑暗之中，听得三泽同某人说话。不一会儿，一行人被领入神社后院。这里有片狭窄的缓坡，四周拉有绳砣，中间铺着草席，他们来到席子跟前。
3604	ビールとコップと焼ブタのはいった折が届けられた。すぐ酒宴が始まった。女たちにも一つ一つコップが配られて、ビールが注がれた。	送来的除啤酒和杯子外，还有装着红烧猪肉的木盒。于是酒宴马上开始。三个女士面前也各放一个酒杯，里面斟满啤酒。
3610	アルさんはそんなことを言った。花火は次から次へと打ち揚げられていた。その夜空に咲く花の位置から判断すると、打揚げ場所はここからかなりの距離を持っているらしかった。ここからでは川の両岸を埋めている群衆は見えない。ただ、花火が揚がるたびに、そのどよめきが、むしろひそやかに、どこからともなく聞えて来るばかりである。	///乙醇如此说道。+++烟花接二连三地升上天空。从烟花在夜空中怒放的位置判断，放烟花的地方似乎距此有相当一般距离。从这里看不见挤满河两岸的人群，只是每当烟花拔地而起时，听得不知从哪里传来毋宁说是屏息敛气般的惊叹声。
3632	仕切りのなわをくぐろうとした時、+++「だれ?」+++と声をかけられた。克平の声だった。	正要从绳子下面弓身钻过，忽然有人打招呼：+++“谁？”是克平。
3640	何も話さないでいる苦しさが、二人の間のやみの中に置かれている。杏子はその息苦しさに耐えかねて、	一种相对无言的痛苦横亘在两人之间的黑暗里。杏子终于承受不住，开口道：
3669	花火が消え、やみが再びあたりを占領した時、杏子は克平の腕が突然自分の肩に置かれるのを知った。極く自然に起るべきことが起った感じだった。	当散花散尽、黑暗复来时，杏子发觉克平的胳膊突然搭在自己肩头，而这又使她觉得那样地顺乎自然。
3671	杏子は自分の上半身がやや不自然にねじ曲げられるのを意識した。身体は不安定だった。杏子は口も眼も閉じたまま、克平の接吻を受けた。身を起して、二三歩よろめくと、彼女はそのままやみの中に立っていたが、やがてむしろの上に坐った。ひどくぎごちない不器用なものが、自分の落度として感じられた。それが悲しかった。当然甘美であるべきものが、少しも甘美でなかったような気がした。	杏子意识到自己的上半身被不自然地弯向后边，一时站立不稳。杏子闭目合嘴，接受了克平的吻。她离开克平，踉跄了两三步，顺势在暗中站定。须臾，坐在草席上。她感到了自己的失误，实在是莫名其妙的、笨拙的失误。这使她一阵凄然。本该甜蜜的东西，竟觉得索然无味。
3672	花火は立て続けに打ち揚げられ、幾つかの花は、あわただしく、一瞬に開き、一瞬に消えていた。克平に何か声をかけてもらいたかった。でないと、いま持っているさびしさから逃れることはできそうもなかった。	烟花持续升起。几朵烟花，一时嫣然怒放，旋即又无影无踪。杏子很想让克平对自己谈点什么。要不然，她觉得自己很难从这凄寂中解脱出来。
3675	///克平はまた何か言った。杏子は返事ができなかった。声が口から出なかった。克平はなおも何が言ったようだった。杏子は自分の肩が、こんどは二三回優しくたたかれるのを感じた。	克平又说了句什么，杏子未能回答，声音未能出口。克平继续似有所语。杏子此时感到自己的肩部被温柔地拍了两三下。
3681	杏子はなるほど自分は泣いていたのかと思った。	杏子觉得自己大概是哭了。泪水沿两颊

	涙が頬を伝わっている。その頬を克平の手が包むようにした。杏子は二度目に唇を捺された。杏子は深い海を見ているような気持だった。	流下，而两颊被克平的手包拢似地捧着。杏子又一次被按上了唇印。恍惚间，她好象面对深邃的大海。
3701	杏子は、みなががやがやしゃべっていたが、何も耳にはいらなかった。彼女は、小学校の一年か二年の時、半里程離れた町の親戚に招ばれて、そこの祭りを見に行った時のことを思い出していた。	乙醇他们吵吵嚷嚷地争执不休，杏子对这一切却充耳不闻。她想起一件事。那还是她上小学一、二年级的时候，被三、四里外的一家亲戚叫去观看当地过节的情景。
3702	その時、彼女は親戚の家へ泊るはずであったが、夜になると、急に家へ帰りたくなって、無断で親戚の家を飛び出すと、既に暗くなっている街道を自家のある村の方へ向って歩き出した。その夜も丁度、いまのような夜であった。彼女が棄てて来た町の空には、次々に花火が打ち揚げられ、観衆のどよめきは、絶えず追いかけるように彼女の背後から聞えていた。	当时，她本该在亲戚家里住下。但一到晚间，她突然想起家来，招呼也没打就从亲戚家跑出，沿着已经变黑的街道往自家所在的村庄走去，那也恰是这样一个夜晚。她离开的镇子上空，接连不断地腾起烟花，观众喝采声好象追赶她似地一阵阵从背后传来。
3704	///今夜は、あの夜となんにも変っていないと、杏子は思う。もしかしたらあの幼い少女が歩いた道は、そのままずうっとここまで続いて来たのかも知れない。杏子は、突然アルさんにいやと言うほど肩を平手でたたかれた。	杏子想，今晚同那个夜晚完全一样，说不定，当时那个女孩子行走的路一直延伸到这里。+++突然，乙醇的手掌重重落在自己肩头：
3742	今度はアルさんの声が聞えて来た。杏子は思わず腰を浮かしたが、どこへ逃げようもなかった。八千代とは顔を合わせたくなかった。昼間八千代に会っていて、その同じ日の夜に、克平と一緒に花火を見に行ったことを知られるのはいやだった。できることならそれを避けたかった。	///这回是乙醇的语声。+++杏子情不自禁地欠欠身，但已无路可逃。她不想同八千代见面。白天已经见过，她不愿意让八千代知道自己同一天晚上和克平一起去看烟花。可能的话，很想避开。
3776	またたく間に、克平は守勢の立場に立たされた。余りしゃべらん方が無難だと思ったので克平は口をつぐんでしまった。	转眼之间，克平便被逼入守势。他想，还是缄口为上策，便不再开口。
3786	「きかれない限りは、なるべく話さないでおこうとお思いになりました?」	“你以为只要人家不问，就尽可能隐瞒下去不成？”
3803	克平は、口論となると、どうも八千代が苦手だった。あちこちにほんろうされ、次第に緊め上げられて行く感じである。今の場合にしても、八千代の言うことをどう受け取っていいか判断に迷った。問題のワイシャツは風呂場の前の洗濯物を入れるかごの中に、克平自身の手で入れたはずである。ワイシャツには口紅がついているかも知れないし、ついていないかも知れない。	吵起嘴来，克平总是拿八千代无可奈何，自己被翻来覆去地玩弄完后，又给她渐渐勒紧。就拿今天这次来说。自己也不知该如何理解八千代的话。那件引起是非的衬衣该是自己亲手放到浴室前边脏衣篓里的，上边或许沾有口红，或许没有。
3849	克平はうかつに返事できない気持だった。八千代の態度が、いつもの彼女と少し違っていたからである。二つの手が膝の上にきちんとそろえられてある。	克平觉得不可冒然回话。因为八千代的态度与平日略有不同，两只手整齐地置于膝头。
3857	「結婚してから今日まで、わたし本当に愛されたという気持を持ったことないと思うんです。一度でも、わたし、そんな気持になったことありますかしら」	“婚后直到今天，我觉得我并没有被真正爱过，甚至连一次都没感受过，是不是呢……”
3870	ちくりと、針を刺された感じだった。	克平感到被猛地刺了一下。
3874	克平は返事をしなかった。克平が、妻を本当に愛したことはなかったかも知れないと思ったのは、本当のことを言えばいまである。たった今、八千代から質問された時、こんど山名杏子に対して持ったような気持を、かつて一度でも八千代に対して持	克平没有作声。老实说，他确实是现在才意识到自己或许并不真正爱妻子。刚才八千代问起时，他感到对八千代的确未曾有过对山名杏子所怀有的那种感情。在夺走杏子嘴唇的纯洁的时候，他并未觉得自

	ったことはなかったと思った。杏子の唇を奪った時、彼女から何ものをも奪った気持はなかった。	己从她身上夺走了什么。
3876	あの時、夜空に開いた花火は、ひどく赤く見えた。赤い火の粉が、一面にばらまかれ、それらはふしぎな消滅の仕方で、やみの中に吸われた。それと一緒に、自分が今まで持っていた何ものかも同時に消滅した感じだった。—あとには、山名杏子を愛しているという気持だけが残った。	当时，夜空中绽放的烟花看起来是那样地红。那红红的火星撒满天幕，旋即以一种不可思议的毁灭方式融入黑暗之中。与此同时，他感到自己上前所拥有的一切也与之同归于尽了，剩下来的，惟有对山名杏子的爱。
3878	「わたしはわたしで、貴方に愛されたこともなかったかわりに、貴方に本当の愛情を持ったこともなかったかと思うんです。本当の愛情って、わたしが貴方に対して持っているものとは多分、違いますわ。そりゃあ、妻ですから、人並みに嫉妬もします。でも、どうしても、油と水のように、混じり合えない気持なんです。それに最近気付いたんですの」	“我也如此，既没有被你爱过，同时也可能没有对你产生过真正的爱情。真正的爱情，同我对你怀有的情感是有所区别的。当然，身为妻子，一般的嫉妒心也是有的。但是，无论如何我都觉得象油和水一样无法交融。这点我最近才意识到。”
3892	いつもなら、対立している深刻さが、こうした大貫夫妻独特のやりとりではぐらかされて行ったが、今夜は違っていた。	若是往日，势必僵持不下。但在不同往日的今晚，僵持气氛已被这对夫妇特有的对谈方式冲谈了。
3900	二人はまたほとんど同時に坐った。戸は開けられも閉められもしなかった。	两人又几乎同时落座。窗口半开半闭。
3936	梶は言われるままに口から煙草を取った。	///梶于是从口中取下香烟。
3976	また呼ばれたので、梶はたち止まった。こんどは何か言わなければならなかった。	听女儿再次招呼，梶止步站住。这回必须有所表示了：
4009	女中にふかせるより、自分でふいた方がきれいになると思ったが、梶はまたたしなめられそうな気がしたので我慢した。いったんは我慢したが、やがてまた彼は立ち上がった。	梶本来想还是自己动手扫得干净，但又担心受挖苦，便忍着未动。但过了一会儿，还是起身走了。
4012	「よおし」+++そんな梶の声が聞えて来た。これで自分の作業を公認されたといった張りが、多少その梶の声には感じられないことはなかった。	“好咧！”传来梶的声音，里边多少含有一种自己的劳作得到公认的兴奋。
4024	「さあ、食べて下さい」とか「どんどんあがって下さい」とか、梶は言うが、客にしても、家人にしても、梶が全然作業に忙殺されて、箸を取らないので、余り食べたような気はしないのである。全く風呂をたく場合と同様である。客や家人が梶のことなど考えず、専ら食べる方へ回れば、梶大助は上機嫌である。家人の方は慣れているので平気だが、客の方はどうであろうか?	“喂，只管吃”、“别客气”——尽管　这样说，但客人也好，家人也好，见梶忙得不可开交，顾不上动筷，也都没心思吃了。这和由他烧洗澡水是同一道理，如果客人和家人全然不顾他而闷头食用的话，梶大助便喜不自禁。家人因习以为常，自然不在乎，但客人方面如何呢？
4031	あわてて鍋の下の火加減を見る時の梶大助の顔は、ちょっと間違いを指摘された子供に似ている。子供のような素直なものを持っている。	慌忙窥看火势时的梶大助的面孔，竟如同被指出差错的孩子一般。他有孩子般诚实的一面。
4032	つまり、これから、そうした晩餐が、梶家の茶の間で行われようとしているわけである。八千代は久しぶりで父のそんなサービス振りを見ると思うと、いくらか心は娯しくないこともなかった。	总之，如此光景的晚餐即将在梶家饭厅里开始。八千代想到马上就要见到父亲那久未目睹的侍者模样，不由有几分欣然之感。
4056	どうやら、梶はそれを断られたらしかった。すると、酒井は、	看来，梶的要求未被接受，酒井接着说：
4067	八千代は曾根二郎がほめられたことがうれしかった。	听得曾根被夸，八千代一阵高兴。
4145	八千代はすぐ二階の父の書斎へはいって行った。机の上に郵便物が二つのかごにはいって置かれてある。一つのかごには、「要返事」と書かれた紙がはられてある。この方には梶が返事を出す意志のあるものが入れられてあり、他のがこの中のもの	八千代马上走进二楼父亲的书房。桌上放有两个信函篓。一个贴着纸条，上面写着“待复信”，其中装的都是梶准备复的信；另一个则是不需要答复的。然而，梶是忙人，只要内容不是相当重要，纵使需要答

	は返事の要らぬ分である。しかし、忙しい梶のことだから、「要返事」の郵便物も、よほどのものでない限り、結局は単にそのかごの中へ入れられるだけの運命を持つようである。	复的信件也只能在“待复信”篓里永远待下去。
4147	葉書には「暑中御見舞申上げます」と書かれ、その横に少し小さい字で、+++「仕事の関係で伊豆に来ております。八月いっぱい、ここで過すことになると思います」+++と、それだけ認められてある。住所を見ると、「伊豆戸田にて」とある。伊豆の戸田というところに居ることは判るが、戸田のどこに泊っているか判らない。	明信片写道“炎夏时节，望多珍重”，旁边一行小字：“因工作关系，我已来伊豆，估计要在这里住到八月底。”再看地址，是“伊豆户田”。住的地方在伊豆户田，但不晓得具体住在户田哪里。
4173	「母さんになんて育てられません。わたし、お父さまに育てられましたわ。そう思っております」	“培养我的不是母亲，是您这位父亲，我就这样认为。”
4187	八千代は言った。梶大助は今日まではれ物にさわらないで、眼をつむって来ていた格好だったが、どうやらそのはれ物が切開手術をしなければならぬ段階に来ていることを、眼の前につきつけられた気持だった。	迄今为止，为避免触及这块脓疱，梶大助始终佯装未见。而现在觉得，必须给这脓疱动手术的阶段终于到来了。
4193	八千代にきかれて、梶はつまった。ばかだと言ったのは八千代に対してでもないし、克平に対してでもない。強いて言えば二人の若さというようなものに対してである。	给八千代这么一问，梶一时语塞。所谓傻家伙，既非针对八千代，又不是针对克平。勉强说来，是针对两人年轻这点的。
4199	ぴしゃりと、八千代に言われて、梶は急に顔をくしゃくしゃにした。+++「君は、大体わがままでいかん。君の方が悪いようだ」+++梶は少し苦しまぎれに言った。	///八千代一针见血。+++梶顿时满脸窘相，搭讪似地说：+++“说起来，你就是任性，大多是你不好。”
4210	カナブンプンで毒気を抜かれた形で、梶も初めて父親の言葉で言った。そして彼は上着の内ポケットをごそごそやると、いつものように紙幣束をつかみ出して、	///在给金蜣吓了一跳后，梶才换上父亲的口气。接着在上衣口袋里■■■■摸了一阵，象以往那样抓住一把钞票：
4282	頼りない話であった。なるほど開通したばかりの石のごろごろした道であった。自動車はがたぴし揺れながら雑木で覆われた山へとはいって行った。風が急に冷たくなって来た。	///司机也不敢担保。+++果然是条新路，路面满是石子。汽车一边连续摇晃着，一边往杂木覆盖的山里开去。冷风嗖嗖地从窗口吹了进来。
4295	部屋へ通ると、縁側から一間程の間砂地になっていて、石で畳んだ切岸で海と境されてあった。部屋のまん中に坐り、海からの風に吹かれていると、八千代昨夜の寝不足と、沼津から自動車に揺れ続けて来た疲れとで、口をきくのもおっくうになっていた。時計を見ると、十一時ちょっと前である。	走进房间，见窗外廊前是片两米左右的砂地，再往前是堵石墙，把海水隔在外面。坐在房中间被海风一吹，八千代顿时感到累不可支，连话都懒得说了。再看看表，已快到十一点了。
4300	宿の主人は、むき出しにされている見事にやけている黒い膝を、両手でこすりながら言った。	店主边说边用两手摩挲着晒得黑黑的裸露的膝盖。
4302	部屋から見ると、曾根の行っているという御浜崎は入江を包むようにして真むかいに見えている。入江の内部は欝かだが、御浜崎の先端にだけ波が白く砕けているのが見られる。疲れついでに、八千代はそこへ行って、曾根に自分が来たことを知らせておこうと思った。	从房间望去，曾根所在的御滨崎以包围海湾之势出现在正前方。海湾里风平浪静，只有御滨崎前端涌起层层雪浪。八千代准备去那里找曾根报告自己的到来，顺便缓解一下旅途的辛劳。
4303	八千代は、朝食とも昼食ともつかない食事を摂ると、主人に案内されて、旅館の裏手の切岸のところについている階段を海面へと降りて行った。小さい漁船がそこに待っていた。	吃罢那顿不正规的午饭后，她跟随店主来到旅店后面的陡坡上，沿石级走近海水。一只小渔船在那里等候着。
4306	老人の漁師が差し出してくれた麦ワラ帽子を、言われるままに八千代はかむった。海風は涼しかっ	八千代接过老渔夫递来的草帽，戴在头上。海风虽习习生凉，但傍午的阳光却是

	たが、午近い陽は暑かった。十分もしないうちに、対岸の岬は近づいて来た。	灼人。不到十分钟，便临近了对面海角。
4460	八千代は、ここに居ろと言うのなら、暫くここに居ようと思った。大阪へ帰って、両親の顔を見るより、この縁側で、海の風に吹かれていた方がどのくらいいいかも判らない。	///八千代想，既然曾根如此苦劝，不妨暂时呆在这里，在这檐廊里任凭海风吹拂，也许比回大阪看父母的脸色好些。
4464	「何でも二泊の予定で、明後日の夕方までには必ず帰って来ると言っておられましたよ。それまでお客さんの魚つりのお供でもするように言われましたが、魚つりは御婦人にはどうもねえ—」	“他说，在那边大约住两个晚上，明后天傍晚笃定回来。这时间里，叫我陪太太钓钓鱼。钓鱼这玩艺儿对女士……”
4473	翌日八千代は早起きして、宿の内儀さんの作ってくれた弁当を持って、宿のすぐ横手の船着場から、伊豆の西海岸の部落部落に寄港する船に乗った。船には、この地方の人らしい船客がおびただしい荷物と一緒に積み込まれていた。	第二天，八千代早早起来，带上老板娘预备的饭盒，从旅店旁边一座码头乘上了开往伊豆西海岸的船。船上，挤满了本地人模样的乘客以及他们携带的一堆堆货物。
4485	戸田でも一日中夏の強い陽光に照らされた生活をしていたので、汗の吹き出すのには慣れていたが、ここでは舗道の照り返しが辛かった。	尽管他在户田每天都在夏日强烈的阳光下曝晒，对出汗早习以为常。但现在水泥路面对太阳热能的反射却使他不堪其苦。
4491	曾根はあいまいな返事をした。大貫克平の勤め先で、彼がこの四五日詰めている場所を教えられたのだが、いい加減に早のみこみしたのがいけなかった。もっとはっきり聞いてくるべきだったと思った。	曾根含糊其词。在大贯克平的工作单位已有人告诉他大贯这四、五天日夜不离的地方，可惜他自做聪明地当耳旁风了。曾根真后悔没有问得再清楚些。
4496	曾根は煙草屋の娘に言われたように、洋裁店の一軒でたずねて、やっと探している店の所在をつきとめることができた。教えられたその店の前へ行ったが、洋裁店らしくないので、曾根はすぐそこへはいって行くのを躊躇した。	曾根按香烟铺少女说的到一家西服店打听，好歹弄清了自己所要找的那家店的具体位置。可是摸到那家店前一看，却不象西服店的样子，一时犹豫着不敢贸然进门。
4497	店の看板を見上げると、確かに『洋裁店ヤマナ』と書かれてある。店の前にはトラックが一台停まっており、店の内部では数人の男たちが、大きな荷物の箱の縄がけをしたり、それを動かしたりして、戦場のような騒ぎである。	抬头看招牌，分明写的是“雅玛娜西服店”。店前停着一辆卡车，门内有几个男子时而给大行李箱捆绳子，时而把它搬开，俨然战场一般一片混乱。
4517	克平にすすめられて、曾根は窓際に置いてある椅子の一つに腰をかけた。それにむかい合うようにして、克平はビール箱入の荷物に腰を降ろした。	曾根于是在靠窗的一把椅上落座。克平同他面对面对坐在啤酒箱大小的行李上。
4548	曾根は自分の役割が奇妙なものであるのを感ぜざるを得なかった。全くおせっかいである。おせっかいではあるが、自分の受持とうとしていることが、間違ったこととは、どうしても考えられない。間遠っているとすれば、当事者の二人の方が間違っているに違いない。こんなことが許されていいものか!	曾根不能不感到自己的尴尬，简直是多此一举。尽管是多此一举，但并不认为自己的动机有错。如果有错的话，也无疑在于当事者双方。这种事态难道可以听之任之不成？
4563	///克平に誘われて、+++「じゃあ、戸外へ出ましょう」+++曾根も立ち上がったが、	“那就到外边去吧！”曾根也站起身，
4567	言われてみると、なるほど砂糖と茶らしい。ビスケットやキャンデーようのものもある。大がかりな遠足の支度といった格好である。	曾根看去，果然见是砂糖和茶叶，还有饼干糖果什么的，一派远征前忙碌准备的景象。
4568	階下へ降りると、+++「大貫さん」+++と、克平は呼びとめられた。外出から帰って来たところらしく、杏子はし+++きりにハンカチで汗をふいている。	“大贯君！”+++克平一下楼就被叫住了。杏子看样子刚刚外出归来，不住地用手帕擦汗。
4613	言われて曾根はまた席についた。顔が青ざめていた。そしてその青ざめた顔から、やたらに汗がふき出していた。	曾根重新落座。他脸色发青，汗水从那发青的脸上接连不断地向外涌出。

4625	八千代にくらべたら、杏子など問題ではないではないか!克平はあの運動選手のような若いわか女のどこがいいというのであろう。曾根には克平の気心が判らなかった。しかし、いくらそんなことを考えていても始まらなかった。とにかく、いまこの地球上で、一人の美しく、上等な女性が不幸になりつつあることだけは、れっきとした事実であった。伊豆の西海岸の漁港で、いまごろ、その女性は海に面した縁側に坐り、海の風に吹かれているであろう。	那个什么杏子根本无法同八千代相提并论！克平看中那个运动员一样的年轻女郎的什么地方呢？真不知克平是什么心思。然而，这些再怎么想也无济于事了。唯一清楚的事实是：在这地球上，一位美丽脱俗的女性正在遭受不幸。此时此刻，在伊豆西海岸的渔港，那位女性想必正坐在临海的檐廊里任凭海风吹拂。
4626	曾根は、いつか梶大助の自動車にはね飛ばされた十字路に出ていた。相変らず自動車は混み合っていた。いっでもこの場所にくると、曾根は自動車にはね飛ばされそうな気持に襲われる。	不觉之间，曾根来到被梶大助车撞的十字路口。汽车依然那么熙来攘往。每次到这里，曾根都不由产生一种随时有车袭来之感。
4627	その時、ふいに、+++「ソニャアン!」+++と、彼は後から声をかけられた。	突然，有人从背后叫道： +++ “阿根！”
4628	振り返ると、大学の工学部の教授の三村明が立っていた。三村に会うのは、いつか新橋、銀座を飲み歩いた夜以来のことである。あの晩どこかの酒場で曾根はカジカの踊りをやり、それからそこを出て、この友達ど別れた直後、梶の自動車にはねられたのである。	回头一看，见是大学里的工学院教授三村明。自上次在新桥、银座挨家夜饮以来，还一直没有见过。被梶大助汽车撞上，就是那天晚间在一家酒巴跳罢杜父鱼舞，出门同这位朋友分手后不久的事。
4638	三村に言われて、曾根も賛成した。	///三村提议。+++ 曾根当下赞成。
4673	新橋へ来た時、ふと、たまらなく資源科学研究所の建物の中へはいって行ってみたくなった。曾根はそこの建物に、いつにも行ったことはなかったが、そこの二階の一室に、厖大なカジカの研究資料を保管してもらってあった。曾根が全国各地で集めたカジカ科の魚の標本はほとんど全部そこの一室に置かれてあった。	来到新桥时，他突然很想到资源科学研究所看上一眼。那里他并不常去，但二楼一个房间里，保管着他那数量惊人的杜父鱼研究资料。曾根从全国各地搜集来的杜父鱼科的鱼标本，也几乎全部放在那里。
4675	研究所は大通りから二町程はいったところにあった。以前は軍関係の大きな役所のあったところで、広い敷地の中に、鉄筋コンクリートや赤レンガの古く汚れた建物が、幾つかお互いになんの関係もない感じで、ばらばらに置かれてある。資源科学研究所はその一つの建物を占領していた。	研究所距大街有两百多米远。以前是军部一个大机关所在地。占地面积很大，其间有几座钢混凝土和红砖结构的古旧、脏污的建筑物，它们毫不相关地各成一体。其中一座便是资源科研所。
4676	門をはいると、一面に夏草が生い茂っている。そしてその丈高い夏草に包まれて、右手の方に二階建ての研究所の建物が見えた。曾根は階下の入口からはいって行き、受付へちよっと顔をのぞかせた。+++「僕だよ。覚えている?」+++曾恨は、そこに居た老人に声をかけた。	进得大门，院里到处杂草丛生。在这高高蒿草的簇拥下，右侧闪出科研所那座双层建筑。曾根走进一楼门口把头探进收发室，对那里的老人说： +++“是我，不记得了？”
4679	曾根は正面の、途中で折れ曲っている階段を上がって行った。階段の両側に、五つずつの研究室が並んでいる。曾根の標本の置かれてあるのは右手の一番奥まったところの部屋である。	曾根爬上正面中间拐弯的楼梯。走廊两侧分别排列着五间研究室。曾根的标本放在尽头处的房间里。
4681	右手の壁面を書棚が埋めているが、それ以外はほとんど蚕棚のような棚が造られていて、そこにぎっしりと各種のカジカの標本壜が並んでいる。それらの壜の内容物は全部彼が自分の手で得たものである。どの壜の中にも、採集場所と日時を認めた紙片が、少し黄色になって、ホルマリン液の中に浸っている。	右侧墙壁清一色是书架。此外便几乎全是类似养蚕架样的框架，里边一个挨一个摆满各种杜父鱼标本瓶。瓶内所装，无一不是他亲手收集来的。每个瓶里都附有一条记载采集场所的时间的纸条，它们已经在福尔马林液里浸得有点发黄了。
4686	杏子の店も、四五日、戦場のような混雑に見舞われ	四、五天来，杏子店里宛如战场一样混

	たが、荷物を全部梱包会社へ渡すと、あとは火が消えたように静かになった。二日間程、克平もアルさんも三沢も姿を見せなかった。みんなそれぞれ、このところ会社の方も家の方も留守にしていたので、いろいろな用事がたまっているらしかった。	乱不堪。等到货物全部交给捆包公司后，便象火熄来似地寂无声息了。克平和三泽、乙醇已有两三天没有露面。前几天里，他们一直把单位和家庭抛在一边，因此现在一定有很多事务需要回去处理。
4762	翌日の夕方、アルさんと克平がやって来た時は、店の二階の仕事部屋にはすでに会食の用意が整っていた。裁断台が食卓に使われ、近くの中華料理店から運ばれた料理とビールが、卓いっぱいに並べられてあった。	翌日黄昏，乙醇和克平来到时，二楼工作间里已做好聚餐准备。裁衣台当餐桌，上面满满摆着附近中华饭店送来的菜肴和啤酒。
4775	克平は言った。やがて、次々にビールが抜かれた。	///克平说。 +++随即，啤酒瓶被一个个启开。
4796	「既に橋はやかれたんだ。あとは登るだけだよ」	“桥已烧毁，往下只有背水一战了，有进无退！”
4888	自分の言った悪魔という言葉が、杏子の身体を細かく震わせた。自動車は停められた。克平のあとに続いて、杏子はそれに乗った。ドアが閉じられ、車が走り出した時、杏子は軽いめまいを感じた。	自己说出的恶魔这句话，使得杏子浑身微微颤抖起来。 +++一辆出租车被叫住了。杏子跟着克平坐进去。关上门、车开动时，杏子感到一阵轻度眩晕。
4896	杏子にはその言葉は寝耳に水だった。さあっと、いきなり頭から冷水を浴びせられたような気持たった。二人の間がそんなことになっているとは知らない時、杏子はともかくも悪魔になることを決心できたのであったが、いま急に心がたちすくんで行くのを感じた。自分でも説明できぬ気持の変化だった。	这真是如雷贯耳。杏子直觉得一桶冷水劈头淋下。当并不知道两人间出现如此裂痕时，她总算下定了充当恶魔的决心；但此时她感到自己的决心正倏然冰释。而对这一心理变化，她自己也无从解释。
4912	そうしたある日、曾根は二通の封書を受け取った。一つは曾根が東京から帰って来た翌日、大阪の実家へ帰って行った八千代からのものである。簡単な文面で、戸田の短い旅が娯しかったということと、自分たち夫婦のつまらぬ事件で御静境をわずらわして申し訳なかったと、わびとも礼ともつかないことが書かれてあった。	在这样的一天里，曾根接到两封信。+++一封是返回大阪娘家的八千代来的。内容很简单，只是说这次短暂的户田之行很愉快；告以自己夫妇间的无聊纠纷而扰您清静深以为歉——几句不知是感谢还是道歉的话。
4913	///そして最後に、+++(東京の酒井さんの方へ至急御連絡なさいますように、御住所が判らないので、酒井さんから父の方へその由お便りがありました)+++と認められてあった。	最后写道：“东京酒井信辅先生给家父来信（他不知您地址），请您马上同他联系。”
4914	///曾根はとうに酒井信輔と連絡をとらなければならなかったが、それを怠っていた。酒井信輔の方から逆に連絡を要求されて来たことを知って、血が顔に上がって行った。恥ずかしかった。	曾根本该早同酒井信辅联系，而竟拖了下来。现在得知酒井信辅反而主动要求同其联系，不禁血往上涌，深感汗颜。
4920	「貴下の日本産カジカ科魚類に関する論文の抄録は、興味深く拝見しました。大変な力作だと思います。なおその折御依頼のタラネッツのソ連産カジカに関する論文は、いかにしても英国および米国では入手できません故悪しからず御了承下さい。たまたま、このタラネッツの論文のことが今回のコペンハーゲンで開かれた国際学術会議の席上でうわさに上りました。その折の話では、それは貴下の研究と関係があるように思われます。それ故、チェコあたりの学者の手を通じて、一度参照されることをおすすめいたします」+++シュルツ博士の手紙にはそう認められてあった。	舒尔兹博士在信中写道：“先生关于日本所产杜父鱼科鱼类的论文复印本，业已拜读，而且饶有兴味。我认为这是篇非同凡响的力作。当时您所托找的塔拉涅茨有关苏联所产杜父鱼的论文，实在无法在英美两国获取，请勿为怪。这次在哥本哈根召开的国际学术会议上，席间幸而有人提及塔拉涅茨的论文。据我听来，似乎同先生的研究内容有关。因此，谨建议您通过捷克等国的学者之手。获取参考之。”
4921	曾根は前からソ連のタラネッツのカジカの進化に関する論文に目を通したいと思っていた。元来カ	很久以前，曾根就想参阅苏联塔拉涅茨关于杜父鱼进化的论文。杜父鱼类本来就

	ジカ類は北方系の魚であって、ソ連圏からは約二百種が報告されている。日本の七十四種をはるかに上まわる数である。その中には、もちろん日本と共通の種類も多く、両者の間には、種種の点において、関連性があるわけである。	属北方系，据称苏联境内大约有二百种，远远超过日本的七十四种。其中当然有不少同日本的种类相似，两者之间当在很多方面具有关联。
4923	ところが、シュルツ博士の手紙の中の（それは貴下の研究と関係があるように思われます）の一行は、曾根を急に不安にしたのである。元来科学的研究は、文献の参照が最も重大である。新発見にしても、新学説の樹立にしても、過去に、もし同種の研究が発表されていれば、それは新発見とも新学説とも言えない。	然而，舒尔兹博士信中那一行字（似乎同先生的研究内容有关），陡然使得曾根不安起来。本来，搞科研至为重要的就是参阅文献。新发现也好，新学说的确立也好，倘若过去已有同类研究成果发表，就不能称之为新发现、新学说。
4926	曾根が気がついた時、縁側の雨戸は閉められ、部屋は薄暗くなっていた。いつか、宿の内儀さんか女中が来て、雨戸を閉めてくれたものらしかったが、曾根はそれに気付かなかったのである。	待曾根注意到时，檐廊的木板套窗已经关闭，屋内一片幽暗。关木板套窗的估计是店主夫人或女佣，只是曾根未曾发觉。
4929	曾根は船着場の突堤に立って、雨がやんだばかりの湿っぽい風に吹かれていた。荷物は旅行カバン一個とカジカがぎっしり詰っている石油罐二個である。	曾根站在突向海水的码头上，任凭大雨过后的湿润海风吹拂着自己。行李只有一个旅行包和两个满满装着杜父鱼的铁筒。
4931	漁師の一人が言ったが、曾根はもうここへは再び来ることはあるまいと思った。曾根は大学を出てから今日まで、日本中の至るところの漁村で、こうして温かく土地土地の人たちに送られて来た。単なる旅行者だったら、こうしたことはあるまいと思う。まさにカジカのとりもつ縁である。	///一位渔夫说道。+++曾根想，自己恐怕很难旧地重游了。大学毕业直至今天，在日本各地每一座渔村里，他无不受到当地人们如此充满温情的送行。假如自己单纯是一名旅行者，断不会受此礼遇，恐怕还是由于同杜父鱼的因缘。
4982	「学術的な仕事を世に問う場合、そういうわけには行かないんです。一応発表されたものは眼を通しませんと」	“学术东西问世的时候，是不能够那样的，而一定要基本看到已发表的才行。”
4991	梶大助は精力的な顔をむしろきりっとさせて、きびしいと思われるような口調で言った。梶大助はさらに続けて言った。	///梶大助凛然绷起精力充沛的面孔，以不无严厉的认真语气说道。+++梶大助继续说：
4996	「学者的良心から出版を見合せるという。それは、それでいいんです。いかにも曾根さんらしい。曾根さんのやりそうなことです。曾根さんが、そんな学者的良心を棚上げして、平気で出版したら、これはやはりおかしいと思います。しかし、私の場合なら、おそらく出版しますな。私が外国の学者に気兼ねして、それを取りやめたら、これはまた不自然で、滑稽に見える。人間にはそれぞれ持って生れたものがある。人間だれも自然に自然にと生きて行けばいい。貴方はこんど出版をおやめになっても、いつか必ず、極めて自然に、カジカの研究が出版される時期は来ましょう」	///“出于学者的良心而取消出版，这无可非议。很能体现你的性格特点，的确是你这样人所做的事。假如你置这种学者良心于不顾，而执意出版的话，我也会同样觉得奇怪。但若是我，恐怕就要我行我素。我如果顾虑到外国学者而取消出版，这也显得滑稽而不自然。人各有其不同的天性。作为人，任何人都应该按其本来面目生存下去。你纵使这次取消出版，我想迟早都会极为自然而然地使杜父鱼研究成果公诸于世，那一阶段必然会到来的。”
4998	曾根は、先刻から梶の話をきいていて、むしょうに何だか自分が悪いように思われて来ていた。梶大助がこんなに、熱意をもってしゃべったのを聞いたことはない。いつか梶のテーブルスピーチを聞いたことがあるが、その演説にしても、これの何分の一もの熱っぽさもこめられてはいなかったと思う。	一开始听梶大助说话，曾根就不由觉得自己十分有负于人。他还从来没有听过梶大助以如此诚挚的语气讲话。以前听过他一次席间致词，即使那次演讲，其热忱程度也不及此时的几分之一。
5021	///曾根は言われるままに、玄関へ回った。応接間へはいると、	于是曾根拐进房门，步入客厅。
5024	「実は、先刻、会社へお父さんをお訪ねしたんです	“刚才我到公司拜访您父亲去了。令尊托

	が、お父さんから頼まれまして」	我……”
5052	夕食は少し早めに支度された。梶大助も帰宅して、梶と夫人と八千代、それに曾根が加わって、いつものように茶の間で、長方形の大きい食卓を囲んだ。この晩、珍らしく梶は酒を飲んだ。	晚饭略微提早一点摆了上来。梶大助也回到家中。梶、夫人、八千代，再加上曾根，象往常那样在饭厅里围着大长方形餐桌坐定。这天晚上，梶一反往日地喝起啤酒以外的酒来。
5069	梶は自分で杯をみたしながら笑った。一見和気あいあいといった感じだった。にぎやかに交わされている会話には、なんの屈託もなかったが、曾根は妙に、梶大助のさびしそうなのが気になった。	一边自己斟酒一边笑着说。看上去，这一家确实其乐融融。席间有说有笑，没有任何不快之感。但曾根仍微妙地觉察出梶大助显得有些寂莫。
5090	今朝は、いつものように六時に起きて、大阪の会社へ電話で連絡し、洋服を着替えて食堂へ出とて、軽い朝食を摂り、あとは次々にかかって来る電話の応接に忙殺されたのである。	今天一早，他仍象平日那样六时起床，同大阪的公司通完电话，换上西服，进餐厅用罢不多的早餐，尔后便被接踵而来的电话弄得昏天黑地。
5114	「でも、頼まれることはいいことですよ。頼みがいがあればこそ頼まれるんですからね」	“不过，有人相托也是好事。您有被托的价值才有人托嘛！”
5137	「ぜいたくな言分なんだね。まあ、頼まれれば断れんだろうね。仕方がない。その金は都合しょう」	“口气不小啊！哎，既然求到头上也就不好推诿。也罢也罢，这钱我来想法就是。”
5156	克平は、こりゃあ梶にしてやられたと思った。なるべくは八千代との事件もあるので、金のことは梶大助には頼みたくなかったのだが、出発の日がすぐ間近に迫っていたので、背に腹はかえられぬ気持で、梶にひと肌ぬいでもらおうと思ったのである。しかし、それにしても、梶自身の金を当てにして来たのではなかった。梶自身から金を出してもらおうとはいささかも考えてはいなかったのだ。	克平觉得被梶将了一军。由于同八千代之间不寻常的关系，他不想在金钱上求助梶大助。但出发日期迫在眉睫，只好以孤注一掷的心情请梶大助助一臂之力。尽管如此，他也没在梶本人身上打算盘，根本就没想让梶自掏腰包。
5160	克平は顔を上げた。と、正面から梶の視線が自分に当てられているのを感じた。こんどは掌に汗を感じた。膝の上に置いてある手がじっとりと汗ばんでいる。手ばかりではない、首すじにも、わきの下にも、ねっとりと汗を感じている。	克平抬起脸，感到梶的视线正迎面对着自己。这使他手心冒汗了。继而，脖颈、腑下全部汗津津的难受。
5161	克平は何か言おうとして口を動かしたが、それは言葉にならなかった。すると、梶は立ち上がった。ふいに、緊張が解かれた気持だった。	克平嗫嚅一下，欲言又止。这时梶欠身离座，克平稍感释然。
5173	「じゃあ、会社の者をここに置く。それから金を受け取ってもらおう。あいにく、僕は午後外出しなければならぬ。争議の調停を頼まれてね」	“那好，我把公司一个人留在这里，你只管来取钱就是。不过我午后要外出，别人托我调解纠纷。”
5197	克平は部屋を出ると、ほっとして、一つ大きく深呼吸をした。こてんこてんにやられたという気持だった。父親として、これほど大きな父親は、この世のどこにあるであろうか。しかし、これで最後の金もできた!やはり梶大助に話してよかったと思う。それが梶大助自身の金であることも、やはりいいことである。父親（八千代と別れても、克平は梶大助を父親として考えることを改めまいと思った）の金で山に登る登山家はめったにないだろう。	克平走出房间，深深地舒了口长气。他觉得自己全线崩溃。作为岳父，世上哪有如此伟大的岳父呢！至此，最后一笔钱也已到手！到底是梶大助好说。梶大助自己掏腰包也还是好事。用岳父（纵使同八千代分手，克平也还是要将梶大助作为岳父）的钱登山——这样的登山家想必世所罕见。
5199	克平を送り出して一人になると、梶大助はさすがに疲労を感じた。ベルを押して、ボーイを呼ぶと、紅茶にウィスキーを入れたのを運ばせ、それをゆっくり飲んだ。なるべくは、これでもう電話からも訪問者からも解放されたかった。だが、訪問者は、もう一人あるはずであった。山名杏子である。このホテルで昼食を一緒に摂る約束をしてある。	送走克平，剩下一人，梶大助毕竟感到有些疲劳。他按铃吩咐男侍送来一杯放有威士忌的红茶，慢慢啜起来。往下他想尽量从电话和来访者中解脱出来。但来访者应当还有一位，那就是山名杏子。已同她讲好在这里共进午餐。
5244	梶は、今日は一組の男女の共同生活が崩壊し、他の	梶觉得，在今天这个日子里，一对男女

	一組の男女の組合せが新たにでき上がろうとしていると思った。梶は今日は自分でも驚くはと食欲があった。果物が運ばれて来たが、実際はもう一品何か料理を食べたいくらいである。一組が崩壊し、一組が誕生しようとしている！どちらも、自分にとっては余り感心すべきことではなさそうである。妙に肩のあたりがうすら寒い。そのために、このように食欲があるのであろうか。	的共同生活即将土崩瓦解，而另一对男女的结合则正要大功告成。梶自己都为今天的食欲感到吃惊。水果端了上来。实际上梶甚至带想再吃个菜。一对即将解体，一对就要诞生！对自己来说，似乎哪一对都不值得欢欣鼓舞。他无端地觉得肩头微微发冷，或许食欲因而才如此之好。
5255	背負い投げをくわされた気持で、	///杏子大失所望，
5268	梶は煙草の煙を吐きながら、この杏子に去られたあとの自分の人生というものを考えていた。色彩というものが全くなくなった陰画の風景が眼に浮んで来る。	吐着香烟，想到自己在杏子离去后的人生。一幅全无任何色彩的阴暗风景画在眼前浮现出来。
5326	///大小の壮行会が毎晩のように行われだし、三人ともそれぞれ勤めを持っている身なので、会社の仕事も一応格好をつけておかなければならなかった。それにまだ肝心の登山準備で、しなければならないことが、あとからあとから出て来た。しかし、出発前のスケジュールをぎっしりと書き込んだ克平の日記帳の中で、一晩だけが空白にされていた。克平はこの夜を杏子と自分のためにとっておいたのである。	///大小壮行会每晚应接不暇，而三人由于都有工作在身，公司那边又必须大致应付过去才行。况且至关重要的登山准备——刻不容缓的事也接踵而来。尽管如此，克平那满满排列着出发前日程安排的手册中，还是留出一晚空闲时间——那是为杏子和他自己挤出的一个晚上。
5345	///実際にさらわれるつもりで、杏子は何日か前にこの約束をしたのであった。が、その思いから現在の杏子はひどく遠いところに立っていた。	其实杏子前几天相约的时候，怀的就是被拐跑的心情。而现在的杏子则与当时不可同日而语了。
5372	///運転手に赤坂に来たことを告げられると、	司机告知已到赤坂。
5432	説明を求められても何が説明できるだろう。何日か前まで、自分は今夜本当に悪魔になるつもりだった。自分の愛情を、周囲のだれにも遠慮なく生かし育ててみようと思ったのだ。八千代に対する気兼ねのようなものも、きっぱり断ち切ったつもりだった。八千代は八千代、自分は自分で生きようと思った。それ以外に、自分の愛情を生かす道はなかったからだ。しかし、八千代が梶の娘だと知った時、何もかもがらがらと崩れてしったのだ。	即使让自己说，自己又能说什么呢？就在几天之前，自己下定了今晚真正充当恶魔的决心，决意不顾忌周围任何人地培育自己的爱情。对八千代那类似愧疚的心情也准备断然抛弃。八千代是八千代，自己归自己。应该按自己的方式生活下去——此外别无培育爱情之路。然而，当知道八千代是梶大助女儿的时候，便一切都土崩瓦解了。
5445	その言葉には、明らかに皮肉と怒りがこめられていた。	///话里明显含有奚落和愠怒。
5455	強いて言えば、梶は杏子のパトロンとでもいうべきであったろうが、杏子はそれを口にしなかった。誤解されそうだったからである。だれが自分と梶の関係を正しく理解してくれるだろう。	勉强来说，梶也许该说是杏子的资助人。但杏子没有出口。因为容易招致误解。有谁能正确理解自己同梶的关系呢！
5486	「僕は山登りを始めてから”無理はするな”と言われて来ました。貴女との場合でも、あなたがきらいだと言えば、黙って引き退がります。ただ、今までの説明では、僕には一点腑に落ちない気持が残ります。—僕に遠慮は要らない。はっきり言ってごらんなさい。貴女がその人に感じているものは一体、何です?貴女の言葉を素直に受け取って、愛情でないとすれば、義理とか、恩義とかー」	“自从我开始登山，人们就劝我不必勉强。即使在同你的交往上，如果你说声讨厌我，我就会乖乖退下阵来。只是听完你刚才的解释，有一点我捉摸不透。对我不用客气，请你明确告诉我：你从那人身上感受到的竟是什么东西？假定按你所说的——不是爱情的话，那么是不是情义或恩义……”
5489	「そんなものなら棄てられます。どんな悪魔にさえなろうと決心したんですもの。ーそんなものと違います。やっぱり夢、私がその方の純粋な夢の対象だからです。何にも縛られてはいません。自由です。でも私は身動きできないんです」	///“如果是那种东西，我可以抛弃。本来我都已经决心扮演任何一种恶魔角色。问题是这不同于情义。仍然是梦，我纯碎是他梦的对象。我没有受任何束缚，我是自由的。但我却动身不得。”

5501	///言われればそのとおりであった。	说得也是。
5583	克平には、やはり曾根は奇妙な男に見えた。さびしい、さびしいと言われると、克平は自分のあ方も、暫く眼をふさいでいたさびしさに、再び襲われ始めた。	///在克平看来，曾根这男子终究不同寻常。他一口一个寂寞，使克平自己那暂且丢在一旁的寂寞感也再次涌上心头。
5604	言われてみれば、克平には別段たいした世話になっていなかった。しかし、曾根は少なからぬ世話になっているような感じを受けていた。変だった。	如此说来，倒也没帮过什么大忙。可是，曾根总觉得没少承其关照，怪事。
5646	「何と言われても口がきけん。いい細君だものな。克平のやつの方がどうもいかんようだ」	“随你怎么说。多好的妻子啊！克平这家伙就是成问题。”
5662	「カジカは居ません。カジカとは別の問題なんです。実は現在のところ、印度洋に注ぐ河にはマス科の魚はいないということになっています。従って、インダス河の上流にはマス科の魚はいないわけです、しかし、水源が山一つ隔てたアラル海に注ぐオクサス河の方にはマス科の魚がおります。もし、居ないとされているインダス河の方にもそれが居るとすると、これは従来の地盤構造の定説を全くくつがえすことになります。往時河川の奪略があったという証明が成り立ちます」	“没有杜父鱼。这与杜父鱼问题无关。事情是这样：现在一般认为流入印度洋的河流中没有鳟鱼科鱼。按此说法，印度河上游当不至于有这类鱼生存。然而，水源只有一山之隔的、注入咸海的奥克苏斯河里却发现有鳟鱼科鱼，假如被认为没有这类鱼生存的印度河也有的话，那么便可以彻底推翻以往已成定论的地盘构造学说，而往昔发生过的河川掠夺之说就会得以证明。”
5682	それにはそう認められてあった。あて名欄には克平、三沢、アルさんの三人の名がきちんと書かれてあった。克平はそれをアルさんに手渡すと、そのまま多勢の人々に背を向けて、飛行場への出口の方へ何となく歩いて行った。	收报人栏里工整地写着克平、三泽、乙醇三人的名字。克平把电报递给乙醇，旋即离开众人，不由自主地往停机坪入口那边踱去。
5695	三沢は人々を押し分けて、室内へはいって行った。飛行機に乗りこんでしまうまで、三沢は用事に追い回されるだろう。そういう運命を持って、この小柄な登山家は生れて来ているらしかった。	三泽分开众人，挤进客厅。他恐怕要为此类事务一直忙到上飞机。这个矮小的登山家似乎生来就背负这样的命运。
5697	飛行機が宝剣通り十六時二十分に出発することがアナウンスされると、克平たちの見送り人は、何となく克平たち三人を中心にして周囲に集まって来た。	播音员报告说，飞机将正点于十六时二十分起飞。于是前来为克平他们送行的人们自动朝三人汇聚拢来。
5699	克平は少し俯き、アルさんは反対に少し仰向きになり、その二人にはさまれた三沢は、沈思黙考している表情で首をかしげていた。そして、フラッシュを浴びる時だけ、その三つの顔は言い合わせたように正面を向き、すぐまた各自それぞれのポーズに戻った。	克平略微低头；乙醇却有点仰着；挟在两中间的三泽则歪头沉思。只是在闪光灯闪亮时三张面孔才不约而同地目视前方，旋即又恢复各自的姿态。
5700	克平は自分たちを取り巻く人々の背後の方に、杏子の店の二人の女店員の顔を見つけると、列を離れてその方へ行った。二人の若い店員は、ただにこにこ笑っていた。黙って笑顔を向け続けている。それ以外、いかなる祝意の表現もないといった格好である。それが克平には暖かく感じられた。	克平在环绕自己人群的背后瞥见杏子店里的两名女店员，马上离开队列走过去。两名年轻店员只是莞尔作笑，默默以笑脸相迎，并无任何祝愿的表示。然而却使克平心底涌起一般暖流。
5734	曾根は何を言われても、それはそうでしょうと言うほかなかった。この際何か適当な言葉をかけるべきだと思ったが、何一つ気の利いた言葉は思い浮かばなかった。自動車は京浜国道を走っていた。窓から入ってくる風は冷たかった。空きの暮方であった。	不管对方说什么，曾根都只能是这么一句“是的”，他本想找一句于这种场合恰如其份的话，但就是迟钝得想不起来。汽车沿着京浜国营公路疾驰。窗外扑来的风凉浸浸的。这是个秋天的傍晚。
5762	「わたくしのこんなところが、克平には気に入らなかったんです。克平ばかりでなく、だれでもいやになるでしょう。わたしのいけないところです。で	///“我的这种地方，克平不很中意。也不光是克平，任何人想必都会生厌的。这是我糟糕的地方。不过今晚，正象您说的那样，

	も、今夜は、曾根さんのおっしゃるように気持が参っております。克平に対してどうっていうのではありません。克平を本当に愛したこともなく、またあの人から本当に愛されたこともなく、そんな二人が飛行場でさばさば別れのあいさつを交わしたことが、妙にやりきれない気持なんです。二人とも可哀そうだと思うんです。	我心里是不大好受。倒不是对克平怎么样。我没有真心爱过克平，同时也没被克平真心爱过，但就这样两个人在机场干巴巴地彼此话别，觉得还是挺难过的。两人都很可怜。
5786	曾根は研究所の門をくぐり建物の方へ雑草の間につけられている小道を歩いて行った。小使が一人だけしかいない研究所の建物は、どの窓からも灯がもれていず、真黒い巨大な石の固まりであった。同じ東京の中にも、こんなところがあるかと思われるほど辺りはしんとしている。	曾根跨进研究所的大门，沿着杂草间的小路向科研楼走去。只有一名勤杂工的科研楼，没有一个窗口有灯光泻出，活象一块黑■■的宠大石体。四下万籁无声，甚至使人怀疑东京城居然有这等场所。
5788	曾根はぼうぜんとした思いで歯の声に取り巻かれていた。同じ生物学者でも虫の研究をする連中は大変であろうと思う。小さい時からこの秋虫の声は雄が雌を呼ぶ声であると聞かされている。実際にそうかどうか知らぬが、いずれにしても、なんと哀切を極めた大交響楽であることか!	曾根怅惘地置身于虫鸣之中。他想，同是生物学者，但研究昆虫的想必远为复杂。听说秋虫之鸣是雄性向雌性求爱的呼声。实际如何自是不得而知，但不管怎样，这是何等哀婉至桴的宏伟交响乐啊！
5789	曾根は自分の領分である魚が決して鳴かないことを思った。そこには同じように恋愛も愛欲の悩みもあるであろうが、一切がさっぱりと潮に洗われている。秩序だけが神の唯一つの意志であるかのようだ。	///他想起来，作为自己研究课题的杜父鱼是绝对不叫的。它们固然也有恋爱以至情欲的苦恼，但那一切都被潮水一冲而尽。只有秩序仿佛是造物主的唯一意志。
5792	と、怒鳴られた。小使のおっさんである。	是当杂工的中年汉子。
5798	それだけの会話で、窓は閉められた。	如此简单几句，窗户便关上了。
5799	曾根は三十分程そこらを歩き回ってから、建物の表口からはいり、暗い階段を上がり自分の部屋にはいった。スイッチをひねると電灯が点った。机の上には、小使のおっさんの作ってくれた夕食の膳が新聞紙をかむって、置かれてあった。	曾根来回走了半个多小时，然后步入正门，爬上楼梯，走进自己的房间。他拉动开关，打开电灯。桌上放着那位勤杂工做的晚饭，上面用报纸盖着。
5831	卓について、定食を注文した。料理の皿が次々に運ばれて来るころになると、律子も美代子も、すっかりここの雰囲気の中に溶け込んでしまった風で、絶えず若々しい笑いが二人から起った。杏子は、時々微笑して、二人に答えるだけで、口数少なくフォークとナイフを動かしていた。ここへ来ても、彼女の耳には、やはり爆音が聞えていた。	在桌旁坐定，杏子要了一份套菜。菜盘一个个端上之后，律子和美代子看样子也完全同这里的气氛融为一体，不断发出爽朗的笑声。杏子不时微微一笑，回答两人的问话。她极少主动开口，只顾默默使着刀叉。
5838	///平生はどちらかと言えばつましい方の杏子が、次々に財布を開けるのが、二人には、少し異常に、不気味に感じられたのである。	相对而言，杏子平时是较为节俭的，而今天却接二连三地打开钱包。对此两人觉得有点反常，甚至有一种不祥之感。
5840	杏子は言った。今夜の杏子は何でもいい、人を少しでも喜ばせたがった。人の喜ぶ気持に取り巻かれていたかった。銀座の雑踏の中へはいってからも、彼女の耳には、あの克平の乗っている飛行機の爆音がひっきりなしに聞えていた。杏子はまた二人のために万年筆を買った。	///杏子说。+++今晚的杏子，任凭买什么都心甘情愿，只是想让别人多少高兴一些，只是想沉浸在别人为之高兴的心情中。即使来到银座熙攘的人群中后，杏子也还是觉得耳边不断响起克平所乘飞机的隆隆声。+++她为两人买了自来水笔。
5849	店の方は注文が目立って多くなっていた。秋が急にやって来たので、どの客もあわてて秋の支度に取りかかるのか、性急な注文ばかりだった。一日も早く作ってもらいたいらしい気持が、その表情にも言葉にも現われていた。杏子はそのほとんどを、引き受けた。少しはむりでも、徹夜でも何でもして、客の頼みに応じようと思ったのである。そして	西服店的订货显著多了起来。秋天突然降临，因此顾客大概都急于准备秋令服装，无不要求尽快交货。那种希望哪怕提早一天也好的迫切心情在神情和言语上清楚地流露出来。杏子几乎全部一口应承。她想，哪怕有点勉强，哪怕熬夜，也要满足顾客的要求。她不再回公寓，晚间就住在店里，

	アパートへは帰らず、店に泊り込みで、自分もミシンを踏んだ。いくら忙しくてもよかった。仕事に追われている時だけ考えごとをしないでいることができた。	自己也踏起缝纫机来。无论多忙都好。只有在被活计催得团团转的时候才能免去思虑。
5873	杏子はペンを置くと、二回それを読み直し、机の引出しから封筒を取り出した。その封筒には、三沢の字であて名が書かれてある。三沢が、手紙を出す時は、これを使うようにと、わざわざ書いて置いて行ってくれたものである。その時の三沢の話では、郵便物の配達されるのはギルギットが最後だが、そこから先きはシェルパが運ぶということだった。	杏子放下笔，反复读了两次，然后从抽屉中取出信封。信封上的收信人地址是三泽的字体。这是三泽特意留下来的，给杏子发信时使用。当时三泽说，邮件送达的最后地点是吉尔吉特，再往前就要由舍帕族登山向导转递了。
5883	なるほど、いつもの梶の声とは違って、ゆとりが感じられる。	///果然，梶的声音与平日不同，给人以从容不迫之感。
5951	そんなことを言って、あとは窓外へ眼を向け続けていた。何か大きい催し物でもあるのか、後楽園の入口には赤や青の小旗がちらつき、人が後から後からその中へ吸われて行くのが見えていた。	梶这么说了一句，尔后便一直把目光投向窗外。大概是有什么文艺节目演出，后乐园门口点缀着红蓝小旗，人们被络绎不绝地吸入里边。
5966	坂を上りきると、広い台地になっていて、花壇と芝生の間を、幾つもの道が走っていた。大学の理学部の研究室らしい建物の前を通り、二人はその広場を斜めにつっ切って行った。辺りには人はほとんど居なかった。ただ広場の向うのすみに幼稚園の運動会でも開かれているらしく、色紙の細片でもまいたように、何十人か子供たちが散らばっていた。そして、レコードの「ドナウ河の漣」ののびやかな曲が、その一団の間から流れていた。	上自坡顶，见是一片宽阔地平地，几条小径从花坛和草间伸展开去。两人从大学理学院研究室样式的建筑物前走过，打斜穿行这片广场。四周游人寥寥，只是一角有几十个儿童象洒落的彩色纸片似地三三两两聚在一处，看样子是幼儿园在开运动会。录音机中“多瑙河之波”那悠扬的乐曲从孩子们中间荡漾开来。
6002	梶は言った。本当に克平のことをそう思っているといった言い方だった。梶の口から克平のことをいい人間だと言われると、杏子はうれしかった。しかし、それがいい人間だったと過去形で言われたことにはやはりあるさびしさがあった。本当に大貫克平は今や自分には過去の人物なのだと思った。	///梶说道。这是真心而公正的说法。+++大助嘴里听说克平是个好人，杏子很是高兴。不过，梶说这话时用的是过去时——他曾是个好人，对此她还是有一种凄寂之感。杏子想，对自己来说，大贯克平的确已属过去的人物了。
6004	杏子は自分の嗚咽を梶に感づかれてはならないと思った。梶の声が聞えると、杏子はまたそのまま歩き出した。	杏子不想让梶觉察出自己的呜咽。当梶大助的脚步声传来时，又继续往前走去。

行番	高野聖（原文）	高野圣僧(訳文)
18	（お泊りは何方じゃな）といって聞かれたから、私は一人旅の旅宿のつまらなさを、染々歎息した、第一盆を持って女中が坐睡をする、番頭が空世辞をいう、廊下を歩行くとじろじろ目をつける、何より最も耐え難いのは晩飯の支度が済むと、忽ち灯を行燈に換えて、薄暗い処でお休みなさいと命令されるが、私は夜が更けるまで寐ることが出来ないから、その間の心持といったらない、殊にこの頃の夜は長し、東京を出る時から一晩の泊が気になってならない位、差支えがなくば御僧と御一所に。	///他问我：+++“住哪家客栈？”+++于是我深深慨叹独自旅行，在客栈过夜有多么无聊。首先，女佣拿着托盘就打起盹儿来，掌柜的心不在焉地说上几句奉承话，可旅客从走廊经过时，却盯着他看。最难以忍受的是，吃罢晚饭，把碗筷撤掉后，马上换成座灯，命令旅客在昏暗的地方睡觉。我是深夜才能入睡的人，这段时间，滋味就甭提有多么难过了。尤其近来夜长了，自从离开东京，就不断嘀咕该怎样打发这一宵。我对师父表示，要是没什么不方便的话，真想和他住在一起。
110	それからがくがくして歩行くのが少し難渋に	“以后脚就不听使唤了，走路有点困难。

	なったけれども、此処で倒れては温気で蒸殺されるばかりじゃと、我身で我身を激まして首筋を取って引立てるようにして峠の方へ。	我想：要是在这儿倒下去了，就会给署气闷死拉倒。我给自己打气，就象是提着脖领儿拽着走似的，往山顶上爬。
128	呆気に取られて見る見る内に、下の方から縮みながら、ぶくぶくと太って行くのは生血をしたたかに吸込む所為で、濁った黒い滑らかな肌に茶褐色の縞をもった、疣胡瓜のような血を取る動物、此奴は蛭じゃよ。	“我呆呆地看着它。它在尽情地吸我的鲜血，下半身抽缩着，逐渐鼓胀起来。 它那黑绿光滑的皮上，带有茶褐色的条纹，活象疙里疙瘩的黄瓜。这个动物就是水蛭。
147	これで蛭に悩まされて痛いのか、痒いのか、それとも擽ったいのか得もいわれぬ苦しみさえなかったら、嬉しさに独り飛騨山越の間道で、御経に節をつけて外道踊をやったであろう、一寸清心丹でも噛砕いて疵口へつけたらどうだと、大分世の中の事に気がついて来たわ。	“我被水蛭咬得也不知是疼是痒，吃够了难言的苦头。不然的话，我准会高兴得独自在越过飞■山的小道上，吟诵着经文跳起外道舞。我的神志恢复得差不多了，想着要是把清心丹咬碎，涂在伤口上，不知怎样。我掐掐自己，知道确实活过来了。
157	足は忘れたか投出した、腰がなくば暖簾を立てたように畳まれそうな、年紀がそれでいて二十二三、口をあんぐりやった上唇で巻込めよう、鼻の低さ、出額、五分刈の伸びたのが前の鶏冠の如くになって、頸脚へ撥ねて耳に被った、唖か、白痴か、これから蛙になろうとするような少年。私は驚いた、此方の生命に別条はないが、先方様の形相。いや、大別条。	“两只脚伸在那儿，象是被遗忘了似的。倘若没有腰骨，简直象折叠起来竖在那里的布帘子。年龄有二十二、三，嘴张得大大的，鼻子低得几乎可以卷在上唇里。大锛儿头，推成半寸的头发已长得前面象鸡冠子一样撅起来，后脖颈那儿翘得遮往了耳朵。是哑巴呢，还是白痴？这个好象快要变成青蛙的少年，使我吃了一惊，我的命倒不会有危险，他那副尊容可真够呛，哎呀，长得太特别了。
191	（そう、汗におなりなさいました、さぞまあ、お暑うござんしたでしょう、お待ちなさいまし、旅籠へお着き遊ばして湯にお入りなさいますのが、旅するお方には何より御馳走だと申しますね、湯どころか、お茶さえ碌におもてなしもいたされませんが、あの、この裏の崖を下りますと、綺麗な流がございますから一層それへいらっしゃってお流しが宜しゅうございましょう）	“‘啊，出汗了，一定把您热坏了。等一等。对旅客来说，最高级的享受就是到了客栈洗个热水澡。我这里，不用说洗澡水，连茶水都不能好好招待。可是，房后的悬崖下边有一条清凉的小河，去冲个澡好不好？’
251	向う岸は又一座の山の裾で、頂の方は真暗だが、山の端からその山腹を射る月の光に照し出された辺からは大石小石、栄螺のようなの、六尺角に切出したの、剣のようなのやら、鞠の形をしたのやら、目の届く限り不残岩で、次第に大きく水に擴ったのは唯小山のよう」	“对岸是另一山麓，顶巅漆黑一团。半山腹沐浴在月光下。极目望去，全是岩山，大大小小，海螺形的，切成六尺见方的，剑形的，球形的。越到下面越宽，浸在水里，简直象座小山一样。”
280	その心地の得もいわれなさで、眠気がさしたでもあるまいが、うとうとする様子で、疵の痛みがなくなって気が遠くなって、ひたと附ついている婦人の身体で、私は花びらの中へ包まれたような工合。	“我就甭提有多么舒服了，该不是因此发困了吧。反正我朦朦胧胧的，伤口不疼了，神志也不清了。妇女紧紧贴在我身上，我就象是被花瓣包起来似的。
302	私はそのまま目を外らしたが、その一段の婦人の姿が月を浴びて、薄い煙に包まれながら向う岸の　に濡れて黒い、滑かな大きな石へ蒼味を帯びて透通って映るように見えた。	“我马上移开了视线。只觉得月光照耀下，妇人那愈益姣美的姿容，挂上了透明的苍白色，在水雾迷蒙中，映在对岸那被水花溅湿而发黑的光滑的巨大石上。
322	「優しいなかに強みのある、気軽に見えても何処にか落着のある、馴々しくて犯し易からぬ品の可い、如何なることにもいざとなれば驚くに足らぬという身に応のあるといったような風の婦人、かく嬌瞋を発してはきっと可いことはあるまい、今この婦人に邪慳にされては木から落ちた猿同然じゃと、おっかなびっくりで、おずおず控えていたが、いや案ずるより産が安い。	“妇人柔中有刚，表面上兴冲冲的，骨子里却很庄重。她对人亲近，却又文雅，凛然不可侵犯。遇什么事都胸有成竹，决不惊慌失措。如此娇■，前景想必不妙。倘若她现在对我发火，我就跟从树上栽下来的猴子一样了。于是我战战兢兢地呆在那儿。事情却没有我预料的那么严重。

339	私はその先刻から何んとなくこの婦人に畏敬の念が生じて善か悪か、どの道命令されるように心得たから、いわるるままに草履を穿いた。	“从方才起，我不知怎地对这位妇女生了畏敬之情。不论她命令我做什么，我都不分好歹，言听计从。所以我就乖乖地穿上草屐。
347	（何さ、行ってみさっしゃい御亭主は無事じゃ、いやなかなか私が手には口説き落されなんだ、はははは）と意味もないことを大笑して、親仁は厩の方へてくてくと行った。	“‘没什么。你去看看吧，当家的平安无事。咳，他可不是俺说服得了的，哈哈哈哈哈。’+++“老爷耍了两句贫嘴，大笑几声，就踱到马棚去了。
389	私は唯呆気に取られて見ていると、爪立をして伸び上り、手をしなやかに空ざまにして、二三度鬣を撫でたが。	“我只是目瞪口呆地望着。她踮起脚尖，将双手温柔地向上一扬，抚摸了两三下马鬃。
506	その手と手を取交すには及ばずとも、傍につき添って、朝夕の話対手、蕈の汁で御膳を食べたり、私が榾を焚いて、婦人が鍋をかけて、私が木の実を拾って、婦人が皮を剥いて、それから障子の内と外で、話をしたり、笑ったり、それから谷川で二人して、その時の婦人が裸体になって私が背中へ呼吸が通って、微妙な薫の花びらに暖に包まれたら、そのまま命が失せても可い！	“即便不能跟她结缡，我也可以和她作伴，一早一晚和她说话，就着蘑菇汤吃饭。我烧柴，她坐上锅，我拾坚果，她剥皮。隔着纸拉门说说笑笑。要是能够再和她在溪流里冲澡，她赤裸着身子，在我背后呼气，把我用奇妙的温馨花瓣包裹起来，那么我即使当场死掉，也心甘情愿！
513	況してこの水上は、昨日孤家の婦人と水を浴びた処と思うと、気の所為かその女滝の中に絵のようなかの婦人の姿が歴々、と浮いて出ると巻込まれて、沈んだと思うと又浮いて、千筋に乱るる水とともにその膚が粉に砕けて、花片が散込むような。	何况水的上游就是晚天和住在孤零零的房屋里的那位妇人共同浴水的所在。想到这里，只觉得画中人般的妇女的身姿，清清楚楚地浮现在女瀑布当中。接着，她又被卷进水里。沉沉浮浮，随着千条乱水，她的肌肤粉碎了，象是凋落的花瓣。
514	///あなやと思うと更に、もとの顔も、胸も、乳も、手足も全き姿となって、浮いつ沈みつ、ぱッと刻まれ、あッと見る間に又あらわれる。私は耐らず真逆に滝の中へ飛込んで、女滝を確と抱いたとまで思った。	///我心里猛然一惊，一眨眼的工夫，脸、胸、乳和手脚又都完好了，或浮或沉，一下子又碎了。我感到愕然，一看，又出现了。我耐受不过，只觉得自己倒栽葱跳进水，紧紧搂抱住了女瀑布。
516	（やあ御坊様）といわれたから、時が時なり、心も心、後暗いので吃驚して見ると、閻王の使ではない、これが親仁。	“‘喂，师父。’+++“我正想入非非，于心有愧，吃惊地回头一看，不是阎罗王打发来的使者，却是那位老爷子。
537	すると、医者の内弟子で薬局、拭掃除もすれば惣菜畠の芋も掘る、近い所へは車夫も勤めた、下男兼帯の熊蔵という、その頃二十四五歳、稀塩酸に単舎利別を混ぜたのを瓶に盗んで、内が吝嗇じゃから見附かると叱られる、これを股引や袴と一所に戸棚の上に載せて置いて、隙さえあればちびりちびりと飲んでた男が、庭掃除をするといって、件の蜂の巣を見つけたッけ。	“大夫家里住着个叫作熊藏的二十四、五岁的徒弟兼仆人。他不但管配药、扫地擦走廊，还到菜地里挖白薯。大夫到近处出诊时他就充当洋车夫。他知道大夫家吝啬，怕被发现了会挨骂，就偷点稀盐酸兑上糖浆的玩意儿，装在瓶子里，把它和紧腿裤、裙裤一道放在橱柜上，有空就喝上几口。这一天，他说去扫院子，便发现了那个大蜂窝。
541	と親仁がその時物語って、御坊は、孤家の周囲で、猿を見たろう、蟇を見たろう、蝙蝠を見たであろう、兎も蛇も皆嬢様に谷川の水を浴びせられて畜生にされたる輩！	“老爷子说到这里，问道：‘师父不是在那座孤零零的房屋周围看见猴子、癞蛤蟆和蝙蝠了吗？兔子和蛇原来也是人，都是被小姐浇上溪流的水变成畜生的！’
542	あわれその時あの婦人が、蟇に絡られたのも、猿に抱かれたのも、蝙蝠に吸われたのも、夜中に魑魅魍魎に魘われたのも、思い出して、私は犇々と胸に当った。	“唉，这一切都使我想起当时的情景：妇人怎样被癞蛤蟆缠住，被猴搂抱，被蝙蝠吸上一口，以及半夜里怎样被魑魅魍魎魇住。真是感慨万端。
557	その時分はまだ一個の荘、家も小二十軒あったのが、娘が来て一日二日、ついほだされて逗留した五日目から大雨が降出した。	“老爷子又说：‘那时还是一座庄子哪。有将近二十户人家。姑娘住上一两天，被磨得心软了，又逗留下去。到了第五天，下起大雨来。

行番	斜陽（原文）	斜阳(訳文)
31	けさのスウプは、こないだアメリカから配給になった罐。つめ詰のグリンピイスを裏ごしして、私がポタージュみたいに作ったもので、もともとお料理には自信が無いので、お母さまに、いいえ、と言われても、なおも、はらはらしてそうたずねた。	早上的汤，我是用最近配给的美国罐头青豆滤过后做的浓汤。对于做菜我本来就没有把握，所以即使听到母亲说“不”，我还是非常担心，又问了一声。
46	何か、たまらない恥ずかしい思いに襲われた時に、あの奇妙な、あ、という幽かな叫び声が出るものなのだ。	一个人突然想到什么害羞得无地自容的事情时，就会轻轻地发出这种奇怪的“啊”一声。
53	弟の直治は大学の中途で召集され、南方の島へ行ったのだが、消息が絶えてしまって、終戦になっても行先が不明で、お母さまは、もう直治には逢えないと覚悟している、とおっしゃっているけれども、私は、そんな、「覚悟」なんかした事は一度もない、きっと逢えるとばかり思っている。	弟弟直治在大学读书时碰到征兵，到南方岛上去了就杳无音信，停战以后仍然下落不明。母亲说她已经作好精神准备再也见不到直治了，可是我一次也没有作过这种“精神准备”。我想一定能够见面的。
77	とは言ったものの、こりゃお母さまに見られて、まずかったなと思った。	我虽然这么说，但觉得这事被母亲看见总不好。
83	蛇の卵を焼いたのを、祖母さまに見つけられ、お母さまはきっと何かひどく、不吉なものをお感じになったに運いないと思ったら、私も急に蛇の卵を焼いたのがたいへんなおそろしい事だったような気がして来て、この事がお母さまに或いは悪い祟りをするのではあるまいかと、心配で心配で･･･	我想母亲看见我烧蛇蛋一定认为不吉利，于是忽然觉得烧蛇蛋是件非常可怕的事情，说不定会给母亲带来什么灾难，所以老是放心不下。
88	お母さまもそれを見つけ、 +++「あの蛇は？」+++ とおっしゃるなり立ち上って私のほうに走り寄り、私の手をとったまま立ちすくんでおしまいになった。そう言われて、私も、はっと思い当り、 +++「卵の母親？」 +++と口に出して言ってしまった。	“那条蛇是……？”+++ 母亲也看见了它，这么说着奔到我身边，握住我的手就呆立不动了。经母亲一提，我也忽然猜测到，脱口便说： +++“是蛇蛋的母亲吧？”
97	親子二人で、どこか田舎の小綺麗な家を買い、気ままに暮したほうがいい、とお母さまにお言い渡しになった様子で、お母さまは、お金の事は子供よりも、もっと何もわからないお方だし、和田の叔父さまからそう言われて、それではどうかよろしく、とお願いしてしまったようである。	母女俩在乡下买一幢整洁的房子称心地过过日子。金钱的事母亲比小孩子更不懂，所以听和田舅舅这么一说，也就托他多加关照了。
127	翌る日、お母さまは、やはりお顔色が悪く、なお何やらぐずぐずして、少しでも永くこのお家にいらっしゃりたい様子であったが、和田の叔父さまが見えられて、もう荷物はほとんど発送してしまったし、きょう伊豆に出発、とお言いつけになったので、お母さまは、しぶしぶコートを潜て、お別れの挨拶を申し上げるお君や、出入のひとたちに無言でお会釈なさって、叔父さまと私と三人、西片町のお家を出た。	第二天母亲的面色依然不好，而且不知怎么的总是磨磨蹭蹭，象是尽可能在这个屋子里多待一会儿。可是和田舅舅来了，说行李已经发送得差不多，今天该去伊豆了。于是母亲只好勉勉强强地穿上大衣，对前来告别的阿君和常有来往的人默默地点头行礼，然后跟舅舅和我三个人一起走出了西片町的宅邸。
143	「空気のせいかしら。陽の光が、まるで東京と違うじゃないの。光線が絹ごしされているみたい。」	“大概是空气的关系吧？太阳光跟东京的完全不同。光线好象用绢滤过似的，”
146	叔父さまは、この部落てだった一軒だという宿屋へ、お食事を交渉に出かけ、やがてとどけられたお弁当を、お座敷にひろげて御持参のウイスキイをお飲みになり、この山荘の以前の持主でいらした河田子爵と支那で遊んだ頃の失敗談など語って、大陽気であったが、お母さまは、お弁当にもほんのちょっとお箸を着つけになっただけで、やがて、あたりが	舅舅到村里仅有的一家旅店去交涉晚饭，不久便送来了盒子装的简单饭菜，他在屋子里把盒子饭打开，就喝起他带来的威士忌，并兴致勃勃地谈他和这山庄的前主人河田子爵在中国旅行时遇到的倒霉事。可是母亲几乎筷子都没有动过，天微微暗下来她就低声说：“就这么让我躺一

	薄暗くなって来た頃、「すこし、このまま寝かして。」と小さい声でおっしゃった。	会吧。”
156	お昼すこし前に、下の村の先生がまた見えられた。こんどはお袴は着けていなかったが、自足袋は、やはりはいておられた。	将近中午时分，村子里的医生又来了。这回他没有穿礼装裙裤，可脚上还是穿着白布袜。
195	と言いかけて、自分があんまりみじめで、涙がわいて出て、それっきりうつむいて黙った。警察に連れて行かれて、罪人になるのかも知れない、とそのとき思った。はだしで、お寝巻のままの、取乱した目分の姿が息にはずかしくなり、つくづく、落ちぶれたと思った。	我这么一说，便觉得自己太凄惨，眼泪一下子流出来，低下头就什么也说不下去。那时候我还以为要被警察带走，成为犯人了。我忽然对自己只穿睡衣、光着脚的那种惊慌失措样子感到害臊，痛切地感到自己竟已倒霉到这种地步。”
207	二宮巡査がお帰りになったら、下の農家の中井さんが、+++「二宮さんは、どう言われました？」と、実に心配そうな、緊張のお声でたずねる。	二宫警察走了之后，坡下农家的中井先生非常担心似的，用紧张的声调问：+++“二宫先生怎么说？”
239	区長さんのお家に行ったら、区長さんはお留守で、息子さんのお嫁さんが出ていらしたが、私を見るなりかえって向うで涙ぐんでおしまいになり、また、巡査のところでは二宮巡査が、よかった、よかった、とおっしゃってくれるし、みんなお優しいお方たちばかりで、それからご近所のお家を廻って、やはり皆さまから、同情され、なぐさめられた。ただ、前のお家の西山さんのお嫁さん、といってももう四十くらいのおばさんだが、そのひとにだけは、びしびし叱られた。	到了区长家，区长不在，出来的是他儿媳妇，对方一见到我反而自己满眼含泪。在警察家，二宫警察对我说：好啦，好啦。他们待我都很和气。然后又挨家走访近邻，同样受到了大家的安慰和同情。只有一个人严厉地叱责我，就是对面那家西山先生的小媳妇，说是小媳妇，实际上是个四十左右的大婶了。
245	筋肉労働、というのかしら。このような力仕事は、私にとっていまがはじめてではない。私は戦争の時に徴用されて、ヨイトマケまでさせられた。いま畑にはいて出ている地下足袋も、その時、軍のほうから配給になったものである。	这就是所谓体力劳动吧？这种力气活在我来说也不是第一次了。战争期间我曾经被征去劳动，甚至还做过打夯女工。现在去田里干活穿的那双胶皮底袜子也是那时候军队配给的。
250	そんな面白い詩が、終戦直後の或る新聞に載っていたが、本当に、いま思い出してみても、さまざまの事があったような気がしながら、やはり、何も無かったと同じ様な気もする。私は、戦争の追憶は語るのも、聞くのも、いやだ。人がたくさん死んだのに、それでも陳腐で退屈だ。けれども、私は、やはり自分勝手なのであろうか。私が徴用されて地下足袋をはき、ヨイトマケをやらされた時の事だけは、そんなに陳腐だとも思えない。	刚停战不久，某报登过这样一首有趣的诗。现在回想起来，一方面好象有过许多事情，另一方面却也真的似乎不曾有过什么事情。有关战争的回忆，我既不愿讲，也不愿听。尽管人死了不少，可这讲起来既陈旧又无聊。这难道是我太自顾自吗？只有我穿着胶皮底袜子被征去当打夯女工那件事想起来还不觉得那么陈旧。
302	火事の時だって、お母さまは、燃やすための薪だもの、と御冗談を言って、それっきり火事のことに就いては一言もおっしゃらず、かえって私をいたわるようにしていらしたが、し水し、内心お母さまの受けられたショックは、私の十倍も強かったのに違いない。あの火事があってから、お母さまは、夜中に時たま呻かれる事があるし、また、風の強い夜などは、お手洗いにおいでになる振りをして、深夜いくどもお床から脱けて家中をお見廻りになるのである、そうしてお顔色はいつも冴えず、お歩きになるのさえやっとのように見える日もある。	起火的时候母亲还开玩笑说劈柴本来就是要烧的，从那以后，象是要安慰我，她一次都不提及火灾的事，并且处处照顾我，然而她内心受到的打击肯定比我还大十倍。那场起火的事之后母亲不时在半夜里发出呻吟声，到了刮大风的夜晚，她在深夜里时时假装上厕所，偷偷从床上起来在家里到处巡视。而且她面色始终苍白，有时甚至走路都显得困难。
323	「そう。また、はじめたらしいの。けれども、それのなおらないうちは、帰還もゆるされないだろうから、きっとなおして来るだろうと、そのお方も言っていらしたそうです。	“是的，好象又患了。可是那人说，不把它戒掉看来是不准回来的，所以他一定能戒了回来。
371	「あなたが、山本さまのお家から出て、西片町の	“当你离开山木先生家回到西片町家里

	お家へ帰って来た時、お母さまは何もあなたをとがめるような事は言わなかったつもりだけど、でも、たった一ことだけ、（お母さまはあなたに裏切られました）って一言ったわね。おぼえている？そしたら、あなたは泣き出しちゃって、……私も裏切ったなんてひどい言葉を使ってわるかったと思ったけど、……」	来的时候，妈妈相信并没有讲过什么责怪的话，只说了一句：‘你辜负了妈妈的期望啊！’你记得吗？你听了就哭起来．……我也感到当时不该用‘辜负’这样重的字眼……”
372	けれども、私はあの時、お母さまにそう言われて、何だか有難くて、うれし泣きに泣いたのだ。	然而当时我听母亲那么一说，反倒很感激，高兴得哭起来了。
373	「お母さまがね、あの時、裏切られたって言ったのは、あなたが山木さまのお家を出て来た事じゃなかったの。山木さまから、かず子は実は、細田と恋仲だったのです、と言われた時なの。そう言われた時には、本当に、私は顔色が変る思いでした。だって、細田さまには、あのずっと前から、奥さまもお子さまもあって、どんなにこちらがお慕いしたって、どうにもならぬ事だし、……」	“妈妈那时候说你辜负了我，不是指你离开了山木先生家，而是因为山木先生告诉我：和子和细田两人在相爱，当时听他那么一说，我真感到自己的脸色都变了。细田先生早是有妇之夫，还有子女，不管你怎样爱他也毫无办法了……”
481	ヤケクソに巻きこまれて死ぬのは、いや。いっそ、ひとりで死にたいわい。	被卷进这种自暴自弃中去而死，这我不干。那倒不如独自一个人死的好。
483	人から尊敬されようと思わぬ人たちと遊びたい。	我希望跟不想受人尊敬的人交往。
523	もうあれから、六年になる。直治の、この麻薬中毒が、私の離婚の原因になった、いいえ、そう言ってはいけない、私の離婚は、直治の麻薬中毒がなくっても、べつな何かのきっかけで、いつかは行われているように、そのように、私の生れた時から、さだまっていた事みたいな気もする。	六年过去了。直治那时的麻药中毒成了我离婚的原因，不，也不能这么说，即使没有直治的麻药中毒，总有一天我也会由于别的什么偶然原因而离婚，我想这似乎是我生下来就注定了的事情。
525	///弟は私に、お金を下さい、という手紙を寄こして、そうして、いまは苦しくて恥ずかしくて、姉上と顔を合せる事も、また電話で話する事さえ、とても出来ませんから、お金は、お関に言いつけて、京橋の×町×丁目のカヤノアパート住んでいる、姉上も名前だけはご存じの筈の、小説家上原二郎さんのところにとどけさせるよう、上原さんは、悪徳のひとのように世の中か評判されているが、決してそんな人ではないから、安心してお金を上原さんのところへとどけてやって下さい、	///弟弟寄信给我说：“请给钱。”他信上还说：“现在感到既痛苦又害臊，怎么也没脸见姐姐，甚至打个电话谈一谈都不敢，因此请吩咐阿关把钱送到小说家上原二郎先生那里去。姐姐一定只知道他的名字，他就住在京桥 x 街 x 号的茅野公寓。上原先生的名声好象不好，社会上都把他看作堕落的人。其实他决不是那种人，所以可以放心把钱交给他。
526	///そうすると、上原さんがすぐに僕に電話で知らせる事になっているのですから、必ずそのようにお願いします、僕はこんどの中毒を、ママにだけは気附かれたくないのです、ママの知らぬうちに、なんとかしてこの中毒をなおしてしまうつもりなのです、僕は、こんど姉上からお金をもらったら、それでもって薬屋への借りを全部支払って、それから塩原の別荘へでも行って、健康なからだなって帰って来るつもりなのです、本当です、	///上原先生一接到钱，就会马上打电话告诉我的。请务必这么办，因为我这次中毒，无论如何不想让妈妈知道。我打算在妈妈还没有发觉的时候，想尽办法将它治好。这回我得到姐姐的钱，就还清药房的债，到盐原的别墅去，等身体恢复健康后再回来，这是真的。
533	その頃の私は、いまの私に較べて、いいえ、較べものにも何もならぬくらい、まるで違った人みたいに、ぼんやりの、のんき者ではあったが、それでも流石に、つぎつぎと続いてしかも次第に多額のお金をねだられて、たまらなく心配になり、一日、お能からの帰り、自動車を銀座でかえして、それからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねた。	那时候的我同现在的我比较起来，不，甚至比都不能比，简直是另外一个人，是个过悠闲日子的呆子。但是尽管如此，弟弟接连硬是要钱，而且金额越来越大，这样一来我到底还是放心不下，有一天看完能乐回来，在银座就让小汽车先回去，一个人步行去访问京桥的茅野公寓。
567	車にゆられながら、私は世間が急に海のようにひろくなったような気持がした。	我的身子任凭汽车摇晃着，内心感到这世界突然变得象大海那样宽阔了。

572	その問題が、何か気まずい事の起る度毎に、私たち夫婦の間に持ち出されるようになった。もうこれは、だめなんだ、と私は思った。ドレスの生地を間違って裁断した時みたいに、もうその生地は縫い合せる事も出来ず、全部捨てて、また別の新しい生地の裁断にとりかからなければならぬ。	每逢我们夫妻之间有什么不愉快的事，这个问题就会提出来。我感到这已经不可挽回了。正象衣服料子剪裁错了一样。剪裁错了的料子无法缝合，只好全部放弃，重新剪裁别的新料子。
573	「まさか、その、おなかの子は。」+++と或る夜、夫に言われた時には、私はあまりおそろしくて、がたがた震えた。いま思うと、私も夫も、若かったのだ。私は、恋も知らなかった。愛、さえ、わからなかった。私は、細田さまのおかきになる絵に夢中になって、あんなお方の奥さまになったら、どんなに、まあ、美しい日常生活を営むことが出来るでしょう、あんなよい趣味のお方と結婚するのでなければ、結婚なんて無意味だわ、と私は誰にでも言いふらしていたので、	“难道肚子里的那孩子是……”有一天晚上丈夫指责我说。 +++ 我听了觉得很可怕，浑身嗦嗦发抖。现在想来，我和丈夫那时候都还年轻。我不知道什么是恋，也不懂得什么叫爱。我被细田先生的画迷住了，我对谁都这么说：“如果能够成为细田先生的夫人，该能过多么美满的生活啊。不同这样风雅的人结婚，结婚就没有什么意义。”
574	///そのために、みんなに誤解されて、それでも私は、恋も愛もわからず、平気で細田さまを好きだという事を公言し、取消そうともしなかったので、へんにもつれて、その頃、私のおなかで眠っていた小さい赤ちゃんまで、夫の疑惑の的になったりして、誰ひとり離婚などあらわに言い出したお方もいなかったのに、いつのまにやら周囲が白々しくなっていって、私は附き添いのお関さんと一緒に里のお母さまのところに帰って、それから、赤ちゃんが死んで生まれて、私は病気になって寝込んで、もう、山本との間は、それっきりになってしまったのだ。	///这一来我被大家误会了。可是我不但不收回前言，而且虽说不懂什么叫恋和爱，却满不在乎地公然说：“我喜欢细田先生。”这一下便发生了意外的纠葛，连还在我肚子里的小娃娃都受到我丈夫怀疑。尽管我们谁也没有公开说要离婚，但周围的人都不知不觉地冷眼相看，于是我同陪我的阿关一起回到娘家母亲这里来了。后来我生了死胎，接着又生病卧床，从此我跟山木的关系便完全断绝了。
601	///この、むずかしいことを、周囲のみんなから祝福されてしとげる法はないものかしら、とひどくややこしい代数の因数分解か何かの答案を考えるように、思いをこらして、どこかに一箇所、ぱらぱらと綺麗に解きほぐれる糸口があるような気持がして来て、急に陽気になったりなんかしているのです。	///这样难办的事，难道就没有什么办法在人们的祝福中实现吧？象思考一道非常复杂的因数分解的代数答案一样，我费尽心机仔细思考，仿佛总会有个线头可以把乱线一下子顺利地理开似的，我突然又变得快活起来了。
627	///こんな偉い芸術家のお仕事を、もし本当に私の力で若返らせる事が出来たら、それも生き甲斐のある事に遠いない、とも思いましたが、けれども、私は、その師匠さんに抱かれる自分の姿を、どうしても考えることが出来なかったのです。	我想，如果我真有力量能使一个伟大艺术家在工作上返老还童，那无疑也是一种极有意义的生活，可是我无论如何也不能想象我被那个艺术家抱着的姿态。
631	三十。女には、二十九までは乙女の匂いが残っている。しかし、三十の女のからだには、もう、どこにも、乙女の匂いが無い、というむかし読んだフランスの小説の中の言葉がふっと思い出されて、やりきれない淋しさに襲われ、外を見ると、真昼の光を浴びて海が、ガラスの破片のようにどぎつく光っていました。あの小説を読んだ時には、そりゃそうだろうと軽く肯定して澄ましていた。三十歳までで、女の生活は、おしまいになると、平気でそう思っていたあの頃がなつかしい。	三十岁。女人在二十九岁以前还有少女的气息。一个女人到了三十岁，她身上就不再存在丝毫少女的气息了。我忽然想起从前读过的一本法国小说中的这些话，心头不禁感到一阵难以忍受的孤单和寂寞。住窗外一看，只见大海映照着正午的阳光，就象玻璃的碎片那样强烈地闪闪发亮。读那本小说的时候，我只觉得是这样嘛，也便过去了。现在想起来，当时能满不在乎地认为一个女人到三十岁就完了，那种时候实在是令人怀念啊。
639	或る宮様のお住居として、新円五十万円でこの家を、どうこうという話があったのも事実ですが、それは立ち消えになり、その噂でも師匠さんは聞き込んだのでしょう。でも、桜の園のロパーヒンみたいに私どもに思われているのではたまらないと、すっ	确实有个皇族打算住到这里，曾提出用新日币五十万元买这所房子，后来没有下文了。艺术家大概听到了这个传闻吧。不过他感到自己被我们看成《樱桃园》里罗巴辛一类人可受不了，于是显得情绪很

	かりお機嫌を悪くした様子で、あと、世間話を少ししてお帰りになってしまいました。	不好，闲聊了一会就走了。
648	いまふっと思った事でございますが、あなたは、小説ではずいぶん恋の冒険みたいな事をお書きになり、世間からもひどい悪漢のように噂をされていながら、本当は、常識家なんでしょう。私には、常識という事が、わからないんです。すきな事が出来さえすれば、それはいい生活だと思います。私は、あなたの赤ちゃんを生みたいのです。他のひとの赤ちゃんは、どんな事があっても、生みたくないんです。それで、私は、あなたに相談をしているのです。おわかりになりましたら、御返事を下さい。あなたのお気持を、はっきり、お知らせ下さい。	现在忽然想到，您在小说里相当大胆地写恋爱之类的冒险故事，被社会上风言风语地说成大无赖，其实您仅是个具有普通常识的人吧？我不懂什么常识。只要能做自己喜欢的事，我以为就是过着好生活了。我愿意生您的孩子。其他人的孩子我无论如何都不想生。因此我才跟您商量。如果您理解的话，就请给我回信，把您的想法明确地告诉我吧。
653	///さっきも、お母さまと、その話をして笑いました。お母さまは、こないだ舌の先が痛いとおっしゃって、直治にすすめられて、美学療法をして、その療法に依って、舌の痛みもとれて、この頃はちょっとお元気なのです。	///刚才我和母亲还讲到这桩事，两人都笑了。母亲不久前因为舌尖痛，直治劝她做美学疗法，通过这疗法现在不痛了，所以最近她的精神稍微好了点。
654	さっき私がお縁側に立って、渦を巻きつつ吹かれて行く霧雨を眺めながら、あなたのお気持の事を考えていましたら、+++「ミルクを沸したから、いらっしゃい。」+++とお母さまが食堂のほうからお呼びになりました。+++「寒いから、うんと熱くしてみたの。」	刚才我站在檐下廊子上，一面望着一阵风卷着蒙蒙细雨吹过去，一面在揣度您的心情。这时听到了母亲在餐厅那边叫我。+++“牛奶煮好了，你过来吧。”母亲见到我又说：“天气冷，所以我烧得烫一些。”
667	「少しでもほめられた事は、一生わすれません。覚えていたほうが、たのしいもの。」	“受人称赞的哪怕是小事，一生也忘不了。记住它使人更高兴啊。”
678	直治の案内でおいでになってもいいけれども、でも、なるべくならおひとりで、そうして直治が東京に出張した留守においでになって下さい。直治がいると、あなたを直治にとられてしまって、きっとあなたたちは、お咲さんのところへ焼酎なんかを飲みに出かけて行って、それっきりになるにきまっていますから。	由直治陪来也可以，不过最好还是您一个人来，而且趁直治上东京不在家的时候来。因为直治在家，他要把您拉过去，你们一定会到阿笑那里去喝酒，事情也就完了。
681	///なぜだか、私には、そう思われて仕方が無いんです。そうして、あなたは私と一緒に暮して、毎日、たのしくお仕事が出来るでしょう。小さい時から私は、よく人から、「あなたと一緒にいると苦労を忘れる」と言われて来ました。私はいままで、人からきらわれた経験が無いんです。みんなが私を、いい子だと言って下さいました。だから、あなたも、私をおきらいの筈は、けっしてないと思うのです。	///不知怎的我总这样想。您跟我生活在一起，每天都能愉快地工作。我从小就常常听人对我说：“同你在一起能够忘掉辛苦。”我到现在还没有遇到过不讨人喜欢的事。大家都说我是个好孩子。因此我认为您也绝对没有理由不喜欢我。
698	///弟の直治に、それとなくそのひとの御様子を聞いても、そのひとは何の変るところもなく、毎晩お酒を飲み歩き、いよいよ不道徳の作品ばかり書いて、世間のおとなたちに、ひんしゅくせられ、憎まれているらしく、直治に出版業をはじめよ、などとすすめて、直治は大乗り気で、あのひとの他にも二、三、小説家のかたに顧問になってもらい、資本を出してくれるひともあるとかどうとか、	///我向弟弟委婉地打听他的情况，看来他无动于衷，每天晚上还是到处喝酒，净写一些违背道德的作品，越发受到社会上正人君子的憎恨和轻视。据说他还劝直治经营出版事业，直治也颇感兴趣，除了他又请两三个小说家作顾问，也有人愿意为直治提供资金。
699	///直治の話を聞いていると、私の恋しているひとの身のまわりの雰囲気に、私の匂いがみじんも凄み込んでいないらしく、私は恥ずかしいという思いよりも、この世の中というものが、私の考えている世の中とは、まるでちがった別な奇妙な生き物みたいな	///从弟弟的话听来，在我爱上的人周围一点也闻不到我的气息，我与其说因而感到羞耻，不如说觉得这个世界同我想象的完全不一样，却象是另一种奇怪的生物，而我象是黄昏时被孤独地遗弃在秋天旷野

	気がして来て、自分ひとりだけ置き去りにされ、呼んでも叫んでも、何の手応えの無いたそがれの秋の曠野に立たされているような、これまで味わった事のない凄愴の思いに襲われた。これが、失恋というものであろうか。	里，怎么呼喊都没有用，一种从未尝到过的凄怆感觉不由得涌上心头。这是否就是失恋呢？
701	もうこの上は、何としても私が上京して、上原さんにお目にかかろう、私の帆は既に挙げられて、港の外に出てしまったのだもの、立ちつくしているわけにゆかない、行くところまで行かなければならない、とひそかに上京の心支度をはじめたとたんに、お母さまの御様子が、おかしくなったのである。	事到如今，我只有想尽一切办法上东京去同上原先生会见。因为我已经扬帆出港，怎么还能停滞不前呢，不能不走到底了。当我悄悄地拿定主意要上东京去时，母亲的健康突然起了变化。
766	///子供の頃、お蒲団の模様に、真赤なアジサイの花が散らされてあるのを見て、へんに悲しかったが、やっぱり赤いアジサイの花って本当にあるなんだと思った。	///小时候我在被面上看到印染着的许多鲜红八仙花，不知怎的会感到分外悲愁，而现在我相信，原来真有火红色的八仙花。
905	///私は、編物をやめて、胸の高さに光っている海を眺め、+++「お母さま。私いままで、ずいぶん世間知らずだったのね。」と言い、それから、もっと言いたい事があったけれども、お座敷の隅で静脈注射の支度などしている看護婦さんに聞かれるのが恥ずかしくて、言うのをやめた。	///我把毛活停下，眺望着波光粼粼的齐胸的大海，对母亲说：+++“妈妈，以前我真是个没见过世面的人啊。”+++ 接下来我还有很多话想说，但又怕正在房间角落准备静脉注射的护士听见了难为情，就不说了。
943	///又なんじら我が名のために凡ての人に憎まれん。されど終まで耐え忍ぶものは救わるべし。この町にて、責めらるる時は、かの町に逃れよ。誠に汝らに告ぐ、なんじらイスラエルの町々を巡り尽さぬうちに人の子は来るべし。	///并且你们要为我的名，被众人恨恶，惟有忍耐到底的必然得救。有人在这城里逼迫你们，就逃到那城里去。我实在告诉你们，以色列的城邑你们还没有走遍，人子就到了。
968	すすめられて私は、玄関の内へはいり、式台に坐らせてもらい、奥さまから、軽便鼻緒とでもいうのかしら、鼻緒の切れた時に手軽に繕うことの出来る革の仕掛紐をいただいて、下駄を直して、そのあいだに奥さまは、蝋燭をともして玄関に持って来て下さったりしながら、+++「あいにく、電球が二つとも切れてしまいまして、このごろの電球は馬鹿高い上に切れ易くていけませんわね、主人がいると買ってもらえるんですけど、ゆうべも、おとといの晩も帰ってまいりませんので、私どもは、これで三晩、無一文の早寝ですのよ。」+++などと、しんからのんきそうに笑っておっしゃる。	我接受了她的邀请，进门坐在进内室的木板台阶上，先生夫人给我一根皮的带子——大概称为“简便木屐带”吧，木屐带断了能用它简单地修理，——我用它修起木屐来。这时候夫人为我点了一支蜡烛，送到房门口来，她好象满不在乎地笑着说： +++“真不凑巧，两个电灯泡都断了丝。近来的灯泡实在不顶用，又贵又容易坏。要是我家主人在家，就可以去买了。可是昨天前天两个晚上他都没回来，今天已经是第三晚上。因为没钱，就只好早睡。”
982	また、逆もどり。阿佐ヶ谷がら省線で立川行きに乗り、荻窪、西荻窪、駅の南口で降りて、こがらしに吹かれてうろつき、交番を見つけて、チドリの方角をたずねて、それから、教えられたとおりの夜道を走るようにして行って、チドリの青い燈籠を見つけて、ためらわず格子戸をあけた。	我又往回走。从阿佐谷坐上去立川的国营电车，经过荻洼，在西荻洼南口下车，在寒风中打转转，找到派出所问了千鸟的方向，然后跑了一段路。一发现千鸟的绿色灯笼，我毫不犹豫就把格子门推开了。
1002	「それに、あいつあ酒飲みだったよ。妙にバイブルには酒の譬話が多いと思っていたら、果せるかなだ、視よ、酒を好む人、と非難されたとバイブルに録されてある。酒を飲む人でなくて、酒を好む人というんだから、相当な飲み手だったに違いねえのさ。まず、一升飲みかね。」	“而且那家伙还是个酒徒。我感到奇怪。《圣经》里居然有那么多关于酒的比喻。你看《圣经》中不也记载着，他曾经被责难为‘嗜酒的人’吗？请注意，不是说‘饮酒的人’，而是说‘嗜酒的人’，由此看来，他肯定是个喝酒的好手。至少是喝一升大酒的人，”
1088	///私は自分がとても可愛がられている事を、身にしみて意識した。	我深深意识到他非常喜欢我。
1101	上原さんは私の肩を軽く抱いて、私のからだは上	上原先生轻轻地抱着我的肩膀，我的

	原さんの二重廻しの袖で包まれたような形になったが、私は拒否せず、かえってぴったり寄りそってゆっくり歩いた。	身子就象被上原先生的和服外套的袖子给裹了起来，但我没有拒绝，反而紧紧地挨在他身旁，慢慢地走。
1133	岩が落ちて来るような勢いでそのひとの顔が近づき、遮二無二私はキスされた。性慾のにおいのするキスだった。私はそれを受けながら、涙を流した。屈辱の、くやし涙に似ているにがい涙であった。涙はいくらでも眼からあふれ出て、流れた。	他的脸象块岩石落下来一样一下子贴近我，把我乱吻，这是充满着性欲的吻。我一边让他吻，一边潸然泪下。其中也有屈辱或悔恨的眼泪，又苦又涩。泪如泉涌，不停地夺眶而出。
1152	玄関の戸が内からひらかれた。もうかなりの、五十歳を超したくらいの、頭の禿げた小柄なおじさんが、派手なパジャマを着て、へんな、はにかむような笑顔で私たちを迎えた。	大门从里边打开。一个年近六十的秃顶矮老头穿着一身华丽的睡衣，脸上露着奇怪的害羞笑容出来迎接我们。
1199	僕は高等学校へはいって、僕の育って来た階級と全くちがう階級に育って来た強くたくましい草の友人と、はじめて附き合い、その勢いに押され、負けまいとして、麻薬を用い、半狂乱になって抵抗しました。それから兵隊になって、やはりそこでも、生きる最後の手段として阿片を用いました。姉さんには僕のこんな気持、わからねえだろうな。	我进高等学校以后，第一次碰到了与培育我的阶级完全不同的阶级出身的友人，他们是又茁壮又坚强、势不可当的草。为了不被那气势压倒，我服麻醉药，发疯似地抵抗。后来当了兵，在那儿我仍然使用鸦片作为生存下去的最后手段。姐姐，您大概不理解我这种心情吧？
1202	///僕はあの、所謂上流サロンの鼻持ちならないお上品さには、ゲロが出そうで、一刻も我慢できなくなっていますし、また、あのおえらがたとか、お歴々とか称せられている人たちも、僕のお行儀の悪さに呆れてすぐさま放逐するでしょう。捨てた世界に帰ることも出来ず、民衆からは悪意に満ちたクソていねいの傍聴席を与えられているだけなんです。	///我对上流沙龙那种臭不可闻的所谓文雅和高尚立即会感到恶心和呕吐，一时一刻也无法容忍；而另一方面，那些被人称为高官显贵的大人物对我的不规矩也可能感到十分惊讶，立刻把我驱逐出来吧。我不能回到已抛弃的世界，而民众却只恩赐我一个对我彬彬有礼但充满着恶意的旁听席。
1211	けれども、この言葉は、実に猥せつで、不気味で、ひとは互いにおびえ、あらゆる思想が姦せられ、努力は嘲笑せられ、幸福は否定せられ、美貌はけがされ、光栄は引きずりおろされ、所謂「世紀の不安」は、この不思議な一語からはっしていると僕は思っているんです。	这句话实在既猥琐又可怕，它使人相互感到戒惧，一切思想都遭到亵渎，所有努力都受到嘲笑，幸福被否定，美貌被糟踏，名誉被玷辱，所谓“世纪之不安”，我认为都是由这一句奇怪的话引起的。
1212	イヤな言葉だと思いながら、僕もやはりこの言葉に脅迫せられ、おびえて震えて、河を仕様としてもてれくさく、絶えず不安で、ドキドキして身の置きどころが無く、いっそ酒や麻薬の目まいに依って、つかのまの落ちつきを得たくて、そうして、めちゃくちゃになりました。	我讨厌这句话，但也受到这句话的威胁，害怕得直打战，不论想干什么事都感到难为情，总是战战兢兢，心扑通扑通地跳，只觉得没有置身之处，于是索性借助于喝酒或吸毒，在眼花缭乱中求得瞬息间的安宁，结果弄得越发不可收拾了。
1213	弱いのでしょう。どこか一つ重大な欠陥のある草なのでしょう。また、何かとそんな小理窟を並べたって、なあに、もともと遊びが好きなのさ、なまけ者の、助平の、身勝手な快楽児なのさ、とれいの牛太郎がせせら笑って言うかも知れません。そうして、僕はそう言われても、いままでは、ただてれて、あいまいに首肯していましたが、しかし、僕も死ぬに当って、一言、抗議めいた事を言って置きたい。	太懦弱了吧？是一棵有什么严重缺陷的草吧？尽管我列举这些小道理，妓馆揽客的会嘲笑说，你扯什么，你本来就是个喜欢玩乐的人，是个懒人、色鬼，是个只顾自己的享乐主义者。从前我听到这种话，只是不好意思地含含糊糊点点头，可如今在临死的时候，我却想留下一句带点抗议意味的话。
1219	僕は、もっと早く死ぬべきだった。しかし、たった一つ、ママの愛情。それを思うと、死ねなかった。人間は、自由に生きる権利を持っていると同様に、いつでも勝手に死ねる権利も持っているのだけれども、しかし、「母」の生きているあいだは、その死の権利は留保されなければならないと僕は考えているんです。それは同時に、「母」をも殺してしまう	按理我早就该死去。但一想到妈妈的爱，我就不能死了。人有自由活下去的权利，也有随时可以死去的权利，但我认为“母亲”还活着的时候，这死的权利就不能不加以保留。不然它也会同时把“母亲”害死的。

	事になるのですから。	
1220	いまはもう、僕が死んでも、からだを悪くするほど悲しむひともいないし、いいえ、姉さん、僕は知っているんです、僕を失ったあなたたちの悲しみはどの程度のものだか、いいえ、虚飾の感傷はよしましょう、あなたたちは、僕の死を知ったら、きっとお泣きになるでしょうが、しかし、僕の生きている苦しみと、そうしてそのイヤな生から完全に解放される僕のよろこびを思ってみて下さったら、あなたたちのその悲しみは、次第に打ち消されて行く事と存じます。	现在我死就不会有人难过得伤身体了，不，姐姐您听我说，我知道你们失去我会悲伤到什么程度。不，咱们丢开虚饰的伤感吧，你们知道我死一定会哭吧，但如果你们为我想想，想到我活着时的痛苦以及我从那讨厌的生命中完全解放出来的喜悦，那么我想，你们的悲伤就会逐渐消失。
1246	正直、とは、こんな感じの表情を言うのではないかしら、とふと思いました。それは修身教科書くさい、いかめしい徳ではなくて、正直という言葉で表現せられた本来の徳は、こんな可愛らしいものではなかったのかしら、と考えました。	我忽地想到，所为正直恐怕就是指这样一种表情吧。它不是修身教科书中讲的那种冠冕堂皇的品德，而用正直两字所表现的品德，本来不就是这么可爱的东西吗？
1251	それから僕は、或る冬の夕方、そのひとのプロフィルに打たれた事があります。	后来在冬天一个傍晚，我深深地被她的侧影吸引住了。
1253	///僕にそっと毛布をかけて下さった親切は、それは何の色気でも無く、慾でも無く、ああ、ヒュウマニティという言葉はこんな時にこそ使用されて蘇生する言葉なのではなかろうか、ひとの当然の佗びしい思いやりとして、ほとんど無意識みたいになされたもののように、絵とそっくりの静かな気配で、遠くを眺めていらっしゃった。	///她悄悄地给我盖毯子，这一番好意丝毫不存在情欲，啊，“人性”这个词用在这种时候不是才有真正的意义吗？她象用理所当然的体贴心情几乎无意识地这样做，她那娴静的样子仿佛是画中的人像，默默地眺望着远方。
1256	僕がその洋画家のところに遊びに行ったのは、それは、さいしょはその洋画家の作品の特異なタッチと、その底に秘められた熱狂的なパッションに、酔わされたせいでありましたが、しかし、附き合いの深くなるにつれて、そのひとの無教養、出鱈目、きたならしさに興覚めて、そうしてそれと反比例して、そのびとの奥さんの心情の美しさにひかれ、いいえ、正しい愛情のひとがこいしくて、したわしくて、奥さんの姿を一目見たくて、あの洋画家の家へ遊びに行くようになりました。	我去那位画家家里玩，起初是被他作品的奇特画法和作品中蕴藏的狂热爱情所迷住。后来熟了，便因他的无教养、荒唐和卑鄙无耻而感到扫兴。相反，我却被画家夫人心灵的美所吸引，不，应该说是我爱慕和想念那位具有正确爱情的人。后来我只是为了希望和她见面才到画家那里去的。
1274	僕がきのう、ちっとも好きでもないダンサア（この女には、本質的な馬鹿なところがあります）それを連れて、山荘へ来たのは、けれども、まさかけさ死のうと思って、やって来たのではなかったのです。いつか、近いうちに必ず死ぬ気でいたのですが、でも、きのう、女を連れて山荘へ来たのは、女に旅行をせがまれ、僕も東京で遊ぶのに疲れて、この馬鹿な女と二、三日、山荘で休むのもわるくないと考え、姉さんには少し工合いが悪かったけど、とにかくここへ一緒にやって来てみたら、姉さんは東京のお友達のところへ出掛け、その時ふと、僕は死ぬなら今だ、と思ったのです。	昨天我带了一个毫不喜欢的舞女（这个女人有些地方真蠢）到山庄来，但我决不是想今天早上寻死才来的。我的确准备在最近期间寻死，不过昨天带那个女人来山庄，只因为她求我带她去旅行，而我也在东京玩腻了，觉得跟这个蠢女人在山庄里休息两三天也不坏，于是虽说对姐姐有些不方便，还是一起上这儿来了。可是姐姐却到东京的朋友那里去，就在这时候，我忽然觉得：要死就趁这个时候吧。
1275	僕は昔から、西片町のあの家の奥の座敷で死にたいと思っていました。街路や原っぱで死んで、弥次馬たちに死骸をいじくり廻されるのは、何としても、いやだったんです。	从前我希望死在西片町老家的里屋，因为我怎么也不愿意死在街上或是原野，让自己的尸体被那些瞧热闹的人摆弄。
1295	私には、はじめからあなたの人格とか責任とかをあてにする気持はありませんでした。私のひとすじの恋の冒険の成就だけが問題でした。そうして、私	我一开头就没有指望过您的人格和责任。问题是我那一心一意的恋爱冒险能不能成功。我这个愿望已经达到，我的心现

	のその思いが完成せられて、もういまでは私の胸のうちは、森の中の沼のように静かでございます。	在象森林中的沼泽一样恬静。
1300	「立派なお仕事」などよりも、いのちを捨てる気で、所謂悪徳生活をしとおす事のほうが、のちの世の人たちからかえって御礼を言われるようになるかも知れません。	与其干点“出色的工作”，不如拼命把所谓不道德的生活坚持到底，这样做说不定倒会受到后世人的感谢呢。
1302	革命は、いったい、どこで行われているのでしょう。すくなくとも、私たちの身のまわりに於いては、古い道徳はやっぱりそのまま、みじんも変らず、私たちの行く手をさえぎっています。	革命究竟在哪里进行着呢？至少在我们身边，旧道德仍旧毫无改变，还在拦住我们的去路。
1311	革命は、まだ、ちっとも、何も、行われていないんです。もっと、もっと、いくつもの惜し貴い犠牲が必要のようでございます。	革命还一点也没有进行。看样子还得有更多令人可惜而又尊贵的牺牲者。
1319	これが捨てられ、忘れかけられた女の唯一の幽かないやがらせと思召し、ぜひお聞きいれのほど願います。	///请您把它当作一个被遗弃而又即将被忘却的女人提出的唯一而略微故意使人不痛快的事，务必答应这一请求。

行番	ノルウェイの森（原文）	挪威的森林(訳文)
31	///実際に目にしたわけではない井戸の姿が、僕の頭の中では分離することのできない一部として風景の中にしっかりと焼きつけられているのだ。僕はその井戸の様子を細かく描写することだってできる。井戸は草原が終って雑木林が始まるそのちょうど境い目あたりにある。大地にぽっかりと開いた直径一メートルばかりの暗い穴を草が巧妙に覆い隠している。	///虽然未曾亲眼目睹，但井的模样却作为无法从头脑中分离的一部分，而同那风景浑融一体了。我甚至可以详尽地描述那口井——它正好位于草地与杂木林的交界处，地面上豁然闪出的直径约１米的黑洞洞的井口。给青草不动声色地遮掩住了。
68	///一度力を抜いたらもうもとには戻れないのよ。私はバラバラになって——どこかに吹きとばされてしまうのよ。どうしてそれがわからないの?それがわからないで、どうして私の面倒をみるなんて言うことができるの?」	///一旦放松，就无可挽回了。我就会分崩离析——被一片片吹散到什么地方去。这点你为什么就不明白。不明白为什么还要说什么照顾我？”
95	その寮は都内の見晴しの良い高台にあった。敷地は広く、まわりを高いコンクリートの塀に囲まれていた。門をくぐると正面には巨大なけやきの木がそびえ立っている。樹齢は少くとも百五十年ということだった。根もとに立って上を見あげると空はその緑の葉にすっぽりと覆い隠されてしまう。	寄宿院建在东京都内风景不错的高地上。占地很大，四周围有高高的混凝土墙。进得大门，迎面矗立一棵巨大的榉树。树龄听说至少有１５０年。站在树下抬头仰望，只见天空被绿叶遮掩得密密实实。
105	学生服は桐の薄い箱を持っている。中野学校はソニーのポータブルｷ・テープレコーダーを下げている。中野学校がテープレコーダーを掲揚台の足もとに置く。学生服が桐の箱をあける。箱の中にはきちんと折り畳まれた国旗が入っている。	学生服固然是学生服加黑皮鞋，中野学校则一身夹克，脚踏白运动鞋。学生服手提扁扁的桐木箱，中野学校提一台索尼牌便携式磁带收录机。中野学校把收录机放在升旗台下，学生服打开桐木箱。箱里整齐叠放着国旗。
110	夕方の国旗降下も儀式としではだいたい同じような様式でとりおこなわれる。ただし順序は朝とはまったく逆になる。旗はするすると降り、桐の箱の中に収まる。夜には国旗は翻らない。	傍晚降旗，其仪式也大同小异，只是顺序恰与早上相反，旗一溜风滑下，收进桐木箱中即可。晚间国旗却是不随风翻卷的。
111	どうして夜のあいだ国旗が降ろされてしまうのか、僕にはその理由がわからなかった。夜のあいだだってちゃんと国家は存続しているし、働いている人だって沢山いる。線路工夫やタクシーの運転手やバーのホステスや夜勤の消防止やビルの夜警や、そんな	何以晚间非降旗不可，其缘由我无从得知。其实，纵然夜里，国家也照样存在，做工的人也照样不少。巡路工、出租车司机、酒吧女侍、值夜班的消防队、大楼警卫等等——这些晚间工作的人

	夜に働く人々が国家の庇護を受けることができないというのは、どうも不公平であるような気がした。	们居然享受不到国家的庇护，我觉得委实有欠公道。
113	寮の部屋割は原則として一、二年生が二人部屋、三、四年生が一人部屋ということになっていた。二人部屋は六畳間をもう少し細長くしたくらいの広さで、つきあたりの壁にアルミ枠の窓がついていて、窓の前に背中あわせに勉強できるよう机と椅子がセットされている。入口の左手に鉄製の二段ベッドがある。	房间的分配，原则上是一二年级两人一房，三四年级每人一个。两人一个的房间有六张垫席大小，略显狭长，尽头墙上开有铝合金框窗口。窗前，背对背放着用来学习的两套桌椅，门内左侧放一架双层铁床。
119	でもそれに比べると僕の部屋は死体安置所のように清潔だった。床にはちりひとつなく、窓ガラスにはくもりひとつなく、布団は週に一度干され、鉛筆はきちんと鉛筆立てに収まり、カーテンさえ月に一回は洗濯された。僕の同居人が病的なまでに清潔好きだったからだ。僕は他の連中に「あいつカーテンまで洗うんだぜ」と言ったが誰もそんなことは信じなかった。カーテンはときどき洗うものだということを誰も知らなかったのだ。	不过相比之下，我的房间却干净得如同太平间。地板上纤尘不染，窗玻璃光可鉴人，卧具每周晾晒一次，铅笔在笔筒内各得其位，就连窗帘每月都少不得洗涤一回，这都因为我的同室者近乎病态地爱洁成癖。我告诉别人说“那家伙连窗帘都洗！”但谁都摇头不信。谁也不知晓窗帘乃常洗之物。
121	僕の部屋にはピンナップさえ貼られてはいなかった。そのかわりアムステルダムの運河の写真が貼ってあった。	我的房间连美人画都没贴，而代之以阿姆斯特丹运河的摄影。
143	///彼が関心を抱くのは海岸線の変化とか新しい鉄道トンネルの完成とか、そういった種類の出来事に限られていた。そういう二つのことについて話しだすと、彼はどもったりつっかえたりしながら三時間でも一時間でも、こちらが逃げだすか眠ってしまうかするまでしゃべりつづけていた。	///他所留心的仅限于海岸线的变化和新铁路隧道的竣工之类。每当接触这方面话题，他便结结巴巴地一讲一两个小时，直到我抽身溜走或睡着才住嘴。
230	それでも我々はすぐに気があって仲良くなった。彼の父親は歯科医で、腕の良さと料金の高さで知られていた。	可是我们却一拍即合地要好起来。他父亲是牙科医生，以技术高明和收入丰厚知名。
242	遺書もなければ思いあたる動機もなかった。彼に最後に会って話をしたという理由で僕は警察に呼ばれて事情聴取された。そんなそぶりはまったくありませんでした、いつもとまったく同じでした、と僕は取調べの警官に言った。	既无遗书，也没有推想得出的动机。警察以我是同他最后见面说话的人为由，把我叫去了解了情况。我对负责问询的警察说：根本没有那种前兆，与平时完全一样。
243	///新聞に小さく記事が載って、それで事件は終った。赤いN360は処分された。教室の彼の机の上にはしばらくのあいだ白い花が飾られていた。	///报纸发了一小条报道，事件就算了结了。那台Ｎ３６０车被处理掉。教室里他用过的课桌上，一段时间里放了束白花。
252	そのときまで僕は死というものを完全に生から分離した独立的な在在として捉えていた。つまり〈死はいつか確実に我々をその手に捉える。しかし逆に言えば死が我々を捉えるその日まで、我々は死に捉えられることはないのだ〉と。それは僕には至極まともで論理的な考え方であるように思えた。生はこちら側にあり、死は向う側にある。僕はこちら側にいて、向う側にはいない。	在此以前，我是将死作为完全游离于生之外的独立存在来把握的。就是说：“死迟早会将我们俘获在手。但反言之，在死俘获我们之前，我们并未被死俘获。”在我看来，这种想法是天经地义，无懈可击的。生在此侧，死在彼侧。我在此侧，不在彼侧。
253	しかしキズキの死んだ夜を境にして、僕にはもうそんな風に単純に死を(そして生を)捉えることはできなくなってしまった。死は生の対極存在なんかではない。死は僕という存在の中に本来的に既に含まれているのだし、その事実はどれだけ努力しても忘れ去ることのできるものではないのだ。あの十七歳の五月の夜にキズキを捉えた死は、そのとき同時に僕を捉えてもいたからだ。	然而，以木月死去那个晚间为界，我再也不能如此单纯地把握死（或生）了。死不是生的对立面。死本来就已经包含在“我”这一存在之中。我们无论怎样力图忘掉它都归于徒劳这点便是实证。因为在１７岁那年５月一个夜晚俘获了木月的死，同时也俘获了我。

264	そういう生活ぶりは高校時代の彼女からは想像できないことだった。僕が知っていたかつての彼女はいつも華やかな服を着て、沢山の友だちに囲まれていた。そんな部屋を眺めていると、彼女もやはり僕と同じように大学に入って町を離れ、知っている人が誰もいないところで新しい生活を始めたかったんだろうなという気がした。	就高中时代的她来说，这种生活情景是不可想像的。我所知的她总是身穿艳丽的衣服，前呼后拥地一大帮朋友。目睹她如此光景的房间，我隐约觉得她恐怕也和我同样，希望通过上大学离开原来的城市，在没有任何熟人的地方开始新的生活。
268	秋がやってきて寮の中庭がけやきの葉で覆い尽された。セーターを着ると新しい季節の匂いがした。僕は靴を一足はきつぶし、新しいスエードの靴を買った。	秋日降临，寄宿院的中庭铺满了榉树落叶。穿上毛衣，顿时感到新季节的气息。我穿坏了一双皮鞋，新买了双柔姿鞋。
277	直子は僕に一度だけ好きな女の子はいないのかと訊ねた。僕は別れた女の子の話をした。良い子だったし、彼女と寝るのは好きだったし、今でもときどきなつかしく思うけれど、どうしてか心が動かされるということがなかったのだと僕は言った。だぶん僕の心には固い殻のようなものがあって、そこをつき抜けて中に入ってくるものはとても限られているんだと思う、と僕は言った。だからうまく人を愛することができないんじゃないかな、と。	直子问我有没有一度喜欢过的女孩儿。我把分手的那个女孩儿的事告诉她。我说，那女孩人不错，又喜欢同她睡觉，现在也不时有些怀念，但不知何故，就是不曾为之倾心。或许我的心包有一层硬壳，能破壳而入的东西是极其有限的。所以我才不能对人一往情深。
297	一九六八年にスコット・イッツジェラルドを読むいうのは反動とまではいかなくとも、決して推奨される行為ではなかった。	在１９６８年，阅读菲茨杰拉德的作品，虽然算不得反动之举，也终非值得提倡的行为。
314	///だから僕のようなこれといって特徴もない男が永沢さんの個人的な友人に選ばれたことに対してみんなはひどく驚いたし、そのせいで僕はよく知りもしない人間からちょっとした敬意を払われまでした。でもみんなにはわかっていなかったようだけれど、その理由はとても簡単なことなのだ。	///所以，当永泽把我这个平庸无奇的人选为他的私人朋友后，大家都大为惊异，甚至素不相识的人都对我流露出一丝敬意。其实，人们似乎尚未悟出，个中缘由再简单不过。
335	///べつに何かたいしたことを話すわけでもないのだが、彼が話していると女の子たちはみんな大抵ぼおっと感心して、その話にひきずりこまれ、ついついお酒を飲みすぎて酔払って、それで彼と寝てしまうことになるのだ。おまけに彼はハンサムで、親切で、よく気が利いたから、女の子たちは一緒にいるだけでなんだかいい気持になってしまうのだ。	///其实他也没说什么绘声绘色的话，但他一开口，女孩大多都听得入神，一副痴迷的样子，不觉之间便喝得昏头昏脑，结果和他睡到了一起。况且，他又长得英俊潇洒，开朗热情，随机生发，因此，女孩只消和他坐在一起，便觉心荡神迷。
336	///僕が永沢さんにせかされて何かをしやべると女の子たちは彼に対するのと同じように僕の話にたいしでひどく感心したり笑ったりしてくれるのである。全都水沢きんの魔力のせいなのである。まったくたいした才能だなあと僕はそのたびに感心した。こんなのに比べれば、キズキの座談の才なんて子供だましのようなものだった。まるでスケールがちがうのだ。それでも永沢さんのそんな能力にまきこまれながらも、僕はキズキのことをとても懐しく思った。キズキは本当に誠実な男だったんだなと僕はあらためて思った。	///每当我在永泽促使下讲点什么的时候，女孩们便像对永泽那样对我的话或频频点头或吟吟微笑。这都是永泽的魔力所使然。这家伙实在身手不凡，每每叫我钦佩不已。与他相比，木月的座谈之才，简直成了哄小孩的玩艺儿，根本不足以相提并论。如此，尽管我对永泽的才能五体投地，我还是由衷地怀念木月，愈发感到木月待人是何等以诚相见。
369	二月の終り頃に僕はつまらないことで喧嘩をして寮の同じ階に住む上級生を殴った。相手はコンクリートの壁に頭をぶっつけた。幸いたいした怪我はなかったし、永沢さんがうまく事を収めてくれたのだが、僕は寮長室に呼ばれて注意を受けたし、それ以来寮の住み心地もなんとなく悪くなった。	近 2 月末，因鸡毛蒜皮的小事和同住一个楼层的高年生吵了一架，打了他一顿，把他的头往水泥墙上撞。幸亏没受大伤，永泽又妥善处理了事态，我才只是被管理主任叫去训了几句。但从些以后，便总觉得宿舍生活有些怏怏不快起来。

386	しかしそのうちに僕は彼女のしゃべり方に含まれている何かがだんだん気になりだした。何かがおかしいのだ。何かが不自然で歪んでいるのだ。ひとつひとつの話はまともでちゃんと筋もとおっているのだが、そのつながり方がどうも奇妙なのだ。	但听着听着，我开始察觉她说话的方式含有某种东西。有什么不正常，有什么在发生着不自然的变形！尽管就每一句话来说都无懈可击，但连接方式却异乎寻常。
387	///A の話がいつのまにかそれに含まれる B の話になり、やがて B に含まれる C の話になり、そえがどこまでもどこまでもつづいた。終りというものがなかった。僕ははじめのうちは適当に合槌を打っていたのだが、そのうちにそれもやめた。僕はレコードをかけ、それが終ると針を上げて次のレコードをかけた。ひととおり全部かけてしまうと、また最初のレコードをかけた。	///A 话不知不觉地变成其中包含的 B 话，不一会又变成 B 中包含的 C 话，绵绵不断，无止无体。刚开始的时候我还附和几句，后来便作罢。我放上唱片，第一张听完便把唱针移到第二张。全部听完之后，又从头听起。
393	しかし直子の話は長くはつづかなかった。ふと気がついたとき、直子の話は既に終っていた。言葉のきれはしが、もぎとられたような格好で空中に浮かんでいた。正確に言えば彼女の話は終ったわけではなかった。どこかでふっと消えてしまったのだ。彼女はなんとか話しつづけようとしたが、そこにはもう何もなかった。何かが損われてしまったのだ。あるいはそれを損ったのは僕かもしれなかった。	然而直子的话没再持续很久。蓦地觉察到时，话已戛然而止。中断的话茬儿，像被拧掉的什么物件似地浮在空中。准确说来，她的话并非结束，而是突然消失到什么地方了。本来她还想努力接说下去，但话已经无影无踪了。是被破坏掉了，说不定破坏者就是我。
394	///僕が言ったことがやっと彼女の耳に届き、時間をかけて理解され、そのせいで彼女をしやべらせつづけていたエネルギーのようなものが損われてしまったのかもしれない。直子は唇をかすかに開いたまま、僕の目をぼんやりと見ていた。彼女は作動している途中で電源を抜かしてしまった機械みたいに見えた。彼女の目はまるで不透明な薄膜をかぶせられているようにかすんでいた。	///我刚才的话终于传进她的耳朵，好半天才被她理解，从而破坏掉了促使她继续说话的类似动力的东西。直子微微张开嘴唇，茫然若失地看着我的眼睛，仿佛一架被突然拔掉电源的机器。又眼雾蒙蒙的，宛如蒙上了一层不透明的薄膜。
407	一週間たっても電話はかかってこなかった。直子のアパートは電話の取りつぎをしてくれなかったので、僕は日曜日の朝に国分寺まで出かけてみた。彼女はいなかったし、ドアについていた名札はとり外されていた。窓はぴたりと雨戸が開ざされていた。管理人に訊くと、直子は三日前に越したということだった。どこに越したのかはちょっとわからないなと管理人は言った。	过了一个星期，电话也没有打来。直子住的公寓里又不给传呼电话，因此星期天一早我便来到国分寺。她不在，门上的姓名卡片已被撤掉。木板套窗关得严严实实。问管理人，说是直子已于 3 天前搬走了。搬去哪里他不晓得。
408	僕は寮に戻って彼女の神戸の住所にあてて長文の手紙を書いた。直子がどこに越したにせよ、その手紙は直子あてに転送されるはずだった。	我返回宿舍，给她神户家里写了封长信。无论直子搬去何处，那封信总会转递她手上。
413	体の中の何かが欠落して、そのあと埋めるものもないまま、それは純粋な空洞として放置されていた。体は不自然に軽く、音はうつろに響いた。僕は週日には以前にも増しできちんと大学に通い、講義に出席した。	我心里失落了什么，而又没有东西填补，只剩下一个纯粹的空洞被弃置不理。身体轻得异乎寻常，语音虚无缥缈。周复一周，我比以前更为按部就班地到校听课。
440	僕はいつも TV の野球中継をつけて、それを見ているふりをしていた。そして僕と TV のあいだに横たわる茫漠とした空間をふたつに区切り、その区切られた空間をまたふたつに区切った。そして何度も何度もそれをつづけ、最後には手のひらにのるくらいの小さな空間を作りあげた。十時になると僕は TV を消して部屋に戻り、そして眠った。	我常常打开电视的棒球转播节目，似看非看地看着。我把横亘在我与电视之间空漠的空间切为两半，又进而把被自己切开的空间一分为二。如此反复无穷，直至最后切成巴掌大小。+++１０点一到，我便关掉电视，返回房间，倒头便睡。
450	日が暮れると寮はしんとして、まるで廃虚みたいなかんじになった。国旗がポールから降ろされ、食堂の	日落天黑，宿舍院里十分寂静，竟同废墟一般，国旗从旗杆降下，食堂窗口

	窓に電気が灯った。学生の数が減ったせいで、食堂の灯はいつもの半分しかついていなかった。	亮起灯光。由于学生人数减少，食堂的灯一般只亮一半。
461	蛍が飛びたったのはずっとあとのことだった。蛍は何かを思いついたようにふと羽を広げ、その次の瞬間には手すりを越えて淡い闇の中に浮かんでいた。それはまるで失われた時間をとり戻そうとするかのように、給水塔のわきで素速く弧を描いた。そしてその光の線が風ににじむのを見届けるべく少しのあいだそこに留まってから、やがて東に向けて飛び去っていった。	过了很长很长时间，萤火虫才起身飞去。它顿有所悟似地，蓦地张开双翅，旋即穿过栏杆，淡淡的萤光在黑暗中滑行开来。它绕着水塔飞快地曳着光环，似乎要挽回失去的时光。为了等待风力的缓和，它又稍停了一会儿，然后向东飞去。
466	夏休みのあいだに大学が機動隊の出動を要請し、機動隊はバリケードを叩きつぶし、中に籠っていた学生を全員逮捕した。その当時はどこの大学でも同じようなことをやっていたし、特に珍しい出来事ではなかった。大学は解体なんてしなかった。大学には大量の資本が投下されているし、そんなものが学生が暴れたくらいで「はい、そうですか」とおとなしく解体さしるわけがないのだ。	暑假期间，校方请求机动队出动。机动队捣毁壁垒，逮捕了里边所有的学生。当时，这种事在哪一所大学都概莫能外，并非什么独家奇闻。大学根本没有解散。投入大量资本的大学不可能因为学生闹事就毁于一旦。
467	///そして大学をバリケード封鎖した連中も本当に大学を解体したいなんて思っていたわけではなかった。彼らは大学という機構のイニシアチブの変更を求めていただけだったし、僕にとってはイニシアチブがどうなるかなんてまったくどうでもいいことだった。だからストが叩きつぶされたところで、とくに何の感慨も持たなかった。	///况且把校园用壁垒封锁起来的一伙人也并非真心想要大学，他们只是想改变大学机关的主导权。对我来说，主导权改变与否完全无关痛痒，因此，学潮被摧毁以后也毫无感慨。
468	僕は九月になって大学が殆んど廃虚と化していることを期待して行ってみたのだが、大学はまったくの無傷だった。図書館の本も掠奪されることなく、教授室も破壊しつくされることはなく、学生課の建物も焼け落ちてはいなかった。あいつら一体何してたんだと僕は愕然として思った。	我本来盼望校园 9 月份一举报废才好，不料到校一看，居然完好无缺。图书馆的书没被掠夺，教授室未遭破坏，学生科的办公楼未被烧毁。我不禁为之愕然：那帮家伙到底干什么来着！
469	ストが解除され機動隊の占領下で講義が再開されると、いちばん最初に出席してきたのはストを指導した立場にある連中だった。彼らは何夢もなかったように教室に出てきてノートをとり、名前を呼ばれると返事をした。これはどうも変な話だった。何故ならスト決議はまだ有効だったし、誰もスト終結を宣一言していなかったからだ。大学が機動隊を導入してバリケードを破壊しただけのことで、原理的にはストはまだ継続しているのだ。	罢课被制止后，在机动队的占领下开始复课。结果首先出席的竟是曾经雄居罢课领导高位的几张嘴脸。他们若无其事地走进教室，做笔记，叫到名字时也当即应声。咄咄怪事！因为罢课决议仍未失效，任何人也没有宣告罢课结束，不过是大学引进机动队捣毁了壁垒而已，在理论上罢课仍在继续。
551	彼女のテーブルに料理が運ばれ、マドラス・チェックの上着を着た男が「おい、ミドリ、飯だぞお」と呼んだ。彼女はそちらに向って〈わかった〉というように手をあげた。	那边餐桌上已有饭菜端来，一个穿双色方格衬衫的小伙子叫道："喂ーー，绿子，吃饭啦！"她朝那边扬一下手，意思是说"知道了"。
555	「もちろん、いいよ」僕は鞄からノートを出して何か余計なものが書かれていないことをたしかめてから緑に渡した。	"当然可以。"我从包里掏出笔记本，确认上边没有乱写之后，递给绿子。
621	「ねえ、私たち反革命なのかしら?」と教室を出てから緑が僕に言った。「革命が成就したら、私たち電柱に並んで吊されるのかしら?」	"噢，我们怕是反革命吧？"走出教室后绿子对我说。"一旦革命成功，我们难保不会被吊到电线杆上去，嗯？"
625	我々がテーブルに座ると、何も言わないうちに朱塗りの四角い容器に入った日変りの弁当と吸物の椀が運ばれてきた。たしかにわざわざバスに乗って食べにくる値打のある店だった。	我们在桌旁坐定，还未等开口，就端上两个四方形红漆容器，里边放着每日一换的盒饭和一碗汤。果然不虚此行。

640	「ううん、そんなことないのよ。私が今すこし疲れてるだけ。雨にうたれた猿のように疲れているの」	"不不，你这说哪去了。只是现在我有点累，就象淋过一场大雨的猴子似的。”
653	「うん、私も教室の窓からあの煙を見るたびにそう思ったわよ。凄いなあって。うちの学校は中学・高校あわせると千人近く女の子がいるでしょ。まあまだ始まってない子もいるから九百人として、そのうちの五分の一が生理中として、だいたい百八十人よね。で、一日に百八十人ぶんの生理ナプキンが汚物入れに捨てられるわけよね」	"嗯。当时我每次从教室看那烟，也都那么想来着：啊，真不得了！我们学校，初中高中合起来差不多有一千女孩子吧？有的还没开始，就算九百人。假定其中五分之一来月经，大致就是一百八十人，就是说，每天要往垃圾筒里扔一百八十人用的卫生带，是吧？”
657	「本当は私あの学校に行きたくなかったの」と緑は言って小さく首を振った。「私はごく普通の公立の学校に入りたかったの。、ごく普通の人が行く、ごく普通の学校に。そして楽しくのんびりと青春を過したかったの。でも親の見栄であそこに入れられちゃったのよ。ほら小学校のとき成績が良いとそういうことあるでしょ?先生がこの子の成績ならあそこ入れますよ、ってね。で、入れられちゃづたわけ。	"我打心眼里不乐意去那所学校。”绿子说着，轻轻摇了摇头。“我本想进普通公立学校来着。普普通通老百姓就该去普普通通的学校嘛，而且我想快快乐乐自由自在地度过自己的青春。可父母出于虚荣心，偏偏把我塞去那里。你知道，小学如果成绩好，常遇到这种事：什么老师说凭这孩子的成绩进那里没问题等等，结果就被硬塞进去。
665	「あの学校ね」と緑は小指で目のわきを掻きながら言った。「エリートの女の子のあつまる学校なのよ。育ちも良きゃ成績も良いって女の子が千人近くあつめられてるの。ま、金持の娘ばかりね。でなきゃっていけないもの。	"那所学校么，”绿子一边用小手指揉眼角一边说，“里面全都是所谓才女，家教好学习好——这样的女孩儿搜罗了差不多一千个。哦，清一色是有钱人家的小姐，否则也吃不消。
674	///何か寄附があるたびに親にぶつぶつ文句を言われて、クラスの友だちとどこかに遊びに行っても食事どきになると高い店に入ってお金が足りなくなるんじゃないかってびくびくしてね。そんな人生って暗いわよ。あなたのお家はお金持なの?」	///每逢要捐什么款的时候，都要给父亲罗嗦个没完没了；和同学外出游玩，一到吃饭时间就心惊胆战，生怕走进价钱贵的饭店弄得掏不出钱。这样的人生简直漆黑一团。你家有钱？”
718	///建物の旧さやスタイルから見て、このあたりが戦争で爆撃を受けなかったらしいことがわかった。だからこうした家並みがそのままに残されているのだ。もちろん建てなおされたものもあったし、どの家も増築されたり部分的に補修されたりはしていたが、そういうのはまったくの古い家より余計に汚ならしく見えることの方が多かった。	///从建筑物的古旧程度和样式来看，不难判断这一带未曾在战争中遭受空袭，所以这些民房才得以原样保留下来。当然也有的重建过，也有的或增建或部分修修补补，但大多反而倒显得比旧貌依然的房子还要脏乱。
727	「ねえ、こっち」とどこかで緑の声がした。階段を上ったところの右手に食堂のような部屋があり、その奥に台所があった。家そのものは旧かったが、台所はつい最近改築されたらしく、流れ台も蛇口も収納棚もぴかぴかに新しかった。そしてそこで緑が食事の仕度をしていた。鍋で何かを煮るぐつぐつという音がして、魚を焼く匂いがした。	"喂，这边！”绿子的声音不知从哪里响起。楼梯口右侧有个餐厅样的房间再往里是厨房。房子本身虽旧，但厨房却象最近改装过，烹调台、水龙头、餐具橱全都光闪闪地焕然一新。绿子就在那里准备饭菜。锅里煮着什么，“咕嘟咕嘟”直响。还洋溢着烤鱼的香味。
735	「T シャツの背中にはアップル・レコードのりんごのマークが大きく印刷されていた。うしろから見ると彼女の腰はびっくりするくらいほっそりとしていた。まるで腰をがっしりと固めるための成長の一過程が何かの事情でとばされてしまったんじゃないかと思えるくらいの華著な腰だった。	"海军衫的背部还印着一个大大的苹果标记。从后面看，她的腰格外地苗条，格外地窈窕，仿佛紧紧束住的腰肢在发育过程中因某种原因被突然松开一样。
787	「面倒臭かったからだよ。夜中に煙草が切れたときの辛さとか、そういうのがさ。だからやめたんだ。何かにそんな風に縛られるのって好きじゃないんだよ」	"太麻烦了。例如说半夜断烟时那个难受滋味吧，等等。所以戒了。我不情愿被某种东西束缚住。”
790	「でも私あなたと話してるの好きよ。しやべり方だっ	“不过我同你说话，你说话方式真是别

	てすごく変ってるし。『何かそんな風に縛られるのって好きじゃないんだよ』」	具一格：‘我不情愿被某种东西束缚住。’”
920	「一日中家の中にいて電話を待ってなきゃいけないなんて本当に嫌よね。一人きりでいるとね、体が少しずつ腐っていくような気がするのよ。だんだん腐って溶けて最後には緑色のとろっとした液体だけになってね、地底に吸いこまれていくのそしてあとには服だけが残るの。そんな気がするわね、一日じっと待ってると」	"整整一大天都憋在家里等电话，真是烦透了。孤零零一个人，觉得身体就象一点点腐烂似的。渐渐腐烂、融化，最后变成一洼粘糊糊的绿色液体，再被吸进地底下去，剩下来的只是衣服——就是这种感觉，在干等一天的时间里。”
963	申しわけないが一緒につきあってくれないかと彼女は言った。女の子二人でそんなことできないから、と。僕はこの当時の新宿の町でいろいろと奇妙な体験をしたけれど、朝の五時二十分に知らない女の子に酒を飲もうと誘われたのはこれがはじめてだった。断るのも面倒だったし、まあ暇でもあったから僕は近くの自動販売機で日本酒を何本かとつまみを適当に買い、彼女たちと一緒にそれを抱えて西口の原っぱに行き、そこで即席の宴会のようなものを開いた。	"实在冒味得很，您能不能陪一下？”她说，“两个女孩不好那样做。”+++尽管当时我在新宿街头经历了五花八门的奇妙事情，但一大早５点２０分被素不相识的女孩拉去喝酒，倒是有生第一遭。拒绝吧又要找借口，也罢，反正还有时间，便到附近自动售货机跟前买了几瓶日本清酒和一些下酒菜，和她们一起抱在怀中，走到西口原叶那里，开了个席地宴会。
984	「手紙をありがとう」と直子は書いていた。手紙は直子の実家から「ここ」にすぐ転送されてきた。手紙をもらったことは迷惑なんかではないし、正直言ってとても嬉しかった。実は自分の方からあなたにそろそろ手紙を書かなくてはと思っていたところなのだ、とその手紙にはあった。	"谢谢你的来信。”直子写道。信是从直子父母家直接转到“这里”来的。直子继续写道：“你的来信根本不是什么打扰。老实说，是感到非常高兴。其实自己也正想给你去信。”
992	///だからこそ私はあなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。私はあなたのように自分の殻の中にすっと入って何かをやりすごすということができないのです。	///也正因如此，我才不愿被你怨恨。如若被你怨恨，我势必真正归于土崩瓦解。不象你，不可能轻易地钻入自己的壳中，随便做点什么来使自己获得解脱。”
994	しかし何はともあれ、私は一時に比べるとずいぶん回復したように自分でも感じますし、まわりの人々もそれを認めてくれます。こんな風に落ちついて手紙を書けるのも久しぶりのことです。七月にあなたに出した手紙は身をしばるような思いで書いたのですが（正直言って、何を書いたのか全然思いだせません。ひどい手紙じゃなかったかしら？）、今回はすごく落ちついて書いています。きれいな空気、外界から遮断された静かな世界、規則正しい生活、毎日の運動、そういうものがやはり私には必要だったようです。	"但不管怎样，同以往一度严重时相比，我感觉已有了相当的恢复，周围人也同样承认。如此平心静气地给你写信，也是相隔好久的事了。七月间给你发的那封信，我真是咬紧牙关才写成的（老实说，我完全记不起写了什么，怕是前言不搭后语吧？）。而这回，却是写得十分从容自得。新鲜的空气、同外面隔绝的寂静世界、秩序井然的生活、每天的运动，这些对我似乎还是很有必要的。
996	そしでそれと同じような理由で、ここの人々は鳥や花や虫のこともとても良く知っています。そういう人たちと話していると、私は自分がいろんなことについていかに無知であったかということを思い知らされますし、そんな風に感じるのはなかなか気特の良いものです。	由于这同一缘故，这里的人对花、鸟、昆虫也都如数家珍。和他们交谈起来，我得以知道自己在许多方面竟是那样无知，而意识到这点又是那样令人惬意。”
999	私はテニスとバスケット・ボールをやっています。バスケット・ボールのチームは患者（というのは嫌な言葉ですが仕方ありませんね）とスタッフが入りまじって構成されています。でもゲームに熱中しているうちに私には誰が患者で誰がスタッフなのかだんだんわからなくなってきます。これはなんだか変なものです。	"我在打网球和篮球。篮球队是由患者（我并不愿这样称呼，但没有办法）和工作人员混合组成的。但玩到兴头上，我便分辨不清谁是患者谁是工作人员了。这么说是有些荒诞。”

1026	開いた窓から入ってくる風が急に冷たくなり、その湿気は肌に痛いばかりだった。谷川に沿ってその杉林の中をずいぶん長い時間道み、世界中が永遠に杉林で埋め尽されてしまったんじゃないかという気分になり始めたあたりでやっと林が終り、我々はまわりを山に囲まれた盆地のようなところに出た。	窗口进来的风骤然变冷，湿气砭人肌肤。车沿着谷川在杉树林中行驶了很久很久，正当我恍惚觉得整个世界都将永远埋葬在杉树林的时候，树林终于消失，我们来到四面环山的盆地样的地方。
1027	///盆地には青々とした畑が見わたす限り広がり、道路に浴ってきれいな川が流れていた。遠くの方で白い煙が一本細くたちのぼり、あちこちの物干にほ洗濯物がかかり、犬が何匹か吠えていた。家の前にはたき木が軒下までつみあげられ、その上で猫が昼寝をしていた。道路沿いにしばらくそんな人家がつづいていたが人の姿はまったく見あたらなかった。	///极目四望，盆地中禾苗青青，平展展地四下延伸开去。一条清澈的小溪在路旁潺潺流淌。远处，一缕白烟袅袅腾起。随处可见的晾衣杆上挂着衣物。几只狗汪汪叫着。家家户户的门前，烧柴都一直堆到房檐，猫在上面睡午觉。如此农户人家在路两侧延续了好久，但人影却是一个未见。
1028	そういう風景が何度もくりかえされた。バスは杉林に入り、杉林を抜けて集落に入り、集落を抜けてまた杉林に人った。集落にバスが停まるたびに何人かの客が降りた。乗りこんでくる客は一人もいなかった。	这样的光景重复出现几次之后，汽车驶入杉树林。穿过杉树林驶入村落，穿过村落又驶入杉树林。每次停在村落时，都有几人下车，上来的却一个也没有。
1039	言われたとおりにロータリーの左から二本目の道を進んでいくと、つきあたりにはいかにも一昔前の別荘とわかる趣きのある古い建物があった。庭には形の良い石やら、灯籠なんかが配され、植木はよく手入れされていた。この場所はもともと誰かの別荘地であるらしかった。そこを右に折れて林を抜けると目の前に鉄筋の三階建ての建物が見えた。	我按他说的，拐进转盘式交叉路口的左数第二条路，尽头处果然有一座俨然往昔别墅的格调优雅的古式建筑。院子点缀着形状别致的石块和石雕灯笼等物，草木也都修剪得整整齐齐。看来这地方以前可能是某人的别墅园地。由此右拐穿过树林，眼前出现一座三层高的钢筋混凝土楼房。
1040	///三階建てとは言っても地面が掘りおこされたようにくぼんでいるところに建っているので、とくに威圧的な感じは受けない。建物のデザインはシンプルで、いかにも清潔そうに見えた。	///虽说是三层，但由于建在仿佛地面被掘开的凹陷处，并没特别给人以威严之感。建筑物造型简练，显得十分洁净。
1041	玄関は二階にあった。階段を何段か上り大きなガラス戸を開けて中に入ると、受付に赤いワンピースを着た若い女性が座っていた。僕は自分の名前を告げ、石田先生に会うように言われたのだと言った。彼女はにっこりと笑ってロビーにある茶色のソファーを指さし、そこに座って待ってて下さいと小さな声で言った。そして電話のダイヤルをまわした。	大厅在二楼。我上了几阶楼梯，打开一扇大大的玻璃门闪身进去，见服务台里坐着一个穿连衣裙的年轻女郎。我告知自己的姓名，说门卫叫我见石田先生。她好看地一笑，指着大厅里的茶色沙发，低声叫我坐在那儿等一会，然后拨动电话。
1042	///清潔で感じの良いロビーだった。観葉植物の鉢がいくつかあり、壁には趣味の良い抽象画がかかり、床はぴかぴかに磨きあげられていた。僕は待っているあいだずっとその床にうつった自分の靴を眺めていた。	///大厅窗明几净，感觉舒适。有几盆赏叶植物，墙上挂着情趣健康的抽象画，地板擦得油光发亮。等候的时间里，我把目光转而落在脚上那双在地板印出影子的鞋上。凝视良久。
1048	とても不思議な感じのする女性だった。顔にはずいぶんたくさんしわがあってそれがまず目につくのだけれど、しかしそのせいで老けて見えるというわけではなくかえって逆に年齢を超越した若々しさのようなものがしわによって強調されていた。そのしわはまるで生まれたときからそこにあったんだといわんばかりに彼女の顔によく馴染んでいた。	真是个不可思议的女性。她脸上有很多皱纹，这是最引人注目的。然而却没有因此而显得苍老，反倒有一种超越年龄的青春气息被通过皱纹强调出来。那皱纹宛如与生俱来一般同她的脸配合默契。
1049	///笑いもむずかしい顔もしない時はしわはどことなく皮肉っぽくそして温かく顔いっぱいにちらばっていた。年齢は三十代後半で、感じの良いというだけではなく、何かしら心魅かれるところのある女性だ	///不笑不愁的时候，那皱纹便不无玩世不恭意味地温顺地点缀着她整个面部。她年纪在３５岁往上，不仅给人的印象良好，还似乎有一种摄人心魄的魅力。

	った。僕は一目で彼女に好感を特った。	我一眼就对她产生了好感。
1050	髪はひどく雑然とカットされて、ところどころで立ちあがってとびだし、前髪も不揃いに額に落ちかかっていたが、その髪型は彼女にとてもよく似合っていた。	她头发剪得相当草率，长短不一，到处都有几根头发卓尔不群地横冲直闯。前面的头发也参差不齐地搭在额头，但这发型对她却是恰到好处。
1062	彼女は僕の先に立ってすたすた廊下を歩き、階段を下りて一階にある食堂まで行った。食堂は二百人ぶんくらいの席があったが今使われているのは半分だけで、あとの半分はついたてで仕切られていた。なんだかシーズン・オフのリゾート・ホテルにいるみたいだった。	她领头，大步流星地穿过走廊，走下楼梯，来到一楼食堂。食堂座位足可容纳二百多人，但现在使用的只有一半，剩下的半边被屏风隔开。有点象是已不合时令的避暑疗养院。
1089	たとえば私はあるお医者にピアノを教えてるし、一人の患者は看護婦にフランス語を教えてるし、まあそういうことよね。私たちのような病気にかかっている人には専門的な才能にめぐまれた人がけっこう多いのよ。	例如我就教一个医生弹钢琴，有个患者教护士学法语，就是这样。得我们这种病的人，有不少人学有专长。
1107	「それからこれは規則で決ってることだから最初に言っておいた方が良いと思うんだけれど、あなたと直子が、一人っきりになることは禁じられているの。これはルールなの。部外者が面会の相手と二人っきりになることはできないの。	“此外，这里有条规定，我想还是一开始就挑明为好，就是禁止你同直子两人单独在一起。这是守则，外面的人同会面对象不能独处。
1139	「それは駄目よ。もちろんたとえば歯医者に行かなきゃならないとか、そういう特殊なことがあればそれは別だけれど、原則的にはそれは許可されていないの。ここを出て行くことは完全にその人の自由だけれど、一度出ていくともうここには戻れないの。」	"那是不行的。当然特殊情况除外，例如去看牙医等等，但原则上是不允许的。离开这里本身完全属于每个人的自由，可是一旦离开就回不来这里了。”
1141	///建物はどれもまったく同じかたちをしていて、同じ色に塗られていた。かたちはほぼ立方体に近く、左右が対称で入口が広く、窓がたくさんついていた。その建物のあいだをまるで自動車教習所のコースみたいにくねくねと曲った道が通っていた。どの建物の前にも草花が植えられ、よく手入れされていた。人影はなく、どの窓もカーテンが引かれていた	///每一座建筑物都呈同样的外形，都涂同样的颜色。造型大致接近正方体，左右对称，门口很宽，窗口有好多个。建筑物相互之间的道路弯弯曲曲，活象汽车司机讲习所的教练路线。所有建筑物的前面都种植花草，修剪得井然有序。寥无人影，窗口都挡着窗帘。
1142	「ここはＣ地区と呼ばれているところで、ここには女の人たちが住んでいるの。つまり私たちよね。こういう建物が十棟あって、一棟が四つに区切られて、一区切りに二人住むようになってるの。だから全都で八十人は住めるわけよね。今のところ三十二人しか住んでないけど」	"这里称为Ｃ区，住的全是女性，也就是我们。这样的建筑物有１０栋，每栋分４个单元，每单元住两个人。所以全部可住８０人。现在倒是只住有３２人。”
1178	///鳥や雲や牛や猫のシルエットが細かく丁寧に切り抜かれ、くみあわされていた。あたりにはあいかわらず人気はなく、物音ひとつしなかったなんだか手入れの行き届いた廃墟の中に一人で暮しているみたいだった。	///有鸟、云、牛、猫的剪影，剪得相当精巧，组合在一起。四周依然不见人影，阒无声息。我觉得自己似乎孤零零地置身于整理得井井有条的一片废墟之中。
1210	、レイコさんがその火で煙草に火をつけた。あたりはあいかわらずひっそりとしていて、そんな中で三人でロウソクを囲んでいると、まるで我々三人だけが世界のはしっこにとり残されたみたいに見えた。ひっそりとした月光の影と、ロウソクの光にふらふらと揺れる影とが、白い壁の上でかさなりあい、錯綜していた。	玲子对烛火点燃支烟。四周依旧一片寂然，在这寂然中我们三人围蜡烛一坐，恍若世界的角落里只剩下我们三个人。悄无声息的月影，飘忽不定的烛光，在洁白的墙壁上重叠交映，影影绰绰。
1246	「僕もそう思う」と僕は言った。「でも彼の場合は自分の中の歪みを全都系統だてて理論化しちゃったんだ。ひどく頭の良い人だからね。あの人をここに連れ	"我也那样想。”我说，“不过，他是把自己身上的不正常因素全部系统化、理论化，头脑好使得很。把他领来这里

	てきてみなよ、二日で出ていっちゃうね。これも知ってる、あれももう知ってる、うんもう全部わかったってさ。そういう人なんだよ。そういう人は世間では尊敬されるのさ」	试试，保准两天就出去。说什么这个也懂，那个也晓得，没一个不明白的。他就是这样的人，而这样的人才会在社会上受到尊敬。”
1259	直子は何も言わずにその澄んだ目でじっと僕を見ていた。僕はレイコさんに最初の女の子と寝て彼女と別れたいきさつを説明した。僕は彼女を愛することがどうしてもできなかったのだと言った。それから永沢さんに誘われて知らない女の子たちと次々に寝ることになった事情も話した。	直子一言未发，用清澈的眸子盯住我。我向玲子说了我同第一个女孩睡觉后来又分手的过程。我说对那个女孩无论如何也爱不起来。接着又讲了被永泽拉去左一个右一个同女孩乱来的缘由。
1281	僕は奇妙に非現実的な月の光に照らされた道を辿って雑木林の中に入り、あてもなく歩を運んだ。そんな月の光の下ではいろんな物音が不思議な響き方をした。僕の足音はまるで海底を歩いている人の足音のように、どこかまったく別の方向から鈍く響いて聞こえてきた。	我踏着梦幻般奇异的月光下的小路，进入杂木林，信步走来走去。月光下，各种声音发出不可思议的回响。我的足音就像在海底下行走的人的足音那样，从截然相反的方向传来瓮声瓮气的回声。
1287	僕とレイコさんは街灯に照らされた道をゆっくりと歩いて、テニス・コートとバスケットボール・コートのあるところまで来て、そこのベンチに腰を下ろした。	我和玲子沿着街灯下的路面缓缓移动脚步，走到网球场和篮球场那里时，在长凳坐下。
1315	「そうしないと自分かどこに行けばいいのかということもよくわからないんですよ。だからさっきレイコさんが言ったように、僕と直子はお互いを救いあわなくちゃいけないし、そうするしかお互いが救われる道はないと思います」	“如若不然，我对自己都将不知何去何从。所以，正象你才刚说的那样，我同直子必须互相拯救，除此之外别无共度难关的途径。”
1327	「でもね、この先女の人にあなたのしわが魅力的だなんて言っちゃ駄目よ。私はそう言われると嬉しいけどね」	"不过，往后你可不要对女人夸她的皱纹有魅力。我给你这么一说倒是高兴……。”
1374	「もし私があの子くらいで奇麗で頭良かったら、私ならもっとまともな人間になるわね。あれくらい頭がよくて美しいのにそれ以上の何が欲しいっていうのよ?あれほどみんなに大事にされているっていうのに、どうして自分より劣った弱いものをいじめたり踏みつけたりしなくちゃいけないのよ?だってそんなことしなくちゃいけない理由なんて何もないでしょう?」	"假如我像那孩子那样聪明漂亮的话，我会成为一个更地道的更有作为的人。既然那般聪明漂亮，还别有何求呢？既然受到大家如此的宠爱，还何苦要欺侮、蹂躏不如自己的弱者呢？不是根本就不存在非做此手脚不可的客观原因吗！”
1377	///それが嘘であることにね。だいたいそんなきれいな子がなんでもないつまらないことで嘘をつくなんて事誰も思わないの。私だってそうだったわ。私、その子のつくり話を半年間山ほど聞かされて一度も疑わなかったのよ。何から何まで作り話だっていうのによ。馬鹿みたいだわ、まったく」	///这就是所谓扯谎。而且一般说来，谁也不会以为那么漂亮的孩子居然会为鸡毛蒜皮的琐事大扯其谎，包括我在内。那孩子扯的谎话，半年时间我听得真可谓数不胜数。但一次也没有怀疑过，尽管从根到梢全是谎话。傻瓜呀，纯粹是傻瓜！”
1383	「彼女のお母さんが言ったことを彼女もまた繰り返したの。家の前を通って私のピアノを耳にして感動した。私にも外で何度か会って憧れてたってね。『憧れてた』って言ったのよ。私、赤くなっちゃったわ。お人形みたいに奇麗な女の子に憧れられるなんてね。でもね、それはまるっきりの嘘ではなかったと思うのね。でもね、もちろん私はもう三十を過ぎてたし、その子ほど美人でも頭良くもなかったし、とくに才能があるわけでもないし。	"她又把她母亲的话重复说了一遍。说在我家门前路过时听到我的钢琴，大为感动。在外面遇到过我几次，很是崇拜。说的可是‘崇拜’哟。结果我脸都红了，怎么好让一位布娃娃一般漂亮的女孩儿崇拜呢！不过，我想她这也并非完全说谎。当然，我已年过三十、又没她那么漂亮那么聪明，又没什么特殊才能。
1386	「もちろんそれほど上手くないわよ。専門的な学校に入ってやっているわけでもないし、レッスンだって	"当然，技术并不怎么好。毕竟没有进过专门学校，从师练也是三天打渔两

	通ったり通わなかったりでずいぶん我流でやってきたわけだから。きちっと訓練された音じゃないのよ。もし音楽学校の入試の実技でこんな演奏したら一発でアウトね。でもね、聴かせるのよ、それが。	天晒网，是她自己的手法，一听就知没经过专业训练。如果在音乐学校的实践考试上这么弹的话，只消一声就会立遭淘汰。可她弹的还是值得一听。
1394	「忘れやしませんよ」と僕は笑って言った。「ただ話にひきこまれてたんです」	"哪里会忘，”我笑道，“只是给你的话吸引住了。”
1397	「うん、東京に戻れなくなっちゃうわよ」と言ってレイコさんも笑った。	"呃，那你可就回不了东京啦！”玲子也笑了。
1398	僕らは往きに来たのと同じ雑木林の中の道を抜け、部屋に戻った。ロウソクは消され、電灯も消えていた。居間の寝室のドアが開いてベッドサイドのランプがついていて、その灰かな光が居間の方にこぼれていた。そんな薄暗がりのソファーの上に直子がぽつんと座っていた。	我们穿过来时那条杂木林小道，回到房间。蜡烛熄了，客厅的电灯也没开。卧室的门开着，里面亮着床头灯，昏黄的光线洒进客厅。就在这模模糊糊的灯光中，直子孤零零坐在沙发上。
1434	「でもね、問題はそういうことがいつまでもつづくわけはないってことだったのよ。そういう小さな輸みたいなものが永遠に維持されるわけはないのよ。それはキズキ君にもわかっていたし、私にもわかっていたし、あなたにもわかっていたのよ。そうでしょ?」	"可问题是这种状态不可能无止境地持续下去，那小圈子样的东西不可能维持到永远。这点木月明白，我也明白，你也心里清楚，不错吧？”
1466	なんだかとて長い一日みたいに思えた。部屋の中はあいかわらず月の光に白く照らされていた。直子とレイコさんが眠っている寝室はひっそりとして、物音らしきものは始んど何も聞こえなかった。ただ時折ベッドの小さな軋みが聞こえるだけだった。	觉得这一天格外地长。月光依然银灿灿地泻满房间。直子和玲子睡的卧室里悄无声息，四下几乎不闻任何声籁，只是偶尔传来床的轻微吱呀声。
1529	十一時半に農場から二人は帰ってきて順番にシャワーに入り、さっぱりした服に着がえた。そして三人で食堂に行って昼食をとり、そのあとで門まで歩いた。門衛小屋には今度はちゃんと門番がいて、食堂から運ばれてきたらしい昼食を机の前で美味そうに食べていた。棚の上のトランジスタ・ラジオからは歌謡曲が流れていた。僕らが歩いていくと彼はやあと手をあげてあいさつし、僕らも「こんにちは」と言った。	１１点半，两人从农场回来，轮流进去淋浴，换上洁净衣服。接着三人去食堂吃午饭，饭后步行到大门口这回门卫倒正好在门卫室内，在桌前津津有味地吃着想必从食堂端来的午饭。搁物架上的晶体管收音机播放歌曲。我们走到时，他“呀”一声扬下手，寒暄一句，我们也道了声“您好”。
1550	集落を抜けてしばらく先に進むと垣根にまわりを囲まれた広い放牧場のようなものがあり、遠くの方に馬が何頭か草を食べているの私見えた。	穿过村庄，前行不一会，便是一片草地。像是一座四周有围栏的广阔牧场，远处可以望见几匹马在吃草。
1607	我々はしばらく無言で歩いた。道は牧場の柵を離れ、小さな湖のようにまわりを林に囲まれた丸いかたちの草原に出た。	我们默默走了一会。道路离开围栏，通到一片形状如同小湖一般圆圆的、四面围有树林的草地。
1658	お姉さんは何をやらせても一番になってしまうタイプだったのだ、と直子は言った。勉強もいちばんならスポーツもいちばん、人望もあって指導力もあって、親切で性格もさっぱりしているから男の子にも人気があって、先生にもかわいがられて、表彰状が百枚もあってという女の子だった。どの公立校にも一人くらいこういう女の子がいる。	直子接着说：+++"姐姐无论让干什么都拿第一那种类型。学习第一，体育第一，又有威望又有领导才能。性格热情开朗，在男孩子中间也很有人缘，也很受老师喜爱，得的奖状足有一百张。哪所公立学校都有一两个这样的女孩儿。
1742	レイコさんは薬品の袋の上に腰を下ろし、僕にも隣りに座れと言った。僕は言われたとおりにした。	玲子弓身坐在药品袋上，叫我坐在旁边，我便也乖乖落座。
1745	「やめられないのよね、これだけは」とレイコさんは顔をしかめながら言った。そしておいしそうに煙草を吸った。これくらいおいしいそうに煙草を吸う人はちょっといない。僕は一粒一粒丁寧に葡萄を食べ、皮と種をゴミ箱がわりに使われているブリキ缶の中に捨てた。	"戒不了，就这个戒不了。”玲子蹙起眉头说，旋即如饥似喝地吸了一口。吸烟吸得如此香甜的人怕是为数不多。我一粒一粒地揪着葡萄，细嚼慢咽，把皮和籽扔进当拉圾箱用的白铁皮罐里。
1755	///押しつけられるのは嫌な子なんだなって最初会	///而她又讨厌别人这样做，这点刚见面

	ったときに思ったから。口では愛想良くはいはいって言うけれど、絶対に自分のやりたいことしかやらない子なのよ。だからね、まずその子に自分の好きなように弾かせるの。百パーセント好きなように。次に私がその同じ曲をいろんなやり方で弾いてみせるの。そして二人でどの弾き方が良いだとか好きだとか討論するの。それからその子にもう一度弾かせるの。すると前より演奏が数段良くなってるのよ。良いところを見抜いてちゃんと取っちゃうわけよ」	我就看出来了。尽管她口头上百依百顺，可骨子里绝对一意孤行。这么着，我首先让那孩子喜欢怎么弹就怎么弹，百分之百地。然后我才用各种弹法演奏同一支曲子，两人一起探讨那种弹法好以及喜欢哪一种等等，再让她重弹一遍。结果，她要比前次弹得大有长进。她能敏锐地捕捉一种弹法的高明之处。”
1757	「私もかなり音楽的な勘はある方だとは思うけれど、その子は私以上だったわね。惜しいなあと思ったわよ。小さい頃から良い先生についてきちんとした訓練受けてたら良いところまでいってたのになあってね。でもそれは違うのよ。結局のところその子はきちんとした訓練に耐えることができない子なのよ。世の中にはそういう人っているのよ。素晴しい才能に恵まれながら、それを体系化するための努力ができないで、才能を細かくまきちらして終ってしまう人たちがね。私も何人かそういう人たちを見てきたわ。	"我自以为自己的乐感已相当不错，可那女孩还在我之上。真替她惋惜啊，假如从小就跟好老师接受系统训练，将会很有出息，可惜不是那样。不过归根结底，那孩子也经受不住系统训练。世上是有这种人的：尽管有卓越的天赋才华，却承受不住使之系统化的训练，而归终将才华支离破碎地挥霍掉。我就亲眼见过好几个这样的人。
1758	///最初はとにかくもう凄いって思うの。たとえばものすごい難曲を楽譜の初見でバァーッと弾いちゃう人がいるわけよ。それもけっこううまくね。見てる方は圧倒されちゃうわよね。私なんかとてもとてもかなわないってね。でもそれだけなのよ。彼らはそこから先には行けないわけ。何故行けないか?行く努力をしないからよ。努力する訓練を叩きこまれていないからよ。スポイルされているのね。下手に才能があって小さい頃から努力しなくてもけっこう上手くやれてみんなが凄い凄いって賞めてくれるものだから、努力なんてものが下らなく見えちゃうのね。	///一开始果真叫人拍案叫绝，例如对十分深奥的乐谱，有人只消扫一眼就能一气流注地弹奏下来，而且相当精彩，使看的人大为倾倒，自愧不如。但他们仅此而已，而不会再往前迈步。为什么呢？因为不做努力，不肯下功夫刻苦训练，在宠爱中忘乎所以。小时候凭点小聪明没用功也弹得不错，对此大家免不了夸奖一番，于是本人便把用功看成了无聊勾当。
1759	///他の子が三週間かかる曲を半分で仕上げちゃうでしょ、すると先生の方もこの子はできるからって次に行かせちゃう。そしもまた人の半分の時間で仕上げちゃう。また次に行く。そして叩かれるということを知らないまま、人間形成に必要なある要素をおっことしていってしまうの。これは悲劇よね。まあ私にもいくぶんそういうところはあったんだけれど、幸いなことに私の先生はずいぶん厳しい人だったから、まだこの程度ですんでるのよ。	///他们不是可以把其他孩子花三周练的曲子只用一半时间就能练完吗，老师势必说这孩子行，叫他往下练习。他们便又一次只用一半时间弹下来，结果又往下跑。就这样，他们不懂得下苦功夫，忽略了对人格形成必不可少的这一主要因素。这是悲剧。说起来，我也多多少少有这种情形，幸亏我的老师管得严，才保住了如今这个程度。”
1761	///小さい頃から賞められ馴れてるから、いくら賞められたってまたかと思うだけなのよ。ときどき上手な賞め方をすればそれでいいのよ。それから物事を押しつけないこと。自分に選ばせること。先に先にと行かせないで立ちどまって考えさせること。それだけ。そうすれば結構うまく行くのよ」	///因从小就听惯夸奖话了，再多夸她也不以为然。有时候掌握分寸地夸两句就可以了。其次不要强加于她，让她自动选择。不是让她贪多求快，而是让她停下来回味。就这几点。也只有这样才能抓出成效。”
1763	「レッスンが終るとね、お茶飲んでお話したわ。ときどき私がジャズ・ピアノの真似事して教えてあげたりしてね。こういうのがバド・パウエル、こういうのがセロニアス・モンクなんてね。でもだいたいはその子がしゃべってたの。これがまた話が上手くてね、ついつい引きこまれちゃうのよ。まあ昨日も言ったように大部分は作りごとだったと思うんだけれど、それにしても面白いわよ。観察が実に鋭くて、表現が	"练完琴后，就喝茶聊天。有时我也模仿爵士钢琴教她，告诉她这是巴顿·帕维尔洛，这是塞罗尼亚斯·蒙克。但大多时候是听那孩子滔滔不绝。她那嘴巴也实在灵巧，听着听着就入迷了。昨天我也提到过，大部分话都是无中生有，但有趣还是满有趣的。观察准确敏锐，表达恰如其分，有挖苦有幽默，很能挑动

	適確で、毒とユーモアがあって、人の感情を刺激するのよ。	人的感情。
1771	///先生のこともっとよく知りたいのよ、とその子は言ったわ。私のこと知ったって仕方ないわよ、つまんない人生だもの、普通の夫がいて、子供がいて、家事に追われて、と私は言ったの。でも私、先生のこと好きだからって言って、彼女私の顔をじっと見るのよ、すがるように。そういう風に見られるとね、私もドキッとしちゃうわよ。まあ悪い気はしないわよ。それでも必要以上のことは教えなかったけれどね。	///她说还想多知道些，我说知道又有什么用呢，无非在虚度人生，有个普普通通的丈夫，有个孩子，整天操持家务。‘但我就是喜欢老师您’，她说，还定定地看着我的脸，一副小鸟依人的样子。给她那么一看，我心里具有些发怵，倒不是觉得不舒服。可我还是适可而止，没告诉她更多的事。”
1783	家庭がうまくいってないんです、ってその子は言ったわ。両親を愛することができないし両親の方も自分を愛してはくれないんだって。父親は他に女がいてろくに家に戻ってこないし、母親はそのことで半狂乱になって彼女にあたるし、毎日のように打たれるんだって彼女は言ったの。家に帰るのが辛いんだって。そう言っておいおい泣くのよ。かわいい目に涙をためて。あれ見たら神様だってほろりとしちゃうわよね。それで私こう言ったの。	"'家庭不和，’她说。说她爱不起父母，父母也不爱她，说父亲外面有女人，动不动就夜不归宿，母亲气得要死要活，就拿她出气，她几乎天天挨打。她说就怕回家。说着说着就呜呜哭起来，让人怜爱的眼睛里充满泪水。那样子，神仙看了都会动情。于是我跟她说：
1784	///そんなにお家に帰るのが辛いんだったらレッスンの時以外にもうちに遊びに来てもいいわよって。すると彼女は私にしがみつくようにして『本当にごめんなさい。先生がいなかったら、私どうしていいかわかんないの。私のこと見捨てないで。先生に見捨てられたら、私行き場がないんだもの』って言うのよ。	///既然那么不乐意回家，那么练琴时间以外也来我家玩好了。她一下子扑到我身上，说，‘太谢谢了。要是没老师您，我真不知怎么才好。别嫌弃我，要是您都嫌弃，我就没地方可去了。’”
1786	///亭主なんてもう足もとにも及ばないくらいなの。ひと撫でされるごとに体のたがが少しずつ外していくのがわかるのよ。それくらいすごいの。気がついたら彼女私のブラウス脱がせて、私のブラ取って、私のおっぱいを撫でてるのよ。それで私やっとわかったのよ、この子筋金入りのレズビアンなんだって。私前にも一度やらしたことあるの。高校のとき、上級の女の子に。それで私、駄目、よしなさいって言ったの。	///等我明白过来时，她已脱掉我的衬衫，摘下我的胸罩。这时我才清醒过来，知道这孩子是个地地道道的女同性恋者。以前我也曾经历过一次，高中时跟一个高年级女生。我对那女孩儿说不行，快住手。 "
1788	///どういうわけか体が全然動かないのよ。高校のときはうまくはねのけることができたのに、そのときは全然駄目だったわ。体がいうときかなくて。その子は左手で私の手を握って自分の胸に押しつけて、唇で私の乳首をやさしく噛んだり舐めたりして、お手で私の背中やらわき腹やらお尻やらを愛撫してたの。カーテンを閉めた寝室で十三歳の女の子に裸同然にされて——その頃はもうなんだかわからないうちに一枚一枚服を脱がされてたの——愛撫されて悶えてるなんて今思うと信じられないわよ。	///但不知什么缘故，身体却一点动弹不得。高中时还可以把对方一把推开，可那时就是身不由已，如同着了魔一样，只会一口一个不行。”
1794	///そんなこと私の口から言えないわよ、とても。そういうのってね、男の人のごつごつした指でやられるのと全然違うのよ。凄いのよ、本当。まるで羽毛でくすぐられてるみたいで。私もう頭のヒューズがとんじゃいそうだったわ。でもね、私、ボオッとした頭の中でこんなことしてちゃ駄目だと思ったの。一度こんなことやったら延々とこれをやりつづけることになるし、そんな秘密も抱えこんだら私の頭はまたこんがらがるに決まっているんだもの。	///然而，尽管血冲头顶，我还是意识到这样万万使不得。一来这种勾当一旦开头往后势必不断持续下去。而如果背上这个秘密包袱，我的脑袋笃定又要四分五裂；
1795	///そして子供のことを考えたの。子供にこんなところ見られたらどうしようってね。子供は土曜日は三	///二来我还考虑到孩子，这种场面被孩子撞见可怎么办？虽说孩子星期六去

	時くらいまで私の実家に遊びに行くことになっていたんだけれど、もし何かがあって急にうちに帰ってきたりしたらどうしようってし。そう思ったの。それで私、全身の力をふりしぼって起きあがって『止めて、お願い!』って叫んだの。	我娘家玩，要到３点才能回来，但要是突然赶回来又如何收场呢？这么一想，我就拿出吃奶力气翻身坐起，叫一声‘住手快住手！’但她就是不听。”
1797	『止めなさい』ってもう一度どなって、その子の頬を打ったの。思いきり。それで彼女やっとやめたわ。そして体を起こしてじっと私を見たの。私たちそのとき二人ともまるっきりの裸でね、ベッドの上に身を起こしてお互いをじっと見つめあったわけ。その子は十三で、私は三十一で……でもその子の体を見てると、私なんだか圧倒されちゃったわね。今でもありありと覚えているわよ。あれが十三の女の子の肉体だなんて私にはとても信じられなかったし、今でも信じられないわよ。あの子の前に立つと私の体なんて、おいおい泣きだしたいくらいみっともない代物だったわ。本当よ」	"'住手！’我又一声大叫，打她一个嘴巴，狠狠地。她这才总算作罢，抬起身来目不转睛地看着我。当时我们两人都坐在床上面面相觑。她１３，我３１……。但我一看那女孩的身体真有些自惭形秽，如今仍然历历在目。我怎么也不能相信那就是１３岁女孩的身子，现在都不能相信。往那女孩面前一站，自己这身子算什么东西呀，简直惨不忍睹，恨不得张大嘴呜呜哭上一场，真的。”
1810	「まあ、そういうことよ、だいたい」とレイコさんは小指の先で眉のあたりを掻きながら言った。「その女の子が出ていってしまうと、私しばらく椅子に座ってボオッとしていたの。どうしていいかよくわかんなくて。体のずうっと奥の方から心臓の鼓動がコトッコトッて鈍い音で聞こえて、手足がいやに重くて、口が蛾でも食べたみたいにかさかさして。でも子供が帰ってくるからとにかくお風呂に入ろうと思って入ったの。そしてあの子に撫てられたり舐められたりした体をとにかくきれいに洗っちゃおうって思ったの。	玲子边说边用小指尖搔着眼眶。“再说那个女孩。她出门走后，我坐在椅子上发呆发了半天，茫然若失。只听得从体内很深很深的地方传来心脏‘突突’的跳声，手脚沉重得出奇，口中就像吃过飞蛾似地干苦干苦。但想到小孩就要回来，不管怎样得先洗个澡，把身体洗得一干二净。
1817	『どんなのって言われても、すごく言いにくいのよ』	"'怎么样的？实实在在不好开口’”
1820	『私、あなたのこと昔から知ってるし、そういう人じゃないってみんなに言ったのよ』ってその人は言ったわ。『でもね、その女の子の親はそう信じこんでいて、近所の人みんなにそのこと言いふらしてるのよ。娘があなたにいたずらされたっていうんで、あなたのこと調べてみたら精神病の病歴があることがわかったってね』	"我嘛，以前就了解你，告诉大伙说你不是那样的人。’那太太说，‘问题是，那女孩儿的父母确信不疑，对邻近的人统统张扬一遍。说什么由于女儿被你动过手脚，就调查了你，结果知你有过精神病史。’”
1823	でもだからといってその子の話を信じたみんなを責めるわけにはいかないわよ。私だって信じたと思うもの、もしそういう立場に置かれたら。お人形みたいにきれいで悪魔みたいに口のうまい女の子がしくしく泣きながら『嫌よ。私、何も言いたくない。恥かしいわ』なんて言って打ちあけ話したら、そりゃみんなコロッと信じちゃうわよ。	"可话又说回来，也不能怪罪大伙相信女孩儿的话。连我都会信的，假如处在那种立场漂亮得活像个洋布娃娃而扯起谎来如同恶魔附体的女孩儿，一边抽抽嗒嗒地哭一边说‘我不嘛，我什么都不想说，我害羞’——给她这么一说，有谁能不当即信以为真呢！
1825	何日かずいぶん迷ったあとで思いきって夫に話してみたんだけど、彼は信じてくれたわよ、もちろん。私、あの日に起ったことを全部彼に話したの。レズビアンのようなことをしかけられたんだ、それで打ったんだって。もちろん感じたことまでは言わなかったわよ。それはちょっと具合わるいわよ、いくらなんでも。『冗談じゃない。俺がそこの家に行って直談判してきてやる』って彼はすごく怒って言ったわ。『だって君は僕と結婚して子供までいるんだぜ。なんでレズビアンなんて言われなきゃならないんだよ。そ	"几天来我思前想后，最后还是心一横，告诉了丈夫。他相信了，当然。我把那天发生的事一五一十跟他说了一遍，说那女孩儿动手动脚地要搞什么同性恋那样的鬼名堂，所以才打了她。自然没有把自己的感受也说出来。那毕竟不大合适，不管怎么说。‘这可不是儿戏，我直接找那家摊牌去！’他大为恼火，‘岂有此理！你和我结婚，小孩都有了，居然还被人胡说什么搞同性恋，哪有这样

	んなふざけた話あるものか』って。	的混帐玩笑！’”
1838	彼は私にとても良くしてくれたわよ。彼は信頼できる誠実な人だし、力強いし辛棒強いし、私にとっては理想的な夫だったわよ。彼は私を癒そうと精いっぱい努力したし、私もなおろうと努力したわよ。彼のためにも子供のためにもね。そして私ももう癒されたんだと思ってたのね。結婚して六年、幸せだったわよ。彼は九九パーセントまで完璧にやってたのよ。でも一パーセントが、たったの一パーセントが狂っちゃったのよ。	"他对我好得无可挑剔。他为人真诚，值得信赖，性格坚毅，富有耐性，对我是理想的丈夫。为了治愈我的病，他尽了最大努力，为了他和孩子，我也主动地配合，而且我也觉得好利索了。婚后６年，真叫幸福啊！他百分之九十九做得完美无缺，但是百分之一，只有百分之一马虎大意了，于是就‘砰’的一声。
1843	空はさっきよりもっと暗く雲に覆われ、月もすっかり見えなくなってしまっていた。今では雨の匂いが僕にも感じられるようになっていた。そして手に持った袋の中の若々しい葡萄の匂いがそこにまじりあっていた。	天空比刚才阴沉了，布满乌云，月亮早已无影无踪。现在，连我都能感到风雨欲来的气息——连同手中塑料袋里水灵灵的葡萄的气味。
1875	雨は朝になってもまだ降りつづいていた。昨夜とはちがって、目に見えないくらいの細い秋雨だった。水たまりの水紋と軒をつたって落ちる雨だれの音で雨が降っていることがやっとわかるくらいだった。目をさましたとき窓の外には乳白色の霧がたれこめていたが、太陽が上るにつれて霧は風に流され、雑木林や山の稜線が少しずつ姿をあらわしてきた。	翌日清晨，雨仍下个不停。但和昨晚不同，成了毛毛秋雨，四下一片迷蒙。若非一洼洼积雨的水纹和顺檐滴落的雨点声，几乎察觉不出在下雨。睁眼醒来时，窗外笼罩着乳白色的雾霭，随着太阳的升起而随风流去，于是杂木林和山脉的棱线一点点显露出来。
1882	「あれ冷凍しちゃいたいわね」と直子が憂鬱そうに言った。「毎朝あれ聞かされてると本当に頭がおかしくなっちゃいそうだわ」	"真恨不得这家伙一下子冻死。”直子闷闷不乐地说，“每天一大清早就听它说这个，脑袋真快要神经了。”
1884	門に着くまでに何人もの人とすれちがったが、誰もみんな直子たちが着ていたのと同じ黄色い雨合羽を着て、頭にはすっぽりとフードをかぶっていた。雨のおかげであらゆるものの色がくっきりとして見えた。地面は黒々として、松の枝は鮮かな緑色で、黄色の雨合羽に身を包んだ人々は雨の朝にだけ地表をさまようことを許された特殊な魂のように見えた。彼らは農具や籠や何かの袋を持って、音もなくそっと地表を移動していた。	去大门口的路上，和好几个人擦肩而过。我发现每人都穿着直子玲子那种黄色雨衣，脑袋罩得严严实实。由于下雨，所有东西的色调显得格外鲜明。地面乌黑乌黑，松枝翠绿翠绿，而身裹黄色雨衣的行人看上去仿佛唯一被允许在落雨的早晨在地表面游动的特殊魂灵。他们或拿农具或背筐篓或提一种什么袋子，悄无声响地在地面往来移动。
1893	よくわからないけれど、そういう評判はあまり耳にしたことはないと僕は答えた。僕がそう言うと、彼は少しがっかりしたみたいだった。老人はもっと話していたそうだったけれど、バスの時間があるからと言って僕は話を切りあげ、道路に向って歩きはじめた。川沿いの道にはまだところどころに霧のきれはしが残り、それが風に吹かれて山の斜面を彷徨していた。僕は道の途中で何度も立ちどまってうしろを振り向いたり、意味なくため息をついたりした。	我说不太清楚，也没怎么听到这方面的议论。他显得有点失望。老人似乎还想唠叨下去，我说还要赶车，截住话头，往道路那边走去。沿河边伸展的山路还断断续续剩有一些雾气，被风一吹，在山坡前彷徨不定。路上，我好几次停住脚回头张望，情不自禁地喟然叹息。
1904	///あの月の光の下で見た裸の直子のことを思い、そのやわらかく美しい肉体が黄色い雨合羽に包まれて鳥小屋の掃除をしたり野菜の世話をしたりしている光景を想い浮かべた。そして僕は勃起したペニスを握り、直子のことを考えながら射精した。射精してしまうと僕の頭の中の混乱も少しは収まったようだったが、そしでもなかなか眠りは訪れなかった。ひどく疲れていて眠くて仕方がないのに、どうしても眠ることができないのだ。	///回味月光下目睹的直子裸体，想象那黄色雨衣围裹的丰腴匀称的胴体清扫鸟舍、侍弄蔬菜的情景。一泄而出之后，混乱的头脑似乎才有所平息，但还是毫无睡意。本来折腾得够疲乏了，却无论如何也不能成眠。
1905	僕は起きあがって窓際に立ち、中庭の国旗掲揚台をしばらくぼおっと眺めていた。旗のついていない	我翻身下床，在窗口前对着升旗台茫然注视良久。那没有挂旗的白色旗杆，

	白いポールはまるで夜の闇につきささった巨大な白い骨のように見えた。直子は今頃どうしているだろう、と僕は思った。もちろん眠っているだろう。あの小さな不思議な世界の闇に包まれてぐっすりと眠っているだろう。彼女が辛い夢を見ることがないようにと僕は祈った。	活像一具划破夜幕的白骨。直子现在做什么呢？是在睡觉吧？是在那不可思议的狭小天地的暗影中安然入睡吧？但愿她别再陷入痛苦的梦境。
1970	「でもあなたはそういうことしないと思うな。なんとなくわかるのよ、そういうのが。押しつけたり押しつけられたりすることに関しては私はちょっとした権威だから。あなたはそういうタイプではないし、だから私あなたと一緒にいると落ちつけるのよ。ねえ知ってる?世の中にはいろんなもの押しつけたり押しつけられたりするのが好きな人ってけっこう沢山いるのよ。そして押しつけた、押しつけられたってわいわい騒いでるの。そういうのが好きなのよ。でも私はそんなの好きじゃないわ。やらなきゃ仕方ないからやってるのよ」	"但我觉得你不会那样，这我看得出来。在强加于人和被人强加这点上，我还算是个小小的权威。你不属于那种类型，所以同你一起才心里安然。嗳你知道么，世上喜欢强加于人或被人强加的人还有相当一大批哩！他们为此争吵不休，相互扯皮，并且乐此不疲。可我就是不喜欢，除非非那样不可。”
1971	「どんなものを押しつけたり押しつけられたりしているの君は?」	"你强加给人什么或别人强加给你什么了，你？”
2002	「いいのよ、アルバイトのお金入ったし、それに私が誘ったんだもの」と緑は言った。「もちろんあなたが筋金入りのファシストで女に酒なんかおごられたくないと思ってるんなら話はべつだけど」	"算啦，你那钱是汗水钱，再说又是我拉你来的。”绿子说，“当然喽，如果你是铁杆法西斯，不乐意被女人请酒，倒另当别论。”
2016	「あなたと二人で海賊につかまって裸にされて、体を向いあわせにぴったりとかさねあわせたまま紐でぐるぐる巻きにされちゃうの」	"想我俩被海盗抓住，被他们浑身扒光，五花大绑地脸对脸捆在一起”。
2020	「そして一時間後には海に放り込んでやるから、それまでその格好でたっぷり楽しんでなって言って船倉に置き去りにされるの」	"一小时后把你们扔进大海。在那之前让你们单独呆在船舱里好好受用，海盗说。”
2063	「あなたフェラチオされるの嫌?」	"你讨厌那个？”
2111	「そんなことわからないでどうするんだよ、何考えて生きてるんだお前?これでおしまいよ。そんなのないわよ。そりゃ私そんなに頭良くないわよ。庶民よ。でも世の中を支えてるのは庶民だし、搾取されてるのは庶民じゃない。庶民にわからない言葉ふりまわして何が革命よ、何が社会変革よ!私だってね、世の中良くしたいと思うわよ。もし誰かが本当に搾取されているのならそれはやめさせなくちゃいけないと思うわよ。だからこそ質問するわけじゃない。そうでしょ?」	"说我连这个都不懂是干什么吃的。‘你一天天活着都想什么来着！’这就完了。岂有此理！是的，我脑袋是不好使，普通小民嘛！可支撑这世界的不就是小民吗？被剥削的不也是小民吗？口口声声兜售一大堆小民们不知所云的话，那算什么革命，算什么社会变革！我也不是不想让世界变好！要是有谁真的受剥削，我也不想让他逆来顺受嘛！所以我才提问，是不是？”
2116	「ある日私たち夜中の政治集会に出ることになって、女の子たちはみんな一人二十個ずつの夜食用のおにぎり作って持ってくることって言われたの。冗談じゃないわよ、そんなの完全な性差別じゃない。でもまあいつも波風立てるのもどうかと思うから私何も言わずにちゃんとおにぎり二十個作っていったわよ。梅干し入れて海苔まいて。そうしたらあとでなんて言われたと思う?小林のおにぎりは中に梅干ししか入ってなかった、おかずもついてなかったって言うのよ。他の女の子のは中に鮭やらタラコが入っていたし、玉子焼なんかがついてたりしたんですって。	"一天，要去参加一个夜间政治集会。叫我们女孩儿每人各做二十个饭团，带去作夜宵。开玩笑，这岂不是彻头彻尾的性别歧视？不过转念一想，总兴风作浪也不太好，我也一声没吭地乖乖做了二十个，每个都放了酸梅干，用海苔包好。结果你猜怎么着，说怎么小林的饭团里只有酸梅干，连菜都没放，而其他女孩儿都放有鲑鱼或咸明太鱼子，还有放煎蛋的。
2119	「六月にやめたわよ、あんまり頭に来たんで」と緑は言った。「でもこの大学の連中は殆んどインチキよ。みんな自分が何かをわかってないことを人に知	" 6 月份退出了。头都气炸了。”绿子说。“不过，这所大学的男男女女差不多全都是江湖骗子，都生怕自己不学无

	られるのが怖くってしようがなくてビクビクして暮してるのよ。それでみんな同じような本を読んで、みんな同じような言葉ふりまわして、ジョン・コルトレーン聴いたりパゾリー二の映画見たりして感動してるのよ。そういうのが革命なの?」	术的真面目被人看穿，惶惶不可终日。于是就都看同样的书，喷吐同样的话，都听约翰·科尔德林，看帕佐里尼的电影，还觉得津津有味。这能算得上革命？”
2121	「こういうのが革命なら、私革命なんていらないわ。私きっとおにぎりに梅干ししか入れなかったっていう理由で銃殺されちゃうもの。あなただってきっと銃殺されちゃうわよ。仮定法をきちんと理解してるというような理由で」	"假如这也算是革命，我才不希罕什么革命！我肯定因为只往饭团里放酸梅干而被拉去枪毙。你也定然同样下场——由于能彻底弄懂假定形的缘故。”
2140	緑の父親は二人部屋の手前のベッドに寝ていた。彼の寝ている姿は深手を負った小動物を思わせた。横向きにぐったりと寝そべり、点滴の針のささった左腕をだらんとのばしたまま身動きひとつしなかった。やせた小柄な男だったが、これからもっとやせてもっと小さくなりそうだという印象を見るものに与えていた。頭には白い包帯がまきつけられ、青白い腕には注射だか点滴の針だかのあとが点々とついていた。	绿子父亲住的是两人一个的房间，他躺在前面那张床上。躺着的姿势，不禁使人想起身负重伤的小动物。他侧着脸，瘫痪般地躺在那里，打点滴的左臂软绵绵地探出，身子纹丝不动。给人的印象是：他本来就长得又瘦又小，而这以后似乎还要更加瘦小下去。头上缠着白绷带，苍白的胳膊上点点布满注射或打点滴的遗痕。
2142	その目を見ると、この男はもうすぐ死ぬのだということが理解できた。彼の体には生命力というものが殆んど見うけられなかった。そこにあるものはひとつの生命の弱々しい微かな痕跡だった。それは家具やら建具やらを全部運び出されて解体されるのを待っているだけの古びた家屋のようなものだった。乾いた唇のまわりにはまるで雑草のようにまばらに不精髭がはえていた。これほど生命力を失った男にもきちんと髭だけははえてくるんだなと僕は思った。	一看那眼睛，便可知道他已不久人世。从他身上，几乎看不到生命力的跃动，有的不过是垂危生命的蛛丝马迹而已，就像一座破旧的房屋——一座搬出所有家具和拉门隔扇而只等拆毁的房屋。干裂的嘴唇四周，乱糟糟地生着杂草样的胡子。我不由纳闷，生命力枯竭到如此地步的人居然会生出这等繁茂的胡须。
2149	「そこに座っててよ」と緑はベッドの足もとにある丸いビニールの椅子を指した。僕は言われたとおりそこに腰を下ろした。緑は父親に水さしの水を少し飲ませ、果物かフルーツ・ゼリーを食べたくないかと訊いた。〈いらない〉と父親は言った。でも少し食べなきゃ駄目よと緑が言うと、〈食べた〉と彼は答えた。	"坐呀。”绿子指着床腿旁一把圆塑料椅说。我便顺从地弯腰坐下。绿子给父亲喝了一点壶里的水，问道要不要吃水果或果子冻。父亲说不要。绿子说还是要吃点才是。“吃了。”他回答。
2208	///ときどきそんな響きを圧して、医者や看護婦を呼びだす放送が流れた。僕がテーブルを確保しているあいだに、緑が二人分の定食をアルミニウムの盆にのせて運んできてくれた。クリーム・コロッケとポテト・サラダとキャベツのせん切りと煮物とごはんと味噌汁という定食が病人用のものと同じ白いプラスチックの食器に盛られて並んでいた。僕は半分ほど食べてあとを残した。緑はおいしそうに全都食べてしまった。	还不时地响起比这回声还大的广播，呼叫医生护士。在我占据餐桌的时间里，绿子用铝盘端来两人的份饭。有奶油炸肉饼、土豆色拉、生甘蓝丝、炖菜、米饭和酱汤，装在患者用的那种白塑料碗碟里。我吃一半剩了一半。绿子则吃得很香，一扫而光。
2236	一時半になると奥さんはちょっと買物してくるからと言って病室を出て行った。病人は二人ともぐっすりと眠っていた。午後の穏かな日差しが部屋の中にたっぷりと入りこんでいて、僕も丸椅子の上で思わず眠り込んでしまいそうだった。窓辺のテーブルの上には白と黄色の菊の花が花瓶にいけられていて、今は秋なのだと人々に教えていた。病室には手つかずで残された昼食の煮魚の甘い匂いが漂っていた。看護婦たちはあいかわらずコツコツという音を立てて廊下を歩きまわり、はっきりとしたよく通る	1点半时，那太太说去买点东西，离开病房。两个病人都睡得很实。午后柔和的阳光泻满房间，我也不由得在椅子上昏昏欲睡。窗边桌面的花瓶里插着黄白两色菊花，告诉人们已是秋天时节。病房里荡漾着午间原封不动剩下来的炖鱼的腥味儿。护士们依然“咯噔咯噔”地在走廊里走来走去，交谈声听起来分外清脆悦耳。

	声で会話をかわしていた。	
2251	明日の朝洗濯して干してから、十時の講義に出ます。この講義はミドリさんと一緒なんです。『演劇史Ⅱ』で、今はエウリピデスをやっています。エウリピデス知ってますか?昔のギリシャ人で、アイスキュロス、ソフォクレスとならんでギリシャ悲劇のビッグ・スリーと言われています。最後はマケドニアで犬に食われて死んだということになっていますが、これには異説もあります。これがエウリピデスです。僕はソフォクレスの方が好きですけどね、まあこれは好みの問題でしょうね。だからなんとも言えないです。	"明天一早洗完衣服晾好，１０点钟去上课。这门课同小绿子一起上，是‘戏剧史Ⅱ’，眼下正讲欧里庇得斯。欧里庇得斯您知道吗？是古希腊人，和埃斯库罗斯、索福克勒斯并称希腊三大悲剧作家。据说最后在马其顿被狗吃了，但也有不同观点。这是指欧里庇得斯，我倒更喜欢索福克勒斯。这恐怕是各有所好的问题，很难说是因为什么。”
2252	彼の芝居の特徴はいろんな物事がぐしゃぐしゃに混乱して身動きがとれなくなってしまうことなんです。わかります?いろんな人が出てきて、そのそれぞれにそれぞれの事情と理由と言いぶんがあって、誰もがそれなりの正義と幸福を追求しているわけです。そしてそのおかげで全員がにっちもさっちもいかなくなっちゃうんです。そりゃそうですよね。みんなの正義がとおって、みんなの幸福が達成されるということは原理的にありえないですからね、だからどうしようもないカオスがやってくるわけです。	"他戏剧的特征是各种各样的事物一古脑儿搅在一起，人在里边根本施展不开身手。明白么？就是很多人一齐出场，每个人都有每个人的情况、缘由和道理，每个人都在追求自以为是的正义与幸福。这倒可以理解。但所有人的正义都大行其道、所有人的幸福都圆满获得，客观上是不可能的。而必然导致混乱状态的出现。
2286	「公園でぼおっとしてたの」と彼女は言った。「あなたに言われたように、一人で何もしゃべらずに、頭の中を空っぽにして」	"在公园放松了好一大阵子。”她说，“照你说的，独自一人，什么也不说，让脑袋处于真空状态。”
2299	///私、目の前が一瞬まっ暗になっちゃった。そういうのって、この病気の特徴なのよ。何かが脳のどこかを圧迫して、人を苛立たせて、それであることないこと言わせるのよ。それはわかっているの私にも。でもわかっていても傷つくわよ、やはり。これだけ一所懸命やっていて、その上なんでこんなこと言われなきゃならないんだってね。情なくなっちゃうの」	///听得我，眼前顿时漆黑一团。这就是这种病的特点。什么东西在压迫大脑的某一部位，让人心烦意躁，有的也说没的也说。这个我也明白的。虽说明白也还是伤感情。人家这么拼死拼活地照料，却还要听这些话，心里憋屈透了。”
2310	そういう話をボツボツとしてくれるの。福島から上野に戻るあいだ。そして最後にいつもこういうの。どこいったって同じだぞ、ミドリって。そう言われるとね、子供心にそうなのかなあって思ったわよ」	"从福岛回上野的时间里，他断断续续地讲的就是这些。而且最后总忘不了补上这么一句：去哪里都一样，绿子。给他那么一说，也就以为可能真是那样，小孩子嘛。”
2368	///おそらく死ぬときの彼はもっと小さく縮んでいたのだろうと僕は想像した。そして高熱炉で焼かれて灰だけになってしまったのだ。彼があとに残したものといえば、あまりぱっとしない商店街の中のあまりぱっとしない本屋と二人の――少くともそのうちの一人はいささか風変りな――娘だけだった。それはいったいどのような人生だったんだろう、と僕は思った。彼は病院のベッドの上で、切り裂かれて混濁した頭を抱え、いったいどんな思いで僕を見ていたのだろう?	///在我的想象里，死时的他可能蜷缩得愈发瘦小，而后在高温炉里化为灰烬。他身后留下来的，只有那间位于商店街中间的不甚起眼的书店和两个女儿——至少其中一个还有些神神经经的味道。我想，他的一生到底是怎样的呢？在医院的病床上，他在那颗被切开的混沌脑袋的折磨下，是以怎样的心情看待我的呢？
2377	「これもうすぐ終るから待ってろよ」と永沢さんは言って、スペイン語の発音の練習をした。僕は自分で湯をわかし、ティーバッグで紅茶を作って飲んだ。スペイン人の女性が例文を読み上げた。「こんなひどい雨ははじめてですわ。バルセロナでは橋がいくつも流されました」。永沢さんは自分でもその例文を読んで発音してから「ひどい例文だよな」と言った。「外国語講座の例文ってこういうのばっかりなんだから	"马上就结束，等等。”永泽说完，便练习西班牙的发音。我自己动手烧水，用袋装茶穿泡了红茶来喝。一位西班牙女子朗读例句：“这么厉害的雨还是头一次，巴塞罗那有好几座桥被冲跑了。”永泽自己也读那例句，发完音后，“好凶的例句，”他说，“外语讲座的例句怎么全是这类货色，荒唐！”

	まったく」	
2390	「いや最初の一年間は国内研修だね。それから当分は外国にやられる」	"不。开始第一年是国内进修，接下去就要被弄往国外。”
2422	「あれは努力じゃなくてただの労働だ」と永沢さんは簡単に言った。「俺の言う努力というのはそういうのじゃない。努力というのはもっと主体的に目的的になされるもののことだ」	"那不是努力，只是劳动”永泽断然说道。“我所说的努力与这截然不同。所谓努力，指的是主动而有目的的活动。”
2429	水沢さんが選んだ店は麻布の裏手にある静かで上品なフランス料理店だった。永沢さんが名前を言うと我々は奥の個室に通された。小さな部屋で壁には十五枚くらい版画がかかっていた。ハツミさんが来るまで、僕と永沢さんはジョセフ・コンラッドの小説の話をしながら美味しいワインを飲んだ。永沢さんは見るからに高価そうなグレーのスーツを着て、僕はごく普通のネイビー・ブルーのブレザー・コートを着ていた。	永泽选的饭店位于麻布后面，是一家安静而高雅的法国风味餐馆，永泽道出姓名后，我们被领到里面的单间。房间不大，墙上挂有十五、六幅版画。等初美的时间里，我们边喝美味的葡萄酒边谈论康拉德的小说。永泽身穿显然相当高级的灰色西装，我穿的则是普通的海军蓝运动衫。
2454	「ワタナベには好きな女の子がいるんだよ」と永沢さんが言った。「でもそれについてはこの男は一言もしゃべらないんだ。なにしろ口が固くてね。全ては謎に包まれているんだ」	"渡边有喜欢的女孩儿。”永泽开口道，“可这小子就是只字不提，嘴巴牢得很。简直是个谜。”
2468	「ちゃんと話せよ。かまわないよ」と永沢さんが言った。まずいことになってきたなと僕は思った。時々酒が入ると永沢さんは意地がわるくなることがあるのだ。そして今夜の彼の意地のわるさは僕に向けられたものではなく、ハツミさんに向けられたものだった。それがわかっていたもので、僕としても余計に居心地がわるかった。	"你就交待嘛，那有什么。”永泽说。+++我意识到情况不妙。一喝起酒，永泽往往变得居心不良。况且，今晚他那居心不良并非对我，而是针对初美的。这点显而易见，作为我就更加居中为难了。
2490	そこでドアが開いて料理が運ばれてきた。永沢さんの前には鴨のローストが運ばれ、僕とハツミさんの前には鱒の皿が置かれた。皿に温野菜が盛られ、ソースがかけられた。そして給仕人が引き下がり、我々はまた三人きりになった。永沢さんは鴨をナイフで切ってうまそうに食べ、ウィスキーを飲んだ。僕はホウレン草を食べてみた。ハツミさんは料理には手をつけなかった。	这时门被打开了，侍者端菜进来。永泽面前摆的是烤鸭，我和初美面前放上一盘鲈鱼。盘里还盛有加热过的青菜，上面浇有调味汁。侍者退下后，又只剩下我们三人。永泽用刀切开烤鸭，吃得津津有味，还不时喝口威士忌。我尝了尝菠菜。初美则没有动手。
2517	皿が下げられて、レモンのシャーベットとエスプレッソ・コーヒーが運ばれてきた。永沢さんはどちらにもちょっと手をつけただけで、すぐに煙草を吸った。ハツミさんはレモンのシャーベットにはまったく手をつけなかった。やれやれと思いながら僕はシャーベットをたいらげ、コーヒーを飲んだ。ハツミさんはテーブルの上に揃えておいた自分の両手を眺めていた。ハツミさんの身につけた全てのものと同じように、その両手はとてもシックで上品で高価そうだった。	碟子撤去后，端来柠檬汁和蒸馏咖啡。永泽每样都浅尝而止，随即吸起烟来。初美则根本没动柠檬汁，我不由庆幸，一口气把柠檬汁喝光后，接着啜咖啡。初美望着自己并放在桌面的双手。那手同她身上着的所有东西一样，显得非常高贵，楚楚动人。
2518	///僕は直子とレイコさんのことを考えていた。彼女たちは今頃何をしているんだろう?直子はソファーに寝転んで本を読み、レイコさんはギターで『ノルウェイの森』を弾いているのかもしれないなと僕は思った。僕は彼女たち二人のいるあの小さな部屋に戻りたいという激しい想いに駆られた。俺はいったいここで何をしているのだ?	///我想起直子和玲子——她俩现在做什么呢？想必直子躺在沙发上看书，玲子用吉他弹《挪威的森林吧》吧。我油然腾起一股不可遏止的冲动，恨不能马上返回那小小的房间。我在这里到底干的是什么？
2521	「まさか」と僕は言った。「僕はそれほど強い人間じゃありませんよ。誰にも理解されなくていいと思っ	"难说。”我答道，“我不是那样的强者，也并不认为不被任何人理解也无所

	ているわけじゃない。理解しあいたいと思う相手だっています。ただそれ以外の人々にはある程度理解されなくても、まあこれは仕方ないだろうと思っているだけです。あきらめてるんです。だから永沢さんの言うように理解されなくたってかまわないと思っているわけじゃありません」	谓，希望相互理解的对象也是有的。只不过对除此以外的人，觉得在某种程度上即使不被理解也无可奈何，这是不可强求的事。因此，我并不是像永泽君说的那样，以为人家不理解也无关紧要。”
2523	「永沢君、あなたは私にもべつに理解されなくったっていいと思ってるの?」とハツミさんが訊いた。	"永泽，你认为不被我理解也可以的？”初美问。
2544	ハツミさんは腕組みをして目をつぶり、タクシーの座席の隅によりかかっていた。金の小さなイヤリングが車の揺れにあわせてときどききらりと光った。彼女のミッドナイト・ブルーのワンピースはまるでタクシーの片隅の闇にあわせてあつらえたように見えた。淡い色あいで塗られた彼女のかたちの良い唇がまるで一人言を言いかけてやめたみたいに時折ぴくりと動いた。そんな姿を見ていると永沢さんがどうして彼女を特別な相手として選んだのかわかるような気がした。	初美拱手闭目，倚在车座的角落里。随着车身的晃动，小小的金耳环不时闪闪烁烁。她那深蓝色的连衣裙，简直就像按照车座角落那片黑暗做成的一样。涂着淡淡颜色的形状妖美的嘴唇不时地陡然一动，仿佛一个人欲言又止。目睹她这副风度情态，我似乎明白了永泽所以选择她作为特别对象的缘由。
2576	///彼女と一緒にいると僕は人生を一段階上にひっぱりあげられたような気がした。三ゲームを終えたところで——もちろん三ゲームめも彼女が圧勝した——僕の手の傷が少しうずきはじめたので我々はゲームを切りあげることにした。	///只消和她在一起，我就恍惚觉得自己的人生被拽上了更高一级阶梯。三局结束的时候——当然她是三连胜——我手上的伤口开始隐隐作痛，我们便到此为止。
2616	「でもね、ワタナベ君。私はそんなに頭の良い女じゃないのよ。私はどっちかっていうと馬鹿で古風な女なの。システムとか責任とか、そんなことどうだっていいの。結婚して、好きな人に毎晩抱かれて、子供を産めればそれでいいのよ。それだけなの。私が求めているのはそれだけなのよ」	"可是渡边君，我并不是脑袋好使的女人，总的说来，有些迂腐和古板。什么人生观啦责任啦，怎么都无所谓。结了婚，每晚给心上人抱在怀里，生儿育女就足够了，别无他求。我所追求的只是这个。”
2619	「社会に出て世間の荒波に打たれ、挫折し、大人になり……ということ?」	"你是说，到社会上几经风雨，几遭挫折，然后成熟起来……？ ”
2621	「それは普通の人間の話です」と僕は言った。「普通の人間だったらまあそういうのもあるでしょうね。でもあの人は別です。あの人は我々の想像を越えて意志の強い人だし、その上毎日毎日それを補強してるんです。そして何かに打たれればもっと強くなろうとする人なんです。他人にうしろを見せるくらいならナメクジだって食べちゃうような人です。そんな人間にあなたはいったい何を期待するんですか?」	"那是就普通人而言。”我说，“若是普通人，或许会那样。但那个人另当别论。那人的意志比我们的还要坚强，而且每天每日都在不断加强，越是遭受打击越是自强不息。他甚至宁肯生吞蛞蝓也不在人前认输。对这样的人你还能指望什么呢？ ”
2709	僕は肯いて、それ以上は何も言わなかった。ウィスキー・ソーダの二杯目を注文し、ピスタチオを食べた。シェーカーが振られたり、グラスが触れあったり、製氷機の氷をすくうゴソゴソという音がしたりするうしろでサラ・ヴォーンが古いラブ・ソングを唄っていた。	我点点头，再未开口接着又要了一杯汽水威士忌，吃着嚼着开心果。店里充满鸡尾酒搅拌器的搅拌声、酒杯相碰声、捞取机制冰块的“哗啦”声，店后又传来莎娜波恩唱古典情歌的唱片声。
2725	「寮の電話は玄関わきのロビーにあってね、みんなそこの前を通って出入りするんだよ」僕は説明した。「そんなところでマスターベーションしてたら寮長に叩き殺されるね、まず間違いなく」	"宿舍的电话在门旁楼厅里，大家都从那里出出进进。”我解释道，“在那地方做，保准给管理主任打个半死，毫无疑问。”
2732	「私ね、背中がすごく感じるの。指ですうっと撫てられると」	"我么，背部非常敏感……”
2735	僕と緑は鰻屋に入って鰻を食べ、それから新宿でも有数のうらさびれた映画館に入って、成人映画三本立てを見た。新聞を買って調べるとそこでしかSM	我和绿子去鳗鱼店吃了鳗鱼，之后走进在新宿也数得上门庭冷落的一家成人电影院，连续看了三部。因为买来报

	ものをやっていなかったからだ。わけのわからない臭いのする映画館だった。うまい具合に我々が映画館に入ったときにそのSMものが始まった。OLのお姉さんと高校生の妹が何人かの男たちにつかまってどこかに監禁され、サディスティックにいたぶられる話だった。	纸一查，只有这里上演黄色电影。场内充斥着莫名其妙的怪味。碰巧的是我们进去时那色情场面刚好开始。讲的是当女职员的姐姐和上高中的妹妹被几个男人抓住，监禁在一个地方，百般遭受淫虐。
2742	「ねえねえ、凄い、あんなことやっちゃうんだ」とか、「ひどいわ。三人もに一度にやられたりしたら壊れちゃうわよ」とか、「ねえワタナベ君。私、ああいうの誰かにちょっとやってみたい」とか、そんなことだ。僕は映画を見ているより、彼女を見ている方がずっと面白かった。	较之看电影，看绿子要有趣得多。
2745	「まあ、そりゃときどきね」と僕は言った。「この映画って、そういう目的のために作られているわけだからさ」	
2757	そう言われてみればたしかにそのとおりだった。	经她这么一说，也的确如此。
2779	///私がわがまま言うと怒るの。そして喧嘩になるの。だからこういうのってあなたにしか言えないのよ。そして私、今本当に疲れて参ってて、誰かに可愛いとかきれいだとか言われながら眠りたいの。ただそれだけなの。目がさめたらすっかり元気になって、二度とこんな身勝手なことあなたに要求しないから。絶対。すごく良い子にしてるから」	///我一任性一撒娇他就发脾气，吵得不欢而散。因此，这些话我只能跟你说。加上我现在的确筋疲力尽，实在想在夸我可爱夸我漂亮的甜言蜜语中睡一觉，别无他求。醒来以后就彻底来个精神焕发，再也不求你干这干那，绝对！一定做个非常乖的乖孩子。”
2780	「そう言われても困るんだよ」と僕は言った。	"可我还是不好办。”我说。
2792	「すごく楽しい」と緑はテーブル席でひと息ついて言った。「こんなに踊ったの久しぶりだもの。体を動かすとなんだか精神が解放されるみたい」	"痛快极了！”绿子在桌旁喘口气说，“许久没这么跳了。四肢一动起来，觉得精神也随之解放了。”
2793	「君のはいつも解放されてるみたいに見えるけどね」	"你看起来总像是解放的嘛。”
2797	「わがままが聞き届けられたからよ」と緑は言った。「それでつっかえがとれちゃったの。でもこのピツァおいしいわね」	"因为那些无理要求你都满足我了嘛，”绿子说，“胸里的闷气也就跑得精光。不过这意大利烧饼还真挺够味儿。”
2802	僕らは山手線に乗って大塚まで行って、小林書店のシャッターを上げた。シャッターには「休業中」の紙が貼ってあった。シャッターは長いあいだ開けられたことがなかったらしく、暗い店内には古びた紙の匂いが漂っていた。棚の半分は空っぽで、雑誌は殆んど全部返品用に紐でくくられていた。最初に見たときより店内はもっとがらんとして寒々しかった。まるで海岸に打ち捨てられた廃船のように見えた。	我们乘上山手线电车，来到大冢，抬起小林书店的卷闸门。卷闸上贴着张纸，写道“暂停营业”。闸门大概好久都没打开过，昏暗的店内荡漾着一股旧报纸气味。书架有一半空空如也，杂志几乎全部打捆，准备退回，整个书店比第一次来时还要空荡凄凉，俨然被冲上岸边的一只废船。
2804	「売ることにしたのよ」と緑はぽつんと言った。「お店売って、私とお姉さんとでそのお金をわけるの。そしてこれからは誰に保護されることもなく身ひとつで生きていくの。お姉さんは来年結婚して、私はあと三年ちょっと大学に通うの。まあそれくらいのお金にはなるでしょう。アルバイトもするし。店が売れたらどこかにアパートを借りてお姉さんと二人でしばらく暮すわ」	"决定卖掉。”绿子不无凄然地说，“卖了，我好和姐姐分钱。以后就独立生活，不用人保护。姐姐来年结婚，我再读三年大学——这点钱总卖得出来吧。另外我还打工。书店一旦脱手，我就和姐姐去哪里租间公寓，暂时两人过活。”
2814	「ねえ、私、悪く言ってるんじゃないのよ。私ね、うまく感情を言葉で表わすことができないのよ。だからしょっちゅう誤解されるの。私が言いたいのは、あなたのことが好きだってこと。これさっき言ったかしら?」	"嗳，我说话可能不大中听，我不善于用语言表达感情，时常被人误解。其实我想说的是：我喜欢你。刚才也说了吧？”

2840	僕は緑の小さなベッドの端っこで何度も下に転げ落ちそうになりながら、ずっと彼女の体を抱いていた。緑は僕の胸に鼻を押しつけ、僕の腰に手を置いていた。僕は右手を彼女の背中にまわし、左手でベッドの枠をつかんで落っこちないように体を支えていた。性的に高揚する環境とはとてもいえない。僕の鼻先に緑の頭があって、その短かくカットされた髪がときどき僕の鼻をむずむずさせた。	于是我倒在绿子那张小床边上，久久抱着她，好几次都险些跌下床去。绿子把鼻子贴着我的胸口，手搭在我腰部。我右手搂着她的背，左手抓住床沿，以免身体跌落。这种环境，实在难以激起亢奋。鼻子底下就是绿子的发，那剪得短短的秀发不时弄得我鼻端痒痒的。
2850	「君にそう言われると心が和むね」と僕は笑って言った。	"给你这么一说，我心里也暖融融的。”我笑道。
2866	僕はビールを飲みながら、台所のテーブルに向って『車輪の下』を読みつづけた。最初に『車輪の下』を読んだのは中学校に入った年だった。そしてそれから八年後に、僕は女の子の家の台所で真夜中に死んだ父親の着ていたサイズの小さいパジャマを着て同じ本を読んでいるわけだ。なんだか不思議なものだなと僕は思った。もしこういう状況に置かれなかったら、僕は『車輪の下』なんてまず読みかえさなかっただろう。	我边喝啤酒，边对着厨房餐桌看《车轮下》。最初看这本书，还是刚上初中那年。就是说，时过 8 年，我又在一个少女家的房里，半夜穿着她亡父穿过的尺寸不够大的睡衣读同一本书。我总觉得有些鬼使神差，若非处在这种情况下，我恐怕一辈子都不至于重读什么《车轮下》。
2869	ベッドのわきには旅行鞄がそのまま置かれ、白いコートが椅子の背にかけてあった。机の上はきちんと整理され、その前の壁にはスヌーピーのカレンダーがかかっていた。僕は窓のカーテンを少し開けて、人気のない商店街を見下ろした。どの店もシャッターを閉ざし、酒屋の前に並んだ自動販売機だけが身をすくめるようにしてじっと夜明けを待っていた。長距離トラックのタイヤのうなりがときおり重々しくあたりの空気を震わせていた。	床旁依然放着旅行包，白外套搭在椅背上。桌面拾掇得整整齐齐，桌前墙上挂着木偶画月历。我拔开一点窗帘，俯视阒无人息的街道。所有的店门都落着卷闸，唯独酒店前排列的自动售货机缩瑟着身子静等黎明的来临。长途卡车胶轮的呻吟声时而滞重地摇颤一下周围的空气。
2872	///近所の人に見られて不審に思われるんじゃないかと心配したが、朝の六時前にはまだ誰も通りを歩いてはいなかった。例によって鴉が屋根の上にとまってあたりを睥睨しているだけだった。僕は緑の部屋の淡いピンクのカーテンのかかった窓を少し見上げてから都電の駅まで歩き、終点で降りて、そこから寮まで歩いた。朝食を食べさせる定食屋が開いていたので、そこであたたかいごはんと味噌汁と菜の漬けものと玉子焼を食べた。そして寮の裏手にまわって一階の永沢さんの部屋の窓を小さくノックした。永沢さんはすぐに窓を開けてくれ、僕はそこから彼の部屋に入った。	///我担心被附近的人发现招致怀疑，好在清早 6 点之前的街上尚无任何人通过。只有乌鸦照例蹲在房顶睥睨四周。我抬头望了一眼绿子房间那垂有粉色布帘的窗口，旋即往都营电车站走去，乘到终点下来，步行赶回宿舍。一家供应早餐的定食店已经开了，我进去用了份热腾腾的米饭、酱汤和咸菜加煎蛋。之后绕到宿舍后院，轻声敲了敲一楼永泽房间的窗户。永泽马上开窗，我爬进他的房间。
2880	私もなるべく暇をみつけては手紙を書くように心懸けてはいるのですが、便箋を前にするといつもいつも私の気持は沈みこんでしまいます。この手紙も力をふりしぼって書いています。返事を書かなくちゃいけないとレイコさんに叱られたからです。でも誤解しないで下さい。私はワタナベ君に対して話したいことや伝えたいことがいっぱいあるのです。ただそれをうまく文章にすることができないのです。だから私には手紙を書くのが辛いのです。	我无时无刻不惦记挤时间回信，但眼前一摊开信笺，心情却总是消沉下去。这封信也是我拿出吃奶力气写的，因为玲子非叫我回信不可。但请你不要误解。其实我有满肚子话要告诉你，只是不能得心应手地写成文字。所以我非常害怕写信。
2883	僕の二十回目の誕生日の三日あとに直子から僕あての小包みが送られてきた。中には葡萄色の丸首のセーターと手紙が入っていた。	过罢２０岁生日的第四天，接到直子寄来的邮包。里面是一件圆领紫色毛衣和一封信。
2894	///お姉さんが結婚したらそこを出てどこかにアパートを借りるのだ、と緑は言った。僕は一度そこに呼	///绿子说，待姐姐结婚后，她就搬出那里，去别处另租一间。我被叫去那里吃

	ばれて昼ごはんを食べさせてもらったが、陽あたりの良い綺麗なアパートで、緑も小林書店にいるときよりはそこでの生活の方がずっと楽しそうだった。	过一次午饭，见公寓很漂亮，光线又好，绿子也显得比在小林书店时快活开朗得多。
2896	///ハツミさんに言われたせいもあるかもしれないけれど、名前も知らないつまらない女の子と寝るよりは直子のことを思い出している方が僕は幸せな気持になれた。草原のまん中で僕を射精へと導いてくれた直子の指の感触は僕の中に何よりも鮮明に残っていた。	///或许被初美开导过的关系，我也觉得与其同素不相识的无聊女孩儿困觉，倒不如想直子更为惬意。直子在草地上给我的手指感触，无比鲜明地留在我身上。
2898	大学が休みに入ると僕は荷物をリュックに詰め、雪靴をはいて京都まで出かけた。あの奇妙な医者が言うように雪に包まれた山の風景は素晴しく美しいものだった。僕は前と同じように直子とレイコさんの部屋に二泊し、前とだいたい同じような三日間を過した。日が暮れるとレイコさんがギターを弾き、我々は三人で話をした。昼間のピクニックのかわりに我々は三人でクロス・カントリー・スキーをした。スキーをはいて一時間も山の中を歩いていると息が切れて汗だくになった。	学校一放假，我就打点行装，穿上雪鞋，往京都进发。正如那位奇妙医生说的，银装素裹的山景的确妖娆动人。我仍像上次那样在直子和玲子的房间住了两夜，度过同上次大同小异的三个白天。暮色降临，玲子便弹起吉他，三人一起聊天。白天没去郊游，而代之以越野滑雪。脚蹬滑雪板，只消在山里奔波一小时，便累得上气不接下气，热汗淋漓。
2913	「どうして私濡れないのかしら?」と直子は小さな声で言った。「私がそうなったのは本当にあの一回きりなのよ。四月のあの二十歳のお誕生日だけ。あのあなたに抱かれた夜だけ。どうして駄目なのかしら?」	"我为什么就不湿呢？”直子低声道。“我出现那种状态，真的只有那一回，只有２０岁生日那天，只有你抱我那个晚上。以后为什么就不行呢？”
2925	寮内ではいくつかトラブルがあった。セクトに入って活動している連中が寮内にヘルメットや鉄パイプを隠していて、そのことで寮長子飼いの体育会系の学生たちとこぜりあいがあり、二人が怪我をして六人が寮を追い出された。その事件はかなりあとまで尾をひいて、毎日のようにどこかで小さな喧嘩があった。寮内にはずっと重苦しい空気が漂っていて、みんながピリピリとしていた。	宿舍院内闹了几场纠纷。自成一派的一伙人把安全帽和铁棍藏在宿舍里，结果同管理主任豢养的体育会派系的学生短兵相接，两人受伤，六人被逐出宿舍。这一事件的余波所及，此后每天总有地方吵吵闹闹，宿舍院内始终笼罩着令人窒息般的气氛，每个人的神经都绷得紧紧的。结果城门失火殃及池鱼，
2926	///僕もそのとばっちりで体育会系の連中に殴られそうになったが、永沢さんが間に入ってなんとか話をつけてくれた。いずれにせよ、この寮を出る頃合だった。	///我也险些惨遭体育会派系学生的殴打，幸亏永泽居中调解，才免受皮肉之苦。总之，是到了退出宿舍的时候。
2941	引越しの三日後に僕は直子に手紙を書いた。新しい住居の様子を書き、寮のごたごたから抜けだせ、これ以上下らない連中の下らない思惑にまきこまれないで済むんだと思うととても嬉しくてホッとする。ここで新しい気分で新しい生活を始めようと思っている。	搬迁后三天，我给直子写信。我写了新居的式样。告诉她自己终于从乱糟糟的宿舍里挣脱出来，从此再也不必受那些无聊家伙的无聊算盘的干扰。每当想到这点，我就觉得不胜欣喜和坦然。准备在此以新的心情开始新的生活。
2942	「窓の外は広い庭になっていて、そこは近所の猫たちの集会所として使われています。僕は暇になると縁側に寝転んでそんな猫を眺めています。いったい何匹いるのかわからないけれど、とにかく沢山の数の猫がいます。そしてみんなで寝転んで日なたぼっこをしています。彼らとしては僕がここの離れに住むようになったことはあまり気に入らないようですが、古いチーズを置いてやると何匹かは近くに寄ってきておそるおそる食べました。	"窗外是一大片庭园，附近的猫们将其作为集会场所。我一得闲，就歪倒在檐廊中观望那些猫。具体多少匹倒不甚清楚，反正数目相当之多，而且都在横躺竖卧地晒太阳。它们似乎不大欢迎我住在这座独房里，但我拿出几块吃剩下的干酪后，有几只便挪步上前，战战兢兢地吃了下去。说不定过几天就会同它们成为好朋友。
2957	仕方なく僕は礼を言って電話を切った。そしてまあ緑が怒るのも無理はないなと思った。僕は引越しと、新しい住居の整備と金を稼ぐための労働に追われて緑のことなんて全く思いだしもしなかったの	没奈何，我便道谢挂断电话。旋即心想也难怪绿子恼火。自己为搬家、安顿新居以及干活赚钱忙得晕头转向，早已把什么绿子抛在脑后。别说绿子，连直

	だ。緑どころか直子のことだって殆んど思い出しもしなかった。僕には昔からそういうところがあった。何かに夢中になるとまわりのことが全く目に入らなくなってしまうのだ。	子也几乎不曾想起。我过去就有这毛病——一旦对什么入了迷，周围的一切便视而不见。
2971	それから僕は余った木材で郵便受けを作り、赤いペンキを塗り名前を書いて戸の前に立てておいた。しかし四月三日までそこに入っていた郵便物といえば転送されてきた高校のクラス会の通知だけだったし、僕はたとえ何があろうとそんなものにだけは出たくなかった。何故ならそれは僕とキズキのいたクラスだったからだ。僕はそれをすぐに屑かごに放りこんだ。	之后，我用余下的木料做了个信箱，涂上红漆，写上名字，竖在门前。而投入的邮件，直到4月3日，只有一张转递来的高中同窗会的通知。其它东西还好，唯独这东西我不愿接触，因为那是我和木月所在的同窗会。我当即将其扔进废纸篓。
2977	私たちは毎日専門医をまじえてセッションをしています。直子と私と医師の三人でいろんな話をしながら、彼女の中の損われた部分を正確に探りあてようとしているわけです。私はできることならあなたを加えたセッションを行いたいと提案し、医者もそれには賛成したのですが、直子が反対しました。彼女の表現をそのまま伝えると『会うときは締綺麗な体で彼に会いたいから』というのがその理由です。問題はそんなことではなく一刻も早く回復することなのだと私はずいぶん説得したのですが、彼女の考えは変りませんでした。	我们每天都同专科医生碰头。直子、我加上医生，三个人一边天南海北地闲聊，一边试图准确地找出她头脑中出故障的部分。我提议说，如果可能，最好把你也加进这碰头会里，医生也表示赞成，但直子反对。按她的说法，理由是“见面就要以完美的面目出现”。我劝她说问题不在那里，而是要争分夺秒地恢复健康，但她不肯改变想法。
2978	前にもあなたに説明したと思いますがここには専門的な病院ではありません。もちろんちゃんとした専門医はいて有効な治療を行いますが、集中的な治療をすることは困難です。ここの施設のの目的は患者が自己治療できるための有効な環境を作ることであって、医学的治療は正確にはそこには含まれていないのです。だからもし直子の病状がこれ以上悪化するようであれば、別の病院なり医療施設に移さざるを得ないといことになるでしょう。私としても辛いことですが、そうせざるをえないのです。	记得以前就对你说过，这里并非专科医院。诚然，也有不错的专科医生，治疗也有效，但集中性治疗是勉为其难的。这座设施的目的在于为患者自我医疗创造良好的环境，准确说来，并不包括医学上的治疗。因此，倘若直子的病情进一步恶化，恐怕势必转去别的医院或医疗设施。作为我也很难过，但终究爱莫能助。
2993	翌朝僕は自転車に乗って少し遠出をし、家に戻って昼食を食べてから、レイコんの手紙をもう一度読みかえしてみた。そしてこれから先どういう風にやっていけばいいのかを腰を据えて考えてみた。レイコさんの手紙を読んで僕が大きなショックを受けた最大の理由は、直子は快方に向いつつあるという僕の楽観的観測が一瞬にしてひっくり返されてしまったことにあった。	第二天早上，我骑自行车兜了一圈风，回家吃罢午饭，把玲子的信重新读了一遍，然后冷静思考往后应该怎么办。我之所以从玲子信中受到沉重打击，根本原因在于我那种以为直子日趋好转的乐观估计一瞬间归于破灭。
3083	四月が終り、五月がやってきたが、五月は四月よりもっとひどかった。五月になると僕は春の深まりの中で、自分の心が震え、揺れはじめるのを感じないわけにはいかなかった。そんな震えはたいてい夕暮の時刻にやってきた。木蓮の香りがほんのりと漂ってくるような淡い闇の中で、僕の心はわけもなく膨み、震え、揺れ、痛みに刺し貫かれた。そんなとき僕はじっと目を閉じて、歯をくいしばった。そしてそれが通りすぎていってしまうのを待った。ゆっくりと長い時間をかけてそれは通り過ぎ、あとに鈍い痛みを残していった。	4月过去，轮来5月。5月比4月还要难以打发。刚交5月，我就不能不感到自己的心开始在阑珊的春日中摇颤。这种摇颤大体在薄暮时分袭来。在浮动着木莲花淡淡幽香的苍茫暮色里，自己的心开始无端地膨胀、颤抖、摇摆、针刺般的痛。这时我便紧闭双目，咬紧牙关，等待这番袭击的过去，而这要花很长时间，之后还留下丝丝隐痛。
3084	そんなとき僕は直子に手紙を書いた。直子への手紙の中で僕は素敵なことや気持の良いことや美しい	每当这时我就给直子写信。在给直子的信中，我只写得意的事体、愉快的感

	もののことしか書かなかった。草の香り、心地の良い春の風、月の光、観た映画、好きな唄、感銘を受けた本、そんなものについて書いた。そんな手紙を読みかえしてみると、僕自身が慰められた。そして自分はなんという素晴しい世界の中に生きているのだろうと思った。僕はそんな手紙を何通も書いた。直子からもレイコさんからも手紙は来なかった。	受和美好的际遇，只写芳草的清香、春风的怡然和月光的皎洁，只写看过的电影、喜欢的歌谣和动心的读物。写罢反复阅读之间，我本身竟也得到了慰藉，心想自己所生活的世界是何等美妙绝伦！这样的信给直子去了好几次，但无论直子还是玲子都没回音。
3137	「そうじゃないわよ。かまわれて育ってよかったわねっていうこと」	"不是那个意思，我说的好是指在大人保护下长大。”
3174	「ねえ、私は生身の血のかよった女の子なのよ」と緑は僕の首に頬を押しつけて言った。「そして私はあなたに抱かれて、あなたのことを好きだってうちあけているのよ。あなたがこうしろって言えば私なんだってするわよ。私多少むちゃくちゃなところあるけど正直でいい子だし、よく働くし、顔だってけっこう可愛いし、おっぱいだって良いかたちしているし、料理もうまいし、お父さんの遺産だって信託預金にしてあるし、大安売りだと思わない?あなたが取らないと私そのうちどこかよそに行っちゃうわよ」	"我可是有血有肉的活生生的女孩儿，”绿子把脸颊擦在我脖颈上说，“而且现在就在你的怀抱里表白说喜欢你。只要你一声令下，赴汤蹈火都在所不惜。虽然我多少有蛮不讲理的地方，但心地善良正直，勤快能干，脸蛋也相当俊俏，乳房形状也够好看，饭菜做得又好，父亲的遗产也办了信托存款，还不以为这是大拍卖？你要是不买，我不久就到别处去。”
3249	///今日いちにちの自分の行為に対して僕はまったく後悔していなかったし、もしもう一回今日をやりなおせるとしても、まったく同じことをするだろうと確信していた。やはり雨の屋上で緑をしっかり抱き、びしょ濡れになり、彼女のベッドの中で指で射精に導かれることになるだろう。それについては何の疑問もなかった。僕は緑が好きだったし、彼女が僕のもとに戻ってきてくれたことはとても嬉しかった。彼女となら二人でうまくやっていけるだろうと思った。	///对于今天一整天的所做所为，我丝毫不觉后悔；倘若能再过一次，我深信也必然故伎重演——仍在雨中天台上拥抱绿子，仍被浇成落汤鸡，仍在她床上被其手指疏导出去。对此我不存任何疑问。我喜欢绿子。她肯重新投入我的怀抱，使我感到乐不可支。若同她结为伴侣，想必能相安无事。
3252	問題は僕が直子に対してそういう状況の展開をうまく説明できないという点にあった。他の時期ならともかく、今の直子に僕が他の女の子を好きになってしまったなんて言えるわけがなかった。そして僕は直子のこともやはり愛していたのだ。どこかの過程で不思議なかたちに歪められた愛し方であるにはせよ、僕は間違いなく直子を愛していたし、僕の中には直子のためにかなり広い場所が手つかず保存されていたのだ。	问题在于我无法很好地向直子解释这种局面的发展。若其他时期倒也罢了，而对眼下的直子，我根本不可能说我已喜欢上了别的少女。更何况我仍在爱着直子。尽管爱的方式在某一过程中被扭曲得难以思议，但我对直子的爱却是毋庸置疑的，我在自己心田中为直子保留了相当一片未曾染指的园地。
3254	「僕は直子を愛してきたし、今でもやはり同じように愛しています。しかし僕と緑のあいだに存在するものは何かしら決定的なものなのです。そして僕はその力に抗しがたいものを感じるし、このままどんどん先の方まで押し流されていってしまいそうな気がするのです。僕が直子に対して感じるのはおそろしく静かで優しくて澄んだ愛情ですが、緑に対して僕はまったく違った種類の感情を感じるのです。それは立って歩き、呼吸し、鼓動しているのです。そしてそれは僕を揺り動かすのです。	我爱过直子，如今仍同样爱她。但我同绿子之间存在的东西带有某种决定性，在其面前我感到一股难以抗拒的力量，并且恍惚觉得自己势必随波逐流，被迅速冲往遥远的前方。在直子身上，我感到的是娴静典雅而澄澈莹洁的爱，而绿子方面则截然相反——它是立体的，在行走在呼吸在跳动，在摇憾我的身心。
3255	///僕はどうしていいかわからなくてとても混乱しています。決して言いわけをするつもりではありませんが、僕は僕なりに誠実に生きてきたつもりだし、誰に対しても嘘はつきませんでした。誰かを傷つけたりしないようにずっと注意してきました。それなのにどうしてこんな迷宮のようなところに放りこま	///我心如乱麻，不知所措。这绝非自我开脱，我自以为生来至今始终以诚为本，对任何人也未曾文过饰非，时刻小心不误伤任何人。然而到头来自己反被抛入这迷宫般的境地，我全然不知何以如此。我到底应怎么办呢？这点我只能

	れてしまったのか、僕にはさっぱりわけがわからないのです。僕はいったいどうすればいいのでしょう？僕にはレイコさんしか相談できる相手がいないのです」	同您商量，此外别无他人。
3262	そんな風にいろんな物事を深刻にとりすぎるのはいけないことだと私は思います。人を愛するというのは素敵なことだし、その愛情が誠実なものであるなら誰も迷宮に放り込まれたりはしません。自信を持ちなさい。	依我之见，你大可不必把许多事情想得那么严重。爱上一个人是难得的好事，倘若那爱情是真诚的，谁也不至于被抛入迷宫。要有自信。
3263	私の忠告はとても簡単です。まず第一に緑さんという人にあなたが強く魅かれるのなら、あなたが彼女と恋に落ちるのは当然のことです。それはうまくいくかもしれないし、あまりうまくいかないかもしれない。しかし恋というのはもともとそういうものです。恋に落ちたらそれに身をまかせるのが自然というものでしょう。私はそう思います。それも誠実さのひとつのかたちです。	我的建议非常简单。第一，如果你被叫绿子的那个人所强烈吸引，你同她坠入情网便是理所当然的。这或许一帆风顺，也可能一波三折。所谓恋爱本来就是这么回事。一旦坠入情网，一切听之任之或许不失为自然之举。我是这样想的，这也是真诚的一种表现形式。
3267	私の個人的感情を言えば、緑さんというのはなかなか素敵な女の子のようですね。あなたが彼女に心を魅かれるというのは手紙を読んでいてもよくわかります。そして直子に同時に心を魅かれるというのもよくわかります。そんなことは罪でもなんでもありません。このだだっ広い世界にはよくあることです。天気の良い日に美しい湖にボートを浮かべて、空もきしいだし湖も美しいと言うのと同じです。そんな風に悩むのはやめなさい。放っておいても物事は流れるべき方向に流れるし、どれだけベストを尽しても人は傷つくときは傷つくのです。	就我个人感情而言，绿子倒像是个非常可贵的女孩儿。你为她倾心这点，从信上也看得一清二楚；而你对直子的一片痴情我也了然于心。这并非任何罪过，只不过是大千世界上司空见惯之事。在风和日丽的天气里荡舟美丽的湖面，我们会既觉得蓝天迷人，又深感湖水多娇——二者同一道理。不必那么苦恼。纵令听其自然，世事的长河也还是要流往其应流的方向；即使再竭尽人力；该受伤害的人也无由幸免。
3277	八月の末にひっそりとした直子の葬儀が終わってしまうと、僕は東京に戻って家主にしばらく留守にしますのでよろしくと挨拶し、アルバイト先に行って申しわけないが当分来ることができないと言った。そして緑に今は何も言えない、悪いとは思うけれどもう少し待ってほしいという短い手紙を書いた。それから三日間毎日、映画館をまわって朝から晩まで映画を見た。東京で封切られている映画を全部観てしまったあとで、リュックに荷物をつめ、銀行預金を残らずおろし、新宿駅に行って最初に目についた急行列車に乗った。	8 月末参加完直子凄凉的葬礼返京，我告诉房东自己准备离开一段时间，请其照看一下。并跑去打工的饭店，说暂时来不成了。继之给绿子写了封短信：现在一言难尽，希望稍待时日，请谅。此后三天时间里，我挨家进电影院，从早看到晚，大凡东京上映的影片统统看了一遍。尔后收拾好旅行背囊，提出所有的银行存款，去新宿站乘上第一眼看到的特快列车。
3294	しかしやがて潮は引き、僕は一人で砂浜に残されていた。僕は無力で、どこにも行けず、哀しみが深い闇となって僕を包んでいた。そんなとき、僕はよく一人で泣いた。泣くというよりはまるで汗みたいに涙がぼろぼろとひとりでにこぼれ落ちてくるのだ。	但为时不久，潮水退去，我一个人剩在沙滩。我四肢无力，欲走不能，任凭悲哀变成深重的夜幕将自己合拢。每当这时，我时常独自哭泣——与其说是哭泣，莫如说任由浑似汗珠的泪滴不由自主地涟涟而下。
3300	風の吹きすさぶ砂浜で、我々は二人で酒を飲んだ。俺も十六で母親をなくしたとその猟師は言った。体がそんなに丈夫ではなかったのに朝から晩まで働きづめで、それで身をすり減らすように死んだのだ、と彼は話した。僕はコップ酒を飲みながらぼんやりと彼の話を聞き、適当に相槌を打った。それはひどく遠い世界の話であるように僕には感じられた。それがいったいなんだっていうんだと僕は思った。そして突然この男の首を締めてしまいたいような激しい怒	在风声呼啸的海滩，两人举杯对饮。渔夫说他１６岁死了母亲，说他母亲尽管身体不太结实，却从早到晚拼命劳作，结果积劳成疾，死了。我边喝酒边心不在焉听他说着，哼哈应付一两声。在我听来，仿佛发生在远不可及的世界里。这何足为奇！我不由陡然一阵心头火起，恨不得狠狠掐住这家伙的脖子。

	りに駆られた。	
3312	僕は自分自身を穢れにみちた人間のように感じた。東京に戻っても、一人で部屋の中に閉じこもって何日かを過した。僕の記憶の殆んどは生者にではなく死者に結びついていた。僕が直子のためにとっておいたいくつかの部屋は鎧戸を下ろされ、家具は白い布に覆われ窓枠にはうっすらとほこりが積っていた。僕は一日の多くの部分をそんな部屋の中で過した。そして僕はキズキのことを思った。おいキズキ、お前はとうとう直子を手に入れたんだな、と僕は思った。	我觉得自己是个污秽不堪的人。返京以后，我仍然一个人在房间里闷了好几天。我为直子准备的房间下着百叶窗，家具盖着白布，窗棂薄薄落了一层灰。我在这样的房间里度过了每一天的大部分时间。我想起了木月。喂木月，你终于把直子弄到手！
3335	「そんなこと言ってると年寄り扱いされますよ」	"那么说话，要把你当成老太婆的。”
3341	「怖くって怖くって気が狂いそうなのよ。どうしていいかわかんないのよ。一人でこんなところに放り出されて」とレイコさんは言った。「でも〈気が狂いそう〉って素敵な表現だと思わない?」	"又惊又怕，又怕又惊，简直要发疯似的。真不知如何是好，一个人被抛到这种地方来。”玲子说，“不过，你不觉得‘简直要发疯似的’这个说法很妙？”
3346	「旭川に行くのよ。ねえ旭川よ!」と彼女は言った。「音大のとき仲の良かった友だちが旭川で音楽教室やってててね、手伝わないかって二、三年前から誘われてたんだけど、寒いところ行くの嫌だからって断ってたの。だってそうでしょ、やっと自由の身になって、行く先が旭川じゃちょっと浮かばれないわよ。あそこなんだか作りそこねた落とし穴みたいなところじゃない?」	"去旭川，嗯旭川。”她说，“音大时代的一位老友在旭川办了一间音乐教室，两三年前就劝我去帮忙，我没答应，说懒得去那么冷的地方。可你知道，好歹成了自由之身以后，除了旭川，还想不出其他落脚处。那地方怕不会像是失手弄出来的大陷坑吧？”
3362	僕がレイコさんに会うのは十ヵ月ぶりだったが、彼女と二人で歩いていると僕の心は不思議にやわらぎ、慰められた。そして以前にも同じような思いをしたことがあるなという気がした。	我同玲子足有十个月未见，但如今和她单独走起来，心头仍不可思议地涌起一股平和、宽慰之感，并觉得以前好像也有过类似的感觉。
3388	僕はあらためてレイコさんの体を見てみた。そう言われてみればたしかに彼女の背格好は直子と同じくらいだった。	我再次打量玲子的身体。如此说来其身段个头确实同直子相似。
3406	私がギターを弾いたの。例によってビートルズ。『ノルウェイの森』とか『ミシェル』とか、あの子の好きなやつ。そして私たちけっこう気持良くなって、電気消して、適当に服脱いで、ベッドに寝転んでたの。すごく暑い夜でね、窓を開けてても風なんて殆んど入ってきやしないの。外はもう墨で塗りつぶされたみたいにまっ暗でね、虫の音がやたら大きく聞えてたわ。	我抱起吉他，照例弹甲壳虫，弹《挪威的森林》，弹《米歇欠》，都是那孩子喜欢的。我们觉得相当开心，熄掉灯，适当脱去衣服，上床躺下。那是个闷热闷热的夜晚，打开窗户也几乎没一丝风进来。外面漆黑一团，如同给墨汁涂得没留一点空白，虫声听起来格外响。
3407	///部屋の中までムッとする夏草の匂いでいっぱいで。それから急にあなたの話を直子が始めたの。あなたとのセックスの話よ。それもものすごくくわしく話すの。どんな風に服を脱がされて、どんな風に体を触られて、自分がどんな風に濡れて、どんな風に入れられて、それがどれくらい素敵だったかっていうようなことをまあ実に克明に私にしゃべるわけ。それで私、ねえ、どうして今になってそんな話するのよ、急にって訊いたの。	///连房间里都充满扑鼻的夏草气息。这时直子突然提起你，提你同她作爱的事。而且说得极其详细。如何被你脱去衣服，如何被你触摸，自己如何湿润，如何被侵入，如何妙不可言——说得非常具体。于是我按捺不住，问她为什么到今天才提起这话。
3411	するとね、体中がひやっと冷たくなったの。まるで氷水につけられたみたいに。	“玲子姐，那实在是太妙了，整个脑袋都像要融化似的。”
3413	///このまま、この人に抱かれたまま、一生これやってたいと思ったくらいよ。本当にそう思ったのよ』	“真想就这样在他怀抱里一生都干那事。真这么想的。”
3417	『そうじゃないの』と直子は言ったわ。『私何も心配してないのよ、レイコさん。私はただもう誰にも私	“‘不是那么回事！’”直子说，“‘我什么也没担心，玲子姐。我只是不希望

	の中に入ってほしくないだけなの。もう誰にも乱されたくないだけなの』」	任何人进到我那里边，不想让任何人扰乱我。’”
3419	「それから直子はしくしく泣き出したの」とレイコさんは言った。「私は彼女のベッドに腰かけて頭撫でて、大丈夫よ、何もかもうまく行くからって言ったの。あなたみたいに若くてきれいな女の子は男の人に抱かれて幸せになんなきゃいけないわよって。暑い夜で直子は汗やら涙やらでぐしょぐしょに濡れてたんで、私バスタオル持ってきて、あの子の顔やら体やらを拭いてあげたの。	"接着直子抽抽嗒嗒哭起来。”玲子说，“我坐在她床上抚摸她的脑袋，安慰说，‘不要紧，一切都会好的，像你这样年轻漂亮的女孩子一定会在男人怀里快快活活一辈子’。夏夜正热，直子身上又是汗又是泪，湿得一塌糊涂。我拿来浴巾，给她擦脸擦身子，
3430	「それからしばらくして救急車が来て直子をつれていって、私は警官にいろいろと事情を訊かれたの。訊くったってたいしたこと訊かないわよ。一応遺書らしき書き置きはあるし、自殺だってことははっきりしてるし、それにあの人たち、精神病の患者なんだから自殺くらいするだろうって思ってるのよ。だからひととおり形式的に訊くだけなの。警察が帰ってしまうと私すぐに電報打ったの、あなたに」	"找到后不久，急救车来把直子拉走。我被警察一一询问了情况。说是询问，其实也没深入问什么。一来有遗书样的纸条留下来，自杀不言而喻；二来他们那些人以为精神病患者恐怕就是要自杀的。所以询问也仅是走形式而已。警察一离开，我就打了电报给你。”
3493	それからレイコさんはギター用に編曲されたラヴェルの『死せる王女のためのバヴァーヌ』とドビッシーの『月の光』を丁寧に綺麗に弾いた。「この二曲は直子が死んだあとでマスターしたのよ」とレイコさんは言った。「あの子の音楽の好みは最後までセンチメンタリズムという地平をはなれなかったわね」	接着，玲子弹了拉威尔的吉他曲《为死去的公主而作的孔雀舞》和德彪西的《月光》，弹得流畅而细腻。“这两支曲是直子死后学会的。”玲子说，“那孩子所爱好的音乐，直到最后也没脱离感伤主义这个基调。”
3509	「ねえ、私けっこう不思議な人生送ってきたけど、十九歳年下の男にパンツ脱がされることになるとは思いもしなかったわね」とレイコさんは言った。	"哎，我度过的人生已经够不可思议的了，可也从来没想要给一个比自己小１９岁的男孩脱内裤。”玲子说。
3517	「ごめんなさい」とレイコさんは言った。「怖いのよ、私。もうずっとこれやってないから。なんだか十七の女の子が男の子の下宿に遊びに行ったら裸にされちゃったみたいな気分よ」	"别见怪。”玲子说，“有点怕，我，一直都没干过。就好像１７岁的女孩儿去男生住处玩时被剥得光光似的。”

行番	布団（原文）	棉被 (訳文)
9	///それであるのに、二三日来のこの出来事、これから考えると、女は確かにその感情を偽り売ったのだ。自分を欺いたのだと男は幾度も思った。けれど文学者だけに、この男は自ら自分の心理を客観するだけの余裕を有っていた。年若い女の心理は容易に判断し得られるものではない、かの温い嬉しい愛情は、単に女性特有の自然の発展で、美しく見えた眼の表情も、やさしく感じられた態度も都て無意識で、無意味で、自然の花が見る人に一種の慰藉を与えたようなものかも知れない。	///然而，从这两、三天发生的事情看，他又多次认为她确实是用一种虚情假意欺骗了自己。他是个文学家，按理应该有能力客观地分析出自己的心理状态来，只是年轻女子的心理不容易判断。她那温情脉脉和欢快的感情，也许是女性特有的自然流露，而美丽的眼神、亲切的态度，这一切都是无意无为的，就象大自然中的花，给赏花人一种安慰一样。///

13	その数多い工場の一つ、西洋風の二階の一室、それが渠の毎日正午から通う処で、十畳敷ほどの広さの室の中央には、大きい一脚の卓が据えてあって、傍に高い西洋風の本箱、この中には総て種々の地理書が一杯入れられてある。渠はある書籍会社の嘱託を受けて地理書の編輯の手伝に従っているのである。文学者に地理書の編輯！　渠は自分が地理の趣味を有っているからと称して進んでこれに従事しているが、内心これに甘じておらぬことは言うまでもない。///	在这无数的工厂里，有一幢西洋式的二层楼房，其中一间，就是他每天午后要去的地方。房间有十铺席大，当中放着一张大桌子，桌旁放着一只高高的西洋式书箱，里面装满各种地理书。他受某出版社的委托，帮着编辑地理书籍。文学家当地理编辑，真怪！他声称自己对地理感兴趣，是自愿的，实际上内心并不愿意干这种事。///
14	///後れ勝なる文学上の閲歴、断篇のみを作って未だに全力の試みをする機会に遭遇せぬ煩悶、青年雑誌から月毎に受ける罵評の苦痛、渠自らはその他日成すあるべきを意識してはいるものの、中心これを苦に病まぬ訳には行かなかった。社会は日増に進歩する。電車は東京市の交通を一変させた。女学生は勢力になって、もう自分が恋をした頃のような旧式の娘は見たくも見られなくなった。青年はまた青年で、恋を説くにも、文学を談ずるにも、政治を語るにも、その態度が総て一変して、自分等とは永久に相触れることが出来ないように感じられた。	///文学上的阅历不如人家，只写过短篇文章；一直为没有机会全力去尝试写作而感到烦恼；每月还要受到青年杂志的批评，也增加了他的痛苦。尽管认为自己往后会有所作为，但心中不能不为这些事而苦闷。社会一天天在进步，电车使东京的交通为之一变。女学生已顺应时代潮流，自己谈恋爱时那种古板的姑娘，如今想看也看不到了。青年终归是青年，不管是谈情说爱，还是谈论文学，或者是讨论政治，他们的态度都变了，变得跟自己永远合不到一块了。
28	神戸の女学院の生徒で、生れは備中の新見町で、渠の著作の崇拝者で、名を横山芳子という女から崇拝の情を以て充された一通の手紙を受取ったのはその頃であった。竹中古城と謂えば、美文的小説を書いて、多少世間に聞えておったので、地方から来る崇拝者渇仰者の手紙はこれまでにも随分多かった。やれ文章を直してくれの、弟子にしてくれのと一々取合ってはいられなかった。だからその女の手紙を受取っても、別に返事を出そうとまでその好奇心は募らなかった。///	就在这时，他收到了一位名叫横山芳子的女子的一封来信，信中充满了崇敬之情。这女子是神户女学院的学生，出生于备中新见町，是他的作品的崇拜者。他竹中古城因写的小说文字优美而在社会上颇有名气。各地的崇拜者和渴慕者的来信，以往就相当多，有的要求修改文章，有的要求收作学生，他都未加理睬。所以，这个女子的来信也没有特别引起他的好奇心，以至想到要写回信。///
35	芳子が父母に許可を得て、父に伴れられて、時雄の門を訪うたのは翌年の二月で、丁度時雄の三番目の男の児の生れた七夜の日であった。座敷の隣の室は細君の産褥で、細君は手伝に来ている姉から若い女門下生の美しい容色であることを聞いて少なからず懊悩した。	第二年二月，芳子得到父母的同意，由父亲陪伴，来到时雄的家。那天正是时雄第三个儿子出生“满七”的日子，正在客厅隔壁房间坐月子的妻子听前来帮忙的姐姐说，来了一位年轻貌美的女弟子，心里便老大的懊恼。
38	///母の膝下が恋しいとか、故郷が懐しいとか言うことは、来た当座こそ切実に辛く感じもしたが、やがては全く忘れて、女学生の寄宿生活をこの上なく面白く思うようになった。旨味い南瓜を食べさせないと云っては、お鉢の飯に醤油を懸けて賄方を酷めたり、舎監のひねくれた老婦の顔色を見て、陰陽に物を言ったりする女学生の群の中に入っていては、家庭に養われた少女のように、単純に物を見ることがどうして出来よう。美しいこと、理想を養うこと、虚栄心の高いこと——こういう傾向をいつとなしに受けて、芳子は明治の女学生の長所と短所とを遺憾なく備えていた。	///刚到学校的那阵子，确实曾为依恋母亲、怀念家乡而感到很难受，但不久就忘得一干二净，渐渐地感到没有比女学生的寄宿生活更有意思的了。若是不给吃好吃的南瓜，学生就往饭钵里倒酱油，捉弄厨师；有时还看着那性情乖僻的舍监老太太的脸色，明里暗里说东道西。象她这样一个在家庭里长大的少女，混在这些女学生当中，怎么能单纯地观察事物呢？爱美、培养理想、虚荣心强——芳子在潜移默化中接受了这样一些思想，明治年代女学生的长处和短处，在她身上都体现出来了。
39	尠くとも時雄の孤独なる生活はこれによって破られた。昔の恋人——今の細君。曾ては恋人には相違なかったが、今は時勢が移り変った。四五年来の女子教育の勃興、女子大学の設立、庇髪、	时雄的孤寂生活至少因此起了变化。现在的妻子过去无疑是他的情人，但现在时代变了。这四五年来的变化是：女子教育的兴起、女子大学的设立、刘海式的发型、

	海老茶袴、男と並んで歩くのをはにかむようなものは一人も無くなった。	绛紫色的裙裤；女子和男子肩并肩走，谁也不感到害羞了。
40	///路を行けば、美しい今様の細君を連れて睦じい散歩、友を訪えば夫の席に出て流暢に会話を賑かす若い細君、ましてその身が骨を折って書いた小説を読もうでもなく、夫の苦悶煩悶には全く風馬牛で、子供さえ満足に育てれば好いという自分の細君に対すると、どうしても孤独を叫ばざるを得なかった。「寂しき人々」のヨハンネスと共に、家妻というものの無意味を感ぜずにはいられなかった。これが――この孤独が芳子に由って破られた。ハイカラな新式な美しい女門下生が、先生！　先生！　と世にも豪い人のように渇仰して来るのに胸を動かさずに誰がおられようか。	/可是，自己的妻子不仅不能阅读自己费尽心思创作的小说，而且对丈夫的苦恼烦闷全不放在心上，只求把孩子很好地抚养成人就行。这不能不使他感到孤独，跟《孤寂的人们》中的约翰奈斯一样，他感到妻子没有意思。这种孤独感却由于芳子的到来而不复存在了。时髦的漂亮女弟子，嘴里不停地喊着“老师！老师！”把他尊为世上的伟人一般。对此，谁能无动于衷呢！
43	けれど一月ならずして時雄はこの愛すべき女弟子をその家に置く事の不可能なのを覚った。従順なる家妻は敢てその事に不服をも唱えず、それらしい様子も見せなかったが、しかもその気色は次第に悪くなった。限りなき笑声の中に限りなき不安の情が充ち渡った。妻の里方の親戚間などには現に一問題として講究されつつあることを知った。	可是，不到一个月，时雄就觉得不能再把这可爱的女弟子安置在自己家里了。温顺的妻子尽管对此事不敢有所微词，也没有显出不满的样子来，但她的气色却越来越差。无限的笑声中，充斥着无限的不安情绪。他知道妻子娘家的亲戚，眼下已把这件事作为一个问题在进行议论。
52	麹町土手三番町の一角には、女学生もそうハイカラなのが沢山居ない。それに、市ヶ谷見附の彼方には時雄の妻君の里の家があるのだが、この附近は殊に昔風の商家の娘が多い。で、尠くとも芳子の神戸仕込のハイカラはあたりの人の目を聳たしめた。時雄は姉の言葉として、妻から常に次のようなことを聞される。	象她这样时髦的女学生，在■町堤岸三号街这种地方，并不多见。而且时雄妻子的娘家在市谷见那边，附近旧风气的商家姑娘特别多，象芳子这样从神户来的时髦女子，自然会引起这一带人们的注意。妻子常对时雄说起从姐姐那儿听到的有关芳子的事：
70	時雄はすぐ帰った。まア好いでしょうと芳子はたって留めたが、どうしても帰ると言うので、名残惜しげに月の夜を其処まで送って来た。その白い顔には確かにある深い神秘が籠められてあった。	时雄很快要走。芳子起身留他再呆一会儿，他说必须回去。于是芳子恋恋不舍地在月明之夜送了时雄一程。她白皙的脸上，确实笼罩着一层极为神秘的色彩。
76	時雄は悶えざるを得なかった。わが愛するものを奪われたということは甚だしくその心を暗くした。元より進んでその女弟子を自分の恋人にする考は無い。そういう明らかな定った考があれば前に既に二度までも近寄って来た機会を攫むに於て敢て躊躇するところは無い筈だ。	时雄非常烦闷。自己心爱的人被人夺走，心里的确很不痛快，尽管从开始起他就没有打算把自己的女弟子作为情人。如果有那种明确而肯定的想法，他当然会毫不犹豫地抓住曾经有过的两次向他扑来的机会。
79	///かれの経験にはこういう経験が幾度もあった。一歩の相違で運命の唯中に入ることが出来ずに、いつも圏外に立たせられた淋しい苦悶、その苦しい味をかれは常に味った。文学の側でもそうだ、社会の側でもそうだ。恋、恋、恋、今になってもこんな消極的な運命に漂わされているかと思うと、その身の意気地なしと運命のつたないことがひしひしと胸に迫った。ツルゲネーフのいわゆる Superfluous man ！だと思って、その主人公の儚い一生を胸に繰返した。	///在他的一生中，曾有过几次这种经历，由于一步之差，使他不能进入命运之中，总是站在圈外，经常尝到那种孤寂的凄楚和痛苦的滋味。在文学方面如此，在社会生活方面也是如此。恋爱、恋爱、恋爱，事到如今，仍是这样消极地在命运中漂荡。想到这里，他为自身不争气和命运不佳而深感痛苦；想到自己属于屠格涅夫所说的Superfluous man，书中主人公短暂的一生，就在他心中反复出现。
95	渠は三日間、その苦悶と戦った。渠は性として惑溺することが出来ぬ或る一種の力を有っている。この力の為めに支配されるのを常に口惜しく思っているのではあるが、それでもいつか負けて	三天来，他和那种苦恼不断进行斗争。从他的性格来说，他具有某种不会消沉下去的力量。他对受这种力量的支配而经常感到遗憾，然而，他迟早要被打败、被征

	了う。征服されて了う。これが為め渠はいつも運命の圏外に立って苦しい味を嘗めさせられるが、世間からは正しい人、信頼するに足る人と信じられている。///	服。为此，他总是站在命运的圈外，被迫尝够了苦涩的滋味，但人们却因此而认为他是正直的人，是足可信赖的人。///
103	何事も無いのに出て来るような、そんな軽率な男でないと信じておりますだけに、一層甚しく気を揉みました。先生、許して下さい。私はその時刻に迎えに参りましたのです。逢って聞きますと、私の一伍一什を書いた手紙を見て、非常に心配して、もしこの事があった為め万一郷里に伴れて帰られるようなことがあっては、自分が済まぬと言うので、学事をも捨てて出京して、先生にすっかりお打明申して、お詫も申上げ、お情にも縋って、万事円満に参るようにと、そういう目的で急に出て参ったとのことで御座います。///	我相信他不是那种没有事也要往外跑的轻率的人，这就使我更为担心。老师，请原谅！我按时到车站去接他，见面一问，他说，收到我写的关于那件事原委的信，非常担心，如果为了此事，万一我被带回老家，他会内疚的，所以放弃了学业，跑到东京来，想向老师彻底讲明情况，表示歉意，希望能给予谅解，使事情得以圆满解决。为了这一目的，他才匆匆前来的。///
107	///で、用事が済んだ上は帰した方が好いのですけれど、非常に疲れている様子を見ましては、さすがに直ちに引返すようにとも申兼ねました。（私の弱いのを御許し下さいまし）勉学中、実際問題に触れてはならぬとの先生の御教訓は身にしみて守るつもりで御座いますが、一先、旅籠屋に落着かせまして、折角出て来たものですから、一日位見物しておいでなさいと、つい申して了いました。どうか先生、お許し下さいまし。私共も激しい感情の中に、理性も御座いますから、京都でしたような、仮りにも常識を外れた、他人から誤解されるようなことは致しません。誓って、決して致しません。末ながら奥様にも宜しく申上げて下さいまし。	///原想要他办完事情之后，马上回去的，但看他非常疲劳的样子，要他马上回去，实在难以开口（请原谅我的软弱）。对老师关于在学习期间不要接触这些实际问题的教诲，我是会恪守不渝的。但他特意来了，就只好先安顿在旅店里。我终于留他住了一天，去观赏一下东京风光。老师，请原谅我吧！我们灼热的感情中还是保持着理智的，所以决不会做出象在京都那样超出常识、以至使人产生误解的事来。我发誓，决不会那样做。最后，请代向师母问好。
146	夏の日はもう暮れ懸っていた。矢来の酒井の森には烏の声が喧しく聞える。どの家でも夕飯が済んで、門口に若い娘の白い顔も見える。ボールを投げている少年もある。官吏らしい鰌髭の紳士が庇髪の若い細君を伴れて、神楽坂に散歩に出懸けるのにも幾組か邂逅した。時雄は激昂した心と泥酔した身体とに烈しく漂わされて、四辺に見ゆるものが皆な別の世界のもののように思われた。///	夏季已经快过完了。矢来的酒井树林中传来乌鸦的叫声。家家户户都已吃过晚饭，在各家门口，可以看到皮肤白皙的年轻姑娘，也可以看到正在投球的少年，还一连看到好几对官吏打扮、胡子稀稀拉拉的绅士，领着梳刘海式头发的年轻妻子，在神乐坡散步。时雄心情激动，加以喝醉了酒，身子东倒西歪，周围的一切在他看来，恍然都在另一个世界中。///
148	中根坂を上って、士官学校の裏門から佐内坂の上まで来た頃は、日はもうとっぷりと暮れた。白地の浴衣がぞろぞろと通る。煙草屋の前に若い細君が出ている。氷屋の暖簾が涼しそうに夕風に靡く。時雄はこの夏の夜景を朧げに眼には見ながら、電信柱に突当って倒れそうにしたり、浅い溝に落ちて膝頭をついたり、職工体の男に、「酔漢奴！　しっかり歩け！」と罵られたりした。///	他从中根坡往上走，经过士官学校的后门，往佐内坡走时，天已经全黑了。他听凭白色单和服拖在地上，烟草店门口站着一位年轻的夫人。晚风吹拂着冰店的门帘，给人以凉爽的感觉。时雄迷迷糊糊地看着夏天的这般夜景，走着走着，突然撞在电线杆上，踉踉跄跄地掉进了浅沟里，碰上了膝盖骨，还挨了一个职工模样的家伙的骂："醉鬼！给我好好地走！"///
149	///急に自ら思いついたらしく、坂の上から右に折れて、市ヶ谷八幡の境内へと入った。境内には人の影もなく寂寞としていた。大きい古い欅の樹と松の樹とが蔽い冠さって、左の隅に珊瑚樹の大きいのが繁っていた。処々の常夜燈はそろそろ光を放ち始めた。時雄はいかにしても苦しいので、突如その珊瑚樹の蔭に身を躱して、その根本の地	///他忽然象恢复了记忆似的。从坡道上往右拐，走进了市谷八幡神社的院子里。神社内没有人影，十分清静，古老的大山毛榉树和松树蔽天被日。左边角上，大珊瑚树枝叶茂盛。各处的常明灯开始微微地透出了亮兴。时雄感到特别难受，随即隐身在珊瑚树背后，躺倒在树下。这时，兴奋的

	上に身を横えた。興奮した心の状態、奔放な情と悲哀の快感とは、極端までその力を発展して、一方痛切に嫉妬の念に駆られながら、一方冷淡に自己の状態を客観した。	精神状态、奔放的感情和悲哀的快感，全都发挥出最大限度的威力来了。他一方面深受嫉妒之念的驱使，一方面在冷静地思考自己眼下这种处境。
150	初めて恋するような熱烈な情は無論なかった。盲目にその運命に従うと謂うよりは、寧ろ冷かにその運命を批判した。熱い主観の情と冷めたい客観の批判とが絡り合せた糸のように固く結び着けられて、一種異様の心の状態を呈した。	当然，他开始并没有类似恋爱的灼热感情，与其说盲目地任凭命运的摆布，不如说在严峻地批判那种命运。主观上灼热的情感和客观上严峻的批判，象搓在一起的线，紧紧地拧在一起，呈现出一种异样的心理状态。
153	ふとある事が胸に上った。時雄は立上って歩き出した。もう全く夜になった。境内の処々に立てられた硝子燈は光を放って、その表面の常夜燈という三字がはっきり見える。この常夜燈という三字、これを見てかれは胸を衝いた。この三字をかれは曾て深い懊悩を以て見たことは無いだろうか。	他突然想起了一件事，马上站起来往外走。夜幕已经降临，竖在神社院内各处的玻璃灯柱放出了亮光，灯罩上清楚地写着“常明灯”三个字。这三个字勾起了他的心思。他曾经带着非常懊恼的心情，看过这三个字。
180	姉は話しながら裁縫の針を止めぬのである。前に鴨脚の大きい裁物板が据えられて、彩絹の裁片や糸や鋏やが順序なく四面に乱れている。女物の美しい色に、洋燈の光が明かに照り渡った。九月中旬の夜は更けて、稍々肌寒く、裏の土手下を甲武の貨物汽車がすさまじい地響を立てて通る。	姐姐说话时，并没有停止手中的针线活。她前面摆着一块用银杏树做的大裁衣案板，周围凌乱地放着裁好的丝绸衣料、线、剪刀，灯光清晰地照在女人衣服的漂亮色彩上。九月中旬的深夜，稍稍有些寒意，甲武线的载货列车从后面堤岸上通过，强烈地震动着大地。
194	姉は茶を淹れる。土産の包を開くと、姉の好きな好きなシュウクリーム。これはマアお旨しいと姉の声。で、暫く一座はそれに気を取られた。	姐姐沏上茶。打开芳子带回来的包袱，发现是自己最爱吃的奶油点心，便说道：“啊！这太好吃了。”这一来，大家一时被这点心吸引住了。
221	「それが好いです。今、余り騒ぐと、人にも親にも誤解されて了って、折角の真面目な希望も遂げられなくなりますから」	“那很好。如果现在过分张扬，遭到他人或双亲的误解，你们特意抱定的真诚愿望，也就无法实现了。”
231	九月は十月になった。さびしい風が裏の森を鳴らして、空の色は深く碧く、日の光は透通った空気に射渡って、夕の影が濃くあたりを隈どるようになった。取り残した芋の葉に雨は終日降頻って、八百屋の店には松茸が並べられた。垣の虫の声は露に衰えて、庭の桐の葉も脆くも落ちた。午前の中の一時間、九時より十時までを、ツルゲネーフの小説の解釈、芳子は師のかがやく眼の下に、机に斜に坐って、「オン、ゼ、イブ」の長い長い物語に耳を傾けた。エレネの感情に烈しく意志の強い性格と、その悲しい悲壮なる末路とは如何にかの女を動かしたか。///	从九月进入十月，凄风刮得后面林子里呼呼作响。天空一片湛蓝，充满了晴朗的阳光。黄昏的日影浓浓地勾画出周围的轮廓。雨点整天不停地打在拔剩的山芋叶上。菜店里摆出了松蘑。墙根下的虫子发出非常微弱的叫声，院子里的桐树叶子脆断下来。上午九点到十点的一个小时，时雄向芳子讲了屠格涅夫的小说。芳子在老师炯炯有神的目光监督下，斜坐在桌子边，倾听着长篇故事《前夜》，叶琳娜的感情、意志坚强的性格和悲壮的结局，深深地打动了她的心！///
237	晩餐後、芳子はその事を問われたのである。	晚饭后，他向芳子问起这件事。
248	「神戸の信者で、神戸の教会の為めに、田中に学資を出してくれている神津という人があるのですの。その人に、田中が宗教は自分には出来ぬから、将来文学で立とうと思う。どうか東京に出してくれと言って遣ったんですの。すると大層怒って、それならもう構わぬ、勝手にしろと言われて、すっかり支度をしてしまったんですって、本当に困って了いますの」	“神户有一个信徒叫神津，一直为神户的教会向田中提供学费。田中对那人说，自己搞不好宗教，打算将来搞文学，请求同意他到东京来。这一来，那人大发脾气，说如果那样的话，他可不管，随便好了。于是，田中就做好了来东京的准备。我实在是为难透了！”
287	こういう会話——要領を得ない会話を繰返して長く相対した。時雄は将来の希望という点、男	两人一直面对面坐着，反复进行这种对话——不着要领的对话。时雄从将来的前

	子の犠牲という点、事件の進行という点からいろいろさまざまに帰国を勧めた。時雄の眼に映じた田中秀夫は、想像したような一箇秀麗な丈夫でもなく天才肌の人とも見えなかった。麹町三番町通の安旅人宿、三方壁でしきられた暑い室に初めて相対した時、先ずかれの身に迫ったのは、基督教に養われた、いやに取澄ました、年に似合わぬ老成な、厭な不愉快な態度であった。///	途、男子应做出的牺牲和事物的发展等方面，做了种种说明，劝他回京都去。在时雄的眼里，田中秀夫并不是想象中的英俊男子，也没有那种天才的气质。■町三号街这个廉价的旅馆，房子三面是墙，室内很热，在这里初次与田中相对而坐，首先使他感到压抑的是，这青年受过基督教的培养，那一本正经的老成样子，显得与年龄很不相称，使人很不愉快。///
288	とは言え、実を言えば、時雄の激しい頭脳には、それがすぐ直覚的に明かに映ったと云うではなく、座敷の隅に置かれた小さい旅鞄や憐れにもしおたれた白地の浴衣などを見ると、青年空想の昔が思い出されて、こうした恋の為め、煩悶もし、懊悩もしているかと思って、憐憫の情も起らぬではなかった。	当然，这都是些表面现象，还没有立即明确地直接反映到时雄激动的头脑中去，当看到房间角落里放着的旅行包和那显得可怜巴巴的素色和服单衣时，反而使人想到这青年也有过富有幻想的过去，想到他也许正在为这次恋爱而烦恼和懊丧，从而不禁产生出怜悯之情。
291	時雄は幾度か考えた。寧ろ国に報知して遣ろうか、と。けれどそれを報知するに、どういう態度を以てしようかというのが大問題であった。二人の恋の関鍵を自ら握っていると信ずるだけそれだけ時雄は責任を重く感じた。その身の不当の嫉妬、不正の恋情の為めに、その愛する女の熱烈なる恋を犠牲にするには忍びぬと共に、自ら言った「温情なる保護者」として、道徳家の如く身を処するにも堪えなかった。また一方にはこの事が国に知れて芳子が父母の為めに伴われて帰国するようになるのを恐れた。	时雄反复考虑了多次，是不是告诉她家里算了。可是，又该采取怎样的态度通报呢？这是个大问题。他认为两人恋爱的关键掌握在自己手中，正因为如此，他感到责任重大。他不忍心由于自己不应有的嫉妒和不正当的爱慕之心，去牺牲自己心爱的女子的热恋；可是，如果照自己说过的，要作一个“温情脉脉的保护人”，把自己置身于道德家的地位，同样是很难做到的。从另一方面来说，他也担心把这事告诉她家里，她的父母会因此而把她领回家乡去。
293	///文学は難かしい道、小説を書いて一家を成そうとするのは田中のようなものには出来ぬかも知れねど、同じく将来を進むなら、共に好む道に携わりたい。どうか暫くこのままにして東京に置いてくれとの頼み。時雄はこの余儀なき頼みをすげなく却けることは出来なかった。時雄は京都嵯峨に於ける女の行為にその節操を疑ってはいるが、一方には又その弁解をも信じて、この若い二人の間にはまだそんなことはあるまいと思っていた。自分の青年の経験に照らしてみても、神聖なる霊の恋は成立っても肉の恋は決してそう容易に実行されるものではない。///	///对田中这样一个人来说，走文学的道路是很艰难的，写小说，自成一家，也许更不可能。可是，既然两人目标一致，就想携起手来走自己要走的道路，所以请求暂时让他就这样留在东京。对这不得已的要求，时雄不好无情地予以回绝。虽说时雄对女子去京都嵯峨时的贞操仍在怀疑，但又相信他们的辩解，认为这两个年轻人还不至于干那种事。就以自己青年时代的经验对照着来看，有了精神上的神圣爱情，肉体关系绝不是那么容易实现的。///
301	「どうか又御心配下さるように……この上御心配かけては申訳がありませんけれど」と芳子は縋るようにして顔を赧めた。	“还是请您再操心一次吧……这样老是让您操心，实在对不起。”芳子象央求时雄似的，脸都红了。
303	芳子が出て行った後、時雄は急に険しい難かしい顔に成った。「自分に……自分に、この恋の世話が出来るだろうか」と独りで胸に反問した。「若い鳥は若い鳥でなくては駄目だ。自分等はもうこの若い鳥を引く美しい羽を持っていない」こう思うと、言うに言われぬ寂しさがひしと胸を襲った。「妻と子――家庭の快楽だと人は言うが、それに何の意味がある。子供の為めに生存している妻は生存の意味があろうが、妻を子に奪われ、子を妻に奪われた夫はどうして寂寞たらざるを得るか」時雄はじっと洋燈を見た。	芳子走后，时雄的脸色突然变得阴沉难看了。“你自己……你自己对他们的恋爱能帮得了忙么？”他扪心自问，“小鸟儿只能和小鸟儿相配。自己已经没有美丽的羽毛，引不来那些小鸟儿了。”想到这里，一种难以言状的凄凉感向他心头袭来，“人们都说妻子和孩子是家庭的欢乐，可又有什么意思？为孩子而活着的妻子，也许有生存的意义，而被子女夺走了妻子、被妻子夺去了子女的丈夫，又怎能不寂寞呢？”时雄凝视着灯光。
304	机の上にはモウパッサンの「死よりも強し」が	莫泊桑的小说《如死一般强》展开在桌子

	開かれてあった。	上。
313	「芳子さんは嬉しいんでしょうけど、何だか極りが悪そうでしたよ。私がお茶を持って行って上げると、芳子さんは机の前に坐っている。その前にその人が居て、今まで何か話していたのを急に止して黙ってしまった。私は変だからすぐ下りて来たですがね、……何だか変ね、……今の若い人はよくああいうことが出来てね、私のその頃には男に見られるのすら恥かしくって恥かしくって為方がなかったものですのに……」	“芳子也许很高兴吧，可又有些不好意思似的。我上楼去送茶，当时芳子坐在桌子前，来人坐在她的前面，两人刚刚还在说话，见我去便突然闭住嘴不说了。我觉得不对劲，便立刻下楼来了……我总觉得不对劲……现在的年轻人真能干出那种事来。想当初，我只要被男人看上一眼，就羞得无地自容，可……”
343	時雄はいつの間にか、この二人からその恋に対しての「温情の保護者」として認められて了った。	在不知不觉中，时雄已被这两人看成了他们恋爱的“温情忠实的保护人。”
344	時雄は常に苛々していた。書かなければならぬ原稿が幾種もある。書肆からも催促される。金も欲しい。けれどどうしても筆を執って文を綴るような沈着いた心の状態にはなれなかった。強いて試みてみることがあっても、考が纏らない。本を読んでも二頁も続けて読む気になれない。///	时雄经常焦躁不安，要写的稿件有好几篇，书店来催他，他也需要钱用，但怎么也没法安下心来执笔写文章。即使强制自己试试笔，思想还是集中不起来。看书也只能连续看上两页，就再也没心思看下去了。///
358	///けれど折角先生があのように私等の為めに国の父母をお説き下すったにも係らず、父母は唯無意味に怒ってばかりいて、取合ってくれませんのは、余りと申せば無慈悲です、勘当されても為方が御座いません。堕落々々と申して、殆ど歯せぬばかりに申しておりますが、私達の恋はそんなに不真面目なもので御座いましょうか。それに、家の門地々々と申しますが、私は恋を父母の都合によって致すような旧式の女でないことは先生もお許し下さるでしょう。	///老师为了我们，尽管那样特意向家乡的父母讲情，父母仍只顾毫无意义地生气，根本不予理睬，说得过分一些，未免太狠毒了。在这种情况下，就是断绝父女关系，也是没有办法的事。他们说什么堕落堕落，几乎不以父女相待，难道我们的爱情是那样的不严肃吗？而且他们老提什么门当户对，可是，我不是那种遵照父母之命来谈情说爱的旧式女子。这一点，老师也许会同意吧。
362	///二人はまさに受くべき恋の報酬を受けた。時雄は芳子の為めに飽まで弁明し、汚れた目的の為めに行われたる恋でないことを言い、父母の中一人、是非出京してこの問題を解決して貰いたいと言い送った。けれど故郷の父母は、監督なる時雄がそういう主張であるのと、到底その口から許可することが出来ぬのとで、上京しても無駄であると云って出て来なかった。	///两人的恋爱确实得到了应有的报应。时雄过去始终为芳子辩解，讲明她的恋爱并非为了肮脏的目的，并要求父母中有一人务必到东京来解决这个问题。可是，故乡的父母说：督护人时雄虽如此认为，做家长的却断断不能同意，即使到东京来也是白跑，所以一直没有来。
366	///芳子はかれの為めに平凡なる生活の花でもあり又糧でもあった。芳子の美しい力に由って、荒野の如き胸に花咲き、錆び果てた鐘は再び鳴ろうとした。芳子の為めに、復活の活気は新しく鼓吹された。であるのに再び寂寞荒涼たる以前の平凡なる生活にかえらなければならぬとは……。不平よりも、嫉妬よりも、熱い熱い涙がかれの頬を伝った。	///芳子既是他平凡生活中的花朵，也是精神上的食粮。芳子具有的美的魅力，宛如花朵开放在他那荒野般的心中，使一座完全锈掉了的钟再次发出了响声。芳子使他重新恢复了活力。可是，难道他又不得不再回到过去那种荒凉孤寂的平凡生活中去吗……不平和嫉妒的热泪沿着他的脸颊滚落下来。
371	一日二日、時雄はその手紙の備中の山中に運ばれて行くさまを想像した。四面山で囲まれた小さな田舎町、その中央にある大きな白壁造、そこに郵便脚夫が配達すると、店に居た男がそれを奥へ持って行く。丈の高い、髯のある主人がそれを読む——運命の力は一刻毎に迫って来た。	一天，两天，时雄在设想那封信发往备中山区的情景：在四面环山的小村镇里，中央有一栋白墙大宅子，邮递员把信送到那里，店里的伙计再把信送进屋里去，留着胡子的高个子主人读着这封信——命运之神就这样一刻一刻地紧逼过来。
387	「でもね、奥さん、私はどうして父に逢われるでしょう」	“可是，师母，我怎么去见父亲呢？”

392	その身の今の窮迫を訴え、泣いてこの恋の真面目なのを訴えたら父親もよもや動かされぬことはあるまいと思った。	她想，只要向父亲诉说自己目前处境的困难，哭诉自己对待爱情的真心实意，父亲是不会不为之感动的。
414	「いや、約束などと、そんなことは致しますまい。私は人物を見たわけでありませんけえ、よく知りませんけどナ、女学生の上京の途次を要して途中に泊らせたり、年来の恩ある神戸教会の恩人を一朝にして捨て去ったりするような男ですけえ、とても話にはならぬと思いますじゃ。この間、芳から母へよこした手紙に、その男が苦しんでおるじゃで、どうか御察し下すって、私の学費を少くしても好いから、早稲田に通う位の金を出してくれと書いてありましたげな、何かそういう計画で芳がだまされておるんではないですかな」	“不，婚约什么的根本谈不上。我虽没见过他，对他不太了解，但象他这种趁女学生来东京途中，让人家在中途留宿，又把多年来有恩于他的神户教会的恩人抛于一旦的人，我认为实在不值得一提。最近，芳子在给她母亲的信中还说他很苦，要求能多体谅他，并希望家里能接济他上早稻田大学，哪怕今后少贴她一点学费也行。芳子怎么会有这种计划，这不是明摆着受了他的骗吗？”
422	「何アに、須磨の日曜学校で一二度会ったことがある位、妻もよく知らんそうですけえ。何でも神戸では多少秀才とか何とか言われた男で、芳は女学院に居る頃から知っておるのでしょうがナ。説教や祈祷などを遣らせると、大人も及ばぬような巧いことを遣りおったそうですけえ」	“什么呀，内人只在须磨的主日学校见过一两次，并不怎么了解。大概在神户的时候，人们倒是称他有点才气什么的。芳子大概是在女学院时开始认识他的，若要让他干个说教或祈祷什么的，倒是挺在行，连大人都不如他。”
431	二人の恋の許可不許可も問題に上ったが、それは今研究すべき題目でないとして却けられ、当面の京都帰還問題が論ぜられた。	是否同意两人的爱情，这虽然是个问题，但并不是眼下值得研究的题目，因而被搁在一边，眼下主要是讨论回京都的事。
437	「よう解っております」と田中は答えた。「私が万事悪いのでございますから、私が一番に去らなければなりません。先生は今、この恋愛を承諾して下されぬではないと仰しゃったが、お父様の先程の御言葉では、まだ満足致されぬような訳でして……」	“我很明白。”田中回答说，“全都是我不好，所以我必须先离开。老师刚才说不是不同意这件婚事，可是，芳子父亲刚才的话，并不能使人放心……”
442	「あれほどお父さんが解っていらっしゃる」と時雄は父親の言葉を受けて、「三年、君が為めに待つ。君を信用するに足りる三年の時日を君に与えると言われたのは、実にこの上ない恩恵でしょう。人の娘を誘惑するような奴には真面目に話をする必要がないといって、このまま芳子をつれて帰られても、君は一言も恨むせきはないのですのに、三年待とう、君の真心の見えるまでは、芳子を他に嫁けるようなことはすまいと言う。実に恩恵ある言葉だ。許可すると言ったより一層恩義が深い。君はこれが解らんですか」	“芳子父亲说得多么透彻。”时雄接着芳子父亲的话说，“你要等待三年，在这三年的时间里，你要拿出足以证明你是可以信赖的行动来。老实说，这是最大的恩惠，对引诱人家姑娘的家伙，本是没有必要说得这么认真的。如果就这样把芳子带回去，你也无可抱怨。尽管如此，仍然等你三年，在看到你的真心之前，说好不把芳子嫁给他人。这是特别开恩的话，比之于说可以同意，意义更深一层，你明白吗？”
481	時雄は立って厠に行った。胸は苛々して、頭脳は眩惑するように感じた。欺かれたという念が烈しく心頭を衝いて起った。厠を出ると、其処に——障子の外に、芳子はおどおどした様子で立っている。	他站起来去上厕所，感到心中发慌，头脑发晕，一种被人欺骗了的念头猛烈地冲击着他的心头。当他从厕所里出来时，见芳子惊慌不安地站在拉门外边说：
487	父親は夕飯の馳走になって旅宿に帰った。時雄のその夜の煩悶は非常であった。欺かれたと思うと、業が煮えて為方がない。否、芳子の霊と肉——その全部を一書生に奪われながら、とにかくその恋に就いて真面目に尽したかと思うと腹が立つ。その位なら、——あの男に身を任せていた位なら、何もその処女の節操を尊ぶには当らなかった。自分も大胆に手を出して、性慾の満足を買え	芳子父亲在时雄家吃完晚饭，就回旅馆去了。当天晚上，时雄非常懊恼。他想到了上当受骗，但生米已煮成熟饭，也没有办法。可是，一想到芳子的灵魂和肉体——她的一切都被一书生夺走，而自己还在为他们的恋爱认真地竭尽全力，就气愤到了极点。她既然能做到那一步——把肉体交给了那个男子，那就用不着尊重她处女的

	ば好かった。こう思うと、今まで上天の境に置いた美しい芳子は、売女か何ぞのように思われて、その体は愚か、美しい態度も表情も卑しむ気になった。///	贞操了。自己如果大胆地插上一手，使自己性欲上的要求得到满足，该有多好。他这么一想，就觉得以往象仙女一样美丽的芳子，一下子变成了妓女一类的人。不用说她的肉体，连她那优美的姿态和表情都使人感到很卑贱。///
490	芳子も煩悶したに相違なかった。朝起きた時は蒼い顔を為ていた。朝飯をも一椀で止した。なるたけ時雄の顔に逢うのを避けている様子であった。芳子の煩悶はその秘密を知られたというよりも、それを隠しておいた非を悟った煩悶であったらしい。午後にちょっと出て来たいと言ったが、社へも行かずに家に居た時雄はそれを許さなかった。一日はかくて過ぎた。田中から何等の返事もなかった。	芳子肯定也很烦恼，早起时，脸色显得很苍白，早饭也只吃了一碗。她尽可能不与时雄见面。看来，芳子的烦恼不是因被人发现了秘密，而是认识到不该隐瞒这种秘密。她说下午想出去一下，在家没去上班的时雄不同意她出去。就这样过了一天，田中没有任何答复。
495	時雄は二階を下りた。暫くして下女は細君に命ぜられて、二階に洋燈を点けに行ったが、下りて来る時、一通の手紙を持って来て、時雄に渡した。	时雄从楼上下来。过了一会儿，女仆在妻子的吩咐下上楼去点灯，下来时，手里拿着一封信，交给了时雄。
498	私は堕落女学生です。私は先生の御厚意を利用して、先生を欺きました。その罪はいくらお詫びしても許されませぬほど大きいと思います。先生、どうか弱いものと思ってお憐み下さい。先生に教えて頂いた新しい明治の女子としての務め、それを私は行っておりませんでした。矢張私は旧派の女、新しい思想を行う勇気を持っておりませんでした。私は田中に相談しまして、どんなことがあってもこの事ばかりは人に打明けまい。過ぎたことは為方が無いが、これからは清浄な恋を続けようと約束したのです。///	我是堕落的女学生。我利用了老师的深情厚意，欺骗了老师。我的罪过，不管怎么赔礼道歉，也是无法饶恕的。老师！请念及我的懦弱，可怜可怜我吧。我没能遵照老师教导，去履行一位明治新女性应有的天职。我是旧派女子，没有勇气实行新思想。我和田中商量过，不管出了什么事，唯这件事不能向任何人透露。过去的事，已经无法挽回，我保证今后要保持高尚的爱情。///
539	車が麹町の通を日比谷へ向う時、時雄の胸に、今の女学生ということが浮んだ。前に行く車上の芳子、高い二百三高地巻、白いリボン、やや猫背勝なる姿、こういう形をして、こういう事情の下に、荷物と共に父に伴れられて帰国する女学生はさぞ多いことであろう。芳子、あの意志の強い芳子でさえこうした運命を得た。教育家の喧しく女子問題を言うのも無理はない。時雄は父親の苦痛と芳子の涙とその身の荒涼たる生活とを思った。路行く人の中にはこの荷物を満載して、父親と中年の男子に保護されて行く花の如き女学生を意味ありげに見送るものもあった。	车通过■町大街，向日比谷走去时，时雄的脑子里浮现出当今女学生的形象。象坐在前面车子上的芳子那样，梳着当中高出、边脚卷起的发型，扎着白色飘带，稍稍猫着腰，带着这副姿态，连同行李一起被父亲领回老家去的女学生肯定不在少数。芳子，连意志这么坚强的芳子，都落得这般命运，说明教育家叫嚷着妇女问题，并不是没有道理。时雄还想到了她父亲的痛苦、芳子的眼泪和自己的凄凉生活。路上的行人中，有人意味深长地看着载满着行李的车子和一个如花似月的女学生，由父亲和中年男子护送着往前走。
540	京橋の旅館に着いて、荷物を纏め、会計を済ました。この家は三年前、芳子が始めて父に伴れられて出京した時泊った旅館で、時雄は此処に二人を訪問したことがあった。三人はその時と今とを胸に比較して感慨多端であったが、しかも互に避けて面にあらわさなかった。五時には新橋の停車場に行って、二等待合室に入った。	到了京桥旅馆，收拾好行李，结了帐。三年前，芳子在父亲陪伴下，第一次到东京来时，就住在这家旅馆。时雄曾来这里拜访过他们父女。三个人都在心里把当时和此刻进行了比较，彼此感慨万千，但又都尽可能不露声色。下午五时，到达新桥车站后，进入二等候车室。
558	///時雄は机の抽斗を明けてみた。古い油の染みたリボンがその中に捨ててあった。時雄はそれを取って匂いを嗅いだ。暫くして立上って襖を明けてみた。大きな柳行李が三箇細引で送るばかりに絡げてあって、その向うに、芳子が常に用いてい	///他打开桌子的抽屉看了看，里面还扔着沾有头发油的旧飘带，时雄把它拿起来闻了闻。他在房间里呆了一阵，然后站起来打开拉门一看，三个大藤箱用细麻绳捆扎在一起，只等送回家去。对面叠着芳子平常

	た蒲団——萌黄唐草の敷蒲団と、綿の厚く入った同じ模様の夜着とが重ねられてあった。時雄はそれを引出した。女のなつかしい油の匂いと汗のにおいとが言いも知らず時雄の胸をときめかした。夜着の襟の天鵞絨の際立って汚れているのに顔を押附けて、心のゆくばかりなつかしい女の匂いを嗅いだ。	用的棉被——葱绿色藤蔓花纹的褥子和棉花絮得很厚、与褥子花纹相同的盖被。时雄把它抽出来，女人身上那令人依恋的油脂味和汗味，不知怎的，竟使时雄心跳起来。尽管棉被的天鹅绒被口特别脏，他还是把脸贴在那上面，尽情地闻着那令人依恋的女人味。

行番	砂の女（原文）	砂女(訳文)
10	むろん、人間の失踪は、それほど珍しいことではない。統計のうえでも、年間数百件からの失踪届が出されているという。しかも、発見される率は、意外にすくないのだ。殺人や事故であれば、はっきりとした証拠が残ってくれるし、誘拐のような場合でも、関係者には、一応その動機が明示されるものである。しかし、そのどちらにも属さないとなると、失踪は、ひどく手掛りのつかみにくいものになってしまうのだ。仮に、それを純粋な逃亡と呼ぶとすれば、多くの失踪が、どうやらその純粋な逃亡のケースに該当しているらしいのである。	当然，如今个把人失踪了，也不是什么希罕事。仅从统计数字来看，一年间就有几百件失踪案件。然而，人被找到的可能性却微乎其微。换了杀人事件或者人身事故，怎么都会留下清晰的证据，就连绑架，有关人员也总会明显地表示出大概的动机。然而失踪者却不属此列，极难找到线索。如果有“纯粹逃亡”的说法，那么，多数失踪事件，似乎都可纳入“纯粹逃亡”的范围。
11	彼の場合も、手掛りのなさという点では、例外でなかった。行先の見当だけは、一応ついていたものの、その方面からそれらしい変死体が発見されたという報告はまるでなかったし、仕事の性質上、誘拐されるような秘密にタッチしていたとは、ちょっと考えられない。また日頃、逃亡をほのめかす言動など、すこしもなかったと言う。	而他的失踪，在找不到线索这一点上，又是个例外。因为只能推测他大概会去的地方，可那边甚至没有任何报告说发现了可疑的尸体；从他的工作性质上来看，分析不出丁点儿该被人绑架的蛛丝马迹。平时，他也丝毫没有流露过计划逃跑的口风。
12	当然のことだが、はじめは誰もが、いずれ秘密の男女関係だろうくらいに想像していた。しかし、男の妻から、彼の旅行の目的が昆虫採集だったと聞かされて、係官も、勤め先の同僚たちも、いささかはぐらかされたような気持がしたものだ。たしかに、殺虫瓶も、捕虫網も、恋の逃避行の隠れ蓑としては少々とぼけすぎている。それに、絵具箱のような木箱と、水筒を、十文字にかけた、一見登山家風の男がＳ駅で下車したことを記憶していた駅員の証言によって、彼に同行者がなく、まったく一人だったことが確かめられ、その臆測も、根拠薄弱ということになってしまったのである。	当然，一开始谁都会想像“失踪”与秘密的男女关系有牵连。可从他妻子嘴里听说，他旅行的目的仅仅是为了去采集昆虫标本。负责调查的警官也好，单位里的同事也好，都觉得自己的思路象是被什么东西岔开了去似的。真的，把杀虫瓶、捕虫网作为“情爱逃亡”的隐身草，那实在有些糊涂过头了。而且，据火车站的检票员回忆，的确看到过一个登山队员模样的人；他把画具盒似的木箱和水筒，交叉地背在肩上，在Ｓ车站下了车；据检票员的证词，确实只看到他一个人，没见有同行者；于是，“情爱逃亡”的推测显然就站不住脚了。
13	厭世自殺説もあらわれた。それを言い出したのは、精神分析にこっていた彼の同僚である。一人前の大人になって、いまさら昆虫採集などという役にも立たないことに熱中できるのは、それ自体がすでに精神の欠陥を示す証拠だというわけだ。子供の場合でも、昆虫採集に異常な嗜好をみせるのは、多くエディプス・コンプレックスにとりつかれた子供の場合であり、満たされない欲求の代償として、決して逃げだす気づかいのない虫の死骸に、しきりとピンをつきさしたがったりするのだという。	又有人提出“厌世自杀”说。提出这个说法的是那男人的一个同事，一个热衷于精神分析的人。据他介绍说，已经成了堂堂一表的大男人，却还热衷于收集昆虫标本之类的东西，本身已经可以证明他精神上存在着某种缺陷。即使是个孩子，在采集昆虫标本方面表现出异常的嗜好，也大多被人看做具有“恋母情结”，他们明知昆虫尸体决不会逃走，却还是用小别针紧紧地固定住那些尸体，以此来发泄自己无法满足的欲望。
16	だが、そのせっかくのうがった推理も、事実とし	尽管他特地作出了周密推理，但没有事

	て、死体が発見されなかったのだから、問題にはならなかった。	实依托，未发现尸体，也就成不了气候。
23	男は終点まで乗りつづけた。バスを降りると、ひどく起伏の多い地形だった。低地がせまく仕切られた水田になり、そのあいだに小高い柿畠が島のように点在していた。男はそのまま村を通りぬけ、次第に白っぽく枯れていく海辺に向って、さらに歩きつづけた。	男人一直坐到了终点。一下汽车，眼前便是崎岖不平，坑坑洼洼的一片。低洼的地方，被分割成一小块一小块的水田，稍高出一点的地方是柿子田，象小岛一样散布在水田之间。男人不闻不问径直穿过村子，接着，再往村子后边白茫茫萧瑟枯索的海边走去。
27	この向うに、目的の海も、砂丘もあるのだろう。だがその部落は意外に広かった。わずかに土が露出しているところもあったが、大半は白く乾いた砂地だった。それでも、落花生や芋の畠がつくられていたし、潮のにおいにまじって、家畜のにおいもした。砂と粘土で、しっくいのように固められた道端には、くだかれた貝殻が、白い山をつくっていたりした。	那后面，该是目的地的海滩了吧，该有沙丘吧。谁知，这村落却意外地宽阔。仅有一小块地方露出泥地来，绝大部分都是白花花、干乎乎的沙地。尽管如此，沙地还是被辟成了花生地和山芋地，海潮的气息里，混杂着家畜的气味。道路用沙子和黏土拌和的灰浆固定起来，路边上，粉碎的贝壳堆积成了白色的山。
31	ただ、奇妙なことに、家の建っている部分は、すこしも高くならないのだ。道だけが高くなって、部落自身は、いつまでも平坦なのだ。いや、道だけでなく、建物と建物のあいだの境の部分も、道とおなじように高くなっていた。だから、見方によっては、部落全体が上り坂になっているのに、建物の部分だけが、そのままもとの平面にとり残されているようでもある。この印象は、先に進むにつれてひどくなり、やがて、すべての家が、砂の斜面を掘り下げ、そのくぼみの中に建てたように見えてきた。さらに、砂の斜面のほうが、屋根の高さよりも高くなった。家並は、砂のくぼみの中に、しだいに深く沈んでいった。	更奇怪的是，建造房屋的那部分一点也不高出路面。倒是只有道路在不断变高，村落本身始终是平坦的。其实，不仅是路，建筑物与和建筑物之间的隔离带，也和路面一般高低。看上去，村落整体仿佛呈上坡趋势，只有建筑物那部分原封不动地给留在了平地上。这个印象越往前越清晰；不久，所有的房子看起来，都象从沙的斜坡上掏挖下去，建造在沙窝里似的。而且，沙的斜坡比屋顶要高得多。一排排房子，仿佛在沙窝深处稳稳地坐了不得。
33	季節風が吹きつける、海に面した部分は、砂丘の定石どおり、盛上ったような急傾斜で、葉の薄い禾本科の植物が、すこしでもなだらかな部分をえらんで、細々と群がっている。だが、部落の側を振返ると、砂丘の頂上に近いほど深く掘られた、大きな穴が、部落の中心にむかって幾層にも並び、まるで壊れかかった蜂の巣である。砂丘に村が、重なりあってしまったのだ。あるいは、村に砂丘が、重なりあってしまったのだ。いずれにしても、苛立たしい、人を落着かせない風景だった。	这一带沙丘面临大海，迎着季候风，仿佛是一块安定石，涌起了陡峭的斜坡，那上面生长着禾木科薄薄叶子的植物，它们竭力选择哪怕稍微平坦一些的地方，一撮一撮地聚在一起。回头瞧一眼村落那边，沙丘顶上，深深地掘了一些大大的洞，面对村子的中心，并排有好几层，简直象破败的蜂窝。村落重叠在沙丘上。抑或沙丘重叠在村落上。总之，那风景叫人焦虑不安。
38	///それにありつけさえすれば、長いラテン語の学名といっしょに、自分の名前もイタリック活字で、昆虫大図鑑に書きとめられ、そしておそらく、半永久的に保存されることだろう。たとえ、虫のかたちをかりてでも、ながく人々の記憶の中にとどまれるとすれば、努力のかいもあるというものだ。	///只要你有所发现，那你自己的名字也就能和昆虫长长的拉丁学名放在一起，用花体罗马字写进昆虫大图鉴里去呢。而且，恐怕还能半永久地保存下来。即使那虫的形状改变，但如果那虫能长长地留在人们记忆中的话，那就会显出努力的效果来。
39	そういうチャンスは、やはりどうしても、変種が多くて目立たない、小昆虫の仲間に多かった。それで彼も、ながいあいだ、人のいやがる双翅目の、それも蠅の仲間に目をつけて来たものだ。たしかに、蠅の種属は、おどろくほど豊富である。とは言え、人間の考えることは大体同じようなものらしく、日本で八匹目というような珍種まで、ほとんどあさりつくされてしまっていた。どうやら、蠅の生活環境	在变种多、不起眼的小昆虫当中，他特别容易觅得这种机会。而且，在很长一段时间里，他眼睛一直盯着人们所讨厌的“双翅目”苍蝇类。确实，苍蝇的种类惊人的丰富。尽管这样说，人的想法大致相同；连日本那种叫做“八匹目”的珍稀种类，也几乎被他收集到了。大概苍蝇的生活环境与人的生活环境十分相近吧。

	が、人間の環境にあまり近すぎたためらしい。	
42	ふつう、ハンミョウ属の前足は、いかにも敏捷そうに、黒くほっそりしているものだ。ところが、そいつの前足ときたら、まるで部厚い鞘をかぶせたように、もっこりとしていて、黄味がかっていた。むろん、花粉がまぶされていたのかもしれない。だとしても、花粉を附着させておくための、なんらかの装置——たとえば、毛のようなもの——が、あったかもしれないということは、じゅうぶんに考えられることだ。もし、彼の見間違いでなければ、これは大変な発見になるはずのものだった。	普通“斑蟊虫”的前腿，黑黑细细的，看起来相当敏捷。可这条虫的前腿，象罩上了一层厚厚的套子；乍一看，似隐似现地微微泛起黄色。当然也可能是沾上了花粉之类的东西。但即使如此，也可以使人充分地想象，总有什么装置能使花粉粘附在腿上的吧——譬如“毛”之类的东西。如果他的观察没错的话，这该是一项十分了不起的发现哇。
44	こうして彼は、その黄色い前足をもったニワハンミョウに、すっかりとりこにされてしまったのである。	就这样，他完全被那只有黄色前腿的斑蟊虫给俘虏了。
45	砂地に注目した彼の見当はどうやら間違っていなかったらしい。事実、ハンミョウ属は、代表的な沙漠の昆虫でもあった。一説によると、その奇妙な飛び方は、ねらった小動物を巣からさそい出すための罠なのだともいう。たとえば、ネズミやトカゲなどが、ついさそわれて沙漠の奥に迷いこみ、飢えと疲労でたおれるのを待って、その死体を餌食にするというのである。	眼下，他注视着沙地，觉得自己的估计怎么说都没有错。事实上，斑蟊虫也是沙漠里有代表性的昆虫。又有一说，它那难以捉摸的飞行方法，其实是一种诡计：它要把看中的小动物从它们的窝里引诱出来。譬如老鼠或壁虎，被那小虫引诱到沙漠的深处迷了路，小斑蟊虫一直候着小动物饥饿、疲乏至死，然后把它们的尸体拿来当自己的美餐。
49	いかにも明瞭な定義である。砂とは要するに、砕けた岩石のなかの、石ころと粘土の中間だということだ。しかし、単に中間物というだけでは、まだ完全な説明とは言いがたい。石と、砂と、粘土の三つが、複雑にまじり合っている土の中から、なぜとくに砂だけがふるい分けられ、独立の沙漠や砂地などになりえたのか？　もし単なる中間物なら、風化や水の侵蝕は、岩肌と粘土地帯とのあいだに、互いに移行する無数の中間形態をつくりえたはずである。	实在是个十分明了的定义。总之，所谓沙子就是碎岩石中，介于小石子和黏土的中间物质。可是，单纯用中间物质来说明，实在还很难说这解释是完整的。石子、沙子和黏土三样东西，在复杂混合的泥土之中，为什么只有沙子被特别地分出来，成为独立的沙漠或沙地呢？假如是单纯的中间物质，那么，风化和水的侵蚀，在岩石表皮和黏土地带之间，应该形成互相过渡的无数中间层次才对。
52	水にしても、空気にしても、すべて流れは乱流をひきおこす。その乱流の最小波長が、沙漠の砂の直径に、ほぼ等しいというのである。この特性によって、砂だけが、とくに土のなかから選ばれて、流れと直角の方向に吸い出される。土の結合力が弱ければ、石はもちろん、粘土でさえ飛ばないような微風によっても、砂はいったん空中に吸い上げられ、再び落下しながら、風下にむかって移動させられるというわけだ。どうやら、砂の特性は、もっぱら流体力学に属する問題らしかった。	水也好，空气也好，所有的流动物都会引起乱流。这种乱流的最小波长直径也几乎与沙漠的沙子相等。根据这个特性，只有沙子从泥土中被特别挑选出来，与流动形成直角方向才能被抽取出来。要是泥土的结合力薄弱的话，来一阵微风，甭说将石头吹起，就连黏土也飞不起来，但沙子却会一下子被吸上天空，又被抛回地面，迎着风被挪来挪去。沙子的特性象是属于专门的流体力学问题。
55	地上に、風や流れがある以上、砂地の形成は、避けがたいものかもしれない。風が吹き、川が流れ、海が波うっているかぎり、砂はつぎつぎと土壌の中からうみだされ、まるで生き物のように、ところきらわず這ってまわるのだ。砂は決して休まない。静かに、しかし確実に、地表を犯し、亡ぼしていく……	既然地上有风，有流动，那沙地的形成，也许是在所难免的。只要风在吹，河在流，海上波浪在翻腾，沙子就会从土壤中生出来，简直象活的东西一样，不择地势蔓延开来。沙子的流动决无休止。静静地、实实在在地侵犯着地表，吞噬着地表……
56	その、流動する砂のイメージは、彼に言いようのない衝撃と、興奮をあたえた。砂の不毛は、ふつう考えられているように、単なる乾燥のせいなどではなく、その絶えざる流動によって、いかなる生物をも、一切うけつけようとしない点にあるらしいのだ。	这个流沙的印象，给了他一种说不出来的冲击和兴奋。沙地上寸草不生，但并非人们所想象的，单纯由干旱造成的；其实，不停的流动，看来正是沙子拒绝接受所有生物的理由。一年中必须不停顿地强逼着

	年中しがみついていることばかりを強要しつづける、この現実のうっとうしさとくらべて、なんという違いだろう。	紧紧抓住；与这个现实的郁闷相比起来，是怎样一种错误呐。
58	流動する砂の姿を心に描きながら、彼はときおり、自分自身が流動しはじめているような錯覚にとらわれさえするのだった。	他在心里描绘出沙子流动的姿态，有时甚至被一种错觉攫住：自己的身体似乎也开始流动起来。
67	砂丘の稜線が平たくなって、海と反対の側に、張り出している部分があった。いかにも獲物がありそうな感じにさそわれて、ゆるやかな斜面を降りてゆくと、簀の砂防垣らしいものの名残が点々とその先端をのぞかせている向うに、さらに一段低くなった台地があった。機械でつけたように、規則正しく刻まれた風紋を横切って進むと、ふいに視界が切れて、深いほら穴を見下ろす、崖際に立っているのだった。	沙丘的山脊变得舒缓，大海相反的一侧，有块凸出的部分。看上去那儿似乎该有什么收获，他不知不觉地走了过去。沿着舒缓的斜坡，可以看到星星点点散布着芦苇编防沙墙的遗迹，再低一层，有一片台地。沙丘上整齐划一的“风纹”，象用机器刻下来似的，他跨过“风纹”，忽然视野切断，眼前是个深深的洞穴，往下望去，才知道原来自己已经站在崖的边上了。
74	風に吹きちらされ、携帯用ラジオのように、幅のない声だ。しかし、アクセントははっきりしていて、べつに聞きとりにくいほどではなかった。	声音让风给吹散了，听上去象便捷式半导体收音机里发出的没有余韵的声音。谁知声音倒也抑扬顿挫，没什么听不清楚的地方。
80	老人は、疑わしげに、目をふせて唾をはいた。と言うより、口からたれるにまかせたと言ったほうが正しいかもしれない。風に吹きちぎられて、唇の端から、糸をひいて飛んだ。いったい何がそんなに気になるのだろう？	老头疑惑地垂下眼睛，吐了口唾沫。也许还是说唾沫从嘴里淌出来更正确。一阵风刮来，淌下来的唾沫，丝丝拉拉地飘在嘴边。不知他究竟担心什么。
85	五十メートルほど向うに、いつ現われたのか、同じような服装の男が三人、じっと地面にしゃがみこんで、老人を待ちうけている様子である。そのなかの一人が、膝の上でくるくるまわしているのは、どうやら双眼鏡らしい。やがて、老人を加えた四人は、何事か相談をしはじめる。交互に、足もとの砂をひっかくような仕種で、かなり激しいやりとりが行われている様子だった。	也不知什么时候，五十米开外的地方出现了三个男人。他们穿着相同的衣服，一直蹲在地上，象在等着老头似的。其中一人，膝上咕噜咕噜绕着个东西，怎么看都象是个望远镜。不一会，加上老头共四个人，象讨论起来什么事来。他们轮番换着双脚，交替地搓着脚底下的沙子，象在激烈地争论。
110	こころもち、風をやわらげながら、日が暮れた。男は、砂に刻まれた風紋が見分けられなくなるまで、砂丘の上を歩きまわった。	日薄西山，风稍稍柔和了一些。男人在沙丘上徘徊着，直到再也分不清沙地上刻着的风纹为止。
121	案内されたのは、部落の一番外側にある、砂丘の稜線に接した穴のなかの一つだった。	老头带着他去的人家，是村子角落，与沙丘山脊连成一体的一个洞穴。
129	もっとも、そういうことでもなければ、この家は、いささか我慢しかねるしろものだった。馬鹿にされたのだと思って、すぐに引返していたかもしれない。壁ははげ落ち、襖のかわりにムシロがかかり、柱はゆがみ、窓にはすべて板が打ちつけられ、畳はほとんど腐る一歩手前で、歩くと濡れたスポンジを踏むような音をたてた。そのうえ、焼けた砂のむれるような異臭が、いちめんにただよっていた。	本来，要不是这女人的举动殷勤，这种屋子他是肯定忍受不了的。也许还会觉得受人愚弄，立刻掉转身子返回上去呢。屋子里墙皮剥落，代替隔扇门的是一条帘子，柱子歪歪斜斜，窗子上全被钉上了木板，地席也快腐烂了，走在上面象踏在潮湿的海绵上，发出“咕吱咕吱”的声音。晒焦的沙子蒸腾起一股怪异的气味，在屋子里弥漫，久久不散。
130	だが、すべては、気のもちようである。女の素振りに、気持をときほぐされて、こういう一夜も得がたい経験だなどと、自分に言いきかせたりした。それに、うまくすると、なにか面白い昆虫にぶっつかるかもしれない。いかにも、昆虫がよろこんで住みつきそうな環境だった。	然而，所有一切都让人兴致勃勃的。女人的举动使他情绪很放松，他甚至对自己说，这一夜可真是难得的经历呀。弄得不好，还能撞上什么有趣的虫子呢，说什么这里也是昆虫乐于居住的环境嘛。
131	予感に狂いはなかった。土間につづいた、いろり端の、すすめられた席に腰をおろしたとたん、まわ	预感果然没错。那女人刚叫他坐下，“哗——”地，门厅尽头暖炉的周围，便发

	りで雨しぶきのような音がした。ノミの大群だった。だがそんなことで驚く彼ではない。昆虫採集家にはつねに用意がある。服の内側にＤＤＴをふりこみ、露出した部分には、寝るまえに防虫クリームをぬりこんでおけばよい。	出下雨般的响声。一看，原来是大群的跳蚤。可这种事吓不了他。昆虫采集人是经常有所准备的：他在衣服内侧喷上了Ｄ．Ｄ．Ｔ药水，露在外面的部分，等临睡前再涂抹一些防虫药膏便没事了。
145	あまり悪びれた様子なので、それ以上言うのはやめにする。それに、間もなく、水あびなどがなんの役にも立たないことを、いやというほど思い知らされることになったのだ。	瞧她一副战战兢兢的模样，他也就不好再说什么了。况且，不一会儿，他就醒悟到，其实就是有水冲冲身体，也起不了什么作用。
173	「まさか！」男は、口をゆがめて、乱暴に言い返した。自分のなかにあった砂のイメージが、無知によって冒涜されたような気がしたのだ。「ぼくは、砂のことについちゃ、これでも、ちょっとばかり、くわしいんでね……いいですか、砂ってやつは、こんなふうに、年中動きまわっているんだ……その、流動するってところが、砂の生命なんだな……絶対に、一カ所にとどまってなんかいやしない……水の中だって、空気の中でだって、自由自在に動きまわっている……	“哪可能！”男人歪着嘴，粗暴地打断。“我呀，对沙子还是小有研究，比较清楚的……怎么样，沙子这东西呀，一年四季都流动不停呀……这个，流动的特点才是沙子的生命哇……说什么会在一个地方停住，那不可能……就是在水里，在空气里，它都是自由自在活动着的……
175	女は体を固くして、黙りこんでしまった。女が支えている傘の下で、男もせかされるように、あとは無言で食べおえる。傘の表面には、指で字が書けるほど、砂がつもっていた。	女人的身子僵硬了，无言以对。女人撑着的伞下，男人象受人催促似地，不作声地草草地扒完了饭。伞的表面已积起一层沙，用手指都能在上面写出字来。
200	「まあ、うまいこと言って……」くすぐられたように、女が、体をよじってみせる。	“是啊，光说好听的……”象有人咯吱她似地，女人扭了扭身子。
212	///……この家はもう、半分死にかけている……流れつづける砂の触手に、内臓を半分くいちぎられて……平均　m.m.という以外には、自分自身の形すら持っていない砂……	///……原来这屋子的一半已经死去了……已经被不停流动沙子的触手，掏空了一半内脏哇……除了平均１／８ＭＭ以外，不具备任何自身形状的沙子……
213	しかし、すぐに現実に引戻された。この部屋が使えないとすると、女は一体、どこで寝るつもりなのだろう？　板壁の向うで、しきりと女の動きまわる気配がしている。腕時計の針は、八時二分をさしていた。こんな時間に、どんな用があるというのだろう？	他立即又回到了现实。这个屋子不能住人，那么，那女人究竟打算睡在哪里呢？板壁那边频频传来女人颠来跑去的声音。手表上的指针指着八点零二分。这种时候，她还有什么事可做呢？
219	こんどは、すれちがいざま、あいているほうの指先を、くすぐるように、彼の脇腹におしこんできた。おどろいて、とびのきながら、あぶなくランプをとり落しそうになる。このまま、ランプを持ちつづけていようか、それとも地面において、くすぐり返してやるべきか、いきなり思いがけない選択をせまられて、ためらった。けっきょく、現状維持が勝をしめ、ランプを手にしたまま、しかし自分でも意味のわからぬ薄笑いに顔をこわばらせ、またスコップを使いはじめた女のほうに、ぎこちない足どりで近づいていく。近づくにつれて、女の影が、砂の壁面いっぱいにひろがった。	这回擦过他身边，她那空着的手象要咯吱他一下似地，伸过他的侧腹来。他一惊，急忙闪开，差一点把油灯给弄掉地下。他拿不定主意，就这样继续拿着灯好呢，还是把它放到地上，回敬她一个咯吱好呢？可惜，还没等想清楚就要逼着他选择，他踌躇了。结果，“保持现状”获胜，他还是把灯拿在手里，连自己也不知道有何意义的浅笑，使他的脸抽住了。女人又抓起铁铲，步履蹒跚地走过来，女人的身影，印在沙墙上，她逐步往这边靠近，那身影便布满了整个沙墙。
221	男の表情が固くなった。せっかくおさえていた気持を、むりやり掻きたてられたようで、不愉快だったのだ。しかし、彼の意志とは無関係に、何かが血管のなかで勝手にふくれ上っていく。まるで皮膚にはりついた砂が、血管にしみとおり、内側から彼の情感をそぎ落していくようだった。	男人的表情冻住了。好容易压下去的情绪，这会儿又被强行拨弄起来，真没劲呀。可这似乎与他的意志无关，只是血管里有什么东西随意往上涌似的。简直象沾在皮肤上的沙子，渗透到了血管里，又从内侧削落他的情感似的。
228	なるほど、入口に近い軒下に、スコップが一つと、	果然，靠近门口的走廊上并排放着一把

	取手のついた石油罐が二つ、べつに並べてある。さっき、もう一人分と言って、道の上から落していったやつにちがいない。あまり、手まわしがよすぎて、見すかされたような感じだった。と言っても、一体なにを見すかされたのかは、自分でもまだ分らない。とにかく、あまりに人を見くびったやり方だと思ったし、薄気味もわるかった。スコップの柄は、手垢で黒く光った、太い瘤だらけの雑木だった。手を出す気持は、すでに失せていた。	铁铲和两个有把手的石油桶。这一定就是刚才有人叫“多拿来一个人用的”，从道路上扔下来的那些铁玩意儿。他觉得那安排准备也出色过头了，自己象被谁看中了似的。说是这么说，可是，究竟有什么地方被人看中了呢，连他自己都还搞不清楚。反正，一想到这种过于轻视人的做法，他便觉得阴森森的好没趣。铁铲的杂木手柄上，闪着黑乎乎油泥的光，还结着一个粗大的树瘤。他几乎丧失了伸手去抓的勇气。
230	彼のためらいには気づかなかったらしく、女の声は、はずんでいた。はずんでいたし、今までにない信頼感もこめられていた。そう言われてみると、さっきからしていた人の気配が、すぐそばまで近づいて来ている。呼吸のそろった、短い掛け声が、なんどか繰返されると、しばらく含み笑いのまじった低いつぶやきがつづき、すぐまた掛け声になる。その労働のリズムが、急に彼の気持を軽くさせた。	女人的声音蹦了出来，象是没注意到他在犹豫。蹦出来的声音里，还随带了先前所没有的信赖感。经她这么一说，刚才一直听到的鼎沸人声，真地已经来到近旁了。整齐的呼吸声，短促的叫声，重复了好几遍；忽地又传来混合着轻轻笑声的低语，不一会儿，又是一片叫喊声。劳动的节奏，立刻使他情绪轻松起来。
248	女の話題は、範囲が狭い。しかし、いったん自分の生活の圏内に入ると、たちまち見ちがえるほど活気をおびて来る。それはまた、女の心にたどりつく通路でもあるのだろう。べつに、その道に、とくにひかれたわけでもなかったが、女の言葉は、厚いモンペの生地の下にかくされた、その肉体を感じさせるほどのはずみを持っていた。	女人的话题，范围很窄。可是，一旦进入她自己的生活圈子，马上就会带来令人刮目相看的活泼。这大概是往女人心里去的通道吧。当然，那通道并没有什么特别诱人的地方；女人的话具有弹性，甚至能令人感到厚厚劳动布底下隐藏着的肉体。
255	梯子の上に埋めこんであった、俵の用途が、はじめて呑込めた。そこにロープをあてがって、モッコの上げ下ろしをするのである。モッコの係は、四人ずつ、ぜんぶで二、三組あるようだった。大体、若い連中で編成されているらしく、てきぱきと、入かにも調子に乗った仕事ぶりだ。一組のモッコがいっぱいになると、もう次のモッコが待っているという具合である。六回で、盛上げてあった砂が、平らになってしまった。	他这才了解到嵌在梯子之上的稻草包的用途。那里放下一根绳索，把大篮子吊上吊下。平均四人一组管着大篮子，全部大概有两、三组。大致上由年轻人组成，干起活来麻利、还有些得意忘形的样子。一组大篮子装满，下一组大篮子已经准备好了。一共吊了六次，这才把隆起来的沙堆铲平了。
270	「だって、家をつぶされちゃ、かないませんからねえ……砂は、どこからだって、降ってくるんだから……」	“就是嘛，房子给压垮，谁也抵挡不住哇……沙子呀，不管从哪里，都会飞下来的……”
272	すると女は、まるで挑まれでもしたように、急に体をくねらせて駈け出していき、どうやらそのまま崖の下に戻って、また仕事をつづけるつもりらしいのだ。まるでハンミョウ属の手口だと思う。	谁知女人一副说什么都白搭的眼神，忽地弯下腰跑过去，看样子又回到崖下，继续干她的活去了。他觉得那动作简直就象斑蝥虫耍的花招似的。
286	「やり方？……やり方だって！」ふいに腹立ちがこみ上げてくる。女をしばりつけているものにも、腹が立ったし、しばられている女にも腹が立ったのだ。「そんなにまでして、どうしてこんな部落にしがみついていなけりゃならないのさ？　さっぱりわけが分らんね……砂ってやつは、そんなに生易しいものじゃないんだ！　こんなことで、砂にさからえると思ったら、大間違いさ。下らん！……こんな下らんことは、もうやめだ、やめだ……まったく、同情の余地もありゃしない！」	“做法？……还说是做法！”他忽地来气了。先是气束缚女人的势力，进而又气被束缚的女人。“这样辛苦，干么非得赖在这种村子里呢？实在想不通哇……沙子这东西，非同小可哇！所以，要是谁以为能抵抗沙子，那才叫异想天开呢。毫无意义！这种毫无意义的事，别干，别干了……完全没有同情的余地！”
289	///あまりにも不当だし、あまりにも奇怪だ。だからと言って、スコップをなげだして来たことで、自分	///太不正当，太古怪了。所以说，就是丢下铁铲子，也没有责备自己的必要。没有

	を責める必要もないだろう。そこまで義務を負ういわれはない。そうでなくても、負わなければならない義務は、すでにあり余るほどなのだ。こうして、砂と昆虫にひかれてやって来たのも、結局はそうした義務のわずらわしさと無為から、ほんのいっとき逃れるためにほかならなかったのだから……	人要求他承担这份义务。即使不这样，必须承担的义务已经相当多了。就这样，自己被沙和昆虫吸引而来，最终似乎只剩下一条路：逃出这种义务的累赘和无所作为……
293	///それから、オマール・ハイヤムにうたわれている、なんとかいう町も……そこには、仕立屋があったり、肉屋があったり、雑貨屋があったりして、それらの上に決して動かない道々が、網の目のようにからみつき、その道筋一本変えるにしても、役所をめぐって、何年もの争いをしなければならなかったのだ……だれ一人、その不動を疑ってみさえしなかった、古い町々……しかし、それらも、直径　m.m.という、流動する砂の法則には、ついにうちかつことが出来なかったのだ。	///后来让奥玛尔．哈依雅姆歌唱过的，叫什么镇来着……那里有裁缝铺、肉铺、还有杂货店；还有许多决不能移动的道路，象网眼一样交织，哪怕想改动一条道路，也非得经过镇公所好几年的辩论……没有人会怀疑它的“不移动”，那个古镇……但最终它无法战胜直径１／８ＭＭ“流动的沙”的法则。
305	あわててはね起きる。顔からも、頭からも、胸からも、つもった砂が、さらさらと流れおちた。唇と、鼻のまわりには、汗でかたまった砂が、こびりついていた。手の甲で、こそげおとしながら、こわごわ、またたきを繰返す。熱くほてった、ざらざらのまぶたから、とめどなく涙があふれだした。しかし、涙だけでは、めやにに塗りこめられた砂を洗いおとすには、まだ不充分だった。	他慌忙爬起来。脸上、头上、胸口上堆满了沙子，唰唰地掉落下来。汗凝结的沙子，牢牢地粘在嘴唇、鼻子周围。他一边用指甲抠掉沙子，一边提心吊胆不停地眨着眼睛。热得火烧火燎，干乎乎的眼角，没完没了地流着泪。可光靠眼泪来冲洗涂抹着眼屎的沙子，显然是不够的。
309	しかも、その表面が、きめの細かい砂の被膜で、一面におおわれているのだ。砂は細部をかくし、女らしい曲線を誇張して、まるで砂で鍍金された、彫像のように見えた。ふいに、舌の裏側から、ねばりけのある唾液が、ふきだしてくる。しかしその唾を飲込むわけにはいかない。唇と歯のあいだにたまった砂が、その唾を吸って、口いっぱいにひろがるのだ。土間にむかって、唾をはいた。しかし、いくら唾をはいても、口のざらつきはなおらなかった。口が、からからになっても、まだ砂は残っていた。まるで歯のあいだから、次々と新しい砂がつくられていくようだった。	她身体表面，敷上了一层纹理细密的沙膜。沙子遮盖起细部，夸张了女人的曲线，看起来，简直就是个用沙镀了一层金的雕像。“噗”地，从舌头里侧喷出来一股粘乎乎的唾沫。他咽不下这口唾沫。嘴唇和牙齿之间积存的沙子，吸饱了唾沫，满满地涨了一嘴。他赶忙把唾沫朝泥地上吐去。可随你怎么吐，嘴里还是稀里沙拉的弄不干净。嘴里就是空空的，沙子也照样留着。简直就象牙齿之间，不断制造着新的沙子。
310	さいわい、水甕の水は、新しく口元まで補充されていた。口をすすいで、顔を洗うと、生き返ったような気持がした。そのときくらい、水の不思議を、痛切に感じたことはない。砂と同じ鉱物でありながら、どんな生物よりも、やさしく体になじんでくれる、透明で単純な無機物……ゆっくりと、喉の奥に流しこみながら、石を食う獣のことを想像したりする……	幸好缸里的水新补充到了缸口。他漱了口，洗了脸，象是又活过来了似的。他还从来没有象现在这样，痛切地感到水的重要。沙子虽然是矿物质，但它却比任何生物都更能轻易地渗入体内，透明的单纯的无机物……从喉咙深处慢慢地流进来，他想像着持石头的野兽……
311	あらためて、女の方を振向いてみた。しかし、それ以上に、近づいてみる気はしない。砂にまぶされた女は、視覚的ではあっても、あまり触覚的とは言いがたい。	他又回头看了一眼女人。这时他决没有再凑近一点看的心思。让沙子裹住的女人，是视觉的，很难说就是触觉的。
318	目標の俵は、半ば砂に埋まりながらも、ちゃんとそこに見えている。場所の記憶に間違いはない。それとも、梯子だけが、砂の中に呑まれてしまったのだろうか？……とびかからんばかりに、駈けよって、砂の中に腕をつっこみ、かきまぜる。砂は無抵抗にくずれ、流れおちた。しかし、針をさがしているわ	作为标记的草袋子，尽管一半埋在沙里，但还能清晰地看出来。地点肯定没有记错。难道，绳梯叫沙子给吞没了吗？……他猛扑过去，把手臂伸进沙子里掏摸起来。沙子毫无抵抗地崩塌，沉陷下去。……他连一根针都没找到，一次不行，再来几

	けではないのだから、一度ためして駄目なら、何度くりかえしたって、同じことだ。……こみ上げてくる不安を、おし殺しながら、男は呆然と、あらためて砂の傾斜のけわしさを見なおすのだった。	次，结果还是一样。……他竭力扼制住心里涌上的阵阵不安，呆呆地，又重新望了一眼沙壁斜坡的陡峭程度。
323	やけになって、もう一ともがき、頭の上の砂に手をのばした瞬間、砂の圧力が、急になくなった。砂から、吐き出されて、穴の底にころげ落ちた。左肩が、割箸を割るような音をたてた。しかしべつに痛みは感じない。彼にしがみつかれた傷跡をいやそうとでもいうように、しばらく、砂の壁の表面を、細かな砂が無表情にさらさらと流れ落ち、間もなく止んだ。それにしても、ひどくちっぽけな傷跡だった。	破罐子破摔，再挣扎一次，头上的沙子，在他手伸出去的瞬间，沙的压力忽然消失。他让沙子给吐了出来，一个跟斗翻落到了洞底。左肩着地，“咔嚓”一声，象掰开一次性筷子的声音。没感到特别疼。就象不情愿被他抓出伤痕似地，细细的沙子毫无表情地“唰唰”流过沙壁落下来，一刻也不停。即使这样，还是留下了极小一块伤疤。
326	女の体から砂が流れて、肩と、腕と、脇腹と、腰の一部の、素肌がのぞいた。だが、それどころではない。近づきざま、顔の手拭を、ひきはがした。顔は一面むらだらけで、砂に包まれた体とくらべると、不気味なくらい、生々しかった。昨夜ランプの光で、いやに色白に見えたのは、やはり化粧のせいだったらしい。その白いものが、ぼろぼろになって、はげかけている。	女人身上的沙子流了下来，他看到了她的肩膀、手臂、侧腹和腰的一部分肌肤。但现在实在不是偷看女人的时候。他走过去，掀掉她脸上的手巾。脸上条条斜纹，和沙子包裹的身体比较起来，活生生的，令人毛骨悚然。昨晚灯光下她的肤色分外白，原来那是化妆的关系呀。眼前那白白的粉东一块，西一块地剥落，象一块块秃斑。
333	すると、女のこの仕種と沈黙は、とほうもなく恐ろしい意味をもってくる。まさかと思いながらも、心の奥底で、いちばん案じていた不安が、とうとう的中してしまった。縄梯子の撤去が、女の了解のうちに行われたことの、これは明白な承認にほかなるまい。女は、まぎれもなく共犯者だったのだ。当然、この姿勢も、はじらいなどという、まぎらわしいものではなく、どんな刑罰でも甘んじようという、罪人、もしくは生け贄の姿勢にちがいない。まんまと策略にかかったのだ。蟻地獄の中に、とじこめられてしまったのだ。うかうかとハンミョウ属のさそいに乗って、逃げ場のない沙漠の中につれこまれた、飢えた小鼠同然に……	这时，女人的动作和沉默，不知不觉充满了一种恐怖的气氛。尽管他想着“不可能”，可心里深处却一直转着的不祥念头，终于落实了下来。明摆着，那绳梯是在女人明明知道的情况下被撤走的。女人是货真价实的同谋犯。当然，这种姿势也不是羞耻之类模糊不清的玩意儿，不论怎样的刑罚都嫌太轻，她一定采取了罪人、或牺牲品的姿势。需要个巧妙漂亮的策略。他被关进了蚂蚁的地狱之中。他被妖气十足的斑蟊虫引到这没有退路的沙漠上来，就象饥寒交迫的小老鼠。
335	とつぜん、狂ったように、叫びだす。なんと言えばいいのか分らないので、意味のある言葉にはならない。ただ、声をかぎりに、ありったけの力でわめくのだ。そうすればこの悪夢がおどろいて目をさまし、思わぬ失態をわびながら、彼を砂の底から、はじき出してくれるとでもいうように。だが、出しつけない声は、いかにもかぼそく、弱々しかった。おまけに、途中で砂に吸われ、風に吹きちらされて、どこまでとどくものやらも心もとない。	突然他发狂似地大叫起来。他不知说什么好，那叫喊成不了句子。只是发出声音而已，他用足全身的力气拼命地叫喊。于是，好象这个恶梦退却，睁开眼睛似地，期待着料想不到的失态，把他从沙坑底部抛将出去。叫喊不出的声音变得又细又弱。声音半道被沙吸入，被风吹散，所以根本就吃不准那叫喊声究竟能送到哪里。
336	ふいに、すさまじい響きがおこって、彼の口をふさいだ。昨夜の女の言葉どおり、水分を失った、北側の砂のひさしが、くずれ落ちて来たのだ。家全体が、むりやり捩じまげられたような、哀れっぽい悲鳴をあげた。それから、苦しそうに、軒や壁の隙間から、さらさらと灰色の血をこぼしはじめる。男は口の中を唾液でいっぱいにして、ふるえだした。まるで、撃ちくだかれたのが自分自身だったように……	猛然响起一个可怕的声音，塞住了他的嘴。正象昨晚上女人说的，北边的“沙檐”，失去了水分，散了架，“嘭”地掉落下来。房子整个儿地被强行扭曲了似地，发出了哀婉的悲鸣。然后，柱子和墙壁之间，稀里哗拉，痛苦地洒落出一些灰色的血来。男人包了一嘴的唾沫，浑身战抖起来。他自己简直就象被打中了一样……
337	だが、それにしても、ありえないことだ。あまり	但即使这样，也还是不可能的事。实

	にも常軌を逸した出来事だ。ちゃんとした戸籍をもち、職業につき、税金をおさめていれば、医療保険証も持っている、一人前の人間を、まるで鼠か昆虫みたいに、わなにかけて捕えるなどということが、許されていいものだろうか。信じられない。おそらく何かの誤解なのだ、誤解にきまっている。誤解とでもいうよりほかに、考えようがない。	在是过于超出常规了。自己有正经的户口，有正当的职业，老老实实地缴纳税金，还持有医疗保险证；难道允许把这种正正经经的大人，当成老鼠、昆虫似地张网捕捉吗？简直不敢相信。恐怕有什么误解吧，肯定有误解。除了说声误解，没有其他可想的了。
339	しかし……なぜか、確信はもてなかった……しめつけるように、彼をとりまく、砂の壁を見ていると、さっきの、よじ登ろうとしてしたみじめな失敗が、いやでも思い出されてくる……もがくばかりで、なんの効果もない、全身を麻痺させるような無力感……ここはもう、砂に侵蝕されて、日常の約束事など通用しなくなった、特別の世界なのかもしれない……疑えば、疑う材料はいくらでもあるのだ……	可是……为什么，就是不具备确信……瞧着一点点勒紧似地裹着他的沙壁，他不情愿地想起刚才攀登时惨遭失败的情景……他一味地挣扎，没有任何效果，只有全身麻痹似地无力感……这里也许是受到沙子侵蚀，不通行约定俗成规矩的特殊世界吧……要疑惑的话，疑惑的材料不知多少都有……
340	///たとえば、彼のために、あらたに石油罐とスコップが用意されたことが事実なら、知らぬまに縄梯子がとりはらわれていたことも事実だし、また、女が一言の弁明もせず、薄気味のわるいほどの素直さで、易々として生け贄の沈黙に甘んじていることも、事態の危険性を裏づけていると考えられはしまいか？	///譬如说，为他新准备了石油桶和铁铲子，假如这是事实的话；那么，趁他不知道拆掉绳梯也一定是事实。此外，那女人不作一句申辩，那老实的态度令人觉得可怕，她的沉默，表明她安于活生生牺牲品的现状，更反衬出事态的严重性，难道不能这样考虑吗？
343	女に背をむけ、落ち込むようにあがりがまちに腰をおろして、頭をかかえこんだ。声に出さずに、うめきはじめる。たまった唾を、飲込もうとして、喉にこばまれ、うろたえる。喉の粘膜は、とくべつ砂の味と臭いに敏感らしく、いつまでたっても慣れてくれないのだ。唾は、泡だらけの褐色のかたまりになって、唇の端からふきだしてきた。唾をはいてしまうと、砂のざらつきが、よけいひどく感じられる。砂をはきだそうとして、舌の先で、唇の裏をなめまわし、唾をはきつづけるのだが、きりがない。しまいに、口の中がからからになって、炎症でもおこしたように、ひりついた。	女人背转身去，象陷进去似地坐在地板框上，抱着脑袋，不出声地呻吟起来。他想把屯积在嘴里的唾液咽下去，喉咙口一个儿劲地拒绝，他不知如何是好。喉咙口的粘膜，似乎对沙子的气味特别敏感似地，时间再多也无法习惯。唾液成了泛起冒泡的褐色疙瘩，从嘴唇里喷出来。吐掉唾沫，嘴里更明显地感到满口皆是粗糙的沙子。他极想把沙子吐出来，用舌头尖舔着口腔里侧，不断地吐着口水，简直象无底似的。最后，嘴里空荡荡的，竟火辣辣刺痛起来，象是要发作炎症似的。
345	うつぶせになった、裸の女の、後ろ姿は、ひどくみだらで、けものじみていた。子宮をつかんで、裏返しにでも出来そうだ。だが、そう思ったとたんに、ひどい屈辱に息をつまらせた。遠からず、女をさいなむ刑吏になりはてた自分の姿が、まだらに砂をまぶした女の尻の上に、映し出されるような気がしたのだ。分っている……いずれはそうなるのだ……そして、その日に、おまえの発言権は失われる……	低着头，浑身赤裸的女人后背，看上去十分猥亵，活脱一副野兽状。甚至好象能抓住子宫翻个面似的。然而，就在这一闪念之际，极度的屈辱感甚至使他快要窒息了。其实那还不远，他觉得自己成了虐待女人的狱卒，自己的身影在女人涂满了斑驳沙子的屁股上映照了出来。明白了……反正是那么回事……而且，这天，你丧失了发言权……
351	擬死態発作という言葉がある。ある種の昆虫やくもなどが、不意の攻撃をうけておちいる、あの麻痺状態だ。崩壊した画像。コントロール・タワーを狂人に占領された飛行場。冬眠中の蛙に冬が存在しないように、出来れば、自分の静止が、世界の動きも止めてしまったのだと思い込みたかった。	有一个词叫“拟死态发作”。一种昆虫，譬如象蜘蛛那种昆虫，冷不防受到攻击，便落入麻痹的状态。衰变的画像。被狂人占领了控制塔的飞机场。冬眠中的青蛙，就象冬天不存在似地，它以为自己的静止尽可能也停止世界上的动静。
354	とたんに、重大な思い違いをしていたことに、気づかされたのだ。女の裸についての、おれの解釈は、どうやらあまりに一方的すぎたようである。彼を罠にかけようという下心が、まるで無かったとは言えないにしても、あれは案外、生活の必要からきた、	他猛地注意到自己的思考中出了一个重大错误。“对于那女人的裸体，咱的解释也太单一化了”。即使不能说她没有一点儿想引他上钩的心思，也许那是一种出人意外的习惯：生活上所必需的、极其平常

	ごく日常的な習慣だったのかもしれないのだ。女が寝たのは、たしか夜が明けてからだった。睡眠中は、とかく汗をかきやすいものだ。その睡眠を、日中、しかも焼きつけるような砂の壺のなかですごさなければならないとしたら、裸になるのが、むしろ当然なのではあるまいか。もし自分が、同じ条件におかれたとしても、やはり出来れば裸をえらぶにちがいない……	的习惯吧。女人睡觉肯定是在黎明时分。睡眠中很容易出汗。白天睡眠，在不断烧烤的沙罐子里进行，裸身自然也就顺理成章了。假如自己落在相同条件下，也一定会尽可能赤身露体……
356	///鍵がかかっているかどうかも確かめずに、錠前を見ただけですくみ上ることはない……男はゆっくり、ねばつくような足どりで、小屋にむかって引返す……落着いて、今度こそは必要なことをすっかり、女から聞き出してやろう……あんなふうに、のぼせ上って、ただわめきちらしたのでは、女が黙りこんでしまうのも無理はない……それにあの沈黙だって、うっかり裸の寝姿を見られてしまった、不用意を、ただ恥入ってのことにすぎなかったのかもしれないではないか。	///显然不会有人没去确认门是否上锁，看到锁就吓成一团……男人慢慢地，迈着脚底发粘的步子，迎着小屋，走了回去……那样冲动，又是大叫大喊，那女人沉默不语也不是没有道理的……而且，那沉默，也许只不过是她害臊的一种表现吧：自己糊里糊涂地被人看到了裸体睡相。
359	焼けた砂にさらされた眼には、小屋の中はひどく薄暗く、ひんやりと濡れたような感じだった。しかしすぐに、錯覚にすぎないことを思い知らされる。外とはまたちがった、カビ臭い熱気がこもっていた。	被灼热的沙子迷住了的眼，他只感觉到小屋子十分阴暗，冷飕飕、湿漉漉的。可他立刻明白那不过是一种错觉。屋子里笼罩着一层发霉的气味，与外面不同。
363	振向いた女の顔は、警戒の色に、こわばっていた。生涯を、そんな表情ですごしてきたにちがいないと思われるほど、その哀願の調子は板についていた。男は、なるたけさりげなくふるまうことにして、	女人回过头来，脸上布满惊恐，警惕的神色。谁看了都会觉得，她一定是以那样的表情渡过了一生，那哀婉的情绪恰如其分。于是，男人尽可能装出若无其事的样子，说：
374	女が、かすかに唇を動かした。しかし言葉にはならない。ニワハンミョウという、聞きなれない名前を、くりかえしてみただけかもしれない。しかし、女の心が、ふたたび閉ざされていくのが、男には手にとるように分った。思わず追いすがるように、	女人轻轻动了动嘴唇，可是没出声来。也许她正在咀嚼“斑蟊虫”这个从来没听见过的名称吧。然而，男人知道得一清二楚：那女人的心扉，又重新被关闭了。他禁不住央求道：
386	「はい、これからは、だんだん北風の季節で、砂嵐の心配もありますし……」ちらと、開け放しの木戸に目をやりながら、その抑揚のない、こっそりとした調子には、おろかしいほどの確信がこめられている。	“是呵，往后渐渐就要到北风呼啸的季节了，总有些担心沙暴哇……”她忽地瞟了一眼打开着的木头门，在她那毫无抑扬顿挫怯生生的语调里，隐藏着一种近乎愚蠢的确信。
388	「ここのことを、外に知られちゃ、まずいんでしょうねえ……」	“这里的事给外面知道可不得了哇……”
389	「ぼくなら、安全だってのかい？……とんでもない！……それこそ、とんだ見当ちがいってもんだよ！　あいにくとぼくは、浮浪者なんかじゃない……税金も払っていりゃ、住民登録票だって持っている……いまに、捜索願がだされて、とんだことになってしまうぞ！分らないのかなあ、それっくらいのことが……一体、なんと言って申しひらきするつもりなんです？……さあ、責任者を呼びなさい……どれっくらい間抜けたことか、ようく話して聞かせてやるから！」	“是我就安全了吗？……别做梦喽！……就这一点，你们大错特错了哟！偏巧我不是个流浪汉……我老老实实地纳税，有正式的户籍……就现在，已经给警察局发了‘寻人启事’，肯定会出什么事的！还不明白吗，这些事情。……你究竟要我说什么才打算辩解呢？……快，去把负责人叫来……我要好好说给他听听，你们干了件多么愚蠢的事哇！”
390	女は眼をふせ、かすかに吐息をついた。それっきり、肩をおとすと、もう身じろぎしようともしないのだ。まるで理不尽な難題をふきかけられた、不幸な仔犬のように。それがかえって、男の怒りに、油をそそぐ結果になる。	女人垂下了眼帘，轻轻吐着气。就那样，沉下肩膀，身子一动也不动。简直象一头不幸的小狗，接到了一个理不清头绪的难题。这举动给男人的愤怒火上浇油。

391	「なにをぐずぐず、ためらうことがある？……いいかね、問題はぼくのことだけじゃない。あんただって、けっこう、同じくらい被害者なんだろう？　だって、そうじゃないか、現にあんたは、ここの生活が、外部に知られると困ると言った……これが不当な生活だってことを、あんた自身も認めているっていう証拠じゃないか！　こんな、奴隷あつかいをされていて、そんな代弁者みたいな顔はよしなさい！……誰にもあんたをここに閉じこめておく権利なんてありはしないんだ！……さあ、すぐに誰かを呼ぶんだ！　ここを出て行くんだ！……ははあ、分った……恐がっているんだな？……馬鹿馬鹿しい！……なにが恐いことなんかあるもんか！……ぼくがついてるよ……新聞社に勤めている友達もいるしね……こいつを社会問題にしてやろうじゃないか……どうしたんだ？……なぜ黙っている？……びくびくすることはないって言ってるだろう！」	“有什么可拖拖拉拉、缩手缩脚的事？……够了吧，其实，问题不仅仅是我一个人，你不也是跟我一样的受害者吗？难道不是吗？刚才你说，这里的事给外面知道会惹麻烦的……这不就证明你自己也承认吗！过着这种奴隶般的生活，你还是放下那‘代言人’的臭架子吧！……谁也没有权利把你关在这里！……快，快去把人叫来！……从这儿出去！……哈哈，懂了吧……你害怕了吧？……傻乎乎的！……有什么值得害怕的！……我跟着你哟……我还有在报社里工作的朋友……我们把这事作为社会问题来抓嘛……怎么样，干吧……怎么还不开口？我说过，没什么可发抖的事嘛！”
398	たしかに今は、沈着と冷静こそが求められるべきときだ……相手の意図がはっきりした以上、右往左往するよりは、現実を直視して、実際的な脱出のプランを練るべきだろう……不法行為をなじるのは、そのあとからでいい……ただ、空腹は、意欲を喪失させる……精神の集中にもよろしくない。とは言うものの、現状を拒否するつもりなら、当然食事もふくめて、徹底的に拒否しつくすべきではないだろうか？　腹を立てながら、飯を食ったりしては、こっけいになる。犬だって、餌を口に入れたとたんに、尻尾を下げてしまうものだ。	确实，眼下正是需要沉着冷静的时候。……自己还没摸清对方的意图，与其横冲直撞，不如眼下面对现实，盘算切实的逃跑计划。……追究不法行为当在其后……但空着肚子会丧失意志的。精神过于集中也不好。话虽这么说，可要是真打算拒绝现状的话，当然也应该包括吃饭，彻底地拒绝一切。一边生她的气，一边吃她做的饭，实在滑稽的很。就是一条狗，给它吃东西的时候，也会垂下尾巴的。
400	すると……食事を我慢せずにすませる、巧い口実がみつかって、ほっとしたのか……急に視界がひらけて、思考の糸口がほぐれだした。たかだか砂が相手じゃないか。そうとも、べつに鉄格子を破ろうなどと、無理難題をふっかけられているわけじゃない。縄梯子をとりあげられたのなら、木の梯子をつくればいい。砂の壁がけわしすぎるのなら、それをくずして、傾斜をゆるやかにしてやればいい……ちょっと頭を働かしさえすれば、ざっとごらんのとおりだ……単純すぎるようでもあるが、目的にかなっているのなら、単純にこしたことはあるまい。コロンブスの卵のたとえもあるとおり、真に正しい解答は、しばしば馬鹿らしいほど単純なものである。面倒をいといさえしなければ……闘うつもりになりさえすれば……まだまだ万事休したというわけではないのである。	///于是……他巧妙地找到不需忍“饿”，堂而皇之吃饭的借口，松了一口气……忽然，眼界敞开了，他解开了思考的结头。说到底，对手不就是沙子吗？于是，也就不可能有“冲破铁笼子”等无理要求了。绳梯给拿走了，做个木梯子不就行了吗？沙壁太陡，铲掉一些，让它的倾斜再舒缓一点不就得了吗……只要稍微开动些脑筋，“唰”地一下如你所见到的……看上去十分简单，但真正要达到目的，却不会有那么简单。就象哥伦布用鸡蛋来打比方说的那样，完全正确的解答，常常简单到近乎不值一提的程度。只要不怕麻烦……只要有斗争的决心……远远没有到万事俱休的地步哇。
409	食べおえると、女は流し場に戻り、頭からビニールの布をかぶって、その下でこっそり自分の食事にとりかかる。その後ろ姿を、虫けらのようだと思う。こんな生活を、これから先も、ずっとつづけていくつもりなのだろうか？……外から見れば、猫の額ほどの土地かもしれないが、穴の底に立って見れば、目にうつるものは、ただ際限もない砂と空だけだ……眼の中に閉じこめられてしまったような、単調な生活……この中で、女はきっと、他人から憐みの言葉一つかけられた記憶もなしに過してきたのだろ	吃完饭，女人又回到水槽边，把塑料布顶在头上，在那下面偷偷地吃自己那份。那背影令他想起蝼蚁。难道她打算把这样的生活一直继续下去吧？……从外面看起来，也许只有巴掌大小一块土地，可是站在洞底看，满眼皆是无边无际的沙子和天空。象幽闭进眼中的单调生活……这之中，女人一定没有半点听别人说怜悯话的记忆吧，就这么过来的吧……能够照顾落入陷阱的男人，说不定她会象年轻姑娘似

	う……もしかすると、罠にかかった自分をめぐんでもらって、娘のように胸をときめかせているのかもしれない……あまりにもみじめすぎる……	的，心里“扑扑”跳个不停呢……太凄惨喽……
410	女に何か一言、声をかけてやりたい誘惑にかられ、つなぎに一服しようと、タバコに火をつけてみた。やはりここではビニールが欠かすことのできない生活必需品であるらしい。	他被一种诱惑攫住：真想叫那女人一声，对她说几话；他想乘休息之际，点一根香烟试一试。看来塑料袋是这里不可缺少的生活必需品。
424	やがて天井の一角から、砂がめまぐるしく変化する幾本ものテープになって、どっと吐き出されてきた。その流れの激しさにくらべて、いやにひっそりしているのが、なんとも不思議な感じだ。みるみる畳の上に、天井板の隙間や節穴の位置や大きさが、そっくり浮き彫りになって写し出される。砂のにおいが鼻を刺した。眼にもしみた。急いで外に逃げた。	不久，天花板的一角，沙子眼花缭乱地变换着，成了几根带子，“咕嘟咕嘟”地往外喷吐。与它流动的激烈程度相比较，周围显然过于静悄悄了，总让人觉得有些不对劲。眼看着地席上映现出一层浮雕，和天花板上的缝隙、洞孔的位置、大小都一模一样。沙子的气味直呛鼻子。还渗到了眼睛里。他赶快逃到外面。
427	一番たしかなのは、むろん上から順にけずり落していくことだ。だが、それが出来なければ、下から掘っていくより仕方がない。まず下を適当にえぐって、上からくずれてくるのを待ち、さらに下をえぐって、上をくずす……それを繰返していけば、順に足もとから高くなり、いつかは上にたどりつけるはずだ。むろん途中で、砂の流れに、おし流されることもあるだろう。しかし、いくら流れだといっても、水とはちがう。砂におぼれたなどという話は、まだ聞いたこともない。	最有效的，不用说该由上往下切削而去。但这样不行的话，那就只有从下朝上挖了。首先在下面适当地挖一个洞，等待沙子从上面滑落，下面再挖，上面的沙子再滑落……这样反复地做下去，脚下的沙子就会渐渐增高，什么时候总能到达上面吧。当然，半路上也有被沙流冲走的危险。可不管沙子怎样流动，它肯定与水的流动不一样。还从没听说过人被沙子淹没的事呢。
432	それでは、量の問題だと考えるべきだろうか？……量がちがえば、しぜん圧力もちがってくるわけだ……圧力がちがえば、重さと抵抗の釣合いにだって、当然変化が生れてくるだろう。砂の粒子の構造にも、問題があるのかもしれない。赤土でも、自然に切り出された赤土と、盛土した赤土とでは、圧力に対する抵抗力がまるでちがうという。さらに、湿度のことも、考慮に入れなければなるまいし……つまり、模型とは、別な法則が働いているのかもしれないということだ。	而且，还得考虑“量”的问题吧？……“量”不同，自然，“压力”也不同……压力不同，重量与阻力的平衡，当然也会发生变化。沙粒子的构造也许有问题。就拿红土来说，自然开采出来的红土，与填土的红土；相对于压力的阻力可是完全不一样的。进一步嘛还得考虑温度……也就是说，模型很可能是别的法则在起作用。
435	とっさに男は身構えたが、すぐに気をとりなおし、無視してそのまま仕事をつづけることにした。見られていることが、むしろ男を仕事にかりたてた。	猛地，男人拉开了架势，他回过神来，决定不去管那些人，自己管自己继续干活。正是他干了起来，才把那些家伙吸引来瞧着的。
436	汗が鼻の先からしたたり、眼に流れこむ。ぬぐう間がなければ、眼をつぶってでもスコップをふるうのだ。絶対にこの手を休めてはいけない。この的確な速度をみれば、いくら薄野呂たちだって、いやでもおのれの軽薄さを思い知らされるはずである。	汗水顺着鼻梁流进了眼睛里。没有擦汗的功夫，他干脆闭着眼睛挥动铁锹。手绝对不能停下来。瞧这等实在的速度，那些轻狂的家伙，就是再不愿意也得承认自己的轻薄。
437	時計を見た。文字盤の砂を、ズボンで拭きとると、まだ二時十分だ。さっき見たときも、同じくたしか二時十分だった。急に速度感に対する自信が失われてくる。かたつむりの眼で見れば、 太陽だって、野球のボールのような速さでうつるかもしれないのだ。スコップを持ちかえ、あらためて砂の壁にむかって突進した。	他想看一下表。把表面在裤腿上擦了擦。拂去沙子一看，还只有二点十分。他忽然想起刚才看表的时候，肯定也同样是二点十分。顿时，他失去了速度感的自信。用蜗牛的眼睛来看，也许太阳也象棒球那样飞速移动吧。于是，他又拿起铁锹，对准沙壁，重新冲了上去。
453	砂にうたれて、気を失って以来、ずっと寝たっきりなのだ。最初の二日は、三十九度ちかい高熱と、執拗な嘔吐に悩まされた。だが、その翌日には、熱	被沙子打倒，昏厥过去以后，他一直就这么躺着。最初的两天，他被接近三十九度的高烧和执拗的呕吐困扰着。再过一

	もひいたし、ある程度食欲も回復していた。どうやら原因は、砂崩れによる傷害というよりも、長時間、直射日光にさらされながら、馴れない労働をつづけたためらしい。結局のところ、大したことではなかったわけである。	天，烧退了，食欲也有某种程度的恢复。要问究竟怎么会倒下的，与其说是沙崩所致，不如说是由于长时间受阳光直射，不停地干那种还没习惯的体力活所造成的。结果，并没有什么大不了的伤病。
460	ぐったり、全身を女の手にゆだねてしまっても、病気という口実のせいか、さして気にならない。熱病にかかった子供が、冷たい銀紙にくるまれる夢をみたというような、詩を読んだことがあったっけ。汗と、砂に、塗り込められて、窒息しかかった皮膚が、たちまちすずしく、息をふきかえす。その生き返った皮膚の上を、女の体臭が、微妙な刺戟になって、這いまわる。	筋疲力尽，身子任凭女人摆布，虽说他把生病当作借口， 但眼下的无力也并非故意装出来的。似乎读过这样的诗，得了热病的孩子梦见了冰凉的银纸包裹住了自己。被汗水和沙子涂抹得快窒息的皮肤，立刻凉了下来，又恢复了呼吸。女人身体上的气味，变成一股微妙的刺激漂散着。
461	とは言え、女を完全に許したわけでも、むろんない。それはそれ、これはこれと、一応区別しているだけのことである。三日間の休暇は、とっくに過ぎてしまった。いまさら、じたばたしてもはじまるまい。崖をくずして、砂の傾斜をゆるやかにしようという、最初の計画も、失敗というよりは、むしろ準備の不足だった。日射病などという、不測の事態に邪魔だてされさえしなければ、あれでもけっこう上手くいっていたはずなのだ。ただ、砂掘り作業は想像していた以上に激しい労働であり、もっと上手い工夫があれば、その方がいいに決っている。	然而，他当然不会完全原谅女人。钉是钉，铆是铆，大致得有个区别。三天的休假老早就过去了。已经到了现在这地步，再心急慌忙怕也来不及了吧。最初的计划：弄坍崖，让倾斜度变缓；说是计划失败，其实倒应该说是准备不足。要不是那被称作“日晒病”的不测事态作梗，那事情本该能做好的。只是“挖砂”的操作，实在是一项比想象激烈得多的劳动，要是有出色技巧的话，这种方法无疑是最有效的。
462	失神から回復したとき、まだ女の家に寝かされたままであることを知って、男はいささか気を悪くした。部落の連中には、彼をいたわる気持など、毛頭もちあわせていないらしい。そうと分れば、こちらにだって、考えがあるというものだ。医者も呼ばずに、甘くみてかかったことを、逆手にとって、思うさま後悔させてやろう。女が働いている夜のあいだは、ぐっすり眠ってやる。逆に、女が休まなければならない日中は、うんと大げさに苦痛を訴えたりして、睡眠の邪魔をしてやるのだ。	神智恢复过来的时候，男人发现自己还睡在女人的家里，心里真有些不痛快。村子里的家伙们甚至没有一点安慰他的表示。他体会到了，而自己这头也有打算。他们连医生也不给叫，这边也就故意找麻烦，用对方出乎意料的方法，让对方觉得后悔。女人半夜里干活的时候，自己呼呼大睡。相反，白天女人必须休息的时候，他就故意拼命地喊疼，不让女人好好睡觉。
466	「とんでもない！　素人に、変にいじられたりしてたまるものか。背骨の神経は、命の綱だからね。ぼくが、死んだら、どうするつもりなんだ！　困るのは、あんたたちの方だろう？　医者を呼びなさい、医者を！　痛い……もうれつに痛むぞ……早くしないと、手おくれになってしまうじゃないか！」	“岂有此理！让生手不当心扭坏了那还了得？背脊骨的神经可是性命之网哟。我死了，看你们还有什么打算！该你们发愁了吧？去叫医生，叫医生！疼死喽……猛烈的疼痛哟……不快点去叫可就来不及喽！”
467	女は、事態の重みに耐えかねて、やがてくたくたになってしまうだろう。仕事の能率は低下し、建物の安全までがおびやかされることになる。これは部落にとっても由々しき一大事だ。労働力はおろか、とんだ邪魔物をくわえこんでしまったわけである。さっさと、追い出してしまわなければ、それこそ取り返しのつかないことになってしまうのだ。	女人不堪事态的重负，不久一定会变得筋疲力尽的。干活的能力下降，甚至给建筑物的安全带来威胁。对整个村落来说，这可是严重的大问题呀。劳动力算不上，还拖进来个添麻烦的种。不把他赶快撵走，将来可就无法收拾了。
468	だが、この計画も、思ったほど順調には搬んでくれなかった。ここでは、昼よりも夜のほうが、むしろ生々と息づいている。壁ごしに聞えてくる、スコップの音……女の息使い……モッコを搬ぶ、男たちの掛声や舌打ち……風に吸われて、ふくみ声になった、オート三輪のうなり……犬の遠吠え……寝ようと努力すればするほど、かえって神経がたかぶり、	然而，这个计划也没有想像地那么顺利，在这里，夜晚比白天活泛。隔着墙可以听到铁锹的声音……女人的呼吸……男人们搬动大网篮的叫声、咂嘴声……一下子都给风吸了进去，变成模糊含混的声音。三轮车的呻吟……远处狗在叫……越是努力想睡着，反而越是精神抖擞，眼睁

	目がさえてしまうのだ。	睁地醒着。
469	夜、睡眠がじゅうぶんにとれないとなると、日中のうたた寝はさけられない。その上、いけないことに、これが失敗しても、まだ何んとかなるのだという抜け道の存在が、彼の忍耐力を中途半端なものにしていたようだ。あれから一週間……もうそろそろ、捜索願が出されてもいい頃である。はじめの三日だけは、届けを出してあった。しかしそのままになっている。ただでさえ、他人の行動に神経過敏な同僚たちが、これを見逃してくれたりするはずがない。	夜里睡不足，白天免不了要打盹儿。更令他担心的是：他的忍耐力老是半途而废；那是因为他老相信，这个计划失败了，还会有什么后路存在。打那以后，又过了一星期……已经快到下达“搜索书”的时候了。头上的三天提出申请书。以后便原封不动的放着。但是，那些对别人行动神经过敏的同事们，对这事绝可会放过。
470	///おそらく、その晩のうちにも、誰かおせっかいやきが現われて、彼の下宿をのぞきに行ってくれたことだろう。西陽にむれた、殺風景な部屋、すえた臭いをたてて、主人の不在を告げている。訪問者は、この穴ぐらから解放された、運のいい住人に対して、本能的な妬みをおぼえるかもしれない。そして、その翌日には、嫌味たっぷりな陰口が、ひそめた眉や、皮肉に曲げた指を添え物にして、囁きかわされることだろう。	///恐怕当晚，某位性急的就会偷偷地去他家窥探。让西晒太阳烤得发烫的房间，一个杀风景的房间，房内腾起一股酸腐气味，有人告诉说“家里的主人不在”。访问者从这个洞穴里解放出来，也许对好运气的住户还抱着本能的嫉妒呢。于是，第二天，充满挖苦意味的谣言，紧蹙的眉头、添上了讽刺歪曲的手指之类的东西，通过交头接耳的方式传播。
471	生徒たちは、年々、川の水のように自分たちを乗りこえ、流れ去って行くのに、その流れの底で、教師だけが、深く埋もれた石のように、いつも取り残されていなければならないのだ。希望は、他人に語るものであっても、自分で夢みるものではない。彼等は、自分をぼろ屑のようだと感じ、孤独な自虐趣味におちいるか、さもなければ、他人の無軌道を告発しつづける、疑い深い有徳の士になりはてる。	学生们每年都象河里的流水，从自己身边越过奔流而去，只有教师老是必须留下来，象深深沉在河底的石头。“希望”只是对他人说的东西，而不是自己所梦见的东西。他们感到自己象“破烂”，落入孤独的自虐趣味之中；要不然，就是不断告发别人的越规行为，沦落为疑惑深深的“有德之士”。
475	役に立たないと決れば、あまり面倒なことにならないうちに、さっさと手離してしまったほうが利口だろう。今のうちなら、まだ言いわけはたつ。男が勝手に落込んで、そのショックでおかしな妄想にとりつかれたらしいと申し立てれば、策略にかかって閉じ込められたなどという、非現実的な訴えなどよりは、はるかに筋のとおった説明として受入れられるにちがいない。	如果肯定起不了作用，在未形成麻烦之前迅速地抽出手来，不失为聪明的举动。现在还交代得过去。男人不当心掉了进去，如果硬说他因受惊而导致非分的妄想，那么，比起非现实的控诉，所谓讲究策略而被幽闭等等；他一定会接受，作为一种遥远的合乎逻辑的说明。
478	「それはそうと……」内側から、むりやり鉗子でこじ開けられるようなあくびを噛みころし、「どうだろう、久しぶりに、新聞を読んでみたいんだが、なんとかならないだろうか？」	“这倒是哇……”嘴里象有一把钳子正不顾一切，要撬开嘴唇似地，他拼命咬紧牙关忍住哈欠，“怎么样，我好久没看报纸了，能弄一份来看看吗？”
480	女が、誠意を示そうとしているのは、よく分った。遠慮勝ちな、おずおずとした声の調子にも、彼の気を損うまいとする配慮が、ありありと感じられる。だが、そのことがまた、いっそう彼を苛立たせるのだ。聞いておきましょうだと？……おれには、許可なしに、新聞を読む権利もないというのか……男は、ののしりながら、女の手をはらいのけ、中身ごと洗面器をひっくりかえしてやりたいような衝動にかられる。	男人很清楚女人想表示诚意。从女人那客气的、怯生生的声音调子里，到处都能感觉到，她小心翼翼，生怕破坏了他的情绪。然而，这种调子，更使他气不打一处来。“我先去问问”？……难道咱没得到许可，连看报纸的权利都没有了吗？……男人一阵冲动：他真想大骂一场，甩开女人的手，把盛着水的洗脸盆打翻掉。
491	よごれた霧のようなもので、視界がふさがれていた。身じろぐにつれて、かさかさと、乾いた紙の音がした。ひろげた新聞紙で、顔を覆われているのだった。ちくしょう、また寝込んでしまった！……はらいのけると、紙の表面を、砂の被膜が流れ落ちた。その量からして、もうかなりの時間が、経ってしま	肮脏的雾气遮住了视线。他一翻身，只听到“咔嚓咔嚓”干燥的纸张声音，原来是一张摊开的报纸，盖在了他的脸上。妈的，又睡着了！……他一把掀开，覆盖在报纸表面的沙子洒落了下来。从那个量来估计，好象已经过了相当长的时间了。太

	ったらしい。壁の隙間からさしこむ日差しの位置も、ほぼ正午を告げている。だがそれよりも、この臭いはなんだろう？　新しいインクの香り？……まさかと思いながらも、日付け欄に目を走らせてみる。十六日、水曜日……やはり今日の新聞なのだ！　信じられないことだが、事実だった。すると、女は、彼の希望を聞き入れてくれたというわけか？	阳光从墙壁的缝隙里射进来，它那位置也报告说眼下已接近正午。更令人奇怪的，这气味是怎么回事呢？是新的油墨气味吗？……他心里想着“哪可能”，可还是往日期栏上扫了一眼。十六日、星期三……还真是今天的报纸呢！简直不敢相信，但毕竟是事实。原来是女人顺从了他的希望呐。
494	……一体、あの女は、どうやってこの新聞を手に入れたのだろう？……やはり、村の連中が、多少なりとも彼に負い目を感じはじめたということだろうか？……それにしても、これまでのしきたりからすれば、朝食後は、一切外との連絡は絶たれてしまうはずだった。女が、彼のまだ知らない、外との特別な連絡方法をもっていたのか、さもなければ、自分で外に出て買ってきたかの、いずれかにちがいない……	……究竟那女人是怎么弄到这份报纸的呢？……大概村里的哪个家伙，对他多少有些感到愧疚了吧？……即使如此，按以往的惯例，吃过早饭后，对外的一切联络都应该中断了呀。难道女人还有他所不知道的、与外界保持联系的方法吗，说不定，是她自己外出买回来的吧，就只有这些可能了……
496	だが、待てよ……もし、女が、外に出掛けたのだとしたら……当然、縄梯子なしには、考えられない。どんな方法でかは分らないが、とにかく、縄梯子がつかわれたことはたしかなのだ……そんなことだろうと、うすうす予想はしていた……逃げ出すことしか考えていない囚人ならいざ知らず、部落の住人である女が、出入りの自由まで奪われて、我慢していられるわけがない……縄梯子の撤去は、おれを閉じ込めるための、一時的な措置にすぎなかったのだ……だとすると、このまま油断させつづけていれば、いつかはまた同じチャンスに巡りあい……	但是，等一等……好，就算女人出去过了……但是，没有绳梯是无法想像的。到底用了什么方法不知道，但至少可以肯定，她用过绳梯……他浅浅地做一推算，该有这么回事吧……一个只盘算逃跑的犯人固然不得而知，而那女人是村里的居民，要是被剥夺了自由，她才不会忍气吞生呢……撤去绳梯，看来只不过是为了关闭生人而采取的临时措施……要真是的话，就这样保持现状，让她放松警惕，什么时候或许能撞上同样的机会呢……
498	どうやら、おれの仮病作戦には、またまた思わぬ付録がつけ加えられたようである。果報は寝て待てとは、昔の人間も、うまいことを言ったものだ……しかし、心は、なぜか一向にはずんでくれない。なにか釈然としないものが残るのだ。あの、おそろしく胃にもたれる、奇妙な夢のせいだろうか？……	看起来，咱的假病作战，象是又一次要添上意想不到的附录了。俗话说得好：“因果报应躺着等。”……然而，心怎么一直狠不下来。还剩下些怎么也解释不通的东西。是那个可怕的，连胃也得积食的奇异之梦在作怪吧？……
502	戸口に立って、砂の壁を見上げた。光が眼にしみ、あたりが黄色く燃えはじめた。人影も、縄梯子も、むろんない。ないのが当りまえだ。ただ念のために、たしかめてみただけである。縄梯子がおろされた形跡さえなかった。もっともこの風なら、どんな痕跡でも、五分とかからずに消してしまうだろう。戸口のすぐ外でも、砂の表皮がたえまなく、流れるようにめくられつづけている。	他站在门口，抬头望望沙壁。亮光渗入了眼睛，周围燃起一片黄色晕圈。不用说没有人影、也没有绳梯。没有是当然的。只是想看一眼，确认一下而已。没有一点吊放过绳梯的痕迹。本来么，这股大风，再深的痕迹也要被吹去一半的吧。外面，紧靠门口处，沙壁的表皮象流水般，没完没了地剥落。
507	しかし、あっさり期待を裏切られてしまう。	谁知，事与愿违。
509	たしかに、偶然の一致ということも、ありえないことではない。だが、それではまるで、合鍵のない錠前で、檻のなかに閉じこめられてしまったようなものではないか。地元の人間でさえが、幽閉に甘んじなければならないとすると、この砂の壁のけわしさはただ事でないものになる。男は、やっきになって、食い下った。	确实，偶然的一致也不是没有可能的。然而，这简直就象关在笼子里的人，站在没有配钥匙的大锁之前。就连本地人，都必须习惯忍受幽闭的话，这沙壁的险峻也就不是普通的事喽。男人激动起来，紧紧咬住不放：
519	「ふざけているんじゃない！　ようく自分の心に聞いてみなさい、分らないはずはないんだ！……犬だって、檻の中に入れられっぱなしじゃ、気が狂ってしまうんだからね！」	“别说玩笑话了！你好好问一下自己的心，不会不知道吧！……即使是条狗，老把它关在笼子里，它也会发狂的嘛！”

521	男は、不意をつかれる。まったく、妙な言いがかりもあったものだ。そうひらきなおられると、彼にも言い返す自信はない。	男人冷不防吃了一惊。全是奇谈怪论。这样将错就错下去，连他也会没有回话的自信了。
522	そう……十何年か前の、あの廃墟の時代には、誰もがこぞって、歩かないですむ自由を求めて狂奔したものだった。それでは、いま、はたして歩かないですむ自由に食傷したと言いきれるかどうか？　現に、おまえだって、そんな幻想相手の鬼ごっこに疲れはてたばかりに、こんな砂丘あたりにさそい出されて来たのではなかったか……砂……　m.m.の限りない流動……それは、歩かないですむ自由にしがみついている、ネガ・フィルムの中の、裏返しになった自画像だ。いくら遠足にあこがれてきた子供でも、迷子になったとたんに、大声をあげて泣きだすものである。	是呵……在十几年前的那个废墟时代，人人都狂奔着去寻找不用走路就能解决的自由。那么，眼下果真能一口断定“不用走路就能解决的自由”已经让人们腻烦了吗？就说你吧，不是也被那种幻想对手的捉迷藏所拖累，受它引诱到了这沙丘附近来的吗？……沙……１／８ＭＭ的无限流淌……它抓住了“不用走路就能解决的自由”，是底片中阴阳相反的自画像。一个孩子即使再向往远足，当他成了迷路孩子的一刹那，也会大声哭泣的。
525	豚みたいな顔をするのはよせ！　男は苛立ち、相手をむりやり捩じふせてでも、泥をはかせてやりたいと思った。そう思っただけで、皮膚がけばだち、ばりばり乾いた糊をはがすような音をたてはじめる。ねじふせるという言葉から、皮膚が勝手な連想をしてしまったらしい。いきなり女が、背景から切りとられた、輪廓だけの存在になっている。二十歳の男は、観念で発情する。四十歳の男は皮膚の表面で発情する。	挪开猪一样的脸吧！男人真有些火了，真想强行扭住她的胳膊，把她摁倒在泥里。可只不过想想，皮肤上就起了鸡皮疙瘩，哗啦哗啦响起了揭掉干乎乎浆糊的声音。“扭住胳膊”一词，皮肤展开随了心所欲的联想。忽然，女人同背景分离了开来，只剩一个轮廓存在着。二十岁的男人，靠观念发情。四十岁的男人，靠皮肤的表面发情。
526	///しかし三十男には輪廓だけになった女が、いちばん危険なのだ……まるで、自分自身を抱くように、気安く抱くこともできるだろう……だが、女のうしろには、沢山の眼がひかえている……女は、それらの視線の糸であやつられる、あやつり人形にしかすぎないのだ……女を抱けば、今度はおまえがあやつられる番だ……脊椎の脱臼などという、大ぼらだって、たちまち馬脚をあらわしてしまうことになる。こんなところで、これまでのおれの生活が、中断されたりしてたまるものか！	///可是，对三十岁的男人来说，变成轮廓的女人最危险。……简直就象抱住自己似地，可以毫无顾忌地抱住吧……但是，女人的背后生着许多眼睛……女人被那视线之丝操纵着，不过是受操纵的泥娃娃……要是抱住了女人，这回可就要轮到你被操纵了……“脊椎脱臼”，撒了个大谎，立刻就会露出马脚来。咱已经过惯的生活，难道就此断送了吗！
527	女が、にじりよって来た。膝のまるみが、尻の肉におしつけられた。眠っていたあいだに、女の口や、鼻や、耳や、腋の下や、その他のくぼみの中で醗酵した、ひなた水のような臭いが、あたりを濃く染めはじめる。	女人葡匐着凑近过来。圆圆的膝头往男人屁股上，肉鼓鼓顶了过来。睡着的时候，女人嘴里、鼻子、耳朵、腋下，还有其他凹下的地方，那发了酵的、象晒热的水似的气味，浓浓地渲染了起来。
540	まあ、なんとか、我慢しとおせたとする。しかし、すがすがしい群青の光が、穴のへりからすべり込んできたとたん、こんどは逆に、あの濡れた海綿のような眠りとの格闘だ。この悪循環を、どこかで絶ち切らないかぎり、時計ばかりでなく、時そのものまでが、砂の粒子に、動きをとめられてしまうおそれがある。	呵，算了，将就将就吧。清清爽爽的道道青光，沿着洞穴的边缘透进来，这次，倒过来，自己得同那濡湿海绵般的困倦作斗争。只要这种恶性循环不在哪里截断下来，不仅是手表，怕是连时间本身都要被沙的粒子弄得动弹不得了吧。
542	《法人税汚職、市に飛び火》……《工業のメッカに、学園都市を》……《相つぐ操業中止、総評近く、見解発表》……《二児を絞殺、母親服毒》……《頻発する自動車強盗、新しい生活様式が、新しい犯罪を生む？》……《三年間、交番に花をとどけた、匿名少女》……《東京五輪、予算でもめる》……《今日も通り魔、二少女切らる》……《睡眠薬遊びにむしばまれる、学園の青春》……《株価にも秋風の気配》	《贪污法人税，市府受牵连》……《工业发源地，建设学园都市》……《中止作业相继发生，接近总评，发表见解》……《绞杀二儿，母亲服毒》……《小汽车强盗事件频发，新生活样式产生新犯罪吗？》……《三年里，匿名少女送花派出所》……《东京奥林匹克运动会因经费预算发生争执》……《今天又有两少女遭神

	……《テナーサックスの名手、ブルー・ジャクソン来日》……	出鬼没的歹徒暗算》……《玩弄睡眠药所侵扰的学园青春》……《股票也有秋风行情》……《著名高音萨克斯管演奏家保尔·杰克逊访问日本》……
552	女は、せっせと砂掻きに余念がない。砂に切りこむ、軽いスコップの手さばき……乱れのない、力のこもった息使い……足もとのランプにおどる、ひき伸ばされた影……男は、建物の角に身をひそめ、じっと呼吸をととのえる。手拭の両端を、両手でつかんで、強く左右に引き、あと十数えたら、飛び出そう……すくった砂をもち上げようと、重心を傾けた瞬間をねらって、一気に襲いかかるのだ。	女人拼命的清沙，目不旁顾。男人躲在房子的角落，屏住呼吸瞧着，听着：轻松挥动铁锹的手臂动作……纹丝不乱、起劲的呼吸……脚下的灯，映照出她那舞动的影子……。他牢牢抓住手巾的两端，拼命往左右两边拉，再数十秒往外跳……瞅准她用铁锹抄起沙子往上举，重心偏离的一瞬间，他想一步冲上去袭击她。
553	たとえば、例の、県の役人のこともあるわけだ。最初、部落の老人は、彼をその役人かと思い違えて、ひどい警戒の色を示したものである。役人の調査が、近く予定されていたのだろう。だとすると、その実現によって、部落内の意見が対立し、もはや彼の存在を隠しきれず、これ以上閉じ込めておくことを、あきらめてくれないとも限らないのだ。ただし、その三十分が、半年、もしくは一年以上に引きのばされないという保証も、同様にない。三十分と、一年が、五分と五分との確率に、賭けたりするのはもうまっぴらである。	譬如，有县里政府官员来调查的事。一开始，村里那老头还误把他当成那个官员，脸上现出明显的警惕神色。看来政府官员的调查是迟早的事。假如真的来了，村里意见不一，肯定掩盖不住他的事，也许他们会早早死心不再囚禁他了呢。然而，同样不能保证这三十分钟不会拖到半年或者一年以上。三十分钟和一年可是一半对一半的准确率呀，他已经再也不想打赌了。
558	めくるめく、太陽にみたされた夏などというものは、いずれ小説か映画のなかだけの出来事にきまっている。	播撒眩目太阳光的夏天，只有在小说和电影中才会出现。
565	メビウスの輪とは、一度ひねった紙テープの両端をまるく貼り合わせたもので、つまり裏も表もない空間のことだ。組合活動と、私生活とが、メビウスの輪のようにつながっているというほどの意味だろうか。皮肉と同時に、多少は称讃の気持もこめられていたように思う。	所谓“美比乌斯圈圈”，就是将一条纸带绞一下，然后将纸带背面的一端，粘在纸带表面的一端，形成一个环，即一个“不分表里”的空间。也许说的是那男人将工会运动和自己的私生活如同“美比乌斯圈圈”那样联系在一起了吧。虽说有些讽刺的意味，但多少也带有些褒意。
573	ところが、そのメビウスの輪までが、彼の休暇に対しては、他の同僚たちと同じ、灰色の妬みをあからさまに示したのだ。おおよそメビウスの輪らしくない。がっかりすると同時に、小気味よくもあった。美徳に対しては、誰もがとかく、意地悪になりがちなものである。おかげで、じらすたのしみに、ずっしり重みがくわえられることになってしまった。	谁知，就连这“美比乌斯圈圈”，对他的休假也明显表示出与其他同事相同的、灰色的妒嫉。简直不象“美比乌斯圈圈”。他觉得好没趣，同时又有一股痛快的感觉。相对于美德，往往谁都会做出捉弄人的事来。结果，沉甸甸的重物被焦急的快乐所咬住。
574	そこで、例の手紙になるわけだ……すでに、くばられてしまった、とり返しのつかないカード……昨夜の夢の強迫は、決していわれのないものではなかったのである。	于是，就有了那封信……已经发出去了，收不回来的卡片……昨晚，梦里的压迫，决不是没有依据的。
575	彼とあいつとのあいだに、まるで愛情がなかったといえば、それは嘘になる。ただ、互いにすねあうことでしか、相手を確かめられないような、多少くすんだ間柄だったというだけだ。たとえば、彼が、結婚の本質は、要するに未開地の開墾のようなものだと言えば、あいつの方では、手狭になった家の増築であるべきだと、わけもなく憤然として言い返す。逆を言えば、おそらく逆の答えをしたにちがいない。	他和“那口子”之间，若说没有一点爱情，那是假话。但是可以说，他们之间只是不引人注目的关系：只有当他们互相闹些小别扭的时候，才能被对方承认。譬如，他说，结婚的本质概括起来说是被开垦的荒地，“那口子”就会莫名其妙地发起火来。她回话说，把狭窄的屋子放放大倒是真的。倒过来说，恐怕一定有倒过来的回答。
577	その無邪気ないたずらが、結果としては、持主にしか開けられない、盗難防止装置つきの自動錠の役	这个天真的恶作剧，最终成了一把自动锁：只有丈夫一个人能打开的装有防盗

	目をすることになってしまったのだ。あの手紙が、誰の目にもとまらなかったなどと言うことはありえない。まるで、逃亡が自分の意志であることの声明書を、わざわざ残してきたようなものである。現場にいたことを、すでに目撃されていながら、ごていねいにも指紋を拭き消したりして、かえって犯意を証拠だててしまった、愚かな犯人のやり口にそっくりではないか。	装置的自动锁。很难说没有人会去注意那封信。那简直象故意留下表示自己逃亡意志的声明书。已经有人看见你在现场，你要是仔细地擦去指纹，反倒会成为犯罪的证据。这不是和愚蠢犯人的行径如出一辙吗？
578	チャンスは、はるかに、遠ざかってしまった。いまさらそんな可能性にしがみついてみたところで、期待の自家中毒に苦しめられるだけのことである。いまとなっては、扉を開けてくれるのを待たずに、こちらからこじ開け、力ずくでも出ていくしかない。もはや、どんなためらいも、口実にはなりえないのだ。	机会远远离去了，到现在才来抓住那种可能性，那就只有被自身的毒所苦恼了。眼下已经不可能等待有人会来帮忙开门了，只好自己撬开门，奋力出逃，只有这一条路可走。任何犹豫不决都成不了借口。
583	その意気込みのわりには、男の動作は緩慢だった。砂に力を吸われてしまうのだ。すでに女は振向き、スコップを斜めに身構えて、呆然とこちらを見つめている。	与那份热情的相比，男人的动作是缓慢的，象是被沙子吸住了似地。这时，女人已经回过头来，斜斜地拄着铁锹，呆呆地盯着男人看。
584	もし女が、本気で抵抗する気になっていたら、結果はまるでちがったものになっていただろう。しかし、不意をつこうという彼のねらいは当っていた。男のあせりもひどかったが、女も驚愕にいすくめられていた。構えたスコップで、男をおし返す才覚さえ働かなかったらしい。	女人真要抵抗的话，结果会完全两样吧。可是，男人瞅准了目标，来了个突然袭击。男人紧张到了极点，女人也被吓得不敢动弹。她甚至想不起来拄着的铁锹尽可以抵挡男人一阵。
586	ひきつった声で、囁きつづけ、やみくもに手拭を口の中におしこんでしまう。その不器用で盲めっぽうな行為にたいしてさえ、女はさからいもせず、ほとんどされるままになっていた。	男人用痉挛的声音，小声嘀咕着，将手巾胡乱塞进了女人的嘴里。男人动作笨拙，而女人对于那些莽撞的动作竟然一点也不反抗，几乎完全听任男人摆布。
593	「まあ、しばらく、がまんしてもらうんだな。モッコの連中が戻ってくるまでの辛抱だ。ぼくがさんざん舐めさせられた、でたらめと比べりゃ、文句を言えた義理じゃあるまいさ。それに、宿泊料も、ちゃんと払わせていただきますしね……もっとも、こっちで勝手に計算させてもらった、実費だけどね……かまわないでしょう？……かまうもんか！……本来なら、只が当然のところなんだが、そんなことで帳消しにされちゃかなわないから、むりやり置いていってやるんだ。」	“那么，请你暂时忍耐些吧。要坚持到大网篮的家伙们回来呢。我可是饱尝辛酸喽，和那些人作的荒唐事比较起来，你可没有发牢骚的道理吧。而且我还要付给你住宿费呢……只能照本来由我大致推算的实际费用呀……这可以吧……当然可以咯！……本来嘛应该不付钱的，但因这事你的帐摆不平，所以，我硬是要放下钱给你的。”
609	穴の中は、手ざわりを感じられるほどの闇に閉ざされていたが、外にはすでに、月が出ているらしく、砂と空との境界線に、男たちの影が一とかたまりになって、ぼんやりにじんで見えていた。	洞穴中，笼罩着伸手不见五指的幽暗，外面却是皓月当空；沙子与天空的分界线上，男人们的影子看上去成了模糊的一团。
611	崖の上から、卑猥な笑い声がおこった。石油罐をつり上げるための、鈎つきのロープが、たぐりおろされてきた。	坝上传来了卑猥的笑声。穿着钩子的绳索放了下来，要把石油桶吊上去。
616	上では、なにやら、意見の交換がはじまったらしい。と、いきなり強い手ごたえがあって、ロープが引上げられはじめた。予想以上の、はずみのある重さが、指からロープをむしり取る。	上面象在交换意见。忽地，手上传来强烈的反应，绳索开始往上提起来。比预想的更富有弹性的重量，从手指上拔去绳索。
618	上の連中が、手を離したのだ！……半廻転して、首のつけ根から下に、砂の上に投げだされる。体の下で、採集箱が、いやな音をたてた。つづけて、何かが、頬をかすめて飛んだ。ロープの先の、鈎だっ	上面那帮家伙竟松开了手！……转了半圈，头朝下地摔在了沙地上。身体之下，采集箱发出了“嘎”的一声。接着，什么东西掠过脸颊飞走了。象是绳索上的钩子。

	たらしい。ひどいことをする奴等だ。倖い、けがはなかった。採集箱が当った、脇腹のへんをのぞけば、べつに痛むところもない。反射的に立上って、ロープを探した。もう、引上げられてしまった後だった。	真是群样样干得出来的家伙呀。幸好没有跌伤。采集箱给压垮了，他察看了一下侧腹，也没有作痛的地方。他反射般地跳了起来，摸索刚才那根绳索。老早就给上面那些家伙提去了。
632	女は顎をつきだしてあえいだ。手拭は、女の唾液と口臭で、鼠の死骸のようにずっしりと重い。痣になって刻みこまれた手拭の跡は、おいそれとは消えてくれそうにない。干魚のようにこわばった頬のしこりを、解きほぐそうとして、しきりに下顎の運動をくりかえした。	女人伸出下巴大口喘着气。手巾上沾满了女人的唾液和口里的气味，沉甸甸地象只死老鼠的尸体。手巾的痕迹刻在脸上轻一块紫一块，不能轻易地抹掉。女人象要展开两颊干鱼般发硬的疙瘩，不停地重复着下颚部的运动。
646	そう言われてみれば、そのとおりかもしれない。星がけむっているということは、つまり風に、空中の水蒸気を吹きはらうだけの力がないということだろう。	听她这么一说，倒好象真是这么个理儿。星星象团团烟雾，说明风已经没有力量去吹散天空中的水蒸气了。
651	///ちょっと、不真面目な印象をあたえすぎるんじゃないですか？……そうでしょうか？……いくら強烈な体験であっても、出来事の表面をなぞっただけじゃ、無意味ですからね。やはり、悲劇の主人公は、あくまでも地元の人たちなんだし、それを書くことによって、すこしでも解決の方向が示されるのでなければ、せっかくの体験が泣いてしまいますよ……畜生！……なんです？	///可会不会给人过多不正经的印象呢？……是嘛？……不管多么强烈的体验，如果只描写事件的表面，那实在太没意思了。必须写一下悲剧的主人公，就是当地人，这才能显示出一些解决的方向，否则，好容易得来的体验可就得哭喽。……畜生……什么？
654	///……おかげで、新しい苦痛を味わうための、新しい感覚を、むりやり身につけさせられる……希望だってあります！……その希望が本物かどうか、その先までは責任を持たずにね……そこから先は、めいめいの力を信じてやらなけりゃ……まあ、気休めはよしにしましょう、いずれ教師には、そんな悪徳なんぞ、許されちゃいないんだから……悪徳？……作者のことですよ。作者になりたいっていうのは、要するに、人形使いになって、自分を人形どもから区別したいという、エゴイズムにすぎないんだ。	///……靠了它，体尝了新的苦痛，硬是掌握了新的感觉……而且有希望。这份希望是真是假，再往前可是没有责任喽……今后的前途只有相信冥冥中的力量了。好啦，安心宽慰地见鬼去吧，好歹教师不能容忍这样的可恶品德……可恶品德？……是作家呀。想成为作家，不过是一种利己主义的考虑：就是所谓当个使唤木偶的人，想把自己同木偶区别开来。
663	深々と、ゆっくり、胸いっぱいに吸いこむと、落葉の香りが、血管の隅々にまでしみわたった。唇がしびれ、瞼の裏側に、ずっしりとしたビロードの幕がたれた。しめつけられるような眩暈に、総毛立った。	深深地，悠悠地，胸膛里满满地吸进了一口落叶之香。渗透到血管的各个角落。嘴唇麻木，眼睑的内侧沉甸甸地垂下了天鹅绒的幕布。紧绷绷的晕眩，令他毛骨悚然。
682	「なんでも、観光用の絵葉書をこさえる会社の、セールスマンとかいう人が、組合の支部長さんのところに、たずねて見えられましてねえ……宣伝さえすれば、都会人むきの、けっこうな景色だとかで……」	“说是哪家观光明信片制作公司里的推销员，听说去了联合组织支部书记的家，被人看见了呢……只是些宣传品，给城里人看的，很漂亮的风景。……”
698	「はい、ぐれた仲間にそそのかされて、町に出た若いものがおりましたけど……そのうち、刃物をふりまわすかして、新聞にまで出されて……刑期があけてからは、すぐに連れもどされて、無事に親元でくらしているようですが……」	“是呵，有个年轻人受坏孩子引诱跑到了城里……那时，还舞刀弄枪，报纸上都登了出来……刑期一到，立刻被人带了回来，眼下平平安安地和父母生活在一起……”
710	不意をつかれ、拒めない。皮膚と、砂の膜のあいだに、融けたバターのような、濃い汗の層があった。桃の皮に爪を立てる感じだった。	冷不防被请求，他不好拒绝。女人的皮肤和沙之膜之间，浓浓的汗膜象融化了的白脱油。他感到象挠在桃子皮上似的。
717	待つ時間はつらかった。時間は、蛇腹のように、深いひだをつくって幾重にもたたみこまれていた。その一つ一つに、より道しなければ、先に進むことができないのだ。しかも、そのひだごとに、あらゆ	等待的时间可真难受。时间，就象蛇腹一样，弄出深深的皱纹，折叠了好几层。那一层一层假如不绕远道，就无法向前挺进。每一层皱纹，所有形式的疑惑，手里

	る形の疑惑が、それぞれの武器を手にひそんでいる。それらの疑惑と論争し、黙殺し、あるいは突き倒して進んで行くのは、なみ大抵の努力ではなかった。	都潜藏着各自的武器。与这些疑惑论争，或置之不理。或冲撞前行；不是一般努力所能胜任的。
722	女も全身、砂一色に塗りかためられ、熱病にかかったように、乾いた音をたてて、ふるえていた。女の苦痛が、電線でつないだように、そのままこちらに伝わってくる。やかんのビニールをはいで、まず自分が、かじりつく。	女人全身被沙子涂满，象害热病似地，抖抖索索地发出了干燥的声音。女人的痛苦，象用电线连接着似地，原封不动地传了过来。他剥去水壶上的塑料布，自己先咬住了壶口。
723	飲んだ水が、そのまま汗になって、噴き出してきた。肩甲骨から背筋にかけて、鎖骨から乳のまわりにかけて、脇腹から腰骨のへりにかけて、ただれた皮膚が、薄皮をむかれるように痛んだ。	喝下去的水，原封不动地变成了汗，喷了出来。从肩胛骨到背脊，从锁骨到乳头的周围，从侧腹到腰骨的边缘；糜烂的皮肤，象剥掉一层薄皮似地疼痛。
724	やっと、飲みやんで、言いわけがましく女の口におしこんでやる。女はやかんに噛みつくと、口をすすぐこともせず、そのまま鳩のようにうなって、飲み込んだ。たった三口で、空になってしまった。むくんだ瞼のかげから、男を見すえる女の眼に、はじめて容赦のない非難がこめられる。空になったやかんは、紙細工のように軽かった。	好容易喝完了，他近乎道歉地把水壶口揿到女人嘴里。女人咬住水壶口，口也不漱，就象鸽子似地“咕嘟、咕嘟”喝了起来。才喝了三口，水壶就空了。浮肿的眼皮底下，女人那双直勾勾盯着男人的眼睛，第一次蕴含了不可原谅的责难。空水壶轻得象纸做的。
728	腕をつっこみ、かきまわす。底にこびりついた黒い砂が、わずかに指先をよごしただけだった。はぐらかされた皮膚の下で、無数の傷ついたむかでが、もがきはじめる。	他把胳膊伸进去，用手在水缸里捣着。缸底粘着的黑沙子，仅仅弄脏了他的手指尖。被巧妙甩开的皮肤之下，无数受了伤的蜈蚣，开始挣扎起来。
731	戸口に立って、空を見上げた。朝の陽差しの、赤いくまどりで、やっと見分けられる。遠慮がちな綿毛の雲……とうてい、雨を望めるような空模様ではない。吐く息ごとに、体の水分が失われていくようだ。	他站在门口，抬头望望天空。总算看到了朝阳那红彤彤的面庞，好客气的棉毛细云……终于没有等来企盼着的下雨天。每次呼出气，身体里的水都象一点点消失似的。
734	女がおびえているのも、そのせいかもしれない。逃げ道だと思って、身をおどらせた柵の隙間が、実は檻の入口にすぎないことに、やっと気づいた獣……何度か鼻面をぶつけて、金魚鉢のガラスが通り抜けられない壁であることを、はじめて知った魚……ふたたび、素手でほうり出されてしまったのだ。いま、武器を握っているのは、彼等の側なのである。	女人的害怕可能就源于此吧。野兽寻找着逃路，它终于发现能让身子穿过的栅栏缝隙，其实不过是牢笼的入口处……鱼儿在金鱼缸里，第一次知道自己好几次擦鼻子的玻璃，原来是一堵穿透不过的墙壁……第二次，赤手空拳被人抛了出去。眼下捏着武器的是他们那一帮。
735	しかし、おびえてはいけない。漂流者が、飢えや渇きで倒れるのは、生理的な欠乏そのものよりも、むしろ欠乏にたいする恐怖のせいだという。負けたと思ったときから、敗北がはじまるのだ。鼻の先から、汗のしずくがしたたった。また、何分の一ＣＣかの水分が失われたなどと、一々気にかけたりするのが、すでに敵の術中におちいったことなのだ。コップの水が蒸発してしまうのに、どれほどの時間がかかるかを、考えてみるがいい。不必要に騒いで、時間という馬を、駆り立てることもないだろう。	然而，不能胆怯。飘流者因饥渴而倒下，与其说是生理上的欠缺，倒不如说是出于对“欠缺”的恐怖。正因为你想到输了，所以你才会败北。汗滴从鼻子尖上“啪嗒啪嗒”地掉下。你要是小心翼翼地担心着水分一ＣＣ一ＣＣ地失去，那可是正中了敌人的下怀。还是想想一杯水蒸发要花多少时间的好。也别去不必要的闹事，别去鞭策那匹称作“时间”的马。
749	夜のあいだに吸い込んだ湿気を、蒸気にして、再び大気に吐きだす砂……光の屈折のせいで、濡れたアスファルトのように光りだす……。だがその正体は、ほうろくで炒り焦がされた麦粉よりも、まだ乾ききった、まじりっけなしの　ｍ.ｍ.にすぎないのだ。	///沙子夜间吸进的湿气，蒸发后吐回大气中……光的折射，散发出湿漉漉柏油似的光……。但是，正体简直比沙锅里炒麦粉还要干燥，它不过是没有搀杂物的１／８ＭＭ。
752	行きがかり上、女にもすすめてみた。むろん女は、強く断わった。まるで毒を強いられでもしたような、大げさな拒みかただった。	临了，他又劝女人喝一口试试。女人当然坚决拒绝。简直象要被人强灌毒药似地，大幅度地摆手撑拒着。
759	……人生はそんな、ばらばらな紙片れなんかでは	人生不该是那种散乱的纸片……应该是

	ないはずだ……ちゃんと閉じられた一冊の日記帳なのだ……最初のページなどというものは、一冊につき一ページだけで沢山である……前のページにつづかないページにまで、いちいち義理立てする必要などありはしない……例え相手が飢え死にしかかっていたところで、一々かかわり合っている暇はないのだ……畜生、水がほしい！	合得好好的一本日记……最初的一页，即使每本只有一页也会有很多……直到与前页毫不相连的那一页为止，根本没有必要照顾情面……即使对方已经快饿死了，也没有逐一去关心的闲暇……妈的，要水！
760	二度目の砂崩れがはじまった。	第二次沙崩开始了。
769	なんていう、大げさな心臓だろう……まるで、おびえた小兎みたいに、跳ねまわっていやがる……きめられた巣に落着けないで、口だろうと、耳だろうと、尻の穴だろうと、もぐり込めそうなところなら、どこでもかまわないと言わんばかりだ。唾液のねばりが、前よりもひどくなった。しかし、その割には、喉のかわきは変らない。おそらく、焼酎の酔いで、適当に中和されているせいだろう。アルコールが切れたとたんに、火を吹くのだ。燃え上って、ちりちりの灰になってしまうのだ。	怎么回事，是小题大作的心脏吧……简直象胆怯的小兔似地跳来跳去，真令人讨厌。……在被指定的巢里，一点镇静不下来；口也好，耳朵也好，屁眼也好；假如真有能钻进去的地方，真是去哪儿都行，他差一点把这话说出口来。唾液的粘稠，比刚才更浓厚。可出乎意料的是，喉咙的干渴程度倒是没多大改变。恐怕是烧酒喝醉了，都给适当地中和掉了吧。酒精一中断，便又吹上了火。火一燃烧起来，就又变成丝丝拉拉的灰。
774	すでに、砂崩れがあったあとらしく、かなり深くさぐりを入れているつもりなのだが、いっこうにそれらしい手応えがない。やがて、太陽の直射が、耐えがたくなった。きつく絞りこまれた瞳孔……くらげのように踊りだす胃袋……額をつきぬける激痛……もう汗を流してはいけない……これが限度だ。それよりも、おれのスコップの方は、どこにやったっけ？	似乎沙崩已经过去了，他想把脚尖再伸进去一点，但铁锹的影子也没有。不久，太阳的直射让人难以忍受。瞳孔收缩得很小……海蛰似地跳着舞的胃袋……穿透额头的剧痛……再也不能流汗了……这就是限度。比这更要紧的是，俺的铁锹丢哪儿去了？
777	背後で女の叫び声がおこった。全身の重みをかけて、スコップをつきだした。スコップは、あっけなく、板壁をつきとおしてしまう。まるで、しけった煎餅のような手応えだ。砂に洗われ、外見はいかにも新しそうに見えるのだが、実質はすでに腐りかけているらしい。	背后传来女人一声尖叫。男人拼出全身的力气，把铁锹猛地扎了过去。铁锹轻而易举地穿透了板壁。脆得简直象回潮了的饼干。那些让沙子清洗过，外表看起来还很新的板材，其实都已经开始腐烂了。
783	「どうせ、そのうち、砂におしつぶされてしまうんだろう？」	“反正马上就要被沙压垮了不是？”
784	かまわず、打ち込もうと構えた腕に、わめきながら、女がむしゃぶりついてきた。肘をつっぱり、体をねじって、ふりほどこうとした。ところが、どう計算ちがいしたのか、ふりまわされたのは、逆に男のほうだったのだ。すかさず反撃をこころみる。しかし、スコップと女は、鎖で結び合わされてしまったみたいに、もうびくともしないのだ。わけが分らない……すくなくも腕ずくでなら、負けるはずはなかったのに……二度、三度と、土間の上をもみあったあげく、なんとか組みふせることが出来たと思ったのも束の間、スコップの柄を楯に、あっさり逆転させられてしまった。	他摆好架势，冷不防，女人从旁边猛扑过来，抓住他的手腕。他撑着手肘，拧着身体想甩开女人。可不知怎么计算有误，被甩出去的反而是男人这一方。他紧跟着就想试着反击。可是铁锹和女人，简直象用锁连在了一起，毫不动摇。不知怎么回事……“动武”至少该不会输给她，然而……两次、三次，他觉得把她推搡到泥地间里，最后就可以想法将她摁倒，可谁知对方以铁锹柄作为盾牌，轻松地占了上峰。
807	おれだけが、鏡のこちらで、精神の性病をわずらいながら、取り残されるのだ……だから、おれの指は、帽子なしでは、萎えてしまって役に立たない……おまえの鏡が、おれを不能にしてしまうのだ……女の無邪気さが、男を女の敵に変えるのだ。	只有咱，在镜子的这一头，患着精神性的性病，被人撇了下来……所以，咱的“下体”没有帽子就会蔫了，一点不起作用……你的镜子使我陷入了“性无能”……女人的天真，把男人变成了女人的敌人。
815	///——そもそも、飢えきった者にとっては、食物一般があるだけで、神戸牛だとか、広島の牡蠣の味だ	///——说起来，肚子饿的人，只要有一般的食物就满足了，神户牛肉啦、广岛牡蛎

	とかいうものは、まだ存在していない……一応、満腹することが保証されてから、はじめて個々の味覚も意味をもってくる……同様、性欲についても、まず性欲一般があり、ついでさまざまな性の味が発生する……性も、一律に論ずべきではなく、時と場合に応じて、ビタミン剤が必要になったり、うなぎ丼が必要になったりするというわけだ。	啦，对他们来说根本就不存在……大致上，填饱肚子得以保证后，各种各样的味觉才开始具有意义……性欲也一样，首先是一般的性欲，接着才会发生多种多样的“性之滋味”……性也不能一概而论，时间地点不同，要求也不一样：有时需要维他命剂，有时则需要“鳗鱼烩饭”。
816	///いかにも整然とした理論だったが、惜しむらくは、その理論に応じて、性欲一般、もしくは固有の性を、すすんで彼に提供した女友達は、まだ一人もいなかったらしい。当然のことだ。男だろうと、女だろうと、理論にくどかれる奴なんているわけがない。馬鹿正直なメビウスの輪も、そんなことはすっかり承知のうえで、ただ精神的強姦がいやなばかりに、せっせと空き家の呼び鈴を押しつづけていたのだろう。	///不管理论多么严谨，遗憾的是，他还没有一个女朋友适应这种理论，她们把一般性欲、或“固有之性”，推荐提供给他。这是理所当然的。男的也好，女的也好，没有人会去听信理论。就连认真得有些傻乎乎的“美比乌斯圈圈”也完全了解这等事，只是讨厌“精神性强奸”，一个劲儿地不停按响着空屋子的门铃。
817	むろん彼だって、純粋な性関係などというものを夢想したりするほど、ロマンチックだったわけではない。そんなものは、おそらく、死に向って牙をむきだす時にしか、必要のないものだ……枯れはじめた笹は、あわてて実を結ぶ……飢えた鼠は、移動しながら、血みどろな性交をくりかえす……結核患者は一人のこらず、色情狂にとっつかれる……あとは階段を降りるしかない、塔の頂上に住む王や支配者は、ひたすらハレムの建設に情熱をかたむける……敵の攻撃を待つ兵士たちは、一刻もおしんで、オナニーにふけりだす……	当然，对他来说，不可能浪漫到梦想纯粹性关系的地步。恐怕只有面对死亡露出敌意的时候才需要这种东西……开始枯萎的细竹，赶紧结果……饥饿的老鼠，一边移动，一边血肉模糊地反复性交……结核病患者，一个不留全被色情狂附了体……住在塔顶上，往后只能走下台阶的大王或统治者，只顾一味地倾心于后宫的建设……等待敌人进攻的士兵们，抓紧每分每秒手淫发泄……
818	だが、幸い、人間はそうやたらと死の危険ばかりにさらされているわけではない。冬さえ、恐れる必要のなくなった人間は、季節的な発情からも自由になることが出来た。しかし、戦いが終れば、武器はかえって足手まといになる。	但是，所幸人们不可能老是面临死的危险。连冬天都毋须害怕的人，能在季节性的发情中变得自由自在。可是，战斗结束，武器反而会变成手脚的拖累。
825	むろん、秩序の側で、それに見合っただけの生命の保証をしてくれるというなら、まだ譲歩の余地もある。だが、現実はどうだろう？　空からは死の棘が降り、地上でも、ありとあらゆる種類の死で、足の踏み場もない。性の方でも、うすうすは感じはじめているらしいのだ。どうやら、つかまされたのは、空手形だったらしいと。そこで、不服な性を相手の、回数券の偽造がはじまる。こいつはけっこう、いい商売になる。あるいは、精神的強姦が、必要悪として黙認される。	不用说，在秩序方面，若说给予与此相称的生命保证，那也就没有让步的余地了。但是，现实究竟怎么样呢？天空落下了死的荆棘，地上也是所有种类的死，连立脚的地方也没有。性方面稍许感到了一些。怎么象只能够抓住空头支票似地，于是，开始伪造起对手不服之“性”的预售票。这玩意儿可是个好买卖。或者，把精神性的强奸作为必要之恶，予以默认。
829	これが昨日までだったら、あのえくぼや、しのび笑いと同様、女の見えすいた芝居だと決めこんでいたかもしれない。実はそれが真相なのかもしれないのだ。けれど、そうは考えたくなかった。女の体が、取り引きに使われる段階は、とうに過ぎてしまった……いまは暴力が状況を決している……かけひきを度外視した、合意のうえの関係だと考える根拠はじゅうぶんにあるわけだ。	他也许认定眼前这一切，也和到昨天为止的那些酒窝、隐忍的笑一样，显而易见是女人耍的把戏。但也许那就是真相。只有他不愿意这么考虑。这个女人的身体，用来作生意的阶段早已过去了……眼下是暴力决定的情况……没有讨价还价，有充分的依据，可以把它想做是一种预先商量好的关系。
831	たのしめそうかい？……当りまえさ……すべてが等間隔な、方眼紙の目にはめこまれたようだ……呼吸も、時間も、部屋も、女も……これが、メビウスの輪いうところの、性欲一般というやつなのだろう	快活吗？……当然咯……一切都象在填写等间隔的方格纸空档……呼吸也好、时间也好、屋子也好、女人也好……这就是“美比乌斯圈圈”所说的一般性欲

	か？　だとしても、どうだい、この堅肥りした尻のあたりは……街でひろった、栗のいがみたいな欲求不満などとは、くらべものにもなりゃしない……	吧？如果是的话，这肥硕屁股的周围……和街上拾到栗子刺球的那种“欲求不满”，是无法比较的……
833	つもった砂の上に、汗がしたたり、その上にまた砂が降る……女の肩がふるえ、男も過熱して、いまにも吹きこぼれそうだ……それにしても、女の太股に、なぜこれほど激しく誘いよせられるのやら、わけが分らない……体中の神経を引き抜いて、一本一本、女の股にまきつけてやりたいくらいだ……食肉植物の食欲が、ちょうどこんなふうなのだろう……野卑で、がつがつしていて、ばねを仕込んだみたいに力みかえっている……あいつとの時には、おおよそ経験したことのない一途さだ。	积起来的沙子上滴入了汗水，其上，又落下了沙子……女人的肩膀颤抖着，男人也热极了，仿佛马上就要涨开来了……尽管如此，女人的大腿还具有如此强烈的诱惑力，真搞不清是怎么回事……简直就象抽掉了体内的中枢神经，一根一根地缠绕上女人的大腿似地……食肉植物的食欲，就是这样的吧……鄙俗地、贪婪地、象装进了弹簧似地憋足了劲……同“那口子”一起的时候，从来没有经历过如此的专心。
842	そのきらめきも、ふいに尾をひいて消えてしまい……男の尻を叩いて、はげましてくれる女の手も、もう役には立たない。女の股をめがけて這い出していった、神経も、霜にうたれたひげ根のように、ちりちりに枯れ、指は、貝の肉のあいだで、萎えつきる。しばらくは、みれんがましく腰を突き出したりしていた女も、やがて、息切れのした放心のなかに、ぐったりと身を沈めてしまった。	那闪亮的星，“扑”地拖着尾巴消失了……女人的手拍着男人的屁股，鼓励他再干，可已经不起作用了。瞄准女人大腿爬出来的神经，也象被秋霜打过的胡须根似地萎缩了，“下体”在蚌壳肉之间蔫了。女人尚有些留恋，不停地扭动着腰，不久，她也气喘嘘嘘地松了口气，精疲力竭地沉下了身子。
855	「よし、負けた！……仕方がない、負けてやるよ……」いわしの干物じゃあるまいし、こんな殺され方は、まっぴらだ。なにも本心から屈服したりしたわけじゃない。水を手に入れるためになら、猿踊りだっておどって見せてやるさ。	“好了，我认输！……真没办法，输给他们哟……”自己可不是什么晒干的沙丁鱼，决不愿就这样被他们弄死。不可能真心屈服。可眼下，为了弄到水，就是叫他耍个把戏也愿意。
859	監房で、拘禁されたという実感をひしひしと感じさせるのは、鉄の扉よりも、壁よりも、まずあの小さな覗き窓だという。男は、うろたえながらも、すばやく記憶のなかを、見まわしてみる。水平に仕切られた、空と砂……火の見櫓が入りこむ余地など、どこにもありはしない。こちらから見えないのに、向うから見えるとは思えないが……	在牢房里，让人最深切感受到被囚禁滋味的，不是铁门，不是墙壁，首先是那个小小的窥视孔。男人一阵惊慌失措，迅速搜索了一下记忆仓库。水平分割开来的天空与黄沙……哪里都没有了望塔柱子的余地。从这里望不见什么，自然会觉得那边也望不到这里。
861	男はすなおに、腰をこごめて、スコップをひろった。いまさら、自尊心など、垢にまみれたシャツに、アイロンをかけるようなものだ。追われるように、外に出た。	男人顺从地弯腰捡起铁锹。现在这地步，自尊心什么的，就象用熨斗熨烫满是污垢的衬衫似的。象被赶出来似地，他跑到了外面。
864	ふいに、ひんやりと、濡らしたハンカチのような影がおちた。雲が出たのだ。しかし、空の片隅に吹きよせられた、落葉ほどの雲だった。ちくしょう、せめて雨でも降っていてくれれば、こんな目には会わなくてもすんだのに……両手をひろげれば、両手いっぱいの水……窓ガラスには、水の帯……雨樋からふきだす、水の柱……アスファルトにけむる、雨しぶき……	冷不防落下了冰凉而湿漉漉的手帕影子。云彩出现了。落叶般的云被风刮到天空的一角。妈的，至少下几滴雨，也就不会碰到这种倒霉事了……摊开两手掌，两手满是雨水……窗玻璃上净是小瀑布……落水管里喷出了水柱……倾泻在柏油马路上的瓢泼大雨……
880	「そりゃ、ぼくにだって、この砂掻きの仕事が、部落にとって、どれほど重要なことか、分らないわけじゃない……なんと言ったって、生活問題だからね……深刻ですよ……よく分ります……なにも、こんなふうに強制まされなくたって、あんがい、自発的に協力する気になっていたかもしれないくらいだ……本当だとも！　この実情を見れば、協力したくなるのが、人情ってものでしょう？　しかし、だか	“当然，我嘛，也不是不知道这‘清沙’的活，对村子是多么重要……不管怎么说，是个生计问题嘛……很深刻哟……我知道得很清楚……用不着这样强制，说不定我还会自觉地前来帮忙嘛……我说的是真的哟！看到这里的实际情况，想帮一把，实在也是人之常情嘛。但是你们这种方法，难道最后会得到真正的帮助吗？

	らと言って、こんなやり方だけが、果して真の協力だろうか？	
882	老人は、聞いているのか、聞いていないのか、ぼんやり首をまわして、じゃれつく猫をはらい落すような仕種をした。それとも、やはり、火の見櫓の監視を気にしているのだろうか？　彼と話し込んでいるところを見られては、具合がわるいのだろうか？	老头似听非听，茫然地晃了晃脑袋，仿佛身上有只撒娇的猫，他做了个掸落的动作。说不定是在注意“观察哨”吧？和男人一起说话，难道有什么不妥之处吗？
896	とたんに、老人が、ロープを引き上げた。不意をつかれた男は、うっかり手を離してしまう。なんていうことだ……ただ、ロープを取り上げる機会を待つために、話を聞くふりをしていただけなのか……呆然と、さしのべた両手を、宙におよがせる。	忽地，老头收起了绳索。男人始料不及，糊里糊涂地松开了手。怎么回事……难道老头只是在等待收起绳索的机会，才装出搭讪的样子吧……他愕然了，伸出去的两只手在空中乱抓。
902	女は、すでに、仕事にかかっていた。とつぜん、男は、深い疑いにとらわれる。残りの水を、女が飲みつくしてしまったような気がしたのだ。あわてて家に引返す。	女人已经干起活来。突然，男人被深深的疑惑攫住。他总觉得那剩下的水被女人全喝了似的，赶紧跑回屋子里。
904	麦藁で編んだ日除けの帽子を目深かにかぶり、追われるように、外に出る。思考も、判断も、渇きの前では、熱にほてった額に降った雪の一とひらにしかすぎなかった。十杯の水が飴なら、一杯の水はむしろ鞭にひとしい。	他把麦秸做的草帽深深遮到眼眶，象被人赶出来似地跑到了外面。思考也好，判断也好，在干渴面前，都不过是落到火烫额头上的一片雪花而已。如果说十杯水是糖的话，那么一杯水就等于鞭子了。
906	女は、ちらと軒下を指さし、疲れた微笑をうかべ、袖口を額の汗におしあてた。ねじふせられながらも、とっさに、道具の仕末だけは忘れなかったものらしい。砂のなかで暮しつけた者が、しぜんに身につけた心構えなのだろう。	女人轻轻指了指屋檐下，脸上浮起疲倦的笑容，她用袖口抹去额上的汗。反背着胳膊，似乎只有收拾工具没有忘记。这大概是生活在沙天沙地里的人，自然形成的思想准备吧。
913	女が言って、崖を見上げた。さすがに、女の顔も、かさかさになり、はりついた砂の層を透してでも、血の気が失せてしまっているのがよく分った。とたんに、あたりが暗く、錆色に塗りつぶされる。かすんでいく意識のトンネルのなかを、手さぐりで進み、魚のはらわたのように脂のにじんだ寝床にたどりつくのが、やっとだった。女が、いつ戻って来たかは、もう記憶にない。	女人说着，抬头望望坝上。她的脸也变得干巴巴的，透过贴着的沙层，看得清她的脸上血色全无。暮地，周围暗了下来，青一色铁锈色。他在朦胧的意识隧道里摸索着前进，好容易摸到了鱼肚似的油脂渗透了的地铺。女人到底什么时候回来的，他连一点记忆也没有。
917	筋肉の隙間に、石膏を流しこまれたら、おそらくこんな気分になるにちがいない。目は、覚ましているつもりなのに、なぜこんなに暗いのだろう？　どこかで、鼠が、巣をつくる材料でもひきずっているらしい……喉がひりひり、やすりを当てたように痛んでいる……	筋肉的缝隙间，要是灌入了石膏，恐怕一定是这种感觉吧。眼睛想睁开，怎么会如此之黑？哪里唏唏索索地响，大概是老鼠在拖拽作窝的材料吧……喉咙口火辣辣的，象被挫过一刀似地疼痛……
918	///……とたんに、現実に引き戻される……そうだ、あれは鼠などではない、女が仕事をはじめているのだ！……一体どれぐらい睡っていたのだろう？……起上ろうとして、また、おそろしい力で、ふとんの上に、ねじ伏せられた……思いついて、顔の手拭をむしりとると、開けはなたれた戸口から、ゼラチンを透したような月明りが、淡く涼しげにさしこんでいる。いつの間にやら、また夜だった。	///……一下子，他又被拖回现实……是呵，那不是老鼠，女人已经干起活来了！……究竟睡了多久了？……他想爬起来，又有一种令人恐怖的力量使他蜷伏在被子上……他忽然想起来，掀开脸上的手巾，从打开的门口射进淡淡的、冰凉的月光，象遮着一层透明胶似的。不知从何时起，又进入半夜了。
921	立上ると、節々が、風に鳴るトタン屋根の音をたてた。こわごわ、水甕をのぞきこむ。口元までたっぷり補充されていた。手拭をぬらして、顔におし当てた。戦慄が、螢光を発して、全身をつらぬいた。首と、脇の下を洗い流し、指のまたの砂を拭きとった。人生の目的も、この瞬間でとめておくべきもの	他一站起来，各骨关节便“卡拉卡拉”，发出风吹铁皮屋顶似的声音。他提心吊胆地张望了一下水缸，水补充得满满地，直到水缸口。他把手巾打湿，按在脸上。战栗，发出荧光，穿透全身。他冲洗了头和腋下，擦掉了手指甲里的沙子。人

	なのかもしれない。	生的目的也许应该就在这瞬间固定住吧。
932	いざ仕事にかかってみると、なぜか思ったほどの抵抗は感じられないのだ。この変化の原因は、いったい何だったのだろう？　水を絶たれることへの恐怖のせいだろうか、女に対する負い目のせいだろうか、それとも、労働自身の性質によるものなのだろうか？　たしかに労働には、行先の当てなしにでも、なお逃げ去っていく時間を耐えさせる、人間のよりどころのようなものがあるようだ。	一旦开始干活，怎么就感觉不到预想的抵触情绪呢。这个变化的原因究竟是什么呢？难道是害怕断水的关系吗，难道是自觉欠了女人一份情的关系吗，抑或是劳动本身的性质所决定的吗？劳动是人们在没有前途，同时还得忍耐逃亡时间的一种依据。
933	いつだったか、メビウスの輪にさそわれて、なにかの講演会を聞きに行ったことがある。会場は、低い錆びた鉄柵で、ぐるりと取りまかれ、柵の中は、紙屑や、空箱や、その他得体の知れないぼろ布などで、地面が見えないほどになっていた。	记得有一次，被“美比乌斯圈圈”叫去参加一个什么讲演会。会场围着一圈低矮的锈迹斑斑的铁栏杆。栏杆里，纸屑、空盒子、还有些乱七八槽的布，扔得丢得满地都是，连地面都看不见了。
935	指の輪を吹いて鳴らす、鋭い口笛の合図が聞えた。つづいて、モッコを引いて走る、屈託のない掛け声……さすがに、近づくにつれて、ひっそりとなる。無言のうちに、モッコがおろされる。はりつめた警戒の気配が感じられ、しかし今さら、壁にわめいてみても、はじまるまい。予定量の砂が、無事に搬び上げられてしまうと、ほっと緊張がゆるんで、空気の手ざわりまでが変ってしまったようだった。誰も、何も言わなかったが、これで当面の諒解は成り立ったようでもある。	吹响叫子，能听见对上信号的口哨声。接着，是拉着大网篮跑来跑去，爽朗的吆喝声……随着大网篮逐步接近，反而变得静悄悄了。上面不出声地放下了大网篮。他感到一阵紧张的警戒气氛，可现在这地步，就是面壁大叫也无济于事。预定份量的沙子平安地吊上去之后，紧张的气氛顿时缓和了下来，连空气的手感都似乎变化了。于是，当面的谅解就此成立了。
936	女の態度にも、はっきりした変化が見られた。	看得出女人的态度也明显变化了。
940	///うすれていく意識のなかで、衛兵は見た。敵が、何者にもさまたげられず、門を、壁を、建物を、風のように通りぬけて行ってしまうのを。いや、風のようなのは、敵ではなくて、実は城のほうだったのだ。衛兵は、ただ一人、荒野のなかの枯木のように、幻影を守って立っていたのだった……	///在渐渐稀薄而逝去的意识中，卫兵看见了。敌人什么障碍也没有，象一股风似地穿过城门，穿过了城墙，穿过了房子。不，象风一样的不是敌人，实在是城堡本身。只有卫兵一个人，象荒野中的枯树，兀立不动，守护着幻影……
946	（こいつは悲しい片道切符のブルースさ）……歌いたければ勝手に歌うがいい。実際に、片道切符をつかまされた人間は、決してそんな歌い方などしないものだ。片道切符しか持っていない人種の、靴の踵は、小石を踏んでもひびくほどちびている。もうこれ以上歩かされるのは沢山だ。	（这家伙是手持单程车票悲伤的布鲁斯）……想唱歌的话，请随便唱吧。实际上，捏着单程车票的人，绝不会唱那种歌。只捏着单程车票人们的鞋后跟，就是踏着小石子也会磨秃摆不平。再多走的还有许多。
947	///だからこそ、帰りの切符の半分を、紛失したり、盗まれたりしないようにと、あんなにやっきになり、株を買ったり、生命保険をかけたり、労働組合と上役に二枚舌をつかったりもするわけだ。風呂の流し口や、便所の穴から立ちのぼる、片道切符の連中の、助けを求めるあきらめの悪い叫び声から、耳をふさごうとして、やたらに大きな音でテレビをかけたり、せっせと片道切符のブルースを口ずさんだりすることにもなるわけだ。とらわれた人間の歌が、往復切符のブルースであっても、いぶかることは少しもない。	///所以，不能把回去的那一半车票弄丢，不能让人给偷走了。那样急躁，买股票，办生命保险，用两副面孔对付工会和上司。单程车票的那帮家伙死了求助之心，大声恶叫，声音从澡盆的放水口，厕所的下水道腾起，人们想堵住耳朵，便故意放大电视机的音量，一个劲儿地吟唱单程车票的布鲁斯。被攫住人们的歌，哪怕是往返车票的布鲁斯也一点不会觉得诧异。
949	その思いつきは、かなり唐突にやってきた。だが、なにも、時間をかけてねり上げた計画だけが、首尾よく成功するとはかぎらない。そこにたどりつくまでの道すじが、意識されていないというだけで、突然のひらめきにも、ひらめいたなりの、もとでがかかっているのである。むしろ、下手にいじりまわし	这突发的奇想，贸然闯来。但是，花时间反复琢磨的计划，不一定首尾都成功。好容易摸索到的道理，只是没有意识到，连突然的闪现，也是一闪现就要花本钱。当然，比起憋脚的随意摆弄来，成功率应该是很高的。

	たものよりは、成功率も高いはずだ。	
952	理想を言えば、部落の中は通らずに、迂回して逃げるに越したことはないわけだが、西側は、かなり険しい岬にさえぎられ、高さはそれほどでないにしても、古い時代の波の浸蝕で、いわゆる屏風岩になっているらしいのだ。部落の連中が、たきぎを拾いに行くための足場はあっても、藪にさえぎられて、簡単には見分けがつきにくいらしく、あまりくどい聞き方をして、女に疑いをいだかせるのもまずかった。反対に、東のほうは、深くくびれた入江になっており、無人の砂丘を十キロ以上も上ったり下ったりしたあげく、結局ぐるりとまわって、また元の部落の出口あたりに舞い戻る仕掛けらしい。要するに、この部落は、屏風岩と入江で首をしめられた、砂の袋なのだ。まごまご時間をついやして、連中に警戒のゆとりを与えたりするよりは、思い切り中央突破の作戦に出たほうが、安全率も高そうである。	若说到理想的话，虽然不通过村落不可能迂回逃出，但西侧有所谓“屏风岩”，那里有相当危险的海峡阻挡，不算高，一直受旧时代波涛的侵蚀。部落的那帮家伙为了去拾柴火设有立脚点，但被泥塘挡住了，看来很难简单分辨，他又不便多问，怕引起女人的怀疑反而会坏事。反过来，东面是又窄又深的入海口，无人的沙丘上上下下有十多公里，但最后，转上一圈还得回到村子的出口那一带。总之，这个村落是个“沙袋子”，屏风岩和入海口扎紧了袋口。磨磨蹭蹭地浪费时间，与其让那些家伙们放松警惕，倒不如下狠心采取中央突破的作战方式，安全率反而更高。
953	しかし、それで、問題が無くなったわけではない。たとえば、例の、火の見櫓からの監視の目だ。さらに、彼の脱走に気づいた女が、さわぎ立てて、脱け出す前に、部落の口が閉鎖されてしまう懸念もある。もっとも、この二つは、結局一つの問題に要約できるかもしれない。最初のモッコ搬びの連中が、水や定期の配給品をもってやって来るのは、何時もたいてい日が落ちた後、かなり経ってからだった。女が、彼の逃亡を、それ以前に告げようとすれば、やはり火の見の監視人を通じてしかないわけである。問題は火の見の監視をどうするかにしぼられる。	可是，这也并非毫无问题。例如，那个高高的了望哨。他担心时刻注意他逃走的女人，万一大声叫嚷起来，逃出村之前，那些家伙们会先把村落的口子封闭起来。这两点，最终也许能够归纳出一个问题。一开始搬运大网篮的家伙们送来水和定期的配给品，大致总在日落之后，已经有很多日子了。女人如果要把他的逃亡在那以前说出来，只能通过了望哨的监视人。于是，问题集中到“如何对付了望哨上的监视”这一点上来。
955	実行は、計画を思いついてから四日目……いつも、行水用の水が配給されることになっている、土曜の夜をえらぶことにした。その前夜は、あらかじめ風邪をよそおって、ぐっすり眠っておくことにする。念のために、無理を言って、アスピリンを探して来させた。	他决定在设想计划后的第四天行动……他选择了星期六的夜里，这一天会送配给的洗澡用水来。在那天的前一夜，他先装作感冒，呼呼大睡一觉。为了不让对方看出破绽，他硬是叫女人来给他找阿斯匹林。
956	久しぶりに、一人で働かされた女は、さすがに疲労の色が濃かった。遅めの炊事の仕度に、ただでさえ気がせいている女に、あれやこれやと無駄口をたたき、あげくに、前から具合のわるかった流し場の修理をしようなどと、もちかけたりする。	好久不是一个人干活了，女人脸上疲劳的神色果然加深了。女人本来就慌慌张张准备迟到的晚饭的，他还要故意问这问那纠缠她。最后他还主动提出修理一下不太好使的水槽。
957	洗われながら、男は、興奮をよそおい、やにわに女の着物をはぎとった。	洗着洗着，男人佯装兴奋起来，猛然剥掉了女人的衣服
959	だが、倒錯した情熱にも、限度がある。はじめは、むしろせがんでいた女も、やがて、男の狂乱に、あからさまなおびえをみせる。男も、射精したあとのような、虚脱感におそわれる。そのたびにまた、勇気をふるいおこし、あれやこれやの卑猥な幻影の鎖でむちうって、乳首を口にふくみ、石鹸と汗と砂で、鉄粉まじりの機械油のようになった体を叩きつけ合っては、興奮をかきたてるのだ。	但是，颠倒的热情总是有限度的。一开始纠缠的女人，不久，也因男人的狂乱而吓得要命。一种虚脱的感觉向男人袭来：射精以后精疲力尽的感觉。这时又鼓起勇气，打开这个那个卑微幻影之锁，嘴里含着乳头，肥皂、汗水和沙子，象夹杂着铁屑的机械润滑油涂满了的身体，互相撞击着，煽动起兴奋的情绪。
961	女は、紙栓をされたような寝息をたてている……呼吸は、深く、長く、踵のあたりを軽く蹴ってみたが、ほとんど変化を示さない……情欲をしぼり出されてしまった古チューブだ。ずれかけている顔の手拭をなおしてやり、下腹でよじれて縄になっている	女人鼻子里象塞了纸栓似地打起了鼾……呼吸又深又长，在她脚后跟轻轻踢了几下试试，几乎没有显示任何变化……把情欲全挤榨干净的陈旧软管。他把她脸上的手巾盖盖好，把裹在下腹绞得象绳子

	着物を、膝のへんまで下ろしてやった。さいわい、計画の最後の仕上げに忙殺されて、感傷にふけったりする暇はない。目をつけておいた古鋏に、細工をしおえると、ほぼ予定の時刻になった。さすがに、出しなの一瞥には、ひきさかれるような痛みがあった。	似的衣服，往膝盖上面拉了拉。幸好，计划直到最后都排得满满的，所以，也就没有工夫沉湎于感伤了。早就准备好的旧剪刀，费了一番功夫终于弄了上去，预定时间也已经到了。临出门的最后一瞥，象被什么抽住似地他感到隐隐作痛。
964	///飛砂に研ぎ出されて、屋根は、葺きたてのように白く柾目を浮き立たせていたが、いざ乗ってみると、やはりしっけたビスケットのように、ぶよぶよなのだ。踏み抜いたりしては、ことである。	///被飞沙磨光了的屋顶，象没有铺东西似地，白白的木纹显露得清清楚楚，刚一踩上去，嘎吱嘎吱，软乎乎的，象回潮的饼干。稍不留神就会踩穿。
966	何度か、繰返すうちに、距離も、方角も、かなり安定してきた。とは言え、命中にはまだほど遠い。幾分かでも、上達の気配が見えてくれれば、まだ気が楽なのだが、誤差がちぢまってくれる様子はさらになく、疲労と、あせりで、かえってむらがひどくなるようでさえある。どうやら簡単に考えすぎていたようだ。誰に、だまされたわけでもないのに、むしょうに腹立たしく、泣き出したいような気持だった。	他又反复投了好几次，距离也好，方向也好，都相当稳定了。虽说如此，但离命中目标似乎还相差得很远。要是能看出几分长进的样子，那倒还可以轻松几分，然而，一点不见减少误差的动静；疲劳、焦急，反而使得他更容易出错的。看来是把问题想得太简单了。尽管没被谁欺骗，但他却特别生气，差一点没哭出来。
976	登山家だろうと、ビルの窓拭きだろうと、テレビ塔の電気工だろうと、サーカスのブランコ乗りだろうと、発電所の煙突掃除夫だろうと、下に気をとられたときが、そのまま破滅のときなのだ。	登山家也好，大楼擦玻璃窗的也好，电视塔上的电工也好，马戏团的空中飞人也好，发电厂烟囱的清扫工也好；要是被底下的事吸引去了注意力，那就到了他的灭顶之时了。
982	その四十六日目の自由は、はげしい風に、吹きまくられていた。這いつくばっていると、顔や首筋に、ちかちか砂の粒が突きささった。こんなひどい風は、計算にいれていなかった！	这第四十六天的自由，被激烈的狂风吹拂着。他趴下来，闪闪发光的沙子撞击着脸、头颈。这样剧烈的风，可没有计算进去哇！
983	こわごわ、上目づかいに、うかがってみる……薄らいだ光のなかに、火の見櫓は、妙にひょろひょろと、傾いで見えた。意外に貧弱だし、距離も遠かった。だが相手は双眼鏡でのぞいているのだ、距離に期待はできない。もう見つけられてしまっただろうか？……いや、気がついたらすぐに、半鐘を鳴らすはずだ。	他战战兢兢地抬起眼睛望了望……稀薄的光之中，了望哨看上去奇怪地摇摇欲坠。意外地虚弱，距离也很远。但是对方是用望远镜观望的，所以，不能寄希望于距离。大概已经被发现了吧？……不会吧，要是注意到了，一定会马上敲钟的。
984	家は、マッチ箱をつぶしたように、くしゃりとつぶれ、さいわい怪我人は出なかったが、翌朝、その一家が逃亡をこころみた。半鐘が鳴りだしたと思ったら、五分とたたずに、裏の道を引きたてられて行く、老女の泣きわめく声が聞えたという。噂によれば、その一家には、脳患いの血筋があるらしいと、まことしやかな口調で、女はつけ加えていたが……	房子象火柴盒似地“啪”地倒塌了，幸好没人受伤；第二天，一家人试着逃跑。钟声刚响起来，还没到五分钟，就被人拖去暗道，说是只听见老女人的哭叫声。女人还用煞有介事的口吻添加了一句：听人说，那一家子，象是有脑病的遗传……
985	とにかく、ぐずぐずしてはいられない。思いきって頭を上げてみた。一面どんよりと赤味をおびた、砂の起伏にそって、けだるそうに長い影が落ち、影から流れ出した飛砂の膜が、次々と、また別の影の下に吸いこまれていく。その飛砂の膜のおかげで、うまく発見をまぬがれているのだろうか？……逆光の効果を確かめようと、振向いて、男は思わず目を見張った。	反正慢吞吞的可不行。他横下心抬起了头。一片阴郁、带红色的沙子，沿着沙坡的起伏，落下了庸懒长长的影子，从影子里流出的飞沙之膜，一个接一个地又被吸进别的影子去了。靠着这飞沙之膜，能巧妙地躲过了望哨的发现吧？……他想确认一下逆光的效果，回头一看，男人禁不住瞠目结舌。
986	///たちまち、吹きちぎられ、むしり取られながらも、やはり靄が、たえまなく地面から湧き出て来ている。こちらで吹き消されれば、あちらで湧き、あちらで追いはらわれれば、こちらから顔を出す……	///忽然，它们被吹散，被驱除，薄雾到底还是不间断地从地面上涌了出来。此消彼长，那边刚被赶走，这边又露出了脸……以洞穴里的经验，他很了解沙子会回潮，

	穴の中の経験で、砂が湿気をよぶことは、よく分ったが、これほどだとは思わなかった	但没想到竟会如此厉害
988	さあ、急ごう！……うんと、腰をおとして、低いところを走るのだ！……べつに周章てふためくことはない……慎重に、充分あたりに気をくばって、急ぐのだ……そら、そのくぼみに身をふせろ！……怪しい物音はしなかったか？……不吉な予感はないか？……なければ、立って、また前進だ……右によりすぎてはいけない！……右の崖は、低すぎて、中からのぞかれるおそれがある……	走吧，快！嗯，沉下腰，往低处奔跑！……再没有让人慌慌张张的事喽……谨慎点儿，充分留神周围，赶快……快，在这个坑里趴下来！……没发出可疑的声音吧？……没有不祥的预感吧？……没有的话，赶快站起来再往前走……太靠右了不行！……右面的坝太低了，恐怕会被坝里的人瞅见……
989	夜毎のモッコ搬びで、穴と穴とのあいだに、まっすぐ一本溝が刻まれていた。溝の右側は、起伏の多い、ゆるやかな斜面だ。その下に、二列目の家並が、ちょっぴり屋根をのぞかせて並んでいた。海側の列に守られているおかげで、崖もずっと低く、砂防用の粗朶垣も、ここではまだ役に立っているらしい。表の崖からなら、おそらく自由に出入りできる程度にちがいない。	每天晚上搬大网篮，洞穴和洞穴之间，刻着一条条笔直的沟。沟的右面，是一片起伏多端，疏缓的斜坡。那下面有两排房子，只能稍稍瞄到一点儿屋顶。因为有海边那一排房子保护着，所以坝很低，连防沙用的篱笆墙都能起作用。外面的坝上一定能自由出入吧。
990	その、どれいの穴は、いま、道の左側に並んでいる……ところどころに、モッコを引き込む溝の枝があり、その先に、すり切れた俵が埋めこまれて、穴のありかを告げている……目をやるだけでさえ、苦痛だった。	那些奴隶的洞穴，现在并排在道路的左侧……到处都是拉大网篮的沟坎，前面埋着一个个磨秃了的草袋子，告诉人们那里有洞穴……就是看一眼你也会觉得难受。
991	そんな生活がありうることも、むろん理解出来なくはなかった。台所があり、火の燃えている竈があり、教科書をつんだ机がわりのリンゴ箱があり、台所があり、囲炉裏があり、ランプがあり、火の燃えている竈があり、破れた障子があり、煤のたまった天井があり、台所があり、動いている時計や止っている時計があり、鳴っているラジオやこわれたラジオがあり、台所と、火の燃えている竈があり……そして、それらの間にちりばめられた、百円玉と、家畜と、子供と、性欲と、借用証書と、姦通と、線香立てと、記念写真など……恐ろしいほど完全な反復……それが心臓の鼓動のように、生存には欠かすことのできない反復であるとしても、心臓の鼓動だけが、生存のすべてではないこともまた事実なのだ。	竟有这样的生活，不用说实在无法理解。有厨房，有燃着火的灶台，堆着教科书的桌子旁有苹果箱；有厨房，有围炉，有燃着火的灶头，有破了纸的隔扇门，有积着煤灰的天花板；有厨房，有正在走时的钟和已经停止了的钟，有响着的收音机和坏了的收音机；有厨房和燃着火的灶头……镶嵌在其间的百元硬币、家畜、孩子、性欲、借用证书、通奸、上香、纪念照片等等……令人可怕的完整的反复……这虽然和心脏跳动一样是生存所不可缺少的反复，但事实上心脏跳动并非生活的全部。
993	海には、鈍く、アルマイトの鍍金がかかり、沸かしたミルクの皮のような小じわをよせていた。食用蛙の卵のような雲に、おしつぶされ、太陽は、溺れるのをいやがって駄々をこねているようだ。水平線に、距離も大きさも分らない、黒い船の影が、点になって停っていた。	海上象镀了一层朦胧的耐酸铝，涌来一阵小波浪，象煮沸牛奶上结起的那层皱皮。云彩象食用青蛙卵似地被压碎了；太阳不愿沉溺，死缠硬磨地撒娇。水平线上，不知距离，不知大小的黑黑船影，聚成一点，停了下来。
994	そこから先、岬まではまだゆるやかな砂丘が、幾重にもうねりつづけているばかりだ。このまま進むのは、危険かもしれない。迷いながら、振返ってみると、さいわい火の見は小高い砂の隆起にさえぎられて、視界から切れている。姿勢を、すこしずつもたげていくと、すぐ右手の斜面の陰に、その角度からしか見えない掘立て小屋が、ほとんど横倒しになって埋もれているのが目にとまった。	前面，直到海边，都是十分疏缓的沙丘，重重叠叠好几层蜿延起伏。再这样往前走下去，恐怕会有危险吧。他迟疑了，回头一看，幸好了望哨被小沙丘挡住了，遮断了那边的视线。他微微抬起身子，立刻被一个只有从这个角度才能看清的窝棚吸引去了视线，那窝棚在紧右面斜坡上的阴影里，横倒着几乎被埋没了。
995	おあつらえ向きの隠れ場所だ……砂の肌は、貝殻の腹のようになめらかで、人が歩いたりした形跡はどこにもない……だが、おまえ自身の足跡はどうな	///真是个绝妙的隐蔽场所……沙之纹理象贝壳似地光滑，到处都没有人走过的痕迹……但，你家伙自己的脚印怎么样

	るのだ？……たどってみると、三十メートルあたりから先は、もうすっかり拭き消されている……すぐ足もとのでさえ、みるみる崩れ、変形していく……風の日にぶっつかって、悪いことばかりでもなかったようだ。	了？……回过头一看，三十米周围前面，已经完全抹掉了……就是脚跟前，也瞧着瞧着崩塌变形……遇到大风的日子，看来也并不见得全是坏事。
998	野犬をにらみ負かすとは、おれの気魄も、ちょっとしたものだ。ずるずる、くぼみの中にすべり込むと、そのまま斜面にもたれかかった。風からさえぎられたせいか、ほっと呼吸までが楽になる。犬は、風によろけながら、飛砂の向うに消えて行った。	眼睛紧盯着野狗也会令它折服，足见咱还是有点气魄的。“哧溜”一下滑进坑中，他就那样背靠着斜坡。也许因为挡住了风，他忽地感到呼吸顺畅多了。狗在风中一脚高一脚低地走着，不一会儿就消失在飞沙的那一头。
999	///野犬がすみかにしていたということは、とりもなおさず、人間が近よらないことの保証でもあるだろう……犬のやつが、農協の出張所に告げ口でもしないかぎり、まずは安全とみてよさそうだ。じわじわと滲みはじめた汗さえ、いまはかえって気持がいい。静かだ！……まるでゼラチンの底に閉じこめられているようだ……いつ爆発するかも分らない、時限爆弾を抱えこんでいながら、それが目覚し時計のテンプの音ほども気にならない……メビウスの輪なら、たちどころに状況分析して、言うところだろう……	///野狗找的落脚处，简直都能保证人们接近不了吧……只要那条狗不到“联合组织”的事务所去报告，这里看来是安全的。汗水咕咕地渗出，谁知反而感到心里舒坦。别出声！……简直象胶囊底部被封住了似地……他就象抱着一个不知何时会爆炸的定时炸弹，却没去注意“定时计”上“咯嗒咯嗒”钟摆的声音……假如是那个“美比乌斯圈圈”，他会当场分析情况，振振有词：
1006	小屋の入口は、半分以上砂にふさがれていて、ほとんど見透しがきかなかった。古井戸の跡だろうか？　砂を防ぐためには、小屋掛けの井戸があっても不思議はないわけだ。もっとも、こんなところから水が出るとは思えないが……のぞこうとして、こんどは本物の犬の体臭をあびせかけられた。動物の体臭というやつは、たしかに哲学以上の存在だ。朝鮮人の精神は好きだが、あの臭いだけは我慢できないと言った、社会主義者がいたっけ……それにしても、時間が横に流れているものなら、さっと流れて見せてくれればいい！	小屋的入口，一半以上被沙子堵住了，看不透里边的情景。是口老井吧？为了防沙，井口盖一间小屋也并没有什么奇怪……他想伸头看一看，这回正宗的狗气扑鼻而来。动物的体臭，真正是哲学以上的存在。有个社会主义者说过，他喜欢朝鲜人的精神，却受不了那股气味……话虽如此，但要是时间横向流动的话，快点流起来给咱看看就好了！
1012	巨大な破壊力や、廃墟の荘厳に通ずる、死の美しさなのだ。……いや、ちょっと待ってくれ。だからと言って、おれが往復切符を握って離さなかったことを、云々されたりしたのでは、立つ瀬がない。	通过巨大破坏力和废墟的、庄严的、死之壮美。……不，等一等。所以说，咱捏着往返车票不肯放手的议论是没有立足点的。
1014	そうだ、女に、この風景の話をしてやればよかったのかもしれない……絶対に往復切符が通用する余地のない、砂の歌を、多少音程が狂ってもかまわないから、聞かせてやっていればよかったのかもしれない……だのに、おれのしたことと言ったら、たかだか、別の生活という餌で女を釣り上げてやろうという、下手な色事師の真似事にすぎなかった。精神までが、砂の壁に鼻面を抑えこまれて、紙袋をかぶった猫同様になっていたのだ。	是呵，要是对女人说说这些风景的事也许会好一点吧……绝对没有通用往返车票，该给她听“沙之歌”，即使音程多少紊乱也没关系……而咱做过的事，充其量不过是以别的生活为诱饵，吊女人上钩而已，不过是模仿憋脚色情骗子的卑劣行径。鼻子尖被摁到了沙壁里面，甚至连精神都不放过，就象套上纸袋的猫。
1024	あたりは暗く、砂はどこまでも不規則なうねりをくりかえす。うねりのなかに、またうねりがあり、その小さなうねりが、さらに幾つもの小刻みな起伏に分割されているのだ。目標に定めた部落の明りも、はてしないうねりの峰にさえぎられてめったに視界に入ってこない。そのあいだ、勘にたよって、修正しながら進むのだが、いつも呆れるほどの誤差があった。おそらく、無意識のうちに明りを求めて、つい高いところに足がむいてしまうせいなのだろう。	周围很暗，沙子到哪里都是不规则地婉蜒曲折的重复。婉蜒曲折中还有小小的曲折，由几处更细小的起伏分割开来。既定目标那村落里的灯光，被婉蜒无尽的连峰遮住了，进入不了视野。这时只能凭直觉，一边修正方向一边前进，可老是出现令人愕然的误差。恐怕无意识中一直追求着亮光，所以，才跑到高处来了吧。

1029	（ラジオと、鏡……ラジオと、鏡……）——まるで、人間の全生活を、その二つだけで組立てられると言わんばかりの執念である。	（收音机和镜子……收音机和镜子……）仿佛人的全部生活，就只有这两样东西组成似的，他差一点把这话说出口来。
1034	「そこで、親戚のものが、わざわざ出掛けて行って、話を聞いてみたらしい。ところが、実際にも、女と同棲しているわけじゃなし、道楽や借金に追いまわされている様子もなし、具体的な動機は、何一つないって言うんだな。それじゃ一体、どういうわけなんだ？」	“于是，一个亲戚特地出去打听。说是实际上，即没有和女人同居，也没有吃喝嫖赌欠债的样子，甚至没有一点具体的动机。那么究竟是怎么回事呢？……”
1053	洗濯を犠牲にしてでも、おれの体を拭く水だけは、かならず残しておいてくれたものである。股のあいだに、湯をとばし、まるで自分がそうされたように、体をよじって、きゅうきゅう笑い声をたてたりする。もう二度と、あんな笑い声をたてる機会は、なくなってしまったのだ。	///哪怕牺牲洗涤衣物，你也一定会留下一点儿仅够咱擦擦身体的水。滚烫的水溅到咱大腿间，你就象自己溅到了热水似地，扭过身子“呵呵”地笑个不停。再没有听到那笑声的机会喽。
1055	最初は、部落全体に火をかけてやるとか、井戸に毒を入れてやるとか、罠を仕掛けて、責任者を端から穴のなかに引きずり込んでやるとか、そんな直接的な手段で、もっぱら空想に鞭うち、自分をはげまして来たものだが、いざ実行の機会をあたえられてみると、そう子供っぽいことばかりも言っていられない。いずれ、個人の暴力など、たかの知れたものだ。	最初打算放一把火烧了村子；往水井里投毒；搭一个陷阱，引诱责任者从边上掉进洞穴里去；以这种直接的手段，专门来鞭策空想，激励自己；可是，一旦真有了实行的机会，就不会说这种孩子气的话了。反正个人暴力等等，也就那么点儿小事。
1057	想像できることは、おれの舵には左にふれる癖があり、岬の方に迂回しすぎて、部落との間を、どこかの高い稜線でさえぎられてしまったという場合だ……ぐずぐずしてはいられない……思いきり、右よりに、方向転換してみてやろう。	能够想象的只有这种情况：咱的舵老有偏左的癖好，因为过于迂回到海角那边，所以，那里高高的棱线就此挡住了村子……不能再慢吞吞的……下决心靠右，转换方向试试。
1059	///われながら驚くほどの、ねばりようだった。はじめは、はしゃいで、裸を雨にうたせたりしていたおまえも、ついに追いつめられて、泣きだしてしまった。あげくに、ここを離れられない理由は、ほかでもない、以前台風の日に、家畜小屋と一緒に埋められてしまった、亭主と子供の、骨のせいだなどと言いだす。	///那种死缠不放的劲头，连咱自己都感到吃惊。一开始，你疯疯颠颠，赤身裸体地在雨中嬉戏，可终于被咱追问得掉下了眼泪。最后，她说自己不能离开这里的理由，没有别的，是因为丈夫和女儿的遗骨埋在这儿。有一天刮台风，他们和家畜棚一齐被埋掉了。
1060	おまえが指示した場所を、二日にわたって、掘りつづけた。だが、骨どころか、小屋の破片一つ出て来やしない。するとおまえは、ちがった場所を示した。そこでも、やはり、何も見つからなかった。さらに、指定が変更される。こんなふうにして、場所で五回、日数にして九日にわたる無駄掘りのあげくに、おまえはまた泣き出しそうな顔で、弁解しはじめた。	按着你指示的地方，咱整整挖了两天。然而，骨头或者小屋的残片，竟一块也没有挖出。于是，你又指了一个地方。那里也是什么也没有，你的指示又改变了。就这样，折腾了五次，算起日子来，怕有九天了吧，一直是无效劳动；结果，你又露出哭丧的脸，开始辩解。
1067	ランプの薄明りに浮ぶ、村の建物も、いまはただ、一本の軌跡にそった、通路と障害物の二つに区別されるだけである。音をたてて、狭い喉の隙間を流れる、風の味……生ぬるい鉄錆の味……いまにもくだけ落ちそうな、たわみきった薄いガラス板の上の、絶望的な賭。モッコ搬びの連中が、まだ家を出ていないと期待するには、すでに時間が遅すぎるが、海岸の方に、出はらってしまったことを期待するには、まだ早すぎる。	灯光仿佛在微明中漂浮，村子里建筑物，现在也沿着一条轨迹，只能区别出通道和障碍物两东西。发出声响的，狭窄喉咙间隙流动的风之味……温热的铁锈味……眼下就象在要掉落的，弯曲断裂的玻璃薄板上，作着绝望的打赌。他希望搬运大网篮的家伙们还未出门，其实时间已经太迟了；他希望他们全都到海岸那边去，可时间又还太早了。
1068	おかげで、ズボンの裾を食い裂かれただけですん	总算好，只有裤子的下摆给咬开了。一

	だ。はずみで、足をとられはしたが、倒れながら一廻転して、立上るなりもう駈け出している。	个跟头，脚被咬住了，他倒下去一个鹞子翻身，爬起来，又跑开了。
1069	だが、犬は一匹だけではなかった。五、六匹はいるようだった。最初の奴の失敗に気をくじかれたのか、遠まきに、強迫がましく吠えたてながら、隙をうかがっている。あの、ずんぐりした掘立て小屋の赤犬が、後ろの方から、けしかけているのかもしれない。	谁知，狗不止一条。似乎有五、六条。也许第一条狗的失败，把它们都给镇住了，它们站得远远的，充满威胁地叫着，凯觎着空档。先前在窝棚里看到的那条胖胖的红狗，象是在狗群后面煽动着。
1073	かりに、一度はきりぬけてみても、すぐに後から、追いつかれてしまうだろう。後ろで、泣きやんだ子供が、駈けだす音がした。とっさに、すばらしい考えがひらめいた。子供をつかまえて、楯にすればいい！　子供を人質にして、やつらの接近をはばむのだ！……しかし、追いすがろうと振向いた目にも、またべつの光が待ちうけていた。道は絶たれた！	就算你这一次冲出重围，后面立刻就会追上来吧。身后传来哭着的孩子奔跑的声音。忽地，灵机一动，来了个绝妙的想法：抓住孩子当做挡箭牌！把孩子当人质，能够阻止那些家伙的接近！……可是，回过头正想去追，谁知又有别的光在那边等着。路给截断了！
1074	はじき返されるように、今来た路地を、力いっぱい、駈け戻っている。ほとんど、反射的な判断だったが、出来れば、岬のつづきの丘を、どこかで横切ってやるつもりだ。わめきながら、部落の男たちも、後を追いはじめる。あせりすぎか、関節が抜けたみたいに、膝が、がくがくした。それでも、一応は、意表をつくことになったらしく、時たま振向いて確かめられるくらいの、距離のゆとりは保つことができた。	他象被弹回去似地，拼命往来的路上跑回去。几乎都是反射的判断，尽可能横穿过连着海角的沙丘。村落里的人们，大叫着追过来了。大概是太紧急了，膝盖象被抽掉了关节似地，跑起来，嘎吱嘎吱地响。他不时回头张望，出人意料的是，他居然一直能和追兵保持一段宽宽的距离。
1079	一見、不器用そうにみえた、彼等の追跡は、じつは、彼を海の方に追いつめようという、きわめて計画的なものだったのだ。知らずに、彼は、誘導されていた。考えてみれば、あの懐中電燈だって、わざわざ自分たちの位置を教えていたようなものである。つかず、離れずの、この距離のとり方だって、おそらく、計算ずくでのことだったにちがいない。	乍一看，象是很笨拙，他们的追迹看上去是把他往海里赶，其实很有计划的。他不知不觉之中被他们诱导了。仔细一想，就连那个手电筒，看来也是故意告诉那些家伙位置的。他们不即不离，始终保持这个距离，恐怕是经过计算的吧。
1080	いや、あきらめるのは、まだ早い。どこかには、屏風岩をのぼる道もあるということだし、いざとなれば、海を泳いで、岬の裏側にまわることだって不可能とは言いきれまい。捕まって、つれ戻されることを思えば、いまさら迷ったりする余地はないはずだ。	不，要说死心那还太早，听说有一处通往屏风岩的道路，实在不行的话，就往海里一跳，绕到海角的背面，也并非没有可能。一想到被抓回去，现在这情况，可就没有犹豫的余地了吧。
1086	沈んで行く……沈んで行く……もうじき、腰骨を越してしまう……一体、どうすりゃいいんだ！……接触面を広くすれば、それだけ面積当りの体重が軽くなり、多少でも沈下をふせげるかもしれない……両手をひろげて、がばっと伏せる……だが、もう、手遅れだった。腹ばいになると言っても、下半身は、すでに垂直に固定されてしまっているのだ。ただでさえ、くたびれている腰を、そういつまでも、直角に保ったりしているわけにはいかない。よほど訓練された軽業師ででもないかぎり、こんな姿勢には、いずれ限度がくる。	沉下去……沉下去……已经超过了腰骨……究竟怎么办才好呢！……接触面宽的话，相等面积的体重会变轻，也许多少能防止一些下沉……他张开两臂，趴下来……然而，已经晚了。说是趴着，其实下半身，已经被垂直地固定起来了。本来已经发酸发麻的腰，不可能老是保持直角。要不是经过长期训练的“轻功师傅”，这样的姿势早晚会撑不住的。
1091	誰も見ていないのだから、仕方がない……実際こんなことが、なんの手続もなしに行われるなんて、あまりに不公平すぎる……死刑囚だって、死ねば、あとに記録を残してもらえるのだ……いくらだって、吠え立ててやるとも……誰も見ていないのが、悪いのだ！	可怜的崩溃感觉里，男人恐怖得直打哆嗦，此命休矣。谁也没瞧见，真可怕……实际上这种事，没有任何手续也做得成，太不公平了……死刑犯死的时候，也还能留个记录下来……管他妈的，大叫大喊……谁也没看到，真没劲！

1092	だから、いきなり後ろから声をかけられたときの驚きは、ひとしお無惨だった。完全にうちのめされた。屈辱を恥じ入る気持さえ、トンボの羽に火をつけたような、あっけなさで、ちりちりと灰になってしまった。	所以，当背后忽然传来声音时，他这一惊非同小可。只觉得自己被打得落花流水。连惭愧羞耻的心情，也象蜻蜓翅膀着了火，悄无声息地缩成一团，变成了灰。
1099	言われたとおりに、肘をつき、頭をかかえこんだ。汗で、髪の毛が、ぐっしょり濡れている。ただ、一刻も早く、恥知らずな状態にけりをつけてほしいという以外、なんの感激も湧いてこなかった。	他按照吩咐，撑起肘部，抱着头。汗水将头发浸得湿淋淋的。他一心只想着，哪怕一分钟也好，尽早结束这种恬不知耻的状态，此外，没有涌起任何感激之情。
1102	やっと、背後がざわつき、スコップが到着したらしい。靴の底に、板を履いた、男が三人、よたよたと、遠まきに彼のまわりを掘り返しはじめる。砂は、ぽくぽく、層になってめくりとられた。夢も、絶望も、恥も、外聞も、その砂に埋もれて、消えてしまった。男たちの手が、肩にかかったときも、だから、びくりともしなかった。命ぜられれば、ズボンを下ろして、見ている前で、糞でもたれてみせただろう。空が明るくなり、間もなく月が出るらしい。女は、どんな顔をして、おれを迎えるだろうか？……どんな顔でもかまいやしない……今なら、殴られ屋にだって、なれそうだ。	终于背后叽叽喳喳，象是大网篮到了。三个男人，在鞋底下垫上了板，歪歪倒倒地，开始从远处往他身边挖掘过来。沙子“扑扑”地一层层坍塌。理想、绝望、羞耻、体面都被这些沙子埋葬了，消失了。就连男人们的手搭上他的肩膀，他都没哆嗦一下。要是听他们吩咐，脱下裤子的话，众目睽睽之下，也许连大便都会下来吧。天空很亮，不久，月亮也会出来吧。女人会是扮出什么脸来迎接咱呢？……管她什么脸子？……眼下就是挨打的胚子也会习惯的。
1106	男は、脇の下に、ロープをかけられ、荷物のように、再び穴のなかに吊り下ろされた。誰も、一言も口をきかず、まるで埋葬の儀式に立ちあってでもいるようだ。穴は、深く、暗かった。月が、砂丘の全景を、淡い絹の輝きでくるみ、風紋や足跡までも、ガラスの襞のように浮き立たせているというのに、ここだけは、風景の仲間入りさえ拒まれ、ただむやみと暗いばかりである。しかしべつだん、気にもならなかった。月を見上げただけで、目がくらみ、吐き気がしたほど、疲れきっていた。	男人腋下吊着绳索，吊货物似地又给吊回洞穴里去了。谁也没说话，简直就象在举行葬礼。洞穴又深又暗。月亮撒下绢绸似的淡淡光芒，笼罩着整个沙丘，连风纹和足迹都象玻璃皱褶似地浮现出来；然而只有这里，象是拒绝加入风景似地，只有伸手不见五指的黑暗。可是他并不怎么在意。他只是茫然地仰望着月亮，头晕目眩，只想呕吐，疲倦到了极点。
1107	女は、その暗がりのなかで、暗がりよりももっと暗かった。女につきそわれて、寝床のほうに足をはこびながらも、なぜか彼には女がまるで見えないのだ。いや、女だけでなく、すべての輪廓がぼやけてしまっていた。ふとんに、倒れこんでからでも、気持のうえでは、まだせっせと砂の上を駈けていたりする……	女人站在幽暗之中，比幽暗更黑暗。他让女人搀扶着，拖着步子往睡觉的地方走去，可他怎么一点都看不见女人。不，不仅是女人，所有的轮廓都模模糊糊看不清。他尽管倒在了被窝上，心里还惦记着拼命地在沙丘上奔跑……持续不断，就连梦里都在不停地跑……
1109	///二度、三度、天井に大きく影をひらめかせ、ランプのほやに衝突すると、取手の金具にとまって、それっきり動かなくなってしまった。下司な外見に似合わず、いやに引っ込み思案な蛾だ。タバコを、胸のあたりに押しつけてやった。神経叢を破壊されて、じたばたもがいているやつを、蜘蛛の通路に、はじきこんでやる。	///两次、三次，在天花板上映现出大大的影子，它冲着灯罩撞了过来，停在金属的把手上，然后，就再也不动了。与小官吏的外表不太相称，小飞蛾老是畏缩不前。他把香烟头按在虫的胸口上。又把破坏了中枢神经、四脚乱蹬的小虫，拨到蜘蛛要经过的路上。
1110	こんな蜘蛛がいるとは、知らなかった。巣のかわりに、ランプとはまた洒落れている。巣では、受け身に待ちうけているしかないが、ランプを使えば、積極的に相手をおびきよせられるわけだ。ただし、この方法には、前提としてまず適当な燈火を準備されていなければならない。自然には、残念ながら、そんな灯はありえないのだ。	他以前不知道有这样的蜘蛛。油灯代替了巢倒是挺时髦的。巢里边只能被动地等待，使用油灯，就可以积极地把对方吸引过来。只是这个方法必需有个前提，首先要让人准备适当的灯火。很遗憾，大自然里是不可能有灯的。
1112	///これがもし、ただ一種類だけの蛾の習性だというなら、まだ合点もいく。しかし、約一万種にもおよ	///假如这只是一个种类的话，也许还能说得过去。可是，种类约达到一万个左右的

	ぶ蛾の、共通した習性だとなると、これはもはや厳然たる一つの法則だと考えるしかない。人工の灯によって、惹き起された、この盲目で、狂熱的な羽ばたき……火と、虫と、蜘蛛の、いわれのない密通……法則が、こんな無謀な現われ方をするのなら、一体、何を信ずればいいと言うのか？	飞蛾，要说有什么共通的习性，看来只有俨然整肃的一个法则。它们被人工的油灯所引诱，这样盲目地、狂热地煽动着翅膀……火、虫和蜘蛛，无缘无故的串通一气……法则竟如此鲁莽的表现，究竟让人相信什么才好呢？
1123	女は、うるんだ声で、しかし、まるで男の失敗を弁護するような、力がこめられている。なんていうみじめなやさしさだろう。このやさしさが、酬いられないのでは、あまりに不公平すぎはしまいか？	女人用哽咽的声音说，简直象一门心思为男人的失败辩护似的。多么令人心酸的温柔呐，不报答这种温柔，实在太不公平了吧？
1140	日中はまだ、未練がましい夏の足踏みが、裸足では五分と辛抱できないほど砂を焦がしていても、陽が沈めば、隙間だらけの部屋の壁が、さすがに肌寒く感じられ、湿ったいろりの灰を乾す仕事を、いやおうなしにせかされたりする。その気温の変化で、風のない朝夕など、霧が、にごった川のようになった。	白天，夏日还恋恋不舍驻足不前，沙子晒焦了，赤着脚走五分钟都忍受不了；但太阳一西沉，屋子里透风的四壁，到底让人感到了阵阵凉意，他还得硬着头皮去把潮湿的炉灰晒干。因这气温的变化，所以，没有风的早晨，雾就象浑浊的河流一般。
1142	針金の先には、餌の干魚が、つきさしてある。さて、その全体が、慎重に砂でかくされ、外から見れば、砂の摺鉢の底に、餌だけが見えているという仕掛けなのだ。鴉が、餌をくわえるや、たちまち楔が外れ、蓋が落ち、同時にまわりの砂がどっと崩れて、鴉はすっぽり生き埋めになる……二、三度、実験してみた限りでは、まず申し分なかった……羽ばたく暇もなく、ずるずると砂に吸い込まれていく哀れな鴉の姿が、目に見えるようだった。	铁丝的尖头上，吊着作诱饵的干鱼。然后，慎重地用沙子掩盖起来，从外面看起来，沙擂钵的底部，只能看到诱饵。乌鸦去叼诱饵，楔子立刻脱落，盖子掉下来，同时周围的沙子一起坍塌，乌鸦就被严严实实地活埋了……做了两、三次实验，无可挑剔……他的眼前似乎出现了乌鸦的身影：在陷阱里甚至连扑楞翅膀的时间都没有，就被沙子哧溜哧溜地吸了进去。
1143	……そして、あわよくば、手紙を書いて、鴉の脚にむすび……いや、むろん、あわよくばの話である……第一、逃がしてやった鴉が、二度と人間の手に捕まるかどうか、可能性は、ごく薄い……それに、どこに飛んで行くかも、知れたものじゃない……大体、鴉の行動半径は、ごく限られたものである……もっといけないことは、おれの鴉が逃げたことと、鴉の群のなかに一羽、足に白い紙片れをつけたのがいることと、この二つを結びつければ、部落の連中にも、こちらの意図がそっくり筒抜けになってしまうことだ……せっかくつみ重ねてきた、これまでの忍耐が、まるで無駄になってしまうことになる……	……而且，真要是得手的话，写一封信绑在乌鸦的腿上……不，当然是得手以后的事唠……第一，放走的乌鸦，能不能再给人抓住，可能性微乎其微……再说，它往何处飞，也无法知道……大体上乌鸦的行动半径也非常有限……更可怕的是：咱放走了乌鸦，乌鸦群里又有一只乌鸦脚上绑着白纸片，把这两桩事联系起来，村子里的家伙们肯定能揣测到咱的意图……
1147	気持を乱されないために、あれ以来、新聞もなるべく、読まないですませられるように努力した。一週間も辛抱していると、さほど読みたいとも思わなくなった。一カ月後には、そんなものがあったことさえ、忘れがちだった。いつか、孤独地獄という銅版画の写真を見て、不思議に思ったことがある。一人の男が、不安定な姿勢で、宙に浮び、恐怖に眼をひきつらせているのだが、その男をとりまく空間は、虚無どころか、逆に半透明な亡者たちの影で、身じろぎも出来ないほど、ぎっしり埋めつくされているのだ。亡者たちは、それぞれの表情で、他を押しのけるようにしながら、絶え間なく男に話しかけている。どういうわけで、これが孤独地獄なのだろう？題をつけ違えたのではないかと、その時は思ったりしたものだが、いまならはっきり、理解できる。孤独とは、幻を求めて満たされない、渇きのことなの	为了不搅乱心境，打那以后，他努力不去看报纸。忍耐了一个星期，他就开始不太想再读报了。一个月以后他甚至常常忘记还有报纸那玩意儿的存在。以前，他看到过一张叫作“孤独地狱”的铜版画，曾经觉得很不可思议：一个男人以不安定的姿势漂浮在天空上，恐怖地连眼睛都僵硬起来。围绕在男人周围的空间，决不是虚无的，相反满满地充塞着些半透明的死人影子；他连身体都转动不了。死人们脸上挂着各种表情，都想挤掉其他人，没完没了地和男人说话。到底为什么要叫做“孤独地狱”呢？当时他曾觉得该不会是标题搞错了吧？现在总算搞清楚了，能够理解了。所谓孤独，就是追求幻想而得不到满足的饥渴。

	である。	
1148	だから、心臓の鼓動だけでは安心できずに、爪をかむ。脳波のリズムだけでは満足できずに、タバコを吸う。性交だけでは充足できずに、貧乏ゆすりをする。呼吸も、歩行も、内臓の蠕動も、毎日の時間割も、七日目ごとの日曜日も、四カ月ごとにくりかえされる学期末のテストも、彼を安心させるどころか、かえってあらたな反復にかりたてる結果になってしまうのだ。やがて、日を追うてタバコの量が増え、爪垢をためた女と、やたらに人目につかない場所を探してまわる、汗ばんだ夢にうなされたりして、ついに中毒症状を呈しはじめたことに気づいたとき、ふと、このうえもなく単純な楕円運動の周期に支えられた天空や、 m.m.の波長が支配する砂丘地帯を思って、翻然としたりすることにもなるわけだ。	所以，他啃指甲，连心脏的鼓动都不能安定。他抽香烟，连脑波的节奏都不能满意。他的腿下意识地晃动，连性交都不能充分。呼吸、步行、内脏的蠕动、每天的时间分配、每七日一个礼拜天，每四个月重复一次的学期期末考试，谈不上使男人放心，反而成了新的反复逼迫的结果。不久，他抽烟一天比一天厉害起来，还与屯积指甲污垢的女人一起，胡乱寻找世人眼睛够不到的地方，大汗淋漓被恶梦魇住，当终于发现开始呈中毒状态时，他翻然醒悟似地觉察到：周围只有无比单纯的圆周运动周期所支撑的天空，以及１／８m.m.波长所支配的沙丘地带。
1149	男が、繰返される砂との闘いや、日課になった手仕事に、あるささやかな充足を感じていたとしても、かならずしも自虐的とばかりは言いきれない。そうした恢癒のしかたがあっても、べつに不思議はないのである。	男人翻来覆去的同沙子作着斗争，即使在成为每天习惯的劳动中，略微感觉到某种充足感，但未必能断言这都是自虐的行为。有这种痊愈的方法，也没什么不可思议的。
1151	おおよそ馬鹿気た漫画だった。何がおかしいのか、説明を求められても、答えようのないほど、無意味で粗雑なただの描きなぐりだった。ただ、大男を乗せたために、脚を折って倒れた馬の、その表情がむしょうにおかしかっただけなのである。こんな状態にいながら、よくもそんな笑い方が出来たものだ。恥を知るがいい。現状との馴れ合いにも、限りというものがある。それはあくまでも手段であって、目的などではなかったはずだ。冬眠などと、聞えはいいが、どうやら、土竜に化けたっきり、一生日向に顔を出す気をなくしてしまったのではあるまいか。	大致是些傻乎乎的漫画。要说什么地方好笑，他可是回答不出来的，只是些毫无意义的，粗杂的涂鸦而已。大个子男人骑上马，马腿都给压断了摊在地上；马脸上的表情令人忍俊不禁。自己这副样子，真还亏笑得出来。知耻尚可。与现状串通一气毕竟有限。归根结底那只是手段，不应该是目的。冬眠什么的，能听见还可以，但愿不会变成晏鼠，一生一世不见阳光。
1175	（ああ、不法監禁……しかし、人間、欲を言ってちゃ、きりがないからなあ……せっかくこうして、部落の連中からも、重宝がられているのだし……）	（啊，不法监禁……然而，说起人的欲望来可是没有底的呀……象你这样被村里的家伙们当成活宝……）
1181	（おやおや、とんだ御宗旨変えだ……そう、そのたびに主張を変えられたんじゃ、一体どちらを信じていいのやら、分らなくなってしまう。）	（啊呀啊呀，怎么啦，您的宗旨改变了嘛……是呵，上回又改变了主意吧，真弄不清楚究竟该相信什么。）
1196	「そうだとも、いまに、とりかえしのつかないことになってしまうんだ……ある日、気がついてみたら、部落の連中は、一人もいなくなって、われわれだけが、あとに残されていて……おれには分っている……本当だとも……いまにきっと、そんな目にあわされるんだ……裏切りだと気づいたときには、もう手後れで……せっかく、これまで尽してきたことも、ただの笑い話になってしまって……」	“是呵，现在已经无法再挽回喽……有一天，忽然醒过来一看，村里的家伙们一个人也没有了，只留下了我们……咱知道得可清楚呢……真的呢……眼下肯定会让我们难堪的……等你注意到被甩了，已经为时晚喽……尽心尽力到这个份上，将来只能被当做笑柄……”
1210	男はたじろいだ。まるで、顔がすげかえられたような、変りようだ。どうやら、女をとおしてむき出しになった、部落の顔らしい。それまで部落は、一方的に、刑の執行者のはずだった。あるいは、意志をもたない食肉植物であり、貪欲なイソギンチャクであり、彼はたまたま、それにひっかかった、哀れな犠牲者にすぎなかったはずなのだ。しかし、部落の側から言わせれば、見捨てられているのはむしろ、自分たちの方だということになるのだろう。当然、	男人退缩了。她仿佛又另装上去个脸似地怪诞。好象村里人通过女人显露出一张脸似的。以前，村落应该是单方面的行刑者。或者是没有意志的食肉植物，贪婪的海葵；他偶然也会上他们的当，不过是个可怜的牺牲者。可要是让村落方面说起来，被抛弃的当然是自己这一方。在道理上当然不可能被外界说三道四；而且，他若成为那些加害者的一个碎片，那么，他

	外の世界に義理だてしたりするいわれは、何もない。しかも彼が、その加害者の片割れだとなれば、むき出された牙は、そのまま彼にたいして向けられていたことにもなるわけだ。自分と、部落との関係を、そんなふうに考えたことは、まだ一度もなかった。ぎこちなく狼狽してしまったのも、無理はない。だからと言って、ここで退き下っては、自分の正当性を、みずから放棄してしまうようなものである。	们就会维持原状，冲着他呲牙裂嘴。他还从没有这样考虑过自己和村落的关系。他笨拙狼狈也是理所当然的。所以说，他就此退下，就象他自己放弃了自己的正当性。
1215	とりとめもない、混乱と不安のなかで、ついに男は立ちすくんでしまう。なんだかやたらと心細い。はっきり敵と味方に塗り分けられていたはずの作戦地図が、あいまいな中間色で、判じ絵みたいなわけの分らないものに、ぼかされてしまった。考えてみれば、たかだか漫画本くらいで、なにもあれほどいきり立つ必要はなかったのだ。	他实在不得要领，在混乱和不安之中，男人终于呆立不动了。他老觉得惴惴不安。本应把敌我双方涂抹得清清楚楚的作战地图，被暧昧的中间色弄淡成一幅无法分辨的画。其实仔细一想，它充其量不过是一幅漫画，没有必要那样怒不可遏。
1224	ひらひらするやつ……逃げようとしても、幹につながれて、逃げられず、ひらひら身もだえている葉っぱの群……	翩翩飘动的那种……即使想要逃跑，也会被树干剐着逃不了，只有叶片，成群地翩翩扭动着身子……
1231	ある日、穴のふちにかかった、一とかかえほどもありそうな灰白色の月を正面に見て、小便の最中、とつぜん男は激しい悪寒におそわれた。風邪をひいたのだろうか？……いや、この悪寒は、なにかもっとちがった性質のものらしい。熱が出るまえの悪寒なら、いくらも経験ずみだが、そんなのとはまるでちがっている。	一天，男人正面看到了月亮，挂在洞穴的边缘，有一抱那么大，灰白色；当时正在小便，突然，他感到一阵剧烈的发冷。是感冒了吧？……不，这种发冷象是有什么性质不同。假如是发热之前的冷，自己还有几分经验，可眼前的情景简直不一样。
1233	白い髑髏……万国共通の標識である、毒の紋章……殺虫瓶の底の、粉をふいた白い錠剤……そう言われてみると、風化した青酸カリの錠剤と月の表面とは、なるほど肌合いがよく似通っていた。	白色的骷髅……万国通用的标志，毒的纹章……杀虫瓶底部抹着白粉的药片……这样说来，风化的青酸钾药片和月亮的表面，气质竟会如此相似像。
1234	心臓が、割れたピンポン玉のように、ぎくしゃくとはずみだす。連想するものにこと欠いて、なんだってまた、あんな不吉なものを思い出したりしたのだろう。そうでなくても、十月の風には、せつないほどの悔恨のひびきがこめられている。中身がはぜて、からっぽになった種子の莢を、笛のように吹き鳴らしては、飛び去って行く。月光に淡くくまどられた穴のふちを見上げながら、この焼けつくような感情は、あんがい嫉妬なのかもしれないと思った。	心脏象破了的乒乓球，不规则地弹跳着。连想象都不伦不类，他不明白自己怎么净想些不吉利的事情呀。即使不那么想象，十月的凉风里充满了近乎苦闷的悔恨之声。豆子崩破了豆荚，空空地豆荚，如笛子吹响般飞去了。他抬起头，仰望着淡淡月光勾勒出来的洞穴边缘，他觉得，这种灼热的感情也许是出乎意料的嫉妒吧。也许是对所有事物的嫉妒吧：
1236	もっと軽い空気がほしい！　せめて、自分の吐いた息がまじっていない、新鮮な空気がほしい！　一日に一度、たとえ三十分でもいいから、崖にのぼって海を眺めることができたら、どんなにか素晴らしいことだろう。それくらいは許されてもいいはずだ。いずれ、部落の警戒は厳重をきわめているのだし、この三カ月余りの忠実な仕事ぶりを考慮に入れてもらえば、ごく当りまえの要求なのではあるまいか。禁固刑の囚人だって、運動時間の権利ぐらいはもっている。	真想获得更加轻盈的空气呀！至少希望得到不混杂自己吐出气息的新鲜空气！一天一次，哪怕只要三十分钟也可以，如果能够登崖望海，那该是多么美好的事情哇。这样的要求应该得到允许吧。反正村里戒备森严，如果再考虑他三个多月来老老实实干活的表现，这不是极其正常的要求吗？就是被判了刑的犯人，也有权利得到活动时间呀。
1244	もっともそんな交渉が、成果をおさめるかもしれないなどと、本心から期待したりしたわけではなかった。はぐらかされるのには、馴れっこだった。だから、二度目のモッコ搬びの連中といっしょに、例の老人が、さっそく返事をとどけてくれたときには、むしろ意外に思い、とまどってしまったほどだった。	本来他就没有真心期待也许能获得的成果。他已经习惯了岔开话题的待遇。所以，当先前那个老头随第二次搬运大网篮的家伙们，赶快跑来回答的时候，他颇感意外，甚至有些手足无措了。

1249	まわりで、モッコ搬びの連中が、どっと、気違いじみた笑い声をたてた。男は、しめ上げられたように、じっとつっ立ったまま、ゆっくり、しかし克明に理解しはじめる。理解している自分を、理解しはじめる。理解してみると、その提案は、さほど驚くにはあたらないようにも思われるのだ。	搬运大网篮的人围着老头，爆发出一阵疯狂的大笑。男人象被人使劲拽住似地站着一动不动；他开始慢慢地、一丝不苟地理解起来。他开始理解正在理解的自己。仔细想来，这项提案也并非那么令人惊奇。
1250	懐中電燈の光が一と筋、金の小鳥のように男の足もとをかすめて飛んだ。それを合図に、さらに七、八本が、いっせいに光の皿になって、穴の底を這いまわりはじめる。崖の上の男たちの、焼けた樹脂のような熱気に気圧されて、反撥するよりまえに、その狂気に感染してしまいそうだった。	一束手电光，象只金色的小鸟擦着男人的脚边跳动。以此为信号，七、八条手电光又一齐射下，组成了个光的盘，趴在洞穴的底部。崖上的男人，被灼烫树脂似的热气所压倒，反弹回来之前象是已经感染上了这份疯狂。
1260	そうだろうか？……おれは気が狂ってしまったのだろうか？……女の激しさに、たじろぎながらも、男の内部には、むしろねじれたような空白がひろがっていく……ここまで、踏みつけにされた後で、いまさら体面などが、なんの役に立つだろう？……見られることに、こだわりがあると言うなら、見る側にだって、同じ程度のこだわりがあるはずだ……見られることと、見ることとを、それほど区別して考える必要はない……多少のちがいはあるにしても、おれが消えるための、ほんのちょっとした儀式だと考えればすむことだ……	是这样吧？……咱发疯了吧……在女人激动的态度前，他有些退缩了，倒是男人的内部，扭曲的空白不断扩散开去……被人欺负到这种地步，体面还能起什么作用？……如果说展览的一方难为情，那么，参观的一方也该同样地难为情……没有必要把“示众的”和“看客”分得那么清楚……即使多少有些不同，但把它想象成为了咱的消失而举行的一个小小仪式，也就未尝不可了嘛……
1262	不意をおそったのが、功を奏したのか、ともかくうまく女を外にひきずり出すことが出来た。襟首をつかまれ、女は袋のように、ぐったりとなっていた。穴の三方を、ぎっしり取りまいた光が、夜祭のかがり火のようだ。それほど暑くもないのに、ぺろぺろした薄皮のような汗が、腋の下をつたって流れ落ち、髪の毛までが、水をかぶったように、ぐっしょり濡れていた。一枚の板に圧縮された、耳鳴りに似た喚声が、大きな黒い翼を、空いっぱいにひろげている。	不知道是不是突然袭击奏了效，反正他巧妙地把女人拖了出来。女人精疲力尽，被男人拽着衣襟，象只口袋似地被拖了出来。手电光把洞穴三面包围得水泄不通，宛如夜间祭祀中燃起的篝火。尽管没那么热，晃晃悠悠，薄薄皮肤似的汗水流了下来，挂在两腋下，连头发也象被水浇过了似地湿漉漉的。被木板压缩的震耳的喊声，象黑色的巨大翅膀，布满了整个天空。
1264	男は、砂を蹴ちらし、追いすがる。すぐまた、鉄の固さで、はね返される。むしゃぶりついて、男は哀願した。	男人踢着沙子追了过去。他立刻被铁一般的坚硬顶了回来。男人又猛扑上去，苦苦哀求道：
1266	だが、もう、すがりついたりする必要はなかったのだ。女は、逃げる気など、すでになくしていた。なにか、布が裂けるような音がしたと同時に、全身の怒りと重みをかけた肩の先で、思うさま、男の下腹が突き上げられている。男は、あっけなく膝をかかえて、二つ折れになってしまう。	其实，他根本没有必要扑过去。女人早已没有躲避的心思。似乎有什么布帛撕裂般的声音响起，与此同时，集中了女人全身愤怒和重量的肩膀，狠命地朝男人的下腹撞了过去。男人一下子抱住膝盖蹲了下来。
1267	酔ったまぎれの、猥褻な罵声も、いっこう気勢をあげる足しにはなってくれない。何か、ものを投げた者があったが、すぐに誰かにたしなめられた。はじまりが唐突だったように、終りもまた唐突だった。長く尾をひいて、仕事をうながす掛声がかかり、明りの列が、たぐりよせられるように消えてしまうと、あとにはただ暗い北風が、ほとぼりのかけらさえ残さずに、吹きすさぶばかりである。	夹杂醉意的猥亵骂声，再也成不了推波助澜的补充剂。象是有人扔下来东西，立刻有人出来制止。就象开头的唐突那样，结尾也很唐突。拖着长长的尾巴，响起了催促干活的吆喝声；灯光排成一列，象被谁拖走了似地，倏忽消失了。此后，只剩下幽暗的北风呼啸，把刚才的喧嚣吹得无影无踪。
1268	砂にまみれ、うちのめされて、しかし男は、やはりすべてが筋書きどおりに搬んだのだと、動悸だけが痛いように冴えかえる、しめった下着のような意識の隅で、ぼんやり考えていた。	他浑身沾满了沙子，被打翻在地，只有心跳时才清晰地感到痛楚，男人在透湿内衣似的意识角落里，迷迷糊糊地觉得，一切似乎都是按预定计划进行着。
1273	《希望》もいぜんとして、鴉たちから無視されたま	乌鸦们依然瞧不起“希望”。作为诱饵

	まだった。もっとも、餌の干魚は、もう干魚ではなくなった。鴉に無視されても、バクテリヤからは、さすがに無視されなかったのだ。ある朝、棒の先でさわってみると、魚は皮だけを残して、黒いねばねばした液体に変ってしまった。餌をつけかえるついでに、仕掛けの具合も点検してみることにする。砂をとり除き、蓋を開けてみて、驚かされた。桶の底には、水が溜まっていたのである。底から十センチほどだったが、透明な、毎日配給される金気の浮いた水などよりは、はるかに純粋に近い水だった。	的干鱼早已经不再是鱼了。干鱼被乌鸦们忽视，却没有被细菌忽视。一天早上，他伸手摸摸穿诱饵的细棒，干鱼只剩下了鱼皮，变成黑黑的、粘乎乎的液体。于是，他乘更换诱饵之机，想再查看一下装置的情况。谁知拨开沙子，揭掉盖子一看，他大吃一惊。原来，桶底竟然屯积着一汪水。水面离桶底大约有十公分高；透明的水，要比每天分配来的那种锈迹斑斑的水纯净得多。
1274	///最近、いつか、雨が降っただろうか？……いや、すくなくも、ここ半月は降っていない。すると半月前の、雨が、残っていたのだろうか？……出来れば、そう考えたいところだったが、困ったことに、この桶は水もりがする。現に、持上げたとたん、水は見るみる、底からもれはじめた。その深さに、地下水の線でもない限り、もれて行く分だけが、絶えず何処からか補給されていたものと考えなければならないわけである。すくなくも理屈では、そういうことになる。だが、この乾ききった砂のなかで、一体どこから、そんな水が補給されえたのだろうか？	///最近什么时候下过雨了吧？……不，至少这半个月以来没下过雨。那么是半个月以前留下的雨水吗？……他尽可能这样想，可令人不解的是，这个桶是漏水的。眼下，把桶提起来，水眼看着慢慢地从桶底漏掉了。那个深度，只要不是位于地下水线，那么，漏去的部分，只能看作有水源源不断从什么地方补充而来。至少理论上说是这样的吧。但是，这干巴巴的沙子，水究竟从哪里补充而来的呢？
1276	言いかえれば、水の補給は、たゆみなく行われていたのである。ただ、その循環が、ふつうの土地では考えられないほどの速度をもっていた。	/话说回来，水的补充是源源不断的。只是那种循环具有一般土地所无法想象的速度。
1278	もし、この実験に成功すれば、もう水を絶たれて降参したりすることもない。それどころか、この砂全体がポンプなのだ。まるで、吸上げポンプの上に坐っているようなものである。	假如这个实验成功的话，那就再也不会为强行断水而投降了。岂只如此，这沙子整个就是一个水泵。自己简直就象坐在抽水泵上似的。
1279	それでも、笑いが、しぜんに吹きこぼれてくる。《希望》について、沈黙を守ることはできても、その心のたかぶりを隠すのは、やはりむつかしかった。男は、寝床の仕度をしている女の後ろから、いきなり奇声を発して、腰を抱えこみ、かわされると、仰向けに倒れたまま、足をばたつかせてなおも笑いつづけた。特製の軽い空気をつめた紙風船で、胃のあたりをくすぐられているようだった。顔にかざした手が、そのままふわりと、宙に浮んでしまいそうである。	尽管如此，笑还是自然地满溢出来。关于“希望”的事，他当然能保持沉默，但要掩饰住内心的兴奋，却是十分困难的。女人正在整理床铺，男人跑到她背后，忽然尖叫了一声，抱住她的腰；女人一阵躲闪，男人索性仰面倒在床铺上，手脚乱舞，还在不停地笑。仿佛有一只充填了氢气的纸气球，在胃的周围挠痒痒似地。搭在脸上遮阳的手，就这样轻柔地漂浮在空中。
1281	とにかく、砂の中から、水を掘り当てたのだ。あの装置があるかぎり、部落の連中も、めったな手出しはできないわけである。いくら水を絶たれても、もうびくともしないですませられるのだ。連中が、どんなに騒ぎうろたえるか、思っただけで、また笑いがこみ上げてくる。穴の中にいながら、すでに穴の外にいるようなものだった。	世界本末倒置，也许“突起的部分”和“坑洼的部分”倒了过来。沙子里边竟能打出水来。只要有了那个装置，村子里的那些家伙也就很难插手了。就是断了水，也豪不在乎。那些家伙将会多么吃惊呐，只要想到此事，“笑”又涌了上来。尽管身处洞穴，心却早已飞向洞穴之外。
1283	あいつや、同僚たちについても、そっくり同じことが言えた。これまで、思い浮ぶものといえば、異様に拡大された、細部ばかりであり、肉の厚い鼻の穴……しわだらけの唇……のっぺりした薄い唇……ひらたい指……とがった指……目のなかの星……鎖骨の下の、糸のようなイボ……乳房を走っている菫色の静脈……そんな部分ばかりが、やたらと真近にせまって、彼に吐き気をもよおさせてしまうのだ。	家里“那口子”和单位里的同事，简直可以说是一回事。要说以前浮想连篇的东西，那只有异样扩大的细部；肉质厚厚的鼻孔……平平的手指……尖尖的手指……眼睛里的星星……锁骨之下，线头一样的疙瘩……乳房上闪过紫罗兰色的静脉……就只有这些部分，不由分说地逼了过来，引得他一阵恶心。
1286	こうして、溜水装置の研究が、あらたに日課とし	就这样，屯水装置的研究，增加了他

	てくわえられることになる。桶を埋める位置……桶の形態……日照時間と溜水速度の関係……気温や気圧が効率におよぼす影響……数字や図形の記録が、たんねんに積み重ねられていった。もっとも、女には、男が鴉の罠くらいに、なぜそれほど熱中できるのか、さっぱりわけが分らない。いずれ男というものは、何かなぐさみ物なしには、済まされないものだからと納得し、それで気がすむというのなら、けっこうなことである。それに、どうしたはずみか、彼女の内職にも、積極的な態度を示しはじめてくれた。	每天新的活动。埋桶的位置……桶的形状……日照时间和屯水速度的关系……气温和气压对效率的影响……数字和图形的记录，他都一一仔细地积累起来。而女人一点也搞不清，男人对套乌鸦的陷阱为什么会如此热中。她相信，男人早晚得有一样东西来摆弄，否则就过不去；假如这真地能使他气顺，又未尝不可呢。不知为什么，男人对女人的家庭手工活，也开始表现出积极的态度。
1287	///悪い気持はしない。鴉の罠くらいは、差引きしても、まだたっぷりおつりがくる。とは言え、男の方でも、ちゃんとそれなりの計算や動機は用意されていたのである。装置の研究は、いくつもの条件を組合わせねばならず、意外に手間取った。	///他没坏心情。乌鸦陷阱之类，即使打折扣，也还能找回绰绰有余的零钱。可是，男人也充分准备了恰当的计算和动机。研究屯水装置也需要多种条件的组合，意外地费时。
1288	やがて、砂といっしょに氷のかけらが飛ぶ、長い、きびしい冬がやってきた。そのあいだ、すこしでも上等のラジオを手に入れるために、せいぜい女の内職に手をかすことにした。穴の中は、風がさえぎられるという利点はあっても、ほとんど一日中陽が射さず、おせじにもしのぎやすいとは言えなかった。	不久，冰的碎片随着沙子一起飞舞，漫长而严酷的冬天来临了。这时，他渴望得到一个较好的收音机，于是，他也帮女人干起了家庭手工活。洞穴中尽管有挡风的优点，但是，终日不见阳光，说得再轻松，也不敢说很容易坚持。
1290	やがて、オート三輪が、崖の上まできて停った。半年ぶりで、縄梯子がおろされた。女は、ふとんごと、サナギのようにくるまれ、ロープで吊り上げられていった。視線がとどかなくなるまで、涙と目脂でほとんど見えなくなった目を、訴えるように男にそそいでいた。男は、見ないふりをして、目をそむけた。	不一会儿，摩托三轮停在了崖上。半年以来，绳梯第一次吊了下来。女人让被窝裹得象只蚕蛹，用绳索吊上去。女人满是眼泪和眼屎的眼睛，几乎什么也看不清，但她直愣愣地盯着男人，仿佛倾诉着什么似的，直到再也看不见为止。男人装作没看见，把眼睛挪开了。
1291	女が連れ去られても、縄梯子は、そのままになっていた。男は、こわごわ手をのばし、そっと指先でふれてみる。	女人被带走了，可绳梯还原封不动地吊在那里。男人战战兢兢伸出手去，悄悄地摸了一下，看看绳索还在不在；于是，他慢慢地开始攀登。
1293	穴の底で、何かが動いた。自分の影だった。影のすぐ上に、溜水装置があり、木枠が一本、外れていた。女を搬び出すときに、誤って踏みつけられたのだろう。あわてて、修繕のために、引返す。水は、計算で予定されていたとおり、四の目盛りまで溜まっていた。大した故障ではなかったらしい。家の中では、乾いた声で、ラジオが何やら歌っている。泣きじゃくりそうになるのを、かろうじてこらえ、桶のなかの水に手をひたした。	洞穴的底部，有什么在晃动。哦，是自己的影子。影子的紧上面是屯水装置，木框的一边掉了下来。大概是刚才搬运女人时不小心踩上去给蹭掉的。他慌忙返回洞底去修理。屯积的水正和计算所预定的一样，到了第四格刻度。看不出是什么大不了的故障。屋子里，收音机正用干燥的声音唱着歌。他好容易才忍住没让自己哭出来，他把手浸到了水里。
1299	右の不在者に対し　仁木しのから失踪宣告の申立があったから、不在者は昭和三十七年九月二十一日までに当裁判所に生存の届出をされたい。届出のない場合は失踪宣告を受けることになります。また不在者の生死を知っている者は、右期日までにその旨当裁判所に届け出て下さい。	兹有仁木希娜提出“宣告失踪”的申请，截止至昭和三十七年九月二十一日，希望“不归者”能向本法庭提出生存登记。提供不出登记文件的，则予以接收“宣告失踪”的申请。此外，凡是知道“不归者”生死情况者，请于上述日期之前，速告本法庭。

行番	痴人の愛（原文）	痴人之爱(訳文)
10	そんな子供をもうその時は二十八にもなっていた私が何で眼をつけたかと云うと、それは自分でもハッ	那时我已二十八岁。为什么看上了这样一个孩子，就连自己也莫名其妙。大概

	キリとは分りませんが、多分最初は、その児の名前が気に入ったからなのでしょう。彼女はみんなから「直ちゃん」と呼ばれていましたけれど、或るとき私が聞いて見ると、本名は奈緒美と云うのでした。この「奈緒美」という名前が、大変私の好奇心に投じました。「奈緒美」は素敵だ、NAOMI と書くとまるで西洋人のようだ、と、そう思ったのが始まりで、それから次第に彼女に注意し出したのです。	是因为一开始就对那孩子的名字产生了好感的缘故。大家都叫她“阿直”，可有一次我打听到她的真名叫奈绪美。“奈绪美”这个名字不错，它使我感到非常好奇，如果同拼音字母拼写成ＮＡＯＭＩ，简直就象个西洋人。最初我就是这样想的，以后便渐渐开始注意起她来。
14	一体十五六の少女の気持と云うものは、肉親の親か姉妹ででもなければ、なかなか分りにくいものです。だからカフエエにいた頃のナオミの性質がどんなだったかと云われると、どうも私には明瞭な答えが出来ません。	不是亲生父母或亲姐妹，大概很难理解一个十五六岁少女的心情。所以要问咖啡店时期的纳奥米是什么性格，我似乎也说不上。
15	これは一つにはまだ奉公に来たてだったので、外の女給のようにお白粉もつけず、お客や朋輩にも馴染がうすく、隅の方に小さくなって黙ってチョコチョコ働いていたものだから、そんな風に見えたのでしょう。そして彼女が悧巧そうに感ぜられたのも、やっぱりそのせいだったかも知れません。	之所以有这种印象，原因之一大概是由于她初来乍到，不象其他女招待一样涂脂抹粉，也没有什么熟识的客人和朋友，总是悄悄地躲在角落里不声不响地拼命干活的缘故。或许正是由于这个原因，她看上去显得很聪明。
25	あの時分、若しも私が結婚したいなら候補者は大勢あったでしょう。田舎者ではありますけれども、体格は頑丈だし、品行は方正だし、そう云っては可笑しいが男前も普通であるし、会社の信用もあったのですから、誰でも喜んで世話をしてくれたでしょう。が、実のところ、この「世話をされる」と云う事がイヤなのだから、仕方がありませんでした。	那时节，如果我想结婚的话，大概不乏应选者。虽说是农民出身，但体格健壮、品行端正。这样说或许会使人觉得可笑，作为男子汉，我的风度并不亚于一般人，而且在公司的影响也不错，无论是谁，大概都会愿意帮我这个忙的。但实际上因为我不喜欢让人帮这个忙，所以也就没有办法了。
38	そう云っても、+++「いいえ、なんにも喰べたくない」+++と云うこともありますが、減っている時は遠慮なく「ええ」と云うのが常でした。そして洋食なら洋食、お蕎麦ならお蕎麦と、尋ねられればハッキリと喰べたい物を答えました。	当我这样问时，有时她会回答说：“不，我什么都不想吃。”不过，当她真饿的时候，总是不客气地说“是饿了”。问她想吃什么，她也坦率地回答自己想吃的东西，或是西餐，或是面条。
58	それから後もこんな話はたびたび出たことがありますけれど、いつも彼女は、自分の家庭の事情を聞かれると、ちょっと不愉快な顔つきをして、言葉を濁してしまうのでした。	自那以后，我们也经常谈起这个话题。不过，每当问起她的家庭情况时，她总是不大愉快地敷衍搪塞过去。
102	と、口ではそう云っていたものの、その実彼女がそれを案外気にしていたことは確かでした。つまり彼女のいつもの癖で、自分の家庭の内幕を私に知られるのが嫌さに、わざと何でもないような素振りを見せていたのです。	///她嘴上虽这么说，但实际上却在担心这件事。这也是她的一贯作风，因为不愿让我知道自己家庭的内幕，便故意装出无所谓的神态。
104	後で自然と分って来る時もありましょうし、そうでないまでも彼女の家が千束町にあったこと、十五の歳にカフエエの女給に出されていたこと、そして決して自分の住居を人に知らせようとしなかったことなどを考えれば、大凡そどんな家庭であったかは誰にも想像がつく筈ですから。	至少从她家住在千束町，十五岁就出来到咖啡店帮工，而且决不告诉别人自家的住处这几点来看，谁都会想象得到那是个怎样的家庭。
118	菫、たんぽぽ、げんげ、桜草、――そんな物でも畑の畔や田舎道などに生えていると、忽ちチョコチョコと駆けて行って摘もうとする。そして終日歩いているうちに彼女の手には摘まれた花が一杯になり、幾つとも知れない花束が出来、それを大事に帰り途まで持って来ます。	只要看到田埂上、村路边长着二月兰、蒲公英、紫云英、樱草等，她马上就摇摇晃晃地跑过去，要把它们摘下来。走一整天路，她手里都捧满了摘来的鲜花，并把这些花扎成好几束，小心翼翼地带回来。
154	私は前に「小鳥を飼うような心持」と云いましたっ	记得前面讲过，“我收养她有如养着

	けが、彼女は此方へ引き取られてから顔色などもだんだん健康そうになり、性質も次第に変って来て、ほんとうに快活な、晴れやかな小鳥になったのでした。そしてそのだだッ広いアトリエの一と間は、彼女のためには大きな鳥籠だったのです。五月も暮れて明るい初夏の気候が来る。花壇の花は日増しに伸びて色彩を増して来る。私は会社から、彼女は稽古から、夕方家へ帰って来ると、印度更紗の窓かけを洩れる太陽は、真っ白な壁で塗られた部屋の四方を、いまだにカッキリと昼間のように照らしている。	一只小鸟”。她被我领来以后，脸色慢慢变得红润起来，性格也渐渐有所改变，真的成了一只快乐活泼的小鸟。那间空荡宽敞的画室对她来说就是一个大鸟笼。五月已近尾声，正是初夏晴朗的天气。花坛的花草也日渐繁茂鲜艳。傍晚时分，我们分别回到家时，透过印度花布射进来的阳光仍象白昼一样，把四周都是雪白墙壁的整个房间照得亮堂堂的。
198	「そうかしら。――一遍日本髪に結って御覧て云われたけれど、あたしイヤだから結わなかったわ」	“是吗？他们说让我梳一次日本发髻，我不愿意，没有梳。”
214	その「洋服」というえさに釣られて、彼女はやっと納得が行ったのでした。	她受到“洋装”这一诱惑，终于同意了我的建议。
215	ところがいよいよと云う日になって、横須賀行の二等室へ乗り込んだ時から、私たちは一種の気後れに襲われたのです。	但是等到那一天，当我走进开往横须贺的二等车厢时，却产生了一种畏缩的情绪。
218	///そしていつもは彼女をハイカラに見せたところの、あのモスリンの葡萄の模様の単衣物が、まあその時はどんなに情なく見えたことでしょう。並居る婦人達の中にはあっさりとした浴衣がけの人もいましたけれど、指に宝石を光らしているとか、持ち物に贅を凝らしているとか、何かしら彼等の富貴を物語るものが示されているのに、ナオミの手にはその滑かな皮膚より外に、何一つとして誇るに足るものは輝いていなかったのです。私は今でもナオミが極まり悪そうに自分のパラソルを袂の蔭へ隠したことを覚えています。それもその筈で、そのパラソルは新調のものではありましたが、誰の目にも七八円の安物としか思われないような品でしたから。	///平时穿上那件葡萄花纹的薄布单衣，总显得很洋气，可这时却显得何等寒酸呀。周围的妇女们虽然也有只穿一件单衣的，但她们不是手上戴着闪闪发光的戒指，就是拿着高级奢华的物品，以表示她们的富贵。然而，纳奥米的手上除了她那光滑的皮肤以外，再没有一件值得夸耀的东西了。至今我还记得纳奥米难为情地将自己的阳伞藏到袖子后面的情景。这也难怪，那把伞虽说是新买的，但谁都会认为那只是件值七、八元的便宜货。
219	で、私たちは三橋にしようか、思い切って海浜ホテルへ泊ろうかなどと、そんな空想を描いていたに拘わらず、その家の前まで行って見ると、先ず門構えの厳めしいのに圧迫されて、長谷の通りを二度も三度も往ったり来たりした末に、とうとう土地では二流か三流の金波楼へ行くことになったのです。	于是，尽管我曾想过去三桥住，要么豁出去到海滨饭店住，但是当我走到饭店门口时，首先就被那气派的大门压倒了。在长谷的大街上来来往往地走了两三次，结果还是去了当地二三流的金波楼。
225	いつの間にやら日は暮れてしまって、星がチラチラと私等の船を空から瞰おろし、あたりがぼんやり暗くなって、彼女の姿はただほの白いタオルに包まれ、その輪廓がぼやけてしまう。が、晴れやかな唄ごえはなかなか止まずに、「サンタ・ルチア」は幾度となく繰り返され、それから「ローレライ」になり、「流浪の民」になり、ミニヨンの一節になりして、ゆるやかな船の歩みと共にいろいろ唄をつづけて行きます。……	夜幕悄悄地降临了，天上的星星一闪一闪地向我们的小船贬着眼睛，周围一片昏暗朦胧，只觉得她的身体被裹在发白的毛巾里，轮廓已变得模糊不清了。然而她那欢快的歌声却一刻不停。她反复地唱着《桑塔・露琪娅》，接着又唱起《罗累莱》、《流浪者之歌》和《迷娘》中的一段。随着小船缓慢的节奏，她不停地唱着各种歌曲。
226	そうです、たしかあの中に、「ヴェニスは沈みつつ、ヴェニスは沈みつつ」と云うところがあったと思いますが、ナオミと二人で船に揺られつつ、沖の方から夕靄の帳を透して陸の灯影を眺めると、不思議にあの文句が胸に浮んで来て、何だかこう、このまま彼女と果てしも知らぬ遠い世界へ押し流されて行きたいような、涙ぐましい、うッとりと酔った心地になるのでした。私のような武骨な男がそんな気分を味わうことが出来ただけでも、あの鎌倉の三日間は	是的，我记得书中有一句话是“威尼斯在沉没，威尼斯在沉没”。我和纳奥米坐在颠簸的小船上，透过傍晚时分的雾霭从海上遥望着陆地的灯火，就在这时，那个句子莫名其妙地出现在脑海中。我激动得热泪盈眶，如醉如痴，心中产生了一种愿望：就这样和纳奥米在一起，任凭小船把我们带到遥远的没有尽头的世界去．象我这样的一个粗人也体验到了这种情趣，

	決して無駄ではなかったのです。	单从这一点来说，镰仓的那三天决没有白白渡过。
240	「さあ、ナオミちゃん、そのまんま寝ちまっちゃ身体がべたべたして仕様がないよ。洗ってやるからこの盥の中へお這入り」+++と、そう云うと、彼女は云われるままになって大人しく私に洗わせていました。	///我对她说："喂，纳奥米，就这样睡下，身上粘粘糊糊的不好受，到这个盆子里去，我给你洗洗。"+++她听了此话，老老实实地照我说的让我给她洗澡。
242	けれども一方はまだ十五歳の少女であり、私は前にも云うように女にかけて経験のない謹直な「君子」であったばかりでなく、彼女の貞操に関しては責任を感じていたのですから、めったに一時の衝動に駆られてその「了解」の範囲を越えるようなことはしなかったのです。	但是，一方还只是个十五岁的少女，而我，就象前面所介绍的，不仅是个没接触过女人的谨慎正直的"君子"，而且感到对她的贞操负有责任，所以极少为一时的冲动所驱使，去做超越这个"理解"范围的事情。
294	白や、薔薇色や、薄紫の、紗のように透き徹るそれらの衣に包まれた彼女の姿は、一箇の生きた大輪の花のように美しく、「こうして御覧、ああして御覧」と云いながら、私は彼女を抱き起したり、倒したり、腰かけさせたり、歩かせたりして、何時間でも眺めていました。	这些衣服，有白色、玫瑰色和淡紫色时，犹如薄纱一般。她的这副打扮非常漂亮，宛若一朵鲜花。我说着"这么试试看，那么试试看"，一会儿抱起她来，一会儿放下，又让她坐，又让她走，一直欣赏好几个小时。
306	「ええ、勉強するわ、そうしてきっと偉くなるわ」+++と、ナオミは私に云われればいつも必ずそう答えます。そして毎日晩飯の後で、三十分くらい、私は彼女に会話やリーダーを浚ってやります。	"嗯，我用功学习，一定变成了不起的女人。"每逢我对她说，她肯定会这样回答。每天晚饭后，我帮她复习三十分钟左右的英语会话和阅读。
313	いくらリーディングが達者だからと云って、これでは到底実力が養成される道理がない。一体二年間も何を教え、何を習っていたのだか訳が分らない。	朗读无论多么好，也绝不会培养出实力水平的。真不知道这两年间究竟教了些什么，学了些什么。
314	何しろ歯並びがいいところへ声楽の素養があったのですから、その声だけを聞いていると実に綺麗で、素晴らしく英語が出来そうで、私などはまるで足元へも寄りつけないように思いました。それで恐らくハリソン嬢はその声に欺かされて、コロリと参ってしまったに違いないのです。嬢がどれほどナオミを愛していたかと云うことは、驚いたことに、嬢の部屋へ通って見ると、その化粧台の鏡の周りにナオミの写真が沢山飾ってあったのでも分るのでした。	因为她牙齿长得整齐，再加上声乐素养，所以她的声音确实好听，看样子可以讲出一口漂亮的英语，象我这样的人则望尘莫及。因此，哈里逊小姐肯定是被她的声音所欺骗，一下子就迷上了她。令人惊讶的是到哈里逊小姐房间去看，梳妆台镜子周围摆了不少纳奥米的照片，从这点也可以看出她是多么喜爱纳奥米了。
315	私は内心嬢の意見や教授法に対しては甚だ不満でしたけれども、同時に又、西洋人がナオミをそんなにひいきにしてくれる、賢い児だと云ってくれるのが、自分の思う壺なので、あたかも自分が褒められたような嬉しさを禁じ得ませんでした。のみならず、元来私は、——いや、私ばかりではありません、日本人は誰でも大概そうですが、——西洋人の前へ出ると頗る意気地がなくなって、ハッキリ自分の考を述べる勇気がない方でしたから、嬢の奇妙なアクセントのある日本語で、しかも堂々とまくし立てられると、結局此方の云うべきことも云わないでしまいました。	对于她的见解和教学法，我很不以为然，但同时我又不禁有些高兴，因为西洋人如此偏爱纳奥米，夸她是聪明的孩子，这正中我的下怀，就如我自己受到夸奖一般。不仅如此，本来我——不仅是我，每个日本人大概都如此——一来到西洋人面前，顿时便萎琐起来，连明确阐述自己的观点的勇气都没有了，所以被这位老小姐用她那重音很怪的日语堂而皇之、口若悬河地一说，结果我连该讲的话也没讲出来。
319	私がナオミに叱言らしい叱言を云ったのはその時が始めてでした。私は彼女がハリソン嬢を味方にして、「それ見たことか」と云うように、得意の鼻を蠢めかしているのが癪に触ったばかりでなく、第一こんなで「偉い女」になれるかどうか、それを非常に心もとなく感じたのです。英語と云うものを別問題にして考えても、文典の規則を理解することが出来な	这是我第一次真正申斥纳奥米。她站在哈里逊小姐一边，一副洋洋得意的样子，好象在说"你瞧瞧"，这使我大为恼火。不仅如此，最令人感到担忧的是她这样下去能成为"了不起的女人"吗？英语问题暂做别论，她连语法规则都不能理解，这种头脑怎不令人担心她今后的前途

	いような頭では、全くこの先が案じられる。男の児が中学で幾何や代数を習うのは何の為めか、必ずしも実用に供するのが主眼でなく、頭脳の働きを緻密にし、練磨するのが目的ではないか。	呢？男孩子在初中学习几何、代数，究竟为了什么？主要目的并不一定在于实用，而是磨练思维，使之严密。
321	……幾度も幾度も同じ所を直されて、まだこんな事が分らないなんて、何処に頭を持っているんだ。ハリソンさんが悧巧だなんて云ったって、僕はちっともそうは思わないよ。	同一处地方纠正了好几次，这么简单的还不懂，你的脑子哪儿去啦！尽管哈里逊小姐说你聪明，我可不这么认为。
324	///相手が男の児だったら、私はきっと腹立ち紛れにポカリと一つ喰わせたかも知れません。それでなくとも夢中になって「馬鹿ッ」と怒鳴りつけることは始終でした。一度は彼女の額のあたりをこつんと拳骨で小突いたことさえありました。が、そうされるとナオミの方も妙にひねくれて、たとい知っている事でも決して答えようとはせず、頬を流れる涙を呑みながらいつまでも石のような沈黙を押し通します。	///如果她是个男孩子，我大概一定会扇她个耳光，以泄心中之忿。尽管不能打她，我却拚命地骂她“笨蛋”，甚至还有一次用拳头捅了她的额头。这样一来，纳奥米也闹开别扭，即便会的问题也绝不回答，脸颊上淌着泪水饮泣吞声，一直沉默不语，简直象块石头。
328	「何するんだ！」+++一瞬間、その、猛獣のような気勢に圧されてアッケに取られていた私は、暫く立ってからそう云ました。+++「お前は僕に反抗する気か。学問なんかどうでもいいと思っているのか。一生懸命に勉強するの、偉い女になるのと云ったのは、ありゃ一体どうしたんだ。どう云う積りで帳面を破ったんだ。さ、詫まれ、詫まらなけりゃ承知しないぞ！もう今日限りこの家を出て行ってくれ！」	“你干什么！”我被她那猛兽般的气势所压倒，一时不知所措，过了片刻才说：“你想反抗我吗？你认为学习无所谓吗？你说过要努力学习，成为了不起的女人，那些话都到哪儿去啦？为什么撕破练习本？好，你要认错，否则，我绝不饶你！今天之内就从这个家里滚出去！”
332	「さあ、ナオミちゃん、この風呂敷に身の周りの物は入れてあるから、これを持って今夜浅草へ帰っておくれ。就いては此処に二十円ある。少いけれど当座の小遣いに取ってお置き。いずれ後からキッパリと話はつけるし、荷物は明日にでも送り届けて上げるから。——え？　ナオミちゃん、どうしたんだよ、なぜ黙っているんだよ。……」+++そう云われると、きかぬ気のようでもそこはさすがに子供でした。容易ならない私の剣幕にナオミはいささか怯んだ形で、今更後悔したように殊勝らしく項を垂れ、小さくなってしまうのでした。	“好啦，纳奥米，你的衣物都包在这个包袱里，你今晚就拿着它回浅草家中去吧！另外，这儿还有二十块钱，虽然不多，就当是这几天的零花钱吧！过些日子找个时间再把话说清楚，行李明天就可以给你送回去。喏，纳奥米，怎么样？你怎么还不说话？……”尽管她还不愿认输，可她毕竟是个孩子。经我这么一说，对我这番不同寻常的发火，纳奥米似乎有些害怕，一本正经地低垂着脑袋，畏怯不安，好象事已至此非常后悔。
341	///それでもしくしく泣いたりされればまだ可愛げがありますけれど、時には私がいかに厳しく叱りつけても涙一滴こぼさないで、小憎らしいほど空惚けたり、例の鋭い上眼を使って、まるで狙いをつけるように一直線に私を見据える。——もし実際に動物電気と云うものがあるなら、ナオミの眼にはきっと多量にそれが含まれているのだろうと、私はいつもそう感じました。なぜならその眼は女のものとは思われない程、烱々として強く凄じく、おまけに一種底の知れない深い魅力を湛えているので、グッと一と息に睨められると、折々ぞっとするようなことがあったからです。	///若是她抽抽搭搭哭一通的话，那倒还有些可爱劲儿。然而有时候无论我多么严厉地责备她，她竟然一滴眼泪也不掉。她进而令人憎恶地假装没事，时而玩起老把戏，恶狠狠地翻起白眼，目光成一条直线盯着我，简直象在对着我瞄准一样。我总感到，假若果真存在所谓的动物电，那么纳奥米的眼睛里肯定含量极大。她的那双眼简直不象女人的眼睛，炯炯闪亮、目光灼人，而且充溢着一股浑不可测的魅力。让她厉目瞪上片刻，便令人浑身起鸡皮疙瘩。
344	///が、同時に私は、一方に於いてあきらめながら、他の一方ではますます強く彼女の肉体に惹きつけられて行ったのでした。そうです、私は特に『肉体』と云います、なぜならそれは彼女の皮膚や、歯や、唇や、髪や、瞳や、その他あらゆる姿態の美しさであって、決してそこには精神的の何物もなかったの	///然而，我一方面感到灰心绝望，另一方面又渐渐强烈地被她的肉体所吸引。对，我特意称之为“肉体”，因为指的是她的皮肤、牙齿、嘴唇、头发、眼睛以及其它所有的形态美，这里没有丝毫精神上的东西。

	ですから。	
345	///「馬鹿な女」「仕様のない奴だ」と、思えば思うほど尚意地悪くその美しさに誘惑される。これは実に私に取って不幸な事でした。私は次第に彼女を「仕立ててやろう」と云う純な心持を忘れてしまって、寧ろあべこべにずるずる引き摺られるようになり、これではいけないと気が付いた時には、既に自分でもどうする事も出来なくなっていたのでした。	“愚蠢的女人”、“毫无办法的东西”，我越是这样以为，便越被她那不怀好意的美色所诱惑。对我来说，这真是一件不幸的事。我逐渐忘却了“把她培养成人”这一纯洁的初衷，反倒一个劲儿地被拖往相反的方向。等到发现这样下去不行的时候，事情已经发展到我自己也无能为力的地步了。
349	「ふん」+++と、彼女は鼻先で笑って、+++「そりゃあそうよ、あんなに無闇に馬鹿々々ッて云われりゃ、あたし決して云う事なんか聴きやしないわ。あたし、ほんとうはね、大概な問題はちゃんと考えられたんだけど、わざと譲治さんを困らしてやろうと思って、出来ないふりをしてやったの、それが譲治さんには分らなかった？」	“噢。”说着，她冷笑了一声，“就是嘛，什么笨蛋、笨蛋的，让你乱骂一通，我根本不会听你说的话嘛。其实呀，大多数问题我都懂的，故意装做不会，好气气你。这一点你还看不出来？”
359	そう云う例はまだその外にいくらでもある。徳川時代のお家騒動や、一国の治乱興廃の跡を尋ねると、必ず蔭に物凄い妖婦の手管がないことはない。ではその手管と云うものは、一旦それに引っかかれば誰でもコロリと欺されるほど、非常に陰険に、巧妙に仕組まれているかと云うのに、どうもそうではないような気がする。	除此而外，这种例子数不胜数。如果研究一下德川家康时代的藩内争权事件，或者一国治乱兴废的遗迹，背后肯定会有惊人的妖妇的诡计。那种诡计是精心设计、极其阴险的，一旦上了圈套，无论谁都会被彻底欺骗，然而却总使人觉得并非如此。
360	///クレオパトラがどんなに悧巧な女だったとしたところでまさかシーザーやアントニーより智慧があったとは考えられない。たとい英雄でなくっても、その女に真心があるか、彼女の言葉が・かほんとかぐらいなことは、用心すれば洞察出来る筈である。にも拘わらず、現に自分の身を亡ぼすのが分っていながら欺されてしまうと云うのは、余りと云えば腑甲斐ないことだ、事実その通りだったとすると、英雄なんて何もそれほど偉い者ではないかも知れない、私はひそかにそう思って、マーク・アントニーが「古今無類の物笑いの種」であり、「このくらい歴史の上に馬鹿を曝した人間はない」と云う教師の批評を、そのまま肯定したものでした。	///不管克娄巴特拉是个多么聪明的女人，也绝不会有着比恺撒和安东尼更高的智慧。那个女人是否真心，她的话是谎言还是真话，即使不是英雄，只要留心也应该能够洞察这一切。明明知道自己现在就要丧命，却依然任人欺骗，说句过分的话，这太不中用了。我暗自思忖，倘若事实真如此，那些所谓英雄大概也不是什么了不起的人物。我原封不动地肯定了老师的批评：安东尼是“空前绝后的笑料”，“历史上再没比他更愚蠢的人了”。
361	私は今でもあの時の教師の言葉を胸に浮かべ、みんなと一緒にゲラゲラ笑った自分の姿を想い出すことがあるのです。そして想い出す度毎に、もう今日では笑う資格がないことをつくづくと感じます。なぜなら私は、どういう訳で羅馬の英雄が馬鹿になったか、アントニーとも云われる者が何故たわいなく妖婦の手管に巻き込まれてしまったか、その心持が現在となってはハッキリ頷けるばかりでなく、それに対して同情をさえ禁じ得ないくらいですから。	此刻我脑子里也浮现出老师当时所说的话，回想起自己同大家一起傻笑的模样儿。而且每想及此，我便深深感到如今自己已没资格笑了。由于什么原因罗马的英雄会变成了傻瓜呢？那位安东尼为何轻易上了妖妇的圈套呢？事到如今，我心中不仅对此十分理解，甚至同情他们。
362	よく世間では「女が男を欺す」と云います。しかし私の経験によると、これは決して最初から「欺す」のではありません。最初は男が自ら進んで「欺される」のを喜ぶのです、惚れた女が出来て見ると、彼女の云うことが・であろうと真実であろうと、男の耳には総べて可愛い。	世间人常说“女人欺骗男人”，然而根据我的经验，一开始绝不是女人进行“欺骗”的。最初是男人主动地愿意“受骗”，一旦有了自己所迷恋的女人，不管她的话是真是假，男人听起来都觉得很可爱。
363	///たまたま彼女が空涙を流しながら靠れかかって来たりすると、+++「ははあ、此奴、この手で己を欺そうとしているな。でもお前は可笑しな奴だ、可愛	///当她偶尔假哭着依偎在男人怀抱时，男人便摆出一副宽宏大量的样子：“哈哈，这小东西，想用这一手来骗我啦。不

	い奴だ、己にはちゃんとお前の腹は分ってるんだが、折角だから欺されてやるよ。まあまあたんと己をお欺し……」+++と、そんな風に男は大腹中に構えて、云わば子供を嬉しがらせるような気持で、わざとその手に乗ってやります。ですから男は女に欺される積りはない。却って女を欺してやっているのだと、そう考えて心の中で笑っています。+++その証拠には私とナオミが矢張そうでした。	过，你这小东西很可笑，也很可爱。我很清楚你心中的打算，但是你好容易耍一次小聪明，就让你骗上一次吧。好，让你好好骗骗我……”+++换句话说，就象哄孩子高兴时的心情一样，故意上了她的圈套。所以，男人并不以为自己被女人欺骗，反倒认为把女人给骗了而在心中暗自得意。我和纳奥米也是如此。
364	「あたしの方が譲治さんより悧巧だわね」+++と、そう云って、ナオミは私を欺し終せた気になっている。私は自分を間抜け者にして、欺された体を装ってやる。私に取っては浅はかな彼女の・を発くよりか、寧ろ彼女を得意がらせ、そうして彼女のよろこぶ顔を見てやった方が、自分もどんなにうれしいか知れない。	“还是我比你让治先生聪明啊。”纳奥米这样说着，自以为骗过了我。我故作糊涂，装成被骗了。对我来说，与其戳穿她那明显的谎言，不如让她得意，看她露出笑脸，倒使我自己高兴得多。
365	私はそう云う考でしたから、ナオミの悧巧がる癖を戒しめなかったばかりでなく、却って大いに焚きつけてやりました。常に快く彼女に欺され、彼女の自信をいよいよ強くするように仕向けてやりました。	出于这种想法，我不但没有纠正纳奥米自以为聪明的毛病，反倒给她火上浇油。我经常高兴地被她欺骗，诱使她的自信心越来越强。
373	人と人との勝ち負けは理智に依ってのみ極るのではなく、そこには「気合い」と云うものがあります。云い換えれば動物電気です。まして賭け事の場合には尚更そうで、ナオミは私と決戦すると、始めから気を呑んでかかり、素晴らしい勢で打ち込んで来るので、此方はジリジリと圧し倒されるようになり、立ち怯れがしてしまうのです。	人与人之间的胜负不仅是由理智决定的，其中还有所谓“气势”，换句话就是所谓的“生物电”。尤其赌博的时候更是如此。纳奥米和我决战，一开始便气势汹汹、不可一世地杀将过来，我有些六神无主，好象被她压倒了，先就失了一着。
376	私は実にこの「手」にかかっては弱りました。就中最後の手段――これはちょっと書く訳に行きませんが、――をとられると、頭の中が何だかもやもやと曇って来て、急に眼の前が暗くなって、勝負のことなぞ何が何やら分らなくなってしまうのです。	我也真的怕她这一“手”。尤其是让她用了最后的杀手锏――这有些不便写出――我便眼冒金花、心乱神迷，眼前突然一片黑暗，什么赌钱之事，早已分不清东南西北了。
382	私は思います、アントニーがクレオパトラに征服されたのも、つまりはこう云う風にして、次第に抵抗力を奪われ、円め込まれてしまったのだろうと。愛する女に自信を持たせるのはいいが、その結果として今度は此方が自信を失うようになる。もうそうなっては容易に女の優越感に打ち勝つことは出来なくなります。そして思わぬ禍がそこから生じるようになります。	我思忖，安东尼被克娄巴特拉所征服大概也是这样，渐渐失去抵抗力，最后完全被降伏了。让自己所爱的女人拥有自信心，这是对的，然而其结果却使自己一下子失去了自信，这样一来则很难战胜女人的优越感，而且会由此滋生出意想不到的灾祸来。
408	田舎者で、お世辞が下手で、人との応対が我ながら無細工なので、そのために引っ込み思案になっていたものの、それだけに又、却って一層華やかな社会を慕う心がありました。もともとナオミを妻にしたのも彼女をうんと美しい夫人にして、毎日方々へ連れ歩いて、世間の奴等に何とかかとか云われて見たい。「君の奥さんは素敵なハイカラだね」と、交際場裡で褒められて見たい。と、そんな野心が大いに働いていたのですから、そういつまでも彼女を「小鳥の籠」の中へしまって置く気はなかったのです。	我是个乡个人，不擅言辞，同人交往有什么说什么，不玩花招，正因为这样我决心隐退在家。然而唯其如此，我心中反倒越发羡慕万紫千红的外间社会。本来我想让纳奥米当我貌美出众的夫人，每天带她到各处去转，看世上那些家伙们说什么。我想让人们在交际场里赞美说：“你太太可真漂亮、时髦啊。”由于有这样一种野心在努力鼓动着我，所以我本是不打算把她永远这样关在“小鸟笼”里的。
410	稽古場にあてられたのは三田の聖坂にある、吉村と云う西洋楽器店の二階で、夫人はそこへ毎週二回、月曜日と金曜日に出張する。会員は午後の四時から七時までの間に、都合のいい時を定めて行って、一回に一時間ずつ教えて貰い、月謝は一人前二十円、	学习跳舞的地方位于三田的圣坂，在吉村西洋乐器店的二楼上。伯爵夫人每周的星期一和星期五到那里去两次。俱乐部会员可以在四点到七点之间选定自己方便的时候去，一次让她教上一个小时。酬

	それを毎月前金で払うと云う規定でした。私とナオミと二人で行けば月々四十円もかかる訳で、いくら相手が西洋人でも馬鹿げているとは思いましたが、ナオミの云うにはダンスと云えば日本の踊りも同じことで、どうせ贅沢なものだからそのくらい取るのは当り前だ。それにそんなに稽古しないでも、器用な人なら一と月ぐらい、不器用な者でも三月もやれば覚えられるから、高いと云っても知れたことだ。	金规定一人交二十块钱，每月提前预付。我和纳奥米两人去，就要每月花上四十块钱，即便老师是西洋人，花这么多钱也不划算。但纳奥米却说，交谊舞同日本舞蹈一样，都是奢侈浪费，所以收这么多钱也是理所应当的。另外，即使不大用心学，聪明人有一个月也就会了，不聪明的人有三个月也能学会，所以虽然贵一些，花钱还是有限的。
417	「やあだア、己あ」+++と、そのまアちゃんと呼ばれた男は、ニヤニヤ笑ってマンドリンを棚の上に置きながら、+++「あんなもなあ己あ真っ平御免だ。第一お前、月謝を二十円も取るなんて、まるでたけえや」	“我不要！”那个叫阿熊的青年轻蔑地笑着把曼陀林放在架子上说：“学那种东西？拉倒吧！你知道，首先一月要交二十块钱，这简直是敲诈！”
423	「ナオミちゃん、今下にいた学生たちは、ありゃ何だね？」+++と、私は彼女に導かれて梯子段を上りながら尋ねました。	“纳奥米，刚才楼下那些学生都是干什么的？”我上楼梯时问道。
438	一体女は別として、男でダンスを習いに来ようと云う者は、どう云う社会の人間なのかと思って見ると、不思議なことにしゃれた服を着ているのは浜田ぐらいで、あとは大概安月給取りのような、野暮くさい紺の三つ組みを着た、気の利かなそうなのが多いのでした。尤も歳は皆私より若そうで、三十台と思われる紳士はたった一人しかありません。その男はモーニングを纏って、金縁の分の厚い眼鏡をかけて、時勢おくれの奇妙に長い八字髭を生やしていて、一番呑込みが悪いらしく、幾度となく夫人に〝No good〟とどやしつけられ、鞭でピシリと喰わされます。と、その度毎にニヤニヤ間の抜けた薄笑いをしながら、又始めから「ワン、トゥウ、スリー」をやり直します。	妇女暂作别论，来学跳舞的男人究竟属于哪个阶层呢？我思忖着一看，令人奇怪的是穿时髦服装的只有浜田这等人，其余大概都是月薪不多，穿着低档的藏青色三件套西装，好象不大机灵。年龄比我轻，大约三十多岁的绅士仅有一人。他穿一件晨礼服，戴着金边的厚眼镜，留着早已不时兴的怪模怪样的长八字胡。他似乎学得最差，好几次让夫上冲他叫喊“ＮＯ　ｇｏｏｄ”，挨鞭子。而每次都傻乎乎一笑，重新开始“一、二、三”。
462	成る程、するとこの女は外国人の細君だったのか、そう云われれば看護婦よりも洋妾タイプだと思いながら、私はいよいよ固くなってお辞儀をするばかりでした。	果真如此，这位女士原来是外国人的老婆。这样一来，我觉得她不象护士，倒象是洋人小老婆那种类型的人。我越发拘谨起来，只是一个劲地点头。
463	「あなた、失礼でございますけれど、ダンスのお稽古をなさいますのは、フォイスト・タイムでいらっしゃいますの？」+++その縮れ毛は直ぐに私を掴まえて、こんな風にしゃべり出したが、「フォイスト・タイム」と云うところがいやに気取った発音で、ひどく早口に云われたので、	“很对不起，您是第一次学跳舞吗？”这位卷发女士立即抓住我问。 她用英文说“第一次”时，发音有些装腔作势，而且说得很快。
478	///その滑かな清楚な皮膚は、私に取ってはただ遠くから眺めるだけで十分でした。握手してさえ済まないように思われたのに、その柔かな羅衣を隔てて彼女の胸に抱きかかえられてしまっては、私は全くしてはならないことをしたようで、自分の息が臭くはなかろうか、このにちゃにちゃした脂ッ手が不快を与えはしなかろうかと、そんな事ばかり気にかかって、たまたま彼女の髪の毛一と筋が落ちて来ても、ヒヤリとしないではいられませんでした。	她那光润而明晰的皮肤，我只从远处观赏一番便已足矣。就连握一下手，我都觉得有些自惭形秽，更何况仅隔着一层柔软的薄衫被她拥的胸前。我竟象是做了不该做的事情，一心只想着自己的呼吸是不是有气味，自己那油腻的手会不会使她感到不快，哪怕她偶然掉下一根头发，也令我胆战心惊，不能自己。
482	――私は敢て白状しますが、それは確かにシュレムスカヤ夫人と云うものがあったからです。毎月曜日と金曜日の午後、夫人の胸に抱かれて踊ること。そのほんの一時間が、いつの間にか私の何よりの楽しみとなっていたのです。私は夫人の前に出ると、全	我斗胆坦白地说，那的确是因为有舒莱姆斯卡娅夫人的缘故。每个星期一和星期五的下午被拥在夫人胸前跳舞，不知不觉地那短暂的一个小时竟成了我最大的乐事。我一来到夫人面前，便完全忘记了

	くナオミの存在を忘れました。その一時間はたとえば芳烈な酒のように、私を酔わせずには置きませんでした。	纳奥米的存在。那一小时就如醇香浓烈的美酒，不由使我醉意酣然。
503	そう云われてもナオミは一向平気なもので、+++「だって、一人だからあたし取ったんだわ、おかず拵えるのが面倒なんだもの」+++と、わざとふてくされて、ソオファの上にふん反り返っているのです。	尽管我这么说，纳奥米根本不在乎。+++“你要知道，正因为是一个人，我才叫来的嘛，做菜太麻烦啦。”说着，她故意呕起气来，仰躺在沙发上。
515	するとそれだけ他の方面を切り詰めなければならない訳で、幸い私は自分自身の交際費はちっとも懸りませんでしたが、それでもたまに会社関係の会合などがあった場合、義理を欠いても逃げられるだけ逃げるようにする。その外自分の小遣い、被服費、弁当代などを、思い切って節約する。毎日通う省線電車もナオミは二等の定期を買うのに、私は三等で我慢をする。飯を炊くのが面倒なので、てんや物を取られては大変だから、私が御飯を炊いてやり、おかずを拵えてやることもある。が、そう云う風になって来るとそれが又ナオミには気に入りません。	这样一来，我不得不在其它方面把这笔钱省出来，好在我自己不花一文交际费偶然因公司关系有什么聚会的场合，我是能逃就逃，哪怕情理上说不过去。此外，我自己的零用钱，服装费、午餐费，也是下决心节省。每天要坐的电车，我给纳奥米买二等车厢的月票，而我自己便在三等车厢里忍耐着。她嫌做饭太麻烦，就要叫外面饭馆送来，这样花钱太多，我便有时也烧饭、做菜。可是我这样做，纳奥米又看不上眼。
518	そんな事情で遣り繰りに困っていたところへ、この頃又シュレムスカヤ夫人の方へ四十円ずつ取られますから、この上ダンスの衣裳を買ってやったりしたらにっちもさっちも行かなくなります。	情况便是如此，正当我苦心维持生计的关头，又要给舒莱姆斯卡娅夫人送去四十块钱，再加上给她买跳舞穿的服装，简直一筹莫展。
554	ナオミは懐から紙を出して、自分では拭かずに、それを私の手の中へ握らせましたが、瞳はじーッと私の方へ注がれたまま、今拭いて貰うその前に、一層涙を滚々と睫毛の縁まで溢れさせているのでした。ああ何と云う潤いを持った、綺麗な眼だろう。この美しい涙の玉をそうッとこのまま結晶させて、取って置く訳には行かないものかと思いながら、私は最初に彼女の頬を拭いてやり、その円々と盛り上った涙の玉に触れないように眼窩の周りを拭うてやると、皮がたるんだり引っ張れたりする度毎に、玉はいろいろな形に揉まれて、凸面レンズのようになったり、凹面レンズのようになったり、しまいにははらはらと崩れて折角拭いた頬の上に再び光の糸を曳きながら流れて行きます。	纳奥米从怀里拿出纸巾，她自己不擦，而是把纸巾放在我手里。她的眼睛一动不动地注视着我，在我擦掉眼泪之前，泪水越发滚滚涌到睫毛边缘处。啊，那是一双多么漂亮的水汪汪的眼睛呀！难道不能让如此美丽的泪珠儿这样静静地结晶并把它保留下来吗！我暗自思忖着，开始先擦她的脸颊，然后擦眼窝四周，尽量不去碰那圆溜溜的泪珠儿。这样一来，随着皮肤的松弛或绷紧，泪珠儿也变成各种形状，有时象凸镜，有时象凹镜，最后才扑簌簌地流淌下去，在我好容易擦干净的脸颊上拖起一道闪亮的泪痕。
557	「……何分この頃は物価高く、二三年前とは驚くほどの相違にて、さしたる贅沢を致さざるにも不拘、月々の経費に追われ、都会生活もなかなか容易に無之、……」	“……总之最近物价很贵，同两三年前相比甚为悬殊，令人惊愕，尽管不敢靡费，每月生活仍很拮据，城市生活亦不易维持……”
562	「あ、譲治さん、出来て来たわよ」+++と、鏡の中から私の姿を見るなり云って、片手をうしろの方へ伸ばして、彼女が指し示すソオファの上には、三越へ頼んで大急ぎで作らせた着物と丸帯とが、包みを解かれて長々と並べてあります。	“噢，让治，已经做好啦。”她从镜子里一看到我便这样说，然后伸出一只手指了指后面。她指的沙发上摆着一大排托三越百货公司十万火急赶制出来的和服和圆腰带，包装都已拆开了。
576	と、私は彼等に云われているような気がしました。彼等の視線が、ナオミばかりか、彼女のうしろに小さくなって立っている私の上にも注がれていることを、はっきりと感じました。	我仿佛听到他们在这样说，并且明显感到他们的视线不仅落在纳奥米身上，也落在我身上。
583	私はナオミのあとに附いて広場の群衆を横切って行きましたが、足が顫えている上に床がつるつる滑りそうなので、無事に向うへ渡り着くまでが一と苦労でした。そして一遍ガタンと転びそうになり、+++「チョッ」+++と、ナオミに睨みつけられ、しかめッ	我跟在纳奥米后面从舞场上的人群中穿了过去，不过由于我双脚打颤，地板又滑，费了很大功夫才平安无事地走到对面。而且有一次我差点儿滑倒，记得纳奥米瞪了我一眼，“嗤”的一声满脸不高

	面をされたことを覚えています。	兴。
584	「あ、あすこが一つ空いているようだわ、あのテーブルにしようじゃないの」+++と、ナオミはそれでも私よりは臆面がなく、ジロジロ見られている中をすうッと済まして通り越して、とあるテーブルへ就きました。が、あれ程ダンスを楽しみにしていたくせに、すぐ踊ろうとは云い出さないで、何だかこう、ちょっとの間落ち着かないように、手提げ袋から鏡を出してこっそり顔を直したりして、+++「ネクタイが左へ曲っているわよ」+++と、内証で私に注意しながら、広場の方を見守っているのでした。	“喏，那儿好象有个空位，我们就要那张桌子吧。”还是纳奥米脸皮比我厚，在众目睽睽之下安之若素地穿过去，在那张桌子旁坐了下来。然而，她曾那样渴望跳舞，却不马上提出去跳，此刻间她似乎有些心慌意乱，从手提袋里拿出镜子悄悄化起妆来。+++“你领带向左边斜啦。”她悄声提醒我，同时一直注视着舞池那边。
610	「ほんとうよ、実際下品よ」+++ナオミはペッペッと唾を吐くような口つきをして、+++「あれはチーク・ダンスって云って、真面目な場所でやれるものじゃないんだって。アメリカあたりであれをやったら、退場して下さいって云われるんだって。浜さんもいいけれど、全く気障よ」	“就是嘛，实际上是很低级的呢。”纳奥米噘起嘴，象是在啪啪地吐痰一样，“那叫贴面舞，不能在正经场合跳的。要是在美国跳这种舞，会让人请退场的。阿浜也真是的，真让人讨厌！”
635	「熊谷」と呼ばれたまアちゃんは矢張ナオミの背中越しに、椅子のうしろに衝っ立ったまま、私の方へジロリと厭味な視線を投げました。+++「僕は熊谷政太郎と云うもんです。——自己紹介をして置きます、どうか何分——」	被称为“熊谷”的阿熊依然站在纳奥米坐的椅子背后，隔着她的后背，眼睛滴溜溜地向我投来不友好的目光说：“我叫熊谷政太郎……先自我介绍一下，请您那个……”
640	「あははは」+++この連中に取り巻かれるのは不愉快だとは思いながら、ナオミが機嫌よくはしゃぎ出したので、私も仕方なく笑って云いました。	“哈哈……”被这些家伙缠住，我心里很不自在，然而纳奥米兴致很高，滔滔不绝地说着，我无奈只好笑了。
649	「あ、いけねえ、そいつを云われると詫まるよ」	“喂，不对。你们要说是那东西，可就错啦。”
675	私は独り、三人が消えてなくなった跡へボーイが持って来たウイスキー・タンサンと、所謂「フルーツ・カクテル」なるものと、四つのコップを前にして、茫然と広場の景気を眺めていなければなりませんでした。が、もともと私は自分が踊りたいのではなく、こう云う場所でナオミがどれほど引き立つか、どう云う踊りッ振りをするか、それを見たいのが主でしたから、結局この方が気楽でした。で、ほっと解放されたような心地で、人波の間に見え隠れするナオミの姿を、熱心な眼で追っ懸けていました。	我只好独自一人茫然观望着舞场上的情景，面前放着四个杯子，那是三人走了以后服务员拿来的威士忌加炭酸水和所谓的“果汁鸡尾酒。”不过，本来我就不想跳舞，主要是想看看在这种场合纳奥米如何引人注目以及舞姿如何，所以这样一来倒乐得轻松。于是我便以一种得到解脱了的心情，热切地追寻着纳奥米在人流中忽隐忽现的身影。
695	ナオミは為る事成す事が活溌の域を通り越して、乱暴過ぎます。口の利き方もつんけんしていて女としての優しみに欠け、ややともすると下品になります。要するに彼女は野生の獣で、これに比べると綺羅子の方は、物の言いよう、眼の使いよう、頸のひねりよう、手の挙げよう、総べてが洗煉されていて、注意深く、神経質に、人工の極致を尽して研きをかけられた貴重品の感がありました。たとえば彼女が、テーブルに就いてカクテルのコップを握った時の、掌から手頸を見ると、実に細い。そのしっとりと垂れている袂の重みにも得堪えぬほどに、しなしなと細い。	纳奥米的所作所为粗鲁不堪，已经逾越了活泼的界线， 说话口气也总是气乎乎的，缺少女性的温柔，动辄变得很庸俗。总之，她是一头野兽，与之相比，绮罗子则象一件贵重物品，经过小心翼翼地、神经质般地琢磨，极尽人工之能事，举止言谈顾盼、一举手、一投足，都很高雅。比如，她走到桌子边握住果汁鸡尾酒的杯子时，我看到她的手腕非常纤细，弱不禁风的细腕几乎承受不住那沉甸甸垂下来的衣袖的重量。
696	///きめのこまやかさと色つやのなまめかしさは、ナオミと孰れ劣らずで、私は幾度卓上に置かれた四枚の掌を、代る代る打ち眺めたか知れませんけれど、しかし二人の顔の趣は大変に違う。	///她们两人放在桌子上的四只手，我不知来来去去看了多少遍，那皮肤的细腻与色泽的娇媚分不清孰优熟劣，然而脸庞的模样儿却大相径庭。
700	「あたくし」+++と、ナオミも相手の「わたくし」口	“我，”纳奥米也学着对方说“我”

	調に釣り込まれながら、+++「今拝見しておりましたけれど、随分お上手でいらっしゃいますのね、よっぽどお習いになりましたの？」	时的腔调，“刚才看了，您跳得真好呀。下功夫学过吧？”
709	見ると成る程、本物の眉毛は鉢巻の下に隠されているに違いなく、その眼の上に引いてあるのは明かに作り物なのです。それから眼の縁の青い隈取り、頬紅、入れぼくろ、唇の線、鼻筋の線、と、殆ど顔のあらゆる部分が不自然に作ってあります。	仔细一看，果真不假，她的真眉毛确实藏在裹头巾下面，眼睛上面那一条眉毛分明是假的，然后是眼圈处涂的蓝色，脸颊上的胭脂，画的黑痣，嘴唇的线条，鼻子的线条，几乎整个脸部都打扮得很不自然。
717	その問答があまり可笑しいので、熊谷は側方を向いて腹を抱える、浜田はハンケチを口へあててクスクス笑う、綺羅子もそれと感づいたらしくニヤニヤしている。が、菊子は案外人の好い女だと見えて、自分が嘲弄されているとは気がつきません。	这一问一答太滑稽了，熊谷把脸转向侧面，抱着肚子，浜田用手绢捂住嘴吃吃笑着；绮罗子似乎也有所感觉，独自微笑着。然而，菊子看起来是个老实人，并没发现自己在被人嘲弄。
728	「さあ、譲治さん、ワン・ステップよ。踊って上げるからいらっしゃい」+++と、それから私はナオミに云われて、やっと彼女とダンスをする光栄を有しました。	“喂，让治，是一步舞啦。你来，我跟你跳。”纳奥米说，这样我才终于有幸与她一起跳舞。
729	どうだ、ちょっと己の宝物を見てくれ」と大いに自慢してやりたいことです。それを思うと私は晴れがましいと同時に、ひどく痛快な気がしました。彼女のために今日まで払った犠牲と苦労とが、一度に報いられたような心地がしました。	换句话说，我想骄傲地给他们看看：“这个女子是我的宝贝。怎么样？你们看看我的宝贝吧！”一想到此，我有些不好意思，同时却又感到非常痛快，仿佛我迄今为她付出的牺牲和辛劳，一下子得到了报偿。
734	が、そう云われると私は一層のぼせ上ります。おまけにその床は特に今夜のダンスのために、うんと滑りをよくしてあるので、あの稽古場の積りでうっかりしていると、忽ちつるりと来るのです。	///让她这样一说，我越发昏头昏脑了。特别是那地板，为了今晚的舞会打了不少的蜡，一不小心错把这儿当成学舞的那地方，马上就滑了一下。
738	これでは何の事はない、全く彼女に怒鳴られるために踊っている様なものでしたが、そのガミガミ云う言葉さえが私の耳には這入らないくらいでした。	就这么样，好象我别无它事，完全是为了挨她训斥而跳舞的，甚至连她唠唠叨叨说的话，我也没听在耳里。
768	気がついて見ると、綺羅子の唇はちょうど私のこめかみの下にあるのでした。これがこの女の癖だと見えて、さっき浜田としたように、その横鬢は私の頬へ触れていました。やんわりとした髪の毛の撫で心地、……そしておりおり洩れて来るほのかな囁き、……長い間悍馬のようなナオミの蹄にかけられていた私には、それは想像したこともない「女らしさ」の極みでした。何だかこう、茨に刺された傷の痕を、親切な手でさすって貰ってでもいるような、……	我留心一看，绮罗子的红唇正好在我太阳穴的下方，她的横鬓触摸着我的面颊，看来这是她的习惯，刚才和阿浜也是这样。被她柔发触摸时的感觉……还有那不断流淌的悄声细语。+++……对我来说，这是不曾想象过的达到极点的“女性的温柔”。我曾长期被纳奥米这匹悍马所践踏，而此刻她仿佛在用手亲切地抚摸我那被荆棘刺过的伤痕。
781	「君、君、盲人蛇に怖じずとは君のことだよ。そりゃあ成る程、君に取ってはこの女は世界一の宝だろう。だがその宝を晴れの舞台へ出したところはどんなだったい？　虚栄心と己惚れの集団！　君は巧いことを云ったが、その集団の代表者はこの女じゃあなかったかね？　自分独りで偉がって、無闇に他人の悪口を云って、ハタで見ていて一番鼻ッ摘まみだったのは、一体君は誰だったと思う？　西洋人に淫売と間違えられて、しかも簡単な英語一つしゃべれないで、ヘドモドしながら相手になったのは、菊子嬢だけではなかったようだぜ。それにこの女の、あの乱暴な口の利き方は何と云うざまだ。仮りにもレディーを気取っていながら、あの云い草は殆ど聞くに堪えないじゃないか、菊子嬢や綺羅子の方が遥にたしなみがあるじゃないか」	///“你，你，只有你才是不知深浅呢。不错，对你来说这个女人是个世界第一的宝贝，然而把这个宝贝拿到盛大的舞台上去，结果如何？他们是一群喜好虚荣、妄自尊大的人！你说得倒轻巧，这个女人难道不是那伙人的代表吗？自以为了不起，乱说别人的坏话，最令旁观者讨厌的，你究竟认为是谁呢？让西洋人错当成妓女，而且连一句简单的英语也说不出来，慌里慌张当了人家舞伴的，似乎不只是菊子小姐一个人嘛。另外，她那粗鲁的说话方式成何体统！她以女士自居，然而那种谈吐却使人听不下去，菊子小姐和绮罗子要检点得多！”
788	しかし読者よ、これで私がすっかりナオミに飽きが	然而，如果读者据此推测我已对纳奥

	来たのだと、推測されては困るのです。いや、私自身も今までこんな覚えはないので、一時はそうかと思ったくらいでしたけれど、さて大森の家へ帰って、二人きりになって見ると、電車の中のあの「満腹」の心は次第に何処かへすッ飛んでしまって、再びナオミのあらゆる部分が、眼でも鼻でも手でも足でも、蠱惑に充ちて来るようになり、そしてそれらの一つ一つが、私に取って味わい尽せぬ無上の物になるのでした。	米彻底厌倦，那就错啦。并非如此，迄今我并没有这种感觉。那仅是我一时的念头。回到大森家中只剩我们两人的时候，电车里的那种“饱腹”之感渐渐烟消云散，纳奥米的所有地方——无论是眼睛、鼻子，还是手和脚，都又开始充满了蛊惑力，而且每一处对我来说都是品尝不尽的美味上品。
817	「……やっぱり傍へ寝られると、女のような気がするのかい？」	“……睡在身边，还觉得是女人■？”
834	「あ、いてえ！　よせ、止せ、止せッたら！生き物だから少し鄭重にしてくんねえ、蹈み台にされたり蹴られたりしちゃ、いくら頑丈でもたまらねえや」	“啊，疼！停手，停手，我让你停手！我是个人，不能对我好些吗？把人当踏台又踢又踩，再结实也受不了呀。”
839	「ああ、起きちゃったよ、盛んに迫害されるんでね」	“啊，起来啦，受到严重迫害了嘛。”
848	私は図星を指されたので、眼をつぶってはいましたけれど、顔が真っ赤になったような気がしました。	///被她说中了要害，尽管闭着眼睛，却感到脸上热辣辣地发烧。
850	「やっぱり迫害されたいんじゃないかね」	“他也想受你的迫害吧。”
854	「ねえ、譲治さん、——だけれど、迫害されたいんならして上げようか」	“喂，让治，话说回来，你要想受迫害的话，我就给你来一下吧。”
863	低く密雲の閉ざすように、頭の上に垂れ下がっている萌黄の蚊帳、……夜目にも黒く、長々と解いた髪の毛の中の白い顔、……しどけないガウンの、ところどころに露われている胸や、腕や、膨らッ脛や、……この恰好は、ナオミがいつもこれで私を誘惑するポーズの一つで、こう云う姿を見せられると私はあたかも餌を投げられた獣のようにさせられるのです。私は明かに、ナオミが例のそそのかすような表情をして、意地の悪い眼で微笑しながら、じっと此方を見おろしているのを、うす暗い中で感じました。	葱绿色的蚊帐垂到头上，有如低垂密布的彤云……暗夜中可以看到披散着的长长黑发中有一张白脸……不大整洁的睡裙下四处显露出胸部、手臂和肥胖的小腿……。这副模样儿是纳奥米平时藉以诱惑我的姿势之一。她一旦作出这种姿势，我不由得就会变成一头被诱饵引诱的野兽。微暗中我明显感到，纳奥米照例作出那种引诱的表情，微笑着用不怀好意的眼神一直在俯视着我。
864	「呆れたなんて・なのよ。あたしにガウンを着られるとたまらないッて云う癖に、今夜はみんなが居るもんだから我慢してるのよ。ねえ、譲治さん、中ったでしょう」	“你说什么吓人，那是撒谎。明明我一穿上睡裙，你就忍不住了，今晚大家都在，所以你才忍耐着。对吧？让治，我说中了吧？”
879	「だからそいつが問題なんだよ、此方へ頭を向けられても心配だし、そうかと云って河合さんの方へ向けられても、やっぱり何だか気が揉めるし、……」	“所以我说这是问题嘛。她把头朝着我，我也担心，要是朝向河合兄那边，我也还是有些放心不下……”
880	「それに、この女は寝像が悪いぜ」+++と、熊谷が又口を挟んで、+++「用心しないと、足を向けられた方の奴は夜中に蹴ッ飛ばされるかも知れんぜ」	“再加上她睡相不好，”熊谷又插嘴说，“一不留心，对着脚的人也许半夜里就被踢跑呢。”
892	一体この部屋は二人で寝てさえ狭苦しい上に、ナオミの肌や着物にこびりついている甘い香と汗の匂とが、醗酵したように籠っている。そこへ今夜は大の男が二人も余計殖えたのですから、尚更たまらない人いきれがして、密閉された壁の中は、何だか地震でもありそうな、息の詰まるような蒸し暑さでした。ときどき熊谷が寝返りを打つと、べっとり汗ばんだ手だの膝だのが互にぬるぬると触りました。	毕竟这个房间两人睡都嫌窄小，加之充满了纳奥米身上和衣服上甜腻的香气和汗味儿，有如发了酵一般。况且今晚又多增加了两条大汉，更令人闷得难受，四壁密闭，又闷又热，几乎要窒息，就象要发生地震似的。熊谷时常翻身，汗涔涔的手和膝盖相互粘腻腻地挨在一处。
901	当時、私のこんなふしだらな有様は、会社の者は誰も知らない筈でした。家に居る時と会社に居る時と、私の生活は劃然と二分されていました。勿論事務を執っている際でも、頭の中にはナオミの姿が始終チラついていましたけれど、別段それが仕事の邪魔に	当时，我这种放荡的生活，想必公司里没有任何人知道。因为我在家和在公司的情况截然不同。当然，即使在办公的时候，纳奥米的影子也始终在脑海中闪现，但是并未到妨碍工作的程度，别人更不可

	なるほどではなく、まして他人は気がつく訳もありません。で、同僚の眼には私は矢張君子に見えているのだろうと、そう思い込んでいたことでした。	能注意到。所以我一心认为：在同事们的眼里，大概还是把我看成个君子吧。
902	ところが或る日――まだ梅雨が明けきれない頃で、鬱陶しい晩のことでしたが、同僚の一人の波川と云う技師が、今度会社から洋行を命ぜられ、その送別会が築地の精養軒で催されたことがありました。私は例に依って義理一遍に出席したに過ぎませんから、会食が済み、デザート・コースの挨拶が終り、みんながぞろぞろ食堂から喫煙室へ流れ込んで、食後のリキウルを飲みながらガヤガヤ雑談をし始めた時分、もう帰っても好かろうと思って立ち上ると、	可是，有一天――那是一个还没有完全出梅、天色阴郁的夜晚。同事中有个名叫波川的技师，这次被公司派出国，当晚在筑地的精养轩开了欢送会。我参加欢送会只不过是照例走走形式敷衍一下，所以待聚餐结束，吃过饭后水果，大家陆续从饭厅转移到吸烟室，开始喝着饮料，热热闹闹聊天的时候，我站起身心想，这下好回家了吧。
935	咄嗟の私の当惑は、どうしてこの場を切り抜けたらいいか、泣いたらいいのか、笑ったらいいのか、――が、うっかり何か云ったりすると、尚更嘲弄されやしないかと云うことでした。	这一瞬间，我感到不知所措了。怎样才能摆脱这种窘境呢？是该哭，还是该笑？可是，如果不小心说出了什么，那么不是又会遭到他们的嘲笑？
936	とにかく私は、何が何やら上の空で喫煙室を飛び出しました。そしてぬかるみの往来へ立って冷めたい雨に打たれるまでは、足が大地に着きませんでした。未だに後から何かが追い駆けて来るような心地で、私はどんどん銀座の方へ逃げ伸びました。	我不管三七二十一，神情恍惚地跑出吸烟室。我脚不停点地飞奔着，一直来到泥泞的大街上，让冰冷的雨水浇在身上。就在这时还觉得后面似乎有什么追上来，于是我一个劲儿地向银座那边逃去。
944	ナオミ、ナオミ！　己はどうして今夜彼女を置き去りにして来たのだろう。ナオミが傍に居ないからいけないんだ、それが一番悪い事なんだ。――私はナオミの顔さえ見れば、このイライラした心持が幾らか救われる気がしました。彼女の濶達な話声を聞き、罪のなさそうな瞳を見れば疑念が晴れるであろうことを祈りました。	纳奥米、纳奥米！今晚为什么丢下她来了。纳奥米不在身边是不行的，这是最糟糕的事。――我觉得只要看到纳奥米的脸，这种焦虑的心情就会减弱几分。但愿听到她那爽朗的声音，见到她那天真无邪的眼睛，我的疑念便会消失。
945	が、それにしても、若しも彼女が再び雑魚寝をしようなどと云い出したら、自分は何と云うべきだろうか？　この後自分は、彼女に対し、彼女に寄りつく浜田や熊谷や、その他の有象無象に対し、どんな態度を執るべきだろうか？　自分は彼女の怒りを犯しても、敢然として監督を厳にすべきであろうか？　それで彼女が大人しく自分に承服すればいいが、反抗したらどうなるだろう？　いや、そんなことはない。「自分は今夜会社の奴等に甚だしい侮辱を受けた。だからお前も世間から誤解されないように、少し行動を慎しんでおくれ」と云えば、外の場合とは違うから、彼女自身の名誉のためにでも、恐らく云うことを聴くであろう。若しその名誉も誤解も顧みないようなら、正しく彼女は怪しいのだ。Kの話は事実なのだ。若し、……ああ、そんな事があったら……	就算是这样，可是如果她再提出大家挤在一起睡之类的要求，自己该怎么回答呢？今后对他、对接近她的浜田和熊谷以及其他不三不四的人应该采取什么态度呢？是否应该毅然决然地对她严加管教，哪怕惹她生气也好。这样做，她如果老老实实地服从也罢，如果反抗起来会怎么样呢？不，不可能有这样的事。若是对她说“今晚我受到公司里那帮家伙好一顿羞辱，所以你也要稍微约束一下自己的行动，不要让别人产生误解”。因为这不同于其它情况，想必她就是为了自己的名誉，也会听话的吧。倘若置名誉、误解都不顾的话，那么她确实值得怀疑了，K所说的便是事实。如果、……啊，如果发生了那种事……
947	///――それが私には何より恐ろしいことでした。露骨に云えば彼女の貞操その物よりも、ずっとこの方が頭痛の種でした。彼女を糺明し、或は監督するにしても、その際に処する自分の腹を予め決めて置かなけりゃならない。「そんならあたし出て行くわよ」と云われたとき、「勝手に出て行け」と云えるだけの、覚悟が出来ている	///――这是我最害怕的事。说明确些，这个问题比起她的贞操来要使我伤脑筋得多。盘查她也好，监督她也好，事先必须定下应付这种局面的方针。如果我能豁出去，在听到“那我可就出去了”的时候，能够说出“走就走，随你的便”这句话，那就好了。……
948	しかし私は、この点になるとナオミの方にも同じ弱点があることを知っていました。なぜなら彼女は、私と一緒に暮らしてこそ思う存分の贅沢が出来ます	不过我清楚，在这个问题上纳奥米有同样的弱点。因为她只有和我在一起生活，才能尽情享受。一旦被赶出家门，除

	けれども、一と度此処を追い出されたら、あのむさくろしい千束町の家より外、何処に身を置く場所があるでしょう。もうそうなれば、それこそほんとに売笑婦にでもならない以上、誰も彼女にチヤホヤ云う者はなくなるでしょう。昔はとにかく、我が儘一杯に育ってしまった今の彼女の虚栄心では、それは到底忍び得ないに極まっています。或は浜田や熊谷などが引き取ると云うかも知れませんが、学生の身で、私がさせて置いたような栄耀栄華がさせられないのは、彼女にも分っている筈です。そう考えると、私が彼女に贅沢の味を覚えさせたのはいい事でした。	了那个寒酸的千束町的娘家，还有何处可以容身呢？既然如此，这回如果不当个真正的娼妇，大概再没有人会来捧她了。过去倒无所谓，如今娇生惯养，这对于她的虚荣心来说，是无论如何也不能忍受的。或许她会说浜田或熊谷等会把她领去，可她也应该清楚，他们到底是学生，不可能使她得到我曾经让她享受过的荣华富贵。这样一想，倒觉得让她尝到享乐的滋味是件好事。
957	私は密かに、彼女の眠りを覚まさないように枕もとへ据わったまま、暫くじっと息を殺してその寝姿を見守りました。昔、狐が美しいお姫様に化けて男を欺したが、寝ている間に正体を顕わして、化けの皮を剥がされてしまった。——私は何か、子供の時分に聞いたことのあるそんな噺を想い出しました。	我怕惊动她，便悄悄地坐到枕边，屏着呼吸望着睡梦中的纳奥米。不知为什么，我想起孩提时听到的一个童话：从前，有只狐狸变成美女去蒙骗一个男子，可是当她睡觉的时候却现出原形，被揭去妖怪的画皮。
958	それは真っ昼間の、限なく明るい「白さ」とは違って、汚れた、きたない、垢だらけな布団の中の、云わば襤褸に包まれた「白さ」であるだけ、余計私を惹きつけました。で、こうしてつくづく眺めていると、ランプの笠の蔭になっている彼女の胸は、まるで真っ青な水の底にでもあるもののように、鮮かに浮き上って来るのでした。	它不同于白昼间那种无所不在的光亮的“白色”，正因为它在肮脏、邋遢、满是污垢的被子里，也可以说是包在破烂中的“白色”，才格外使我心醉。我深情地望着望着，觉得她那在灯伞背后的胸部，仿佛是深蓝色水底之物，在渐渐清晰地浮上来。
959	///起きている時はあんなに晴れやかな、変幻極りないその顔つきも、今は憂鬱に眉根を寄せて苦い薬を飲まされたような、頸を縊められた人のような、神秘な表情をしているのですが、私は彼女のこの寝顔が大へん好きでした。	///醒着的时候，她的表情是那么欢快，变化无穷，而现在却是一副神秘的样子。她忧郁地紧锁双眉，宛若一个被灌下苦药，勒紧脖子的人。然而我却非常欣赏她这种睡梦中的表情。
960	私は大凡そ三十分ぐらいそうして黙ってすわっていました。笠の蔭から明るい方へはみ出している彼女の手は、甲を下に、掌を上に、綻びかけた花びらのように柔かに握られて、その手頸には静かな脈の打っているのがハッキリと分りました。	我就这样默然地坐了三十分钟左右。她的手从灯伞背后伸出到亮处，手背朝下，手掌向上，松松地握着，宛若一朵初绽的鲜花，在手腕处，可以清楚地看到脉博在静静地跳动。
962	すう、すう、すう、と、安らかに繰り返されていた寝息が少し乱れたかと思うと、やがて彼女は眼を開きました。その憂鬱な表情をまだ何処やらに残しながら、……	///我刚感到纳奥米那平静的呼吸声有些紊乱，她就睁开了眼睛。脸上还多少带着一点忧郁的表情。
972	「よう、寝てよう！……ごろ寝しちゃったもんだから、方々蚊に喰われちゃったわ。ほら、こんなよ！ここん所を少うし掻いて！——」	“算了，睡吧！……我没脱衣服睡的，到处都让蚊子咬了。你看，咬成这样！给我抓抓这儿！”
973	云われるままに、私は彼女の腕だの背中だのを暫く掻いてやりました。	我遵命给她抓了一会儿胳膊和后背。
979	その夜の二人の寝物語は、別にくだくだしく書くまでもありません。ナオミは私から精養軒での話を聞くと、「まあ、失敬な！　何て云う物を知らない奴等だろう！」と口汚く罵って一笑に附してしまいました。要するにまだ世間ではソシアル・ダンスと云うものの意義を諒解していない。男と女が手を組み合って踊りさえすれば、何かその間に良くない関係があるもののように臆測して、直ぐそう云う評判を立てる。新時代の流行に反感を持つ新聞などが、又いい加減な記事を書いては中傷するので、一般の人	当晚我们俩的私房话无须赘言。当纳奥米从我口中听到精养轩的那段话时，便破口大骂：“哎哟，真无礼！多不知好歹的家伙！”然后附之一笑。总之当社会上对交际舞的意义正没有认识，只要男女手挽手跳舞，就会猜想他们之间或许有什么不正当的关系，马上就有这种议论。对新潮抱有反感的新闻界又写些不可靠的消息加以中伤，所以谈到跳舞，一般人都认为是不健康的东西。因此我们必须有让人

	はダンスと云えば不健全なものだと極めてしまっている。だから私たちは、どうせそのくらいな事は云われる覚悟でいなければならない。――	家去说三道四的精神准备。
982	「それは僕だって分っているんだよ、ただあんな事を云われたのが、気持が悪かったと云うだけなんだよ」	“这我知道。只是让别人议论那种事情，心里不舒服。”
984	「止めなくってもいいけれど、成るべく誤解されないように、用心した方がいいと云うのさ」	“再跳也不要紧，我是说最好小心一点儿，尽量不要让人误解。”
987	「譲治さんさえ誤解していなけりゃ、世間の奴等が何て云おうと、恐くはないわ。どうせあたしは、乱暴で口が悪くって、みんなに憎まれるんだから。――」	“只要你让治先生没有产生误解，无论那帮家伙说什么，我都不怕。都是因为我粗暴、说话不中听，遭人忌恨……”
989	いや、始めはもっと強硬に出るつもりでいたにも拘わらず、次第にそう云う曖昧な態度にさせられました。そして涙と接吻の中から、すすり泣きの音に交って囁かれる声を聞いていると、・ではないかと二の足を蹈みながら、やっぱりそれが本当のように思われて来るのでした。	尽管当初是打算采取更强硬的态度的，但不知不觉地却变成这样一种暧昧的态度。她一边流泪亲吻，一边啜泣着向我说着贴己话。我虽怀疑她说的是假话，但听着这种声音，却不由自主地越来越觉得此话当真。
998	「大人しいのは結構だけれど、陰鬱になられても困るなア」	“老实是好事，不过忧郁起来可就糟啦。”
1021	私は彼女に潰されまいと一生懸命に力み返って、汗を掻き掻き部屋を廻ります。そして彼女は、私がへたばってしまうまではそのいたずらを止めないのでした。	我拼命鼓足力气撑着，不让她把我压垮，满身大汗地在房间里转着。直到把我搞得精疲力尽，她才结束了这场恶作剧。
1064	「なあに、扇ヶ谷に関の叔父さんの別荘があるんだよ。今日はみんなでそこへ引っ張って来られたんで、御馳走するって云うんだけれど、窮屈だから飯を喰わずに逃げ出そうと思っているのさ」	“哪儿的话。阿关的叔叔在扇谷有座别墅。今日大家硬被拉到那儿去，说是请我们吃饭。可是太拘束了，打算不吃饭就逃走。”
1071	その晩は久しぶりで賑やかな晩飯をたべました。浜田に熊谷、あとから関や中村も加わって、離れ座敷の八畳の間に六人の主客がチャブ台を囲み、十時頃までしゃべっていました。私も始めは、この連中に今度の宿を荒らされるのは厭でしたが、こうしてたまに会って見れば、彼等の元気な、サッパリとしたこだわりのない、青年らしい肌合が、愉快でないことはありませんでした。	我们好久没有象这天晚上那么热闹地吃过晚饭了。浜田、熊谷，后来阿关和中村也参加进来，宾主六人在那间十六平方的房间里围着矮脚餐桌一直聊到十点来钟。起初我也不愿这帮家伙来骚扰这个住处，但这些年轻人朝气蓬勃，性情豪爽、无拘无束，象这样偶尔见见面，也并非不是件愉快的事。
1077	「たまにはいいけれど、たびたび来られると迷惑だわ。もし今度来たら、あんまり優待しない方がいいことよ。御飯なんか御馳走しないで、大概にして帰って貰うのよ」	“偶尔来一次倒没关系，可经常跑来就麻烦了。如果下次再来的话，最好少招待，不请吃饭什么的，适可而止便请他们回去。”
1080	「ふん、又熊谷に冷やかされるぜ」	“哼，又要遭熊谷的奚落了。”
1081	「冷やかされたっていいじゃないの、人が折角鎌倉へ来たのに、邪魔に来る方が悪いんだもの。――」	“奚落就奚落，有什么要紧。人家好不容易到镰仓来，他来打搅，是他不好。”
1087	夏の日盛りの暑いさなかを一日会社で働いて、それから再び汽車に揺られて帰って来る身には、この海岸の夜の空気は何とも云えず柔かな、すがすがしい肌触りを覚えさせます。それは今夜に限ったことではありませんが、その晩はまた、日の暮れ方にさっと一遍、夕立があった後だったので、濡れた草葉や、露のしたたる松の枝から、しずかに上る水蒸気にも、こっそり忍び寄るようなしめやかな香が感ぜられました。ところどころに、夜目にもしるく水たまりが光っていましたけれど、沙地の路はもはや埃を揚げぬ程度にきれいに乾いて、走っている車夫の足音が、	在盛夏的酷暑中上一天班，然后再坐着颠簸的火车回来，此刻我才体会到这海边之夜的空气竟是如此柔和清新，简直难以形容。今晚也并非只有这种感受。因为这天日暮时分突然下了一阵雨，水气从被雨打湿的花草树木和滴着水珠的松枝上静静地蒸发出来，从中也感到了一种泌人心脾的幽香。夜里都看得见路上到处是发亮的水洼，不过，沙子路已经干得恰到好处，扬不起尘土。车夫拉着车，他的脚仿佛踏在天鹅绒上一般，从地面传来轻而静

	びろうどの上をでも蹈むように、軽く、しとしとと地面に落ちて行きました。	谧的脚步声。
1094	かみさんはナオミのことを「お嬢さん」と云うのでした。夫婦ではあっても、世間に対しては単なる同棲者、若しくは許婚と云う風に取って貰いたいので、そう呼ばれなければナオミは機嫌が悪かったのです。	房东太太称纳奥米作“小姐”。虽说是夫妻关系，但希望外人仅把他们看作是同居或是未婚夫妇，倘若不这样称呼，纳奥米便会不痛快。
1103	私は実は、まだその時はそんなに慌ててはいませんでしたが、かみさんの言葉が何となく云いにくそうで、その顔つきに当惑の色がますます強く表れて来るのが次第に私を不安にさせました。このかみさんに腹を見られるのはイヤだと思いながら、私の口調は性急にならずにはいませんでした。	说实话，这时我还不那么紧张，但是房东太太的话总是躲躲闪闪的，她脸上越发显出惶惑为难的神色，倒使我不安了。我虽不愿她看穿自己的心思，但说话的调子不由得急躁起来。
1116	成る程、そう云われれば関の叔父さんの別荘と云うのが、扇ヶ谷にあったことを私は思い出しました。	不错，听了此话，我倒想起来了，阿关叔叔的别墅是在扇谷。
1143	一瞬間、私を取り巻くからくりの糸が驚く程の明瞭さで露われました。そこには殆ど、私のような単純な人間には到底想像も出来なかった、二重にも三重にもの・があり、念には念を入れた諜し合わせがあり、しかもどれ程大勢の奴等がその陰謀に加担しているか分らないくらい、それは複雑に思われました。私は突然、平らな、安全な地面から、どしんと深い陥穽へ叩き落され、穴の底から、高い所をガヤガヤ笑いながら通って行くナオミや、熊谷や、浜田や、関や、その他無数の影を羨ましそうに見送っているのでした。	刹那间，对付我的阴谋露出了蛛丝马迹，而且清晰得令人吃惊。他们谎言套着谎言，事先经过周密慎重的策划，这是象我这样单纯的人无论如何也想象不到的。而且搞不清有多少人参与了这项阴谋，看来很复杂。我突然间从平稳、安全的地面重重地摔到深深的陷井中，从井底羡慕地望着纳奥米、熊谷、浜田、阿关以及其他无数身影在高处喧闹地笑着走过。
1145	海浜ホテルの前へ出て、教えられた路を、成るべく暗い蔭に寄りながら辿って行きました。そこは両側に大きな別荘の並んでいる、森閑とした、夜は人通りの少い街で、いい塩梅にそう明るくはありませんでした。とある門燈の光の下で、私は時計を出して見ました。十時がやっと廻ったばかりのところでした。その大久保の別荘というのに、熊谷と二人きりでいるのか、それとも例の御定連と騒いでいるのか、とにかく現場を突き止めてやりたい。若し出来るなら彼等に感づかれないようにコッソリ証拠を掴んで来て、あとで彼等がどんなしらじらしい出まかせを云うか試してやりたい。そして動きが取れないようにして置いて、トッチメてやりたいと思ったので、私は歩調を早めて行きました。	到了海滨饭店前面，便按照房东太太指的路往前赶，尽量走暗处。这条街夜间很少见到行人，非常寂静，两边是一所所大别墅，灯光正好不太亮。走到一盏门灯下面，我掏出表看了一下，才刚刚过十点钟。说是大久保的别墅，究竟是和熊谷单独在一起，还是和那群常客在一起折腾呢？总之，要把现场查明。可能的话，要悄悄地抓到证据，不让他们发觉，然后看他们怎样胡编乱造，当面撒谎。我想找到绝对可靠的证据之后再教训他们，便加快了脚步。
1146	目的の家はすぐ分りました。私は暫くその前通りを往ったり来たりして、構えの様子を窺いましたが、立派な石の門の内にはこんもりとした植込みがあり、その植込みの間を縫うて、ずっと奥まった玄関の方へ砂利を敷き詰めた道があり、「大久保別邸」と記された標札の文字の古さと云い、ひろい庭を囲んでいる苔のついた石垣と云い、別荘と云うよりは年数を経た屋敷の感じで、こんな所にこんな宏壮な邸宅を持った熊谷の親戚があろうなどとは、思えば思うほど意外でした。	很快就找到了我要去的那所房子，我在房前的路上徘徊，并观察了一会儿里的情况。气派的石门里有郁郁丛丛的花木；一条沙路穿过花木通向里边的大门处。无论是从写着“大久保别墅”那名牌上古朴的文字，或是从庭院周围那长着鲜苔的石墙上看来，都使人感到这所房子与其说是幢别墅，不如说是座年代已久的老宅邸。熊谷的亲戚竟在这种地方有这样一座壮观的宅邸，真是越想越感到意外。
1149	その二階が熊谷の居間であることを知るには、たった一と目で十分でした。なぜかと云うのに、縁側を見ると例のフラット・マンドリンが手すりに寄せかけてあるばかりか、座敷の中には、たしかに私の見	我一眼就看出二楼是熊谷的住房。因为看到廊子里他那把曼陀林琴靠在栏杆上，而且我见过的那顶塔斯康礼帽就挂在房间的柱子上。虽然门开着，却听不到一

	覚えのあるタスカンの中折帽子が柱にかかっていたからです。が、障子が明け放されているのに、話声一つ洩れて来ないので、今その部屋に誰もいないことは明かでした。	点儿声音，很显然，现在房间里没有人。
1162	それまでじっと小さくなって息をこらしていた私は、彼等との距離が半町ぐらい隔たって、白い浴衣が遠くの方にほんのちらちら見える時分、始めて立ち上ってそっとその跡を追いました。最初彼等は、海岸を真っすぐに、材木座の方へ行くのだろうかと思われましたが、中途でだんだん左へ曲って、街の方へ出る沙山を越えたようでした。彼等の姿が、その沙山の向うへ隠れきってしまうと、私は急に全速力で山へ駈け上り始めました。なぜなら私は、ちょうど彼等の出る路が、松林の多い、身を隠すのに究竟な物蔭のある、暗い別荘街であるのを知っていたので、そこならもっと傍へ寄っても、多分彼等に発見される恐れはないと思ったからです。	我一直屏着气不敢动弹，待到与他们相距五十来米，隐约见到那白色的单衣在远处闪现的时候，才站起身悄悄地跟了上去。原以为他们一直沿着海岸朝木材商会那边走去呢，谁知走到半路似乎渐渐向左拐，越过了通向大街的沙丘。待他们的身影完全隐没在沙丘背后时，我猛然以最快速度向沙丘上跑去。因为我知道他们要去的地方正巧是昏暗的别墅街，那里松林繁茂，有极好的隐蔽处可以藏身，到了那儿，即使再凑近一些，我想大概也不会被他们发现吧。
1166	それはナオミが口癖にうたう唄でした。熊谷は先に立って、指揮棒を振るような手つきをしています。ナオミは矢張彼方へよろよろ、此方へよろよろと、肩を打ッつけて歩いて行きます。すると打ッつけられた男も、ボートでも漕いでいるように、一緒になって端から端へよろけて行きます。	这是一首纳奥米总挂在嘴边的歌子。熊谷站在前头，打着挥舞指挥棒的手势，纳奥米还是那样东倒西歪地撞着别人肩膀走。于是被撞的人也象划船一样，凑到一起，东摇西晃地向前走去。
1174	「そりゃそうさ、己あこれでも大いに研究したんだからな」	“那当然啰。就这，我还着实研究了一番呢。”
1178	「お前もいっそ万国館へ出るんだったな、お前の面ならたしかに土人とまちげえられたよ」	“你倒是该去万国馆的，看你的长相，确实把你当作土人了。”
1225	そう云われると、ナオミははたと返辞に窮したようでした。彼女は急に下を向いて、黙って、唇を噛みながら、上眼づかいに穴のあくほど私の顔を睨んでいました。	听了这话，纳奥米似乎一下子言阻语塞，不知如何回答是好。她突然低下头，默默地咬着嘴唇，一边翻着白眼使劲地瞪着我。
1226	「でもまアちゃんが一番疑ぐられているんだもの、——まだ関さんにして置いた方がいくらかいいと思ったのよ」	“你最怀疑的就是阿熊，所以我想，还是说阿关好一些。”
1255	「今更こんな事を云うのは変ですけれど、僕はとうから、……一度あなたにこう云う所を発見されるまでもなく、自分の罪を打ち明けようと思っていました。……」	“现在再说这种话你会感到奇怪，不过我老早就……打算在你发现这件事之前坦白自己的罪行……”
1262	それで鎌倉へ戻るのはおそくも午後一時頃なので、彼女がまさかその間に大森まで行って来たろうとは、宿の者にも気がつかれないようにしてある。そして浜田は、今朝も十時に落ち合う手筈になっていたので、さっき私が上って来たのを、てっきりナオミが来たのだとばかり思っていた、と、そう彼は云うのでした。	最晚下午一点左右返回镰仓，好使家里的人觉察不到她会在这段时间去一趟大森。浜田还说，因为约定今早十点钟见面，刚才我进来的时候，他还一心以为是纳奥米来了呢。
1272	「やっぱり此処の、大森のお宅でした。午前中はナオミさんは何処へも稽古に行かないし、独りで淋しくって仕様がないから遊びに来てくれと云われたんで、最初はそのつもりで訪ねて来たんです」	“也是这个大森的家中。纳奥米说整个上午她不去任何地方学习，一个人寂寞得要命，要我去玩。最初我就是出于这种目的来玩的。”
1276	「いいえ、あれは僕じゃないんです、ナオミさんに鎌倉行きをすすめたのは熊谷なんです」+++浜田はそう云って、急に一段と語気を強めて、+++「河合さん、欺されたのはあなたばかりじゃありません！　僕もやっぱり欺されていたんです！」	“不，不是我，怂恿纳奥米去镰仓的是熊谷。”浜田说完，忽然加重语气道，“河合先生，受骗的不只是你！我也被欺骗了！”

1279	「ああ」+++と、私はため息をつきながら云いました。+++「それがナオミの手なんですよ、僕もそう云われたものだから、それを信じていたんですよ。……そうして君は、熊谷とそうなっているのをいつ発見したんです？」	“唉，”说着我叹了一口气，“这就是纳奥米的花招嘛，她对我也这样说，我也信以为真了。……后来，你什么时候发现她和熊谷有这种关系的？”
1283	「ナオミは君に見られたことを、知っているのでしょうか？」	“纳奥米知道被你看到了？”
1284	「ええ、知っています。僕はその後ナオミさんに話したんです。そして是非とも熊谷と切れてくれろと云ったんです。僕はおもちゃにされるのは厭だ、こうなった以上ナオミさんを貰わなければ……」	“嗯，知道。是我事后告诉纳奥米小姐的，而且要她一定与熊谷断绝关系。我不愿意被人耍，既然已经到了这一步，就一定要娶纳奥米小姐……”
1291	不思議なもので、私は最初から浜田を憎む心はなかったのですが、こんな話をきかされて見ると、寧ろ同病相憐れむ——と、云うような気持にさせられました。そしてそれだけ、一層熊谷が憎くなりました。熊谷こそは二人の共同の敵であると云う感じを強く抱きました。	说来奇怪，开始时对浜田那种憎恶化为乌有，听了他的这番话，倒不由得产生了一种同病相怜的心情。随之，对熊谷更加憎恶。我深深地感到，熊谷才是我们两个共同的敌人。
1302	「あれ一枚で、細帯一つ締めていないんだから、大丈夫ですよ。まあ猛獣が檻へ入れられたようなもんです」	“就穿那一件，连根细带子都没系，没问题，就象猛兽被关进了笼子一样。”
1305	「自分も卑屈だと思いながら、気が弱くって、ついぐずぐずに奴等と附き合っていたんです。ですからナオミさんに欺されたとは云うものの、つまり自分が馬鹿だったんですよ」	“虽然也觉得自己没出息，但由于生性懦弱，最终还是不明不白地和他们来往了。因此虽说是受纳奥米的骗，归根结底还是由于自己傻呀。”
1306	私は何だか、自分のことを云われているような気がしました。そして「松浅」の座敷へ通って、さし向いに坐って見ると、どうやらこの男が可愛くさえなって来るのでした。	不知为什么，我觉得这番话似乎是指自己说的。我们走到“松浅”饭庄，面对面地坐下来，这时我仿佛觉得眼前的这个男子汉竟然变得可爱起来。
1310	「赦すも赦さないもありませんよ。君はナオミに欺されていたので、僕とナオミとの間柄を知らなかったと云うのだから、ちっとも罪はない訳です。もう何とも思ってやしません」	“什么原谅不原谅的，你受了纳奥米的骗，不知道我和纳奥米的关系，所以没有一点儿罪过。我丝毫不介意。”
1318	「ああ、そうですか、それが誤解の原だったんですね。ナオミさんの様子を見ると、奥さんのようには思えなかったし、自分でもそう云っていなかったから、それで僕等もつい欺されてしまったんです」	“啊，原来如此。这就是误会的根源啰。看纳奥米的样子并不象做了太太的，而且她自己也没说，所以我们都不知不觉地上了当。”
1321	浜田は感動の籠った声で云うと同時に、その両眼には再び涙を光らせていました。さてはこの青年は、これほど真面目にナオミを恋していたのだったか、そう思うと私は感謝したいような、済まないような気がしました。若しも浜田は、私と彼女とが既に完全な夫婦であると云われなかったら、進んで彼女を譲ってくれと云い出すつもりだったのでしょう。いやそれどころか、たった今でも、私が彼女をあきらめさえしたら、彼は即座に彼女を引き取ると云うでしょう。	浜田激动地说着，同时，两眼又一次闪着泪花。原来这个年轻人竟如此真心地爱着纳奥米，想到这里，我产生了一种感激而又负疚的心情。倘若没有告诉浜田我和她已是合法夫妻，他大概会打算进一步提出要我把纳奥米让出来的。何止如此，即使是现在，只要我放弃她，浜田会立即表示要她的。
1323	「けれど、けれどあなたは、どうかナオミさんを捨てないで上げて下さい」+++と、浜田は急いで私の言葉を遮って云いました。+++「もしもあなたに捨てられちまえば、きっとナオミさんは堕落します。ナオミさんに罪はないんですから。……」	“不过，不过请你不要抛弃纳奥米。”浜田急忙打断我的话，“假如你抛弃了她，她一定会堕落的。纳奥米是没的罪的……”
1324	「有難う、ほんとに有難う！　僕はあなたの御好意をどんなに嬉しく思うか知れない。そりゃ僕だって十五の時から面倒を見ているんですもの、たとい世	“谢谢，太感谢你了！对你这番好意，我真不知有多高兴呢。纳奥米十五岁起，我就一直照料她，即使遭到世俗的饥笑，

	間から笑われたって、決してあれを捨てようなんて気はないんです。ただあの女は強情だから、何とか巧く悪い友達と切れるように、それを案じているだけなんです」	也决不打算抛弃她。只是她太固执，要设法让她顺利分手。
1328	「ええ、だけれど当分は伺えないかも知れませんよ」+++と、浜田はちょっともじもじして、顔を見られるのを厭うように、下を向いて云いました。	“好的。不过眼下也许不能拜访您。”浜田有些犹豫地说。他低着头，象是羞于见人似的。
1331	それと云うのが、何しろ実に意外な事が後から後からと起って来て、欺された上にも欺されていたことが分るに随い、私の神経は異常に鋭く、病的になり、いろいろな場合を想像したり臆測したりし始めるので、そうなって来るとナオミと云うものが、とても私の智慧では及ばない神変不可思議の通力を備え、又いつの間に何をしているか、ちっとも安心はならないように思われて来るのです。己はこうしてはいられない、どんな事件が留守の間に降って湧いているかも知れない。——私は会社をそこそこにして、大急ぎで鎌倉に帰って来ました。	这是因为意外的事情接踵而来，我一次又一次地被欺骗，随着真相大白，我的神经就得异常过敏，呈现出病态，开始想象和猜测各种情况。所以丝毫不能安下心，总是在想，纳奥米这家伙具有变幻莫测的神通，是我的智慧所远不及的，不知下次她又要做什么了。不能这样呆着，也许我不在家的功夫又会发生什么事——我草草地打发了公司的事情，急忙回到镰仓。
1338	ふん、とうとう一日引っ込んでいたか。だがそれにしてもイヤに様子が静かなのはどうしたんだろう、どんな顔つきをしているだろうと、まだ幾分胸騒ぎに駆られながら、私はそっと縁側へ上り、離れの障子を明けました。と、もう夕方の六時が少し廻った時分で、明りのとどかない部屋の奥の隅の方に、ナオミはだらしない恰好をして、ふん反り返ってぐうぐう眠っているのでした。蚊に喰われるので、彼方へ転がり此方へ転がりしたものでしょう、私のクレバネットを出して腰の周りを包んではいましたが、それで器用に隠されているのはほんの下っ腹のところだけで、紅いちぢみのガウンから真っ白い手足が、湯立ったキャベツの茎のように浮き出ているのが、そう云う時には又運悪く、変に蠱惑的に私の心を掻き・りました。	哼，到底在家呆了一天。不过，也太安静了。这是怎么回事？她现在是什么表情？我带着几分不安的心情轻轻地走到廊子上，打开房间的拉门。这时，是下午六点稍过一点，只见纳奥米衣冠不整地随便躺在阳光照不到的角落里，身子向后弯曲着睡得死死的。大概由于蚊子咬，翻来复去地滚过吧。她把我的雨布拿出来裹在腰的周围，盖严的只是下腹部那一小块地方。雪白的手脚从红绉绸睡袍露了出来，就象在开水中煮过的洋白菜的茎一样。这时，它偏又诱惑着我，扰乱着我的心。
1345	「あーあ」+++と云って、先ずにょっきりとそのしなしなした二本の腕を真っ直ぐに伸ばし、小さな、紅い握り拳をぎゅッと固めて前へ突き出し、生あくびを噛み殺しながらやおら体を擡げたナオミは、私の顔をチラと偸んで、すぐ側方を向いてしまって、足の甲だの、脛のあたりだの、背筋の方だの、蚊に喰われた痕を頻りにぼりぼり掻き始めました。寝過ぎたせいか、それともこっそり泣いたのであろうか、その眼は充血して、髪は化け物のように乱れて、両方の肩へ垂れていました。	“啊——啊。”纳奥米说着，先将她那两只柔嫩的胳膊直直地向上伸去，用力握紧那小小的红拳头向前一捅，忍住一个哈欠，不慌不忙地坐起身来，然后偷偷地瞥了我一眼，马上把脸转向一旁，开始不停地搔起脚背、小腿和脊梁上被蚊子咬的痕迹。不知是因为睡多了，还是悄悄哭过的缘故，她两眼布满血丝，头发乱七八糟地垂到肩上，活象个怪物。
1347	母屋へ行って着物の包みを取って来てやり、彼女の前へ放り出すと、彼女は一言も云わないで、つんとしてそれを着換えました。それから晩飯の膳が運ばれ、食事を済ましてしまう間、二人はとうとう孰方からも物を云いかけませんでした。	我去正房那边取来装着衣物的包袱，放在她面前。她一言不发，以冷傲的态度换上了衣服，直到吃过饭，两个人始终谁也没有先开口。
1348	何よりかより彼女を怒らせてしまっては一番いけない、彼女がつむじを曲げないように、決して喧嘩にならないように、そうかと云って此方が甘く見られないように、上手に切り出さなければならない。	连我也常有这种经验，最要紧的是不能惹恼她。说出口的话必须巧妙，既不能让她耍脾气，吵起架来，又不能让她觉得我好说话。
1354	ナオミがなかなか答えないので、ここで私の心配していた押し問答の形勢が持ち上りそうになりました	纳奥米半天不回答，我所担心的吵嘴已是一触即发了。+++“怎么样？纳奥

	が、「どうだね？　ナオミちゃん」と、私は出来るだけ優しい口調で、+++「悪かったことさえ認めてくれれば、僕はなんにも過ぎ去ったことを咎めやしないよ。何もお前に両手をついて詫まれと云う訳じゃない。この後こう云う間違いがないように、それを誓ってくれたらいいんだ。え？　分ったろうね？　悪かったと云うんだろうね？」	米，”我尽量用温和的语气问，“只要你承认错了，我既往不咎。我并不是要你跪下向我道歉，只要发誓以后再不犯这种错误就行了。嗯？明白吗？会认错吧？”
1364	///私はその実が今日のように立派に成熟するまでに随分さまざまの丹精を凝らし、労力をかけた。だからそれを味わうのは栽培者たる私の当然の報酬であって、他の何人にもそんな権利はない筈であるのに、それが何時の間にかあかの他人に皮を・られ、歯を立てられていたのです。そうしてそれは、一旦汚されてしまった以上、いかに彼女が罪を詫びてもう取り返しのつかないことです。「彼女の肌」と云う貴い聖地には、二人の賊の泥にまみれた足痕が永久に印せられてしまったのです。これを思えば思うほど口惜しいことの限りでした。ナオミが憎いと云うのでなしに、その出来事が憎くてたまりませんでした。	///这颗果实发展到今天这般成熟，其中凝聚了我多少心血，花费了我多少精力。因此品尝它的滋味是我这个栽培者应该得到的报酬，而别人却不应有这种权利。然而，这颗果实却神不知鬼不觉地被毫无关系的人剥去皮，咬了几口。一旦被玷污，她无论怎样赔罪也是无法挽回的了。她圣洁的肌体上永远留下了两个窃贼沾满污泥的脚印。我越想越觉得可惜，纳奥米并不可恨，令人厌恶得无法忍受的是这件事本身。
1385	私が負けたと云うよりは、私の中にある獣性が彼女に征服されました。事実を云えば私は彼女をまだまだ信じる気にはなれない、にも拘わらず私の獣性は盲目的に彼女に降伏することを強い、総べてを捨てて妥協するようにさせてしまいます。つまりナオミは私に取って、最早や貴い宝でもなく、有難い偶像でもなくなった代り、一箇の娼婦となった訳です。そこには恋人としての清さも、夫婦としての情愛もない。そうそんなものは昔の夢と消えてしまった！それならどうしてこんな不貞な、汚れた女に未練を残しているのかと云うと、全く彼女の肉体の魅力、ただそれだけに引き摺られつつあったのです。	与其说我经不住诱惑，倒不如说她征服了我的兽性。说实话，我远远不能相信她。尽管如此，我的兽性却迫使我盲目地屈从她，抛弃一切向她妥协，也就是说，纳奥米在我看来已不是珍贵的宝贝，也不是圣洁的偶象，而是一个娼妇。这里既没有恋人之间的纯情，也没有夫妻之间的爱恋，这一切已象往日的梦一般消失了！既然如此，为什么还迷恋着这个失去贞操的肮脏女人呢？这完全是因为她肉体魅力。这是纳奥米的堕落，同时也是我的堕落。
1387	あなたはあたしから取れる物だけ取っているんじゃありませんか。それであなたは満足しているじゃありませんか」——私は彼女の前へ出ると、そう云う眼つきで睨まれているような気がしました。そしてその眼は動ともすると、+++「ふん、何と云うイヤな奴だろう。まるで此奴は犬みたようにさもしい男だ。仕方がないから我慢してやっているんだけれど」+++と、そんな表情をムキ出しにして見せるのでした。	你不是取走了从我身上能够得到的一切吗，这样你难道还不满足吗？”——每当我站在她的面前，总觉得她在以这种目光瞪着我。而且她的眼睛动辄就明显地露出这样的表情：“哼，这家伙真讨厌，简直就象畜牲一样下贱。我没有办法，只好忍耐着吧。”
1410	「洋服？」+++私は暫くあっけに取られて、彼女の顔を穴の開くほど視詰めながら、「ははあ、此奴、為替の来たのが分ったんだな、それで捜りを入れているんだな」と気がつきました。	“洋装？”我顿时愣住了，死死地盯着她的脸。我恍然大悟，哈哈，这家伙，知道寄来了支票，在试探我呢。
1420	が、ナオミはどうかして私の秘密を嗅ぎ出そうと、手紙のありかを捜し廻ったに違いなく、あれを読まれてしまったとすると、為替の金額は勿論のこと、移転のことも女中のことも総べてを知られてしまったのです。	纳奥米一定是到处寻找信的下落，想方设法弄到我的秘密。她看了那封信，支票的金额不用说了，就连搬家和找女佣的事也都知道了。
1435	「出て行け！」+++と、私はもう一度叫ぶや否や、何とも知れない憎さと恐ろしさと美しさに駈り立てられつつ、夢中で彼女の肩を掴んで、出口の方へ突き飛ばしました。	“滚出去！”我又大喊一声。不知是出于憎恶还是恐惧，或是因她的美貌，我拚命抓住她的肩膀，朝门口推去。
1452	何しろ私はこの間じゅうの暗闘に疲れ切っていた際	///我被这阵子的明争暗斗搞得筋疲力

	だったので、そう思うと同時にぐったり椅子に腰かけたままぼんやりしてしまいました。咄嗟の感じは、「ああ有難い、やっとのことで解放された」と云うような、せいせいとした気分でした。それと云うのが私は単に精神的に疲労していたばかりでなく、生理的にも疲労していたので、一度ゆっくり休養したいと云うことは、寧ろ私の肉体の方が痛切に要求していたのです。	尽，一面这样想着，一面瘫软地坐在椅子上发呆。这一瞬间，我感到十分轻松。啊，太好了，终于解放了。因为不仅精神上疲劳，生理上也感到疲劳，所以不如说想充分休养一下的愿望到是我肉体上的迫切要求。
1453	///たとえばナオミと云うものは非常に強い酒であって、あまりその酒を飲み過ぎると体に毒だと知りながら、毎日々々、その芳醇な香気を嗅がされ、なみなみと盛った杯を見せられては、矢張私は飲まずにはいられない。飲むに随って次第に酒毒が体の節々へ及ぼして来て、ひだるく、ものうく、後頭部が鉛のようにどんより重く、ふいと立ち上ると眩暈がしそうで、仰向けさまにうしろへ打っ倒れそうになる。	///打个比方说，纳奥米就象一种烈酒，我虽然懂得饮酒过量对身体有害，但每天嗅着那芳醇的香气，看着那注得满满的酒杯，还是会不由自主地将它喝下去。随之，那酒毒渐渐渗入到身体的各个部分，使人变得有气无力、无精打采；后头部象灌了铅一样沉甸甸的，猛地站起来时便头昏眼花，仿佛要向后跌倒。
1454	「男の憎しみがかかればかかる程美しくなる」と云った、あの一刹那の彼女の顔でした。それは私が刺し殺しても飽き足りないほど憎い憎い淫婦の相で、頭の中へ永久に焼きつけられてしまったまま、消そうとしてもいっかな消えずにいたのでしたが、どう云う訳か時間が立つに随っていよいよハッキリと眼の前に現れ、未だにじーいッと瞳を据えて私の方を睨んでいるように感ぜられ、しかもだんだんその憎らしさが底の知れない美しさに変って行くのでした。	就是她在那一瞬间所表现出来的“愈令男子憎恶愈加美丽”的容貌。这是一种令我杀了她也不解心头之恨的可憎的淫妇之相，它永远铭刻在我的脑海之中。尽管我想抹掉它，但它无论如何也不消失。不知为什么。随着时间的推移，反倒越加清晰地出现在眼前，仿佛现在仍然一动不动地凝视着我，而且那张令人憎恶的面孔渐渐变得异常美丽。
1455	///考えて見ると彼女の顔にあんな妖艶な表情が溢れたところを、私は今日まで一度も見たことがありません。疑いもなくそれは「邪悪の化身」であって、そして同時に、彼女の体と魂とが持つ悉くの美が、最高潮の形に於いて発揚された姿なのです。私はさっきも、あの喧嘩の真っ最中に覚えずその美に撲たれたのみならず、「ああ美しい」と心の中で叫んだのでありながら、どうしてあの時彼女の足下に跪いてしまわなかったか。いつも優柔で意気地なしの私が、いかに憤激していたとは云えあの恐ろしい女神に向って、どうしてあれほどの面罵を浴びせ、手を振り上げることが出来たか。自分のどこからそんな無鉄砲な勇気が出たか。——それが私には今更不思議なように思われ、その無鉄砲と勇気とを恨むような心持さえ、次第に湧き上って来るのでした。	///回想起来，我竟然从来没有见过她脸上流露出来的那种妖艳的神态。毫无疑问，那就是“邪恶的化身”，同时也是她的躯体与灵魂所具有的全部美的最高表现形式。刚才吵得最凶的时候，我又情不自禁地被那美貌所打动，心中感叹道“啊，真美”，可为什么那时并没有拜倒在她的脚下呢？就算是气愤之极，可平时优柔寡断、窝窝囊囊的我怎么竟会对那个可怕的女神破口大骂、大打出手呢？这种鲁莽的勇气究竟出自何方？——对此至今我仍感到不可理解，甚至对那种鲁莽与勇气渐渐产生了怨恨。
1456	「お前は馬鹿だぞ、大変なことをしちまったんだぞ。ちっとやそっとの不都合があっても、それと『あの顔』と引き換えになると思っているのか。あれだけの美はこの後決して、二度と世間にありはしないぞ」+++私は誰かにそう云われているような気がし始め、ああ、そうだった、自分は実につまらないことをしてしまった。彼女を怒らせないようにと、あんなに不断から用心していながら、こういう結末になったというのは魔がさしたのに違いないんだと、そんな考が何処からともなく頭を擡げて来るのでした。	“你是个傻瓜，干了件蠢事。就算有一星半点行为不端的表现，难道能抵消‘她那容貌’吗？那般的花容月貌世上决不会再有了。”我开始觉得似乎有人在这样对我说。啊，是的，自己的确做了件蠢事。平时那般小心谨慎生怕惹恼她，最后却是这样一个结果，肯定是中了魔。我不由得产生了这种想法。
1462	///そしてそこには、彼女があの時分好んで装ったさまざまな衣裳やなりかたちが、奇抜なものも、軽快	///她那时喜欢穿的各种衣着和服饰几乎全部拍成了照片，既有新颖奇特的，又有

	なものも、贅沢なものも、滑稽なものも、殆ど剰す所なく写されていました。或るページには天鵞絨の背広服を着て男装した写真がある。次をめくると薄いコットン・ボイルの布を身に纏って、彫像の如く彳立している姿がある。又その次にはきらきら光る繻子の羽織に繻子の着物、幅の狭い帯を胸高に締め、リボンの半襟を着けた様子が現れて来る。	轻便明快的，既有高贵豪华的，又有滑稽可笑的；还有一张身穿天鹅绒西服的男装照。翻开下一页，便是一帧披着薄棉纱、象一尊雕像般亭亭玉立的照片。下一张像片上穿着闪闪发光的缎子外褂和缎子和服，窄窄的腰带束得高高的，和服衬衣上缀着绦带衬领。
1467	彼女は実家の人々に対し、追い出されて来た理由を正直に話したろうか？　それとも例の負けず嫌いで、一時遁れの出鱈目を云い、姉や兄貴を煙に巻いてでもいるだろうか？　千束町で卑しい稼業をしている実家、そこの娘だと云われることをひどく嫌って、親兄弟を無智な人種のように	她是否对娘家的人老老实实地讲了被赶出来的原因呢？抑或还是象往常那倔强，谎称暂时跑出来，以此来蒙蔽哥哥姐姐呢？她非常不愿被人提到这个在千束町从事低贱农活的娘家，不愿被人提到自己出身于这个家庭，把亲兄弟看作是无知愚民，很少回到那里去。
1470	けれどもその晩、待てど暮らせどナオミの使は来ませんでした。私はあたりが真っ暗になるまで電燈をつけずに置いたので、若しも空家と間違えられたら大変だと思って、慌てて家じゅうの部屋と云う部屋へ明りを燈し、門の標札が落ちていやしないかと改めて見、戸口のところへ椅子を持って来て何時間となく戸外の足音を聞いていましたが、八時が九時になり、十時になり、十一時になっても、……とうとう朝からまる一日立ってしまっても、何の便りもありません。	那天晚上我等了又等，但纳奥米那边并没有人来。因为到周围一片漆黑都一直没有开灯，若是被误认为家里没有人就糟了。想到这里，我慌忙把家里所有房间的电灯都打开，检查一下门口的名牌有没有掉，并把椅子搬到门口，坐在那里好几个小时，两耳倾听着门外的脚步声。八点、九点、十点、十一点，……从上午到现在，整整一天不见任何消息。
1472	///何しろ使が来ないと云うのは却って一縷の望みがあるんだ。明日になっても音沙汰がなければ、己は迎いに行ってやろう。もうこうなれば意地も外聞もあるもんじゃない、もともと己はその意地でもって失策ったんだ。実家の奴等に笑われようと、彼女に内兜を見透かされようと、出かけて行って平詫りに詫まって、姉や兄貴にも口添えを頼んで、「後生一生のお願いだから帰っておくれ」と、百万遍も繰り返す。そうすれば彼女も顔が立って、大手を振って戻って来られよう。	///总之，没有打发人来反而倒有一丝希望。如果到明天还没有音信，就去接她吧。事到如今也就顾不得体面不体面了。当初就是因为顾及面子而走错一步。无论被她娘家的人笑话也好，被她看破我的心思也好，我都要上门去向她负荆请罪，并求她的姐姐哥哥为我美言几句，反复表示："这是我毕生的愿望，请回去吧。"这样一来，她也许就会体体面面、大摇大摆地回来了。
1490	上り框へ腰をかけて、出された渋茶をすすりながら、私は暫く途方に暮れていましたけれど、妹が家出をしたと聞いても別に心配をするのでもない姉や兄貴が相手では、ここで衷情を訴えたところでどうにも仕様がありません。	我坐在门槛上，喝着端来的苦茶，一时想不出办法来。纳奥米的哥哥姐姐听说妹妹出走并不着急，所以向他们倾吐衷肠也不解决问题。
1513	私は狐につままれたように、ポカンとしたきり、何を尋ねていいのやらかいくれ見当が付かなくなってしまいました。	我如堕五里雾中，一下子愣住了，完全失去了主意，不知问什么是好。
1569	「それで行って見ると、ナオミさんが目の覚めるような夜会服を着て、孔雀の羽根の扇を持って、頸飾りだの腕環だのをギラギラさせて、西洋人だのいろんな男に囲まれながら、盛んにはしゃいでいるんだそうです」	"熊谷到那儿一看，纳奥米身穿耀眼的晚礼服，手拿孔雀羽扇、项链、手镯等首饰闪闪发亮。她被一群包括洋人在内的形形色色的男子包围着，闹得正欢呢。"
1579	私は浜田にそう云われて、そのシンデレラのナオミの姿がどんなに美しかったかと思うと、はっと我知らず胸が躍って来るのでしたが、又その次の瞬間には、あまりな不行跡に呆れてしまって、浅ましいような、情ないような、口惜しいような、何とも云えないイヤな気持になるのでした。熊谷ならばまだしものこと、性の知れない西洋人の所へなんぞ出かけ	听了浜田的一席话，我想着这个打扮成灰姑娘的纳奥米不知该有多么漂亮，心里猛然不由得一阵激动，接着那一瞬间又对她那过份的劣迹而感到震惊，说不出是怜悯、同情、还是惋惜。总之，我觉得有一种难以名状的烦闷。若是熊谷，还能说得过去，她居然去一个不知根底的洋人那

	て行って、ずるずるべったりに泊り込んで、着物を拵えて貰うなんて、それが昨日まで仮りにも亭主を持っていた女のすべき業だろうか？あの、己が長年同棲していたナオミと云うのは、そんな汚れた、売春婦のような女だったのか？　己には彼女の正体が今の今まで分らないで、愚かな夢を見ていたのか？ああ、成るほど浜田の云うように、己はどんなに恋しくっても、もうあの女はあきらめなければならないのだ。己は見事に恥を掻かされた、男の面へ泥を塗られた。……	里，厚着脸皮住在那里，还要人家买衣服。这难道是一个直到昨天还和丈夫（尽管不是正式的）在一起的女人应当做的吗？那个长期与自己同居的纳奥米竟是这样肮脏的淫妇般的女人吗？难道在此之前我一直不知道她的真面目，在做着愚蠢的梦么？哦，浜田说得对，无论自己怎样恋着她，也必须放弃。我是丢尽了脸，给我这男子汉的脸上抹了黑。……
1581	浜田は私の眼の中に涙が湧いて来たのを見て、気の毒そうに頷きながら、+++「そう云われると僕はあなたのお心持をお察しして、云い辛くなって来るんですが、現に昨夜は僕もその場に居合わせたんだし、大体熊谷の云うことは本当だろうと思われるんです。まだこの外にもお話すればいろいろな事が出て来るので、成る程とお思いになるでしょうが、何卒そこまではお聞きにならずに、僕を信じて下さいませんか。僕が決して、面白半分に事実を誇張しているのではないと云うことを、――」	浜田看到我眼里涌出了泪水，同情地点点头说："听了你的话，对你的心情有所理解，我都难于开口了。昨晚我也在场，现在看来熊谷所说的可能是事实。如果要讲，我还能说出许多事情，你大概会认为言之有理。不过请不要打听这些，相信我吧。相信我决不是夸大事实闹着玩儿的。"
1584	「御尤もです！　そう仰っしゃるのは御尤もです！」+++と、浜田も私に釣り込まれたのか、矢張濁声で云うのでした。+++「僕は、ほんとうの事を云うと、ナオミさんには最早や望みがないと云うことを、今日はあなたに宣告する気で来たんですよ。そりゃあの人のことですから、又いつ何時、あなたの所へ平気な顔で現れるかも知れませんが、今では事実、誰も真面目でナオミさんを相手にする者はありゃしないんです。熊谷なんぞに云わせると、まるでみんなが慰み物にしているんで、とても口に出来ないようなヒドイ仇名さえ附いているんです。あなたは今まで、知らない間にどれほど恥を掻かされているか分りゃしません。……」	"当然！你说的对！"浜田大概是受了我的感染，也声势力竭地说："说实话，我今天来这里，就是打算宣告纳奥米已经没有指望了。不过她的事也难说，说不定什么时候又满不在乎地到你这儿来。可现在谁也不把纳奥米真心相待。按熊谷的说法，大家都是把她当作玩物来消遣，甚至还起了一个实在难以说出口的糟糕的绰号。至今为止，你不知不觉地蒙受了多大的耻辱呀。……"
1585	嘗ては私と同じように熱烈にナオミを恋した浜田、そして私と同じように彼女に背かれてしまった浜田、――この少年の、悲憤に充ちた、心の底から私の為めを思ってくれる言葉の節々は、鋭いメスで腐った肉を抉り取るような効果がありました。みんなが慰みものにしている、口には出来ないヒドイ仇名が付いている、――この恐ろしいスッパ抜きは却って気分をサバサバとさせ、私は癪が取れたように一時に肩が軽くなって、涙さえ止まってしまいました。	曾经和我一样热恋过纳奥米的浜田，后来又和我一样被她抛弃的浜田――这个青年充满悲愤、发自内心为我着想的一番话，那一字一句就象剜却烂肉的手术刀般锋利。大家把她当作玩物，给她起难以说出口的外号――揭发出这种令人震惊的内情反倒使我心情舒畅，就象疟疾痊愈了似的，顿时感到轻松，连泪水都止住了。
1588	「どうです河合さん、そう閉じ籠ってばかりいないで、気晴らしに散歩して見ませんか」と、浜田に元気をつけられて、「それではちょっと待って下さい」と、この二日間口も漱がず、髯も剃らずにいた私は、剃刀をあてて、顔を洗って、セイセイとした心持になり、浜田と一緒に戸外へ出たのはかれこれ二時半頃でした。	"怎么样，河合先生，别总是这样闷在家里，出去走走散散心吧。"+++这两天我既没漱口，也没刮胡子。在浜田的鼓动下打起精神，说了一声"那就请等一下"，刮好胡子，洗过脸，便轻松愉快地和浜田一起出去了。这时大约是两点半左右。
1599	「しかし君は若いんだからまだいいですよ、僕のように三十幾つにもなって、こんな馬鹿な目を見るなんて、話にも何もなりゃしません。それも君に云われなければ、いつまで馬鹿を続けていたか知れないんだから、……」	"你年轻，还没什么，象我这样三十好几的人吃了这种大亏，实在是说不过去。而且要不是你提醒，这亏还不知要吃到什么时候呢……"

1616	「ヒドクったって構わんじゃありませんか。もうあの女は僕とはあかの他人だから、遠慮することはないじゃないですか。え、何と云うんだか教えて下さいよ。却ってそいつを聞かされた方が、僕は気持がサッパリするんだ」	“过份也没关系嘛。那女人已和我没有任何关系了，用不着客气。哎，告诉我叫什么，我知道了反而会痛快。”
1630	「ははあ、成る程、そう云われりゃあ、いつだか僕がナオミのことを尋ねると、かみさんがひどく面喰って、オドオドしていたようでしたが、そう云う訳があったんですか。大森の家は君の密会所にされるし、植木屋の離れは魔窟になるし、それを知らずにいたなんて、イヤハヤどうも、散々な目に遭ってたんだな」	“哈哈，的确不错。这样一说，我倒想起来了。上次向房东太太打听纳奥米的事，她看上去非常惊慌，提心吊胆的。原来如此。大森的家是你幽会的地方，而花匠的厢房又成了魔窟，我却一直蒙在鼓里。哎呀，可真是倒了大霉了。”
1631	「あ、河合さん、大森のことは云いッこなし！　それを云われると詫まります」	“啊，河合先生，又提起大森那件事！一说这事我就觉得对不起你。”
1632	「あはははは、なあにいいですよ、もう何もかも一切過去の出来事だから、差支えないじゃありませんか。しかしそれ程ナオミの奴に巧く欺されていたのかと思うと、寧ろ欺されても痛快ですな。あんまり技がキレイなんで、唯あッと云って感心しちまうばかりですな」	“哎呀呀，快别这么说了。一切都已过去，提一提也不碍事吧。不过，想到这家伙竟如此巧妙地欺骗了我，到觉得受骗也痛快。她的手段太高明了，真是佩服得五体投地呀。”
1633	「まるで相撲の手か何かで、スポリと背負い投げを喰わされたようなもんですからね」	“就象在相扑时被对方用了什么招数扎扎实实地来了个大背挎似的。”
1634	「同感々々、全くお説の通りですよ。——それで何ですか、その連中はみんなナオミに翻弄されて、互に知らずにいたんですか？」	“我也有同感，完全和你说的一样。——这么说，那几个家伙都被纳奥米耍弄了而互相之间却不知道吗？”
1641	「それが導くどころじゃない、却って此方が引き摺られて行っちまったんだから、——」	“不但不能引导她，反而让她拉下水去了——”
1645	ナオミ、ナオミ、——互の間にその名が幾度繰り返されたか知れませんでした。二人はその名を酒の肴にして飲みました。その滑かな発音を、牛肉よりも一層旨い食物のように、舌で味わい、唾液で舐り、そして唇に上せました。	纳奥米、纳奥米——我俩不知重复过多少次这个名字，把这个名字当作下酒菜吞进去了。这个圆润的发音好象是比牛肉还要美的食物被我们用舌头品味着，用唾液湿润着，然后放在了嘴唇上。
1646	「だがいいですよ、まあ一遍はああ云う女に欺されて見るのも」+++と、私は感慨無量の体でそう云いました。	“不过，再让那女人欺骗一次也行啊。”我无限感慨地说。
1669	その母親にこうも急激に、思いがけなく死なれた私は、亡骸の傍に侍りながら夢に夢見る心地でした。つい昨日まではナオミの色香に身も魂も狂っていた私、そして今では仏の前に跪いて線香を手向けている私、この二つの「私」の世界は、どう考えても連絡がないような気がしました。昨日の私がほんとうの私か、今日の私がほんとうの私か？——嘆き、悲しみ、愕きの涙に暮れつつも、自分で自分を省ると、何処からともなくそう云う声が聞えます。	母亲竟然死得如此突然，如此意外。我敬立在遗体旁，心中无限怅惘。直到昨天，我还被纳奥米的美色而弄得神魂颠倒，而现在我却手捧香柱跪在佛前。这两个“我”的内心世界，无论怎样去考虑似乎都没有联系。我既哀叹、悲伤，又觉惊异，流着眼泪反省自己。
1672	///私は「実はそれだけではない、まだみんなに云わなかったが、女房の奴に逃げられてしまって、……」と、ついロもとまで出ましたけれど、大勢の前で耻かしくもあり、ごたごたしている最中なので、それは云わずにしまいました。（ナオミが田舎へ顔を見せないことに就いては、病気だと云って取り繕って置いたのです）そして初七日の法要が済むと、後々の事は、私の代理人として財産を管理していてくれた叔父夫婦に頼み、とにかくみんなの云う言を聴いて一と先ず東京へ出て来ました。	///“其实不仅是这个原因，我还没告诉大家呢，我老婆跑掉了……”这句话不觉之中已经溜到了嘴边，但是在大庭广众之前不好意思，又是家中最忙乱的时候，所以没有说出口。（至于纳奥米没有在乡下露面，就说她生病掩饰过去了）待头期的法事一结束，就把善后事宜交给作为我的代理人，为我管理财产的叔叔婶婶，总之我听了大家的话，又回到了东京。

1677	或る晩あまり退屈なので品川の方まで歩いて行った時、時間つぶしに松之助の映画を見る気になって活動小屋に這入ったところが、ちょうどロイドの喜劇を映していて、若い亜米利加の女優たちが現れて来ると、矢張いろいろ考え出されてイケませんでした。「もう西洋の活動写真は見ないことだ」と、私はその時思いました。	一天晚上实在闲得无聊，便走到品川一带，想看个电影消磨时光，便进了一家电影院，正巧放映洛伊德的喜剧。当美国年轻的女演员们出现在银幕上的时候，我仍是浮想连翩，不能自己。当时曾想再也不看西洋电影了。
1681	私は寝床から起きようともしないで、静かに、冷淡にそう云いました。よくもずうずうしく来られたものだと心のうちでは呆れながら。——	///我并没有从铺上起身的意思，而是静静地冷淡地说。心里却愕然：她竟然厚着脸皮来了。
1689	私は何より、彼女の素足を見せられるのが一番強い誘惑なので、成るべく其方を見ないようにはしましたけれど、それでもちょいちょい眼を向けないではいられませんでした。	她赤着的脚对我有着最强的诱惑力，因此我尽量不朝那边看，然而眼睛却不由自主地向那边瞟。
1691	「あ、そうそう」+++と彼女は云って、手提袋から鍵を出して、+++「じゃ、此処へ置いて行くわよ。——だけどもあたし、とても一遍じゃ荷物が運びきれないから、もう一度来るかも知れないわよ」	“哦，好、好。”她说着，从手提包里拿出钥匙，“好，放在这儿，我走啦——不过，这行李一次是搬不完的，我也许要再来一次呢。”
1693	「浅草へ届けられちゃ困るわ、少し都合があるんだから。——」	“送到浅草就不好办了，有些不方便……”
1720	その時始めて、彼女の紅い唇が突然微笑を浮かべたかと思うと、媚びるような、嘲るような眼つきをしました。+++「あたし、今だから云うけれど、合鍵を沢山拵えて置いたの、だから一つぐらい取られたって困りゃしないわ」	这时她的红唇才突然露出微笑，紧接着使了一个既象卖弄风骚，又象嘲调取笑的眼色，“现在告诉你吧，我配好许多钥匙，所以拿走一两个没什么关系。”
1721	「けれども己の方が困るよ、そう度々やって来られちゃ」	“可你这样三番五次来，我就不好办了。”
1724	///私は幾度も考えて見ましたが、今夜のナオミは、あの汚らわしい淫婦のナオミ、多くの男にヒドイ仇名を附けられている売春婦にも等しいナオミとは、全く両立し難いところの、そして私のような男はただその前に跪き、崇拝するより以上のことは出来ないところの、貴い憧れの的でした。	///我再三考虑过，今晚的纳奥米与那个猥亵的纳奥米被一群男人起了可怕绰号的淫妇纳奥米简直不可同日而语。她是一尊高贵的偶像，我这样的男人只能拜倒在她的面前而不能有其它的表示。
1725	///それでなければ許嫁の女に捨てられた男が、五年も十年も立ってから、或る日横浜の埠頭に立つと、そこに一艘の商船が着いて、帰朝者の群が降りて来る。そして図らずもその群の中から彼女を見出す。さては彼女は洋行をして帰って来たのかとそう思っても、男は最早や彼女に近づく勇気もない。自分は昔に変らない一介の貧書生、女はと見れば野暮臭い娘時代の俤はなく、巴里の生活、紐育の贅沢に馴れたハイカラな婦人、二人の間には既に千里の差が出来ている。——その時の書生の、捨てられた自分を我と我が身で蔑むような、思いの外な彼女の出世をせめても己れの喜びとする心持。	///再比方说，一个男子被自己的未婚妻所抛弃，过了五年或十年的某一天，他来到横浜码头，看到一艘商船靠了岸，有许多归国者从船上走下来，没料到在这群人中竟发现了她，看样子她是出国回来了，那男子虽这样想，但已没勇气去走近她。自己和过去一样仍是一个穷书生，然而从那女人身上却找不到她粗俗的少女时代的痕迹，她已变成一位过惯了巴黎、纽约的豪华生活的时髦妇人，两个人之间已有天壤之别。我的心情如同当时这位被抛弃的书生自惭形秽，同时对她的出乎意料的成功也多少有些沾沾自喜。
1734	読者諸君、諸君は既に前回までのいきさつのうちに、私とナオミとが間もなく撚りを戻すようになることを、——それが不思議でも何でもない、当然の成り行きであることを、予想されたでありましょう。そうして事実、結果は諸君の予想通りになったのですが、しかしそうなってしまうまでには思いの外に手数が懸って、私はいろいろ馬鹿な目を見たり、無駄な骨折りをしたりしました。	诸位读者，你们大概已从前面所说的情况中预想到不久之后我和纳奥米会言归于好——这并不奇怪，是必然的趋势吧。事实上结果正如诸位所料，然而在此之前却出乎意料地颇经周折，我上了许多次当，做了许多费力不讨好的事。

1752	「そりゃあそうよ、あたしは意地が悪いから、来るなと云えば尚来るわよ。――それとも来られるのが恐ろしいの？」	“就是嘛。我这个人爱和人做对，不让我来，我偏来。——你是不是怕我来？”
1759	「何もそう云う意味じゃないわ。譲治さんだって憐れまれたりしないように、シッカリしていればいいじゃないの」	“我可没有这个意思。你若是振作起来，无须别人同情不好吗？”
1765	「友達として清く附き合うのと、誘惑されて又ヒドイ目に遭わされるのと、孰方がよくって？――あたし今夜は譲治さんを脅迫するのよ」	///“作为朋友保持纯洁的友情和被诱惑重新倒霉，你说哪个好？——今晚我要吓吓你。”
1769	そこで私は咄嗟の間に思案をめぐらして、+++「では友達になってもいいよ、脅迫されちゃたまらないから」+++と、此方もニヤニヤ笑いながらそう云いました。と云うのは、友達として附き合っていれば、追い追い彼女の真意が分って来るだろう。	于是我突然计上心头，也独自笑着说：“那么作朋友也可以吧，我可受不了你的威胁。”+++ 之所以说出这样的话，是因为我心里有自己的想法，若是作为朋友交往，会慢慢弄清她的用意。
1778	こう云う風にして見せるともなく折々ちらと見せられるナオミの肌の僅かな部分は、たとえば頸の周りとか、肘とか、脛とか、踵とか云う程の、ほんのちょっとした片鱗だけではありましたけれども、彼女の体が前よりも尚つややかに、憎いくらいに美しさを増していることは、私の眼には決して見逃せませんでした。	她就是这样并非全部让我看，但时而能瞥见她见身体有限的部位，如脖颈附近、臂肘、小腿或是脚后跟等。虽只是微不足道的一小部分，然而她的身体较以前更加光艳照人，越发美得令人憎恨，这一点是绝对逃不过我的眼睛。
1794	///――彼女は私を迷わせるように、そっと唇へ香水を塗っていたのだそうですが、そう云う仕掛けがしてあることを無論その頃は知りませんでした。――私はこう、彼女のような妖婦になると、内臓までも普通の女と違っているのじゃないか知らん、だから彼女の体内を通って、その口腔に含まれた空気は、こんななまめかしい匂がするのじゃないか知らん、と、よくそう思い思いしました。	///据说为了迷惑我，她偷偷地在嘴唇上抹了香水。当然在当时我并不知道她做了这种手脚。我经常这样感慨：一旦变成象她这样的妖妇、连内脏或许都和一般的女人不同，所以经过她的体内，含在口腔里的空气才有如此醉人的芳香。
1795	私の頭はこうして次第に惑乱され、彼女の思う存分に掻き・られて行きました。私は今では、正式な結婚でなければ厭だの、手玉に取られるだけでは困るのと、もうそんなことを云っている余裕はなくなりました。	就这样我的脑子越来越迷乱，任凭她随意摆布。现在我已经再没有余地说什么“一定要正式结婚”、“光拿我耍着玩可不好”这类的话了。
1796	///これは彼女がいやが上にも私を懊らす計略だろう、懊らして懊らし抜いて、「時分はよし」と見た頃に突然「友達」の仮面を脱ぎ、得意の魔の手を伸ばすであろう、今に彼女はきっと手を出す、出さないで済ます女ではない、此方はせいぜい彼女の計略に載せられてやって「ちんちん」と云えば「ちんちん」をする、「お預け」と云えば「お預け」をする、何でも彼女の注文通りに芸当をやっていれば、しまいには獲物に有りつけるだろうと、毎日々々、鼻をうごめかしていましたが、私の予想は容易に実現されそうもなく、今日はいよいよ仮面を脱ぐか、明日は魔の手が飛び出すかと思っても、その日になると危機一髪と云うところでスルリと逃げられてしまうのです。	///想必这是她撩拨我的计谋。当她挑逗我急不可耐，眼见“时机已到”的一刻，会突然撕掉“朋友”的假面，伸出得意的魔爪吧。她马上就会动手，不动手是不会罢休的。我顶多将计就计，她说“干”，我就“干”；她让“暂停”，我就“暂停”，一切按照她说的去做，最后会捕得猎物的。虽然每天都在等待时机，然而我的预想似乎却难以实现。即使认为她今天该撕掉假面，或明天会伸出魔爪，但那天一到千钧一发的关头却被她一下子溜掉了。
1804	「畜生！　今日も駄目だったか」+++と、私はますます苛立って来ます。彼女がふいと風のように出て行ってしまうと、暫くの間は何事も手に著かず、自分で自分に腹を立てて、檻に入れられた猛獣の如く部屋の中をウロウロしながら、そこらじゅうの物を八つ中りに叩きつけたり、破いたりします。	“混蛋！今天又不行吗？”我越发焦躁起来。+++纳奥米如一阵风般猛然冲了出去，此后好一阵我什么事也干不下去，自己生自己的气。我就象关在笼子里的猛兽那样在房间里转来转去，将所有的东西摔摔打打，以泄心头之火。

1806	///着換えをした時にちょいと着物の裾から洩れた足であるとか、息を吹っかけてくれた時につい二三寸傍まで寄って来た唇であるとか、そう云うものがそれらを実際に見せられた時より、却って後になって一と入まざまざと眼の前に浮かび、その唇や足の線を伝わって次第に空想をひろげて行くと、不思議や実際には見えなかった部分までも、あたかも種板を現像するようにだんだん見え出して、遂には全く大理石のヴィナスの像にも似たものが、心の闇の底に忽然と姿を現わすのです。私の頭は天鵞絨の帷で囲まれた舞台であって、そこに「ナオミ」と云う一人の女優が登場します。八方から注がれる舞台の照明は真暗な中に揺らいでいる彼女の白い体だけを、カッキリと強い円光を以て包みます。	///换衣时稍稍露在和服下边的脚，哈气时离我只有两、三寸远的唇，事后倒比当时看到它们时更加鲜明地浮现在眼前。奇怪的是，一旦由这个唇与足的曲线不断发挥自己的想象，那么就连实际上没有见到的部分也象用底片洗像般地渐渐显出图象来，最后在幽暗的心底呈现出一个酷似大理石维娜斯雕像的形象。我的头脑是一个用于鹅绒帷幕围起来的舞台，登台表演的一是名叫作“纳奥米”的女演员。众人注目的舞台灯的强烈光柱准准地罩着她那在黑暗中摇动的白皙的身体。
1807	///私が一心に視詰めていると、彼女の肌に燃える光りはいよいよ明るさを増して来る、時には私の眉を灼きそうに迫って来る。活動写真の「大映し」のように、部分々々が非常に鮮やかに拡大される、……	///我聚精会神地凝视着，只见照在她身上的光线越来越强，有时觉得似乎就要烧着我的眉毛。她身体的每一部分仿佛电影中的“特写镜头”一般非常清晰地扩大着……
1810	「そりゃあどうかしているだろうさ、こんなにお前に懊らされりゃあ、……」	“可不是反常嘛，让你这样折磨……”
1838	私はナオミにそう云われると、ああそうだったか、そんな時代もあったんだっけ、あの時分にはお互に純なものだったのにと、ホロリとするような気になりましたが、これは少しも今の私の愛慾を静めてはくれませんでした。却って私は、二人がいかに深い因縁で結び着けられているかを思い、到底彼女と離れられない心持を、痛切に感じるばかりでした。	听了纳奥米这话我心里一阵激动。噢，是吗，也曾有过这样的时代，那时我们之间是纯洁的。然而这种感慨却丝毫未能减弱我的欲火，反倒越发使我深切地感到我们两个的姻缘是何等之深，觉得无论如何不能离开她。
1858	私はそう云われて、寝ながら彼女の湯上り姿を見上げました。一体女の「湯上り姿」と云うものは、――それの真の美しさは、風呂から上ったばかりの時よりも、十五分なり二十分なり、多少時間を置いてからがいい。風呂に漬かるとどんなに皮膚の綺麗な女でも、一時は肌が茹り過ぎて、指の先などが赤くふやけるものですが、やがて体が適当な温度に冷やされると、始めて蝋が固まったように透き徹って来る。	听她这样说，我便仍然躺在那里仰视着她刚刚洗过澡的身体，正所谓女人“浴后的风采”。洗浴后过一段时间，比如十五或二十分钟之后，比刚刚洗浴过的时候更为动人。皮肤再漂亮的女人一旦在浴盆中泡过，由于其皮肤一时浸的时间过久，指尖等都泡胀了。过一会儿当身体在适当的温度下冷却后，才象凝固了的蜡一样变得透明起来。
1859	///ナオミは今しも、風呂の帰りに戸外の風に吹かれて来たので、湯上り姿の最も美しい瞬間にいました。その脆弱な、うすい皮膚は、まだ水蒸気を含みながらも真っ白に冴え、着物の襟に隠れている胸のあたりには、水彩画の絵の具のような紫色の影があります。	///因为洗过澡走回来时，受到室外风的吹拂，纳奥米的浴后风采此时此刻正处于最佳状态。她那脆弱菲薄的皮肤虽然仍然带着水气，却是玉洁冰清；隐在衣服前襟下的胸部有着水彩颜色般紫色的阴影。
1872	「あら、そうじゃないわよ、ほんとに真面目で頼むんだから、そのくらいな親切があってもいいでしょ？　尤もヒステリーを起されて、怪我でもさせられちゃ大変だけれど」	“哎哟，不是这个意思。我是真心实意地求你，这点助人之心总该有吧？不过歇斯底里发起来，把我弄伤可就糟了。”
1878	そう云ってから、彼女は慌てて又その肩をスポリと引っ込めてしまいましたが、毎度してやられる手ではありながら、それが私には矢張抵抗し難いところの誘惑でした。ナオミの奴、顔が剃りたいのでも何でもないんだ、己を飜弄するつもりで湯にまで這入って来やがったんだ。――と、そう分ってはいましたけれども、とにかく肌を剃らせると云うのは、今	///说完，她又慌忙地将肩膀整个儿缩了回去。虽说这是她每次惯用的手法，但对于我来说仍然是难以抗御的诱惑。纳奥米这家伙，她根本不想刮脸，是为了捉弄我才去洗澡的。――我虽然明白这一点。但让我给她刮脸，无论怎么说毕竟是前所未有的一种新的挑战。今天我可以离她很近

	までにない一つの新しい挑戦でした。今日こそうんと近くへ寄って、あの皮膚をしみじみと見られる、もちろん触ってみることも出来る。そう考えただけでも私は、とても彼女の申出でを断る勇気はありませんでした。	很近，细细地观察她的皮肤，当然也可以碰一碰她。仅仅这个念头，就使我完全丧失了拒绝她的要求的勇气。
1886	「床屋の職人と一緒にされちゃあ遣り切れないな」	“拿我和理发店的师傅一样要求，我可做不来。”
1895	私は云われる通りにしました。そして右の方の手だけを使って、彼女の口の周りから剃って行きました。	我按照她的话去做了，只是用右手，从嘴的周围开始刮起来。
1896	彼女はうっとりと、剃刀の刃で撫でられて行く快感を味わっているかのように、瞳を鏡の前に据えて、大人しく私に剃らせていました。私の耳には、すうすうと引く睡いような呼吸が聞え、私の眼には、その頤の下でピクピクしている頸動脈が見えています。私は今や、睫毛の先で刺されるくらい彼女の顔に接近しました。窓の外には乾燥し切った空気の中に、朝の光が朗かに照り、一つ一つの毛孔が数えられるほど明るい。私はこんな明るい所で、こんなにいつまでも、そしてこんなにも精細に、自分の愛する女の目鼻を凝視したことはありません。	纳奥米双眸出神地盯着镜面，仿佛在品味着刀片抚弄的快感似地、老老实实地任我刮。我耳边响着带有睡意的、均匀的呼吸声，眼睛看到的是她颌下呼呼跳动的颈动脉。现在我和她的脸挨得如此之近，她的睫毛甚至能扎着我。窗外明媚的晨光投射在异常干燥的空气中，亮得几乎数得清一个个的毛孔。我从来没有在这样明亮的地方，这样长久而且如此仔细地端详过自己所爱的女人。
1897	その恐ろしく長く切れた眼、立派な建築物のように秀でた鼻、鼻から口へつながっている突兀とした二本の線、その線の下に、たっぷり深く刻まれた紅い唇。	那双大得惊人的眼睛、犹如一座漂亮建筑似的秀美的鼻子、接连鼻子和嘴的两条挺拔的直线，这直线下就是丰满而鲜明的红唇。
1929	「あたしに逃げられてそんなに困った？」	“我逃跑了你就那样一筹莫展？”
1948	「お前に捨てられちまったら、田舎へ引っ込もうと思ったんだが、もうこうなれば引っ込まないよ。田舎の財産を整理して、現金にして持ってくるよ」	“原想一旦被你抛弃，便回乡下去。既然如此，我再不回了，把乡下的财产整理以后变换现金带来。”
1979	午飯をたべてしまってから、晩まで殆ど用はありません。晩にはお客に呼ばれるか、或は呼ぶか、それでなければホテルへダンスに出かけるか、何かしないことはないのですから、その時分になると、彼女はもう一度お化粧をし、着物を取り換えます。	吃过午饭到晚上这段时间几乎无事可做。晚上不是被人请，就是请人来，或是去饭店跳舞，总是不会闲着。所以一到时间，她就再一次化妆、换衣服。
1980	――そんなことから、結局ユスタスは私の家へ来ないようになりましたが、同時に私も、又ナオミから新しい条件を持ち出され、それに服従することになってしまいました。	由于这件事，结果尤思塔斯不来我家了，但同时纳奥米又一次提出新的条件，我又服从了。
1981	人間と云うものは一遍恐ろしい目に会うと、それが強迫観念になって、いつまでも頭に残っていると見え、私は未だに、嘗てナオミに逃げられた時の、あの恐ろしい経験を忘れることが出来ないのです。「あたしの恐ろしいことが分ったか」と、そう云った彼女の言葉が、今でも耳にこびり着いているのです。	看来大凡是人，尝过一次苦头之后，这种经历便成为强迫观念永远留在脑海之中了。至今我仍忘不了上次纳奥米逃跑时那种可怕的情景，“你可知道我的厉害了？”这句话至今仍回响在耳际。